

岡山県男女共同参画社会に関する
県民意識調査

報告書

令和 7 年 3 月

岡山県

目 次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査内容	1
3 調査設計	1
4 回収結果	2
5 報告書の見方	2
6 回答者属性について	3
II 調査結果	7
1 男女の役割分担意識や家庭観について	7
(1) 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識	7
(2) 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方	10
(3) 家庭での役割についての考え方	31
(4) 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと	51
2 男女の地位の平等などについて	54
(1) 各分野・社会全体における男女の地位の平等意識	54
(2) 男性の方が優遇されていると思う原因	71
3 男女の社会参画について	74
(1) 今後女性がもっと増える方がよいと思う役職	74
(2) 政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由	76
(3) 役職への就任や公職への立候補の依頼に対する考え方	79
(4) 依頼を断る(断った)理由	88
4 就労について	100
(1) 女性が職業をもつことについての考え方	100
(2) 女性の就労への考え方	104
(3) 子どもを持った場合の就労についての考え方	107
(4) 女性の就労環境の現状評価	110
(5) 女性が働きにくい理由	114
(6) 仕事をやめたり、中断、転職した理由	117
(7) 管理職の経験の有無【新規】	121
(8) 管理職になってよかったと感じる(感じた)こと【新規】	124
(9) 管理職になってよくなかったと感じる(感じた)こと【新規】	126
(10) 女性の管理職が増えるために必要な制度や支援【新規】	128
(11) 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素【新規】	131

5 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について	137
(1) 就労している人の日常生活の優先度<希望と現実・現状>	137
(2) 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なこと	146
(3) 育児休業取得への考え方・影響【新規】	151
(4) 働く上で健康課題に関して困ったこと【新規】	188
(5) 働く上での健康課題や困りごとに対する改善策【新規】	191
(6) 最近参加した地域活動	194
(7) 地域活動に参加しなかった理由	197
6 男女平等教育について	200
(1) 男女平等を推進していくために学校で行うとよいこと	200
7 人権について	204
(1) 配偶者から受けたことのある暴力	204
(2) 交際相手から受けたことのある暴力	212
(3) 命の危険を感じたこと	223
(4) 子どもの目撃	226
(5) 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先	230
(6) 相談しなかった理由	233
(7) 男女間の暴力を防止するために必要なこと	236
(8) メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現	240
8 防災について	243
(1) 性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なこと	243
9 男女共同参画の推進について	247
(1) 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと	247
 Ⅲ 自由記述意見(主なもの)	 253
 Ⅳ 集計結果	 257
 Ⅴ 調査票	 278

I 調査概要

1 調査目的

男女の役割分担意識や家庭観、男女の地位の平等、ワーク・ライフ・バランスなど、男女共同参画に関する県民の意識と生活実態を把握し、次期(第6次)岡山県男女共同参画基本計画(ウィズプラン)策定の基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画施策推進のための参考資料とすることを目的とする。

2 調査内容

- (1)男女の役割分担意識や家庭観について
- (2)男女の地位の平等などについて
- (3)男女の社会参画について
- (4)就労について
- (5)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について
- (6)男女平等教育について
- (7)人権について
- (8)防災について
- (9)男女共同参画の推進について

3 調査設計

- (1)調査地域 :岡山県全域
- (2)調査対象 :岡山県内全市町村から無作為に抽出した満 18 歳以上の男女 3,000 名
- (3)サンプリング方法 :県内市町村に依頼して、住民基本台帳から抽出
- (4)調査方法 :郵送配付/郵送・web回収
- (5)調査期間 :令和6年 10 月9日～令和6年 10 月 31 日
- (6)調査機関 :株式会社サーベイリサーチセンター

4 回収結果

- (1)回収数 :1,537 件(回収率 51.2%)
- (2)有効回収数 :1,534*件(有効回収率 51.1%)
- うち 女性 :888 件(57.9%)
- うち 男性 :623 件(40.6%)
- うち 答えたくない :15 件(1.0%)
- うち 無回答 :8件(0.5%)

※郵送回収(1,310 人/85.4%)、WEB回収(224 人/14.6%)

●市町村別回収結果

					配布数・回収数:件 回収率・構成比:%				
	配布数	回収数	回収率	構成比		配布数	回収数	回収率	構成比
岡山市	1,122	602	53.7	39.2	浅口市	55	23	41.8	1.5
倉敷市	764	382	50.0	24.9	和気町	23	11	47.8	0.7
津山市	156	76	48.7	5.0	早島町	20	9	45.0	0.6
玉野市	92	44	47.8	2.9	里庄町	18	9	50.0	0.6
笠岡市	75	45	60.0	2.9	矢掛町	22	13	59.1	0.8
井原市	62	29	46.8	1.9	新庄村	2	2	100.0	0.1
総社市	109	49	45.0	3.2	鏡野町	20	11	55.0	0.7
高梁市	44	23	52.3	1.5	勝央町	18	7	38.9	0.5
新見市	45	30	66.7	2.0	奈義町	10	2	20.0	0.1
備前市	52	25	48.1	1.6	西粟倉村	3	1	33.3	0.1
瀬戸内市	59	32	54.2	2.1	久米南町	8	7	87.5	0.5
赤磐市	69	34	49.3	2.2	美咲町	22	8	36.4	0.5
真庭市	69	29	42.0	1.9	吉備中央町	18	8	44.4	0.5
美作市	43	15	34.9	1.0	無回答		8		0.5
					合計	3,000	1,534	51.1	100.0

5 報告書の見方

- (1)比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのために、百分率の合計が100%にならないことがある。
- (2)設問に応じ、単数回答、複数回答、数量回答、自由回答の別を示している。
- (3)複数回答は回答の合計が調査数を上回ることがある。
- (4)図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5)数表、図表、文中に示すnは、回答総数を表している。
- (6)経年比較や国調査との比較の表について、該当する選択肢がない場合は斜線で表記している。
- (7)その他や自由意見については、読みやすさを考慮し文章の表現を一部変更し掲載している。
- (8)地域別集計は、岡山県内の3つの県民局単位で算出した。各県民局の対象地域は以下のとおり。

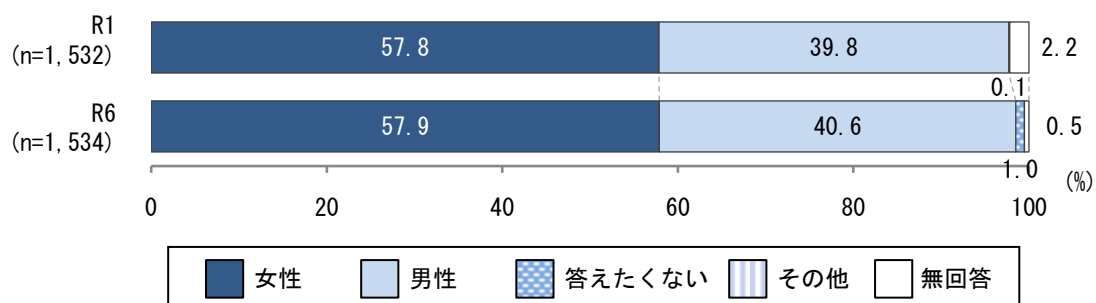
備前県民局管内:岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町

備中県民局管内:倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町

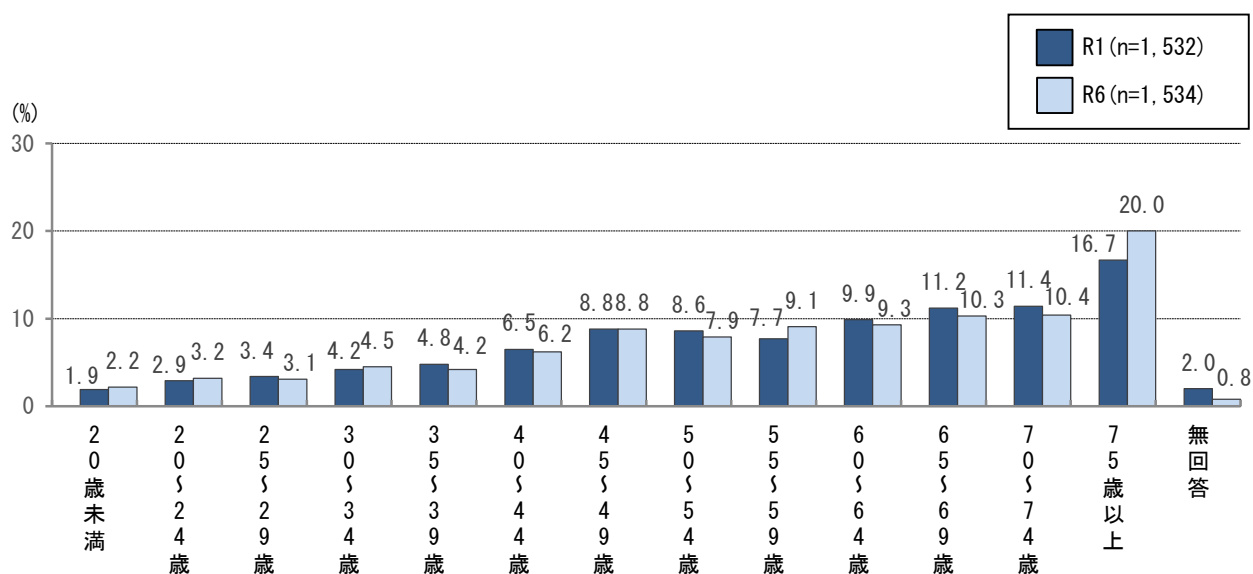
美作県民局管内:津山市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町

6 回答者属性について

(1) 性別



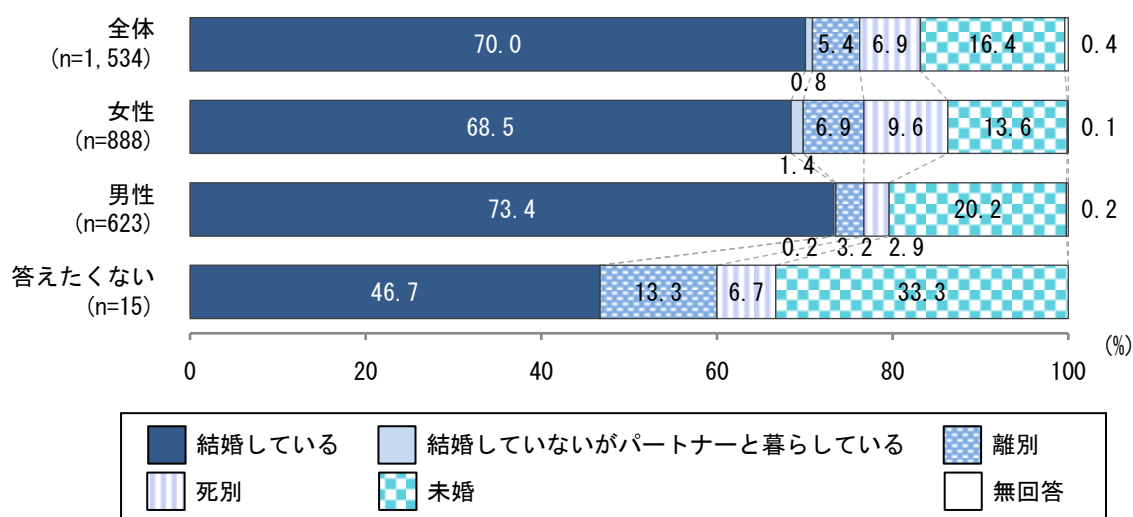
(2) 年代



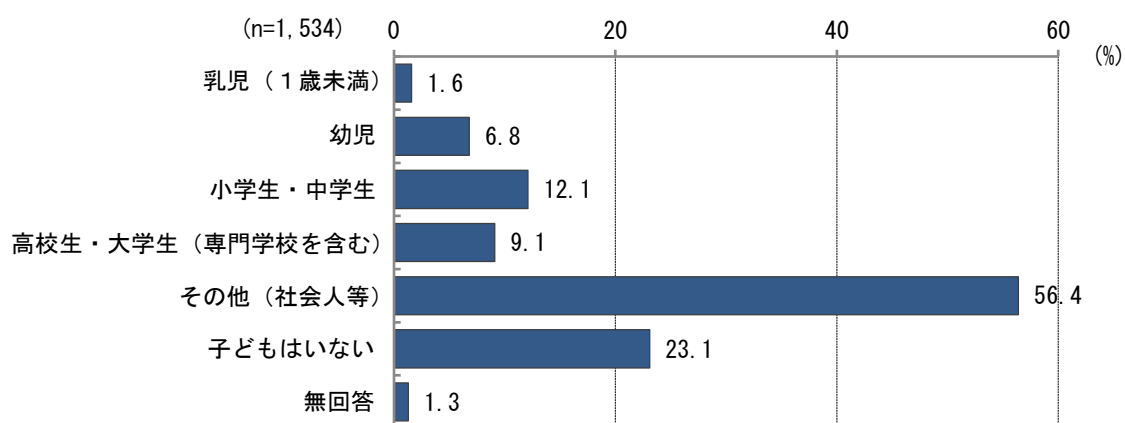
(3) 居住地域

				回答者数:件 構成比:%			
	回答者数	構成比		回答者数	構成比		回答者数 構成比
岡山市	602	39.2	備前市	25	1.6	矢掛町	13 0.8
倉敷市	382	24.9	瀬戸内市	32	2.1	新庄村	2 0.1
津山市	76	5.0	赤磐市	34	2.2	鏡野町	11 0.7
玉野市	44	2.9	真庭市	29	1.9	勝央町	7 0.5
笠岡市	45	2.9	美作市	15	1.0	奈義町	2 0.1
井原市	29	1.9	浅口市	23	1.5	西粟倉村	1 0.1
総社市	49	3.2	和気町	11	0.7	久米南町	7 0.5
高梁市	23	1.5	早島町	9	0.6	美咲町	8 0.5
新見市	30	2.0	里庄町	9	0.6	吉備中央町	8 0.5
						無回答	8 0.5

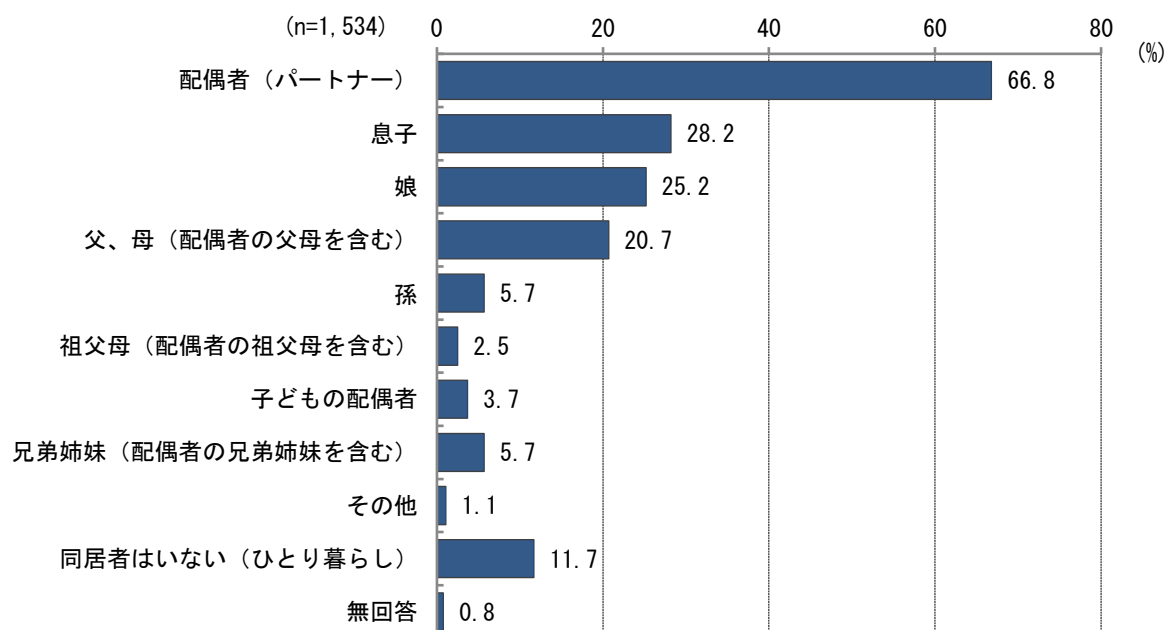
(4) 未既婚の区分



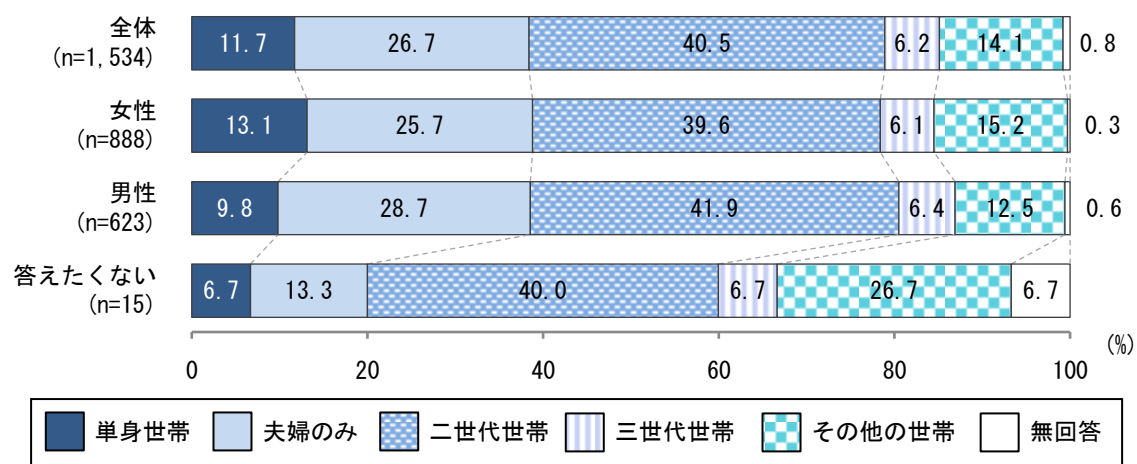
(5) 子どもの有無



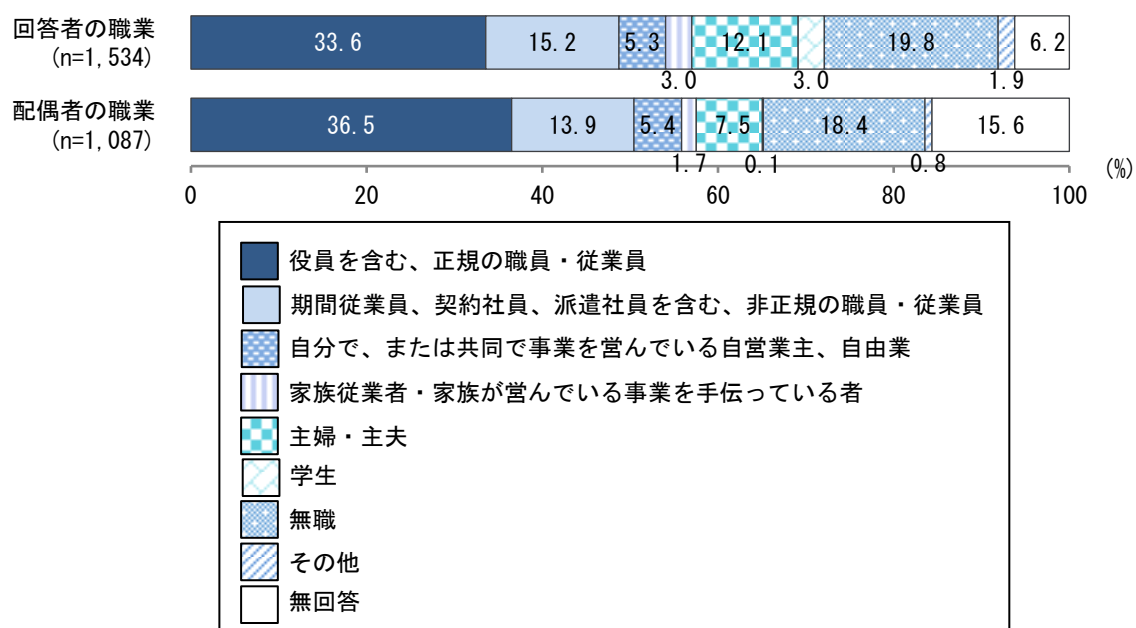
(6) 同居家族



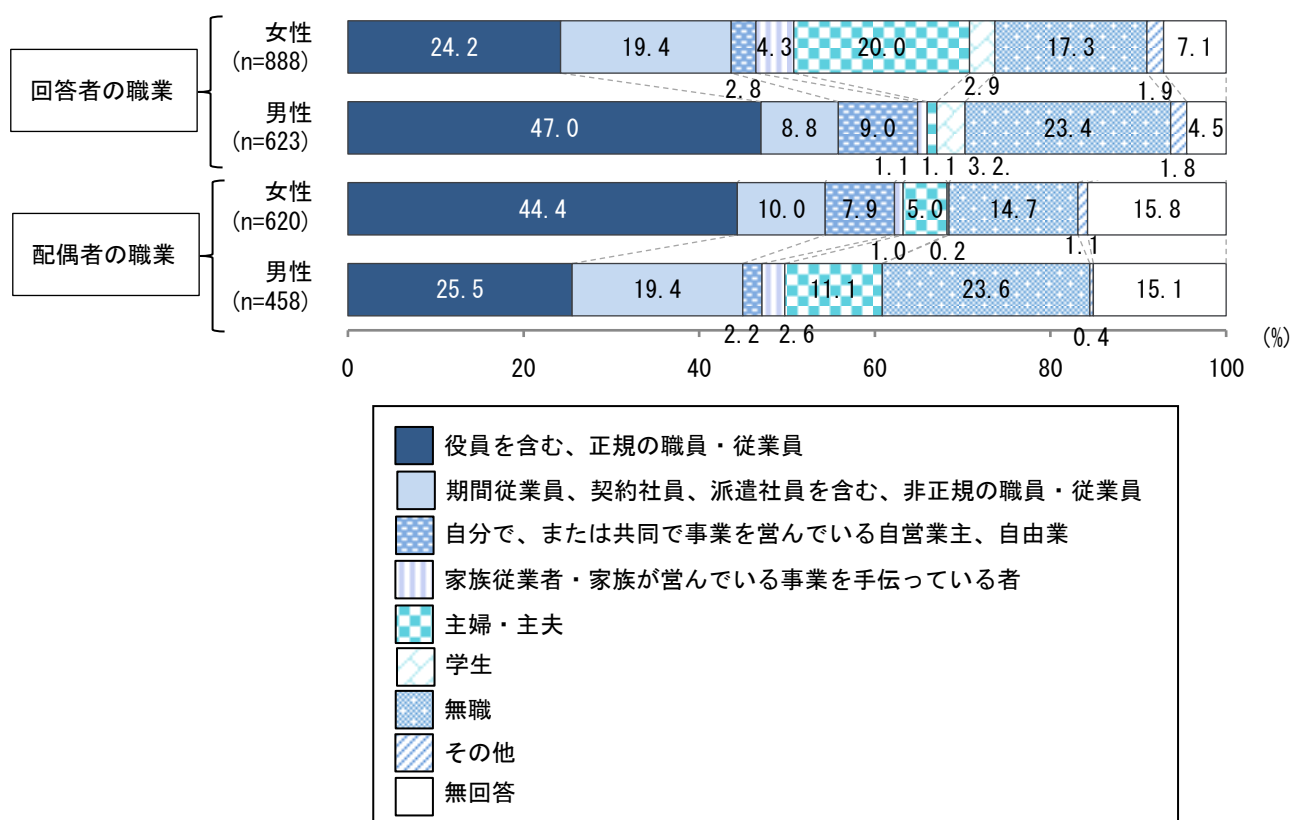
(7) 世帯形態



(8) 職業



○回答者・配偶者の職業(性別)



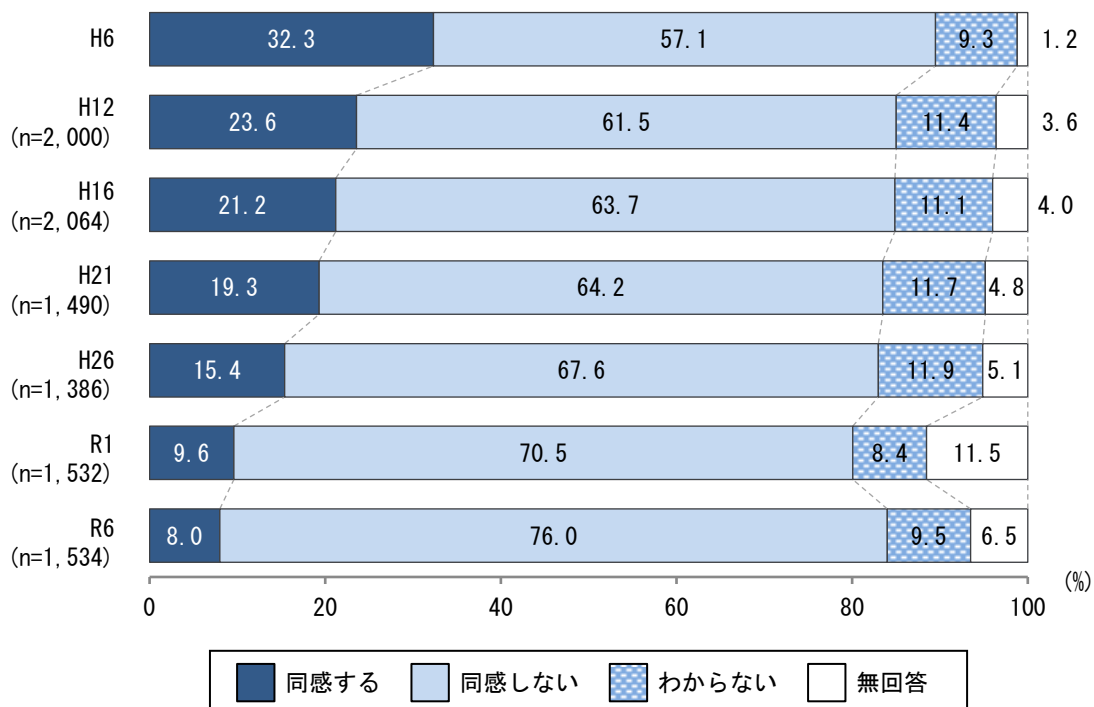
Ⅱ 調査結果

1 男女の役割分担意識や家庭観について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(✓は1つ)

【図表1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方】

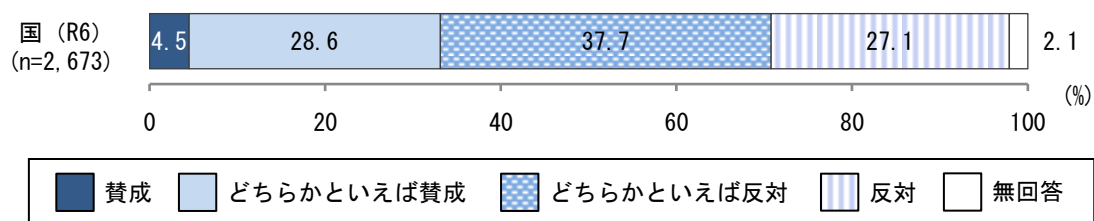


「同意しない」が7割台半ばとなっており、前回よりも増加

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同意しない」が 76.0%と最も高く、次いで「わからない」(9.5%)、「同意する」(8.0%)などの順となっている。

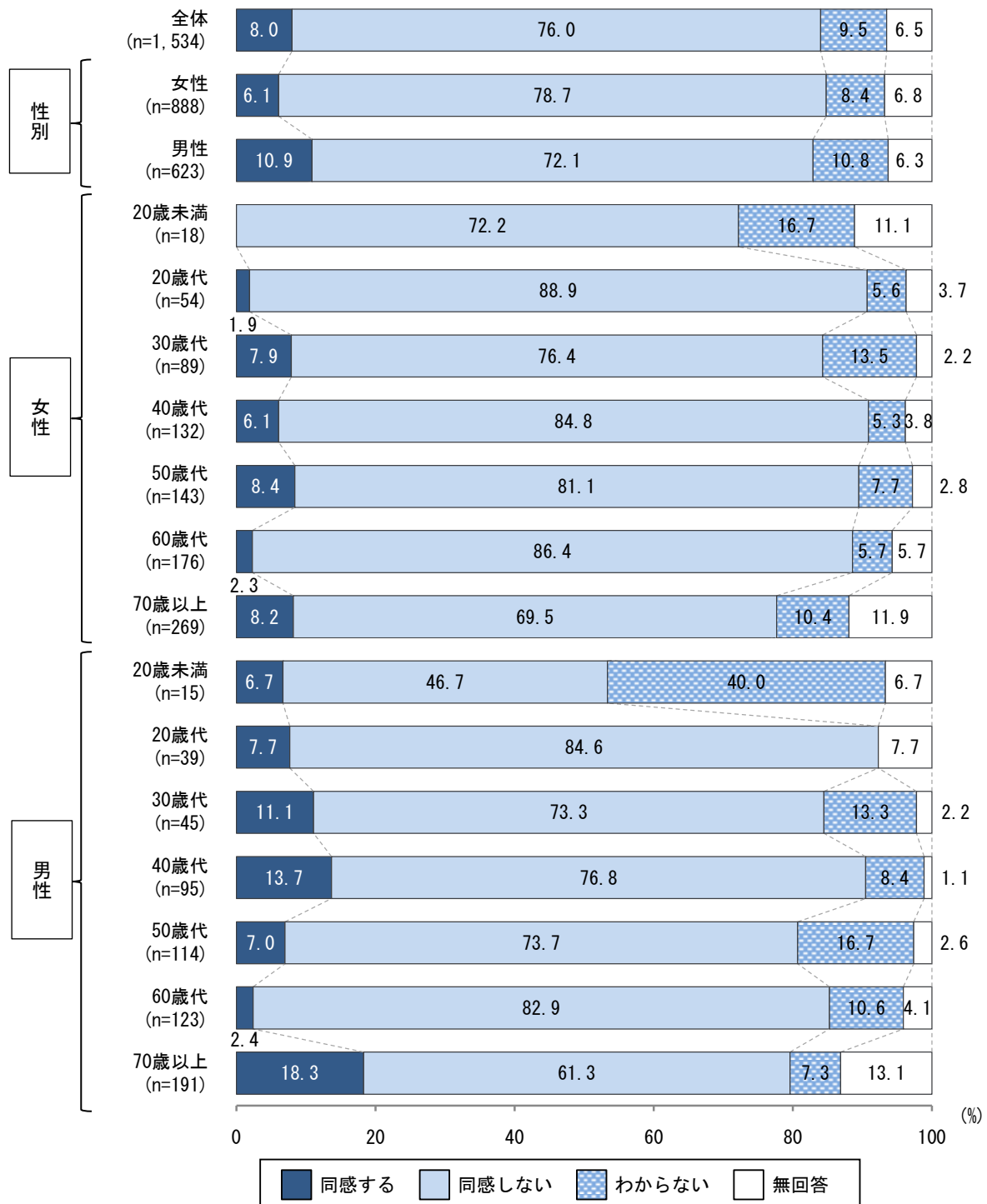
経年比較でみると、「同意しない」は増加傾向、「同意する」は減少傾向にある。

【図表1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方(国調査)】



※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

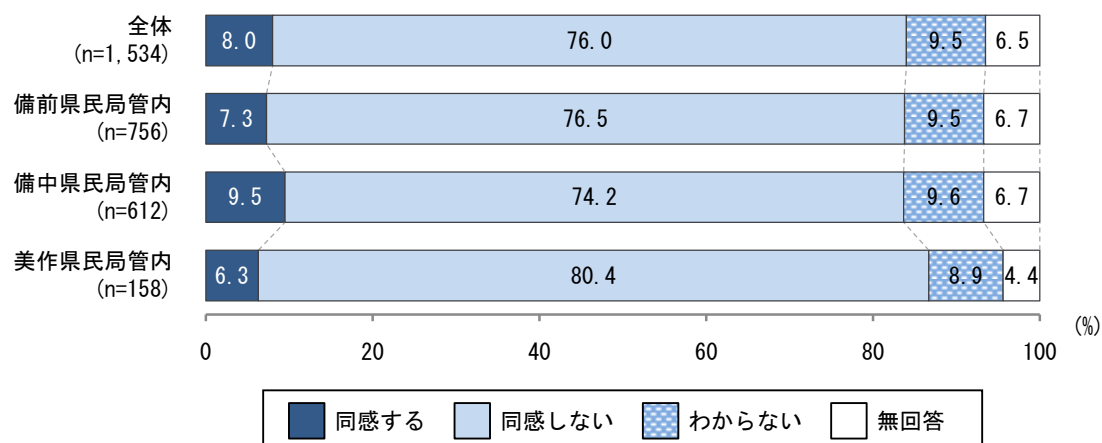
【図表1-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別、性年代別)】



性別にみると、「同意しない」は女性(78.7%)が男性(72.1%)を 6.6 ポイント上回っている。

性年代別にみると、「同意しない」は女性は 30 歳代及び 70 歳以上を除き、8割台と高くなっている。男性は 20 歳代及び 60 歳代で8割超と高くなっている。

【図表1-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方(地域別)】



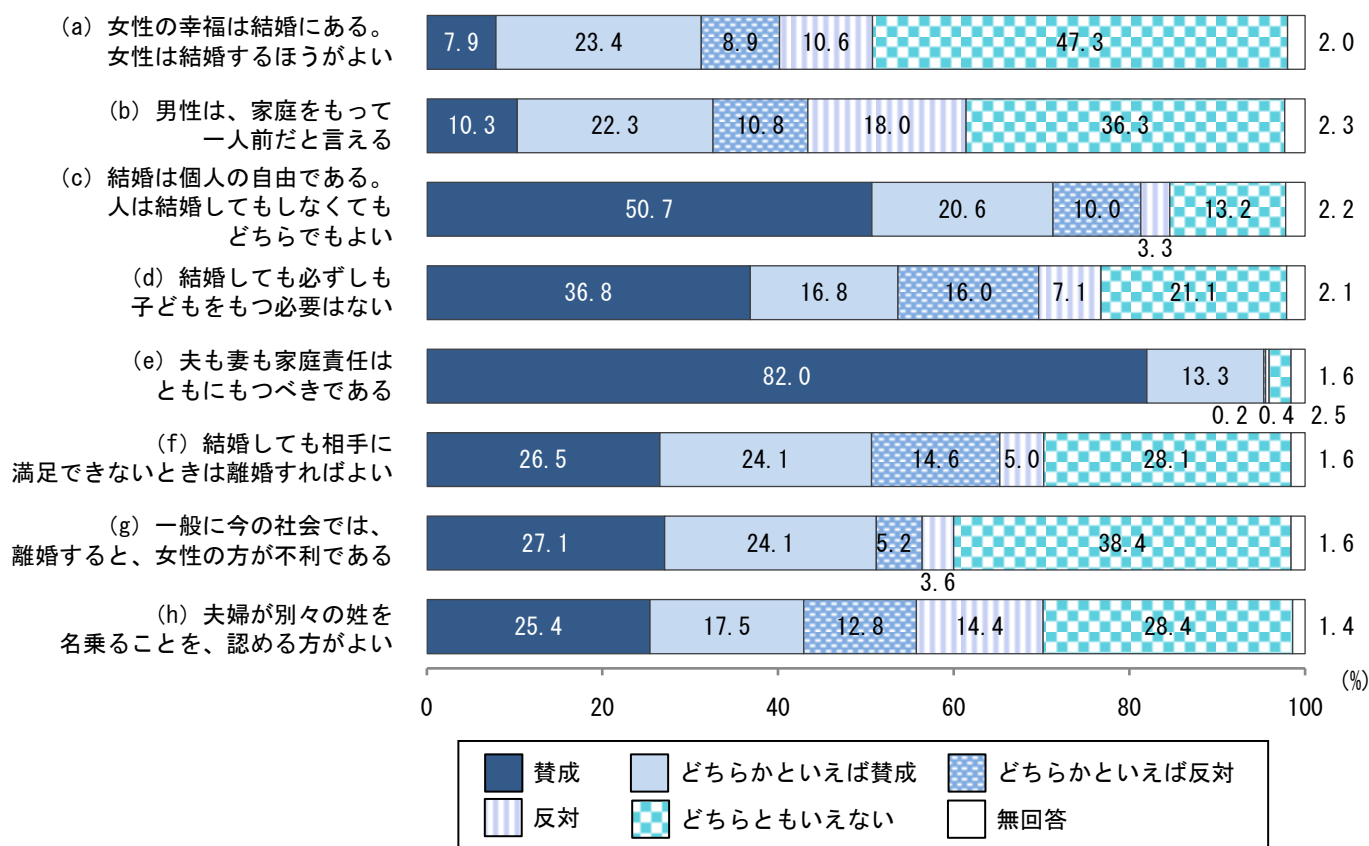
地域別にみると、「同意しない」は美作県民局管内(80.4%)が備中県民局管内(74.2%)を 6.2 ポイント上回っている。

(2) 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方

問2 結婚や離婚、夫婦別姓等について、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。
((a)～(h)でそれぞれ1つだけ✓)

【図表2-1 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方】

(n=1,534)



「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」は9割台半ばが『賛成』

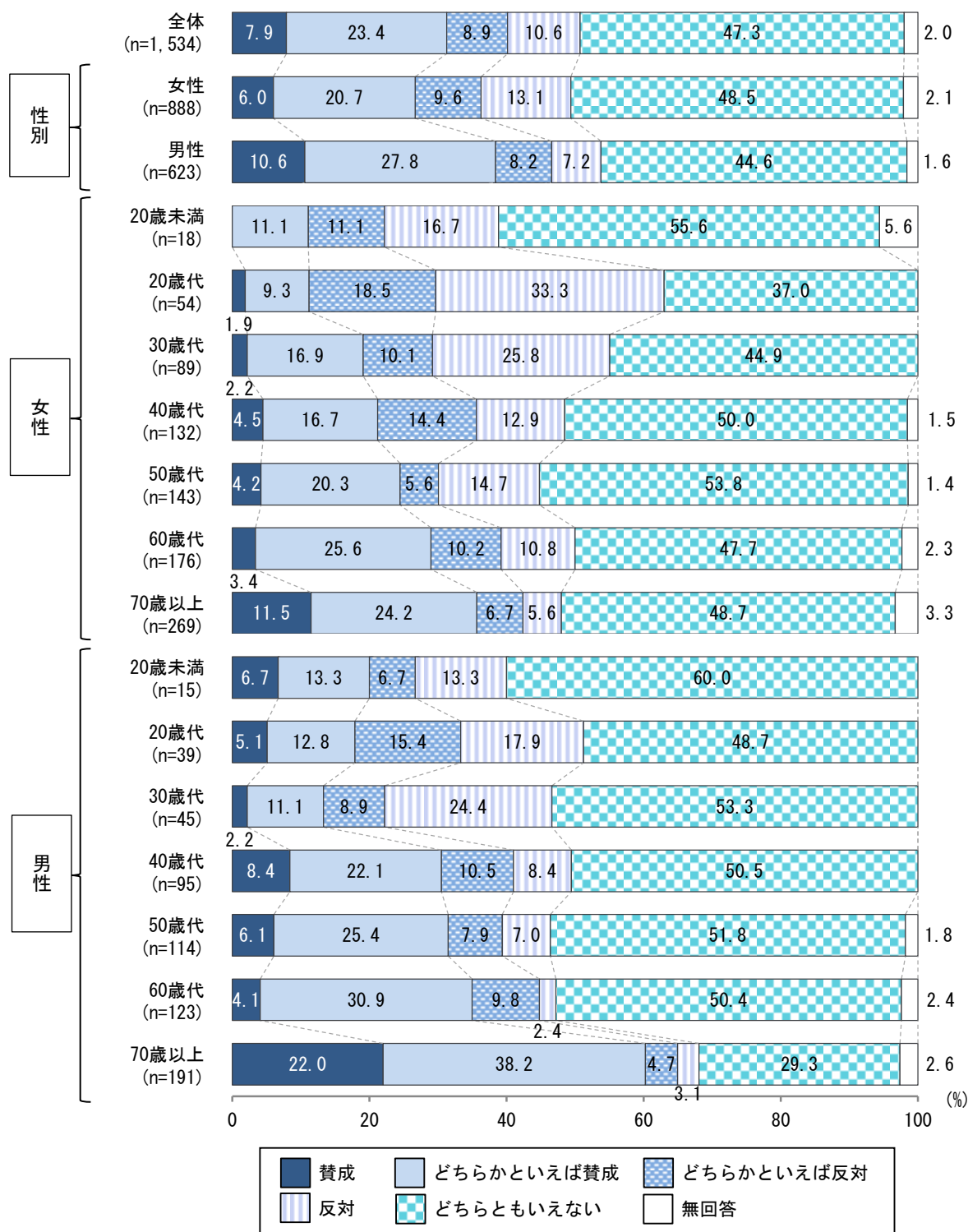
結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方について、「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」は『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が 95.3%と高くなっている。また、「結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」も 71.3%と高くなっている。

「男性は、家庭をもって一人前だと言える」、「夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい」は『賛成』、『反対』、『どちらともいえない』に意見が分かれている。

「女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい」は、「どちらともいえない」が約5割となっている。

(a) 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい

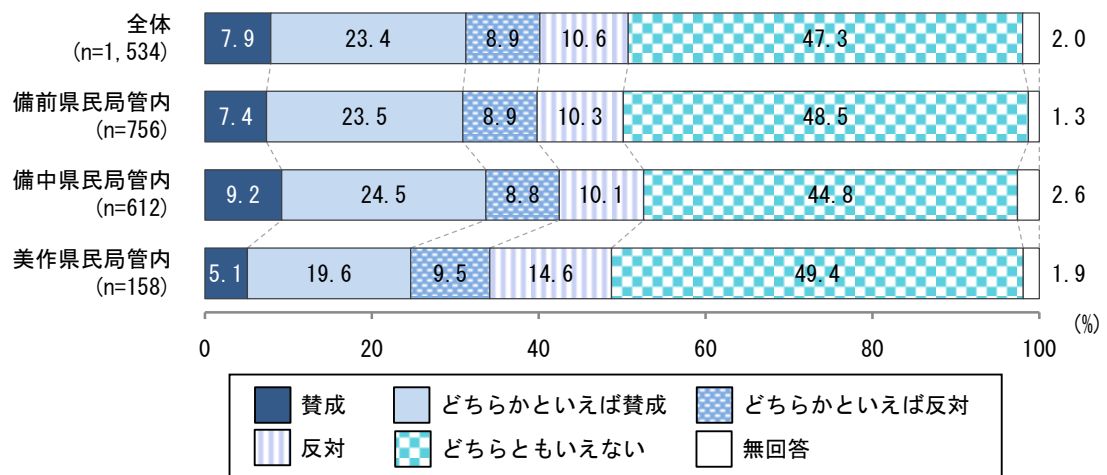
【図表2-1-1 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は男性(38.4%)が女性(26.7%)を11.7ポイント上回っている。

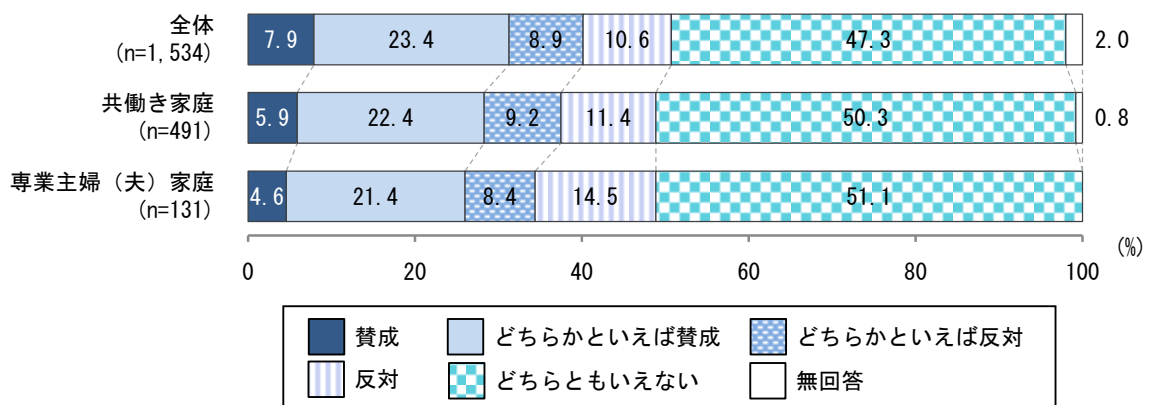
性年代別にみると、『反対』は女性20歳代で5割超と高くなっている。一方、『賛成』は女性は70歳以上で3割を超え、男性は40歳代から割合が高くなり、70歳以上で約6割と高くなっている。

【図表2-1-2 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は備前県民局管内及び備中県民局管内で3割を超えている。『反対』は美作県民局管内で2割台半ばとなっている。

【図表2-1-3 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-1-4 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい(経年比較)】

(単位:%)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	22.9	33.3	34.0	5.0	3.7	56.2	8.7
H16	21.8	31.3	37.3	3.5	4.4	53.1	7.9
H21	18.6	32.5	38.3	5.1	4.6	51.1	9.7
H26	16.9	32.3	37.7	5.6	6.6	49.2	12.1
R1	9.0	26.4	43.1	9.1	8.4	35.4	17.5
R6	7.9	23.4	47.3	8.9	10.6	31.3	19.5

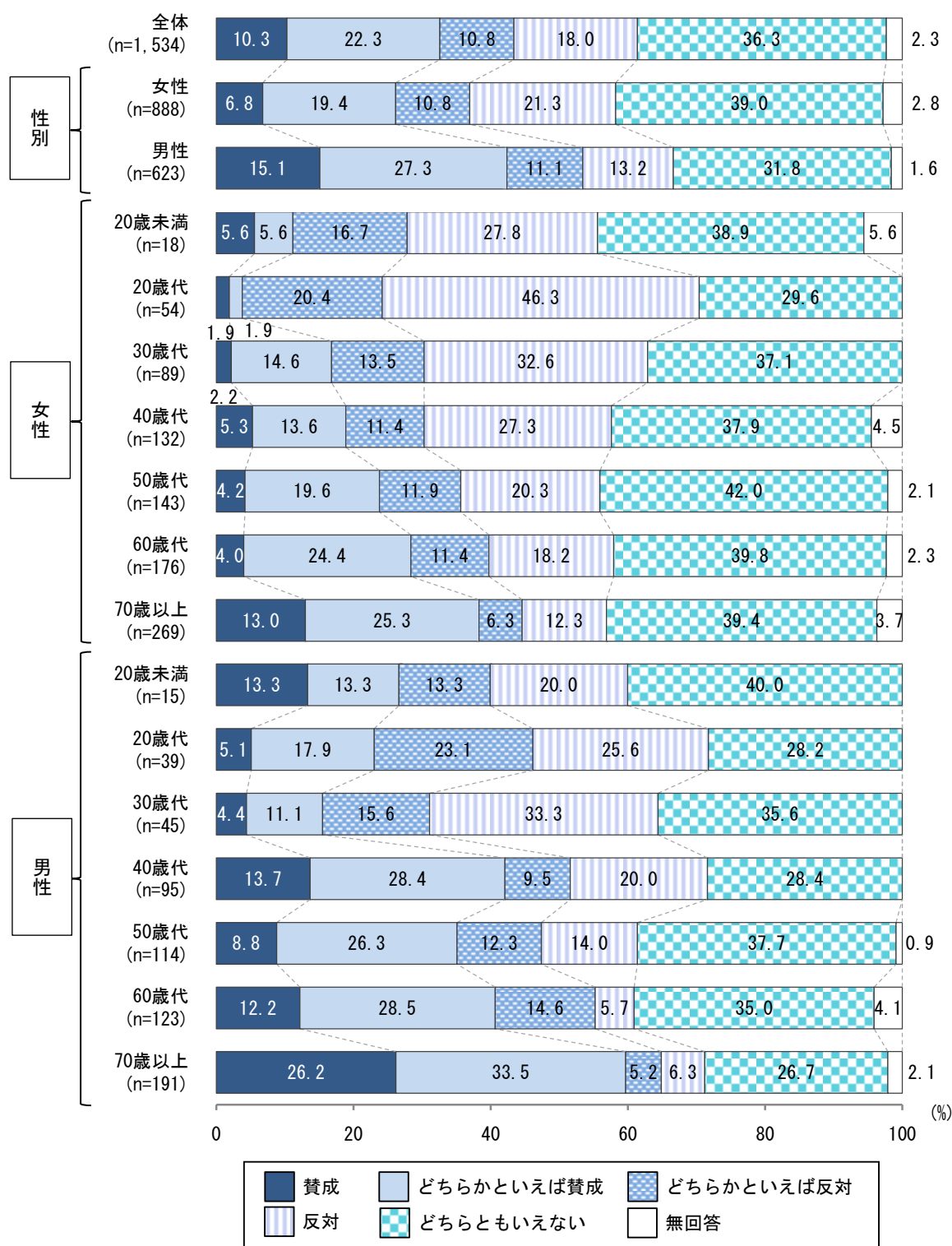
経年比較でみると、『賛成』は減少傾向にある。

※「女性の幸福は結婚にある、女性は結婚するほうがよい」は H12、H16、H21、H26、R1 調査では「なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい」となっている。

※図表2-1-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(b)男性は、家庭をもって一人前だと言える

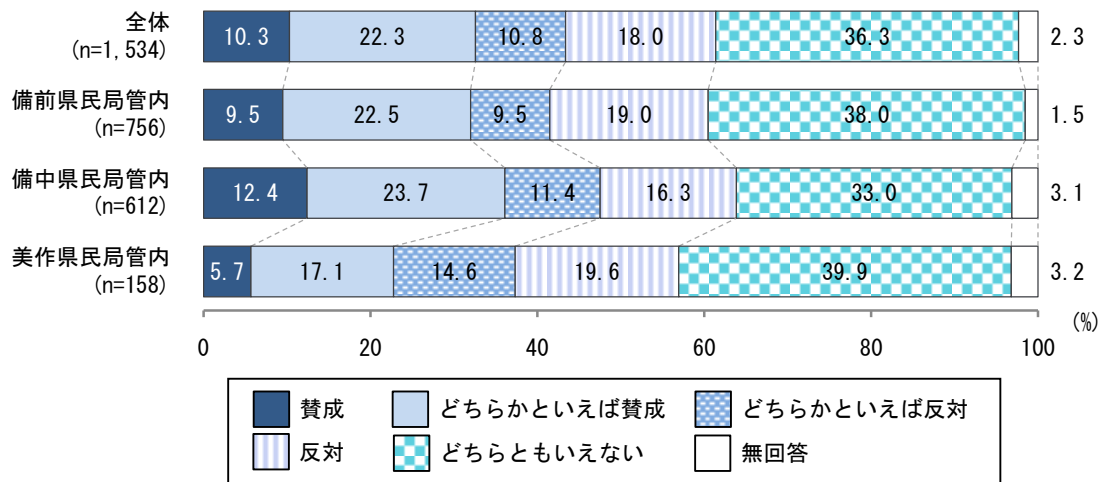
【図表2-2-1 男性は、家庭をもって一人前だと言える(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は男性(42.4%)が女性(26.2%)を 16.2 ポイント上回っている。

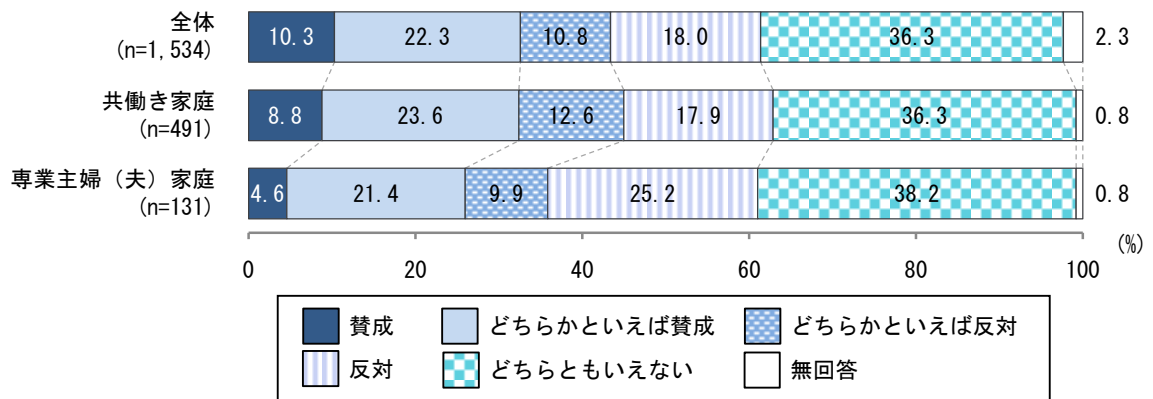
性年代別にみると、女性は年代が上がるにつれて『賛成』の割合が高くなる傾向がみられ、男性は 70 歳以上で『賛成』が約6割と高くなっている。

【図表2-2-2 男性は、家庭をもって一人前だと言える(地域別)】



地域別にみると、美作県民局管内は『賛成』が2割台と低く、『反対』が3割台半ばと高くなっている。

【図表2-2-3 男性は、家庭をもって一人前だと言える(就労状況別)】



就労状況別にみると、『賛成』は共働き家庭(32.4%)が専業主婦(夫)家庭(26.0%)を 6.4 ポイント上回っている。

【図表2-2-4 男性は、家庭をもって一人前だと言える(経年比較)】

(単位:%)

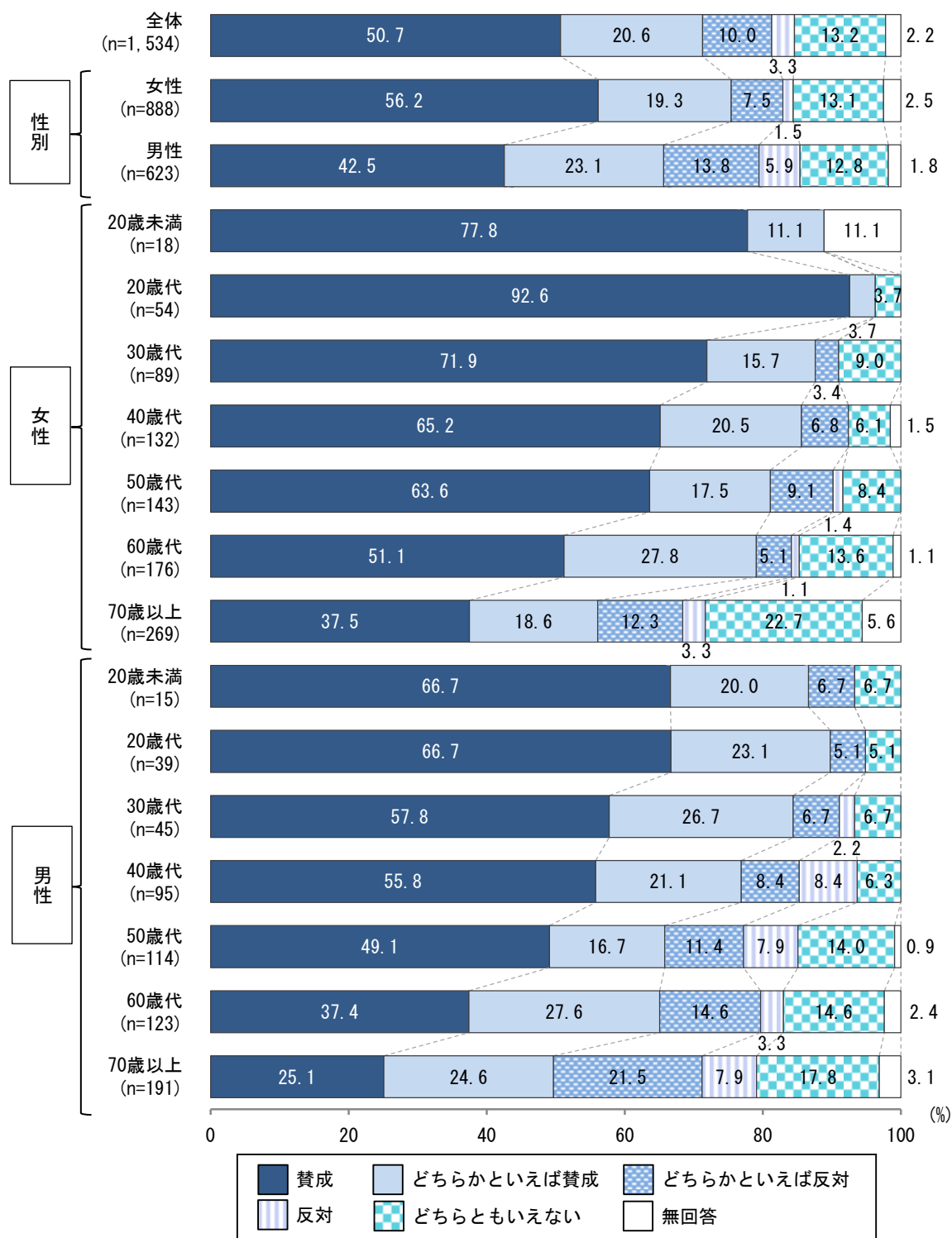
	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらとも いえない	どちらかとい えば反対	反対	賛成計	反対計
H21	24.2	24.1	31.0	6.8	12.8	48.3	19.6
H26	24.0	32.5	27.1	6.7	8.8	56.5	15.5
R1	13.8	25.6	35.2	8.6	13.1	39.4	21.7
R6	10.3	22.3	36.3	10.8	18.0	32.6	28.7

経年比較でみると、『賛成』は減少傾向にある。また、『反対』は令和6年調査(28.7%)が令和元年調査(21.7%)を7.0ポイント上回っている。

※図表2-2-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(c)結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい

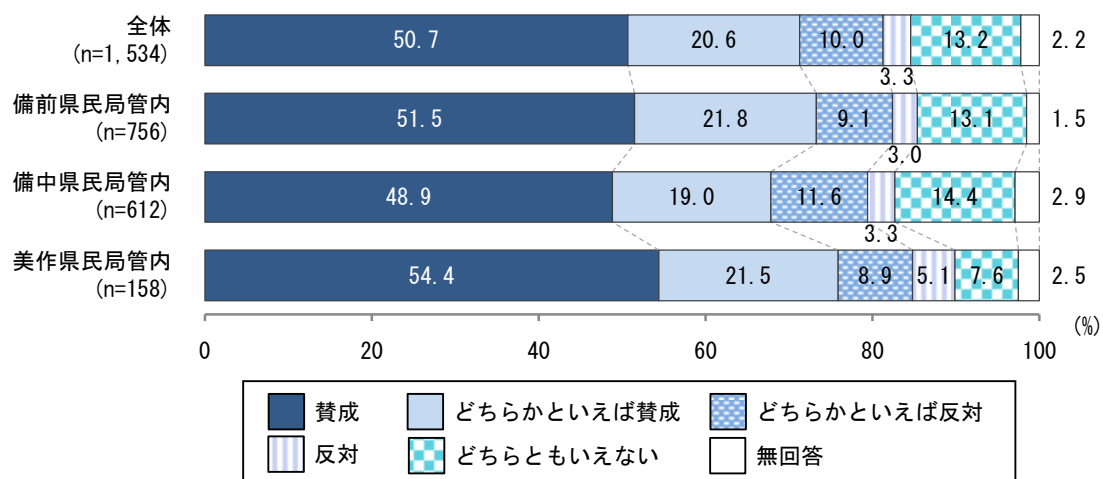
【図表2-3-1 結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は女性(75.5%)が男性(65.6%)を 9.9 ポイント上回っている。

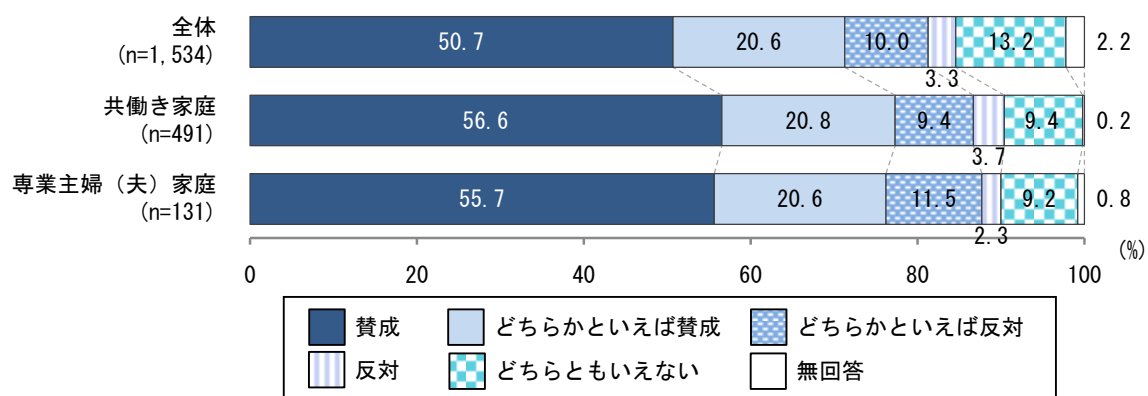
性年代別にみると、男女ともに『賛成』は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

【図表2-3-2 結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は美作県民局管内で7割台半ばと高くなっている。

【図表2-3-3 結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-3-4 結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい(経年比較)】

(単位:%)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	23.2	16.4	20.8	24.3	12.6	39.6	36.9
H16	20.8	15.2	26.6	22.5	12.5	36.0	35.0
H21	18.8	16.4	24.0	24.3	15.1	35.2	39.4
H26	21.5	17.8	24.0	22.7	12.8	39.3	35.5
R1	25.3	19.8	23.3	19.6	7.8	45.1	27.4
R6	50.7	20.6	13.2	10.0	3.3	71.3	13.4

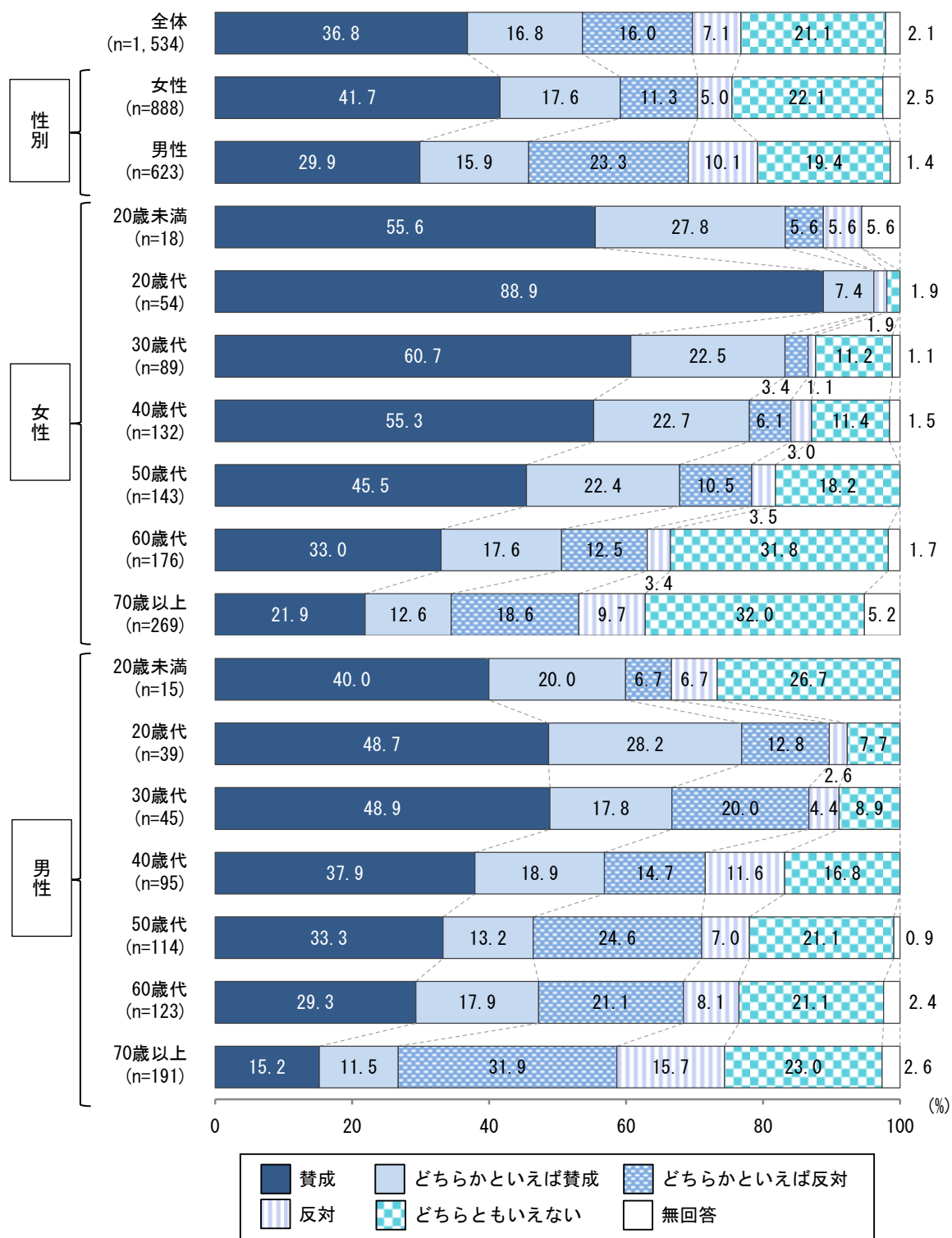
経年比較でみると、『賛成』は令和6年調査(71.3%)が令和元年調査(45.1%)を26.2ポイント上回っている。

※「結婚は個人の自由である。人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、H12、H16、H21、H26、R1 調査では「結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい」となっている。

※図表2-3-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(d)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

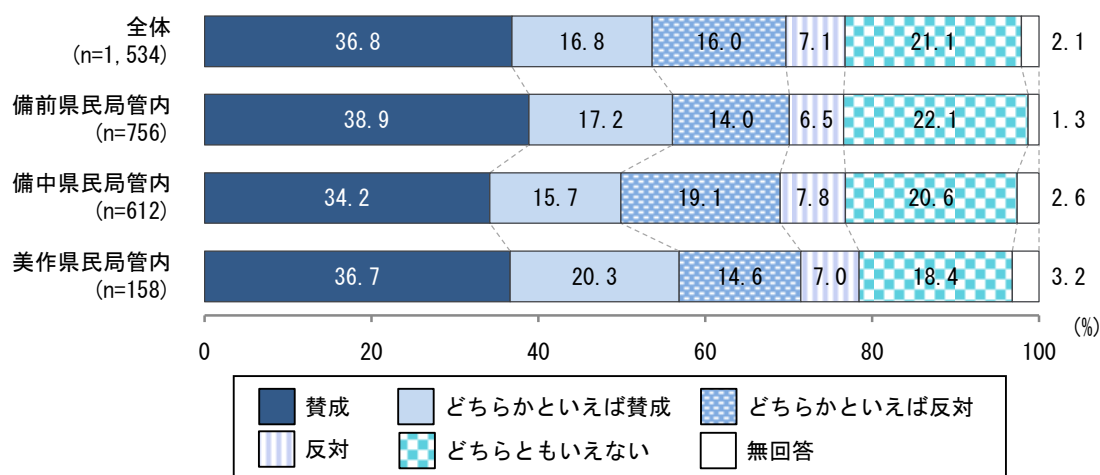
【図表2-4-1 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は女性(59.3%)が男性(45.8%)を13.5ポイント上回っている。

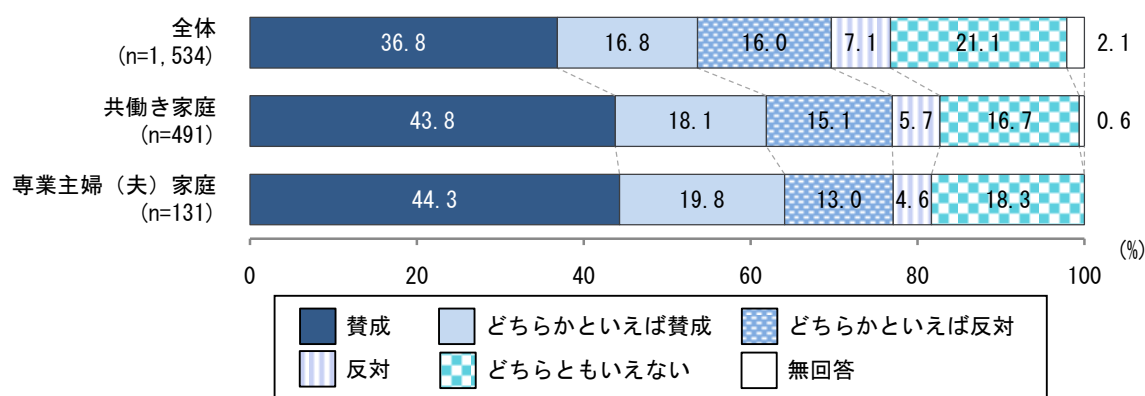
性年代別にみると、男女ともに『賛成』は20歳代以上で年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

【図表2-4-2 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は備前県民局管内及び美作県民局管内で5割台後半と高くなっている。

【図表2-4-3 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-4-4 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(経年比較)】

(単位: %)

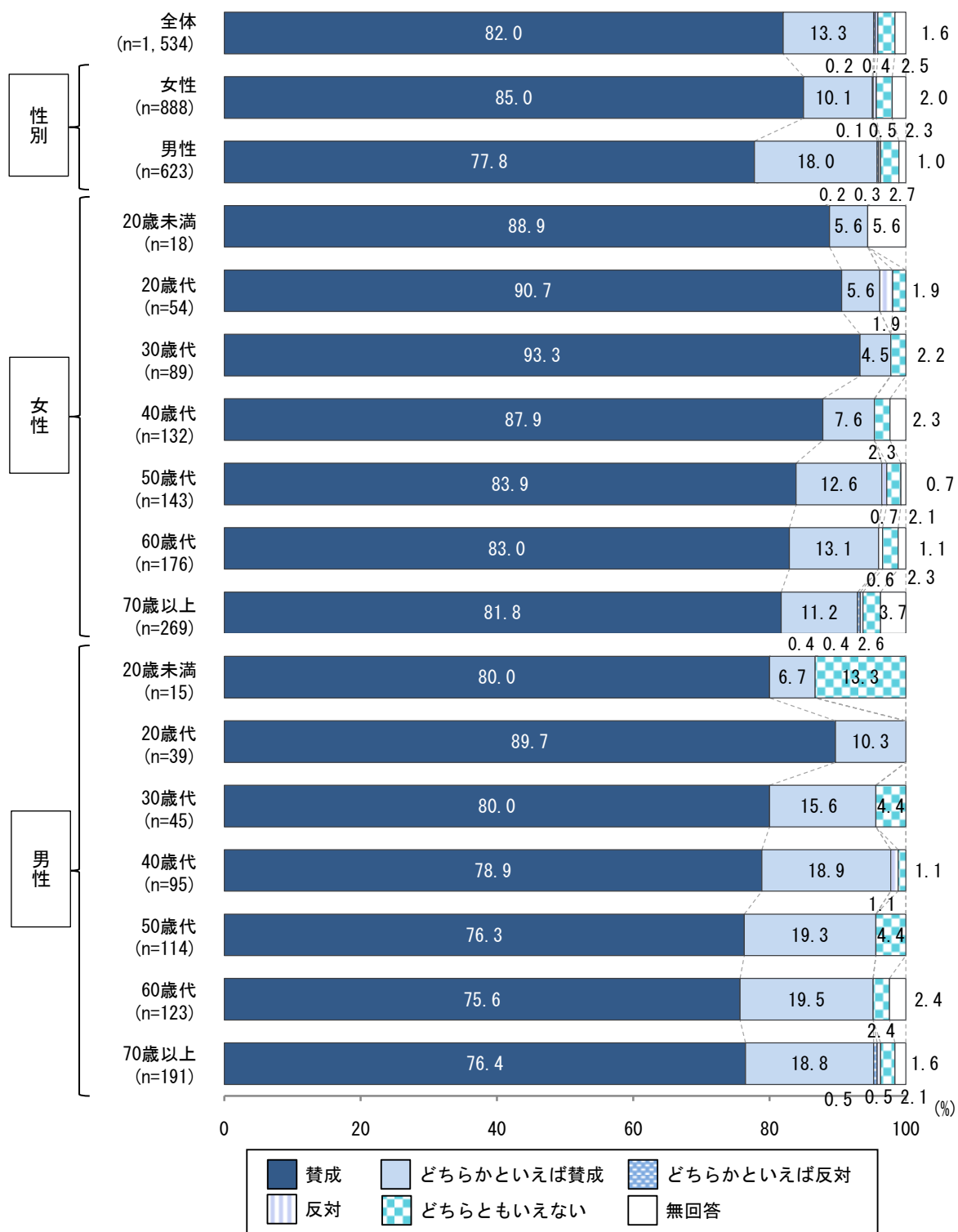
	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらとも いえない	どちらかとい えば反対	反対	賛成計	反対計
H12	16.4	10.6	20.0	27.5	23.1	27.0	50.6
H16	14.9	10.5	23.1	25.2	23.9	25.4	49.1
H21	16.0	12.6	21.1	26.4	22.4	28.5	48.9
H26	18.3	16.7	23.7	23.7	16.4	35.1	40.1
R1	22.9	18.0	26.6	19.1	9.7	40.9	28.8
R6	36.8	16.8	21.1	16.0	7.1	53.7	23.1

経年比較でみると、『賛成』は令和6年調査(53.7%)が令和元年調査(40.9%)を 12.8 ポイント上回っている。

※図表2-4-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(e) 夫も妻も家庭責任はともにもつべきである

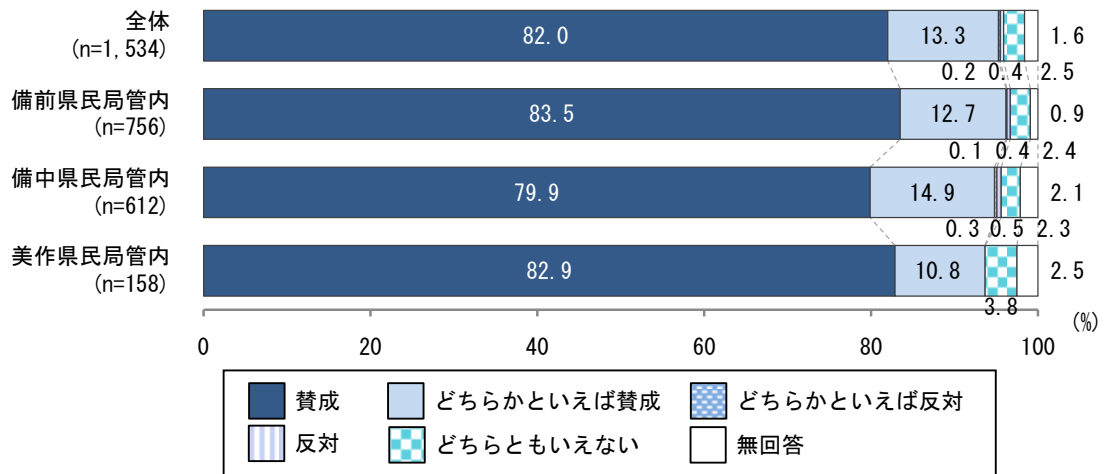
【図表2-5-1 夫も妻も家庭責任はともにもつべきである(性別、性年代別)】



性別にみると、大きな差はみられない。

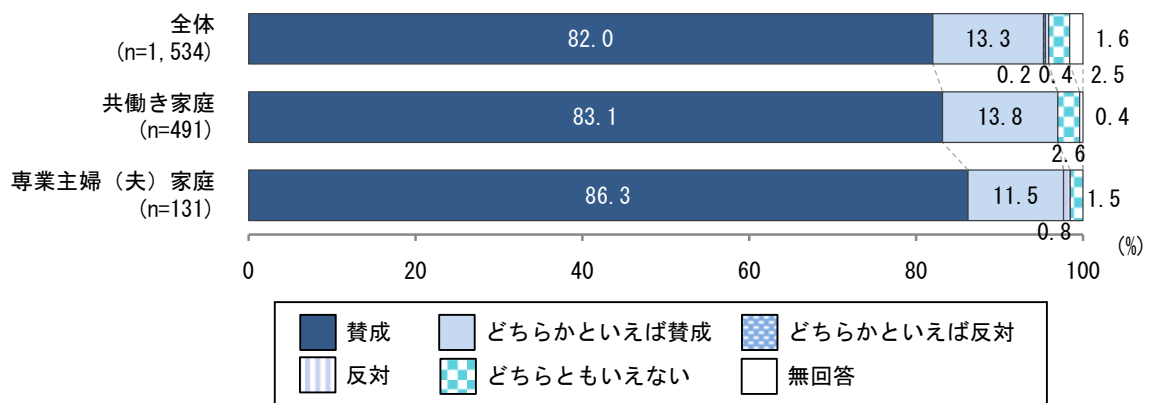
性年代別にみると、『賛成』は女性は20歳代～30歳代で9割台、男性は20歳代では100%と高くなっている。

【図表2-5-2 夫も妻も家庭責任はともにすべきである(地域別)】



地域別にみると、すべての地域で『賛成』は9割台と高くなっている。

【図表2-5-3 夫も妻も家庭責任はともにすべきである(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-5-4 夫も妻も家庭責任はともにすべきである(経年比較)】

(単位: %)

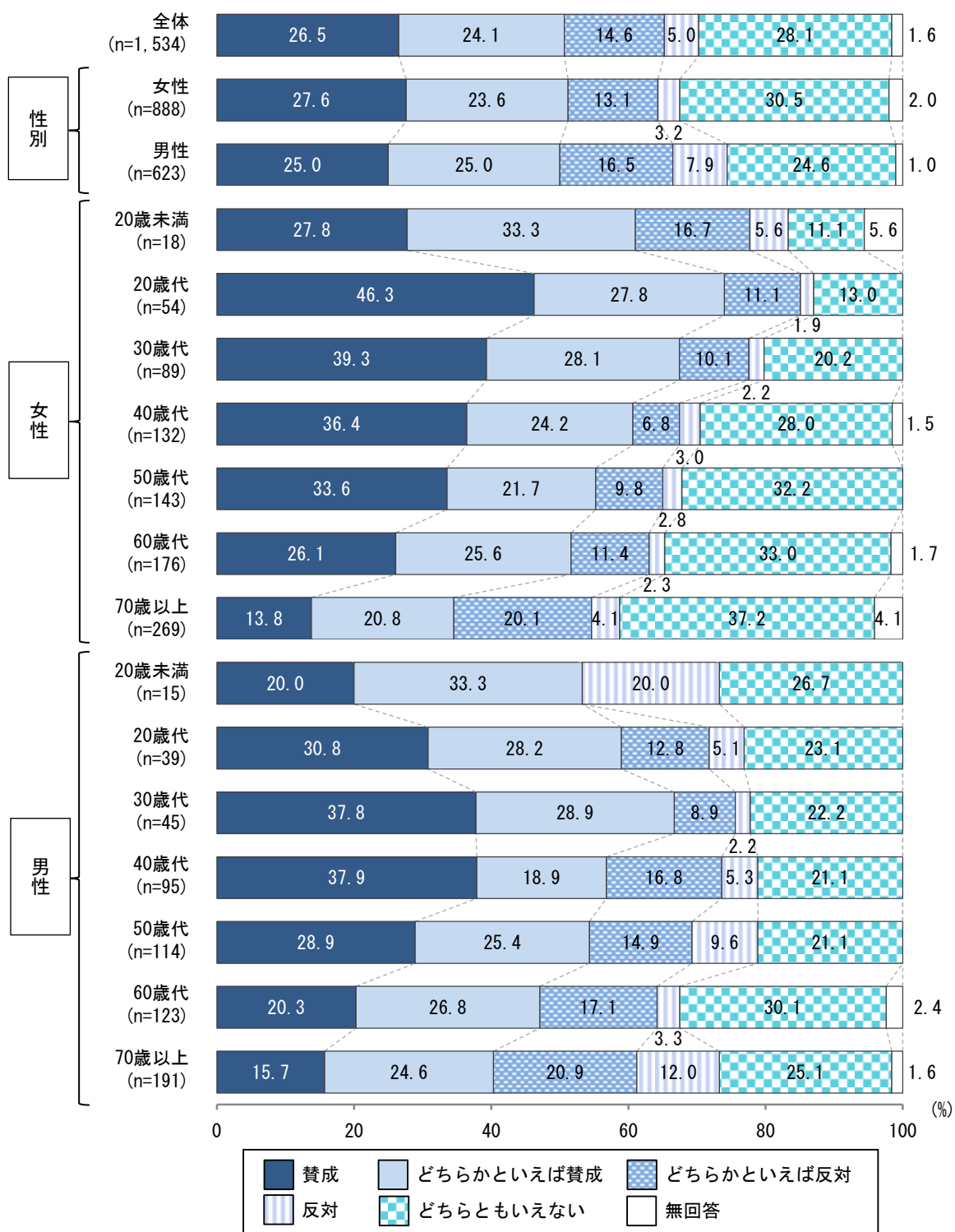
	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらとも いえない	どちらかとい えば反対	反対	賛成計	反対計
H12	82.4	11.3	2.6	0.6	0.3	93.7	0.9
H16	84.1	11.1	1.9	0.5	0.6	95.2	1.1
H21	84.4	12.3	1.3	0.3	0.5	96.7	0.7
H26	84.1	13.0	1.2	0.6	0.3	97.1	0.9
R1	78.7	14.6	2.2	0.5	0.3	93.3	0.8
R6	82.0	13.3	2.5	0.2	0.4	95.3	0.6

経年比較でみると、『賛成』と『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな差はみられない。

※図表2-5-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(f)結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

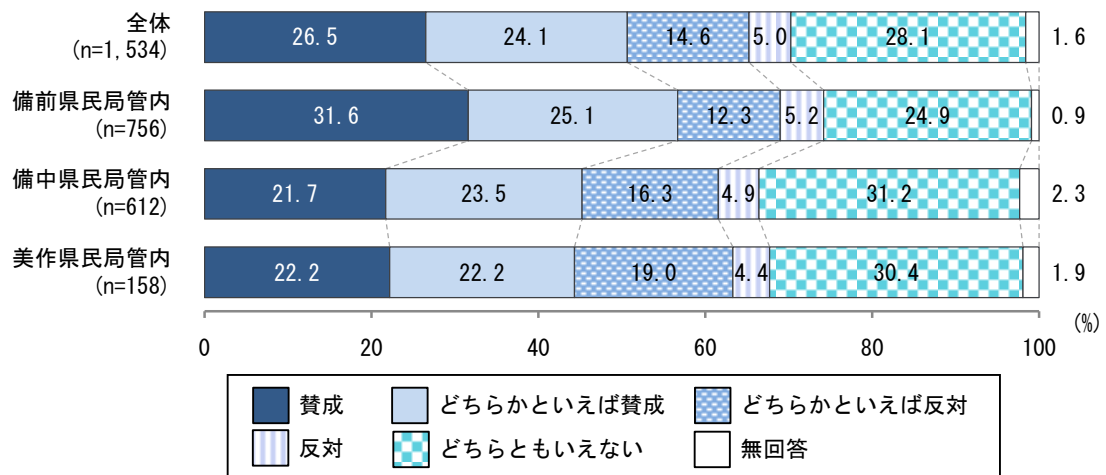
【図表2-6-1 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は女性(51.2%)が男性(50.0%)を 1.2 ポイント上回っている。一方、『反対』は男性(24.4%)が女性(16.3%)を 8.1 ポイント上回っている。

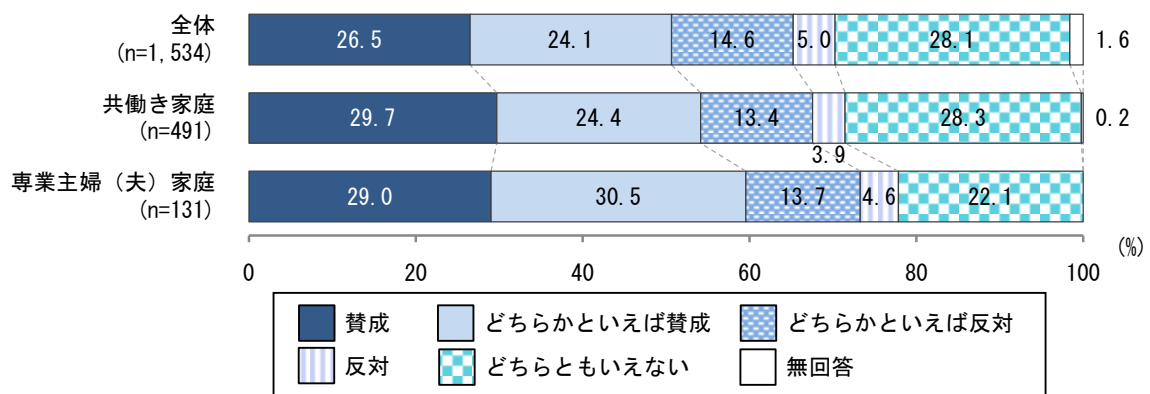
性年代別にみると、『賛成』は女性は 20 歳代、男性は 30 歳代から割合が低くなる傾向がみられる。

【図表2-6-2 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は備前県民局管内で5割台半ばと高くなっている。

【図表2-6-3 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(就労状況別)】



就労状況別にみると、『賛成』は専業主婦(夫)家庭(59.5%)が共働き家庭(54.1%)を 5.4 ポイント上回っており、「どちらともいえない」は共働き家庭(28.3%)が専業主婦(夫)家庭(22.1%)を 6.2 ポイント上回っている。

【図表2-6-4 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(経年比較)】

(単位:%)

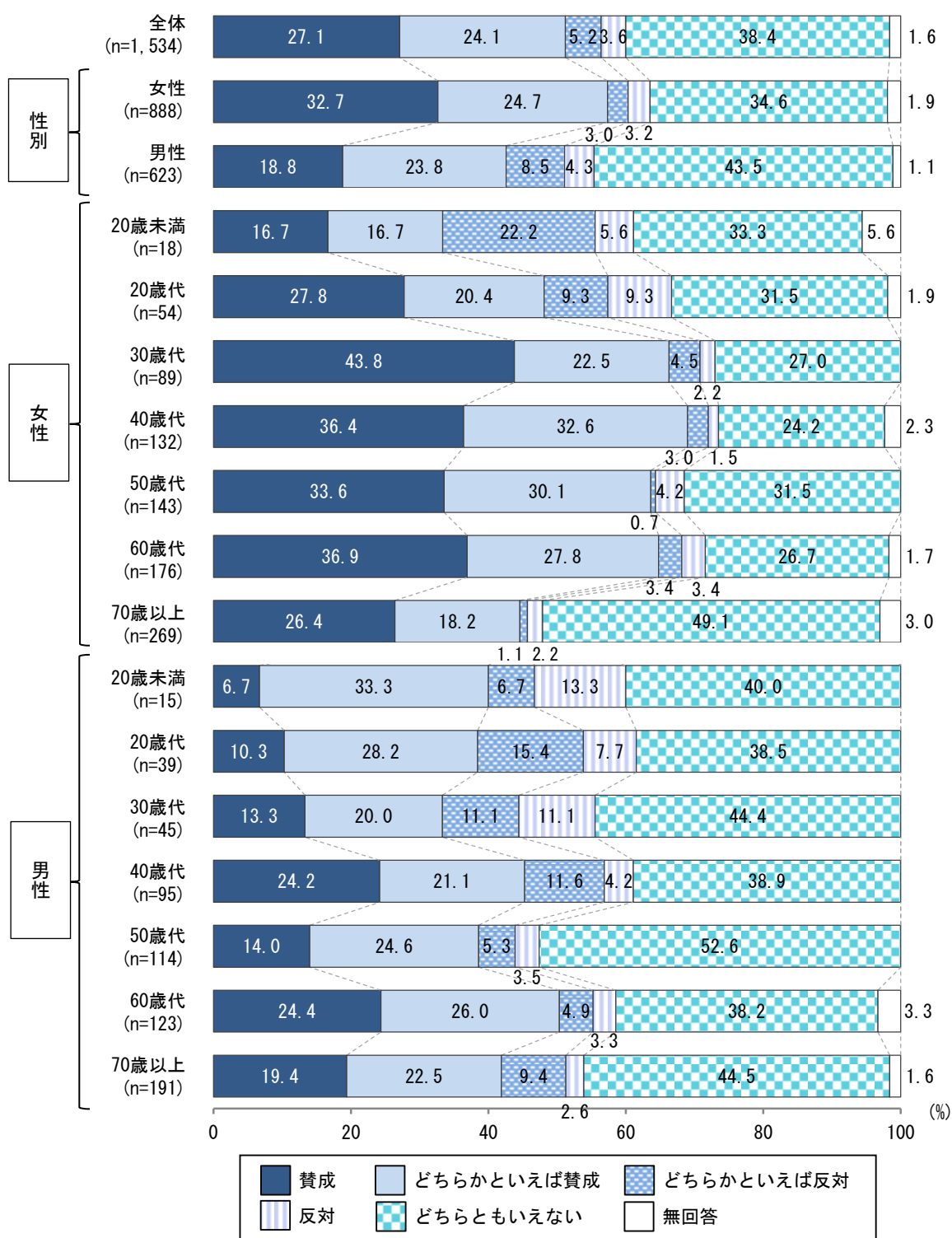
	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反対	反対	賛成計	反対計
H12	15.1	15.7	27.5	25.0	14.6	30.8	39.6
H16	14.2	16.6	27.5	24.4	15.2	30.8	39.6
H21	12.1	17.8	25.8	27.7	15.1	29.9	42.8
H26	12.7	16.1	29.1	26.6	14.4	28.8	41.0
R1	15.2	23.3	29.6	21.8	6.1	38.5	27.9
R6	26.5	24.1	28.1	14.6	5.0	50.7	19.6

経年比較でみると、『賛成』は令和6年調査(50.7%)が令和元年調査(38.5%)を 12.2 ポイント上回っている。

※図表2-6-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(g)一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である

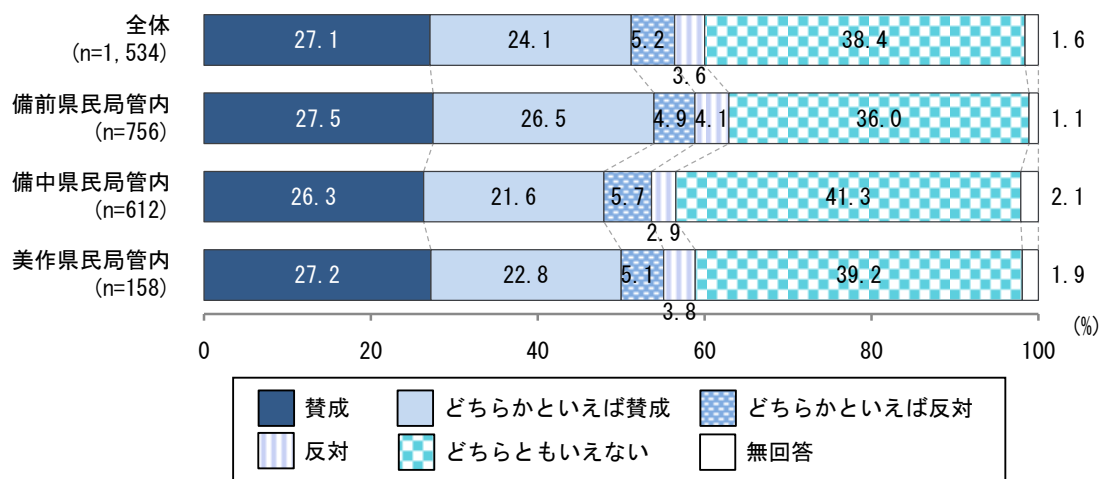
【図表2-7-1 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(性別、性年代別)】



性別にみると、『賛成』は女性(57.4%)が男性(42.6%)を14.8ポイント上回っている。

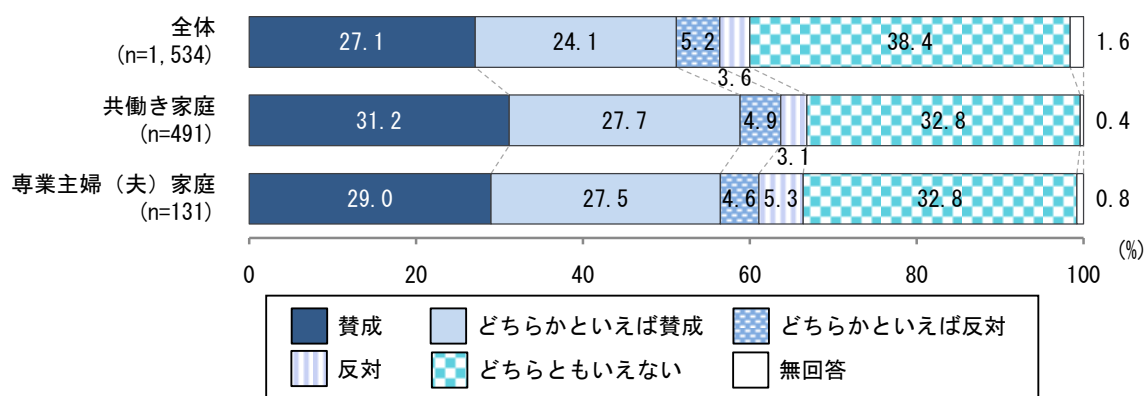
性年代別にみると、『賛成』は女性は30歳代～60歳代で6割台、男性は60歳代で約5割と高くなっている。

【図表2-7-2 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(地域別)】



地域別にみると、すべての地域で『賛成』は5割前後、『反対』は1割弱となっている。

【図表2-7-3 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-7-4 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(経年比較)】

(単位: %)

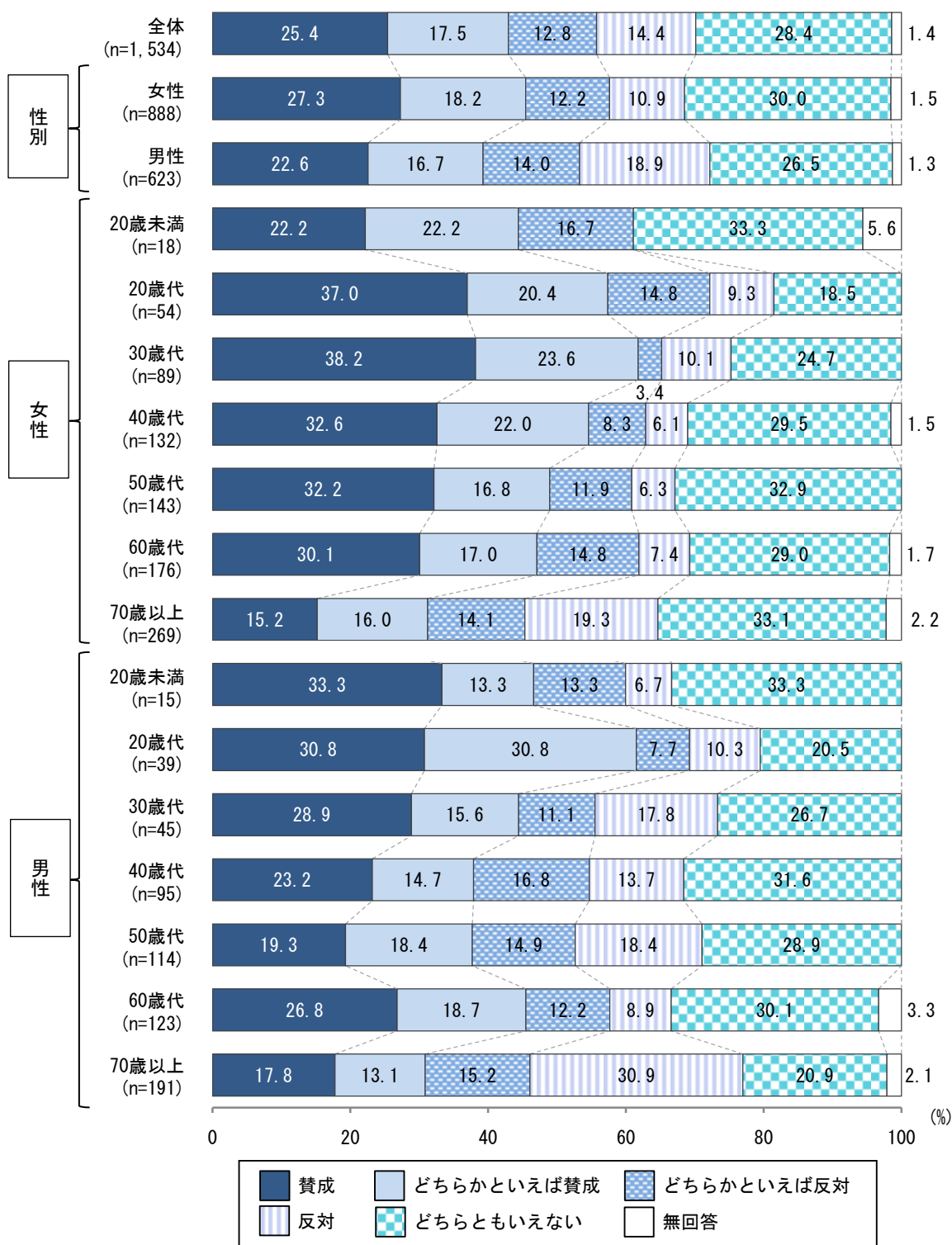
	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらとも いえない	どちらかとい えば反対	反対	賛成計	反対計
H12	27.6	17.1	44.5	3.8	4.9	44.7	8.7
H16	27.8	20.0	42.9	4.0	2.8	47.8	6.8
H21	25.4	21.3	43.4	4.2	4.0	46.8	8.1
H26	23.6	22.4	43.9	4.9	4.2	46.0	9.1
R1	23.2	24.6	40.6	4.3	3.3	47.8	7.6
R6	27.1	24.1	38.4	5.2	3.6	51.2	8.8

経年比較でみると、大きな差はみられない。

※図表2-7-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(h)夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい

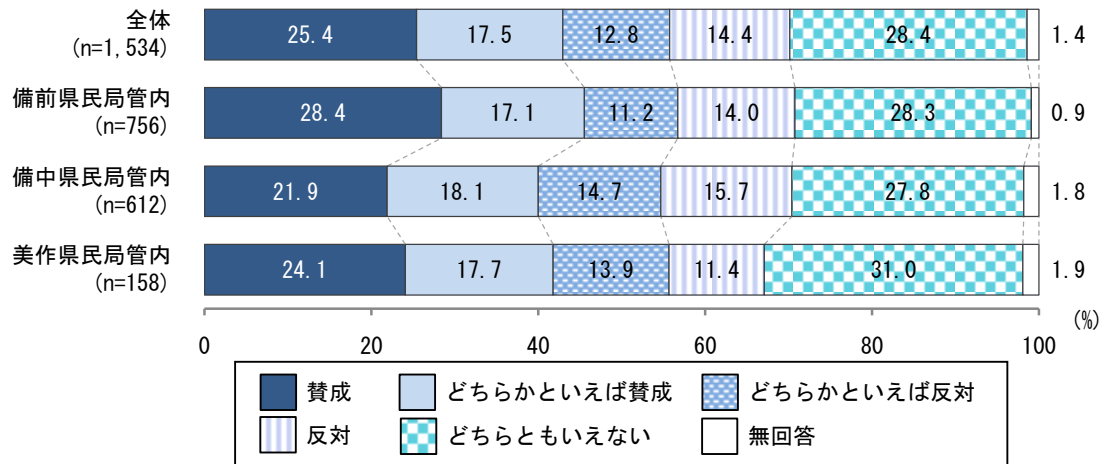
【図表2-8-1 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(性別、性年代別)】



性別にみると、『反対』は男性(32.9%)が女性(23.1%)を 9.8 ポイント上回っている。

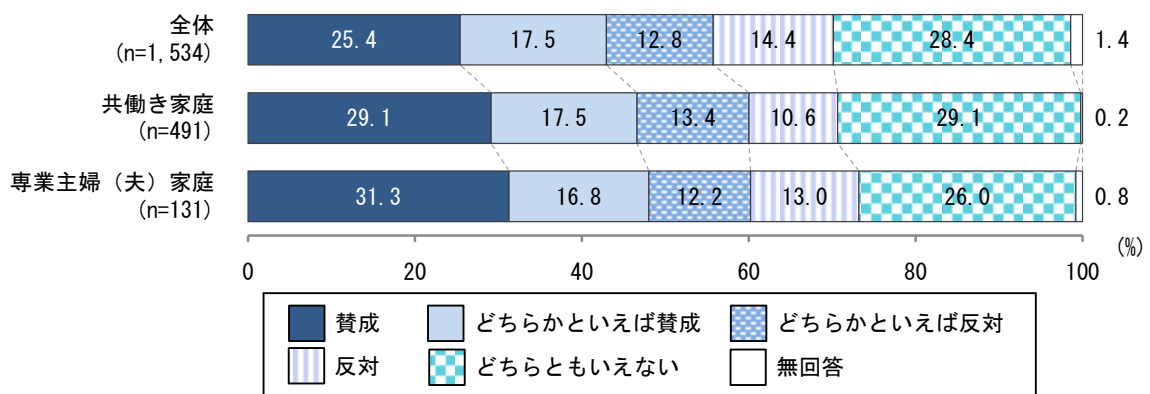
性年代別にみると、『賛成』は女性は 20 歳代～30 歳代で6割台、男性は 20 歳代で6割超と高くなっている。

【図表2-8-2 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(地域別)】



地域別にみると、『賛成』は備前県民局管内で4割台半ば、『反対』は備中県民局管内で約3割と高くなっている。

【図表2-8-3 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表2-8-4 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(経年比較)】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	13.4	10.3	22.2	19.0	33.6	23.7	52.6
H16	14.7	10.6	21.3	18.7	33.0	25.3	51.7
H21	13.0	12.1	23.3	18.9	31.3	25.2	50.1
H26	13.8	13.6	25.0	19.6	27.3	27.3	46.8
R1	19.3	17.4	25.0	18.2	16.7	36.7	34.9
R6	25.4	17.5	28.4	12.8	14.4	42.9	27.2

経年比較でみると、『賛成』は増加傾向にあり、『反対』は減少傾向にある。

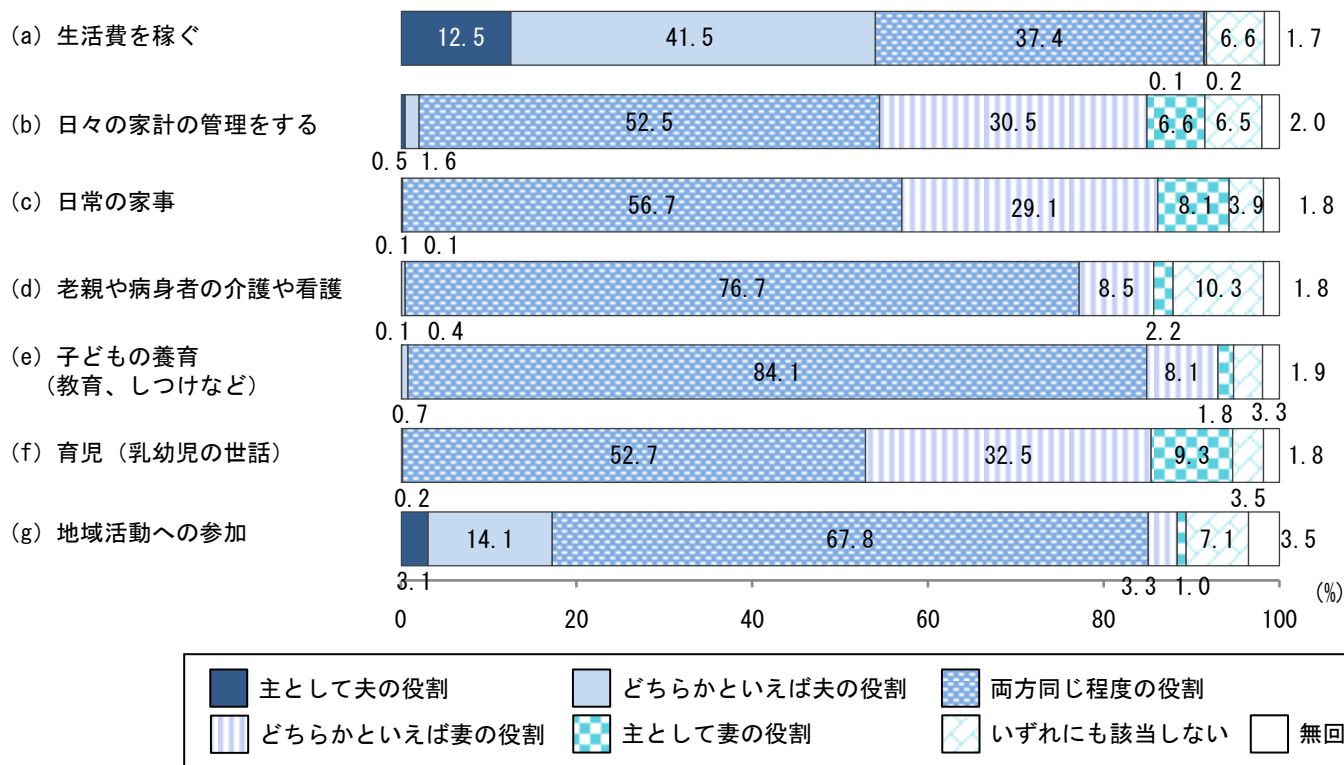
※図表2-8-4は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(3) 家庭での役割についての考え方

問3 家庭での役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者のいない方についても、次のような日常的なことが、どなたの役割だとお考えになるかお答えください。
((a)～(g)でそれぞれ1つだけ✓)

【図表3-1 家庭での役割についての考え方】

(n=1,534)



「日々の家計の管理」、「日常の家事」、「育児(乳幼児の世話)」は妻の役割、「生活費を稼ぐ」は夫の役割との認識が強い

家庭での役割についての考え方について、「生活費を稼ぐ」は『夫の役割』(「主として夫の役割」+「どちらかといえば夫の役割」)が54.0%と高くなっている。

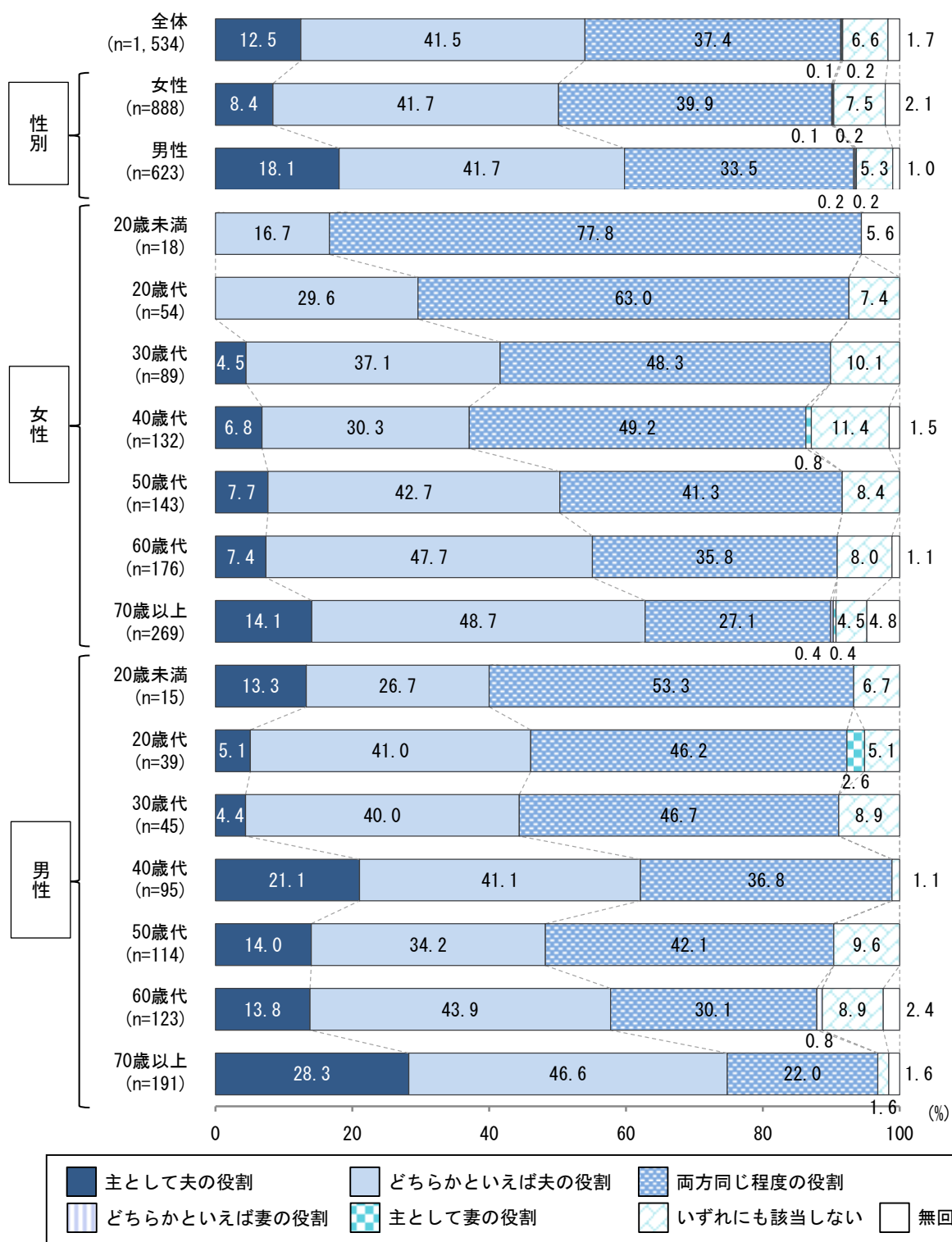
一方、「日々の家計の管理をする」、「日常の家事」、「育児(乳幼児の世話)」は『妻の役割』(「主として妻の役割」+「どちらかといえば妻の役割」)が4割程度となっている。

また、「子どもの養育(教育、しつけなど)」は、「両方同じ程度の役割」が8割台半ばとなっている。

※「家庭での役割について、あなたはどのようにお考えですか。」について、H12、H16、H21、H26 調査では「家庭の仕事の役割について、あなたはどのようにお考えですか。」と聞いている。

(a)生活費を稼ぐ

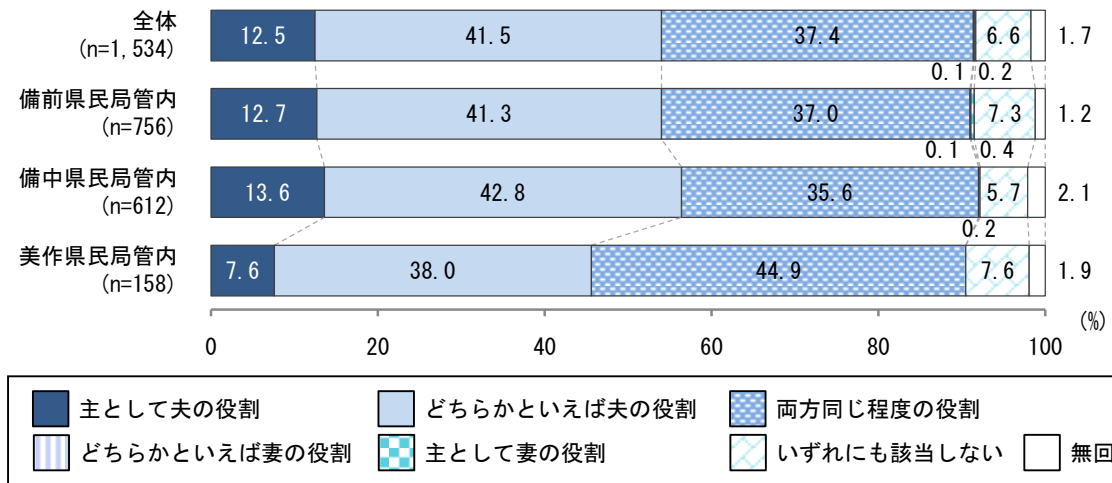
【図表3-1-1 生活費を稼ぐ(性別、性年代別)】



性別にみると、『夫の役割』は男性(59.8%)が女性(50.1%)を 9.7 ポイント上回っている。

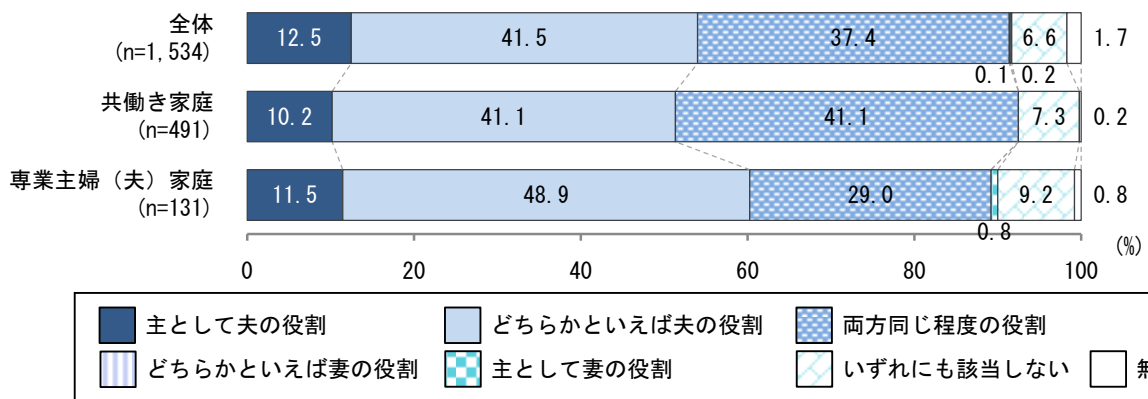
性年代別にみると、『夫の役割』は女性は 70 歳以上で6割超、男性は 70 歳以上で7割台半ばと高くなっている。

【図表3-1-2 生活費を稼ぐ(地域別)】



地域別にみると、『夫の役割』は備中県民局管内(56.4%)が最も高く、美作県民局管内(45.6%)が最も低くなっており、10.8 ポイントの差がある。「両方同じ程度の役割」は美作県民局管内で4割台半ばと高くなっている。

【図表3-1-3 生活費を稼ぐ(就労状況別)】



就労状況別にみると、「両方同じ程度の役割」は共働き家庭(41.1%)が専業主婦(夫)家庭(29.0%)を12.1 ポイント上回っている。

【図表3-1-4 生活費を稼ぐ(経年比較)】

(単位:%)

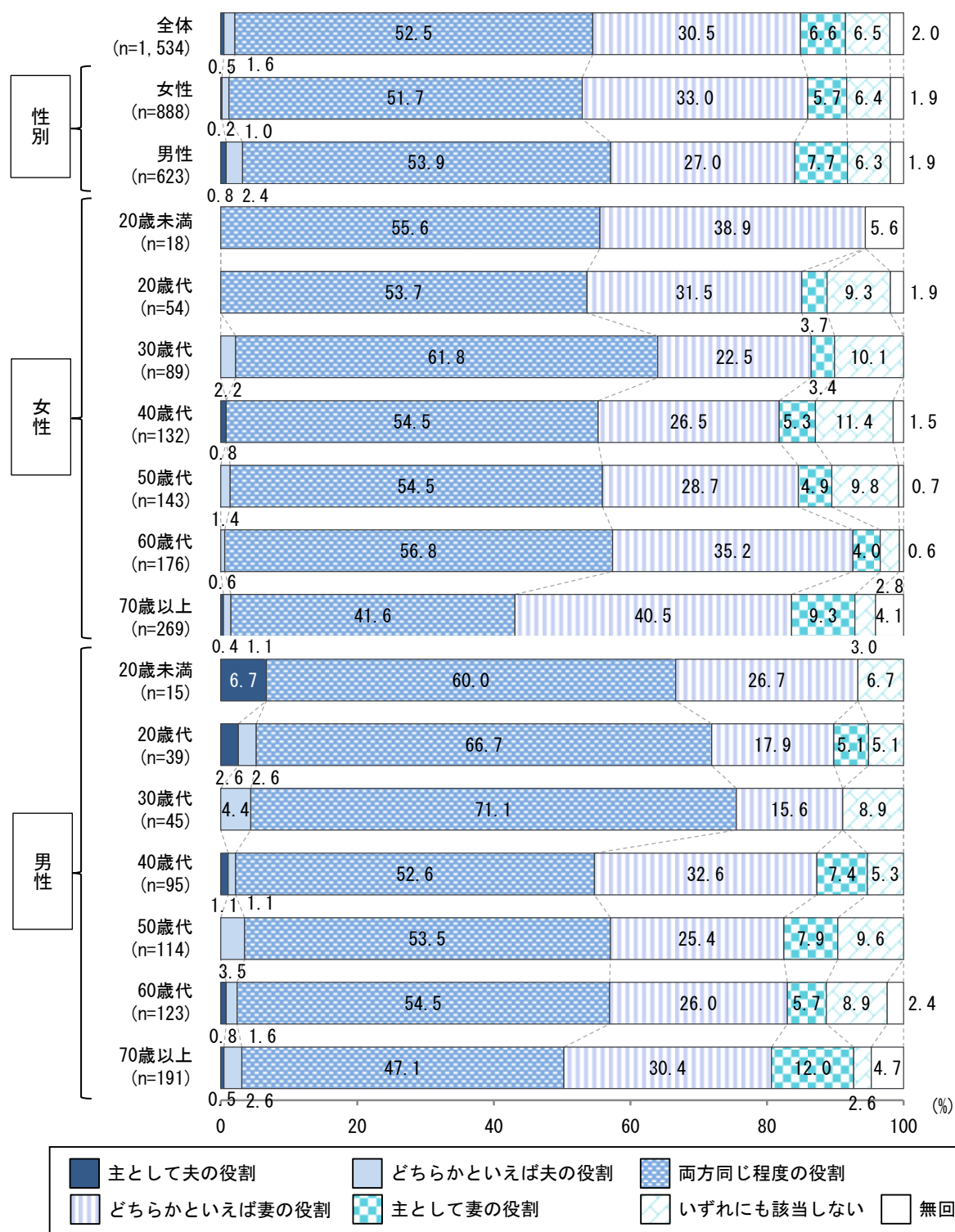
	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	41.7	44.1	10.9	0.2	0.1	85.8	0.3
H16	31.6	49.1	14.4	0.1	0.1	80.7	1.5
H21	29.6	44.5	17.0	0.1	0.0	74.1	0.1
H26	23.3	51.1	21.1	0.1	0.0	74.4	0.1
R1	17.2	49.5	26.9	0.1	0.1	66.7	0.2
R6	12.5	41.5	37.4	0.1	0.2	54.0	0.3

経年比較でみると、「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、『夫の役割』は令和6年調査(54.0%)が令和元年調査(66.7%)を12.7ポイント下回っている。

※図表3-1-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(b)日々の家計の管理をする

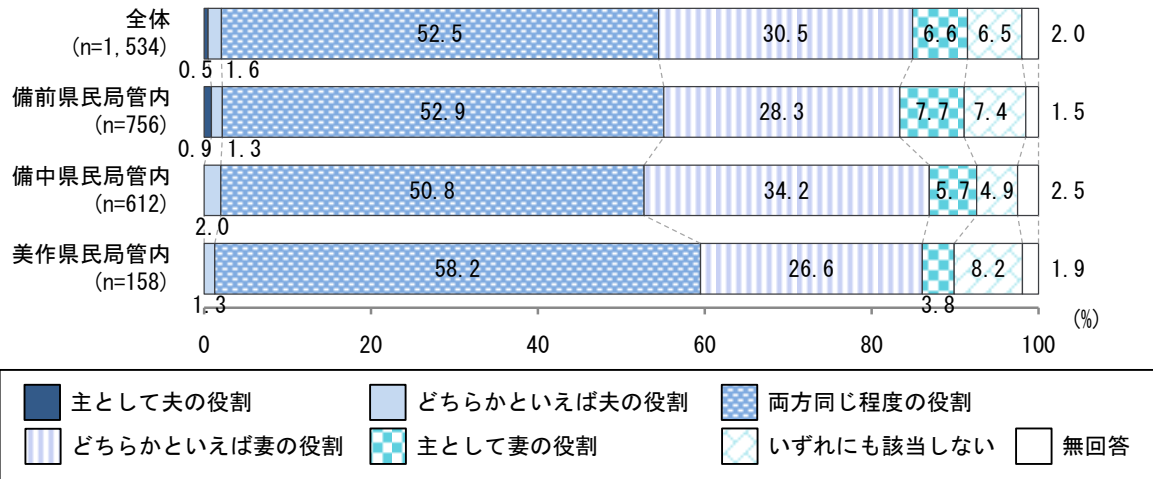
【図表3-2-1 日々の家計の管理をする(性別、性年代別)】



性別にみると、大きな差はみられない。

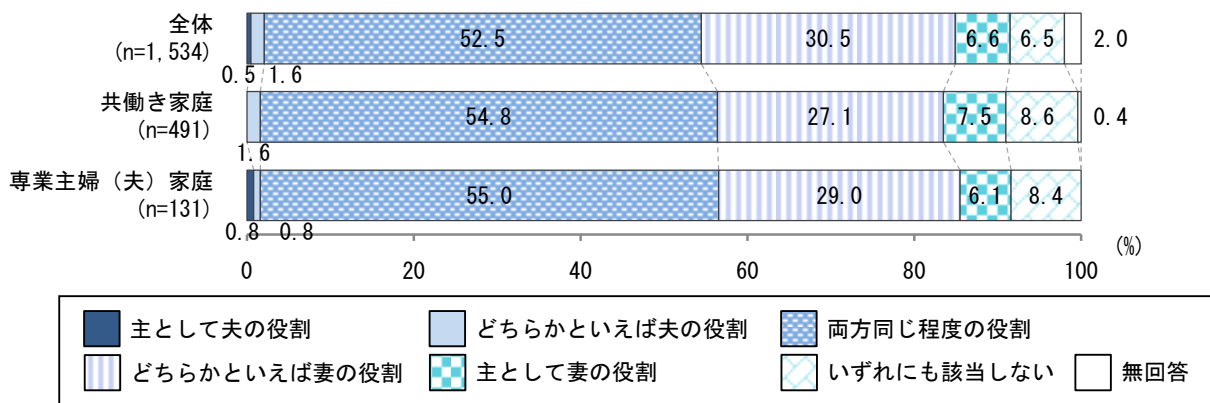
性年代別にみると、「両方同じ程度の役割」は男性の 20 歳代で6割台半ば、30 歳代で7割超と高くなっている。『妻の役割』は女性の 70 歳以上で約5割と高くなっている。

【図表3-2-2 日々の家計の管理をする(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」は美作県民局管内で約6割、『妻の役割』は備中県民局管内で約4割と高くなっている。

【図表3-2-3 日々の家計の管理をする(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表3-2-4 日々の家計の管理をする(経年比較)】

(単位: %)

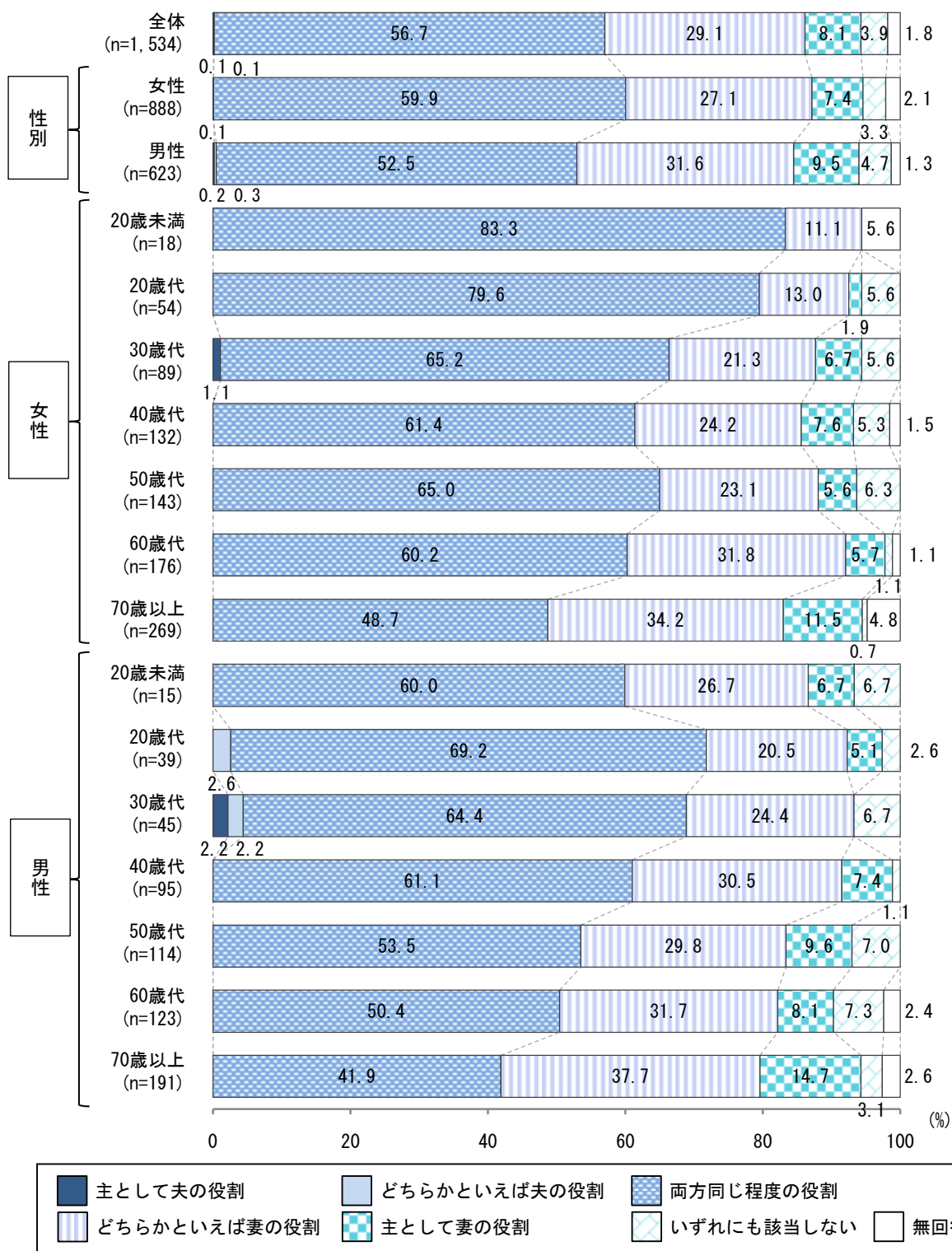
	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.8	0.9	18.6	47.2	28.8	1.7	76.0
H16	0.7	1.5	24.6	45.1	24.0	2.2	69.1
H21	1.0	1.3	29.9	38.1	20.8	2.3	58.9
H26	0.6	1.4	36.6	38.5	18.2	2.0	56.7
R1	0.8	2.0	40.3	39.0	11.4	2.8	50.4
R6	0.5	1.6	52.5	30.5	6.6	2.0	37.1

経年比較でみると「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、『妻の役割』は令和6年調査(37.1%)が令和元年調査(50.4%)を13.3ポイント下回っている。

※図表3-2-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

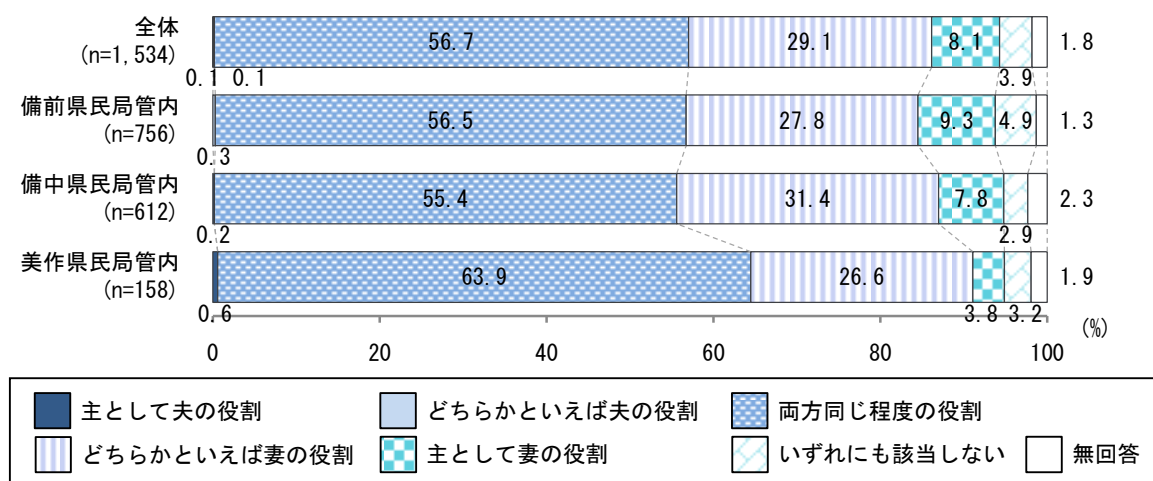
(c) 日常の家事

【図表3-3-1 日常の家事(性別、性年代別)】



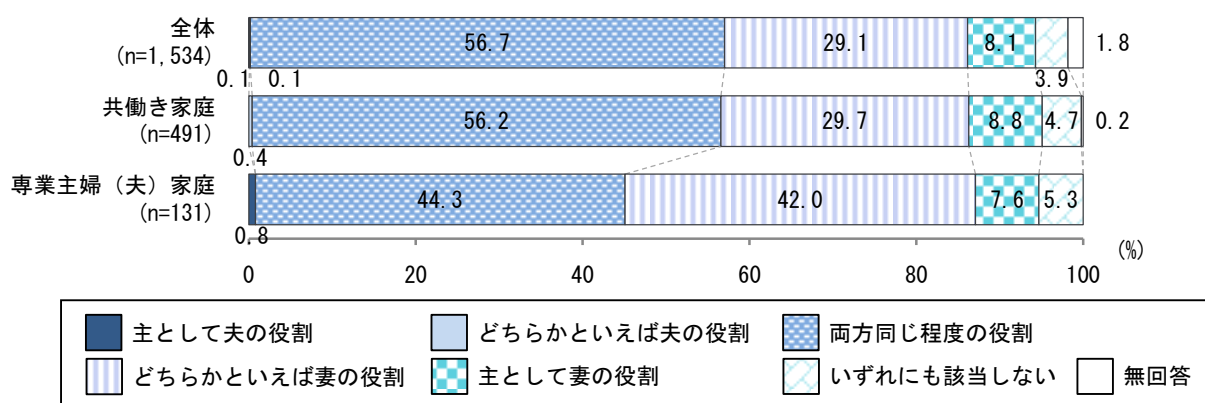
性別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性(59.9%)が男性(52.5%)を7.4ポイント上回っている。
 性年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて「両方同じ程度の役割」は低くなり、『妻の役割』が高くなる傾向がみられる。

【図表3-3-2 日常の家事(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」は美作県民局管内で6割台半ば、『妻の役割』は備前県民局管内、備中県民局管内で約4割と高くなっている。

【図表3-3-3 日常の家事(就労状況別)】



就労状況別にみると、「両方同じ程度の役割」は共働き家庭(56.2%)が専業主婦(夫)家庭(44.3%)を11.9ポイント上回っている。

【図表3-3-4 日常の家事(経年比較)】

(単位:%)

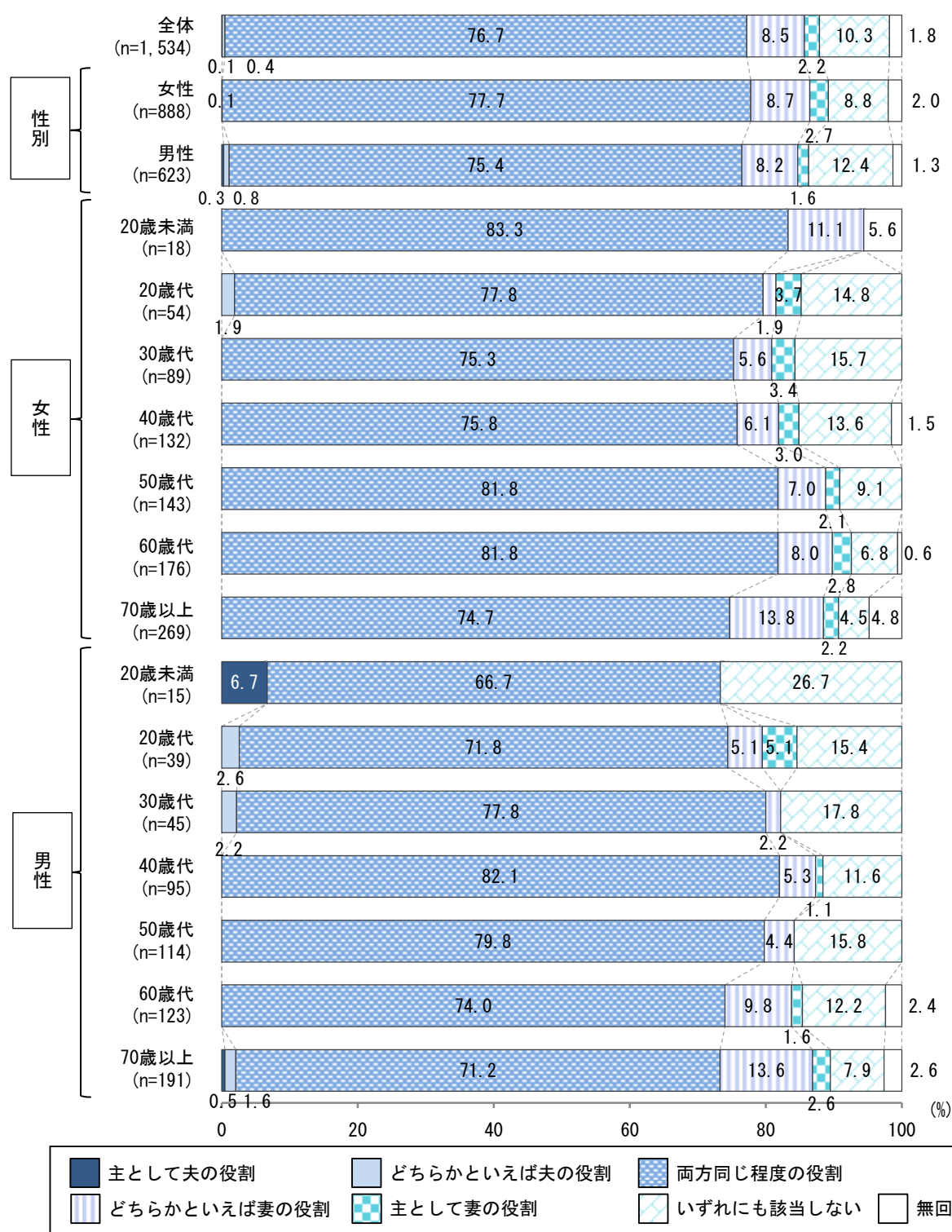
	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	0.1	0.1	16.7	45.8	33.4	0.2	79.2
H16	0.1	0.2	22.8	45.4	26.4	0.3	71.8
H21	0.3	0.3	27.3	43.6	19.7	0.6	63.3
H26	0.2	0.1	35.7	43.5	16.9	0.4	60.4
R1	0.1	0.1	43.7	38.8	11.2	0.2	50.0
R6	0.1	0.1	56.7	29.1	8.1	0.3	37.3

経年比較でみると、「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、「両方同じ程度の役割」は令和6年調査(56.7%)が令和元年調査(43.7%)を13.0ポイント上回っている。

※図表3-3-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(d)老親や病身者の介護や看護

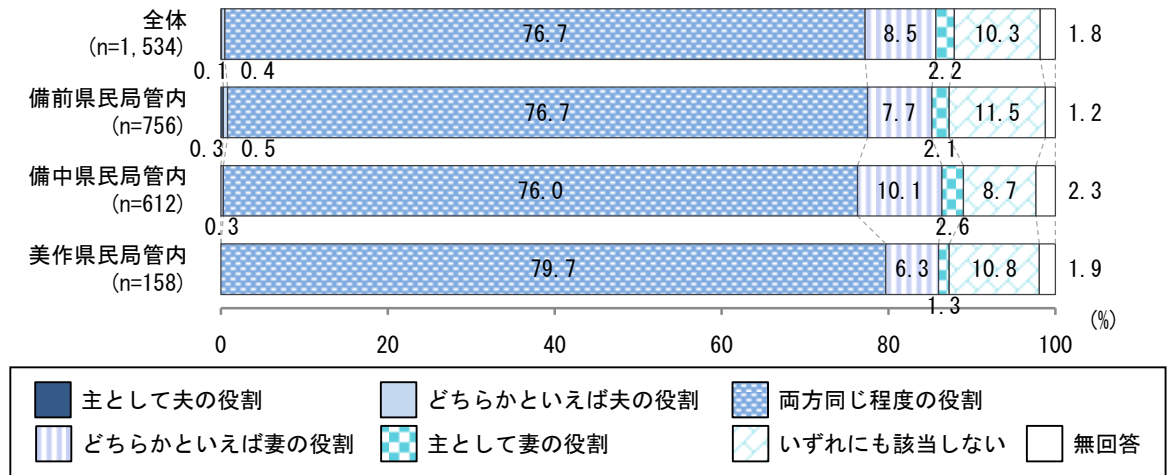
【図表3-4-1 老親や病身者の介護や看護(性別、性年代別)】



性別にみると、大きな差はみられない。

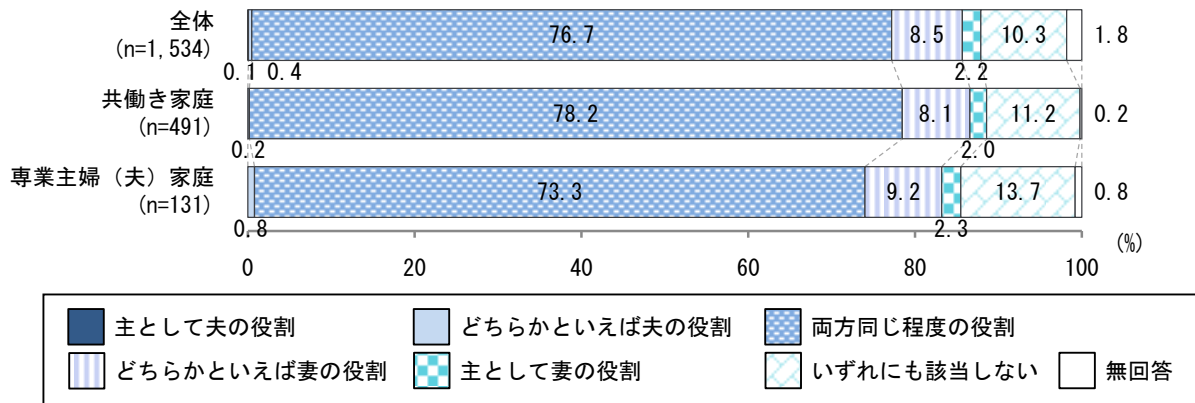
性年代別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」がどの年代も最も高くなっている。

【図表3-4-2 老親や病身者の介護や看護(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」はすべての地域で7割超となっており、大きな差はみられない。

【図表3-4-3 老親や病身者の介護や看護(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表3-4-4 老親や病身者の介護や看護(経年比較)】

(単位: %)

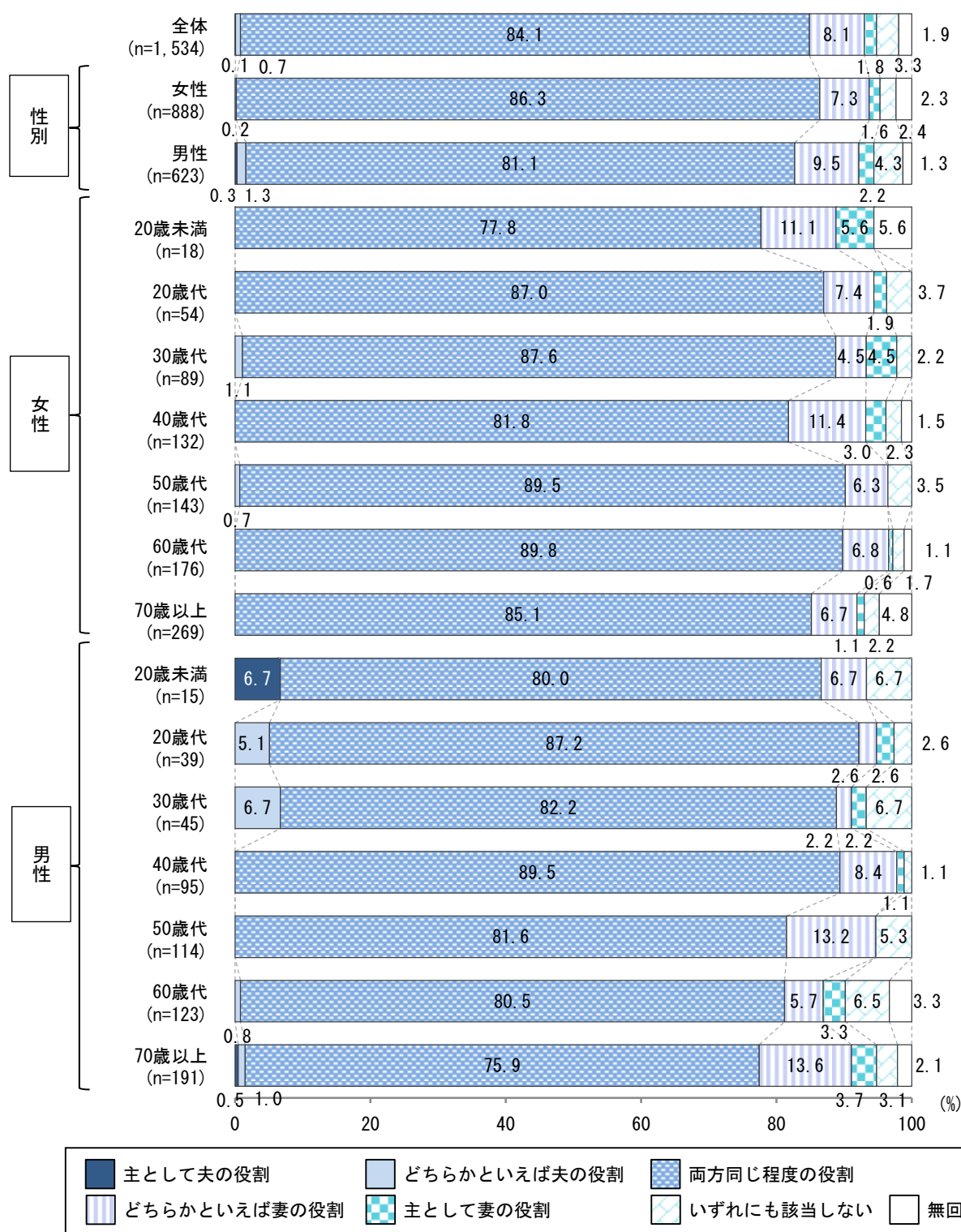
	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.2	0.2	51.1	29.2	12.1	0.4	41.3
H16	0.2	0.2	61.3	23.5	7.5	0.4	31.0
H21	0.3	0.5	66.6	17.7	4.6	0.8	22.3
H26	0.2	0.1	72.1	17.3	3.5	0.4	20.9
R1	0.1	0.7	73.4	14.4	2.9	0.8	17.3
R6	0.1	0.4	76.7	8.5	2.2	0.5	10.8

経年比較でみると、「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、『妻の役割』は令和6年調査(10.8%)が令和元年調査(17.3%)を6.5ポイント下回っている。

※図表3-4-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

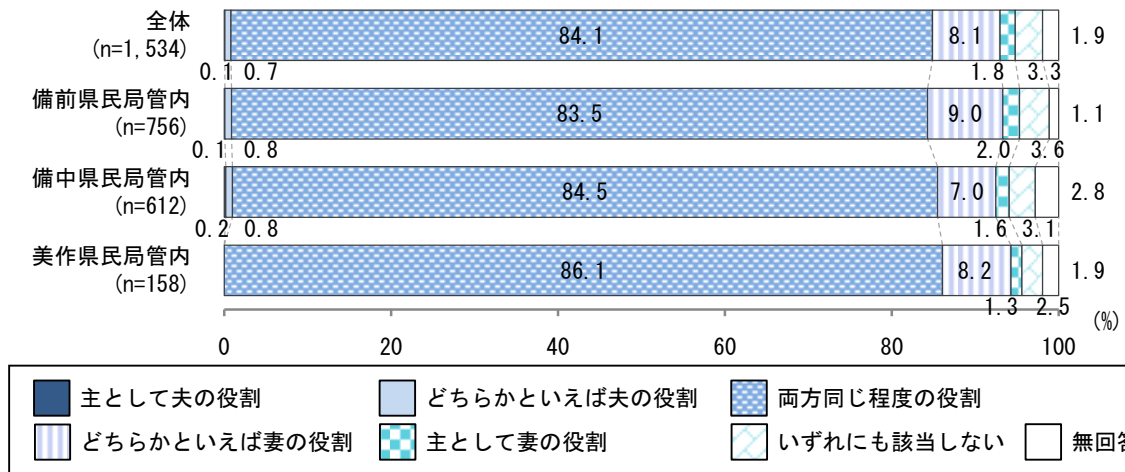
(e)子どもの養育(教育、しつけなど)

【図表3-5-1 子どもの養育(教育、しつけなど)(性別、性年代別)】



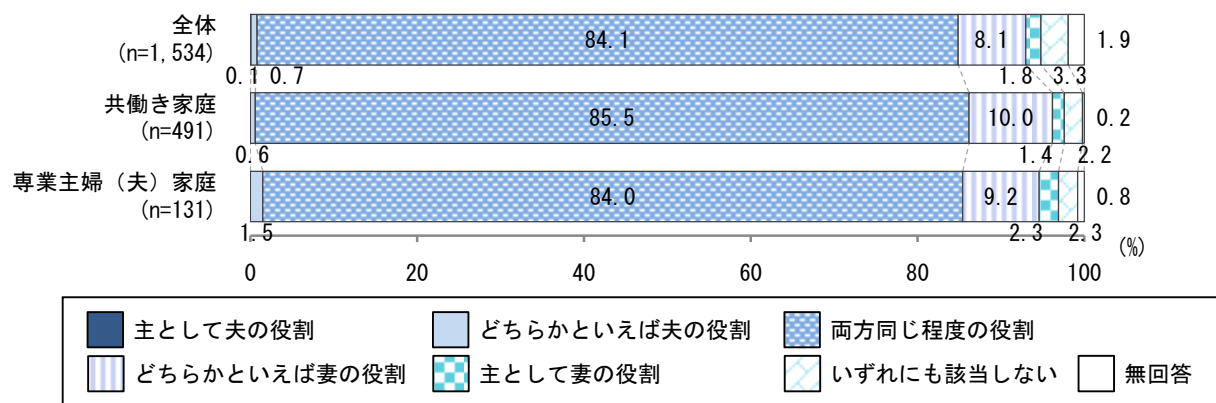
性別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性(86.3%)が男性(81.1%)を 5.2 ポイント上回っている。
性年代別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」がどの年代も最も高くなっている。

【図表3-5-2 子どもの養育(教育、しつけなど)(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」はすべての地域で8割台半ばとなっており、大きな差はみられない。

【図表3-5-3 子どもの養育(教育、しつけなど)(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表3-5-4 子どもの養育(教育、しつけなど)(経年比較)】

(単位:%)

	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	0.5	1.2	72.0	16.1	6.3	1.7	22.4
H16	0.7	0.6	80.0	11.7	4.4	1.3	16.1
H21	0.7	1.1	77.4	10.3	2.9	1.8	13.2
H26	0.4	0.6	83.3	10.0	2.7	1.0	12.7
R1	0.2	0.8	80.0	10.8	2.9	1.0	13.7
R6	0.1	0.7	84.1	8.1	1.8	0.8	9.9

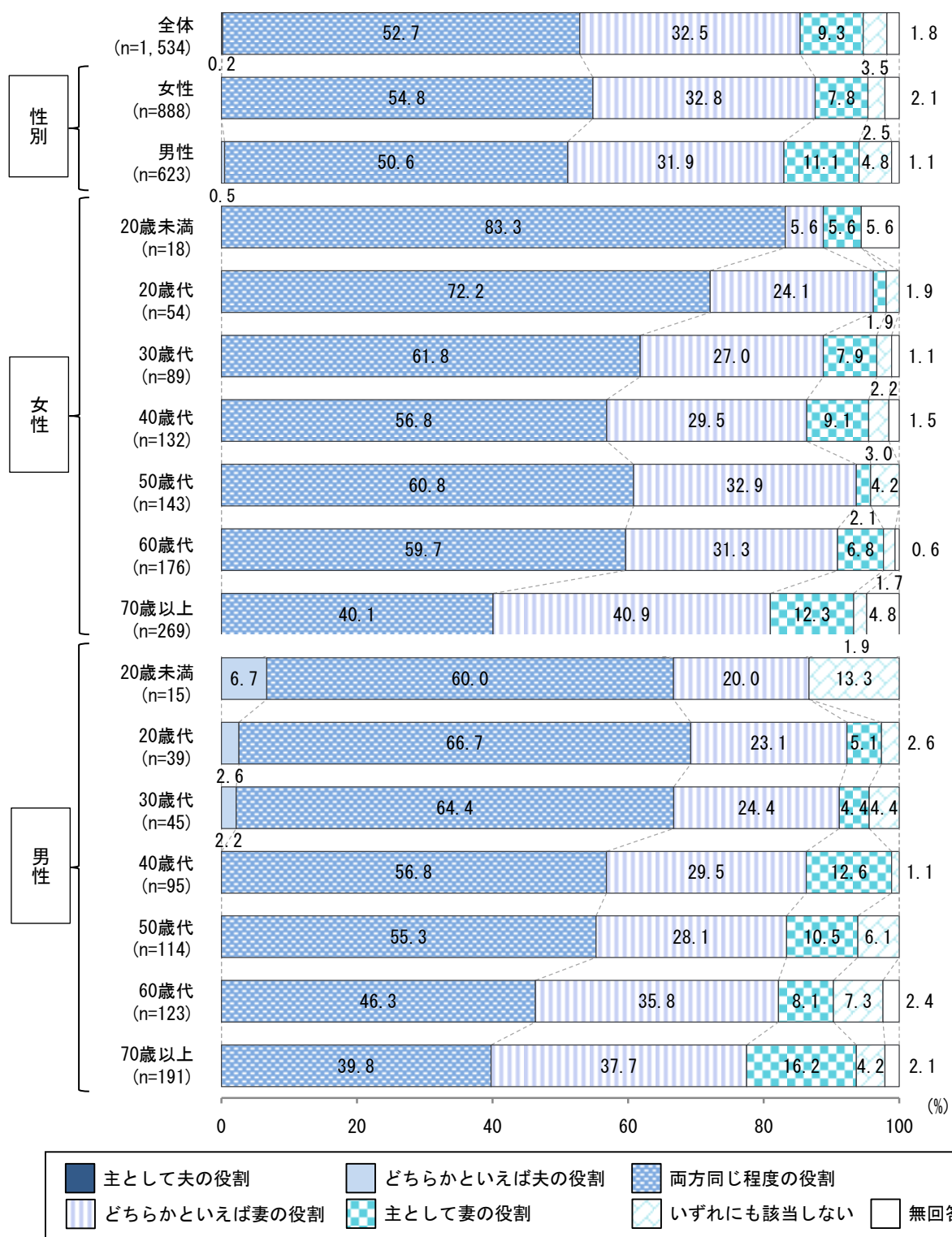
経年比較でみると、『夫の役割』及び『妻の役割』ともに減少傾向にある。また、「両方同じ程度の役割」は令和6年調査(84.1%)が令和元年調査(80.0%)を4.1ポイント上回っている。

※「子どもの養育(教育、しつけなど)」は、H12、H16、H21、H26、R1 調査では「子どもの教育としつけ」となっている。

※図表3-5-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(f)育児(乳幼児の世話)

【図表3-6-1 育児(乳幼児の世話)(性別、性年代別)】

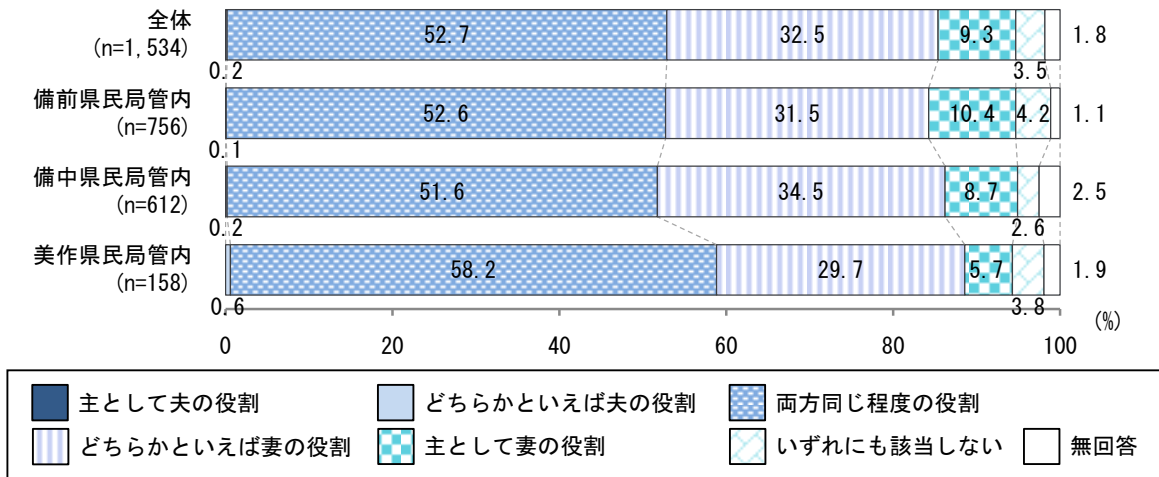


性別にみると、大きな差はみられない。

性年代別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」は年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

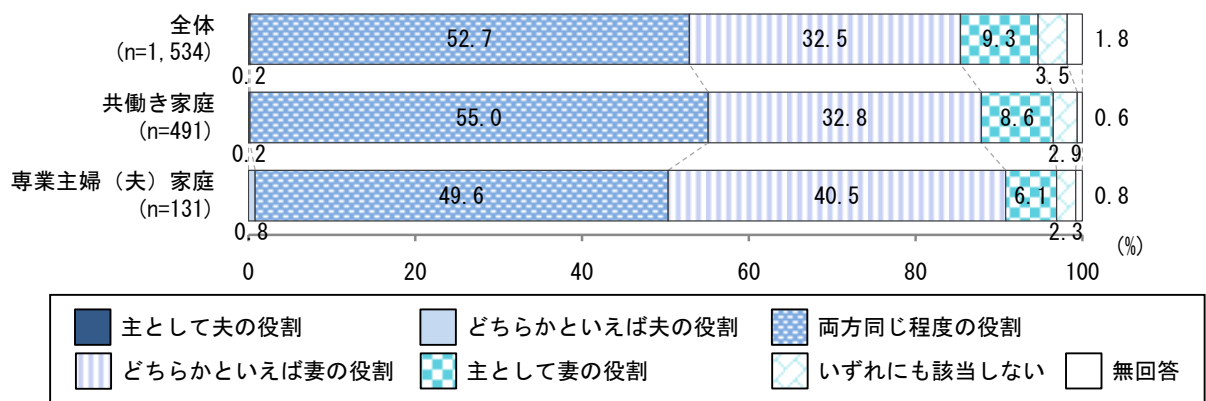
『妻の役割』は男女ともに 70 歳以上で5割台半ばと高くなっている。

【図表3-6-2 育児(乳幼児の世話)(地域別)】



地域別にみると、「両方同じ程度の役割」は美作県民局管内で約6割と高くなっている。『妻の役割』は備中県民局管内(43.2%)が最も高く、美作県民局管内(35.4%)が最も低くなっており、7.8 ポイントの差がある。

【図表3-6-3 育児(乳幼児の世話)(就労状況別)】



就労状況別にみると、「両方同じ程度の役割」は共働き家庭(55.0%)が専業主婦(夫)家庭(49.6%)を5.4 ポイント上回っている。

【図表3-6-4 育児(乳幼児の世話)(経年比較)】

(単位:%)

	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	0.1	0.1	20.8	42.6	32.1	0.2	74.7
H16	0.0	0.2	35.4	40.0	20.9	0.2	60.9
H21	0.3	0.3	29.5	41.7	20.3	0.5	62.1
H26	0.1	0.0	33.5	44.4	18.9	0.1	63.3
R1	0.1	0.1	38.8	40.3	15.6	0.2	55.9
R6	-	0.2	52.7	32.5	9.3	0.2	41.8

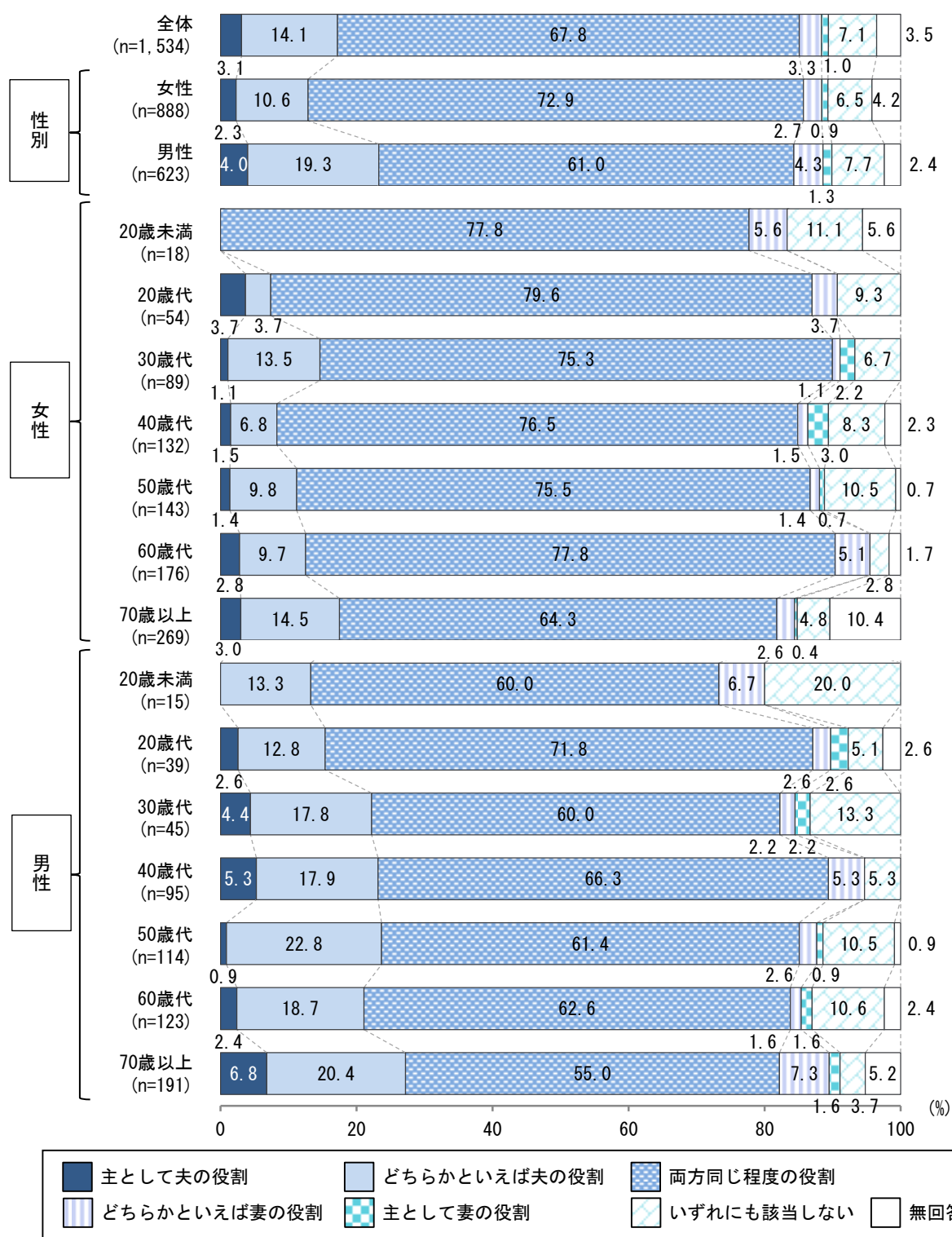
経年比較でみると、「両方同じ程度の役割」は増加傾向にある。また、『妻の役割』は令和6年調査(41.8%)が令和元年調査(55.9%)を14.1ポイント下回っている。

※「育児(乳幼児の世話)」は、H16 調査では「育児(乳児・幼児)」となっている。

※図表3-6-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

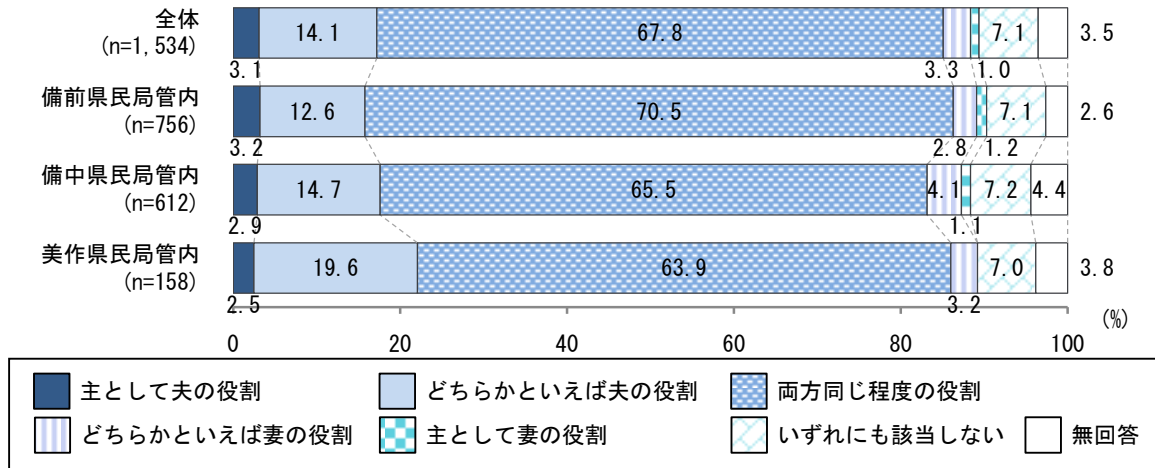
(g)地域活動への参加

【図表3-7-1 地域活動への参加(性別、性年代別)】



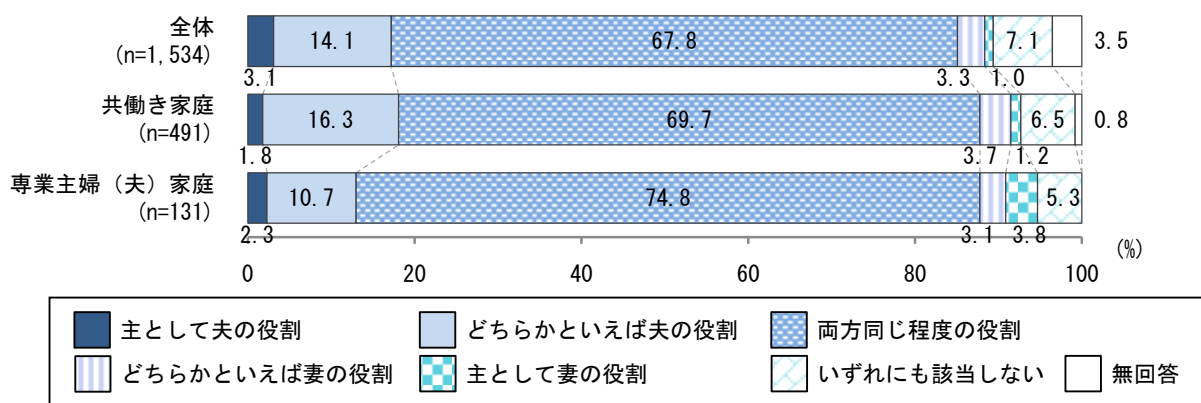
性別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性(72.9%)が男性(61.0%)を 11.9 ポイント上回っている。
性年代別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」がどの年代も最も高くなっている。

【図表3-7-2 地域活動への参加(地域別)】



地域別にみると、『夫の役割』は美作県民局管内で2割超、「両方同じ程度の役割」は備前県民局管内で約7割と高くなっている。

【図表3-7-3 地域活動への参加(就労状況別)】



就労状況別にみると、『夫の役割』は共働き家庭(18.1%)が専業主婦(夫)家庭(13.0%)を 5.1 ポイント上回っている。

【図表3-7-4 地域活動への参加(経年比較)】

(単位:%)

	主として夫 の役割	どちらかとい えば夫の 役割	両方同じ程 度の役割	どちらかとい えば妻の 役割	主として妻 の役割	夫の役割 計	妻の役割 計
H12	4.0	16.2	62.5	8.9	3.5	20.2	12.4
H16	4.1	12.8	68.2	7.2	2.9	16.9	10.1
H21	3.2	15.1	66.2	4.7	1.3	18.3	6.0
H26	4.5	14.6	70.9	4.5	1.0	19.1	5.5
R1	3.3	17.4	66.8	3.3	1.3	20.7	4.6
R6	3.1	14.1	67.8	3.3	1.0	17.2	4.4

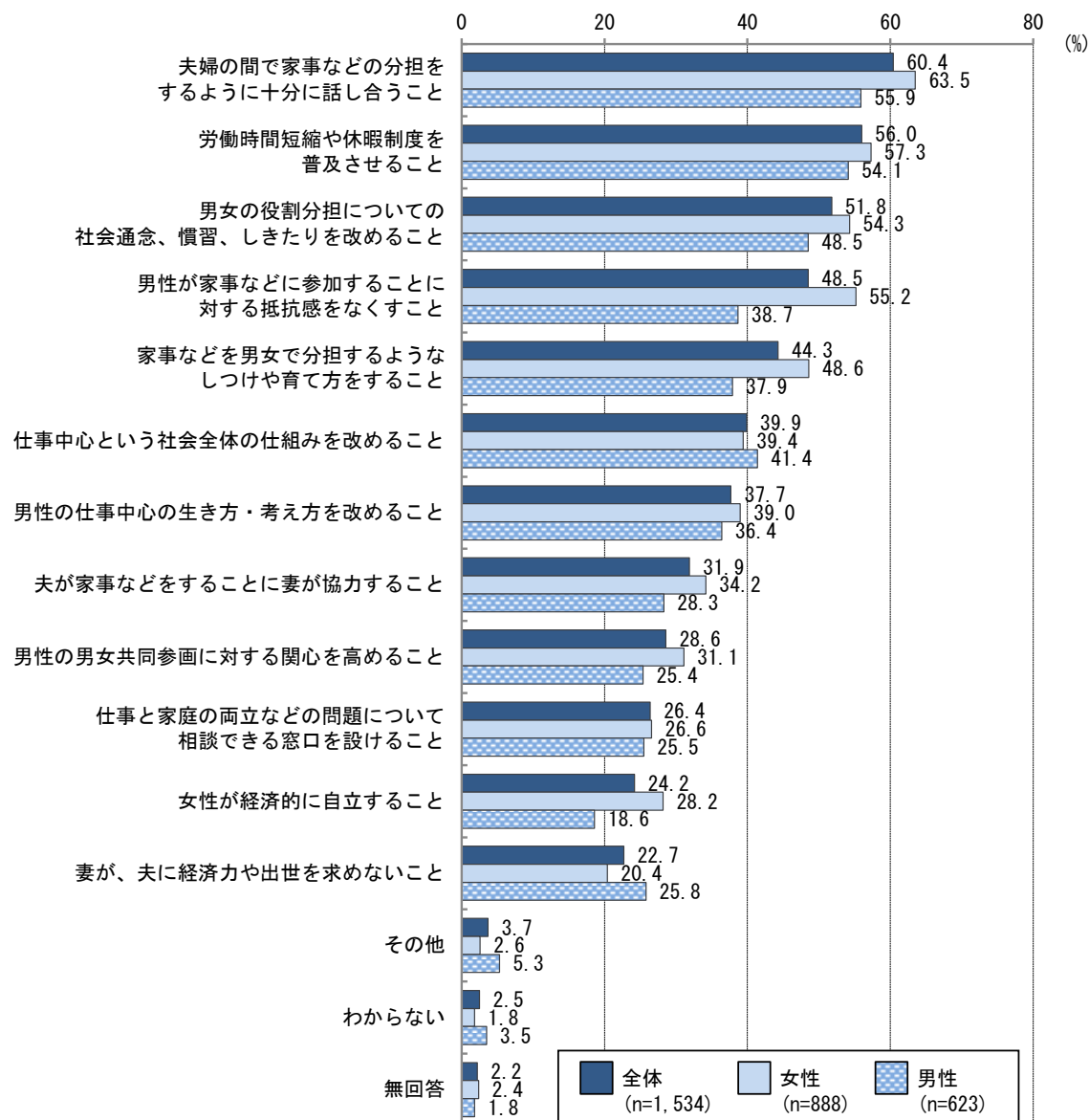
経年比較でみると、『夫の役割』は多少の増減はあるがほぼ横ばいで、大きな差はみられない。『妻の役割』は年々低下している。

※図表3-7-4は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(4) 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと

問4 今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だとお考えですか。(✓はいくつでも)

【図表4-1 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと(性別)】



「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が最も高い

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なことについて、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が60.4%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(56.0%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(51.8%)などの順となっている。

性別にみると、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」は女性(55.2%)が男性(38.7%)を16.5ポイント上回っている。

【図表4-2 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	と夫婦の間に家事などの話し合うことを	及労働時間短縮や休暇制度を普及させること	める通念、慣習、しきたりでの改社	男女の役割分担について	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	(%)
			と夫婦の間に家事などの話し合うことを	及労働時間短縮や休暇制度を普及させること	める通念、慣習、しきたりでの改社	男女の役割分担について	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	(%)
全 体		1,534	60.4	56.0	51.8	48.5	44.3	39.9	37.7	31.9	28.6	26.4	
年代別	女性	20歳未満	18	55.6	55.6	22.2	44.4	38.9	38.9	44.4	27.8	11.1	16.7
		20歳代	54	63.0	74.1	44.4	50.0	42.6	33.3	35.2	25.9	24.1	27.8
		30歳代	89	60.7	80.9	56.2	46.1	48.3	57.3	38.2	30.3	22.5	32.6
		40歳代	132	52.3	54.5	55.3	50.0	43.9	46.2	37.9	30.3	25.0	12.9
		50歳代	143	61.5	52.4	58.7	62.2	53.1	42.7	43.4	33.6	34.3	27.3
		60歳代	176	68.8	61.9	63.6	62.5	54.0	39.8	42.0	34.7	35.8	29.5
		70歳以上	269	68.8	47.6	49.1	54.3	46.8	30.5	36.4	39.4	35.7	30.1
	男性	20歳未満	15	33.3	53.3	40.0	13.3	6.7	33.3	26.7	13.3	6.7	26.7
		20歳代	39	43.6	71.8	48.7	35.9	38.5	61.5	25.6	20.5	23.1	30.8
		30歳代	45	35.6	66.7	33.3	28.9	31.1	64.4	20.0	22.2	20.0	15.6
		40歳代	95	63.2	61.1	37.9	44.2	45.3	42.1	38.9	24.2	21.1	29.5
		50歳代	114	53.5	56.1	57.9	43.9	42.1	45.6	44.7	35.1	19.3	26.3
		60歳代	123	60.2	47.2	53.7	35.0	34.1	39.8	39.8	20.3	26.8	20.3
		70歳以上	191	60.2	47.6	48.7	40.3	38.2	30.4	34.6	35.1	33.0	27.7

1位 2位 3位

性年代別にみると、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」は女性の 30 歳代で約8割、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」は男性の 20 歳代～30 歳代で6割台と高くなっている。

【図表4-3 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと(地域別・上位 10 位)】

		n 数	と夫婦の間に家事などの話し合うことを	及労働時間短縮や休暇制度を普及させること	める通念、慣習、しきたりでの改社	男女の役割分担について	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	(%)
			と夫婦の間に家事などの話し合うことを	及労働時間短縮や休暇制度を普及させること	める通念、慣習、しきたりでの改社	男女の役割分担について	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	と男性が家事などに参加すること	(%)
全 体		1,534	60.4	56.0	51.8	48.5	44.3	39.9	37.7	31.9	28.6	26.4	
地域別	備前県民局管内	756	62.6	56.1	51.6	50.4	43.8	40.2	39.8	31.7	28.8	27.2	
	備中県民局管内	612	59.0	55.2	52.1	46.1	44.0	37.3	35.8	32.0	28.1	27.3	
	美作県民局管内	158	55.7	57.6	51.9	47.5	47.5	48.1	36.1	30.4	29.1	18.4	

1位 2位 3位

地域別にみると、「夫婦の間に家事などの分担をするように十分に話し合うこと」は備前県民局管内で6割超と高くなっている。

【図表4-4 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと(経年比較・上位10位)】

		n 数	(%)									
			とす夫 る婦 よう にで 家事 など に話 し合 う担 こを	及労働 時間 短縮 や休 暇制 度を 普	め会男 る通女 こと念 、慣割 習分 、担 しき つた いて をの 改社	と男 に性 対が する 家事 など に抵 抗感 をな くす こ	と家 事な しつ けを 男 女で 分 担す るこ	組仕 み事 を中 心と いう 社 会全 体の 仕	え男 性 の 仕 事 中 心 の 生 き 方 ・ 考	が夫 が 家 事 な ど を す る こ とに 妻	関男 心性 を 高 め る こ と 男 女 共 同 参 画 に 対 す る	けに仕 る事 こと と家 庭 の 両 立 な ど の 問 題
経 年 比 較	H16	2,064	37.5	34.9	39.6	25.2	24.2	21.2	19.9	9.3	19.6	11.8
	H21	1,490	35.8	35.2	32.7	26.5	23.2	20.0	18.0	10.5	18.0	13.5
	H26	1,386	37.8	38.7	34.0	26.8	23.8	26.5	19.5	10.9	17.5	11.7
	R1	1,532	39.0	37.4	36.8	25.8	24.3	26.4	19.1	9.1	16.3	10.5
	R6	1,534	60.4	56.0	51.8	48.5	44.3	39.9	37.7	31.9	28.6	26.4

1位 2位 3位

経年比較でみると、「夫が家事などをするに妻が協力すること」は令和6年調査(31.9%)が令和元年調査(9.1%)を 22.8 ポイント、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」は令和6年調査(48.5%)が令和元年調査(25.8%)を 22.7 ポイント上回っている。

※H16、H21、H26、R1 調査では当てはまるもの3つまでの選択としていた。

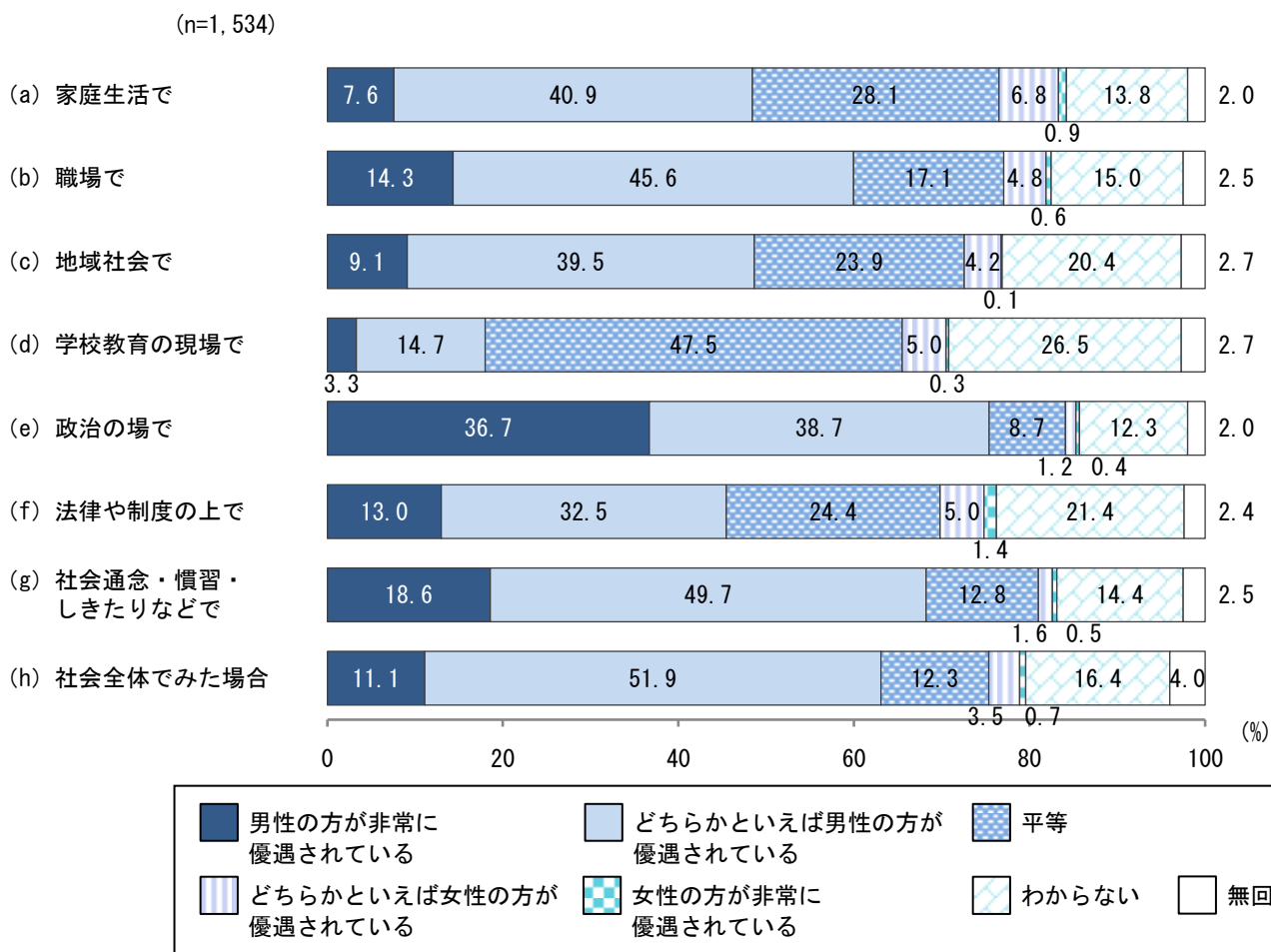
2 男女の地位の平等などについて

(1) 各分野・社会全体における男女の地位の平等意識

問5 あなたは次にあげる分野で男女の地位は平等になっているとお考えですか。

((a)～(h)でそれぞれ1つだけ✓)

【図表5-1 各分野・社会全体における男女の地位の平等意識】



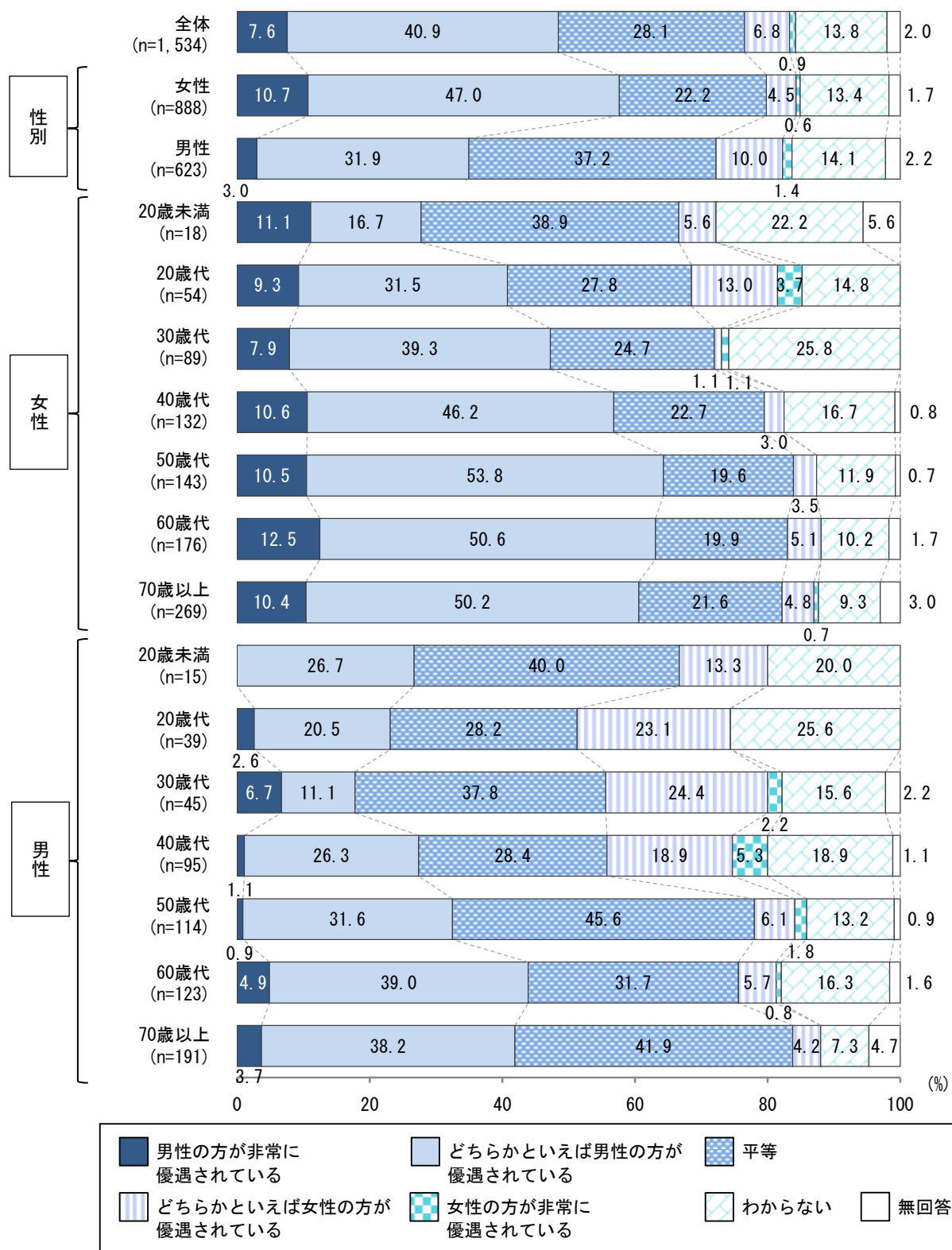
「学校教育の現場で」以外では『男性が優遇』されていると強く感じられている

各分野・社会全体における男女の地位の平等意識について、「政治の場で」は『男性が優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が75.4%と高くなっている。また、「職場で」、「社会通念・慣習・しきたりなどで」、「社会全体でみた場合」も約6～7割と高くなっている。

一方、「学校教育の現場で」は『平等』が高くなっている。

(a)家庭生活で

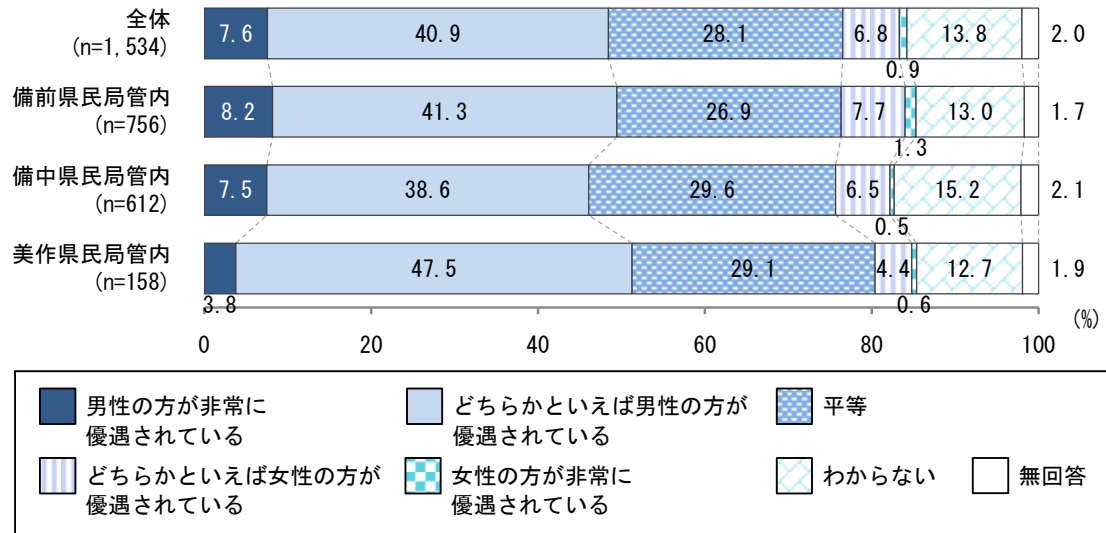
【図表5-1-1 家庭生活で(性別、性年代別)】



性別にみると、『男性が優遇』は女性(57.7%)が男性(34.9%)を 22.8 ポイント上回っている。

性年代別にみると、『男性が優遇』は女性の 50 歳代で6割台半ば、「平等」は男性の 50 歳代で4割台半ばと高くなっている。

【図表5-1-2 家庭生活で(地域別)】



地域別にみると、『男性が優遇』はすべての地域で5割前後となっている。

【図表5-1-3 家庭生活で(経年比較・国調査との比較)】

(単位: %)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている計	女性の方が優遇されている計
H12	15.0	50.1	20.6	6.9	4.2	0.8	65.1	5.0
H16	11.0	49.5	25.2	5.5	5.7	0.9	60.5	6.6
H21	7.3	42.4	27.2	7.4	5.7	1.5	49.7	7.2
H26	7.9	45.9	25.5	8.6	7.8	0.9	53.8	8.7
R1	9.2	42.7	28.3	7.7	7.4	0.8	51.9	8.2
R6	7.6	40.9	28.1	13.8	6.8	0.9	48.4	7.8
国(R6)	9.3	51.4	30.0	-	7.8	1.2	60.7	9.0

経年比較でみると、『男性が優遇』は減少傾向にある。

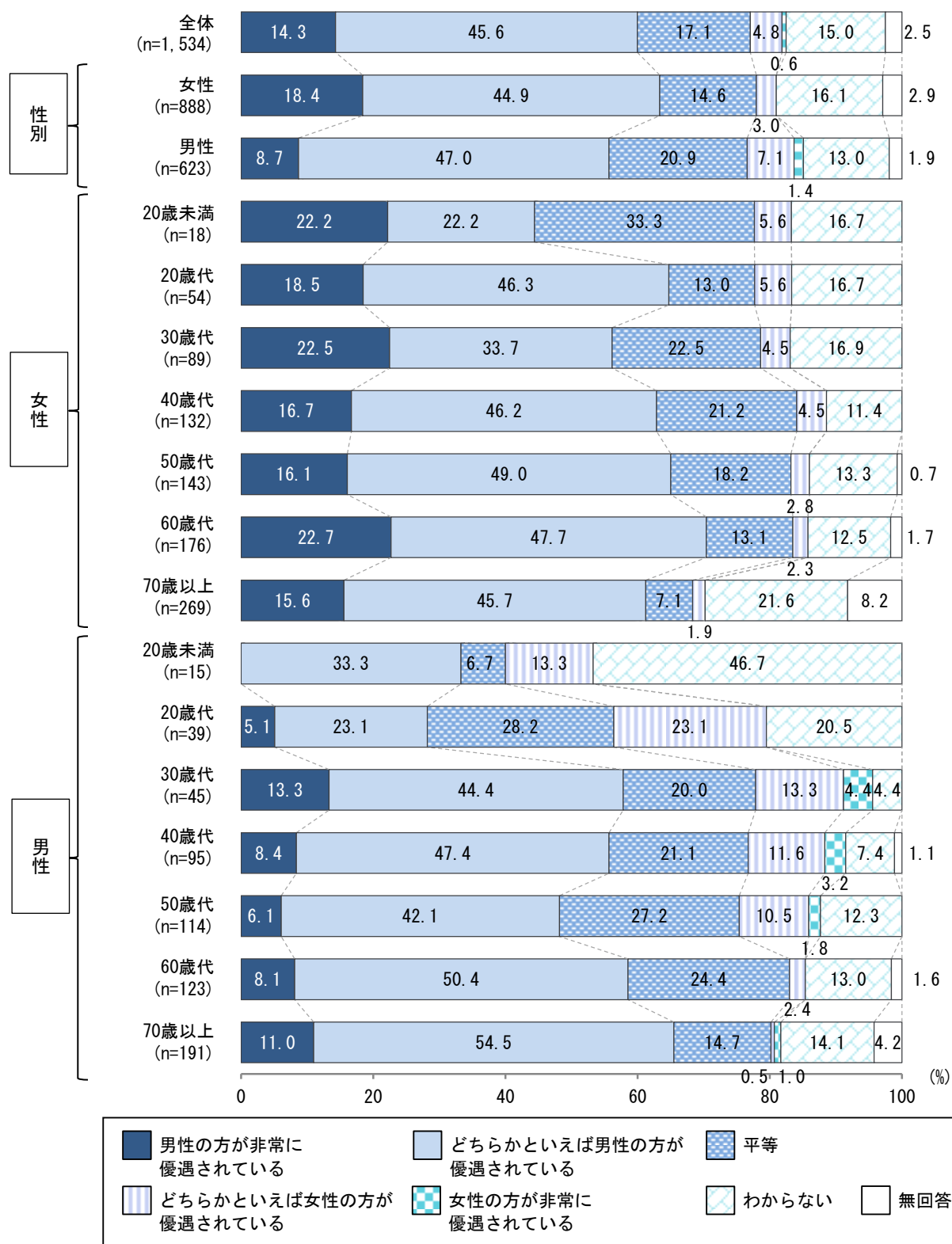
国調査と比較すると、『男性が優遇』は令和6年調査(48.4%)が国調査(60.7%)を12.3ポイント下回っている。

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

※図表5-1-3は過去の調査と同様に、男性の方が優遇されている計、女性の方が優遇されている計は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計と一致しない場合がある。

(b)職場で

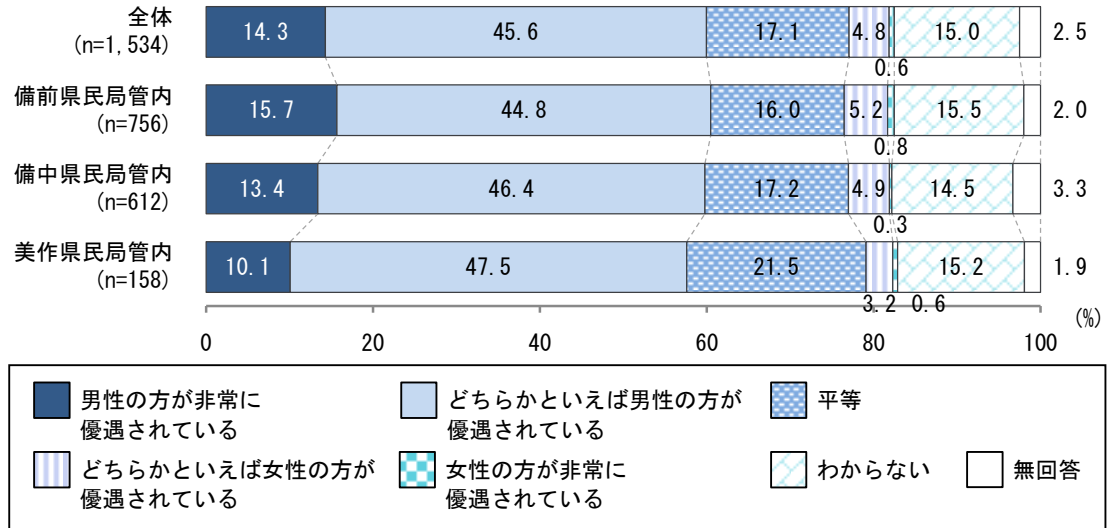
【図表5-2-1 職場で(性別、性年代別)】



性別にみると、『男性が優遇』は女性(63.3%)が男性(55.7%)を 7.6 ポイント上回っている。

性年代別にみると、『男性が優遇』は女性は 60 歳代で約7割、男性は 70 歳以上で6割台半ばと高くなっている。

【図表5-2-2 職場で(地域別)】



地域別にみると、『男性が優遇』はすべての地域で約6割となっている。

【図表5-2-3 職場で(経年比較・国調査との比較)】

(単位: %)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている計	女性の方が優遇されている計
H12	25.5	49.4	10.8	6.5	3.6	0.7	74.9	4.3
H16	23.5	49.9	11.0	8.2	3.9	0.3	73.4	4.2
H21	19.1	46.0	13.0	8.2	4.4	0.8	65.0	5.2
H26	20.6	48.6	15.1	6.7	4.9	0.6	69.3	5.6
R1	15.8	48.7	17.9	8.9	5.1	0.8	64.5	5.9
R6	14.3	45.6	17.1	15.0	4.8	0.6	60.0	5.4
国(R6)	14.2	49.6	25.8	-	8.1	1.1	63.8	9.2

経年比較でみると、『男性が優遇』は減少傾向にある。

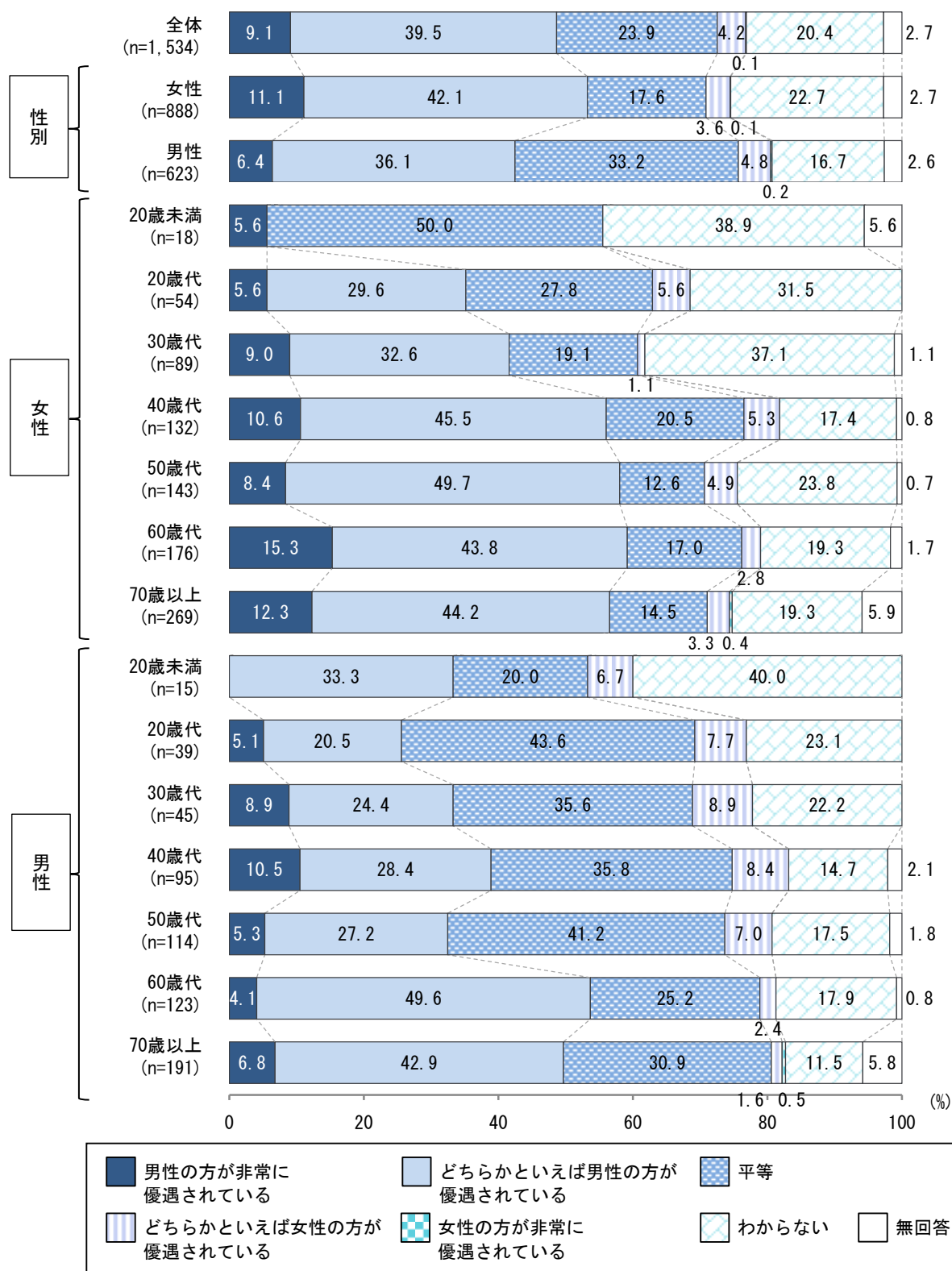
国調査と比較すると、「平等」は令和6年調査(17.1%)が国調査(25.8%)を 8.7 ポイント下回っている。

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

※図表5-2-3は過去の調査と同様に、男性の方が優遇されている計、女性の方が優遇されている計は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計と一致しない場合がある。

(c)地域社会で

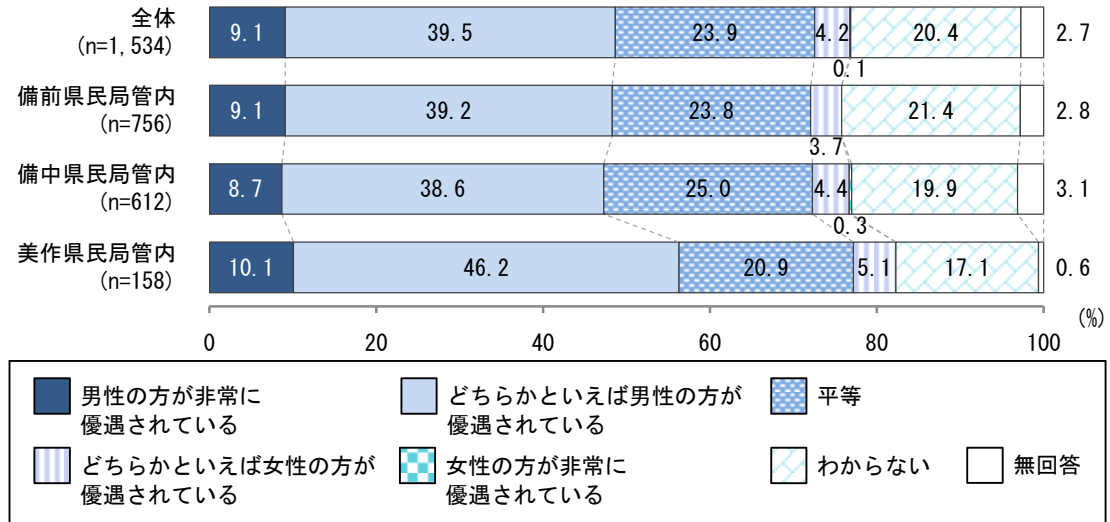
【図表5-3-1 地域社会で(性別、性年代別)】



性別にみると、「平等」は男性(33.2%)が女性(17.6%)を 15.6 ポイント上回っている。

性年代別にみると、『男性が優遇』は女性は 50 歳代～60 歳代で約6割、男性は 60 歳代で5割台半ばと高くなっている。

【図表5-3-2 地域社会で(地域別)】



地域別にみると、『男性が優遇』は美作県民局管内(56.3%)が最も高く、備中県民局管内(47.3%)が最も低く、9.0ポイントの差がある。

【図表5-3-3 地域社会で(経年比較・国調査との比較)】

(単位: %)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている計	女性の方が優遇されている計
H12	13.4	45.0	22.2	10.7	3.8	0.4	58.4	4.2
H16	11.6	45.8	22.1	11.4	4.8	1.0	57.4	5.8
H21	8.2	39.5	24.0	13.8	4.7	0.7	47.7	5.4
H26	9.2	44.7	23.8	12.0	5.5	0.6	53.8	6.1
R1	8.7	39.9	28.5	13.4	5.4	0.7	48.6	6.1
R6	9.1	39.5	23.9	20.4	4.2	0.1	48.6	4.3
国(R6)	8.8	38.2	40.3	-	9.3	1.2	47.0	10.5

経年比較でみると、大きな差はみられない。

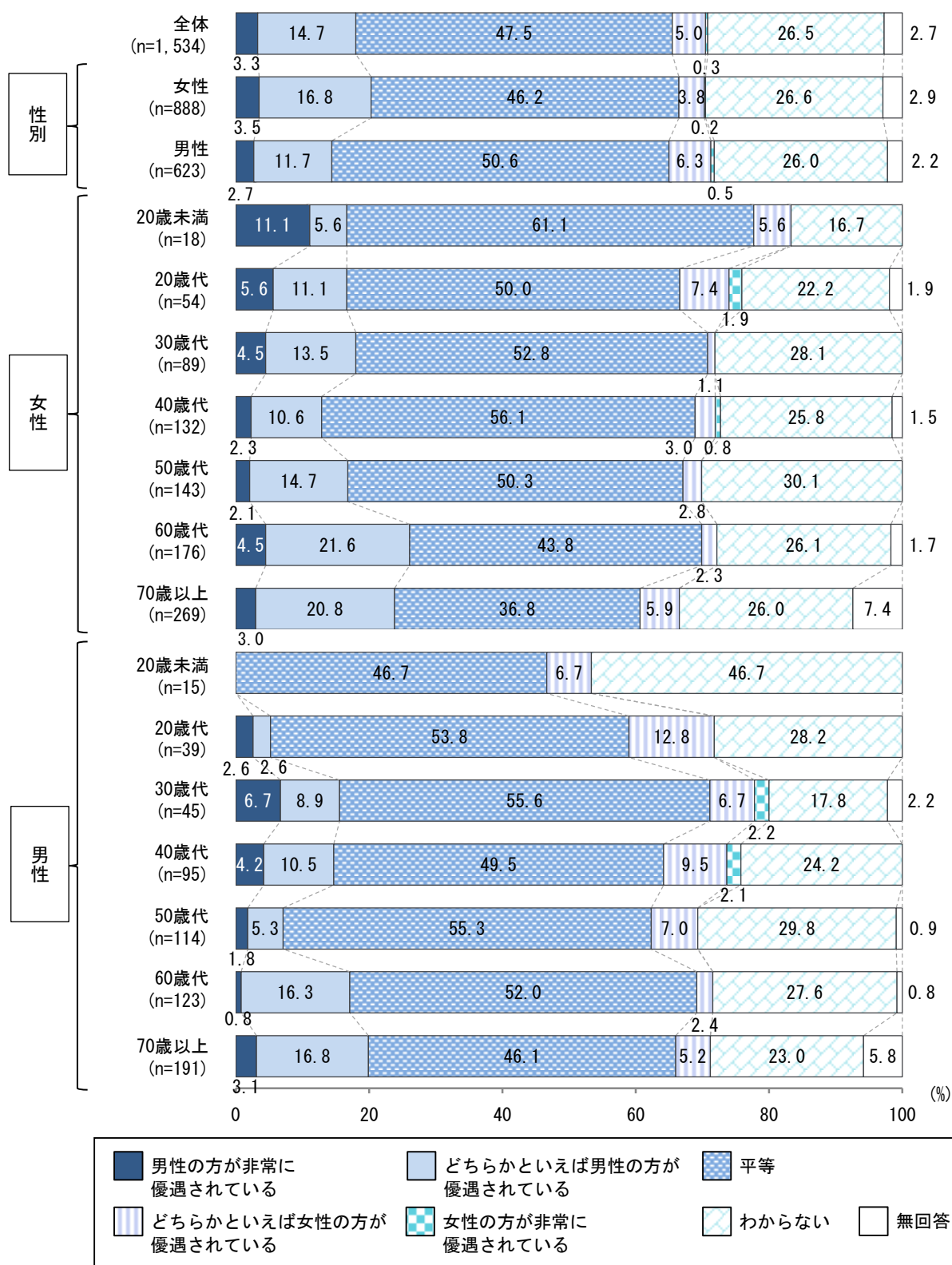
国調査と比較すると、「平等」は令和6年調査(23.9%)が国調査(40.3%)を 16.4 ポイント下回っている。

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

※図表5-3-3は過去の調査と同様に、男性の方が優遇されている計、女性の方が優遇されている計は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計と一致しない場合がある。

(d)学校教育の現場で

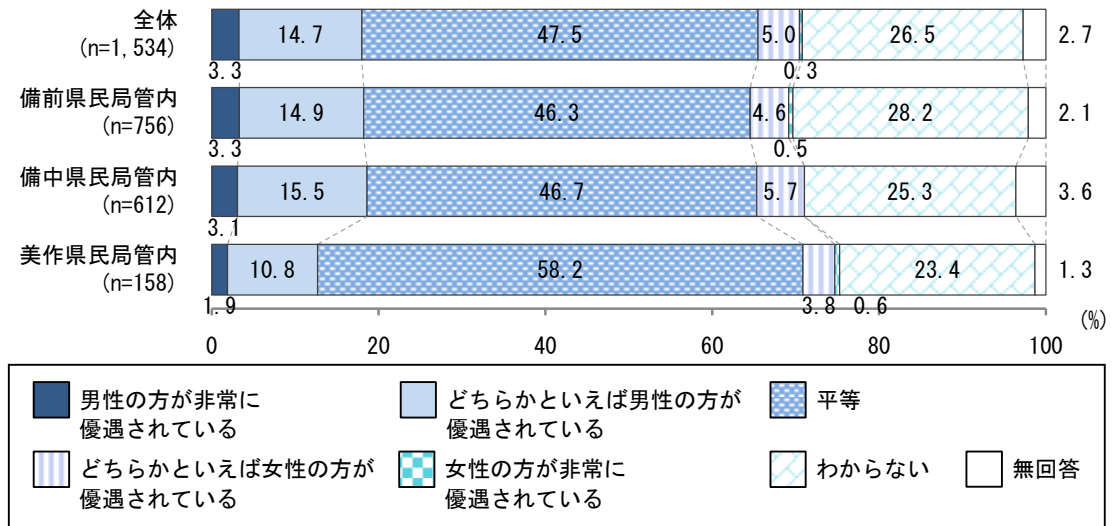
【図表5-4-1 学校教育の現場で(性別、性年代別)】



性別にみると、『男性が優遇』は女性(20.3%)が男性(14.4%)を 5.9 ポイント上回っている。

性年代別にみると、「平等」は女性は 40 歳代、男性は 30 歳代及び 50 歳代で 5 割台半ばと高くなっている。

【図表5-4-2 学校教育の現場で(地域別)】



地域別にみると、「平等」は美作県民局管内(58.2%)が最も高く、備前県民局管内(46.3%)と11.9ポイントの差がある。

【図表5-4-3 学校教育の現場で(経年比較・国調査との比較)】

(単位:%)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている計	女性の方が優遇されている計
H12	3.5	21.5	48.8	14.5	6.2	1.1	25.0	7.3
H16	3.9	16.4	48.5	18.1	7.6	1.6	20.3	9.2
H21	2.4	12.9	48.1	19.7	6.0	1.0	15.3	7.0
H26	2.7	17.7	47.8	20.6	7.1	0.5	20.4	7.6
R1	3.2	18.0	47.2	21.7	5.5	0.8	21.2	6.3
R6	3.3	14.7	47.5	26.5	5.0	0.3	17.9	5.3
国(R6)	2.4	19.5	70.4	-	5.6	0.4	21.9	6.1

経年比較でみると、大きな差はみられない。

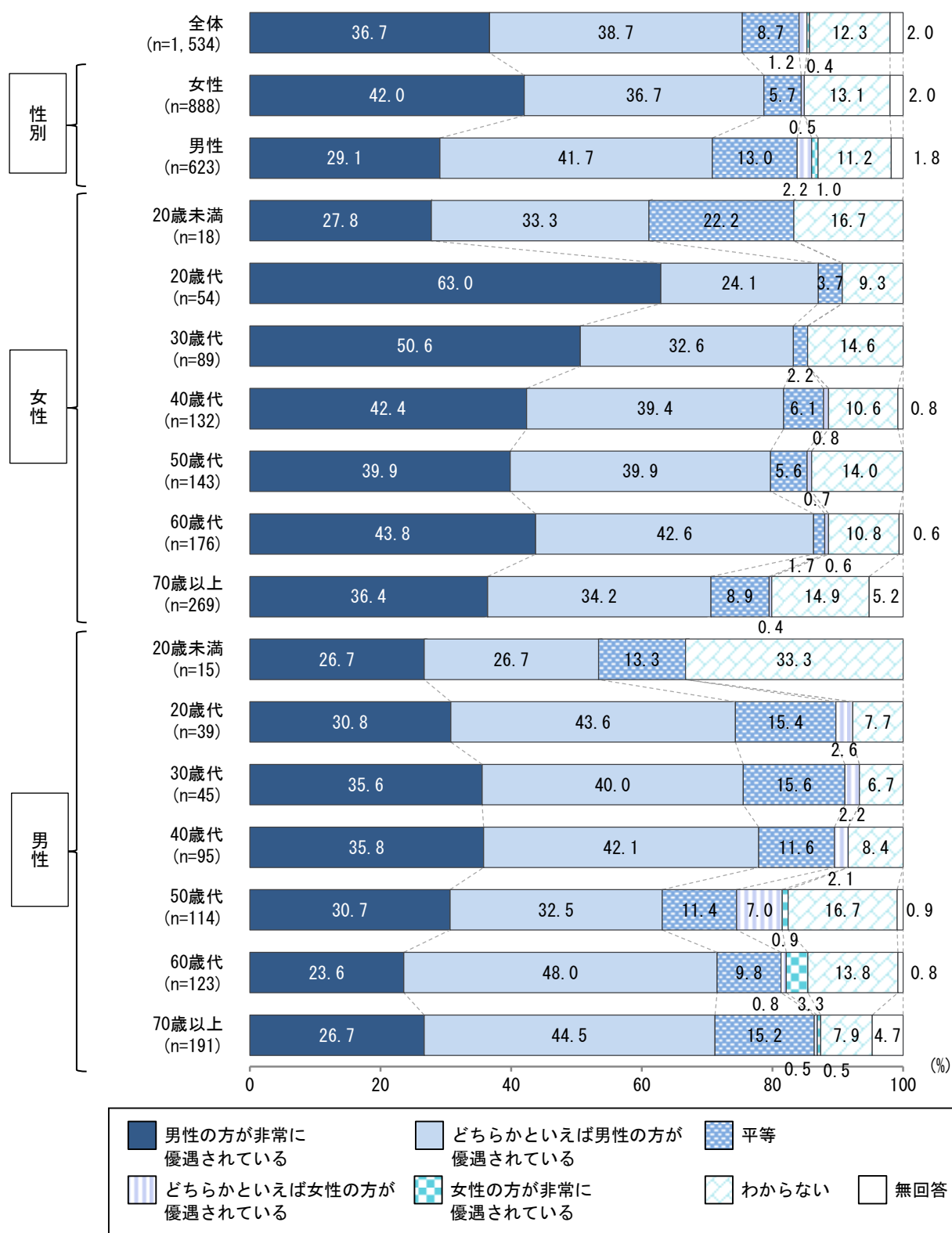
国調査と比較すると、「平等」は令和6年調査(47.5%)が国調査(70.4%)を22.9ポイント下回っている。

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

※図表5-4-3は過去の調査と同様に、男性の方が優遇されている計、女性の方が優遇されている計は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計と一致しない場合がある。

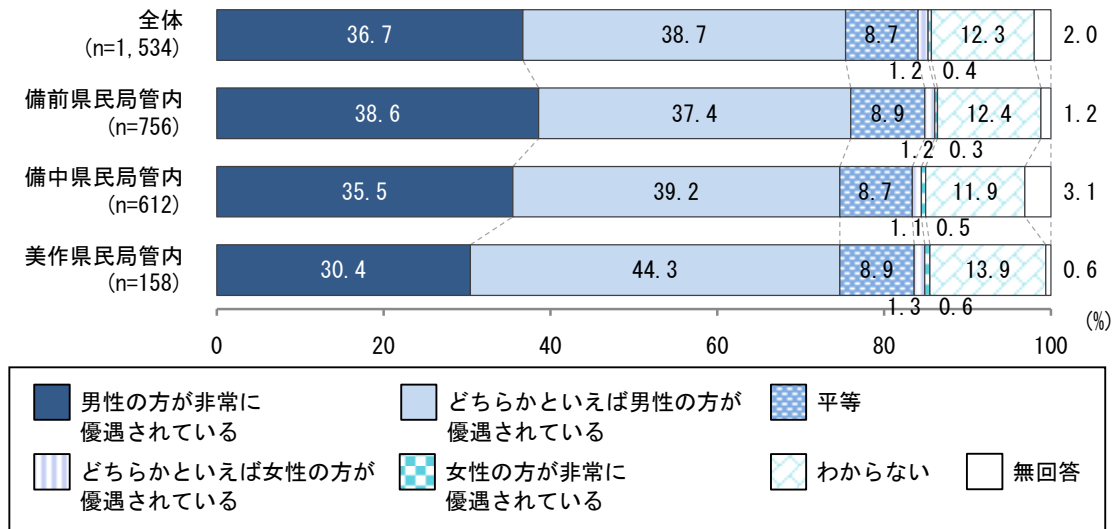
(e)政治の場で

【図表5-5-1 政治の場で(性別、性年代別)】



性別にみると、『男性が優遇』は女性(78.7%)が男性(70.8%)を 7.9 ポイント上回っている。
 性年代別にみると、『男性が優遇』は女性は 20 歳代で約9割、男性は40歳代で約8割と高くなっている。

【図表5-5-2 政治の場で(地域別)】



地域別にみると、『男性が優遇』はすべての地域で7割台半ばと高くなっている。

【図表5-5-3 政治の場で(経年比較・国調査との比較)】

(単位: %)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている計	女性の方が優遇されている計
H12	30.8	41.3	14.8	7.9	1.2	0.1	72.1	1.3
H16	32.1	42.8	10.9	10.0	1.0	0.1	74.9	1.1
H21	19.5	41.5	17.2	11.0	1.5	0.5	61.0	2.1
H26	30.4	42.1	12.2	10.5	1.6	0.3	72.5	1.9
R1	29.8	44.0	11.2	10.6	0.7	0.5	73.8	1.2
R6	36.7	38.7	8.7	12.3	1.2	0.4	75.4	1.6
国(R6)	44.1	43.8	9.4	-	1.9	0.3	87.9	2.1

経年比較でみると、大きな差はみられない。

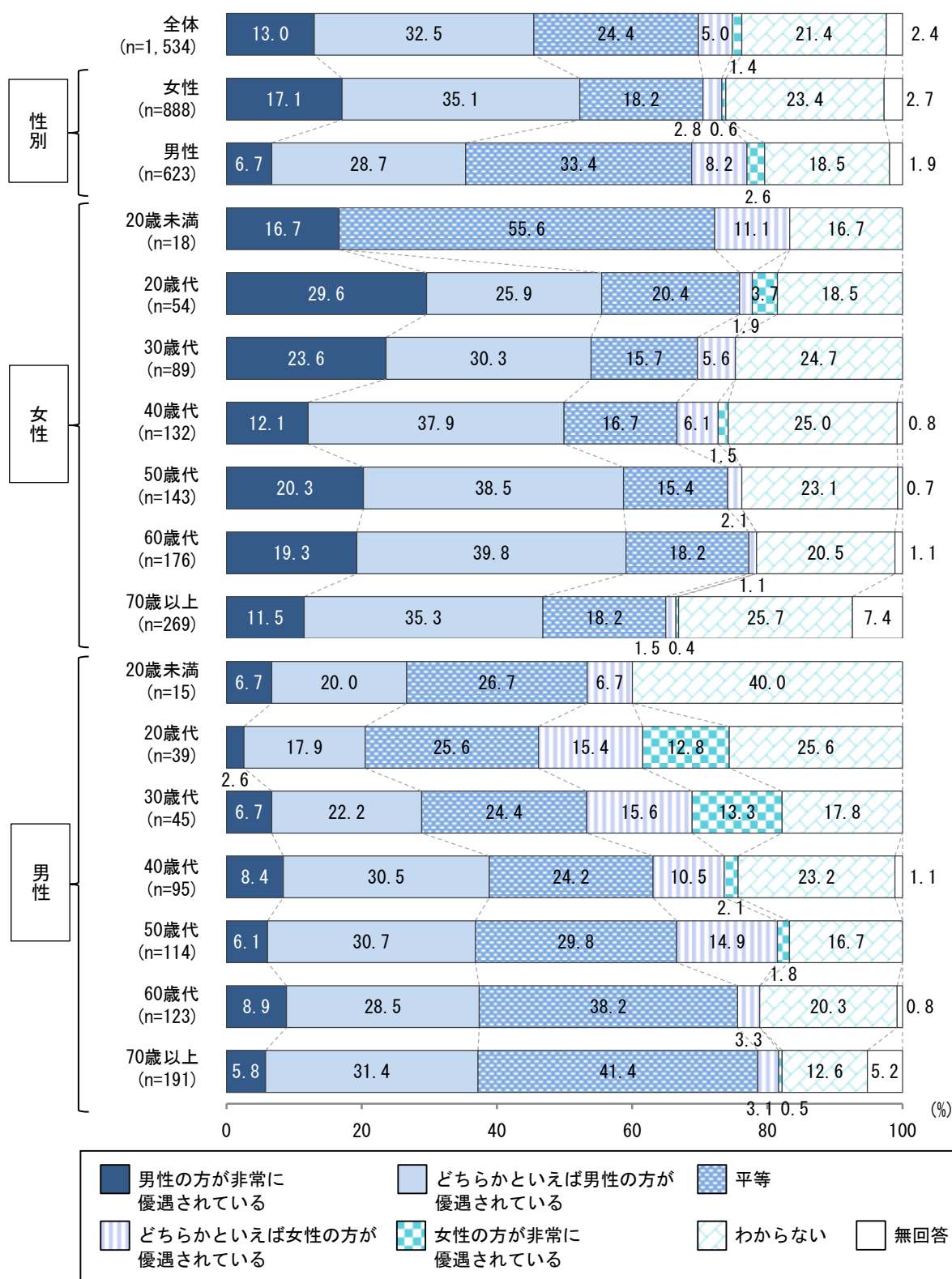
国調査と比較すると、『男性が優遇』は令和6年調査(75.4%)が国調査(87.9%)を12.5ポイント下回っている。

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

※図表5-5-3は過去の調査と同様に、男性の方が優遇されている計、女性の方が優遇されている計は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計と一致しない場合がある。

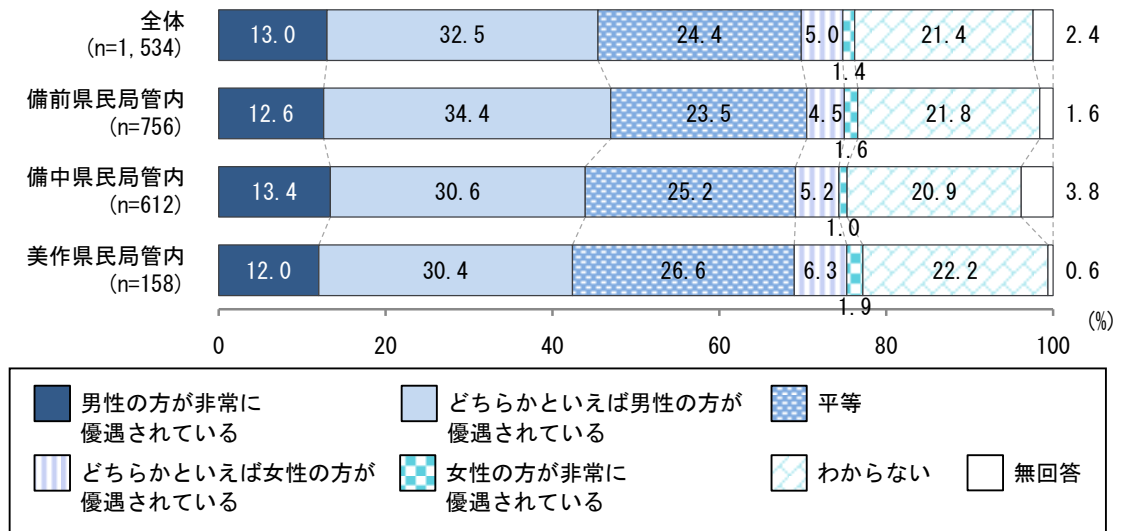
(f)法律や制度の上で

【図表5-6-1 法律や制度の上で(性別、性年代別)】



性別にみると、『男性が優遇』は女性(52.2%)が男性(35.4%)を 16.8 ポイント上回っている。
 性年代別にみると、『男性が優遇』は女性の 50 歳代～60 歳代で約6割と高くなっている。

【図表5-6-2 法律や制度の上で(地域別)】



地域別にみると、『男性が優遇』はすべての地域で4割超となっている。

【図表5-6-3 法律や制度の上で(経年比較・国調査との比較)】

(単位: %)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている計	女性の方が優遇されている計
H12	12.4	33.7	31.7	12.6	4.2	0.8	46.1	5.0
H16	14.0	33.7	26.8	16.3	5.3	0.8	47.7	6.1
H21	7.8	29.7	30.9	15.6	5.7	0.7	37.5	6.4
H26	10.8	29.4	30.8	18.1	5.6	0.9	40.1	6.4
R1	10.6	33.2	28.3	19.1	4.8	0.6	43.8	5.4
R6	13.0	32.5	24.4	21.4	5.0	1.4	45.5	6.3
国(R6)	11.4	38.9	38.2	-	8.9	1.9	50.4	10.8

経年比較でみると、『男性が優遇』の割合は平成 21 年調査から令和6年調査にかけて増加傾向にある。『女性が優遇』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。「平等」は平成 21 年調査から令和6年調査にかけて減少傾向にある。

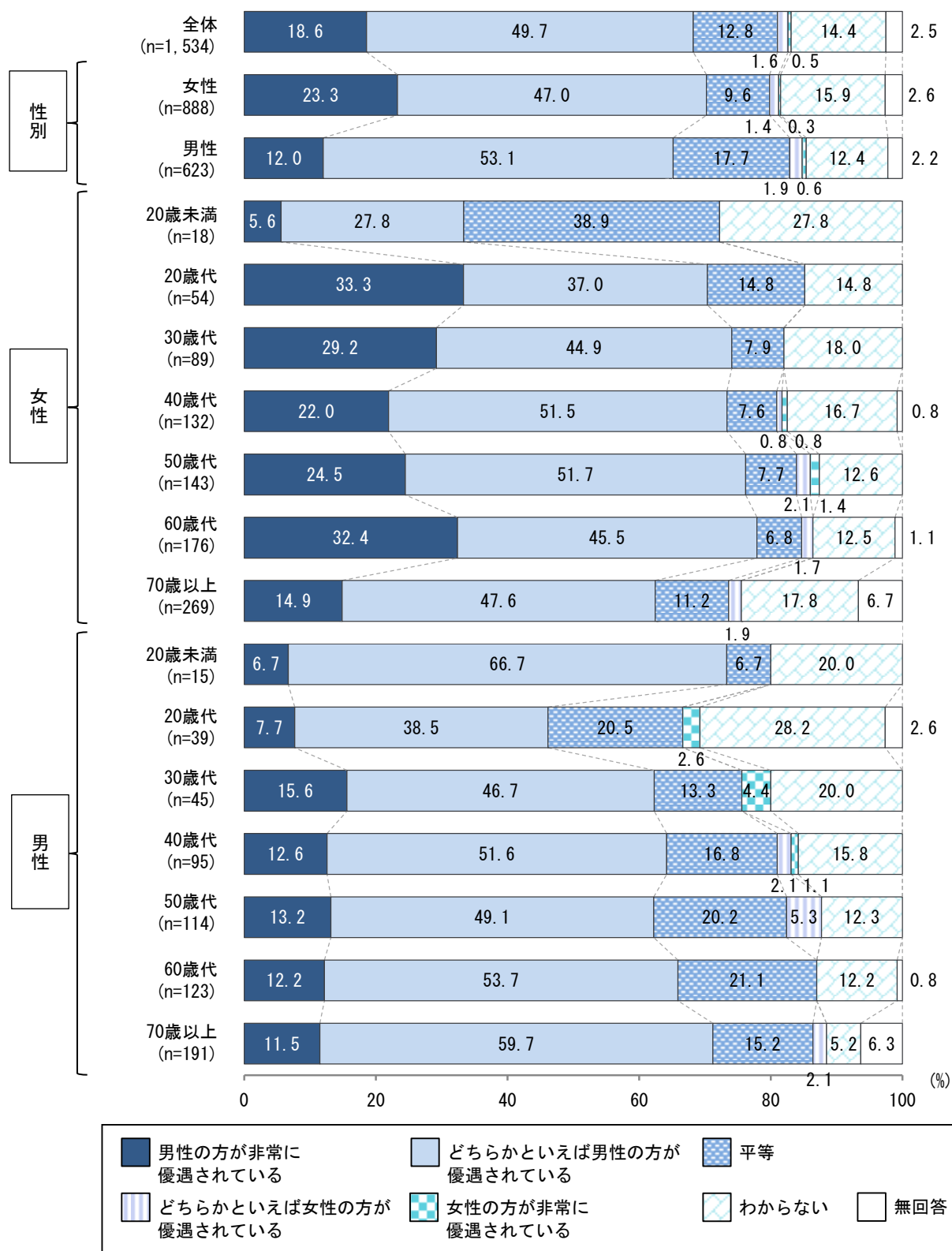
国調査と比較すると、「平等」は令和6年調査(24.4%)が国調査(38.2%)を 13.8 ポイント下回っている。

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

※図表5-6-3は過去の調査と同様に、男性の方が優遇されている計、女性の方が優遇されている計は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計と一致しない場合がある。

(g) 社会通念・慣習・しきたりなどで

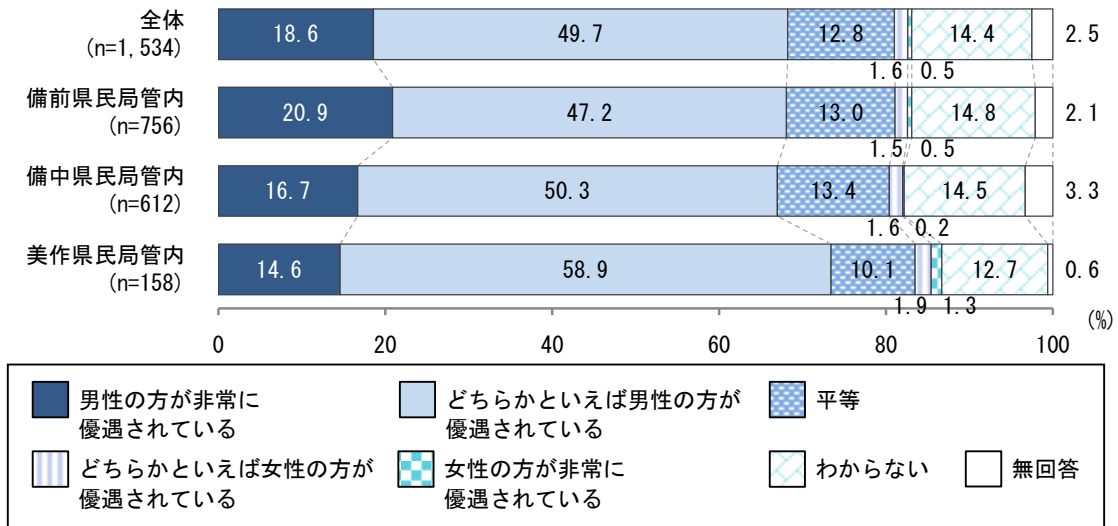
【図表5-7-1 社会通念・慣習・しきたりなどで(性別、性年代別)】



性別にみると、「平等」は男性(17.7%)が女性(9.6%)を 8.1 ポイント上回っている。

性年代別にみると、『男性が優遇』は女性は60歳代で約8割、男性は70歳以上で7割超と高くなっている。

【図表5-7-2 社会通念・慣習・しきたりなどで(地域別)】



地域別にみると、『男性が優遇』は美作県民局管内で7割台半ばと高くなっている。

【図表5-7-3 社会通念・慣習・しきたりなどで(経年比較・国調査との比較)】

(単位:%)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている計	女性の方が優遇されている計
H12	26.9	50.1	8.8	9.5	1.5	0.4	77.0	1.9
H16	24.7	53.0	7.6	9.0	2.0	0.3	77.7	2.3
H21	15.4	50.7	11.0	10.1	2.2	0.7	66.2	2.9
H26	18.6	54.7	10.4	9.7	2.2	0.1	73.3	2.3
R1	19.5	53.0	12.5	10.1	1.4	0.3	72.5	1.7
R6	18.6	49.7	12.8	14.4	1.6	0.5	68.3	2.0
国(R6)	21.2	57.0	16.3	-	3.4	0.5	78.2	3.9

経年比較でみると、大きな差はみられない。

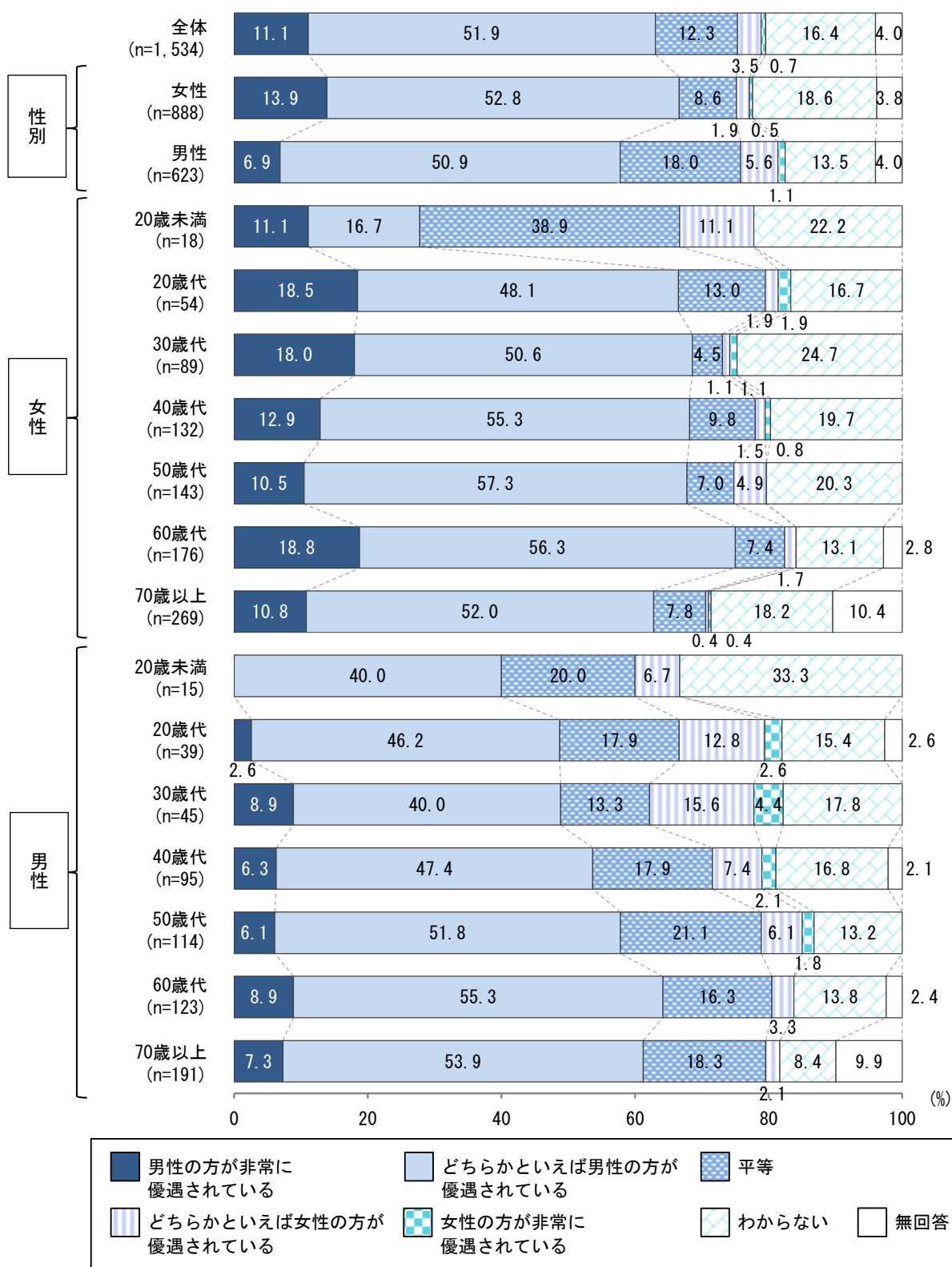
国調査と比較すると、『男性が優遇』は令和6年調査(68.3%)が国調査(78.2%)を 9.9 ポイント下回っている。

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

※図表5-7-3は過去の調査と同様に、男性の方が優遇されている計、女性の方が優遇されている計は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計と一致しない場合がある。

(h)社会全体でみた場合

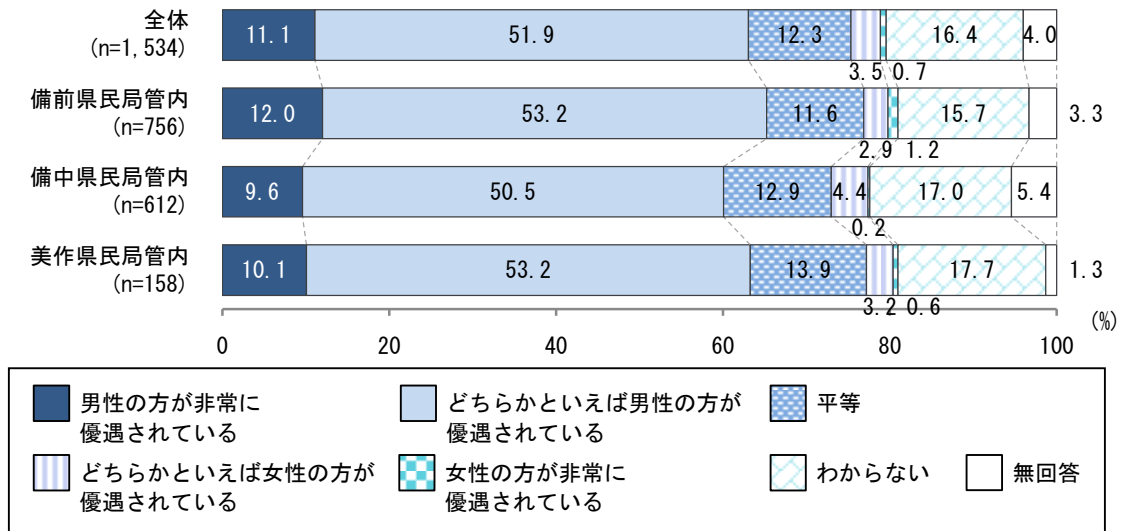
【図表5-8-1 社会全体でみた場合(性別、性年代別)】



性別にみると、「平等」は男性(18.0%)が女性(8.6%)を 9.4 ポイント上回っている。

性年代別にみると、『男性が優遇』は女性は 60 歳代で7割台半ば、男性は 60 歳代で6割台半ばと高くなっている。

【図表5-8-2 社会全体でみた場合(地域別)】



地域別にみると、『男性が優遇』はすべての地域で6割超となっている。

【図表5-8-3 社会全体でみた場合(経年比較・国調査との比較)】

(単位:%)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている計	女性の方が優遇されている計
H16	17.9	62.5	7.3	5.8	3.5	0.3	80.4	3.8
H21	6.8	56.4	11.7	8.7	3.4	0.5	63.2	3.9
H26	9.7	59.5	9.9	8.5	3.1	0.2	69.3	3.3
R1	9.7	58.1	14.4	11.4	2.2	0.3	67.8	2.5
R6	11.1	51.9	12.3	16.4	3.5	0.7	63.0	4.2
国(R6)	11.9	62.8	16.7	-	6.1	0.7	74.7	6.8

経年比較でみると、大きな差はみられない。

国調査と比較すると、『男性が優遇』は令和6年調査(63.0%)が国調査(74.7%)を 11.7 ポイント下回っている。

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

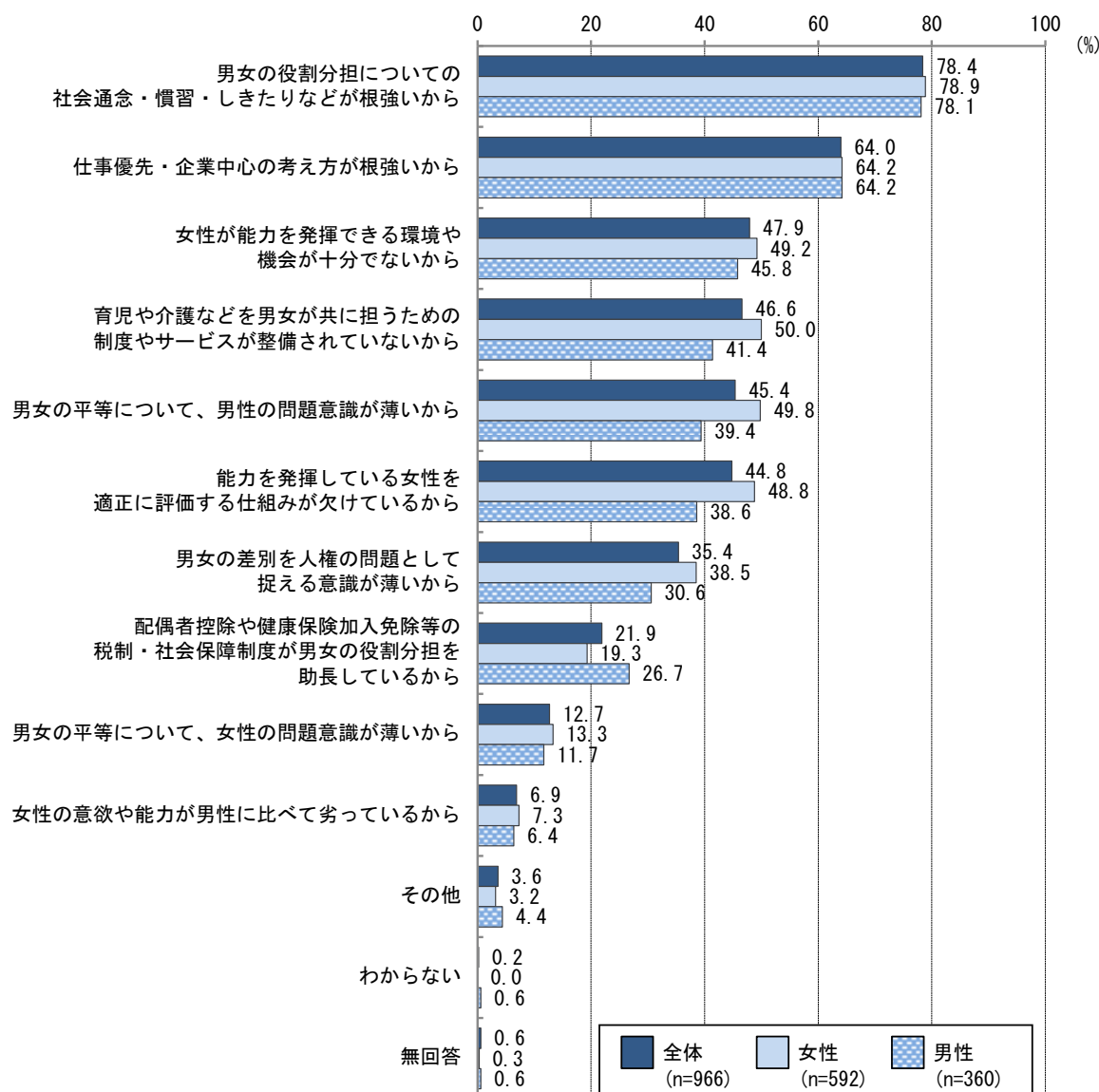
※図表5-8-3は過去の調査と同様に、男性の方が優遇されている計、女性の方が優遇されている計は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計と一致しない場合がある。

(2) 男性の方が優遇されていると思う原因

問5「(h)社会全体でみた場合」で、「1.男性の方が非常に優遇されている」または「2.どちらかといえば男性の方が優遇されている」を選択した方のみ

問6 社会全体でみて男性の方が優遇されている原因は何だとお考えですか。(✓はいくつでも)

【図表6-1 社会全体で男性の方が優遇されている原因(性別)】



「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」が最も高い

社会全体で男性の方が優遇されている原因について、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」が78.4%と最も高く、次いで「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」(64.0%)、「女性が能力を発揮できる環境や機会が十分でないから」(47.9%)などの順となっている。

性別にみると、「男女の平等について、男性の問題意識が薄いから」は女性(49.8%)が男性(39.4%)を10.4ポイント、「能力を発揮している女性を適正に評価する仕組みが欠けているから」は女性(48.8%)が男性(38.6%)を10.2ポイント上回っている。一方、「配偶者控除や健康保険加入免除等の税制・社会保障制度が男女の役割分担を助長しているから」は男性(26.7%)が女性(19.3%)を7.4ポイント上回っている。

【図表6-2 社会全体で男性の方が優遇されている原因(性年代別・上位 10 位)】

													(%)			
		n 数	念 女 の 役 割 分 担 し き た り な ど が 根 強 い 通 ら か	男 女 の 役 割 分 担 し き た り な ど が 根 強 い 通	強 い か ら ・ 企 業 中 心 の 考 え 方 が 根	仕 事 優 先 ・ 企 業 中 心 の 考 え 方 が 根	女 性 が 十 分 で な い か ら で き る 環 境 や 機	女 性 が 十 分 で な い か ら で き る 環 境 や 機	育 児 や 介 護 な ど を 男 女 が 共 に 担 う	意 識 が 薄 い か ら ・ 男 性 の 問 題	評 価 す る 仕 組 み が 欠 け て い る 適 正 に	男 女 の 差 別 を 人 権 の 問 題 と し て 捉	割 分 担 を 助 長 し て い る か ら ・ 男 女 の 役 等	配 偶 者 控 除 や 健 康 保 険 加 入 免 除 等	意 識 が 薄 い か ら ・ 女 性 の 問 題	劣 つ て い る か ら ・ 女 性 の 意 欲 や 能 力 が 男 性 に 比 べ て
全 体		966	78.4	64.0	47.9	46.6	45.4	44.8	35.4	21.9	12.7	6.9				
年 代 別	女 性	20歳未満	5	60.0	60.0	20.0	40.0	40.0	100.0	40.0	-	20.0	-			
		20歳代	36	66.7	50.0	30.6	52.8	38.9	41.7	30.6	16.7	2.8	2.8			
		30歳代	61	70.5	65.6	39.3	47.5	49.2	39.3	36.1	13.1	9.8	1.6			
		40歳代	90	76.7	67.8	51.1	52.2	50.0	51.1	31.1	20.0	7.8	5.6			
		50歳代	97	83.5	62.9	44.3	50.5	59.8	54.6	37.1	22.7	18.6	9.3			
		60歳代	132	79.5	66.7	55.3	48.5	53.0	53.0	47.7	19.7	13.6	6.1			
		70歳以上	169	83.4	63.9	55.0	50.9	44.4	45.0	39.1	19.5	16.6	10.7			
	男 性	20歳未満	6	83.3	66.7	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3	33.3	-	-			
		20歳代	19	73.7	63.2	36.8	31.6	31.6	21.1	26.3	21.1	5.3	5.3			
		30歳代	22	50.0	45.5	36.4	40.9	27.3	27.3	18.2	31.8	9.1	-			
		40歳代	51	64.7	60.8	43.1	47.1	37.3	39.2	29.4	23.5	11.8	11.8			
		50歳代	66	75.8	72.7	40.9	37.9	45.5	33.3	27.3	21.2	13.6	9.1			
		60歳代	79	84.8	69.6	54.4	53.2	41.8	43.0	30.4	29.1	16.5	2.5			
		70歳以上	117	86.3	60.7	48.7	35.9	39.3	44.4	35.9	29.1	9.4	6.8			
													1位	2位	3位	

性年代別にみると、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」は女性は 50 歳代及び 70 歳以上、男性は 60 歳代～70 歳以上で8割台半ば、「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」は男性の 50 歳代で7割超と高くなっている。

【図表6-3 社会全体で男性の方が優遇されている原因(地域別・上位 10 位)】

												(%)	
		n 数	劣女性 の意欲 や能力 が男性 に比べて	男女の 平等に ついて、 女性の 問題	意識が 薄いから	配偶者 控除や 健康保 険加入 免除等 の税制・ 社会保 障制度 が男女 の役等	男女の 差別を 人権の 問題と して捉 える意 識が薄 いから	能力を 発揮し ている 女性を 適正に 評価す る仕組 みが欠 けてい るから	男女の 平等に ついて、 男性の 問題 意識が 薄いから	育児や 介護な どを男 女が共 に担う ための 制度や サービ スが整 備され ないか ら	女性が 十分に 能力を 発揮で きる環 境や機 会が十 分でない から	仕事優 先・企 業中心 の考え 方が根 強いから	男女の 役割分 担につ いての 社会通 念・慣 習・し きたり などが 根強い 通
全 体		966	6.9	12.7	21.9	35.4	44.8	45.4	46.6	47.9	64.0	78.4	96.6
地域別 居住	備前県民局管内	493	5.9	14.6	22.7	33.1	45.0	47.7	45.8	48.1	64.7	78.3	49.3
	備中県民局管内	368	9.0	12.0	20.4	38.3	45.1	41.0	48.9	49.5	64.7	77.7	36.8
	美作県民局管内	100	5.0	7.0	23.0	35.0	41.0	50.0	41.0	41.0	57.0	80.0	10.0

1位 2位 3位

地域別にみると、「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」は備前県民局管内、備中県民局管内で6割台半ば、「男女の平等について、男性の問題意識が薄いから」は美作県民局管内で5割と高くなっている。

【図表6-4 社会全体で男性の方が優遇されている原因(経年比較・上位 10 位)】

			(%)									
		n 数	劣女性の意欲や能力が男性に比べて	男女の平等について、女性の問題意識が薄いから	配偶者控除や健康保険加入免除等の税制・社会保障制度が男女の役割分担を助長しているから	男女の差別を人権の問題として捉える意識が薄いから	能力を発揮している女性を適正に評価する仕組みが欠けているから	男女の平等について、男性の問題意識が薄いから	育児や介護などを男女が共に担うための制度やサービスが整備されていないから	女性が能力を発揮できる環境や機会が十分でないから	仕事優先・企業中心の考え方が根強いから	男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強い
経年比較	H16	1,659	12.5	12.2	12.3	23.6	37.8	33.1	41.9	44.2	56.5	74.4
	H21	953	11.6	10.4	14.8	23.1	42.1	32.0	47.1	45.0	62.9	76.9
	H26	959	9.8	9.0	15.4	23.4	37.7	35.0	46.6	47.3	59.5	75.7
	R1	1,038	8.5	10.1	14.9	27.1	40.3	35.7	44.7	44.2	60.0	76.9
	R6	966	6.9	12.7	21.9	35.4	44.8	45.4	46.6	47.9	64.0	78.4

1位 2位 3位

経年比較でみると、平成 16 年調査以降、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」が1位、「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」が2位となっている。「男女の平等について、男性の問題意識が薄いから」は令和6年調査(45.4%)が令和元年調査(35.7%)を 9.7 ポイント上回っている。

※「配偶者控除や健康保険加入免除等の税制・社会保障制度が男女の役割分担を助長しているから」との選択肢は、H16 では「専業主婦に有利な税制や社会保障制度などが男女の役割分担を助長しているから」となっている。

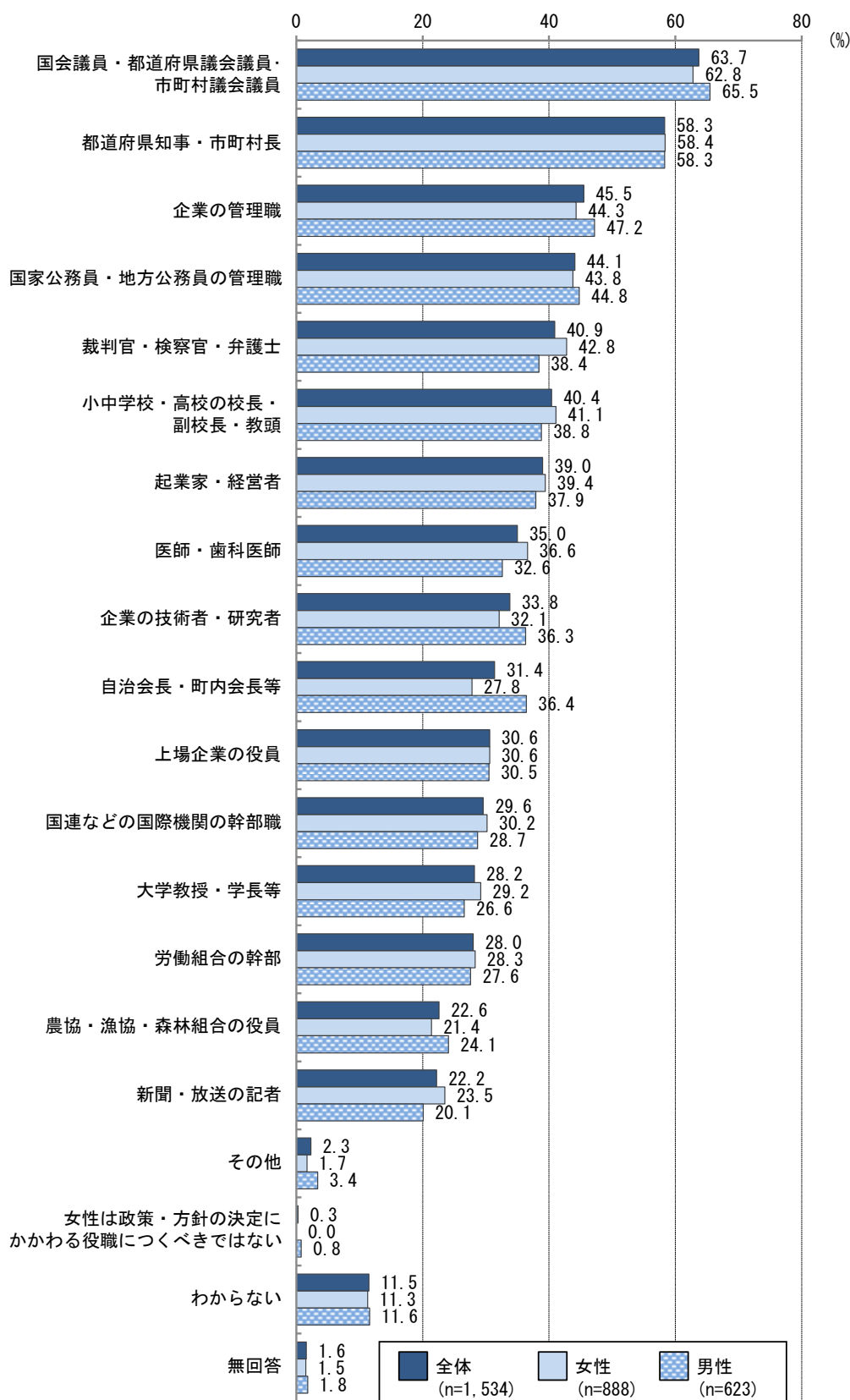
※H21 のみ無回答を除いて算出された数値を使用。

3 男女の社会参画について

(1) 今後女性がもっと増える方がよいと思う役職

問7 次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増える方がよいとあなたが思うものをすべてお答えください。(✓はいくつでも)

【図表7-1 今後女性がもっと増える方がよいと思う役職(性別)】



女性が増える方がよいと思う役職は「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が最も高い

今後女性が増える方がよいと思う役職について、「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が 63.7%と最も高く、次いで「都道府県知事・市町村長」(58.3%)、「企業の管理職」(45.5%)などの順となっている。

性別にみると、「自治会長・町内会長等」は男性(36.4%)が女性(27.8%)を 8.6 ポイント上回っている。

【図表7-2 今後女性が増える方がよいと思う役職(経年比較・上位 10 位)】

		n 数	国会議員・ 市町村議会議員	都道府県知事・ 市町村長	企業の 管理職	国家公務員・ 地方公務員	裁判官・ 検察官・ 弁護士	小中学校・ 高校の校長・ 副校長	企業の技術者・ 研究者	上場企業の 役員	国連などの 国際機関の 幹部職	大学教授・ 学長等
経年比較	H16	2,064	50.6	37.8	37.6	35.0	34.5				22.6	18.1
	H21	1,490	49.9	40.7	39.5	36.5	36.7				24.4	20.7
	H26	1,386	50.0	44.0	43.0	40.5	33.4				25.4	21.8
	R1	1,532	50.8	44.8	38.0	37.7	29.2	29.5	25.3		20.9	17.0
	R6	1,534	63.7	58.3	45.5	44.1	40.9	40.4	33.8	30.6	29.6	28.2

1位 2位 3位

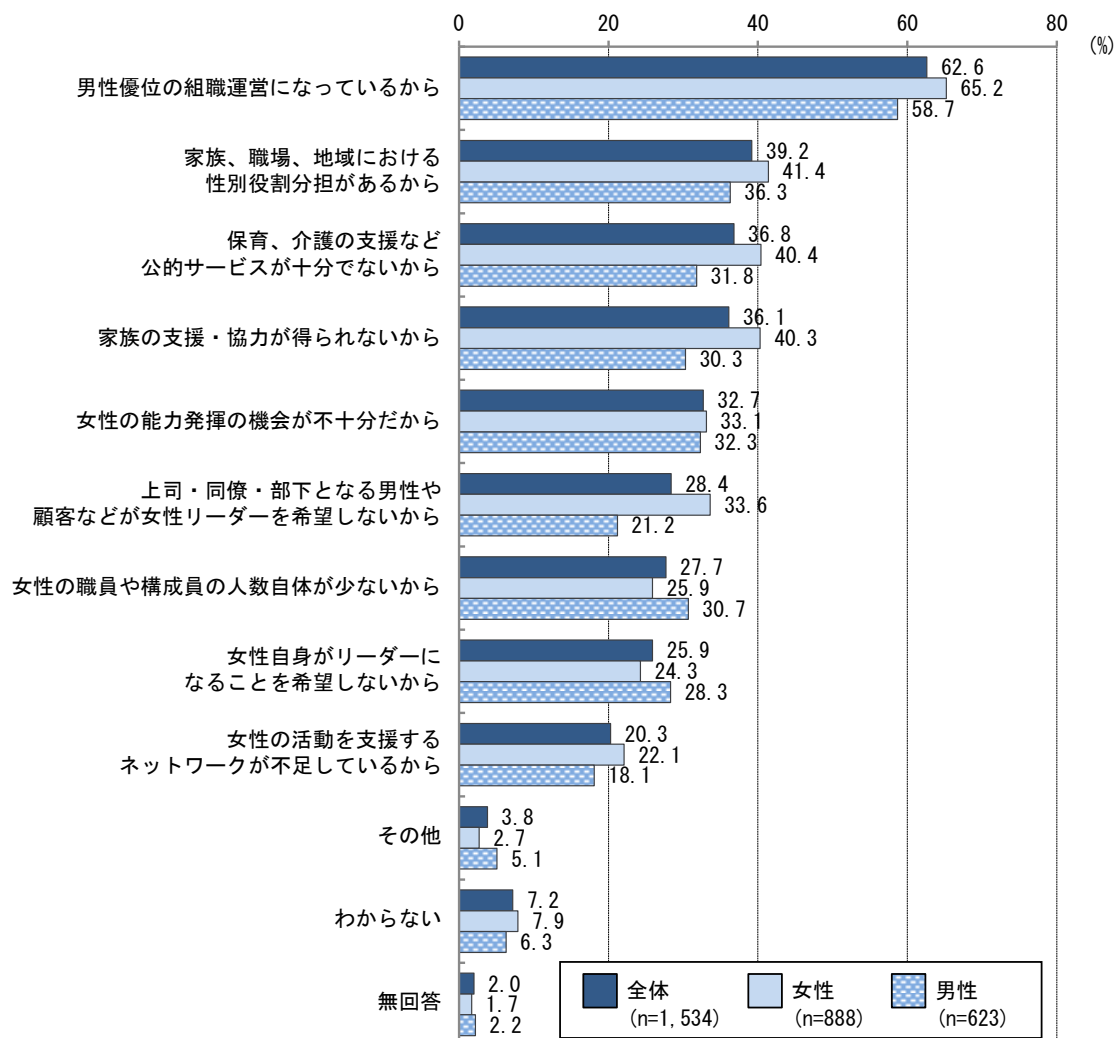
経年比較でみると、「都道府県知事・市町村長」は令和6年調査(58.3%)が令和元年調査(44.8%)を 13.5 ポイント、「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」は令和6年調査(63.7%)が令和元年調査(50.8%)を 12.9 ポイント上回っている。

※「都道府県知事・市町村長」は、H16 調査では「都道府県・市町村の首長」となっている。「国連などの国際機関の幹部職」は、H16、H21、H26、R1 調査では「国連などの国際機関の管理職」となっている。「大学教授・学長等」は、H16、H21、H26、R1 調査では「大学教授」となっている。

(2) 政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由

問8 あなたは、問7にあげたような政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由は何だとお考えですか。(✓はいくつでも)

【図表8-1 政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由(性別)】



「男性優位の組織運営になっているから」が最も高い

政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由について、「男性優位の組織運営になっているから」が62.6%と最も高く、次いで「家族、職場、地域における性別役割分担があるから」(39.2%)、「保育、介護の支援など公的サービスが十分でないから」(36.8%)などの順となっている。

性別にみると、「上司・同僚・部下となる男性や顧客などが女性リーダーを希望しないから」は女性(33.6%)が男性(21.2%)を12.4ポイント上回っている。

※H16 調査では、「あなたは、地方自治体など行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由はなんだと思いますか。」と聞いている。

【図表8-2 政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由(性年代別・上位9位)】

		n数	(%)								
			男性優位の組織運営になっているから	性別役割分担、職場、地域におけるから	サービス、介護の支援など公的	家族の支援・協力が得られないから	女性の能力発揮の機会が不十分だから	上司・同僚・部下となる男性を顧客など女性リ	女性の職員や構成員の人数が少ないから	女性自身がリーダーになることを希望しないから	女性の活動が不足しているから
全 体		1,534	62.6	39.2	36.8	36.1	32.7	28.4	27.7	25.9	20.3
年 代 別	女 性	20歳未満	18	61.1	44.4	33.3	16.7	22.2	16.7	16.7	16.7
		20歳代	54	61.1	44.4	38.9	31.5	40.7	40.7	27.8	24.1
		30歳代	89	68.5	46.1	36.0	43.8	29.2	36.0	31.5	23.6
		40歳代	132	67.4	49.2	40.2	49.2	34.8	32.6	20.5	27.3
		50歳代	143	65.0	43.4	42.0	43.4	29.4	37.1	23.8	30.8
		60歳代	176	77.3	41.5	44.9	47.2	36.4	43.8	29.5	22.7
		70歳以上	269	57.6	34.2	39.0	32.0	34.6	24.9	22.3	20.4
	男 性	20歳未満	15	40.0	13.3	-	13.3	20.0	-	33.3	13.3
		20歳代	39	48.7	51.3	30.8	30.8	28.2	23.1	33.3	12.8
		30歳代	45	53.3	37.8	20.0	24.4	17.8	20.0	35.6	28.9
		40歳代	95	62.1	31.6	33.7	32.6	26.3	21.1	29.5	24.2
		50歳代	114	55.3	28.9	28.1	30.7	33.3	18.4	30.7	29.8
		60歳代	123	59.3	39.8	34.1	34.1	34.1	24.4	27.6	31.7
		70歳以上	191	63.9	39.3	36.6	28.8	38.7	22.5	31.4	27.2

1位 2位 3位

性年代別にみると、「男性優位の組織運営になっているから」は女性の60歳代で約8割、「家族、職場、地域における性別役割分担があるから」は男性の20歳代で5割超と高くなっている。

【図表8-3 政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由(地域別・上位9位)】

		n数	(%)								
			男性優位の組織運営になっているから	性別役割分担、職場、地域におけるから	サービス、介護の支援など公的	家族の支援・協力が得られないから	女性の能力発揮の機会が不十分だから	上司・同僚・部下となる男性を顧客など女性リ	女性の職員や構成員の人数が少ないから	女性自身がリーダーになることを希望しないから	女性の活動が不足しているから
全 体		1,534	62.6	39.2	36.8	36.1	32.7	28.4	27.7	25.9	20.3
地 域 別	備前県民局管内	756	63.9	38.4	38.2	36.0	32.5	29.9	28.7	25.8	20.8
	備中県民局管内	612	60.5	38.2	37.1	35.8	33.3	27.6	27.9	26.1	19.8
	美作県民局管内	158	63.9	46.2	27.8	39.2	29.7	21.5	22.8	25.9	20.3

1位 2位 3位

地域別にみると、すべての地域で「男性優位の組織運営になっているから」が最も高く、次いで「家族、職場、地域における性別役割分担があるから」の順となっている。「保育、介護の支援など公的サービスが十分でないから」は備前県民局管内、備中県民局管内で約4割、「家族、職場、地域における性別役割分担があるから」は美作県民局管内で4割台半ばと高くなっている。

【図表8-4 政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由(経年比較・上位9位)】

		n数	(%)								
			男性優位の組織運営になっ	性別役割分担、職場、地域における	保育、介護の支援など公的サービスが十分でないから	家族の支援・協力が得られないから	女性の能力発揮の機会が不十分だから	上司・同僚・部下となる男性や顧客などが女性リーダーを希望しないから	女性の職員や構成員の人数自体が少ないから	女性自身がリーダーになることを希望しないから	女性の活動を支援しているネットワークが不足しているから
経年比較	H16	2,064	56.4	38.7		35.6	35.0				25.3
	H21	1,490	55.1	39.1		37.4	30.0		24.9		22.8
	H26	1,386	59.3	38.9		33.2	30.7		25.6		19.5
	R1	1,532	59.5	34.9	39.4	33.4	30.2		22.8		20.0
	R6	1,534	62.6	39.2	36.8	36.1	32.7	28.4	27.7	25.9	20.3

1位
 2位
 3位

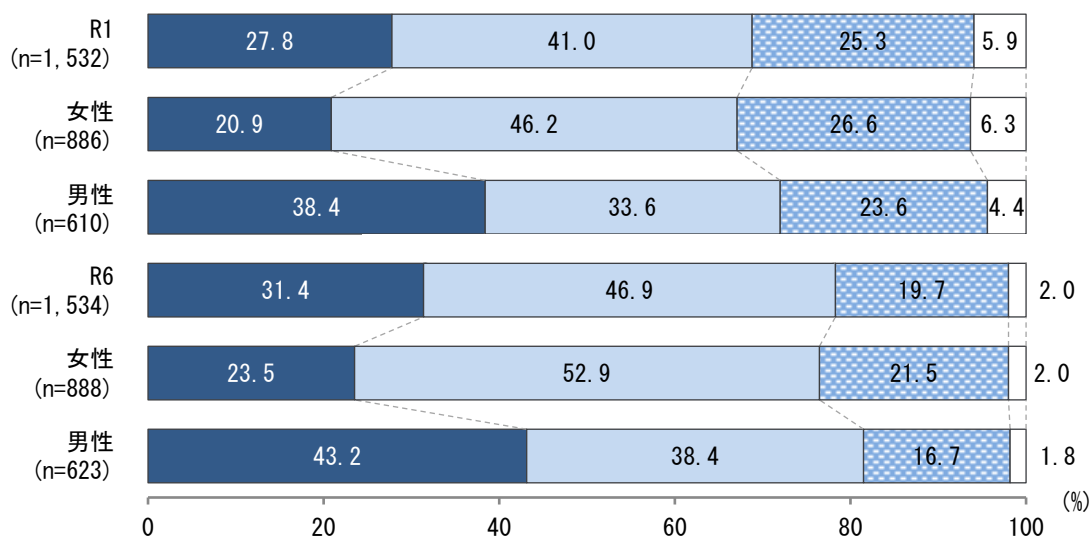
経年比較でみると、大きな差はみられない。

(3) 役職への就任や公職への立候補の依頼に対する考え方

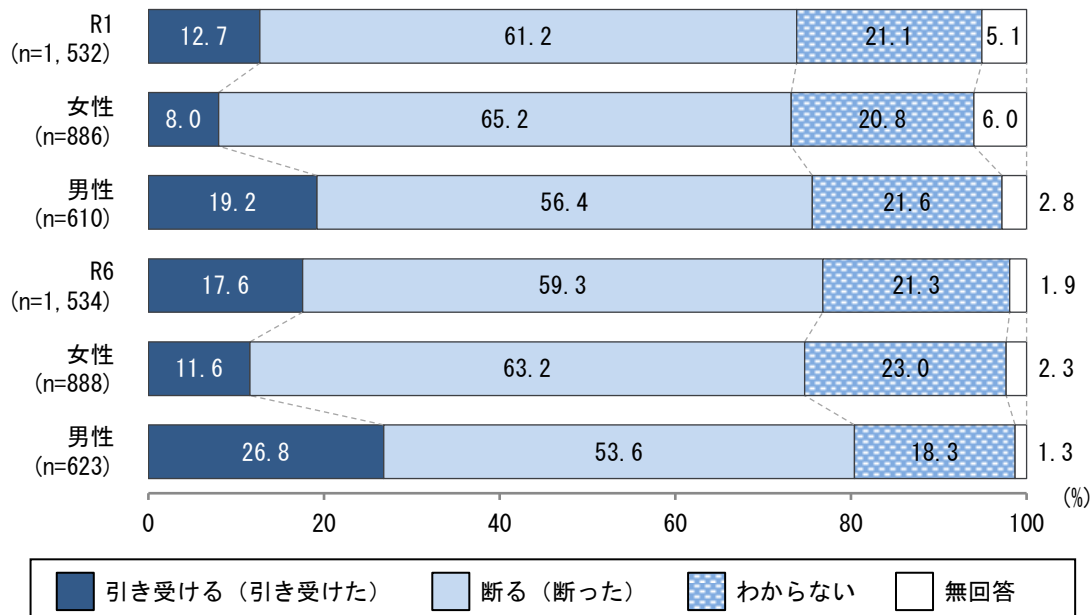
問9 あなたは、仮に次の役職への就任や公職への立候補を依頼されたらどうしますか(どうしましたか)。(a)～(c)でそれぞれ1つだけ✓

【図表9-1 役職への就任や公職への立候補の依頼に対する考え方】

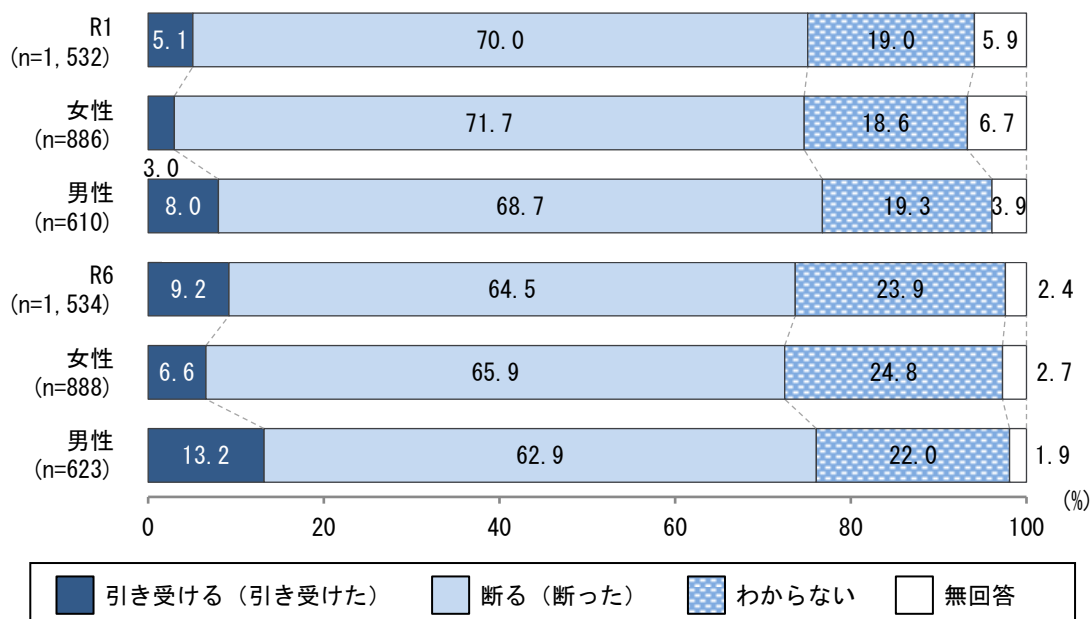
(a)職場の管理職や役員



(b)自治会長、町内会長



(c) 知事・市町村長や県・市町村議会の議員



「職場の管理職や役員」は3割が「引き受ける (引き受けた)」が、「自治会長、町内会長」、「知事・市町村長や県・市町村議会の議員」は約6割が「断る (断った)」

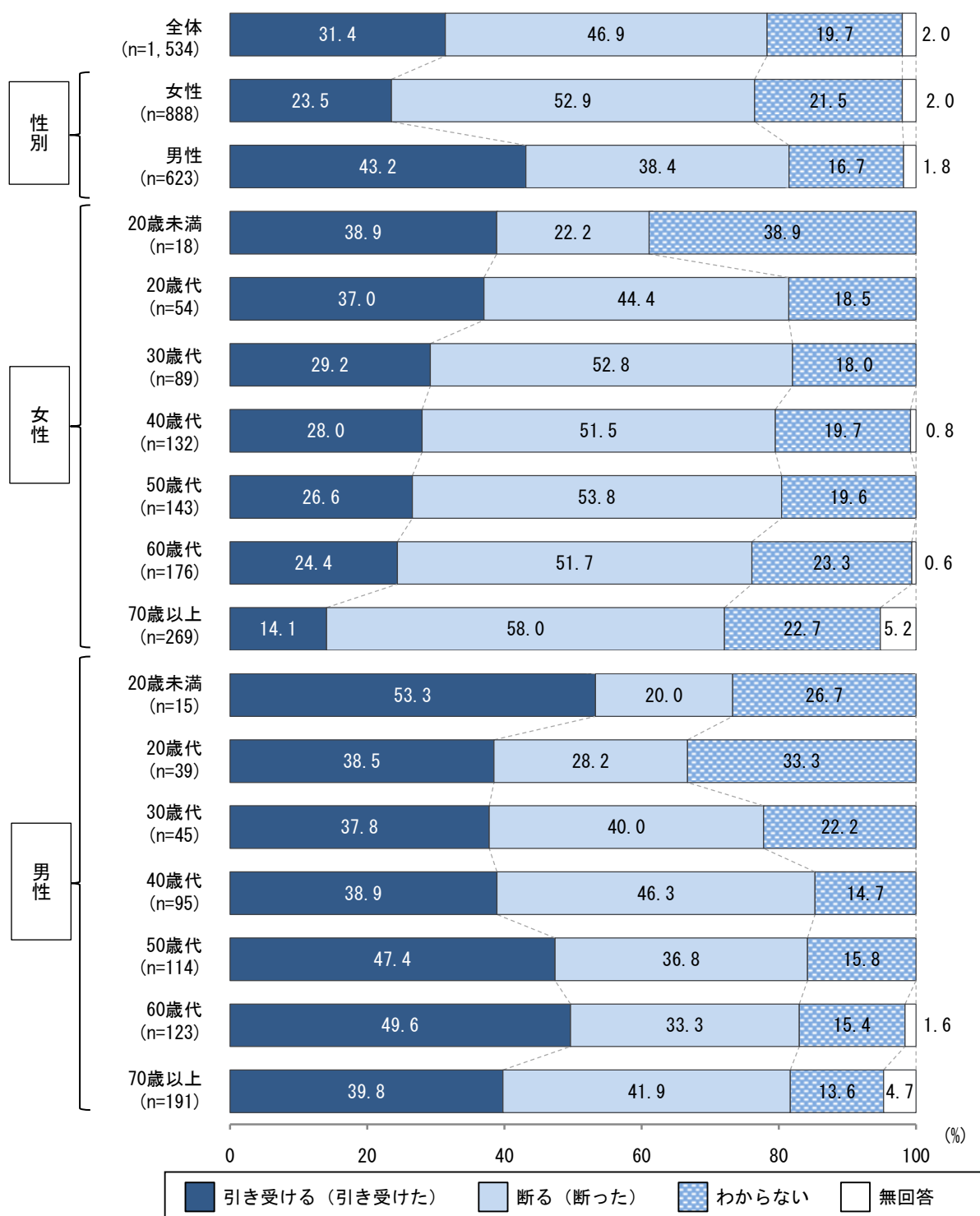
役職への就任や公職への立候補の依頼に対する考え方について、すべての役職において依頼を「断る (断った)」が最も高くなっている。また、「職場の管理職や役員」については、「引き受ける (引き受けた)」が 31.4% となっているが、「自治会長、町内会長」では 17.6%、「知事・市町村長や県・市町村議会の議員」では 9.2% と低くなっている。

経年比較でみると、すべての役職において依頼を「引き受ける (引き受けた)」は増加傾向にある。また、男女ともにどの項目も「引き受ける (引き受けた)」との割合は令和元年調査と比べて増加しており、「自治会長、町内会長」で「引き受ける (引き受けた)」と回答した男性では、令和6年調査(26.8%)が令和元年調査(19.2%)を 7.6 ポイント上回っている。

※R1調査では「あなたは、仮に次の役職への就任や公職への立候補を依頼されたらどうしますか。」と聞いている。また、「引き受ける (引き受けた)」は「引き受ける」、「断る (断った)」は「断る」となっている。

(a)職場の管理職や役員への就任の依頼に対する考え方

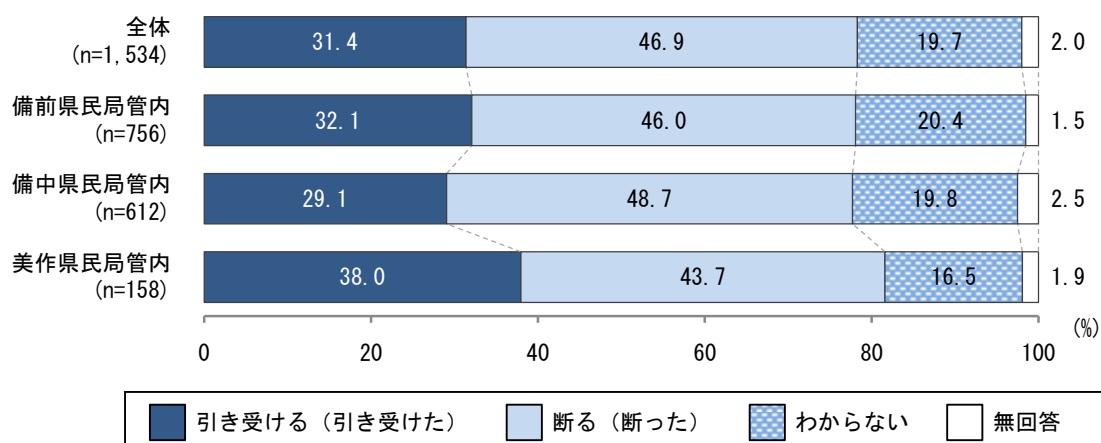
【図表9-1-1 職場の管理職や役員への就任の依頼に対する考え方(性別、性年代別)】



性別にみると、「引き受ける(引き受けた)」は男性(43.2%)が女性(23.5%)を 19.7 ポイント上回っている。

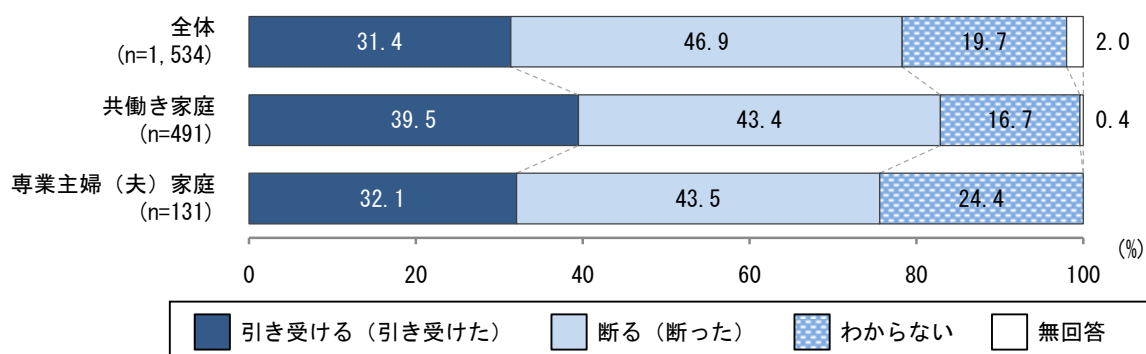
性年代別にみると、女性は年代が上がるにつれて「引き受ける(引き受けた)」の割合が低くなる傾向がみられ、男性は 50 歳代及び 60 歳代で約5割と高くなっている。

【図表9-1-2 職場の管理職や役員への就任の依頼に対する考え方(地域別)】



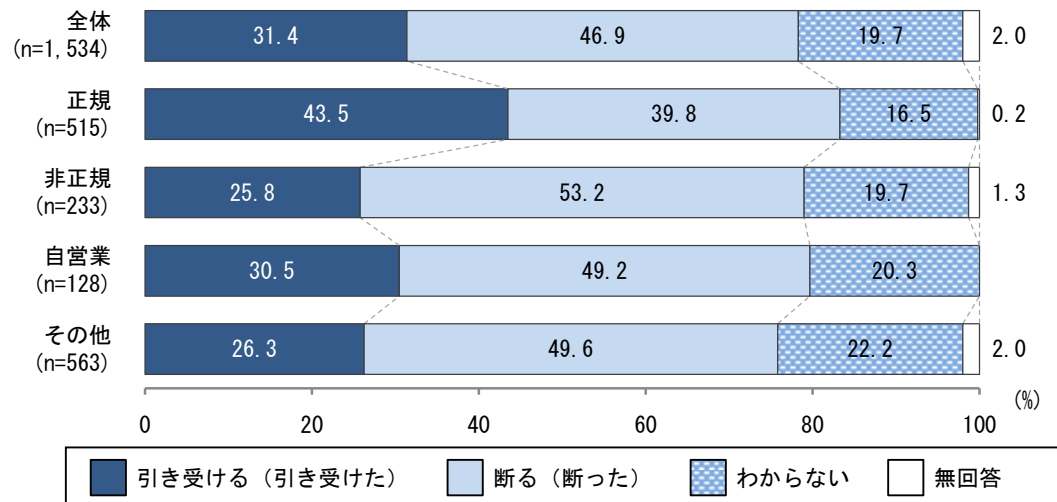
地域別にみると、「引き受ける(引き受けた)」は美作県民局管内(38.0%)が最も高く、備中県民局管内(29.1%)が最も低くなっており、8.9ポイントの差がある。

【図表9-1-3 職場の管理職や役員への就任の依頼に対する考え方(就労状況別)】



就労状況別にみると、「引き受ける(引き受けた)」は共働き家庭(39.5%)が専業主婦(夫)家庭(32.1%)を7.4ポイント上回っている。

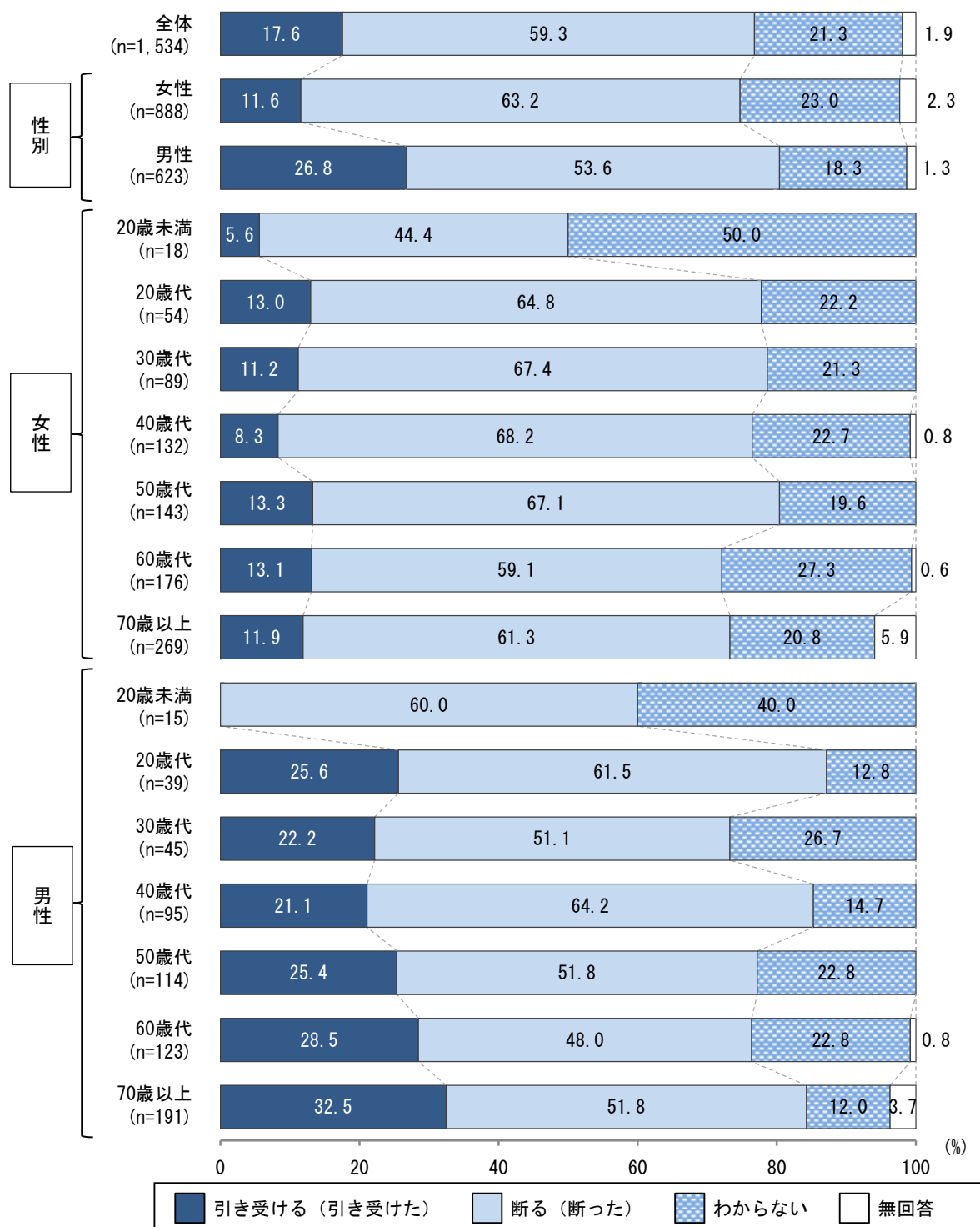
【図表9-1-4 職場の管理職や役員への就任の依頼に対する考え方(職業別)】



職業別でみると、「引き受ける(引き受けた)」は正規で4割台半ば、「断る(断った)」は非正規で5割台半ばと高くなっている。

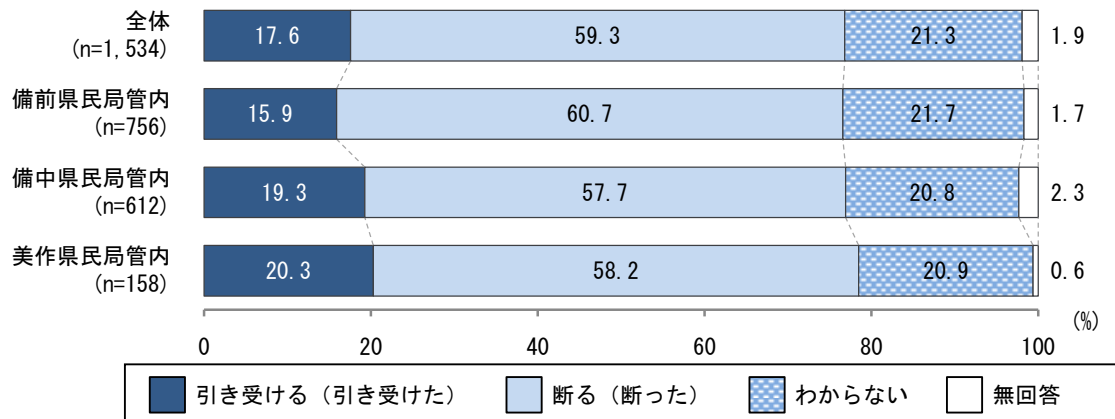
(b)自治会長、町内会長への就任の依頼に対する考え方

【図表9-2-1 自治会長、町内会長への就任の依頼に対する考え方(性別、性年代別)】



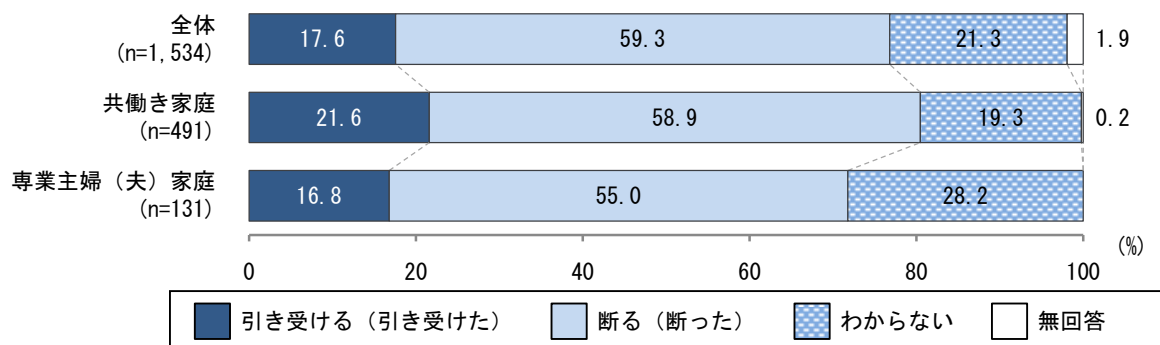
性別にみると、「引き受ける(引き受けた)」は男性(26.8%)が女性(11.6%)を15.2ポイント上回っている。
 性年代別にみると、男女ともにすべての年代で「断る(断った)」が最も高く、「引き受ける(引き受けた)」はどの年代でも、女性は1割程度、男性は2割から3割台となっている。

【図表9-2-2 自治会長、町内会長への就任の依頼に対する考え方(地域別)】



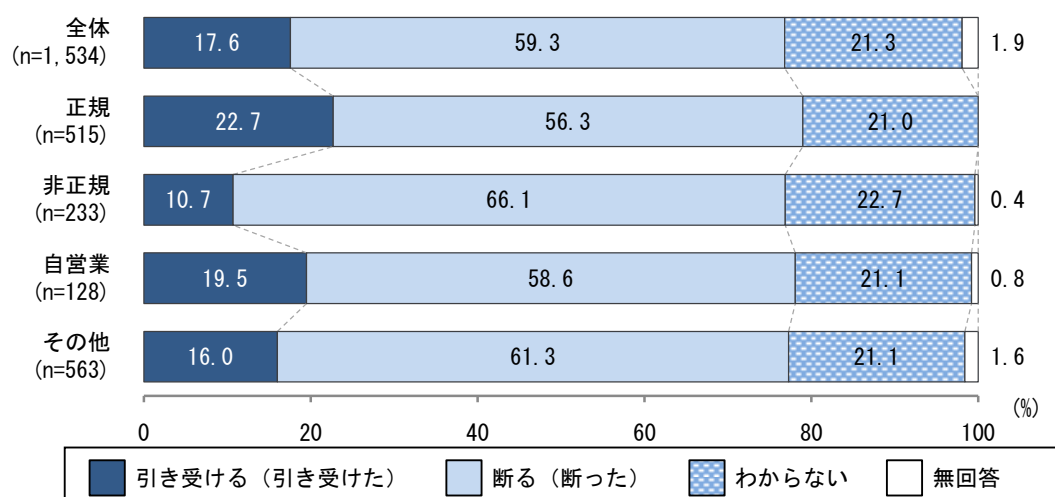
地域別にみると、「引き受ける(引き受けた)」はすべての地域で2割前後となっている。

【図表9-2-3 自治会長、町内会長への就任の依頼に対する考え方(就労状況別)】



就労状況別にみると、「わからない」は専業主婦(夫)家庭(28.2%)が共働き家庭(19.3%)を 8.9 ポイント上回っている。

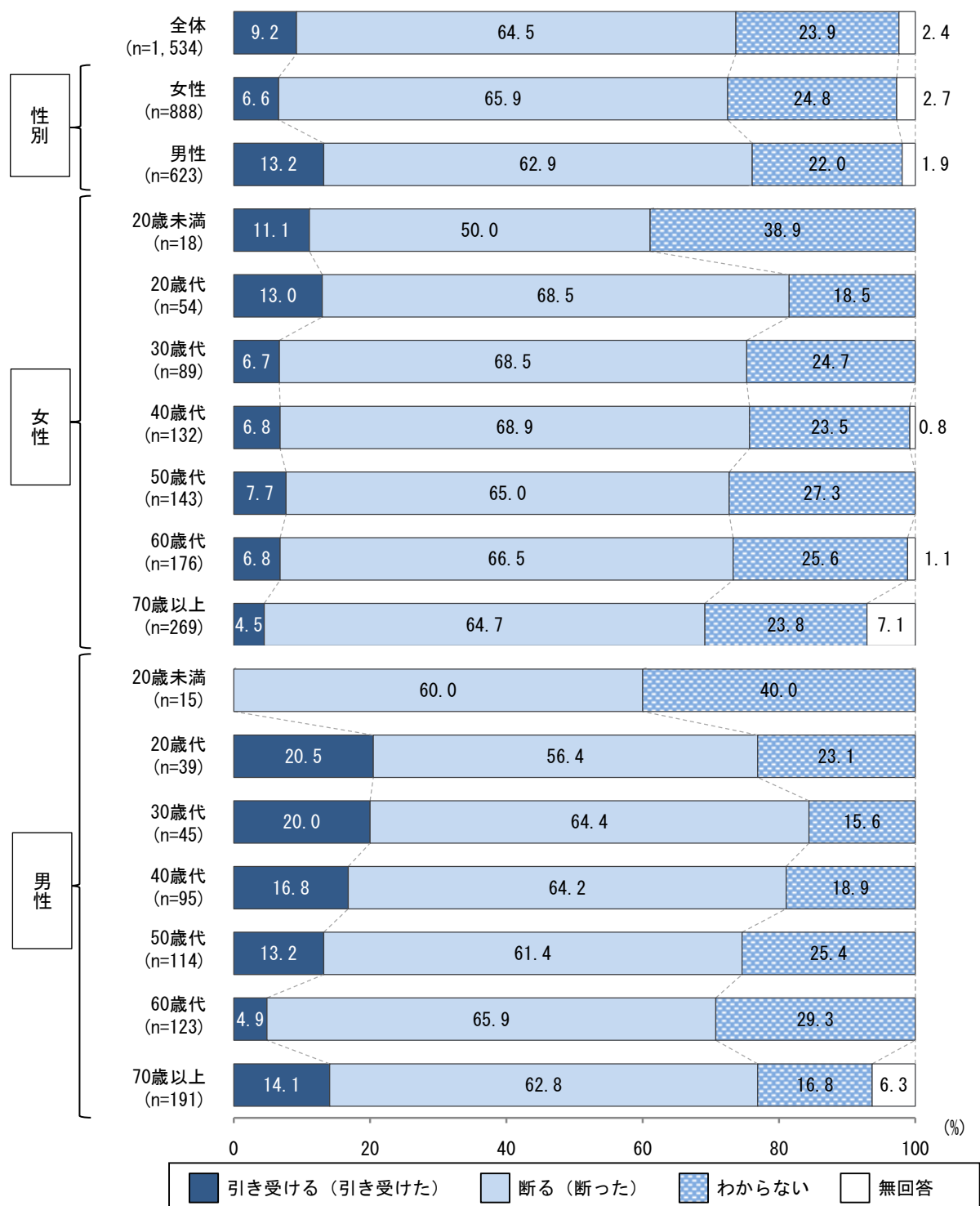
【図表9-2-4 自治会長、町内会長への就任の依頼に対する考え方(職業別)】



職業別でみると、「引き受ける(引き受けた)」は正規、自営業で2割前後、「断る(断った)」は非正規で6割台半ばと高くなっている。

(c)知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補の依頼に対する考え方

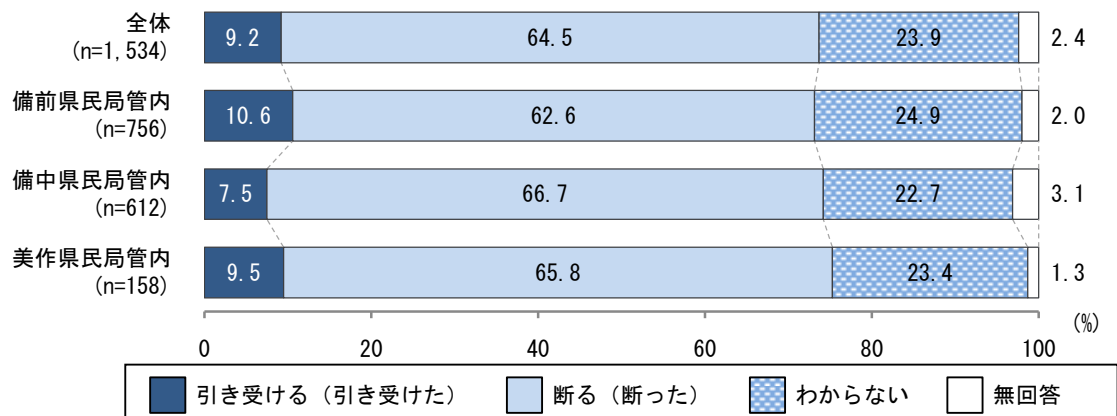
【図表9-3-1 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補の依頼に対する考え方(性別、性年代別)】



性別にみると、「引き受ける(引き受けた)」は男性(13.2%)が女性(6.6%)を 6.6 ポイント上回っている。

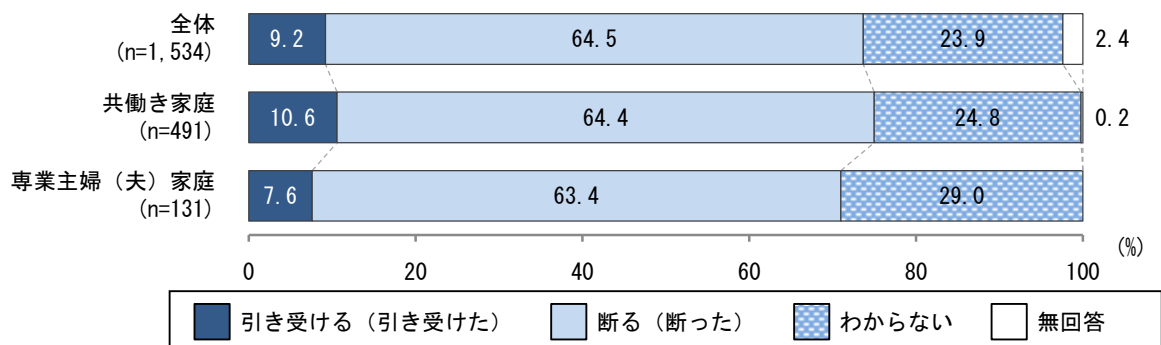
性年代別にみると、男女ともにすべての年代で「断る(断った)」が最も高く、「引き受ける(引き受けた)」は女性 20 歳代で1割台半ば、男性は 20 歳代～30 歳代で約2割となっている。

【図表9-3-2 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補の依頼に対する考え方(地域別)】



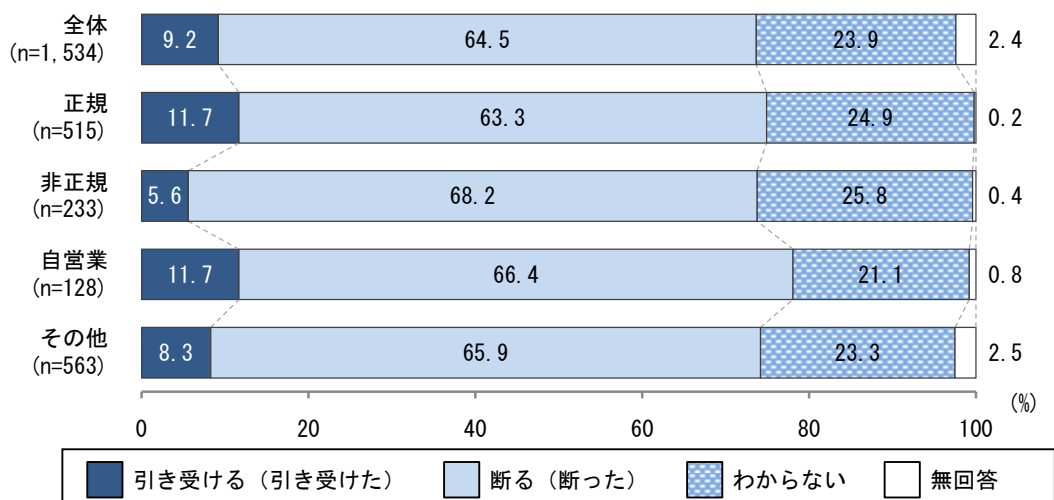
地域別にみると、すべての地域で「引き受ける(引き受けた)」は1割前後、「断る(断った)」は6割台となっている。

【図表9-3-3 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補の依頼に対する考え方(就労状況別)】



就労状況別にみると、大きな差はみられない。

【図表9-3-4 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補の依頼に対する考え方(職業別)】



職業別でみると、「断る(断った)」は非正規で約7割と高くなっている。

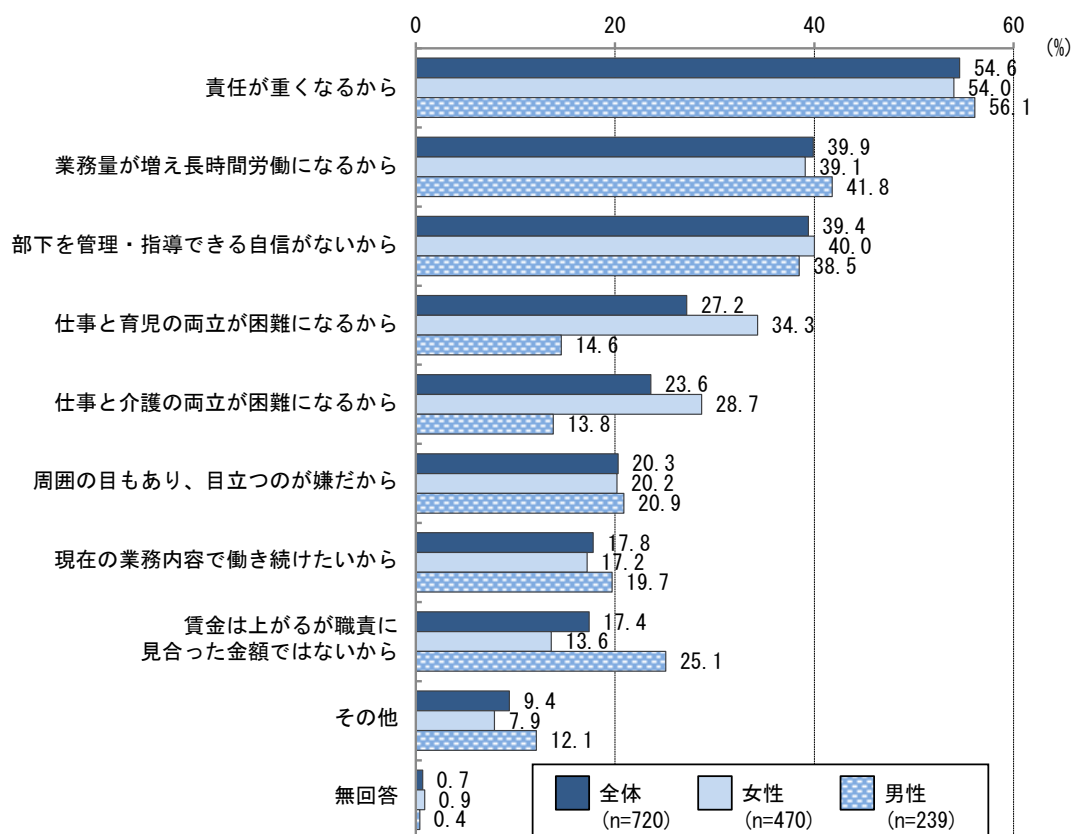
(4) 依頼を断る(断った)理由

問9で「2.断る(断った)」を選択した方のみ

(a)職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由

問10 その理由は、何ですか。(✓はいくつでも)

【図表 10-1-1 職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由(性別)】



「仕事と育児・介護の両立が困難になるから」、「賃金は上がるが職責に見合った金額ではないから」で男女に大きな差がでている

職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由について、「責任が重くなるから」が 54.6%と最も高く、次いで「業務量が増え長時間労働になるから」(39.9%)、「部下を管理・指導できる自信がないから」(39.4%)などの順となっている。

性別にみると、「仕事と育児の両立が困難になるから」は女性(34.3%)が男性(14.6%)を 19.7 ポイント、「仕事と介護の両立が困難になるから」は女性(28.7%)が男性(13.8%)を 14.9 ポイント上回っており、「賃金は上がるが職責に見合った金額ではないから」は男性(25.1%)が女性(13.6%)を 11.5 ポイント上回っている。

【図表 10-1-2 職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由(性年代別)】

(%)

		n 数	責任が重くなるから	業務量が増え長時間労働になるから	部下を管理・指導できる自信がないから	仕事と育児の両立が困難になるから	仕事と介護の両立が困難になるから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	現在の業務内容で働き続けたいから	賃金は上額ではあるが職責から見合った金額ではない	その他	無回答
全 体		720	54.6	39.9	39.4	27.2	23.6	20.3	17.8	17.4	9.4	0.7
年代別	女性	20歳未満	4	50.0	25.0	50.0	-	-	-	-	25.0	-
		20歳代	24	62.5	58.3	50.0	41.7	16.7	25.0	37.5	-	-
		30歳代	47	53.2	55.3	29.8	66.0	10.6	21.3	34.0	-	-
		40歳代	68	57.4	50.0	47.1	61.8	20.6	23.5	22.1	4.4	-
		50歳代	77	59.7	40.3	42.9	24.7	27.3	23.4	7.8	6.5	-
		60歳代	91	60.4	40.7	44.0	18.7	37.4	18.7	15.4	4.4	-
		70歳以上	156	45.5	25.6	34.6	25.6	36.5	17.3	9.6	15.4	2.6
	男性	20歳未満	3	66.7	66.7	66.7	-	-	66.7	-	-	-
		20歳代	11	90.9	63.6	45.5	9.1	9.1	18.2	36.4	-	-
		30歳代	18	77.8	55.6	38.9	55.6	22.2	16.7	44.4	22.2	-
		40歳代	44	56.8	56.8	40.9	20.5	18.2	29.5	47.7	4.5	-
		50歳代	42	52.4	64.3	35.7	16.7	9.5	16.7	28.6	16.7	-
		60歳代	41	41.5	22.0	34.1	7.3	9.8	12.2	19.5	14.6	-
		70歳以上	80	55.0	25.0	38.8	6.3	15.0	22.5	11.3	12.5	1.3

1位 2位 3位

性年代別にみると、男女ともにすべての年代で「責任が重くなるから」が上位となっている。「仕事と育児の両立が困難になるから」は、女性は30歳代及び40歳代で6割台、男性は30歳代で5割台半ば、「業務量が増え長時間労働になるから」は男性の50歳代で6割台半ばと高くなっている。

【図表 10-1-3 職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由(地域別)】

(%)

		n 数	責任が重くなるから	業務量が増え長時間労働になるから	部下を管理・指導できる自信がないから	仕事と育児の両立が困難になるから	仕事と介護の両立が困難になるから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	現在の業務内容で働き続けたいから	賃金は上額ではあるが職責から見合った金額ではない	その他	無回答
全 体		720	54.6	39.9	39.4	27.2	23.6	20.3	17.8	17.4	9.4	0.7
地域別 居住	備前県民局管内	348	53.4	41.4	39.9	27.3	23.6	20.7	17.0	17.2	9.5	0.6
	備中県民局管内	298	54.4	37.9	37.6	24.5	24.5	19.5	18.1	17.8	8.7	1.0
	美作県民局管内	69	59.4	42.0	44.9	39.1	20.3	21.7	21.7	15.9	11.6	-

1位 2位 3位

地域別にみると、すべての地域で「責任が重くなるから」が最も高くなっている。「業務量が増え長時間労働になるから」は備前県民局管内及び美作県民局管内で4割超、「部下を管理・指導できる自信がないから」は美作県民局管内で4割台半ばと高くなっている。「仕事と育児の両立が困難になるから」は美作県民局管内(39.1%)が最も高く、備中県民局管内(24.5%)が最も低くなっており、14.6ポイントの差がある。

【図表 10-1-4 職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由(就労状況別)】

		n 数	責任が重くなるから	業務量が増え長時間労働になるから	部下が管理・指導できる自信がないから	仕事と育児の両立が困難になるから	仕事と介護の両立が困難になるから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	現在の業務内容で働き続けたいから	賃金は上がるが職責に見合った金額ではないから	その他	無回答
全 体		720	54.6	39.9	39.4	27.2	23.6	20.3	17.8	17.4	9.4	0.7
就労状況別	共働き家庭	213	51.6	47.4	37.6	42.3	18.3	19.7	26.8	22.1	8.0	-
	専業主婦(夫)家庭	57	68.4	43.9	38.6	40.4	28.1	19.3	8.8	14.0	7.0	-

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「現在の業務内容で働き続けたいから」は共働き家庭(26.8%)が専業主婦(夫)家庭(8.8%)を 18.0 ポイント、「責任が重くなるから」は専業主婦(夫)家庭(68.4%)が共働き家庭(51.6%)を 16.8 ポイント、「仕事と介護の両立が困難になるから」は専業主婦(夫)家庭(28.1%)が共働き家庭(18.3%)を 9.8 ポイント上回っている。

【図表 10-1-5 職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由(職業別)】

		n 数	責任が重くなるから	業務量が増え長時間労働になるから	部下が管理・指導できる自信がないから	仕事と育児の両立が困難になるから	仕事と介護の両立が困難になるから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	現在の業務内容で働き続けたいから	賃金は上がるが職責に見合った金額ではないから	その他	無回答
全 体		720	54.6	39.9	39.4	27.2	23.6	20.3	17.8	17.4	9.4	0.7
職業別	正規	205	58.0	57.1	36.6	33.2	16.6	17.1	22.4	31.7	7.3	-
	非正規	124	55.6	43.5	41.9	34.7	24.2	23.4	29.0	13.7	6.5	-
	自営業	63	57.1	23.8	42.9	28.6	17.5	23.8	19.0	17.5	4.8	-
	その他	279	54.5	32.3	40.9	21.1	27.6	22.2	10.8	9.3	11.8	1.1

1位 2位 3位

職業別でみると、「業務量が増え長時間労働になるから」は正規で約6割と高くなっているが、自営業では2割台半ばと低くなっている。「賃金は上がるが職責に見合った金額ではないから」は正規(31.7%)が最も高く、非正規(13.7%)と 18.0 ポイント、自営業(17.5%)と 14.2 ポイントの差がある。

【図表 10-1-6 職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由(経年比較)】

		n 数	責任が重くなるから	業務量が増え長時間労働になるから	部下を管理・指導できないから	仕事と育児の両立が困難になるから	仕事と介護の両立が困難になるから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	現在の業務内容で働き続けたいから	賃金は上がるが職責に見合った金額ではないから	その他	(%)
比 較 年												無 回 答
R1	628	44.1	28.7	29.5	16.2	14.3	11.3	17.2	10.5	18.0	2.1	
	R6	720	54.6	39.9	39.4	27.2	23.6	20.3	17.8	17.4	9.4	0.7

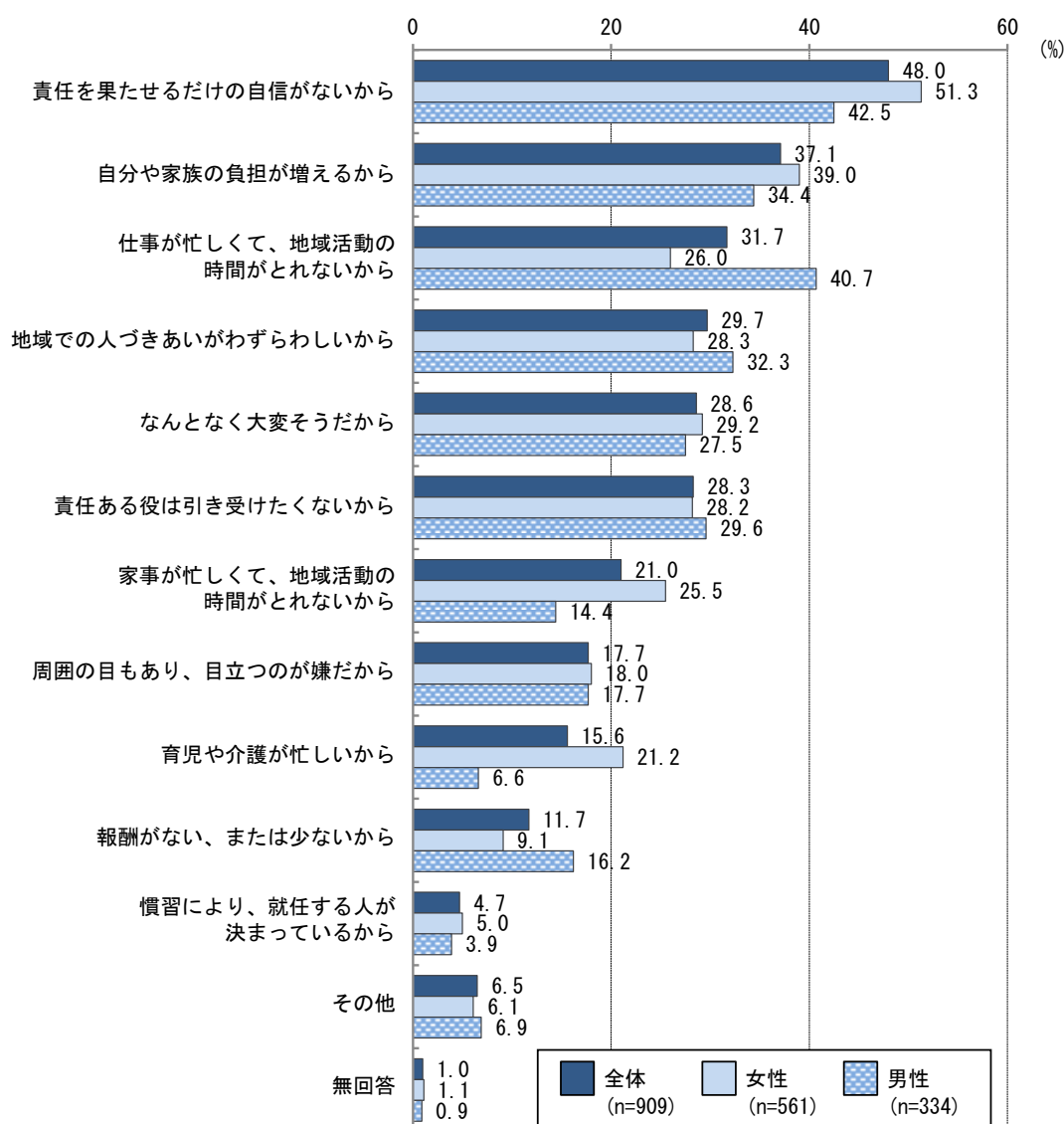
1位 2位 3位

経年比較でみると、「業務量が増え長時間労働になるから」との回答は令和6年調査(39.9%)が令和元年調査(28.7%)を 11.2 ポイント、「仕事と育児の両立が困難になるから」との回答は令和6年調査(27.2%)が令和元年調査(16.2%)を 11.0 ポイント上回っている。

(b)自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由

問10 その理由は、何ですか。(✓はいくつでも)

【図表 10-2-1 自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由(性別)】



「育児や介護が忙しいから」、「仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから」で男女に大きな差がでている

自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由について、「責任を果たせるだけの自信がないから」が48.0%と最も高く、次いで「自分や家族の負担が増えるから」(37.1%)、「仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから」(31.7%)などの順となっている。

性別にみると、「育児や介護が忙しいから」は女性(21.2%)が男性(6.6%)を14.6ポイント上回っており、「仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから」は男性(40.7%)が女性(26.0%)を14.7ポイント上回っている。

【図表 10-2-2 自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由(性年代別・上位 10 位)】

(%)

			n 数	責任を果たせるだけの自信がないから	自分や家族の負担が増えるから	仕事の時間がとれない、地域活動	地域での人づきあいがわずらわしいから	なんとなく大変そうだから	責任ある役は引き受けたくないから	家の時間がとれない、地域活動	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	育児や介護が忙しいから	報酬がない、または少ない
全 体			909	48.0	37.1	31.7	29.7	28.6	28.3	21.0	17.7	15.6	11.7
年代別	女性	20歳未満	8	62.5	12.5	-	25.0	37.5	12.5	25.0	12.5	-	-
		20歳代	35	31.4	40.0	28.6	40.0	42.9	48.6	22.9	28.6	20.0	25.7
		30歳代	60	41.7	43.3	38.3	36.7	38.3	20.0	38.3	25.0	41.7	20.0
		40歳代	90	47.8	46.7	43.3	32.2	35.6	26.7	35.6	16.7	33.3	10.0
		50歳代	96	55.2	39.6	32.3	28.1	27.1	31.3	18.8	19.8	18.8	9.4
		60歳代	104	55.8	44.2	24.0	25.0	29.8	30.8	23.1	15.4	19.2	5.8
		70歳以上	165	55.8	30.3	10.3	23.6	20.6	25.5	21.2	15.2	11.5	3.6
	男性	20歳未満	9	55.6	44.4	-	22.2	55.6	44.4	11.1	33.3	-	33.3
		20歳代	24	16.7	29.2	66.7	29.2	41.7	20.8	16.7	16.7	-	16.7
		30歳代	23	34.8	56.5	60.9	43.5	34.8	21.7	52.2	26.1	26.1	34.8
		40歳代	61	45.9	41.0	50.8	39.3	32.8	39.3	11.5	26.2	8.2	29.5
		50歳代	59	40.7	44.1	61.0	40.7	25.4	27.1	23.7	18.6	10.2	16.9
		60歳代	59	42.4	30.5	28.8	23.7	15.3	27.1	6.8	10.2	3.4	6.8
		70歳以上	99	48.5	22.2	22.2	27.3	25.3	29.3	6.1	13.1	3.0	7.1

1位 2位 3位

性年代別にみると、「育児や介護が忙しいから」は女性の 30 歳代で4割超、「仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから」は男性の 20 歳代から 50 歳代で約5割から6割台半ばと高くなっている。

【図表 10-2-3 自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由(地域別・上位 10 位)】

(%)

		n 数	責任を果たせるだけの自信がないから	自分や家族の負担が増えるから	仕事の時間がとれない、地域活動の時間がとれないから	地域での人づきあいがわずらわしいから	なんとなく大変そうだから	責任ある役は引き受けたくないから	家事の時間がとれない、地域活動の時間がとれないから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	育児や介護が忙しいから	報酬がない、または少ないから	
全 体		909	48.0	37.1	31.7	29.7	28.6	28.3	21.0	17.7	15.6	11.7	
地域別	居住	備前県民局管内	459	45.1	37.0	31.8	31.2	30.1	27.5	22.0	17.4	15.0	11.8
		備中県民局管内	353	48.4	34.8	31.2	27.8	27.2	29.5	18.4	18.7	15.0	11.3
		美作県民局管内	92	58.7	45.7	32.6	30.4	27.2	28.3	26.1	16.3	21.7	13.0

1位 2位 3位

地域別にみると、「責任を果たせるだけの自信がないから」は美作県民局管内で約6割、「自分や家族の負担が増えるから」は美作県民局管内で4割台半ばと高くなっている。

【図表 10-2-4 自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由(就労状況別・上位 10 位)】

		n 数	信 任 が 不 満 意 な い か ら	自 分 や 家 族 の 負 担 が 増 え る か ら	働 事 の 時 間 が 忙 し く て 、 地 域 活 動 が と れ な い か ら	地 域 で の 人 づ き あ い が わ ず ら わ し い か ら	な ん と な く 大 変 そ う だ か ら	責 任 あ る 役 は 引 き 受 け た く な い か ら	家 事 の 時 間 が 忙 し く て 、 地 域 活 動 が と れ な い か ら	周 囲 の 目 も あ り、 目 立 つ の が 嫌 だ か ら	育 児 や 介 護 が 忙 し い か ら	報 酬 が 不 満 意 な い、 ま た は 少 な い か ら
全 体		909	48.0	37.1	31.7	29.7	28.6	28.3	21.0	17.7	15.6	11.7
就 労 状 況 別	共働き家庭	289	44.6	45.7	49.5	32.9	26.6	25.3	25.6	17.0	22.1	15.9
	専業主婦(夫)家庭	72	48.6	45.8	20.8	27.8	33.3	33.3	29.2	20.8	25.0	12.5

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから」は共働き家庭(49.5%)が専業主婦(夫)家庭(20.8%)を 28.7 ポイント上回っている。

【図表 10-2-5 自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由(職業別・上位 10 位)】

		n 数	信 任 が 不 満 意 な い か ら	自 分 や 家 族 の 負 担 が 増 え る か ら	働 事 の 時 間 が 忙 し く て 、 地 域 活 動 が と れ な い か ら	地 域 で の 人 づ き あ い が わ ず ら わ し い か ら	な ん と な く 大 変 そ う だ か ら	責 任 あ る 役 は 引 き 受 け た く な い か ら	家 事 の 時 間 が 忙 し く て 、 地 域 活 動 が と れ な い か ら	周 囲 の 目 も あ り、 目 立 つ の が 嫌 だ か ら	育 児 や 介 護 が 忙 し い か ら	報 酬 が 不 満 意 な い、 ま た は 少 な い か ら
全 体		909	48.0	37.1	31.7	29.7	28.6	28.3	21.0	17.7	15.6	11.7
職 業 別	正規	290	41.0	39.7	54.8	34.1	29.3	24.5	23.8	18.3	15.9	20.3
	非正規	154	54.5	48.1	31.2	27.9	33.1	34.4	22.7	18.8	22.7	9.1
	自営業	75	34.7	30.7	40.0	30.7	22.7	18.7	17.3	14.7	14.7	13.3
	その他	345	53.0	32.5	13.3	27.8	28.1	32.5	18.8	18.3	13.0	6.1

1位 2位 3位

職業別でみると、「仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから」は正規で5割台半ば、「責任を果たせるだけの自信がないから」は非正規、その他で5割台半ばと高くなっている。「責任ある役は引き受けたくないから」は非正規(34.4%)が最も高く、自営業(18.7%)が最も低くなっており、15.7 ポイントの差がある。

【図表 10-2-6 自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由(経年比較・上位 10 位)】

												(%)
		n 数	責任を果たせるだけの自信がないから	自分や家族の負担が増えるから	仕事の時間が忙しくて、地域の活動がとれないから	地域での人づきあいがわずらわしいから	なんとなく大変そうだから	責任ある役は引き受けたくないから	家事の時間が忙しくて、地域の活動がとれないから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	育児や介護が忙しいから	報酬がない、または少ないから
比較年	R1	937	41.6	34.4	29.6	22.3	14.9	20.0	13.7	11.1	9.1	6.8
	R6	909	48.0	37.1	31.7	29.7	28.6	28.3	21.0	17.7	15.6	11.7

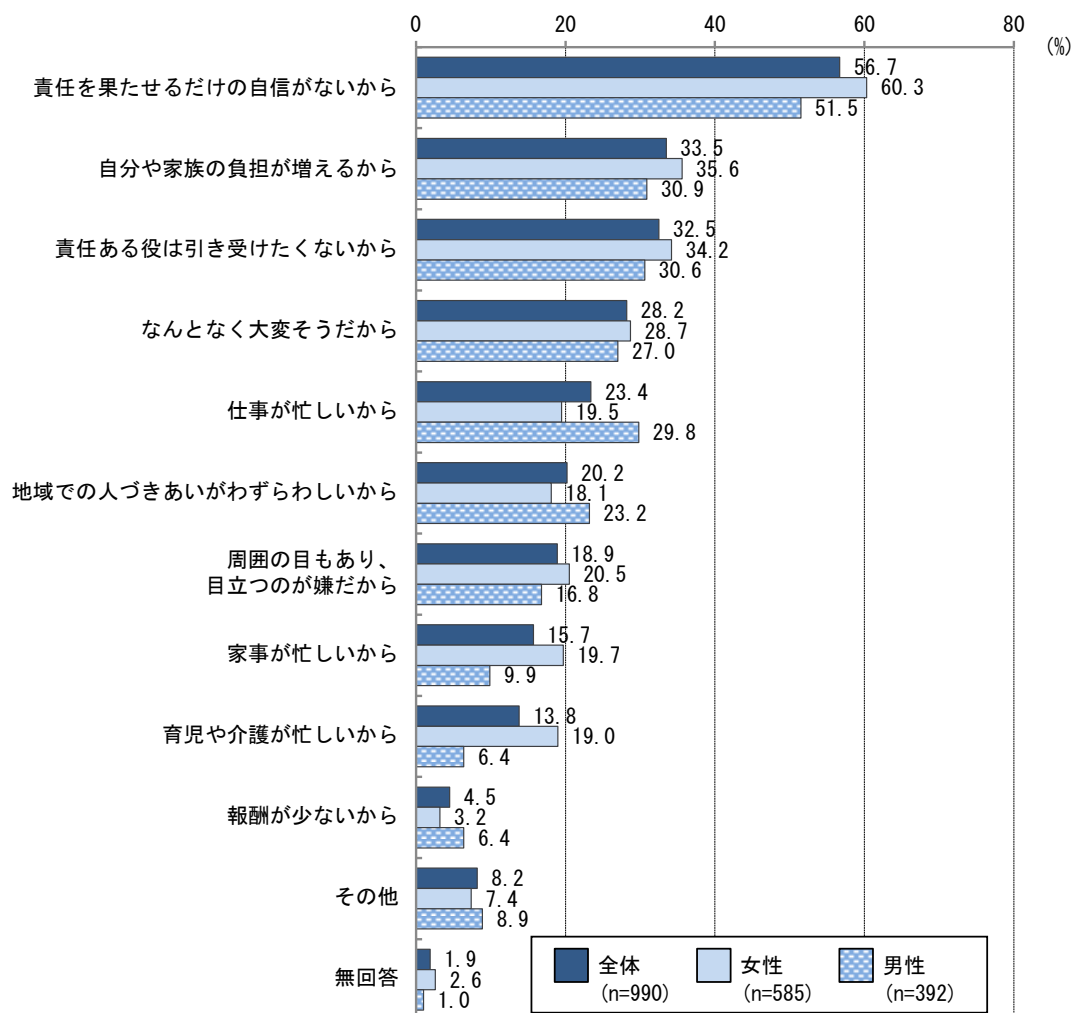
1位 2位 3位

経年比較でみると、「なんとなく大変そうだから」との回答は令和6年調査(28.6%)が令和元年調査(14.9%)を13.7ポイント上回っている。

(c)知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る(断った)理由

問10 その理由は、何ですか。(✓はいくつでも)

【図表 10-3-1 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る(断った)理由(性別)】



「育児や介護が忙しいから」、「仕事が忙しいから」で男女に大きな差がでている

知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る(断った)理由について、「責任を果たせるだけの自信がないから」が 56.7%と最も高く、次いで「自分や家族の負担が増えるから」(33.5%)、「責任ある役は引き受けたくないから」(32.5%)などの順となっている。

性別にみると、「育児や介護が忙しいから」は女性(19.0%)が男性(6.4%)を 12.6 ポイント、「家事が忙しいから」は女性(19.7%)が男性(9.9%)を 9.8 ポイント上回っており、「仕事が忙しいから」は男性(29.8%)が女性(19.5%)を 10.3 ポイント上回っている。

(%)

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

【図表 10-3-3 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る(断った)理由(地域別・上位 10 位)】

1位 2位 3位

97

【図表 10-3-4 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る(断った)理由(就労状況別・上位 10 位)】

		n 数	報酬が少ないから	育児や介護が忙しいから	家事が忙しいから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	地域での人づきあいがわずらわしいから	仕事忙しいから	なんとなく大変そうだから	責任ある役は引き受けたくないから	自分や家族の負担が増えるから	責任を果たせるだけの自信がないから
全 体		990	4.5	13.8	15.7	18.9	20.2	23.4	28.2	32.5	33.5	56.7
就労状況別	共働き家庭	316	6.3	19.3	20.3	19.9	22.5	37.0	26.9	29.1	36.7	51.6
	専業主婦(夫)家庭	83	2.4	26.5	21.7	19.3	19.3	13.3	30.1	36.1	48.2	61.4

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「仕事忙しいから」は共働き家庭(37.0%)が専業主婦(夫)家庭(13.3%)を 23.7 ポイント、「自分や家族の負担が増えるから」は専業主婦(夫)家庭(48.2%)が共働き家庭(36.7%)を 11.5 ポイント上回っている。

【図表 10-3-5 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る(断った)理由(職業別・上位 10 位)】

		n 数	報酬が少ないから	育児や介護が忙しいから	家事が忙しいから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	地域での人づきあいがわずらわしいから	仕事忙しいから	なんとなく大変そうだから	責任ある役は引き受けたくないから	自分や家族の負担が増えるから	責任を果たせるだけの自信がないから
全 体		990	4.5	13.8	15.7	18.9	20.2	23.4	28.2	32.5	33.5	56.7
職業別	正規	326	8.3	14.4	18.7	18.7	23.9	41.7	30.7	29.8	33.7	50.6
	非正規	159	2.5	22.0	18.2	27.0	20.1	18.2	32.1	37.1	42.8	66.0
	自営業	85	3.5	9.4	10.6	15.3	15.3	30.6	15.3	25.9	34.1	47.1
	その他	371	2.7	11.6	13.2	17.5	19.4	10.0	28.0	35.3	31.0	63.1

1位 2位 3位

職業別でみると、「仕事忙しいから」は正規で4割超、「責任を果たせるだけの自信がないから」は非正規、その他で6割台半ばと高くなっている。「なんとなく大変そうだから」は非正規(32.1%)が最も高く、自営業(15.3%)が最も低くなっており、16.8 ポイントの差がある。

【図表 10-3-6 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る(断った)理由(経年比較・上位 10 位)】

		n 数	責任を果たせるだけの自信がないから	自分や家族の負担が増えるから	責任ある役は引き受けたくないから	なんとなく大変そうだから	仕事忙しいから	地域での人づきあいがわずらわしいから	周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	家事が忙しいから	育児や介護が忙しいから	(%)
比較年												
比較年	R1	1,073	55.0	28.1	22.1	18.5	19.1	13.1	12.2	10.2	7.0	2.4
	R6	990	56.7	33.5	32.5	28.2	23.4	20.2	18.9	15.7	13.8	4.5

1位 2位 3位

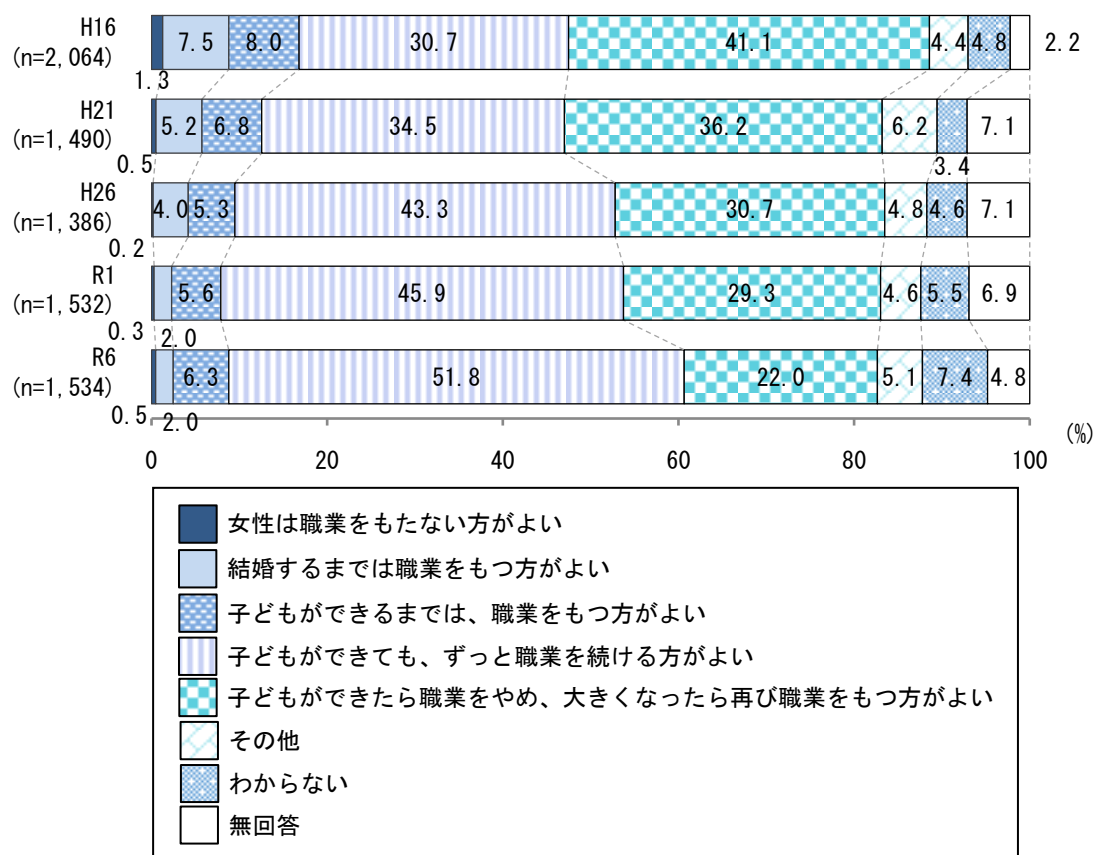
経年比較でみると、「責任ある役は引き受けたくないから」との回答は令和6年調査(32.5%)が令和元年調査(22.1%)を 10.4 ポイント上回っている。

4 就労について

(1) 女性が職業をもつことについての考え方

問11 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(✓は1つ)

【図表 11-1 女性が職業をもつことについての考え方】

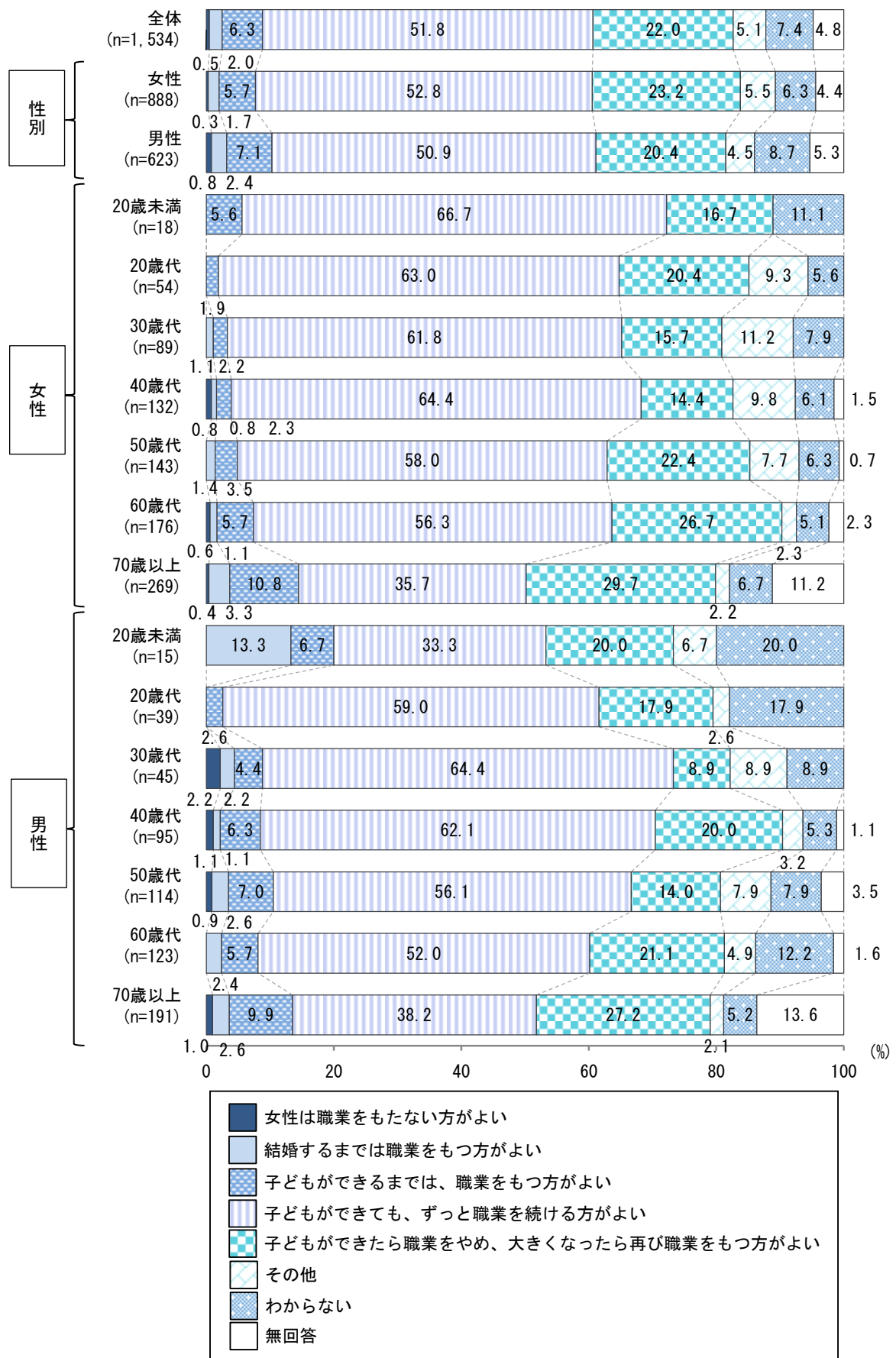


「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高い

女性が職業をもつことについての考え方について、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が51.8%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(22.0%)、「わからない」(7.4%)などの順となっている。

経年比較でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は増加傾向、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は減少傾向にある。

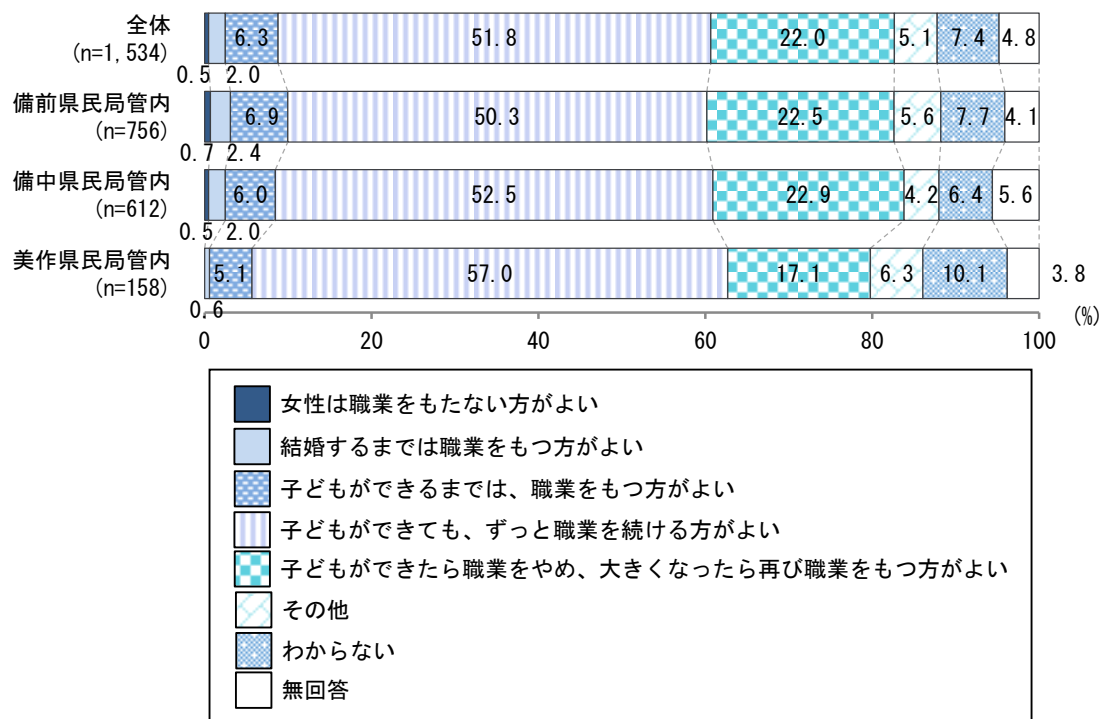
【図表 11-2 女性が職業をもつことについての考え方(性別、性年代別)】



性別にみると、大きな差はみられない。

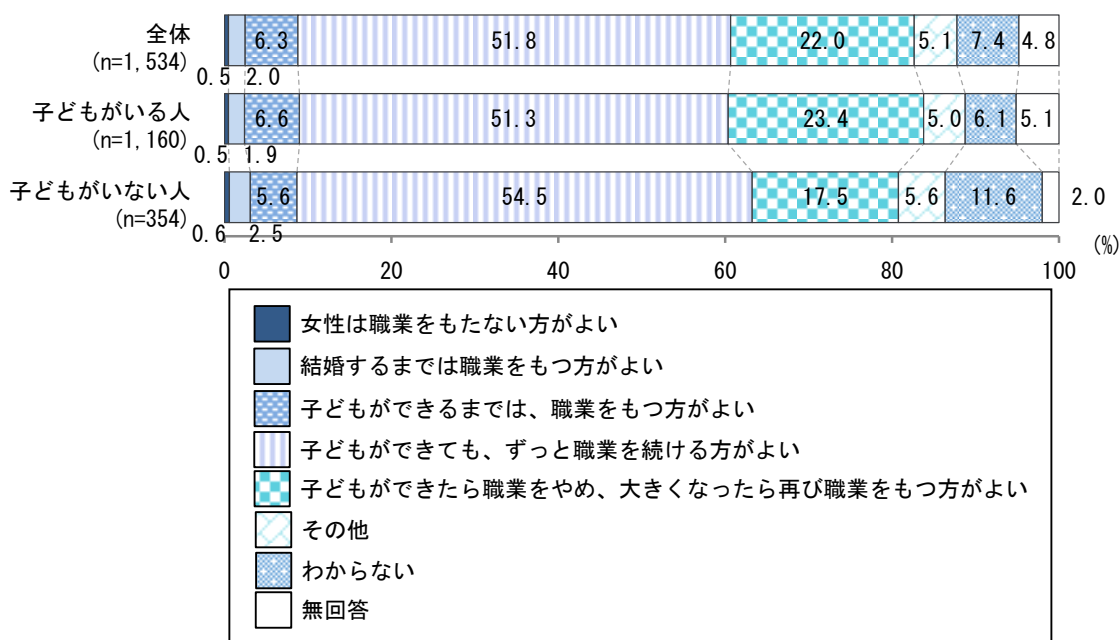
性年代別にみると、女性は年代が上がるにつれて「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が低くなる傾向がみられ、男性も女性と同様に30歳代から年代が上がるにつれて、低くなる傾向がみられる。

【図表 11-3 女性が職業をもつことについての考え方(地域別)】



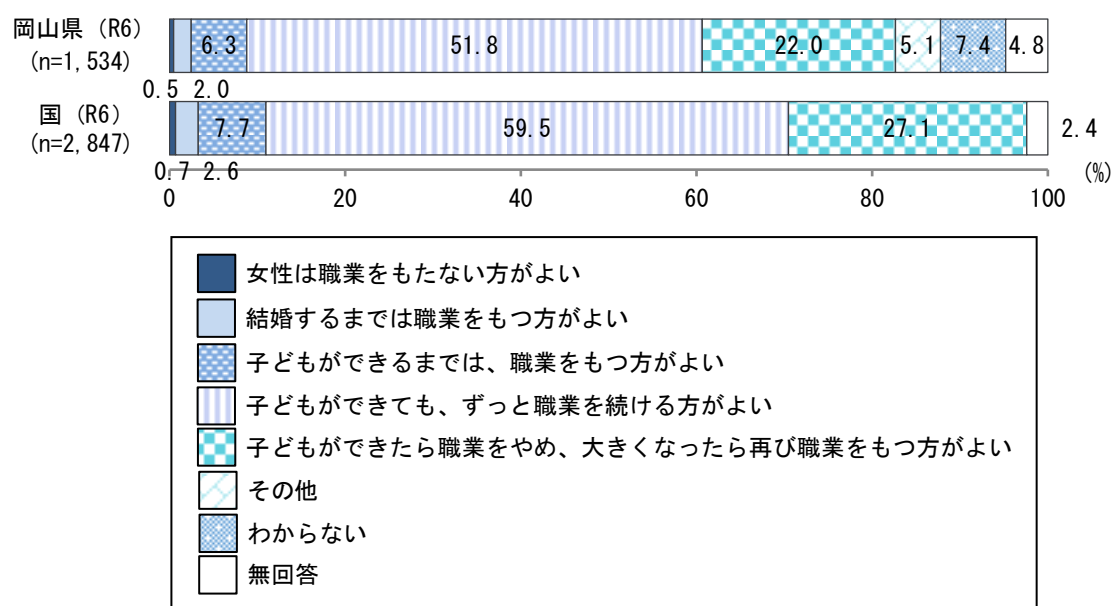
地域別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は、すべての地域で5割を超え最も高くなっており、美作県民局管内では約6割となっている。

【図表 11-4 女性が職業をもつことについての考え方(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は子どもがいる人(23.4%)が子どもがいない人(17.5%)を5.9ポイント上回っている。

【図表 11-5 女性が職業をもつことについての考え方(国調査との比較)】



国調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は令和6年調査(51.8%)が国調査(59.5%)を 7.7 ポイント、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は令和6年調査(22.0%)が国調査(27.1%)を 5.1 ポイント下回っている。

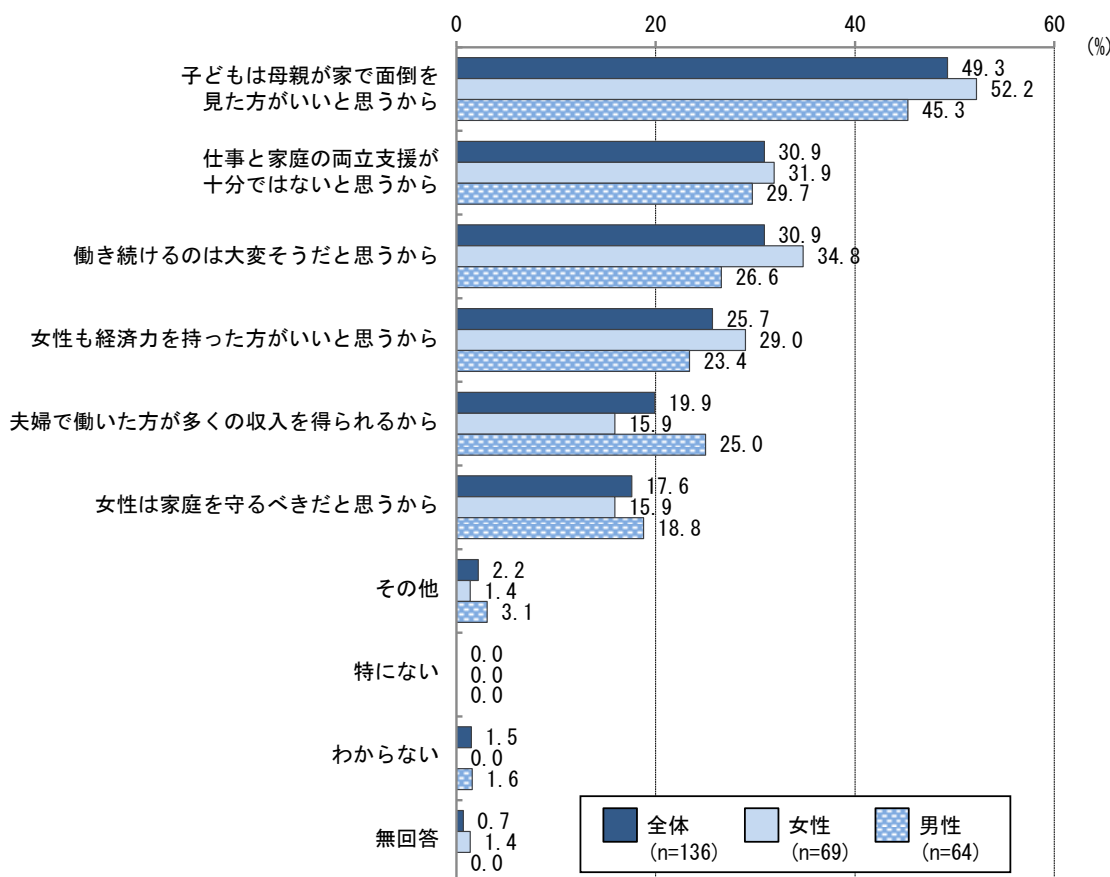
※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4年11月調査)

(2) 女性の就労への考え方

問 11 で、「1.女性は職業をもたない方がよい」、「2.結婚するまでは職業をもつ方がよい」、「3.子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」を選択した方のみ

問12-1 それは、なぜですか。(✓はいくつでも)

【図表 12-1-1 女性が子どもを持つまで就労するという考え方(性別)】



「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」が最も高い

女性が子どもを持つまで就労するという考え方について、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」が 49.3%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」、「働き続けるのは大変そうだと思うから」(ともに 30.9%)、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」(25.7%)などの順となっている。

性別にみると、「働き続けるのは大変そうだと思うから」は女性(34.8%)が男性(26.6%)を 8.2 ポイント上回っており、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」は男性(25.0%)が女性(15.9%)を 9.1 ポイント上回っている。

【図表 12-1-2 女性が子どもを持つまで就労するという考え方(性年代別)】

		n 数	見子どもが いい母親が 家で面倒を みる	仕事は家庭 の両立が 大変	働き続ける のは大変 そう	女性も経済 力を持つ 方が	夫婦で働 いた方が 多くの収 入を得ら れる	女性から 家庭を守 るべきだ と	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		136	49.3	30.9	30.9	25.7	19.9	17.6	2.2	-	1.5	0.7
年 代 別	女 性	20歳未満	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
		20歳代	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
		30歳代	3	33.3	66.7	100.0	33.3	33.3	-	-	-	-
		40歳代	5	20.0	60.0	60.0	40.0	20.0	60.0	-	-	-
		50歳代	7	28.6	28.6	71.4	28.6	14.3	14.3	14.3	-	-
		60歳代	13	46.2	23.1	53.8	30.8	23.1	-	-	-	7.7
		70歳以上	39	64.1	28.2	12.8	25.6	15.4	15.4	-	-	-
	男 性	20歳未満	3	-	-	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-
		20歳代	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	4	25.0	75.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-
		40歳代	8	50.0	25.0	25.0	-	12.5	25.0	12.5	-	-
		50歳代	12	50.0	50.0	41.7	16.7	25.0	33.3	-	8.3	-
		60歳代	10	40.0	20.0	20.0	30.0	60.0	-	10.0	-	-
		70歳以上	26	50.0	23.1	15.4	30.8	19.2	19.2	-	-	-

1位 2位 3位

性年代別にみると、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」は女性の 70 歳以上で6割台半ばと高くなっている。

【図表 12-1-3 女性が子どもを持つまで就労するという考え方(地域別)】

		n 数	見子どもが いい母親が 家で面倒を みる	仕事は家庭 の両立が 大変	働き続ける のは大変 そう	女性も経済 力を持つ 方が	夫婦で働 いた方が 多くの収 入を得ら れる	女性から 家庭を守 るべきだ と	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		136	49.3	30.9	30.9	25.7	19.9	17.6	2.2	-	1.5	0.7
地 域 別	備前県民局管内	75	49.3	33.3	33.3	29.3	22.7	17.3	1.3	-	-	-
	備中県民局管内	52	48.1	28.8	21.2	19.2	15.4	19.2	3.8	-	3.8	1.9
	美作県民局管内	9	55.6	22.2	66.7	33.3	22.2	11.1	-	-	-	-

1位 2位 3位

地域別にみると、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」はすべての地域で上位となっている。

【図表 12-1-4 女性が子どもを持つまで就労するという考え方(子どもの有無別)】

		n 数	見子どもは母親が家で面倒を	分仕事は家庭の両立支援が十	と働き続けるのは大変そうだと	い女性も経済力を持った方が	入夫婦で働いた方が多くの収	思女性から家庭を守るべきだと	その他	特にない	わからない	無回答
全 体		136	49.3	30.9	30.9	25.7	19.9	17.6	2.2	-	1.5	0.7
有無別	子どもがいる人	105	53.3	28.6	25.7	25.7	18.1	15.2	2.9	-	1.9	1.0
	子どもがいない人	31	35.5	38.7	48.4	25.8	25.8	25.8	-	-	-	-

1位 2位 3位

子どもの有無別にみると、「働き続けるのは大変そうだと思うから」は子どもがいない人(48.4%)が子どもがいる人(25.7%)を 22.7 ポイント、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」は子どもがいる人(53.3%)が子どもがいない人(35.5%)を 17.8 ポイント上回っている。

【図表 12-1-5 女性が子どもを持つまで就労するという考え方(経年比較)】

		n 数	見子どもは母親が家で面倒を	分仕事は家庭の両立支援が十	と働き続けるのは大変そうだと	い女性も経済力を持った方が	入夫婦で働いた方が多くの収	思女性から家庭を守るべきだと	その他	特にない	わからない	無回答
比経 較年	R1	121	54.5	35.5	18.2	22.3	24.0	21.5	0.8	-	-	4.1
	R6	136	49.3	30.9	30.9	25.7	19.9	17.6	2.2	-	1.5	0.7

1位 2位 3位

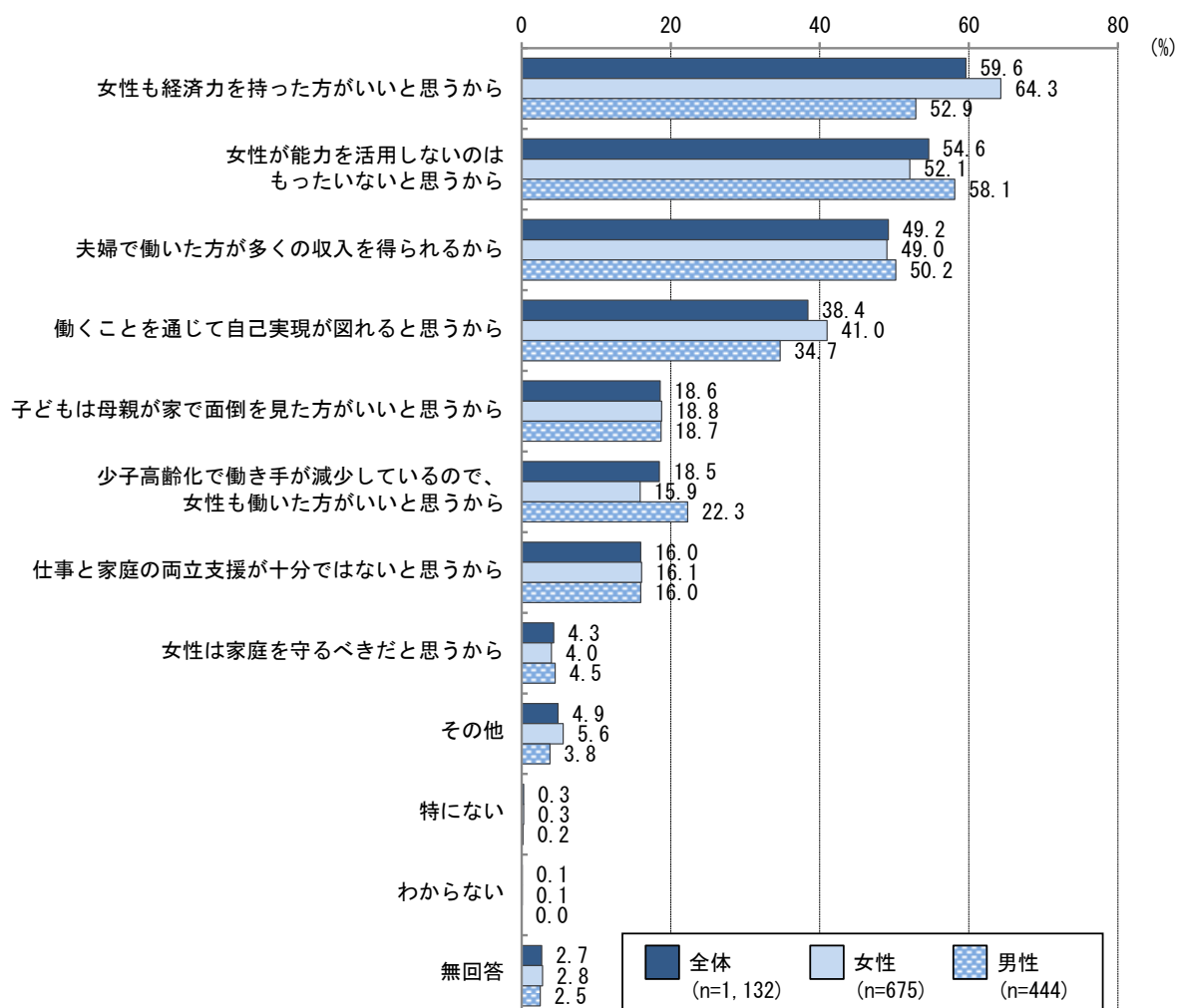
経年比較でみると、「働き続けるのは大変そうだと思うから」は令和6年調査(30.9%)が令和元年調査(18.2%)を 12.7 ポイント上回っており、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」は令和6年調査(49.3%)が令和元年調査(54.5%)を 5.2 ポイント下回っている。

(3) 子どもを持った場合の就労についての考え方

問11で、「4.子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」、「5.子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」を選択した方のみ

問12-2 それは、なぜですか。(✓はいくつでも)

【図表 12-2-1 子どもを持った場合の就労についての考え方(性別)】



「女性も経済力を持った方がいいと思うから」、「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」が5割超え

子どもを持った場合の就労についての考え方について、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」が59.6%と最も高く、次いで「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」(54.6%)、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」(49.2%)などの順となっている。

性別にみると、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」は女性(64.3%)が男性(52.9%)を11.4ポイント上回っており、「少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がいいと思うから」は男性(22.3%)が女性(15.9%)を6.4ポイント上回っている。

【図表 12-2-2 子どもを持った場合の就労についての考え方(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	い女性も経済力を持った方が	は女性も能力を生活しないうの	入夫婦で働いた方が多くの収入	が働くことを通じて自己実現	見子どもが母親が家から面倒を	たし方がいるの化で働き手が減い少	分仕事と家庭の両立支援が十	思女性から家庭を守るべきだと	その他	特にない
全 体		1,132	59.6	54.6	49.2	38.4	18.6	18.5	16.0	4.3	4.9	0.3
年 代 別	女 性	20歳未満	15	66.7	33.3	60.0	33.3	-	26.7	6.7	-	-
		20歳代	45	73.3	33.3	73.3	33.3	13.3	4.4	20.0	4.4	11.1
		30歳代	69	62.3	53.6	68.1	44.9	7.2	8.7	15.9	1.4	8.7
		40歳代	104	68.3	52.9	59.6	40.4	11.5	9.6	15.4	1.9	9.6
		50歳代	115	67.0	56.5	53.0	51.3	20.9	14.8	14.8	2.6	5.2
		60歳代	146	69.9	57.5	39.0	47.9	21.2	20.5	17.8	2.7	2.7
		70歳以上	176	53.4	50.0	33.0	30.7	27.8	21.6	15.3	8.5	3.4
	男 性	20歳未満	8	62.5	25.0	62.5	-	12.5	-	12.5	12.5	-
		20歳代	30	53.3	53.3	80.0	30.0	6.7	16.7	10.0	3.3	13.3
		30歳代	33	45.5	51.5	60.6	39.4	6.1	27.3	15.2	-	3.0
		40歳代	78	46.2	52.6	61.5	26.9	19.2	28.2	20.5	5.1	11.5
		50歳代	80	66.3	61.3	51.3	45.0	11.3	22.5	17.5	5.0	2.5
		60歳代	90	47.8	68.9	41.1	42.2	20.0	20.0	14.4	1.1	-
		70歳以上	125	53.6	56.8	38.4	29.6	28.8	21.6	15.2	7.2	0.8

1位 2位 3位

性年代別にみると、女性は年代が上がるにつれて「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」の割合が低くなる傾向がみられ、男性は20歳代で8割と高くなっている。また、「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」は女性の50歳代で5割超と高くなっている。

【図表 12-2-3 子どもを持った場合の就労についての考え方(地域別・上位 10 位)】

		n 数	い女性も経済力を持った方が	は女性も能力を生活しないうの	入夫婦で働いた方が多くの収入	が働くことを通じて自己実現	見子どもが母親が家から面倒を	たし方がいるの化で働き手が減い少	分仕事と家庭の両立支援が十	思女性から家庭を守るべきだと	その他	特にない
全 体		1,132	59.6	54.6	49.2	38.4	18.6	18.5	16.0	4.3	4.9	0.3
地 域 別	備前県民局管内	550	58.2	57.5	48.5	38.7	18.7	15.8	17.5	4.2	5.8	0.2
	備中県民局管内	461	59.7	53.1	47.5	38.8	19.3	22.8	14.5	4.6	3.7	0.2
	美作県民局管内	117	65.8	47.9	59.0	35.9	16.2	14.5	14.5	4.3	5.1	0.9

1位 2位 3位

地域別にみると、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」は美作県民局管内で6割台半ば、「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」は備前県民局管内で約6割、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」は美作県民局管内で約6割と高くなっている。

【図表 12-2-4 子どもを持った場合の就労についての考え方(子どもの有無別・上位 10 位)】

		n 数	い女性も経済力から	は女性も能力を活用しないから	入夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	が働くことを通じて自己実現が図れると思うから	見た方いい母親が家で面倒を見てもいいと思うから	た方いいの化で働き手が減り少	分仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	思女性も家庭を守るべきだと	その他	特にな
全 体		1,132	59.6	54.6	49.2	38.4	18.6	18.5	16.0	4.3	4.9	0.3
子 ど も の 有 無 別	子どもがいる人	867	58.7	55.7	49.0	38.5	21.0	19.6	15.8	4.6	4.5	0.3
	子どもがいない人	255	63.1	51.8	50.2	39.2	11.4	14.5	16.9	2.7	5.5	-

1位 2位 3位

子どもの有無別にみると、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」は子どもがいる人(21.0%)が子どもがいない人(11.4%)を 9.6 ポイント上回っている。

【図表 12-2-5 子どもを持った場合の就労についての考え方(経年比較・上位 10 位)】

		n 数	い女性も経済力から	は女性も能力を活用しないから	入夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	が働くことを通じて自己実現が図れると思うから	見た方いい母親が家で面倒を見てもいいと思うから	た方いいの化で働き手が減り少	分仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	思女性も家庭を守るべきだと	その他	特にな
比 較 年	R1	1,152	53.0	57.8	35.1	35.0	27.4	20.7	16.9	8.0	5.2	0.4
	R6	1,132	59.6	54.6	49.2	38.4	18.6	18.5	16.0	4.3	4.9	0.3

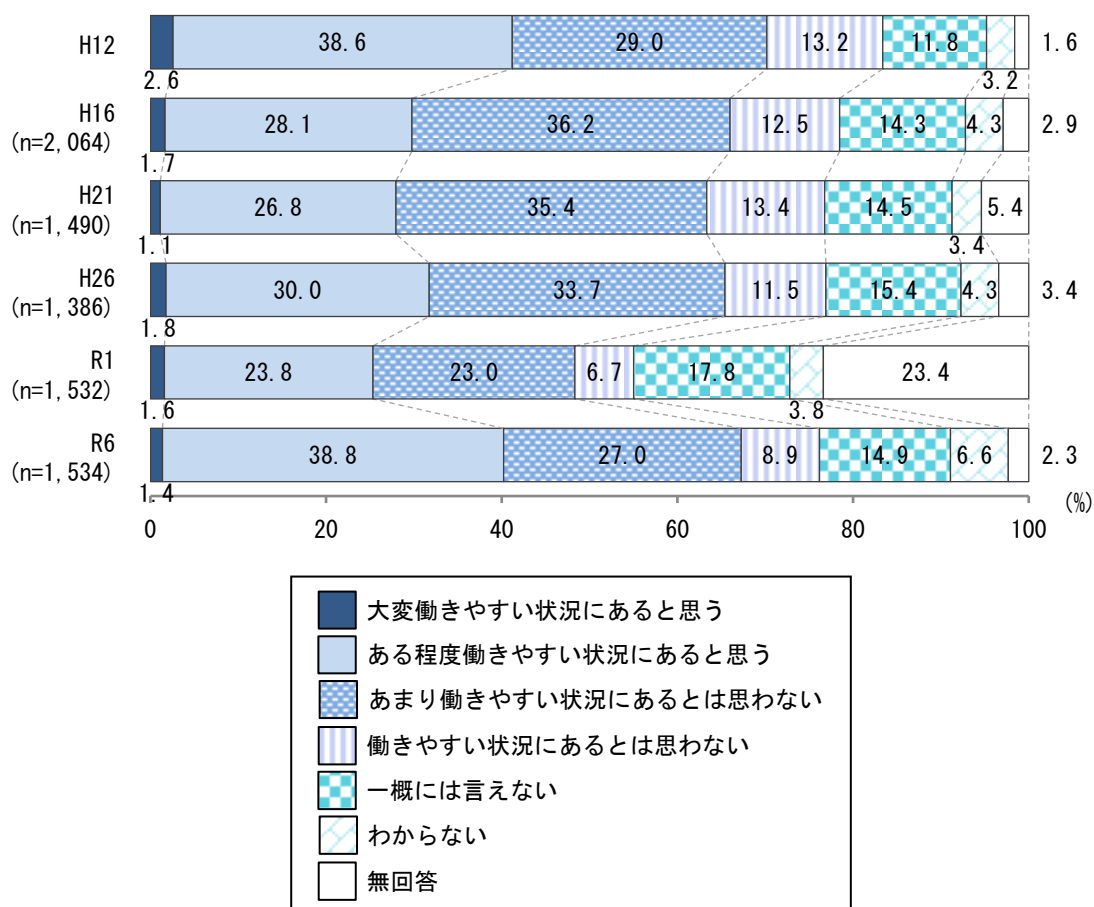
1位 2位 3位

経年比較でみると、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」は令和6年調査(49.2%)が令和元年調査(35.1%)を 14.1 ポイント上回っており、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」は令和6年調査(18.6%)が令和元年調査(27.4%)を 8.8 ポイント下回っている。

(4) 女性の就労環境の現状評価

問13 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(✓は1つ)

【図表 13-1 女性の就労環境の現状評価】

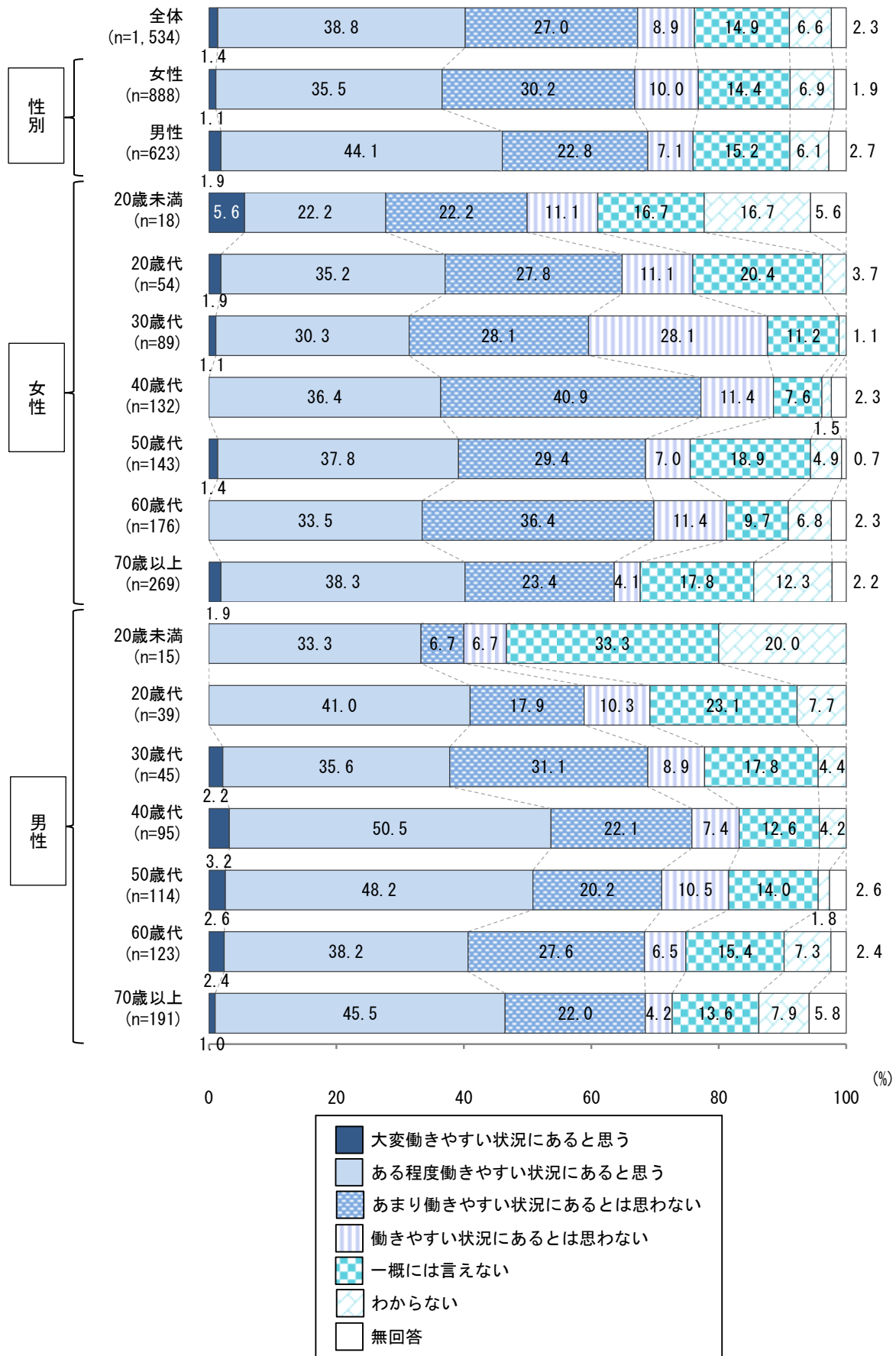


『働きやすい』が4割となっており、前回より増加

女性の就労環境の現状評価について、『働きやすい(「大変働きやすい状況にあると思う」+「ある程度働きやすい状況にあると思う」)』が 40.2%、『働きにくい(「働きやすい状況にあるとは思わない」+「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」)』が 35.9%となっている。

経年比較でみると、『働きやすい』は令和6年調査(40.2%)が令和元年調査(25.4%)を 14.8 ポイント上回っている。

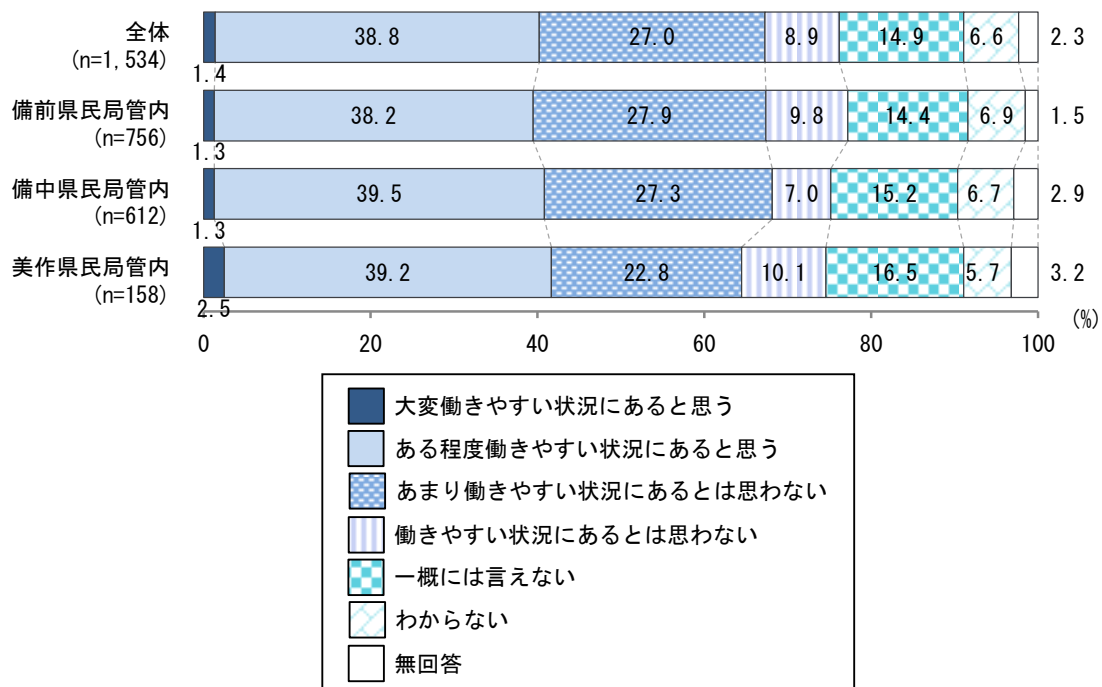
【図表 13-2 女性の就労環境の現状評価(性別、性年代別)】



性別にみると、『働きにくい』は女性(40.2%)が男性(29.9%)を 10.3 ポイント上回っている。

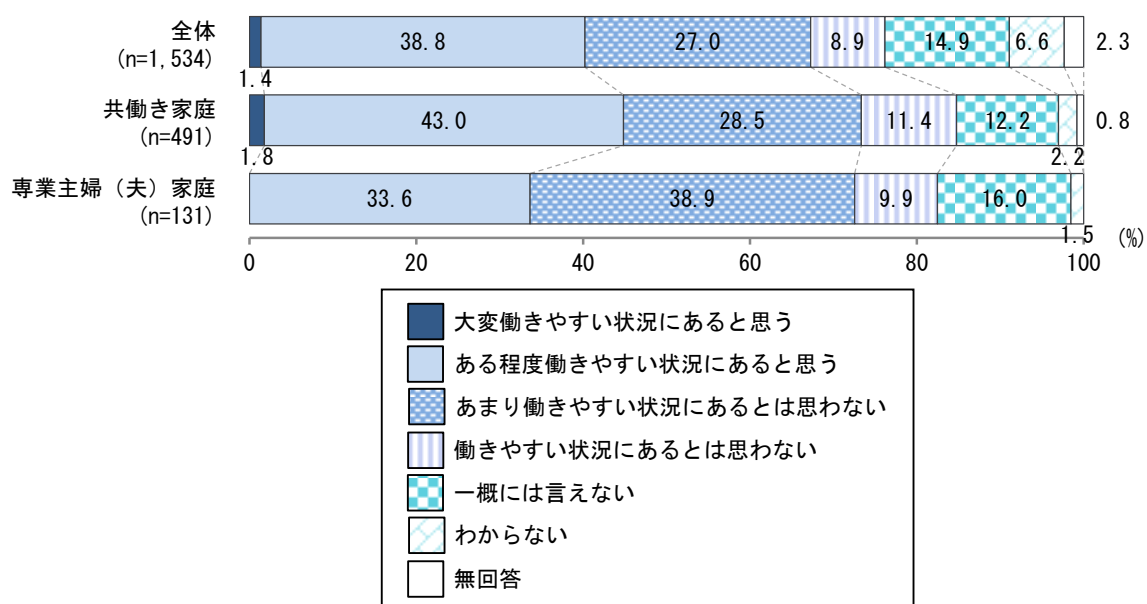
性年代別にみると、『働きにくい』は女性は 30 歳代及び 40 歳代で5割台、男性は 30 歳代で4割と高くなっている。

【図表 13-3 女性の就労環境の現状評価(地域別)】



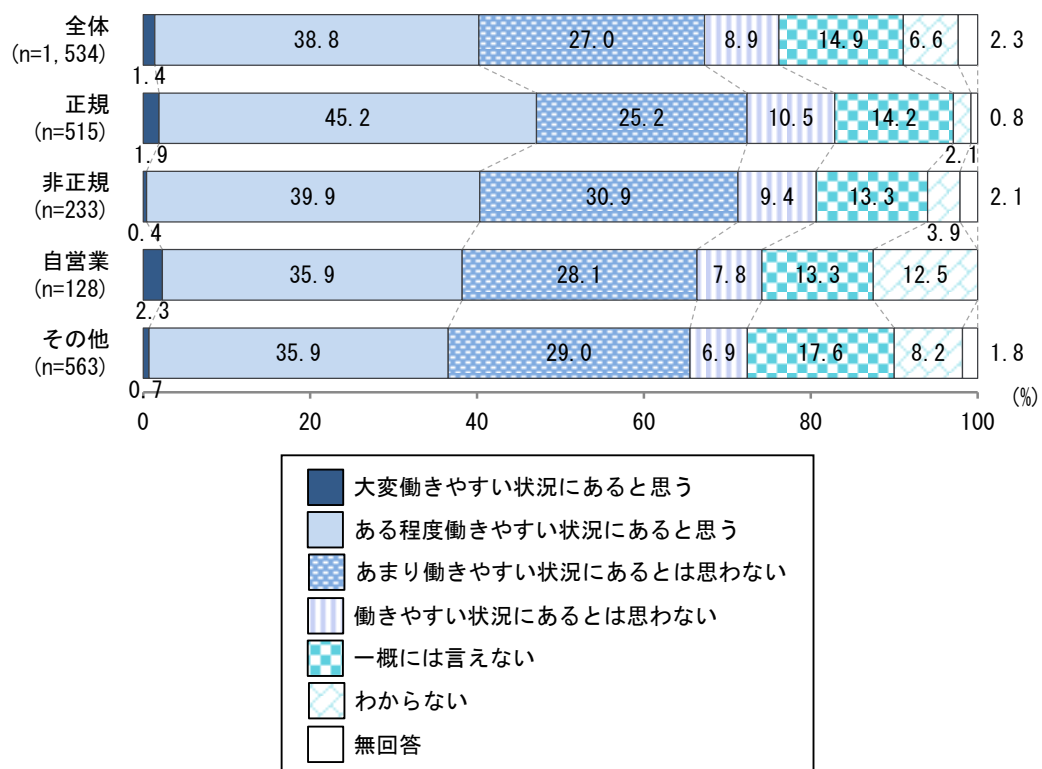
地域別にみると、『働きやすい』はすべての地域で4割前後となっている。『働きにくい』は備前県民局管内(37.7%)が最も高くなっている。

【図表 13-4 女性の就労環境の現状評価(就労状況別)】



就労状況別にみると、『働きやすい』は共働き家庭(44.8%)が専業主婦(夫)家庭(33.6%)を 11.2 ポイント上回っている。

【図表 13-5 女性の就労環境の現状評価(職業別)】



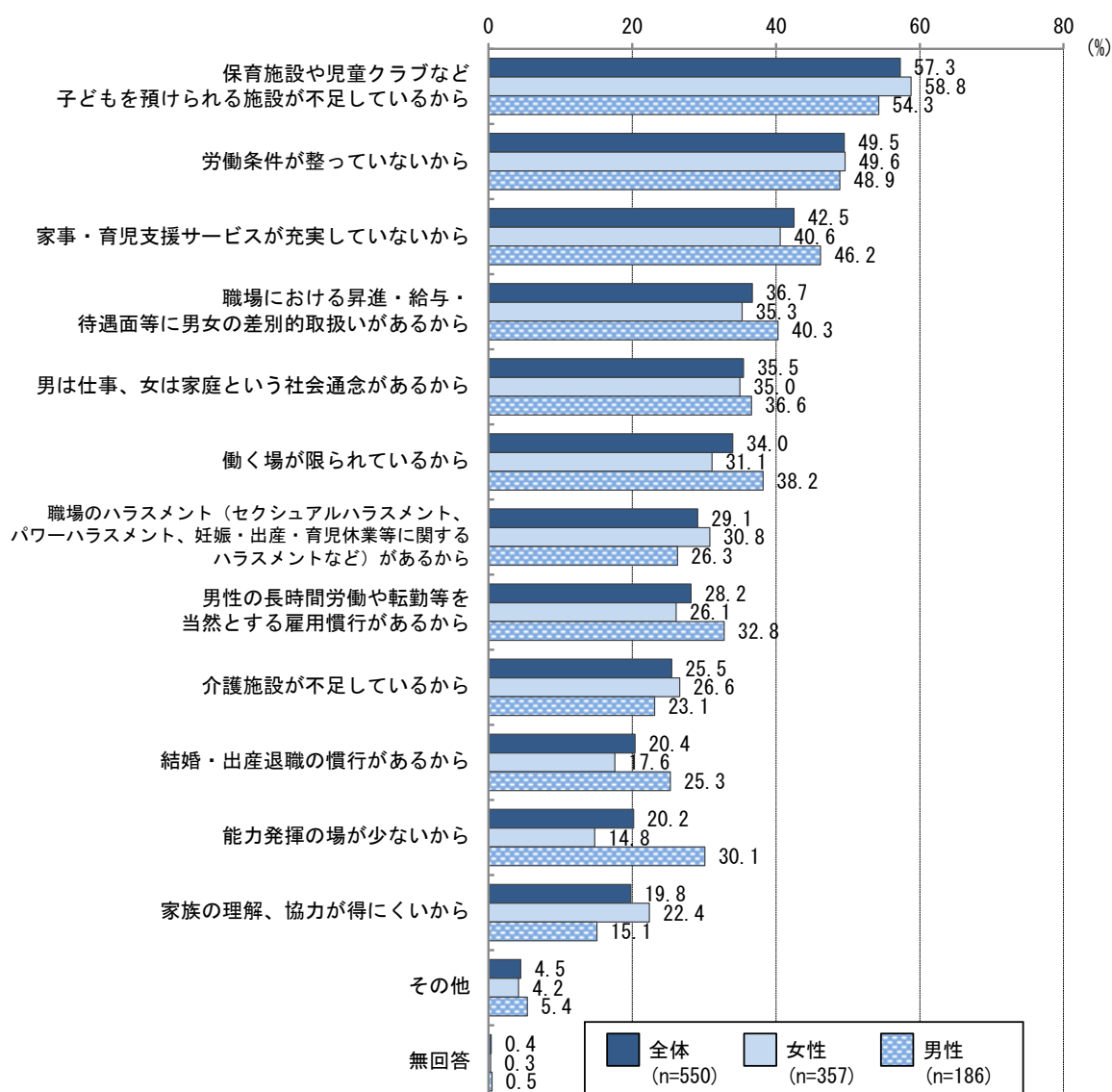
職業別でみると、『働きやすい』は正規で約5割、『働きにくい』は非正規で約4割と高くなっている。

(5) 女性が働きにくい理由

問 13 で、「3.あまり働きやすい状況にあるとは思わない」、「4.働きやすい状況にあるとは思わない」を選択した方のみ

問14 その理由は何ですか。(✓はいくつでも)

【図表 14-1 女性が働きにくい理由(性別)】



「保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから」が最も高い

女性が働きにくい理由について、「保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから」が 57.3%と最も高く、次いで「労働条件が整っていないから」(49.5%)、「家事・育児支援サービスが充実していないから」(42.5%)などの順となっている。

性別にみると、「家族の理解、協力が得にくいから」は女性(22.4%)が男性(15.1%)を 7.3 ポイント上回っており、「能力発揮の場が少ないから」は男性(30.1%)が女性(14.8%)を 15.3 ポイント、「結婚・出産退職の慣行があるから」は男性(25.3%)が女性(17.6%)を 7.7 ポイント上回っている。

【図表 14-2 女性が働きにくい理由(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	子どもを預けるから	保育施設や児童クラブ施設など	労働条件が整っていないから	家事・育児支援サービスが	扱いがあるから	職場における昇進・給与・	社会通念があるから	男は仕事、女は家庭という	働く場が限られているから	職場のハラスメントがあるから	男性の長時間労働や転勤等	介護施設が不足しているから	結婚・出産退職の慣行があるから	(%)
全 体		550	57.3	49.5	42.5	36.7	35.5	34.0	29.1	28.2	25.5	20.4				
年代別	女性	20歳未満	6	66.7	50.0	50.0	50.0	33.3	33.3	16.7	50.0	-				16.7
		20歳代	21	47.6	38.1	38.1	52.4	28.6	38.1	38.1	14.3	14.3			33.3	
		30歳代	50	78.0	60.0	46.0	26.0	44.0	26.0	36.0	38.0	8.0			24.0	
		40歳代	69	50.7	46.4	31.9	26.1	37.7	37.7	27.5	26.1	23.2			10.1	
		50歳代	52	59.6	38.5	48.1	38.5	44.2	26.9	36.5	21.2	38.5			21.2	
		60歳代	84	61.9	61.9	44.0	42.9	33.3	28.6	32.1	26.2	34.5			16.7	
		70歳以上	74	51.4	43.2	36.5	33.8	24.3	31.1	24.3	23.0	31.1			14.9	
	男性	20歳未満	2	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-			-
		20歳代	11	63.6	45.5	45.5	45.5	72.7	36.4	72.7	18.2	27.3			54.5	
		30歳代	18	44.4	66.7	44.4	44.4	38.9	44.4	27.8	33.3	16.7			33.3	
		40歳代	28	57.1	57.1	42.9	39.3	42.9	42.9	25.0	35.7	17.9			35.7	
		50歳代	35	60.0	45.7	51.4	22.9	37.1	45.7	22.9	45.7	34.3			17.1	
		60歳代	42	57.1	47.6	57.1	47.6	31.0	38.1	23.8	35.7	19.0			21.4	
		70歳以上	50	50.0	44.0	38.0	46.0	30.0	30.0	22.0	22.0	24.0			20.0	

1位 2位 3位

性年代別にみると、「保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから」は女性の 30 歳代で約8割、「労働条件が整っていないから」は男性の 30 歳代で6割台半ばと高くなっている。

【図表 14-3 女性が働きにくい理由(地域別・上位 12 位)】

		n 数	子どもを預けられる施設が不足しているから	保育施設や児童クラブなど	労働条件が整っていないから	家事・育児支援サービスが充実していないから	扱いが面等にあるから	職場における昇進・給与・待遇面等に男女の差別的取扱いがあるから	男は仕事、女は家庭という社会通念があるから	働く場が限られているから	職場のハラスメントがあるから	男性の長時間労働や転勤等を当然とする雇用慣行があるから	介護施設が不足しているから	結婚・出産退職の慣行があるから	能力発揮の場が少ないから	家族の理解、協力が得にくいから	(%)
全 体		550	57.3	49.5	42.5	36.7	35.5	34.0	29.1	28.2	25.5	20.4	20.2	19.8			
地域別	居住	備前県民局管内	285	60.7	48.8	41.4	37.9	35.8	29.5	29.8	29.5	26.7	21.4	16.8	19.6		
		備中県民局管内	210	53.3	49.0	42.4	35.2	34.3	38.6	29.0	28.6	24.3	18.6	24.8	17.6		
		美作県民局管内	52	53.8	55.8	50.0	34.6	36.5	36.5	25.0	19.2	23.1	21.2	17.3	30.8		

1位 2位 3位

地域別にみると、「保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから」は備前県民局管内で約6割、「労働条件が整っていないから」は美作県民局管内で5割台半ば、「家族の理解、協力が得にくいから」は美作県民局管内で約3割と高くなっている。

【図表 14-4 女性が働きにくい理由(経年比較・上位 10 位)】

		n 数	も保 を育 預施設 け設 られ る 施 設 が 不 足 し て い る か ら	労働 条件 が 整 っ て い な い か ら	家事・ 育児 支 援 サ ー ビ ス が 充 実 し て い な い か ら	面等 に男 女の 差 別 的 取 扱 い が あ る か ら	職場 にお ける 昇 進 ・ 給 与 ・ 待 遇 面 等 に 男 女 の 差 別 的 取 扱 い が あ る か ら	男は 仕事 ・女 は家 庭と いう 社会 通 念が あ るか ら	働く 場が 限ら れて い るか ら	職場 のハ ラス メン ト・ 妊娠 ・出 産・ 育児 休業 等に 関す るハ ラス メン トな どが あ るか ら	然と する 長時 間 雇 用 慣 行 が あ るか ら	男性 の長 時間 労働 や 転 勤 等 を 当 然と する 雇 用 慣 行 が あ るか ら	介護 施設 が不 足し てい るか ら	結 婚・ 出 産 退 職 の 慣 行 が あ るか ら	(%)
経 年 比 較	H21	727	65.5	45.9		23.9	27.8	39.5	2.6					18.0	
	H26	626	48.2	49.6		22.2	27.3	38.1	2.2			16.6		20.9	
	R1	456	62.5	36.6	34.0	19.1	25.9	27.2	16.4			16.9		16.7	
	R6	550	57.3	49.5	42.5	36.7	35.5	34.0	29.1	28.2	25.5			20.4	

1位 2位 3位

経年比較でみると、「職場における昇進・給与・待遇面等に男女の差別的取扱いがあるから」は令和6年調査(36.7%)が令和元年調査(19.1%)を 17.6 ポイント、「労働条件が整っていないから」は令和6年調査(49.5%)が令和元年調査(36.6%)を 12.9 ポイント上回っている。

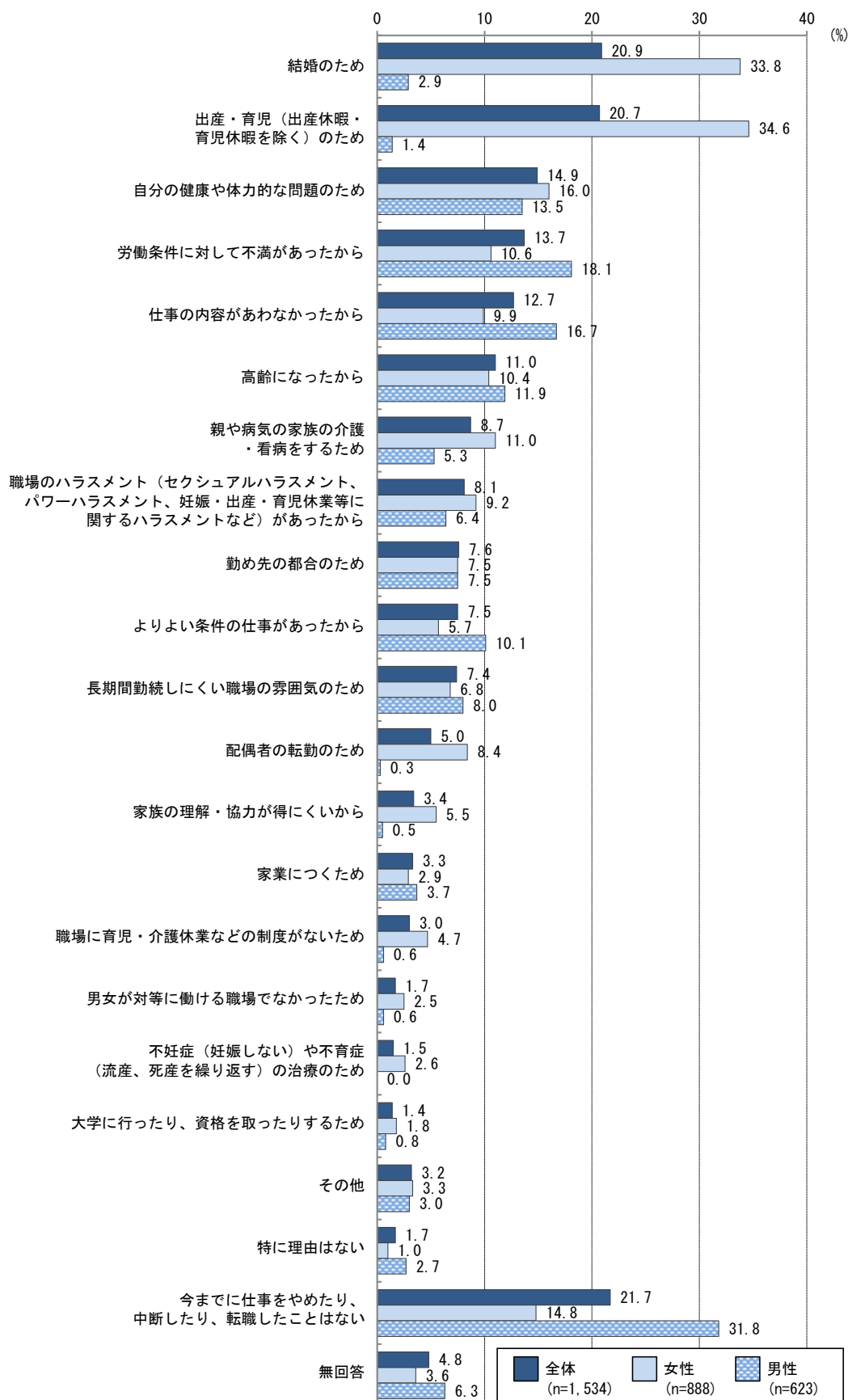
※「保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから」は、H21 調査では「保育施設や介護のための施設が不足しているから」、H26 調査では「保育施設が不足しているから」となっている。「職場における昇進・給与・待遇面等に男女の差別的取扱いがあるから」は、H21、H26、R1調査では「昇進・給与等に男女の差別的扱いがあるから」となっている。「職場のハラスメント(セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントなど)があるから」は、H21 調査では「セクシュアルハラスメントがあるから」、H26 調査では「セクシャルハラスメント(性的嫌がらせ)があるから」、R1 調査では「ハラスメント(セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメントなど)があるから」となっている。

※H21、H26、R1 調査では当てはまるもの3つまでの選択としていた。

(6) 仕事をやめたり、中断、転職した理由

問15 あなたは、仕事をやめたり、中断したり、あるいは転職したことがありますか。あるとすれば、その理由は何ですか。(✓はいくつでも)

【図表 15-1 仕事をやめたり、中断、転職した理由(性別)】



「結婚のため」、「出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため」で男女に大きな差がでている

仕事をやめたり、中断、転職した理由について、「結婚のため」が 20.9%となっており、次いで「出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため」(20.7%)、「自分の健康や体力的な問題のため」(14.9%)などの順となっている。

性別にみると、「出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため」は女性(34.6%)が男性(1.4%)を 33.2 ポイント上回っており、「今までに仕事をやめたり、中断したり、転職したことはない」は男性(31.8%)が女性(14.8%)を 17.0 ポイント上回っている。

【図表 15-2 仕事をやめたり、中断、転職した理由(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	(%)									
			結婚のため	出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため	自分の健康や体力的な問題のため	労働条件に対して不満があったから	仕事の内容があわなかったから	高齢になったから	親や看病をする家族のため	職場のハラスメントがあったから	勤め先の都合のため	よりよい条件の仕事があったから
全 体		1,534	20.9	20.7	14.9	13.7	12.7	11.0	8.7	8.1	7.6	7.5
年 代 別	女 性	20歳未満	18	-	-	-	11.1	11.1	-	5.6	-	11.1
		20歳代	54	7.4	7.4	13.0	20.4	11.1	1.9	9.3	3.7	3.7
		30歳代	89	22.5	32.6	15.7	16.9	6.7	-	13.5	6.7	10.1
		40歳代	132	31.8	49.2	14.4	15.2	9.1	8.3	12.9	6.1	3.8
		50歳代	143	39.9	39.9	19.6	18.9	23.1	2.1	12.6	15.4	9.1
		60歳代	176	39.2	38.6	17.0	4.0	9.1	13.6	18.2	5.7	9.1
		70歳以上	269	39.0	29.7	16.4	4.5	4.8	24.2	13.0	4.8	7.4
	男 性	20歳未満	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	39	5.1	2.6	10.3	7.7	15.4	5.1	10.3	-	7.7
		30歳代	45	2.2	6.7	8.9	24.4	13.3	2.2	4.4	13.3	2.2
		40歳代	95	4.2	-	17.9	34.7	20.0	-	1.1	15.8	10.5
		50歳代	114	2.6	1.8	15.8	22.8	14.0	-	5.3	4.4	10.5
		60歳代	123	4.1	0.8	17.1	17.1	24.4	18.7	8.9	2.4	7.3
		70歳以上	191	1.6	1.0	10.5	9.9	14.1	25.7	5.8	3.7	7.9

1位 2位 3位

性年代別にみると、女性は 30 歳代以降で「結婚のため」、「出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため」が上位に入っている。「仕事の内容があわなかったから」は女性の 50 歳代及び男性の 60 歳代で2割台半ば、「労働条件に対して不満があったから」は男性の 40 歳代で3割台半ばと高くなっている。

【図表 15-3 仕事をやめたり、中断、転職した理由(地域別・上位 10 位)】

		n 数	(%)									
			結婚のため	出産・育児(出産休暇・育児休暇を除く)のため	自分の健康や体力的な問題のため	労働条件に対して不満があったから	仕事の内容が合わなかったから	高齢になったから	親や病気の家族の介護・看病をするため	職場のハラスメントがあったから	勤め先の都合のため	よりよい条件の仕事があったから
全 体		1,534	20.9	20.7	14.9	13.7	12.7	11.0	8.7	8.1	7.6	7.5
地域別	備前県民局管内	756	23.0	22.5	14.4	13.9	13.6	10.4	8.5	8.9	7.4	8.3
	備中県民局管内	612	18.8	17.5	15.8	14.1	12.3	12.1	9.5	7.2	8.2	5.9
	美作県民局管内	158	19.0	25.3	14.6	12.0	10.1	9.5	6.3	7.6	6.3	10.1

1位
 2位
 3位

地域別にみると、すべての地域で「結婚のため」が上位となっており、「出産・育児(出産休暇・育児休暇を除く)のため」は美作県民局管内(25.3%)が最も高く、備中県民局管内(17.5%)が最も低くなっており、7.8 ポイントの差がある。

【図表 15-4 仕事をやめたり、中断、転職した理由(職業別・上位 10 位)】

		n 数	(%)									
			結婚のため	出産・育児(出産休暇・育児休暇を除く)のため	自分の健康や体力的な問題のため	労働条件に対して不満があったから	仕事の内容が合わなかったから	高齢になったから	親や病気の家族の介護・看病をするため	職場のハラスメントがあったから	勤め先の都合のため	よりよい条件の仕事があったから
全 体		1,534	20.9	20.7	14.9	13.7	12.7	11.0	8.7	8.1	7.6	7.5
職業別	正規	515	10.3	11.3	10.7	20.8	13.2	2.3	3.3	8.3	6.8	9.9
	非正規	233	28.8	40.8	19.3	14.2	17.2	6.9	12.9	11.2	10.3	8.6
	自営業	128	18.8	17.2	12.5	12.5	12.5	7.8	8.6	9.4	4.7	6.3
	その他	563	27.5	23.6	18.1	8.7	12.1	21.0	10.7	7.1	8.2	5.7

1位
 2位
 3位

職業別にみると、「出産・育児(出産休暇・育児休暇を除く)のため」は非正規で約4割、「労働条件に対して不満があったから」は正規で約2割と高くなっている。

【図表 15-5 仕事をやめたり、中断、転職した理由(経年比較・上位 10 位)】

(%)

		n 数	結婚のため	出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため	自分の健康や体力的な問題のため	労働条件に対して不満があったから	仕事の内容が合わなかったから	高齢になったから	親や病気の家族の介護・看病をするため	職場のハラスメント（セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントなど）があったから	勤め先の都合のため	よりよい条件の仕事があったから
経年比較	H12	2,000	14.9	12.8	11.6	10.3	9.8	7.4	7.0		6.8	6.8
	H16	2,064	20.6	17.9	11.7	11.6	8.3	14.7	6.6		6.9	6.5
	H21	1,490	18.5	16.6	13.3	13.2	10.5	14.2	7.8	2.0	11.0	6.9
	H26	1,386	20.6	17.1	13.6	12.7	11.3	16.5	7.2	4.3	11.6	7.2
	R1	1,532	21.7	18.0	14.4	12.3	11.0	14.9	7.5	3.8	11.4	6.7
	R6	1,534	20.9	20.7	14.9	13.7	12.7	11.0	8.7	8.1	7.6	7.5

1位 2位 3位

経年比較でみると、大きな差はみられない。

※「親や病気の家族の介護・看病をするため」は、H12、H16 調査では「親や病気の家族の世話をするため」となっている。「勤め先の都合のため」は、H12、H16、H21 調査では「会社側の都合のため」となっている。

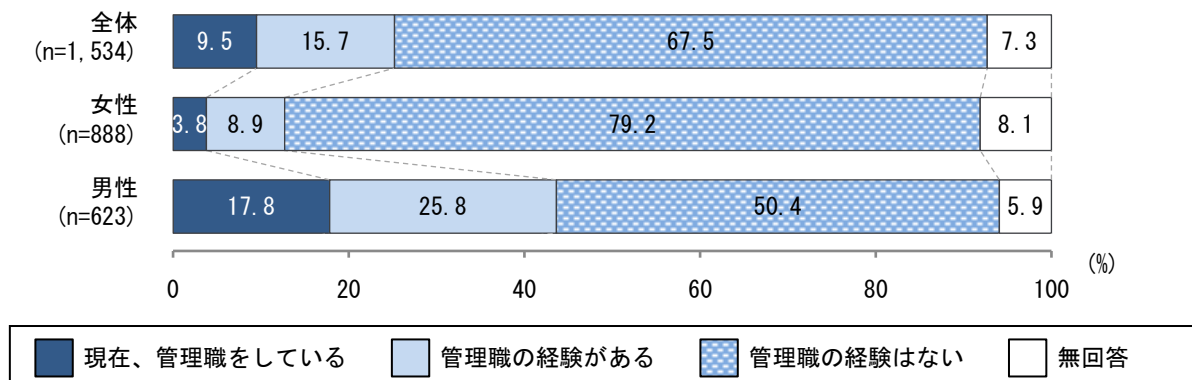
※「職場のハラスメント(セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントなど)があったから」は、H21 調査では「セクハラ、パワハラ」のみとなっている。H26 調査では「セクハラ、パワハラ」と「マタハラ」が分割して選択肢が設定されていたため、合計値を掲載している。R1調査では「ハラスメント(セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメントなど)があったから」となっている。

【新規】

(7) 管理職の経験の有無

問16 あなたは管理職の経験がありますか。(✓は1つ)

【図表 16-1 管理職の経験の有無】

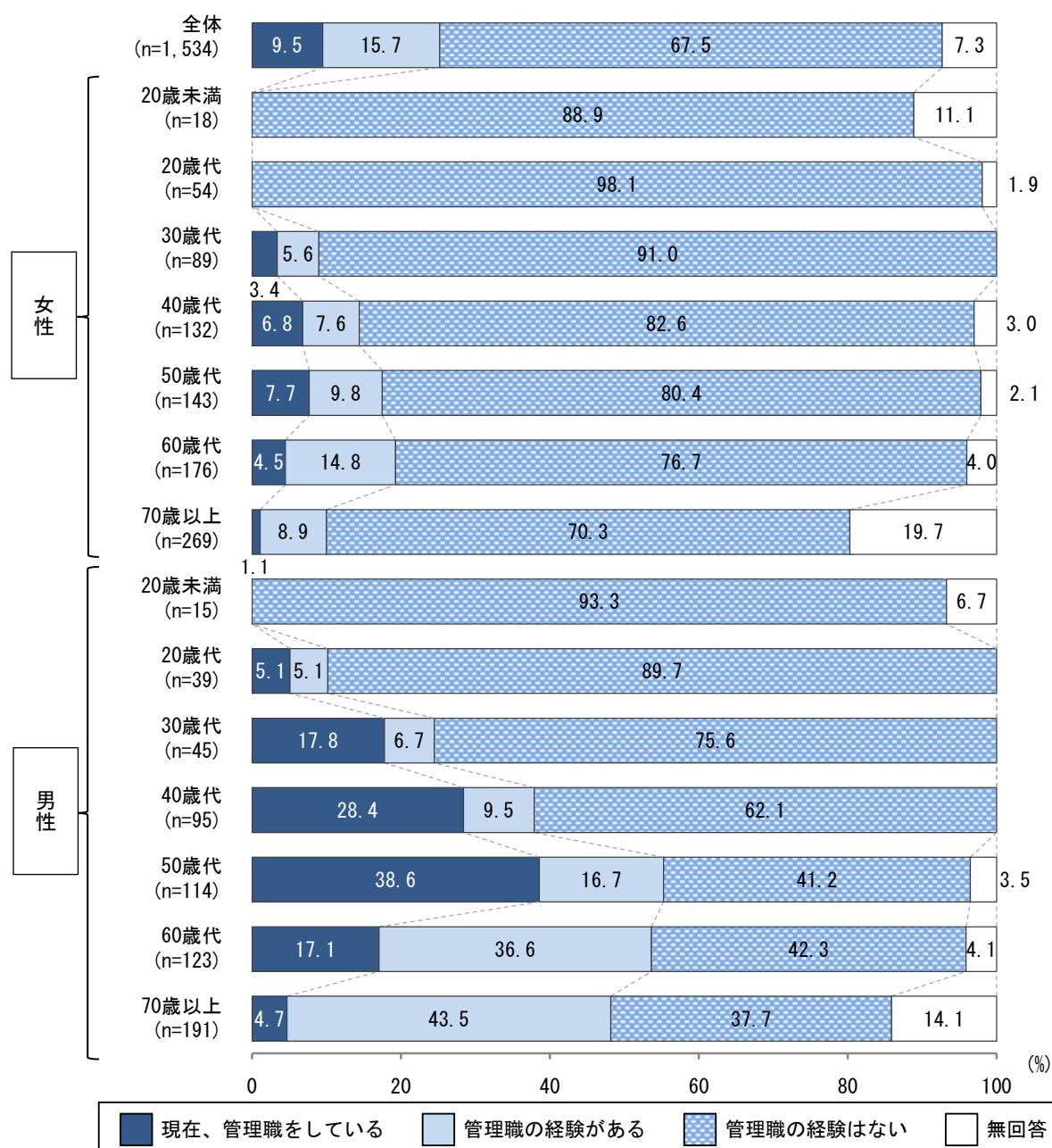


「管理職の経験はない」女性は約8割

管理職の経験の有無について、「管理職の経験はない」が67.5%と最も高く、次いで「管理職の経験がある」(15.7%)、「現在、管理職をしている」(9.5%)などの順となっている。

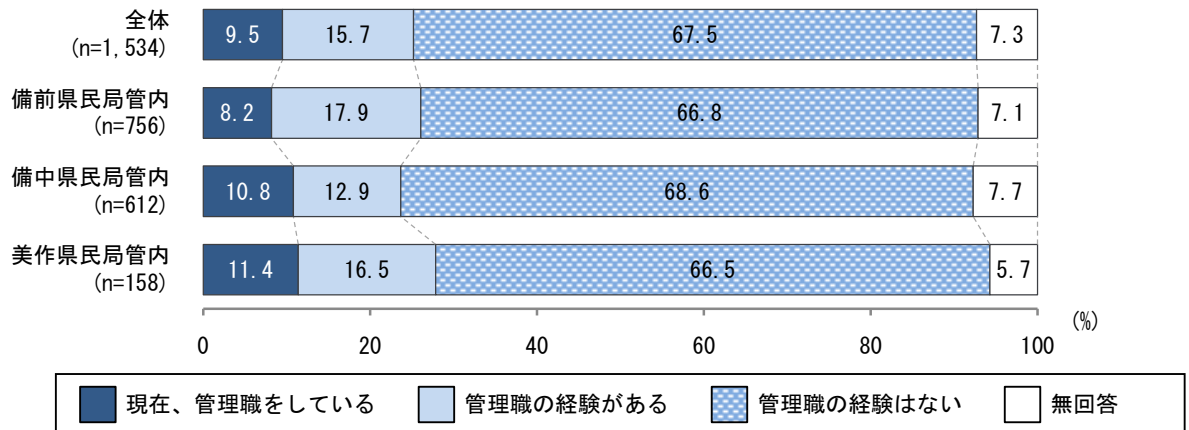
性別にみると、「現在、管理職をしている」は男性(17.8%)が女性(3.8%)を14.0ポイント上回っている。

【図表 16-2 管理職の経験の有無(性年代別)】



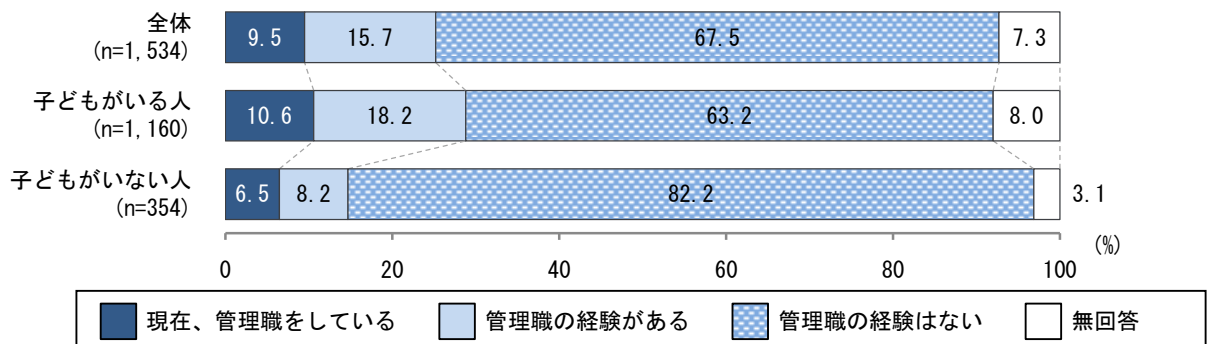
性年代別にみると、「現在、管理職をしている」割合は女性は30歳代～50歳代、男性は20歳代～50歳代で年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられるが、60歳代以降は低くなる傾向がみられる。

【図表 16-3 管理職の経験の有無(地域別)】



地域別にみると、「管理職の経験がある」は備前県民局管内で約2割と高くなっている。

【図表 16-4 管理職の経験の有無(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、「管理職の経験はない」は子どもがいない人(82.2%)が子どもがいる人(63.2%)を19.0ポイント上回っている。

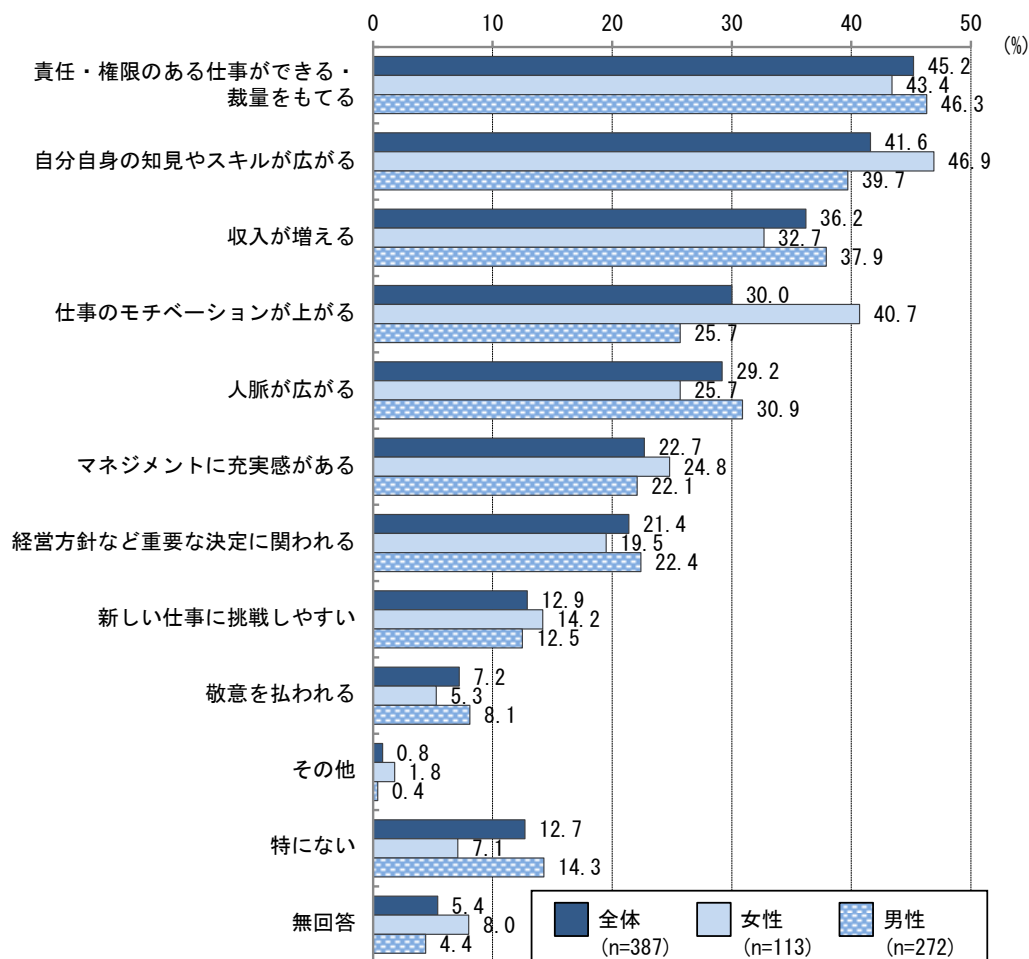
【新規】

(8) 管理職になってよかったと感じる(感じた)こと

問16で、「1.現在、管理職をしている」または「2.管理職の経験がある」を選択した方のみ

問17-1 あなたご自身が、管理職になってよかったと感じる(感じた)ことをお答えください。
(✓はいいくつでも)

【図表 17-1-1 管理職になってよかったと感じる(感じた)こと(性別)】



「責任・権限のある仕事ができる・裁量をもてる」が最も高い

管理職になってよかったと感じる(感じた)ことについて、「責任・権限のある仕事ができる・裁量をもてる」が45.2%と最も高く、次いで「自分自身の知見やスキルが広がる」(41.6%)、「収入が増える」(36.2%)などの順となっている。

性別にみると、「仕事のモチベーションが上がる」は女性(40.7%)が男性(25.7%)を15.0ポイント上回っており、「特になし」は男性(14.3%)が女性(7.1%)を7.2ポイント上回っている。

【図表 17-1-2 管理職になってよかったと感じる(感じた)こと(性年代別・上位9位)】

		n 数	で責任・権限のある仕事ができる・裁量をもてる	が自分自身の知見やスキルが広がる	収入が増える	仕事のモチベーションが上がる	人脈が広がる	マネジメントに充実感がある	経営方針など重要な決定に関与される	新しい仕事に挑戦しやすい	(%) 敬意を払われる
全 体		387	45.2	41.6	36.2	30.0	29.2	22.7	21.4	12.9	7.2
年 代 別	女 性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	8	37.5	37.5	37.5	50.0	25.0	50.0	12.5	37.5
		40歳代	19	42.1	42.1	26.3	31.6	15.8	15.8	10.5	15.8
		50歳代	25	32.0	52.0	44.0	28.0	28.0	28.0	12.0	28.0
		60歳代	34	44.1	52.9	29.4	47.1	26.5	20.6	26.5	2.9
		70歳以上	27	55.6	40.7	29.6	48.1	29.6	25.9	25.9	7.4
	男 性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	4	25.0	75.0	75.0	50.0	25.0	-	-	50.0
		30歳代	11	18.2	27.3	36.4	9.1	18.2	18.2	9.1	-
		40歳代	36	47.2	38.9	47.2	19.4	13.9	19.4	16.7	11.1
		50歳代	63	44.4	34.9	30.2	22.2	30.2	25.4	22.2	12.7
		60歳代	66	50.0	40.9	39.4	24.2	34.8	24.2	24.2	10.6
		70歳以上	92	48.9	42.4	37.0	32.6	37.0	20.7	26.1	13.0

1位 2位 3位

性年代別にみると、「収入が増える」は女性は 50 歳代で4割台半ば、男性は 40 歳代で約5割と高くなっている。また、「責任・権限のある仕事ができる・裁量をもてる」は男性は 40 歳代、60 歳代及び 70 歳以上で約5割と高くなっている。

【新規】

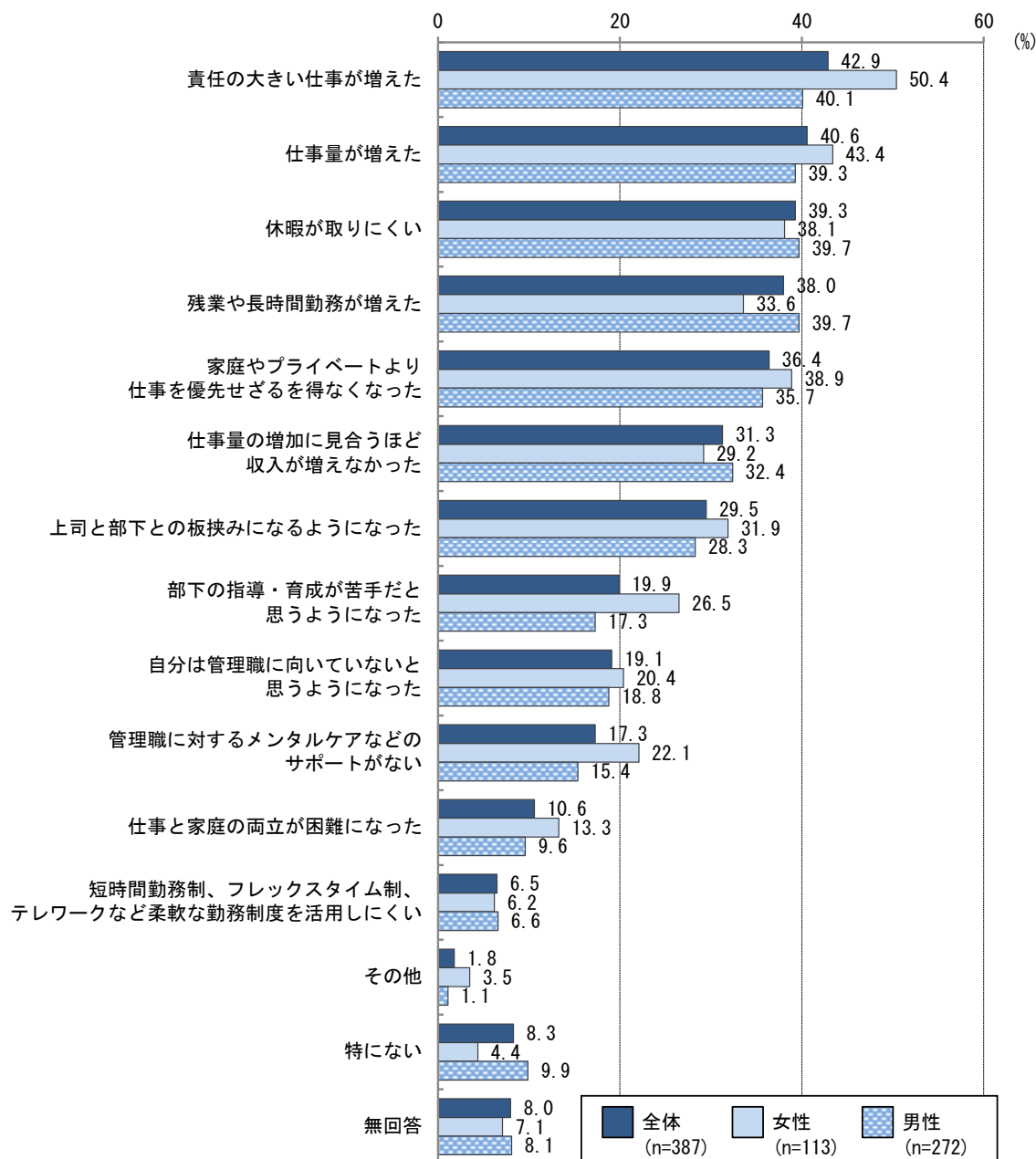
(9) 管理職になってよくなかったと感じる(感じた)こと

問16で、「1.現在、管理職をしている」または「2.管理職の経験がある」を選択した方のみ

問17-2 あなたご自身が、管理職になってよくなかったと感じる(感じた)ことをお答えください。

(✓はいくつでも)

【図表 17-2-1 管理職になってよくなかったと感じる(感じた)こと(性別)】



「責任の大きい仕事が増えた」が最も高い

管理職になってよくなかったと感じる(感じた)ことについて、「責任の大きい仕事が増えた」が42.9%と最も高く、次いで「仕事量が増えた」(40.6%)、「休暇が取りにくい」(39.3%)などの順となっている。

性別にみると、「責任の大きい仕事が増えた」は女性(50.4%)が男性(40.1%)を 10.3 ポイント、「部下の指導・育成が苦手だと思うようになった」は女性(26.5%)が男性(17.3%)を 9.2 ポイント、「管理職に対するメンタルケアなどのサポートがない」は女性(22.1%)が男性(15.4%)を 6.7 ポイント上回っている。

【図表 17-2-2 管理職になってよくなかったと感じる(感じた)こと(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	え責任の大きい仕事が増えた	仕事量が増えた	休暇が取りにくい	残業や長時間勤務が増えた	家庭やプライベートより仕事を優先せざるを得なくなった	仕事量の増加に見合うほど収入が増えなかった	上司と部下との板挟みになるようになった	部下の指導・育成が苦手だと思うようになった	自分は管理職に向いていないと思うようになった	管理職に対するサポートがない	(%)	
全 体		387	42.9	40.6	39.3	38.0	36.4	31.3	29.5	19.9	19.1	17.3		
年代別	女性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		30歳代	8	62.5	37.5	37.5	25.0	37.5	25.0	75.0	25.0	37.5	37.5	
		40歳代	19	57.9	52.6	31.6	42.1	42.1	42.1	47.4	42.1	36.8	36.8	
		50歳代	25	56.0	60.0	32.0	24.0	20.0	32.0	36.0	36.0	32.0	28.0	
		60歳代	34	52.9	47.1	50.0	47.1	44.1	26.5	23.5	20.6	11.8	11.8	
		70歳以上	27	33.3	18.5	33.3	22.2	48.1	22.2	14.8	14.8	3.7	14.8	
	男性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		20歳代	4	100.0	100.0	50.0	75.0	50.0	75.0	50.0	25.0	25.0	25.0	
		30歳代	11	54.5	63.6	72.7	54.5	45.5	72.7	45.5	18.2	27.3	36.4	
		40歳代	36	44.4	50.0	36.1	30.6	33.3	55.6	50.0	25.0	27.8	22.2	
		50歳代	63	44.4	34.9	46.0	36.5	39.7	41.3	28.6	17.5	27.0	23.8	
		60歳代	66	31.8	33.3	43.9	42.4	28.8	24.2	19.7	21.2	16.7	10.6	
		70歳以上	92	37.0	37.0	29.3	40.2	37.0	16.3	22.8	10.9	9.8	7.6	

1位

2位

3位

1位 2位 3位

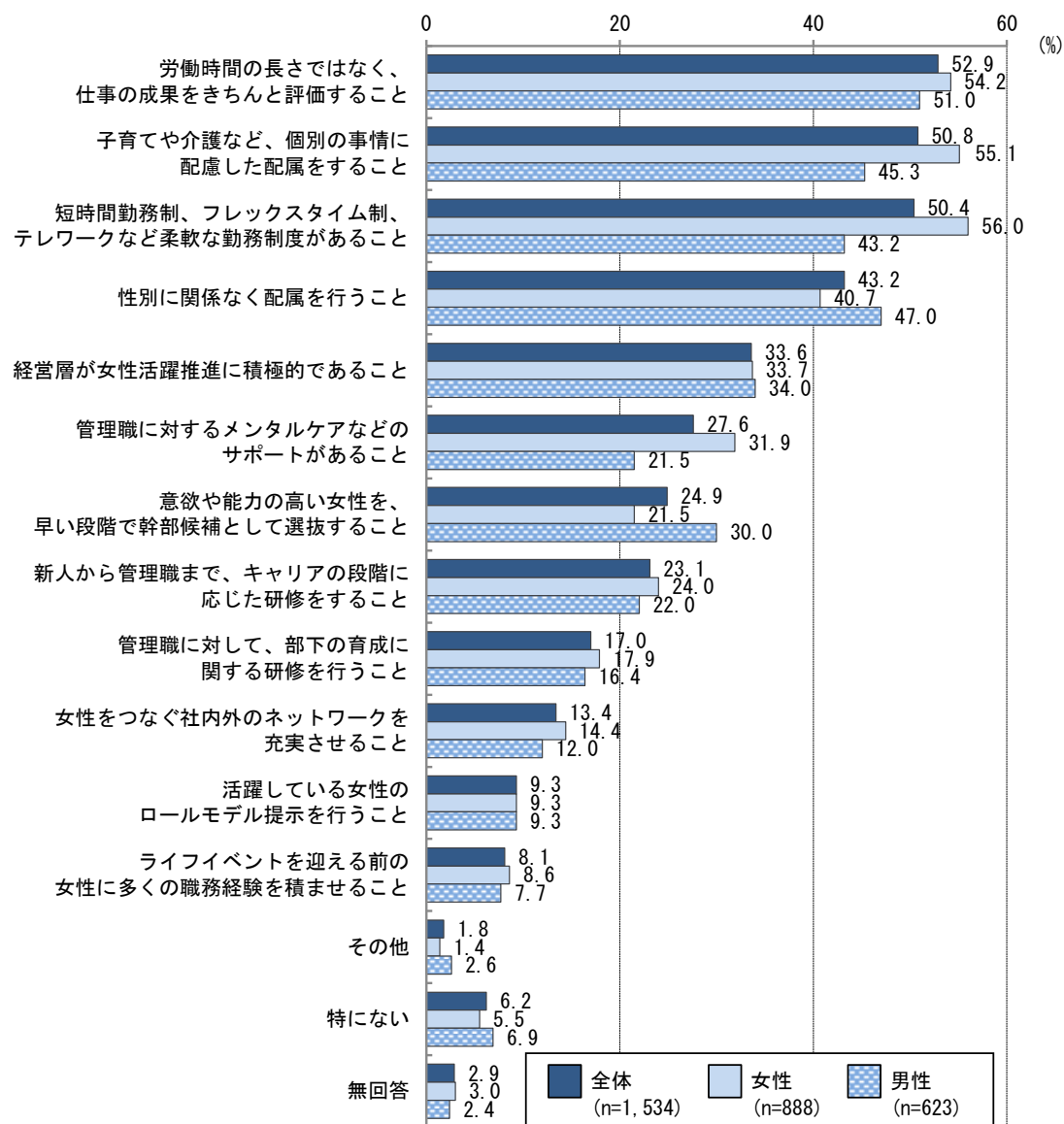
性年代別にみると、「仕事量が増えた」は女性は 50 歳代で 6 割、男性は 40 歳代で 5 割と高くなっている。また、「休暇が取りにくい」は女性は 60 歳代で 5 割、男性は 50 歳代及び 60 歳代で 4 割台半ばと高くなっている。

【新規】

(10) 女性の管理職が増えるために必要な制度や支援

問18 現在、社会全般では女性活躍推進の取組がされていますが、どのような制度や支援があれば、女性の管理職が増えると思いますか。(✓はいいくつでも)

【図表 18-1 女性の管理職が増えるために必要な制度や支援(性別)】



「労働時間の長さではなく、仕事の成果をきちんと評価すること」が最も高い

女性の管理職が増えるために必要な制度や支援について、「労働時間の長さではなく、仕事の成果をきちんと評価すること」が 52.9%と最も高く、次いで「子育てや介護など、個別の事情に配慮した配属をすること」(50.8%)、「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があること」(50.4%)などの順となっている。

性別にみると、「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があること」は女性(56.0%)が男性(43.2%)を 12.8 ポイント、「管理職に対するメンタルケアなどのサポートがあること」は女性(31.9%)が男性(21.5%)を 10.4 ポイント、「子育てや介護など、個別の事情に配慮した配属をすること」は女性(55.1%)が男性(45.3%)を 9.8 ポイント上回っている。一方、「意欲や能力の高い女性を、早い段階で幹部候補として選抜すること」は男性(30.0%)が女性(21.5%)を 8.5 ポイント、「性別に関係なく配属を行うこと」は男性(47.0%)が女性(40.7%)を 6.3 ポイント上回っている。

【図表 18-2 女性の管理職が増えるために必要な制度や支援(性年代別・上位 10 位)】

			n 数	労働時間の長さでなく、仕事の成果をきちんと評価すること	子育てや介護など、個別の事情に配慮した配属をすること	短時間勤務制、フレックスタイトム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があること	性別に関係なく配属を行うこと	経営層が女性活躍推進に積極的であること	管理職に対するメンタルケアなどのサポートがあること	意欲や能力の高い女性を選抜する段階で幹部候補として選抜すること	新人から管理職まで、キャリアの段階に応じた研修をすること	管理職に対して、部下の育成に関する研修を行うこと	(%) 女性をつなぐ社内外のネットワークを充実させること
全 体			1,534	52.9	50.8	50.4	43.2	33.6	27.6	24.9	23.1	17.0	13.4
年代別	女性	20歳未満	18	44.4	44.4	61.1	61.1	27.8	33.3	22.2	16.7	-	11.1
		20歳代	54	64.8	53.7	66.7	48.1	33.3	35.2	22.2	37.0	20.4	13.0
		30歳代	89	57.3	67.4	76.4	50.6	40.4	27.0	20.2	28.1	16.9	21.3
		40歳代	132	65.2	58.3	63.6	38.6	38.6	37.9	24.2	28.8	23.5	13.6
		50歳代	143	61.5	56.6	51.0	44.1	35.7	37.1	28.0	24.5	21.7	15.4
		60歳代	176	57.4	60.8	65.3	41.5	39.8	34.7	16.5	23.9	17.6	17.0
		70歳以上	269	40.9	47.2	39.4	33.5	24.9	26.0	20.4	18.2	14.9	11.2
	男性	20歳未満	15	33.3	20.0	33.3	40.0	13.3	6.7	33.3	33.3	-	13.3
		20歳代	39	53.8	48.7	59.0	61.5	41.0	25.6	25.6	35.9	25.6	15.4
		30歳代	45	66.7	51.1	55.6	53.3	20.0	15.6	31.1	15.6	8.9	11.1
		40歳代	95	57.9	45.3	50.5	60.0	32.6	26.3	31.6	20.0	20.0	13.7
		50歳代	114	53.5	42.1	45.6	54.4	34.2	25.4	33.3	21.1	15.8	13.2
		60歳代	123	53.7	54.5	41.5	51.2	35.8	19.5	30.1	16.3	13.0	13.8
		70歳以上	191	41.9	41.4	34.0	29.3	37.2	19.9	27.7	25.1	18.3	8.9
				1位	2位	3位							

1位 2位 3位

性年代別にみると、「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があること」は女性の 30 歳代で7割台半ば、「労働時間の長さではなく、仕事の成果をきちんと評価すること」は女性は 20 歳代及び 40 歳代、男性は 30 歳代で6割台半ばと高くなっている。

【図表 18-3 女性の管理職が増えるために必要な制度や支援(職業別・上位 10 位)】

												(%)	
		n 数	仕事の成果をきちんと評価すること	労働時間の長さではなく、仕事の成果をきちんと評価すること	子育てや介護など、個別の事情に配慮した配属をすること	短時間勤務制、フレックスタイト制、勤務制など柔軟な勤務制度があること	性別に関係なく配属を行うこと	経営層が女性活躍推進に積極的であること	管理職に対するメンタルケアなどのサポートがあること	意欲や能力の高い女性を選抜すること	新人から管理職まで、キャリアの段階に応じた研修をやること	管理職に対して、部下の育成に関する研修を行うこと	女性をつなぐ社内外のネットワークを充実させること
全 体		1,534	52.9	50.8	50.4	43.2	33.6	27.6	24.9	23.1	17.0	13.4	
職業別	正規	515	58.8	46.4	52.2	52.4	35.9	27.4	28.7	25.2	17.9	15.5	
	非正規	233	61.8	61.4	58.4	45.5	35.2	32.2	21.9	22.3	18.0	15.5	
	自営業	128	50.8	52.3	46.9	41.4	30.5	28.1	26.6	19.5	16.4	9.4	
	その他	563	48.8	54.2	51.3	36.9	35.5	27.9	24.5	24.0	16.2	12.6	
			1位	2位	3位								

1位 2位 3位

職業別にみると、「労働時間の長さではなく、仕事の成果をきちんと評価すること」は正規・非正規とも約6割、「性別に関係なく配属を行うこと」は正規で5割超と高くなっている。「子育てや介護など、個別の事情に配慮した配属をすること」は非正規(61.4%)が最も高く、正規(46.4%)が最も低くなっており、15.0 ポイントの差がある。

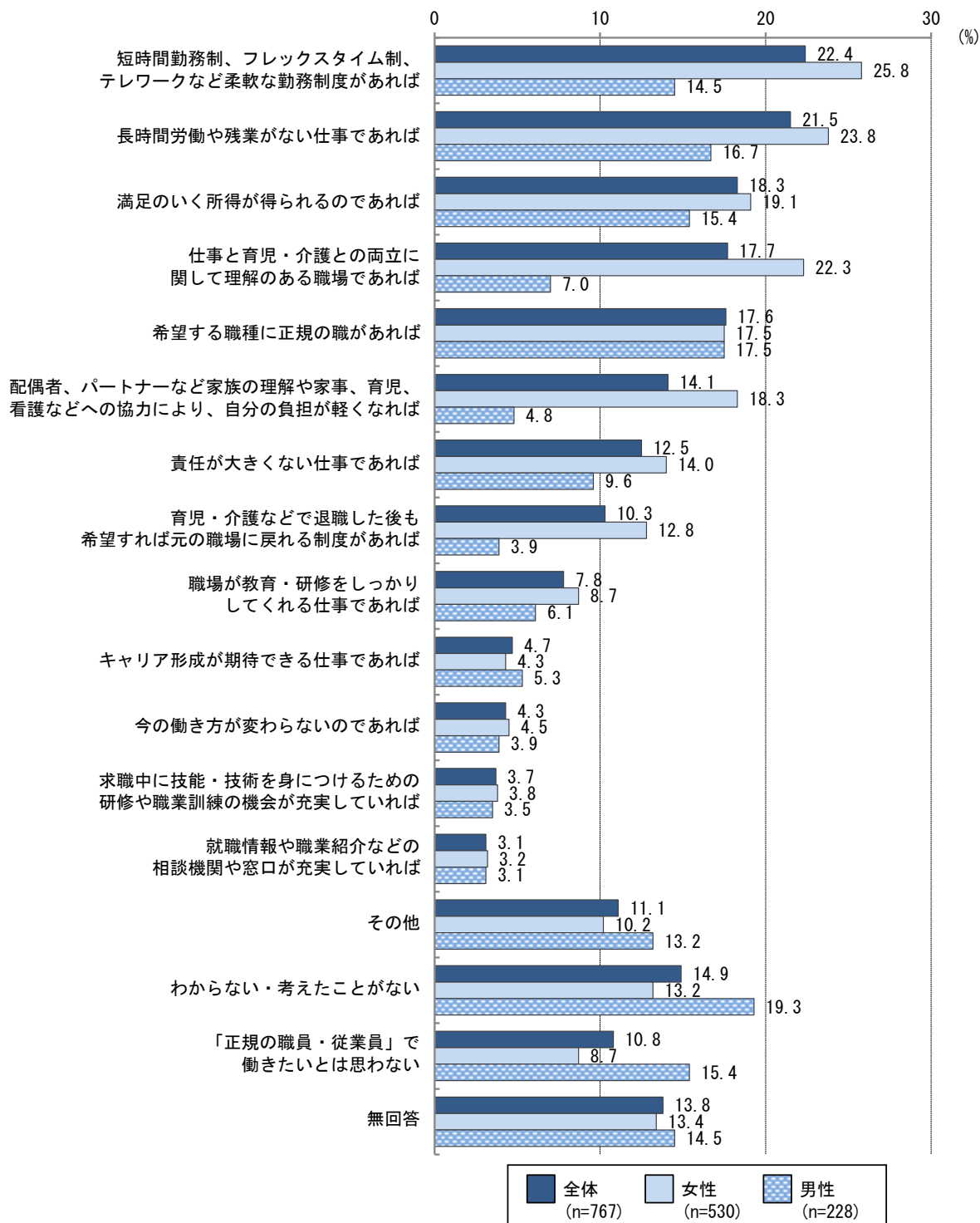
【新規】

(11) 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素

現在、正規の職員・従業員以外の形で雇用されている方、または仕事をしていない方のみ

問20 どのような条件があれば「正規の職員・従業員」として働きたいと思いますか。(✓はいいくつでも)

【図表 20-1 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素(性別)】



「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」が最も高い

正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素について、「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」が 22.4%と最も高く、次いで「長時間労働や残業がない仕事であれば」(21.5%)、「満足のいく所得が得られるのであれば」(18.3%)などの順となっている。

性別にみると、「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は女性(22.3%)が男性(7.0%)を 15.3 ポイント、「配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば」は女性(18.3%)が男性(4.8%)を 13.5 ポイント、「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」は女性(25.8%)が男性(14.5%)を 11.3 ポイント上回っている。

【図表 20-2 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば	長時間労働や残業がない仕事であれば	満足のいく所得が得られるのであれば	仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	希望する職種に正規の職があれば	配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば	責任が大きい仕事であれば	育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度があれば	職場が教育・研修をしっかりと行っている仕事であれば	キャリア形成が期待できる仕事であれば	(%)	
全 体		767	22.4	21.5	18.3	17.7	17.6	14.1	12.5	10.3	7.8	4.7		
年代別	女性	20歳未満	16	31.3	43.8	56.3	37.5	50.0	6.3	6.3	43.8	31.3	25.0	
		20歳代	21	47.6	57.1	71.4	47.6	47.6	14.3	19.0	47.6	33.3	14.3	
		30歳代	38	60.5	57.9	34.2	63.2	28.9	47.4	15.8	21.1	5.3	7.9	
		40歳代	61	45.9	37.7	29.5	37.7	19.7	29.5	19.7	13.1	16.4	4.9	
		50歳代	76	23.7	25.0	22.4	21.1	27.6	26.3	22.4	14.5	10.5	6.6	
		60歳代	128	29.7	21.9	16.4	18.8	14.8	21.1	13.3	12.5	7.8	2.3	
		70歳以上	186	8.1	7.5	4.3	8.1	5.9	4.8	9.1	4.3	2.2	1.1	
	男性	20歳未満	13	46.2	46.2	46.2	15.4	69.2	-	7.7	7.7	15.4	23.1	
		20歳代	11	36.4	36.4	27.3	36.4	72.7	18.2	9.1	18.2	27.3	45.5	
		30歳代	4	25.0	25.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	-	25.0	
		40歳代	9	22.2	55.6	77.8	33.3	44.4	11.1	33.3	11.1	22.2	22.2	
		50歳代	8	12.5	37.5	37.5	-	50.0	-	12.5	-	12.5	12.5	
		60歳代	60	15.0	10.0	13.3	6.7	13.3	5.0	11.7	6.7	3.3	-	
		70歳以上	122	8.2	10.7	4.9	2.5	4.9	3.3	7.4	0.8	3.3	-	
				1位	2位	3位								

1位 2位 3位

性年代別にみると、「満足のいく所得が得られるのであれば」は女性は 20 歳代、男性は 40 歳代で7割超、「希望する職種に正規の職があれば」は男性の 20 歳代で7割超、「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は女性の 30 歳代で6割台半ば、「育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度があれば」は女性の 20 歳未満及び 20 歳代で4割超と高くなっている。

【図表 20-3 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素(地域別・上位 10 位)】

		n 数	が制短 あ、時 れば間 テレ勤 ワーク務 制、フ レック スタイ ム度	ば長 時間 労働 や残 業が ない 仕事 であ れ	ば満 足の いく 所得 が得 られ るの であ れ	理仕 解事 のと 育児 ・介 護と の両 立に 関し て	希 望す る職 種に 正規 の職 があ れば	より家 偶者 、パ ート ナー など 家族 の理 解に 解	責 任が 大き く不 い仕 事であ れば	ばす 育児 ・介 護な どで 退職 した 後も 希 望	れる職 場が 教育 ・研 修を しつ かり して く	ればキ ャリ ア形 成が 期待 でき る仕 事であ れ
全 体		767	22.4	21.5	18.3	17.7	17.6	14.1	12.5	10.3	7.8	4.7
地域 居住 別	備前県民局管内	395	24.1	22.8	19.2	18.5	19.2	12.9	14.7	9.6	8.6	4.8
	備中県民局管内	298	19.8	18.8	16.1	16.4	14.4	12.8	10.7	10.7	5.7	3.4
	美作県民局管内	71	23.9	26.8	21.1	19.7	21.1	26.8	8.5	12.7	12.7	9.9

1位 2位 3位

地域別にみると、「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」は備前県民局管内、美作県民局管内で2割台半ばと高くなっている。「配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば」は美作県民局管内が(26.8%)で2割台半ばと高くなっている。

【図表 20-4 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素(就労状況別・上位 10 位)】

		n 数	が制短 あ、時 れば間 テレ勤 ワーク務 制、フ レック スタイ ム度	ば長 時間 労働 や残 業が ない 仕事 であ れ	ば満 足の いく 所得 が得 られ るの であ れ	理仕 解事 のと 育児 ・介 護と の両 立に 関し て	希 望す る職 種に 正規 の職 があ れば	より家 偶者 、パ ート ナー など 家族 の理 解に 解	責 任が 大き く不 い仕 事であ れば	ばす 育児 ・介 護な どで 退職 した 後も 希 望	れる職 場が 教育 ・研 修を しつ かり して く	ればキ ャリ ア形 成が 期待 でき る仕 事であ れ
全 体		767	22.4	21.5	18.3	17.7	17.6	14.1	12.5	10.3	7.8	4.7
就 労 状 況 別	共働き家庭	139	36.7	30.9	24.5	28.1	22.3	32.4	12.9	14.4	10.1	3.6
	専業主婦(夫)家庭	88	37.5	27.3	12.5	35.2	14.8	25.0	15.9	14.8	8.0	4.5

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「満足のいく所得が得られるのであれば」は共働き家庭(24.5%)が専業主婦(夫)家庭(12.5%)を 12.0 ポイント上回っており、「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は専業主婦(夫)家庭(35.2%)が共働き家庭(28.1%)を 7.1 ポイント上回っている。

【図表 20-5 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素(職業別・上位 10 位)】

(%)

		n 数	短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば	長時間労働や残業がない仕事であれば	満足のいく所得が得られるのである	仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	希望する職種に正規の職があれば	配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば	責任が大きい仕事であれば	育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度があれば	職場が教育・研修をしっかりと行っている仕事であれば	キャリア形成が期待できる仕事であれば
全 体		767	22.4	21.5	18.3	17.7	17.6	14.1	12.5	10.3	7.8	4.7
職 業 別	非正規	233	30.9	28.8	26.6	22.3	24.0	24.0	13.7	12.0	10.3	4.7
	その他	534	18.7	18.4	14.6	15.7	14.8	9.7	12.0	9.6	6.7	4.7

1位 2位 3位

職業別にみると、「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」は非正規で約3割と高くなっている。

【図表 20-6 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素(子どもの有無別・上位 10 位)】

(%)

		n 数	短時間勤務制、フレックスタイムなど柔軟な勤務制度があれば	長時間労働や残業がない仕事であれば	満足はいく所得が得られるのである	仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	希望する職種に正規の職があれば	配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば	責任が大きい仕事であれば	育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度があれば	職場が教育・研修をしっかりと行っている仕事であれば	キャリア形成が期待できる仕事であれば
全 体		767	22.4	21.5	18.3	17.7	17.6	14.1	12.5	10.3	7.8	4.7
子どもの有無別	子どもがいる人	615	20.8	17.7	13.0	16.9	11.7	15.0	11.9	8.5	6.3	2.6
	子どもがいない人	144	29.9	38.9	39.6	22.2	43.1	11.1	15.3	18.8	14.6	13.2

1位 2位 3位

子どもの有無別にみると、子どもがいる人では「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」が 20.8%で最も高く、次いで「長時間労働や残業がない仕事であれば」(17.7%)、「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」(16.9%)などの順となっている。一方、子どもがいない人では「希望する職種に正規の職があれば」が 43.1%で最も高く、次いで「満足はいく所得が得られるのである」(39.6%)、「長時間労働や残業がない仕事であれば」(38.9%)などの順となっている。

【図表 20-7 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素(婚姻状況別・上位 10 位)】

		n 数	(%)									
			が制短 あれば、 時間勤 務制、 テレワ ークな どフレ ックサ イム 制度	ば長 時間 労働 や残 業が ない 仕事 であ れば	ば満 足の いく 所得 が得 られ るの であ れば	理仕 事と 育児 ・介 護と の両 立に 関し て理 解の ある 職場 であ れば	希 望す る職 種に 正規 の職 が あ れば	配 偶者 、パ ート ナー など 家族 の理 解に よ り、 自分 の負 担が 軽く な れば	責 任が 大き く ない 仕事 であ れば	ば育 児・ 介護 など で退 職し た後 も希 望 する 元職 場な どに 戻 れる 制 度 が あ れば	職 場が 教育 ・研 修を しつ かり して く る 仕事 であ れば	れキ ャリ ア形 成が 期待 でき る 仕事 であ れば
全 体		767	22.4	21.5	18.3	17.7	17.6	14.1	12.5	10.3	7.8	4.7
婚 姻 状 況 別	結婚している人	546	22.2	19.8	13.0	17.9	12.6	16.7	12.3	9.0	5.7	2.4
	離別・死別・未婚の人	219	23.3	26.0	31.1	17.4	29.7	7.8	13.2	13.7	13.2	10.5

1位 2位 3位

婚姻状況別にみると、結婚している人では「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」が 22.2%で最も高く、次いで「長時間労働や残業がない仕事であれば」(19.8%)、「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」(17.9%)などの順となっている。一方、離別・死別・未婚の人では「満足のいく所得が得られるのであれば」が 31.1%で最も高く、次いで「希望する職種に正規の職があれば」(29.7%)、「長時間労働や残業がない仕事であれば」(26.0%)などの順となっている。

【図表 20-8 正規の職員・従業員として働きたいと思う環境や要素(国調査との比較・上位 10 位)】

			n 数	短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば	長時間労働や残業がない仕事であれば	仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	満足いく所得が得られるのであれば	希望する職種に正規の職があれば	配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば	責任が大きい仕事であれば	育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻れる制度があれば	職場が教育・研修をしっかりとてくれる仕事であれば	今の働き方が変わらないのであれば	(%)
全 体			416	32.2	29.6	26.0	25.5	23.6	22.4	16.3	14.4	10.8	6.5	
女性	20～39歳	岡山県(R6)	59	55.9	57.6	57.6	47.5	35.6	35.6	16.9	30.5	15.3	5.1	
		国(R4)	2,019	13.6	28.8	24.2	23.8	27.2	20.4	22.3		10.4	5.5	
	40～69歳	岡山県(R6)	265	31.7	26.4	23.8	21.1	19.6	24.5	17.4	13.2	10.6	6.8	
		国(R4)	5,274	8.7	20.3	11.1	16.7	18.4	11.6	17.7		5.1	7.4	
男性	20～39歳	岡山県(R6)	15	33.3	33.3	26.7	26.7	60.0	20.0	6.7	13.3	20.0	6.7	
		国(R4)	985	12.2	24.5	6.9	25.7	35.7	6.7	19.0		12.3	5.0	
	40～69歳	岡山県(R6)	77	15.6	18.2	9.1	23.4	20.8	5.2	14.3	6.5	6.5	6.5	
		国(R4)	1,843	8.1	17.6	2.7	20.3	25.3	2.0	14.5		5.0	9.7	
				1位	2位	3位								

1位 2位 3位

各性年代ごとで国調査と比較すると、女性の 20～69 歳、男性の 20～39 歳では「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」、男性の 20～39 歳では「希望する職種に正規の職があれば」が令和6年調査と国調査で差が最も大きい。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

※「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば」は、国調査では「テレワークできる仕事であれば」となっている。「配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば」は、国調査では「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」となっている。

5 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

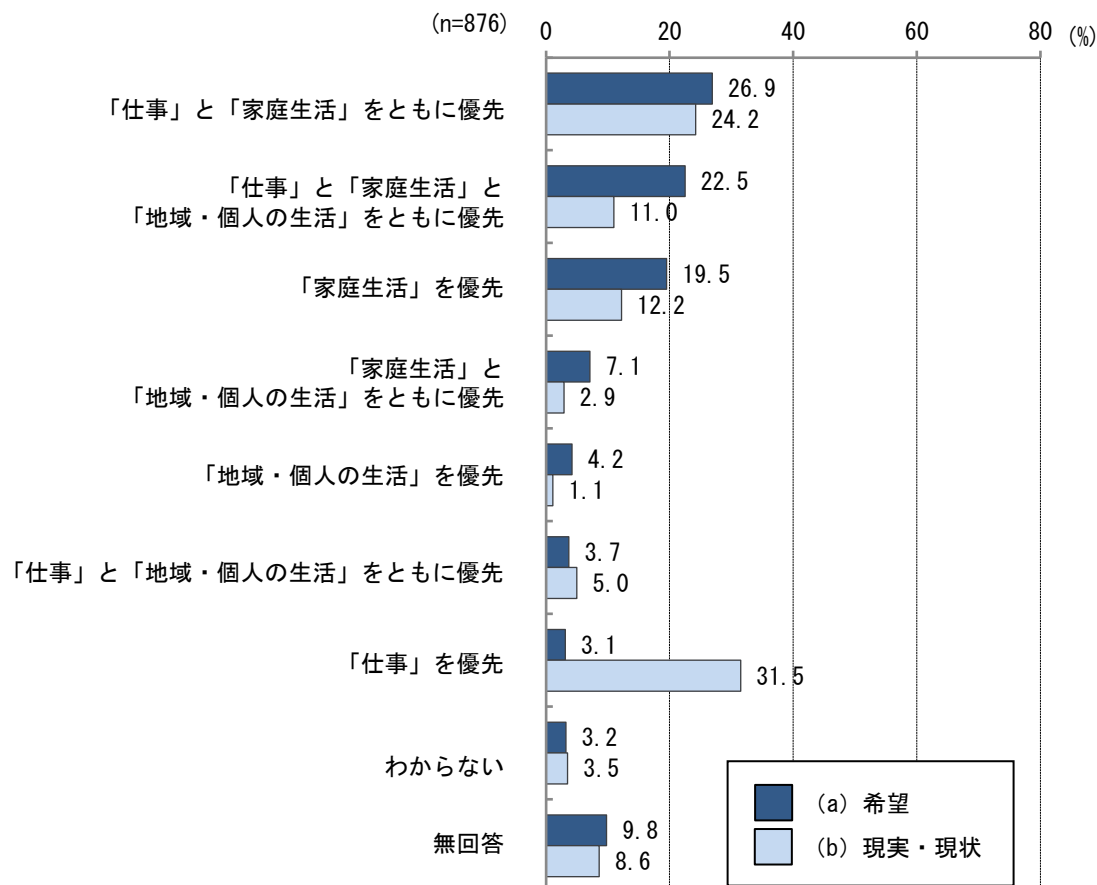
(1) 就労している人の日常生活の優先度＜希望と現実・現状＞

現在、仕事をしている方のみ

問21 日頃の生活における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望と現実・現状に最も近いものをお答えください。(✓は1つ)

※「地域・個人の生活」…地域活動・近所づきあい・スポーツ・趣味の活動・社会貢献活動など

【図表 21-1 就労している人の日常生活の優先度＜希望と現実・現状＞】



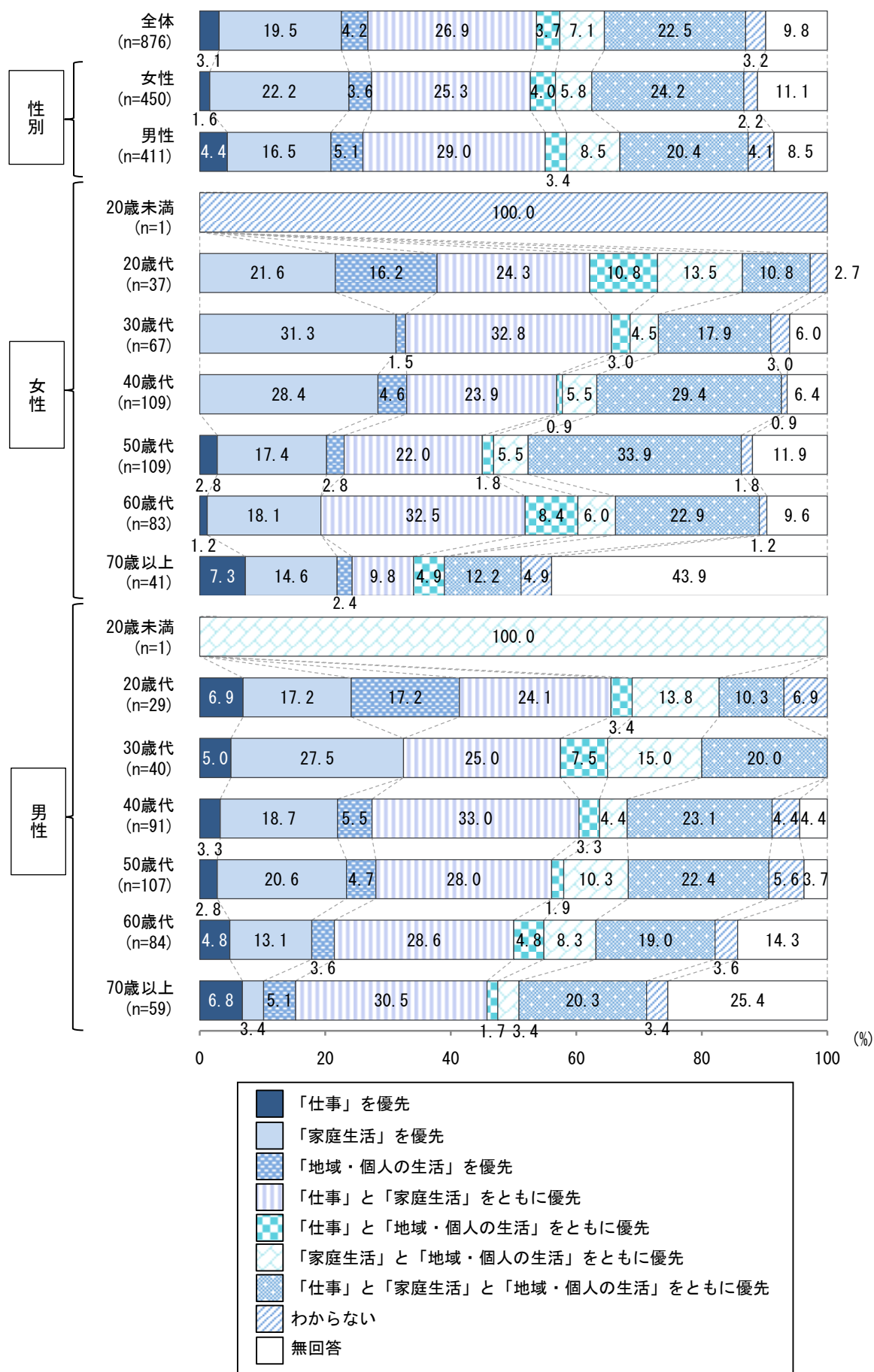
就労している人の日常の優先度の希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先だが、現実・現状では「仕事」を優先

就労している人の日常生活の優先度の希望について、「仕事」と「家庭生活」をともに優先が 26.9%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先(22.5%)、「家庭生活」を優先(19.5%)などの順となっている。

また、就労している人の日常の優先度の現実・現状について、「仕事」を優先が 31.5%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先(24.2%)、「家庭生活」を優先(12.2%)などの順となっている。

(a)就労している人の日常生活の優先度<希望>

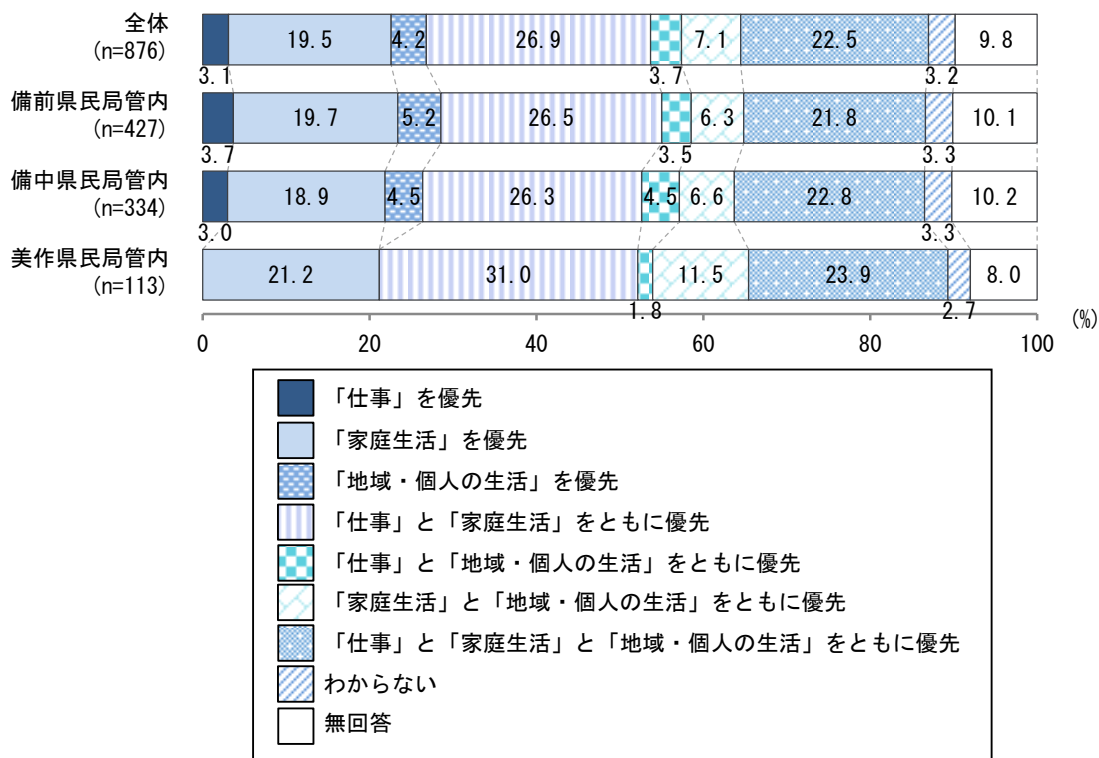
【図表 21-1-1 就労している人の日常生活の優先度<希望>(性別、性年代別)】



性別にみると、男女ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先(女性 25.3%、男性 29.0%)が最も高くなっている。また、「家庭生活」を優先は女性(22.2%)が男性(16.5%)を 5.7 ポイント上回っている。

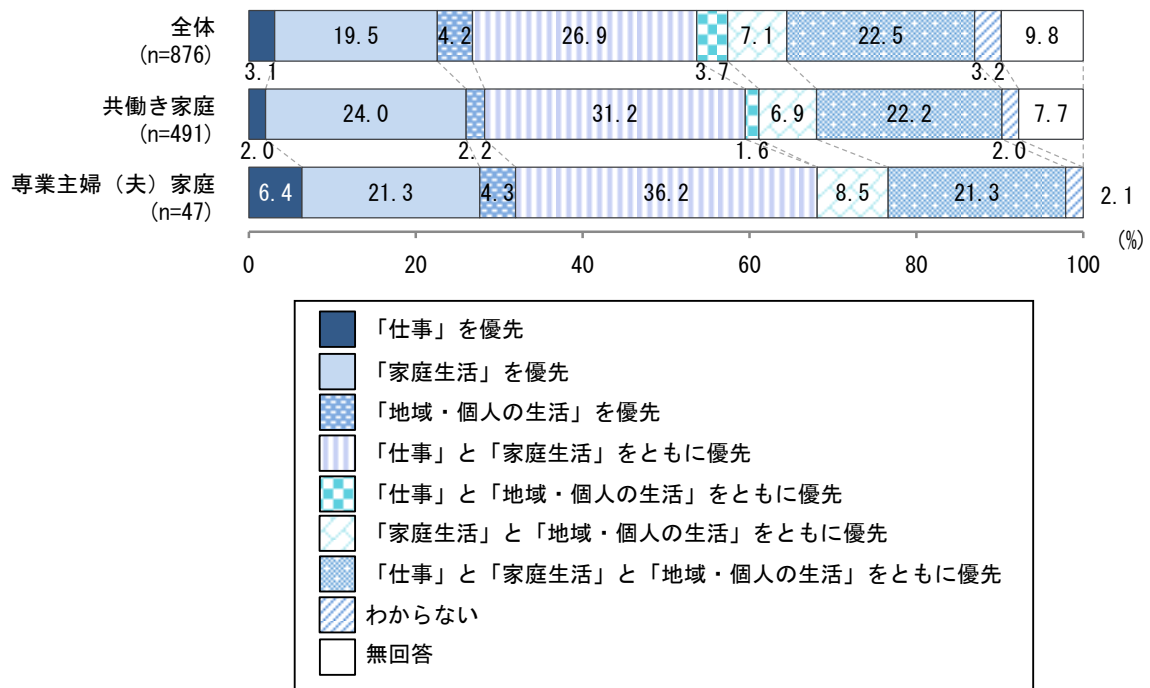
性年代別にみると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先は女性の 50 歳代で 3 割台半ばと高くなっている。男性は 20 歳代、40 歳代～70 歳以上で「仕事」と「家庭生活」をともに優先が最も高く、特に 40 歳代で 3 割台半ばと高くなっている。

【図表 21-1-2 就労している人の日常生活の優先度＜希望＞(地域別)】



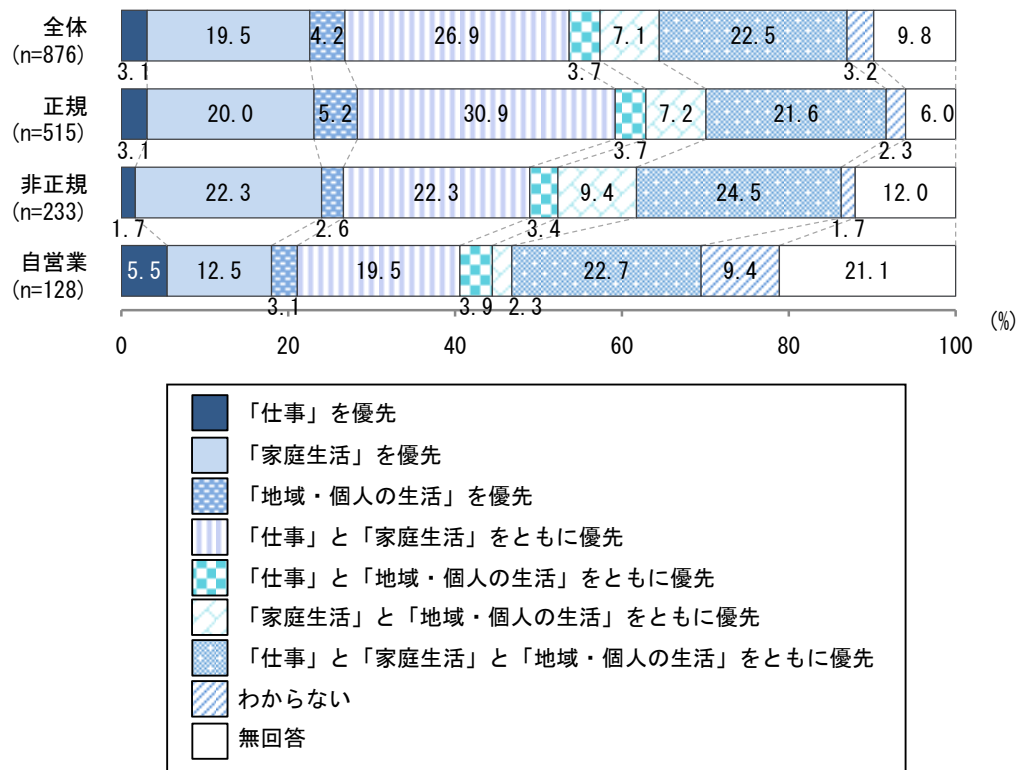
地域別にみると、すべての地域で「家庭生活」を優先が約 2 割となっている。「仕事」と「家庭生活」をともに優先は美作県民局管内で 3 割超と他の地域と比べて高くなっている。

【図表 21-1-3 就労している人の日常生活の優先度＜希望＞（就労状況別）】



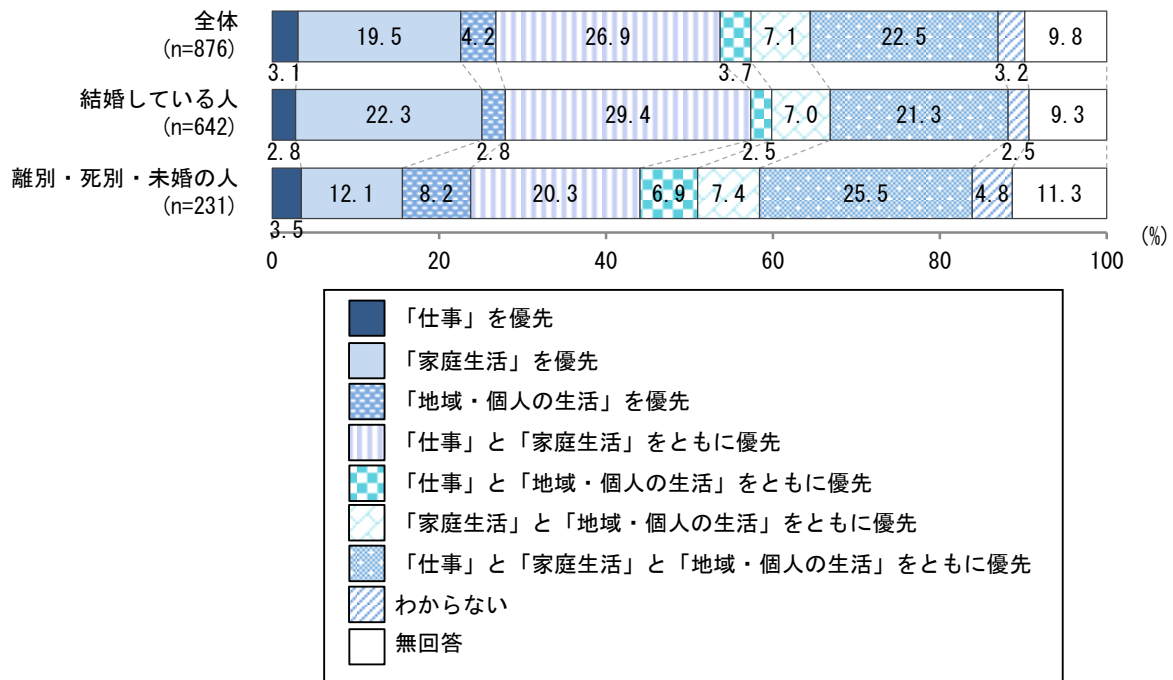
就労状況別にみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は、専業主婦（夫）家庭（36.2％）が共働き家庭（31.2％）を5.0ポイント上回っている。

【図表 21-1-4 就労している人の日常生活の優先度＜希望＞（職業別）】



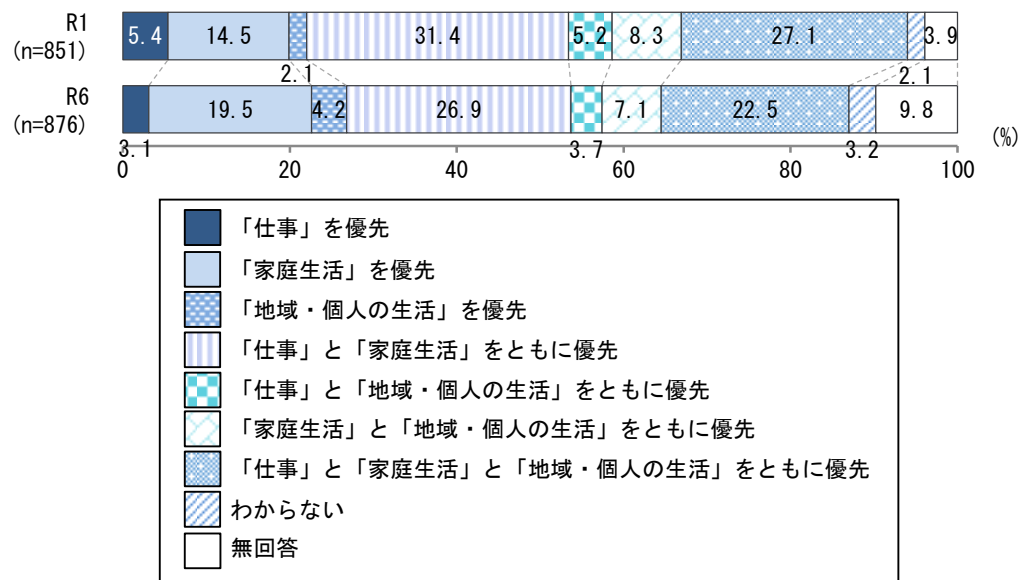
職業別でみると、自営業では「家庭生活」を優先が他の職業と比べて低い。また、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は正規で約3割と高くなっている。

【図表 21-1-5 就労している人の日常生活の優先度＜希望＞（婚姻状況別）】



婚姻状況別にみると、「家庭生活」を優先は結婚している人(22.3%)が離別・死別・未婚の人(12.1%)を10.2ポイント上回っている。

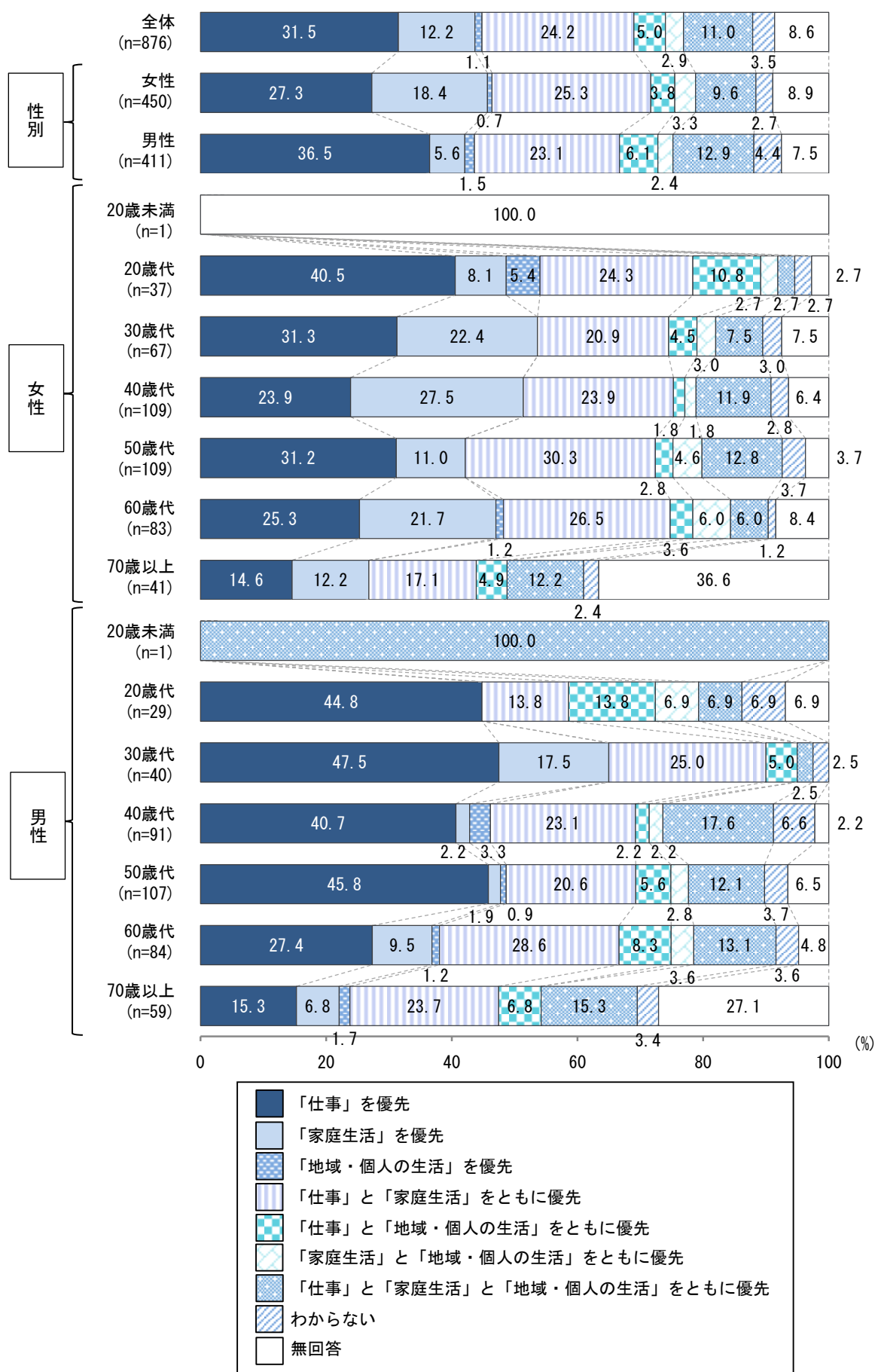
【図表 21-1-6 就労している人の日常生活の優先度＜希望＞（経年比較）】



経年比較でみると、「家庭生活」を優先は令和6年調査(19.5%)が令和元年調査(14.5%)を5.0ポイント上回っている。一方、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は令和6年調査(26.9%)が令和元年調査(31.4%)を4.5ポイント、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先は令和6年調査(22.5%)が令和元年調査(27.1%)を4.6ポイント下回っている。

(b)就労している人の日常生活の優先度<現実・現状>

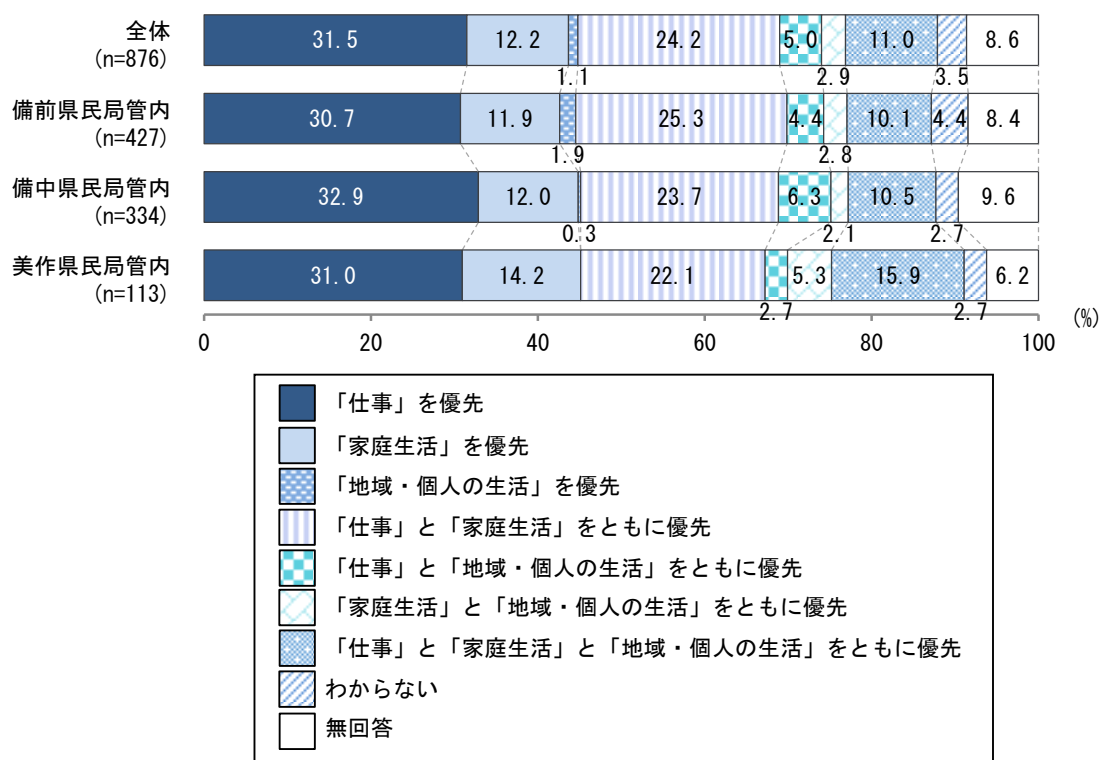
【図表 21-2-1 就労している人の日常生活の優先度<現実・現状> (性別、性年代別)】



性別にみると、男女ともに「仕事」を優先が最も高くなっており、男性(36.5%)が女性(27.3%)を 9.2 ポイント上回っている。「家庭生活」を優先は女性(18.4%)が男性(5.6%)を 12.8 ポイント上回っている。

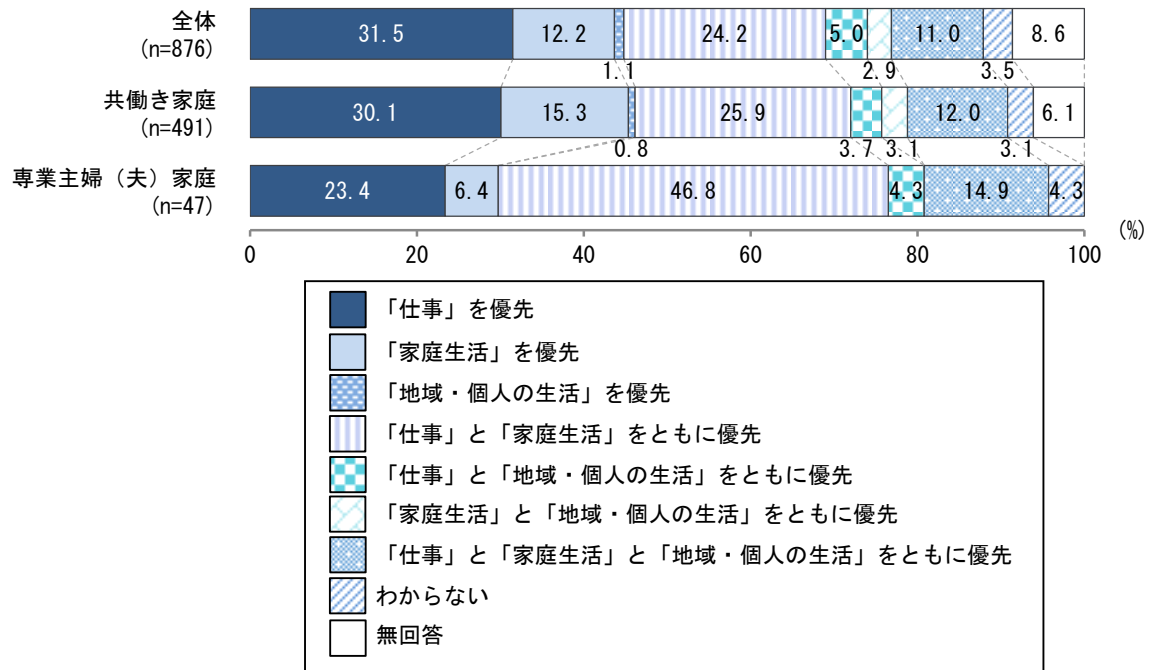
性年代別にみると、女性は 20 歳代及び 30 歳代では「仕事」を優先が最も高くなっているが、40 歳代、50 歳代及び 60 歳代では「仕事」を優先、「仕事」と「家庭生活」とともに優先が同程度の割合となっている。男性は 20 歳代から 50 歳代で「仕事」を優先が4割超で最も高くなっている。

【図表 21-2-2 就労している人の日常生活の優先度＜現実・現状＞（地域別）】



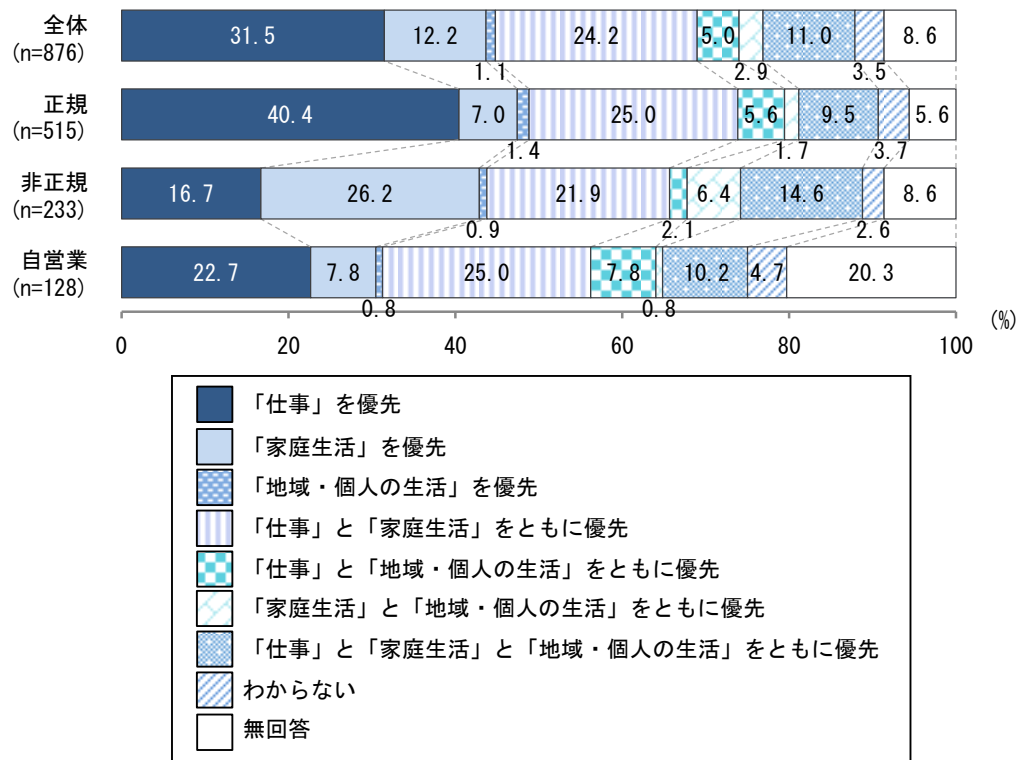
地域別にみると、「仕事」を優先はすべての地域で最も高くなっている。「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先は美作県民局管内で1割台半ばと他の地域と比べて高くなっている。

【図表 21-2-3 就労している人の日常生活の優先度＜現実・現状＞（就労状況別）】



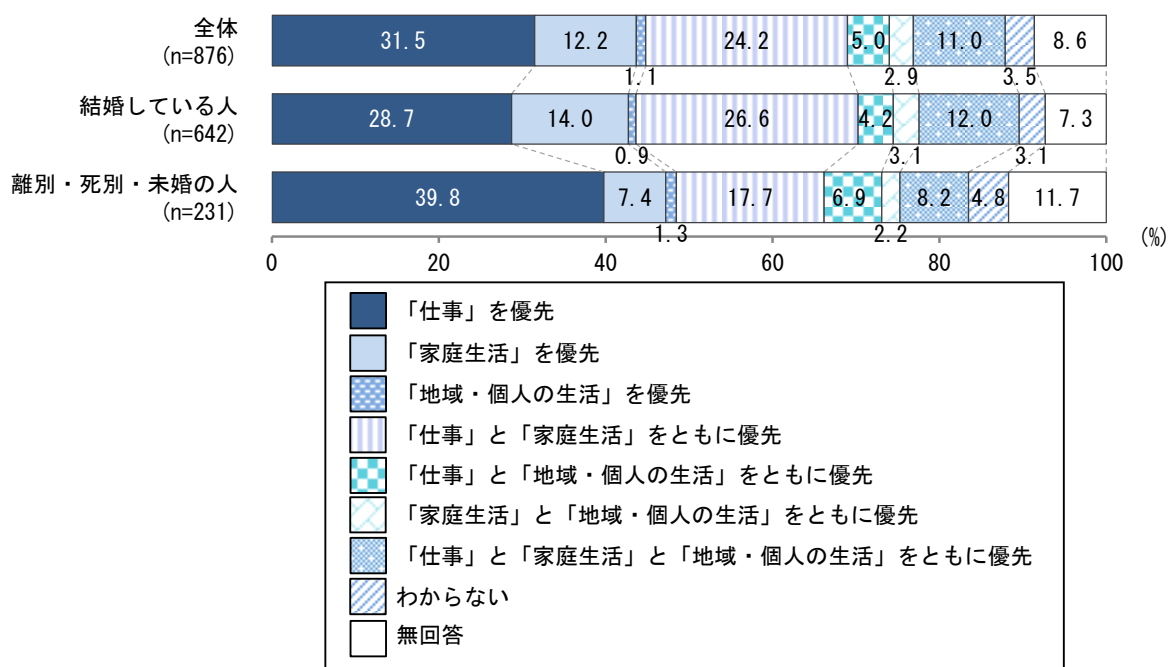
就労状況別にみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は専業主婦（夫）家庭（46.8％）が共働き家庭（25.9％）を 20.9 ポイント上回っている。

【図表 21-2-4 就労している人の日常生活の優先度＜現実・現状＞（職業別）】



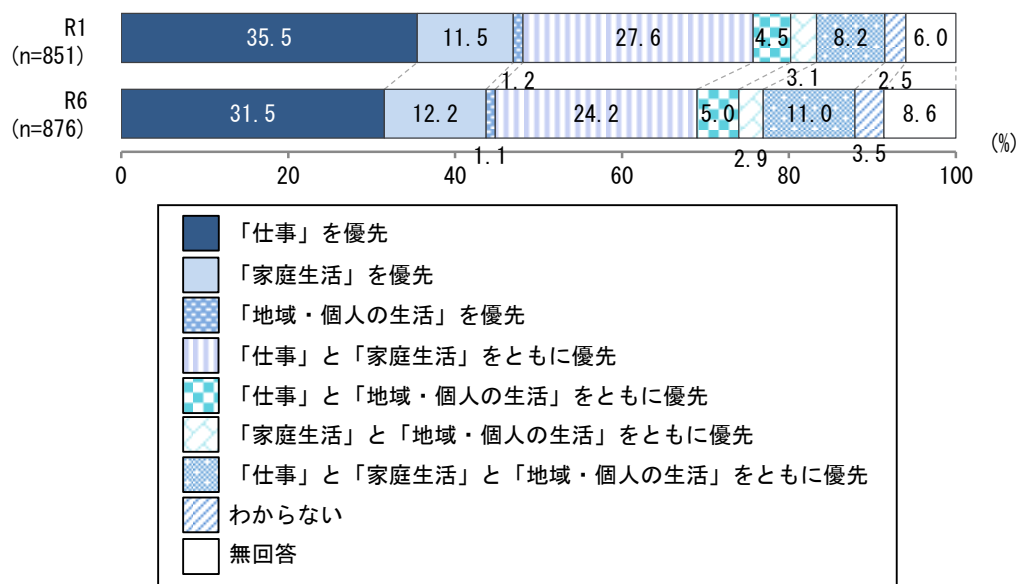
職業別でみると、「仕事」を優先は正規で約4割、「家庭生活」を優先は非正規で2割台半ばと高くなっている。

【図表 21-2-5 就労している人の日常生活の優先度＜現実・現状＞（婚姻状況別）】



婚姻状況別にみると、「仕事」を優先は離別・死別・未婚の人(39.8%)が結婚している人(28.7%)を 11.1ポイント上回っている。

【図表 21-2-6 就労している人の日常生活の優先度＜現実・現状＞（経年比較）】

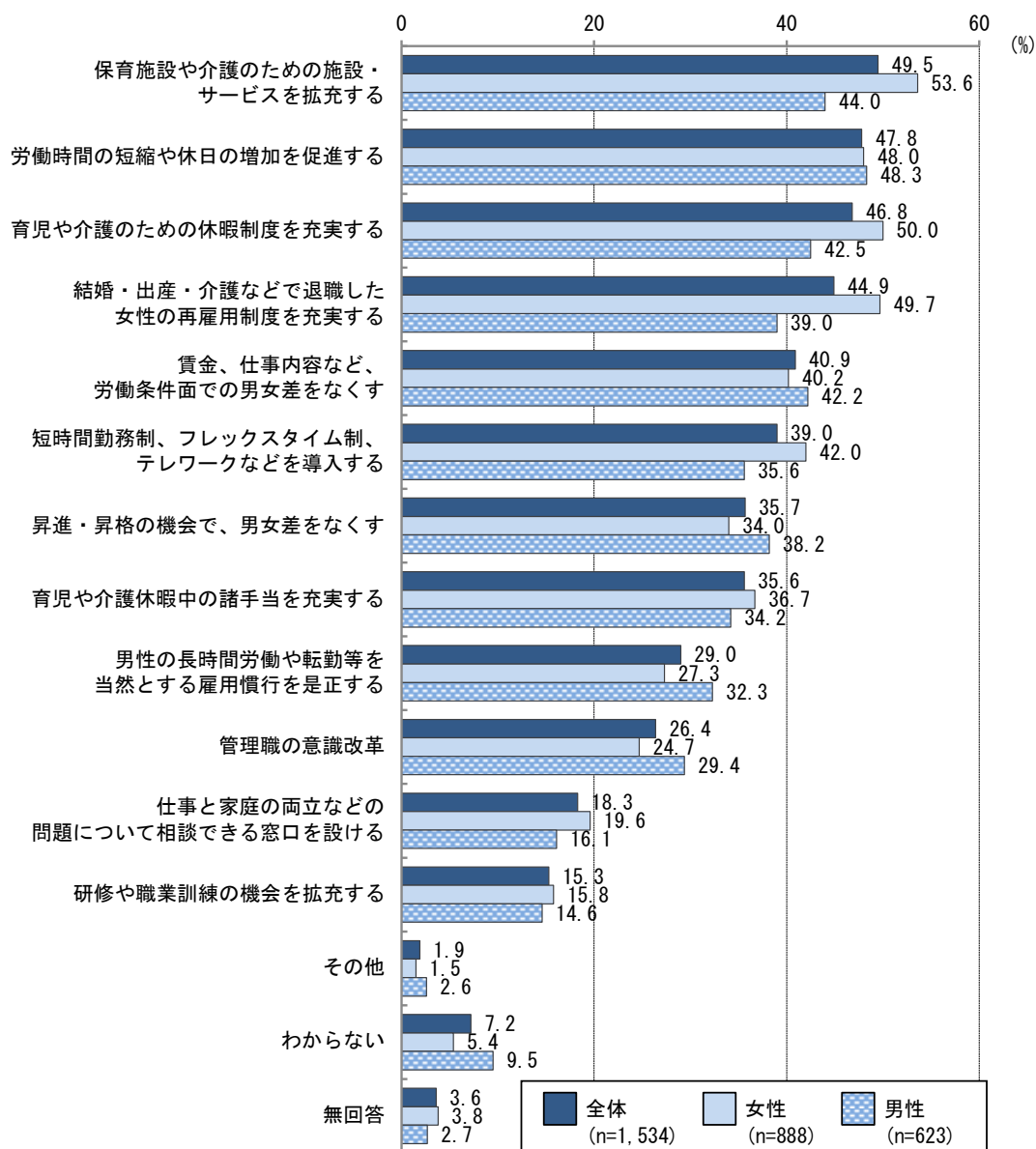


経年比較でみると、大きな差はみられない。

(2) 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なこと

問22 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するためには、どのようなことが必要であるとお考えですか。(✓はいくつでも)

【図表 22-1 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なこと(性別)】



「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」が最も高い

男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なことについて、「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」が 49.5%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」(47.8%)、「育児や介護のための休暇制度を充実する」(46.8%)などの順となっている。

性別にみると、「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する」は女性(49.7%)が男性(39.0%)を 10.7 ポイント上回っており、「男性の長時間労働や転勤等を当然とする雇用慣行を是正する」は男性(32.3%)が女性(27.3%)を 5.0 ポイント上回っている。

※H21 調査では「男女がともに「仕事と生活の調和」を図るためには、どのような条件の整備が必要であると思いますか。」、
H26 調査では「男女が共に「仕事と生活の調和」を図るためには、どのような条件の整備が必要であるとお考えですか。」と聞いている。

【図表 22-2 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なこと(性年代別・上位 10 位)】

(%)

		n 数	設・保 育施設 や介護 サービスを 拡充する ための施	加 労働時間 の短縮や 休日の増	度 育児や 介護のた めの休暇 制	充 職した女 性の再雇 用制度を 退	結 婚・出産 の介護な どで	賃 金・仕事 内容など 、労働	を タイム制 勤務、テ レワーク などス	短 時間勤務 制、フレ ックス	差 昇進・昇 格の機会 で、男女	を 育児や 介護休暇 中の諸手 当	正 当とする 雇用慣行 を転是等	男 性の長時 間労働や 転勤等	管 理職の意 識改革
全 体		1,534	49.5	47.8	46.8	44.9	40.9	39.0	35.7	35.6	29.0	26.4			
年 代 別	女 性	20歳未満	18	61.1	61.1	66.7	61.1	50.0	38.9	55.6	50.0	22.2	-		
		20歳代	54	50.0	68.5	61.1	55.6	53.7	48.1	59.3	57.4	37.0	29.6		
		30歳代	89	66.3	70.8	64.0	61.8	48.3	59.6	41.6	56.2	33.7	27.0		
		40歳代	132	45.5	62.1	42.4	47.0	48.5	49.2	41.7	34.8	30.3	28.0		
		50歳代	143	49.0	48.3	51.7	40.6	39.2	44.1	35.0	37.8	24.5	33.6		
		60歳代	176	69.3	44.3	53.4	50.6	44.9	48.3	33.5	40.9	30.7	30.1		
		70歳以上	269	46.5	30.5	43.1	49.4	27.5	26.8	21.2	23.4	21.9	14.9		
	男 性	20歳未満	15	13.3	53.3	40.0	40.0	20.0	33.3	33.3	13.3	6.7	13.3		
		20歳代	39	48.7	69.2	61.5	53.8	51.3	53.8	46.2	59.0	30.8	38.5		
		30歳代	45	44.4	68.9	51.1	24.4	44.4	44.4	33.3	48.9	42.2	26.7		
		40歳代	95	41.1	58.9	45.3	47.4	44.2	47.4	42.1	40.0	47.4	45.3		
		50歳代	114	42.1	56.1	43.0	38.6	39.5	36.8	36.8	37.7	36.0	29.8		
		60歳代	123	52.8	42.3	39.8	43.1	52.0	36.6	46.3	36.6	30.9	31.7		
		70歳以上	191	42.4	33.0	37.2	33.0	35.6	22.5	31.9	20.9	23.6	19.9		

1位 2位 3位

性年代別にみると、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」は男女ともに 20 歳代及び 30 歳代で約7割、「育児や介護のための休暇制度を充実する」は女性は 30 歳代にかけて6割超、男性は 20 歳代で6割超となっており、「育児や介護休暇中の諸手当を充実する」は男性の 20 歳代で約6割と高くなっている。

【図表 22-3 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なこと(地域別・上位 10 位)】

		n 数	保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する	労働時間の短縮や休日の増加を促進する	育児や介護のための休暇制度を充実する	結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する	賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす	短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなどを導入する	昇進・昇格の機会で、男女差をなくす	育児や介護休暇中の諸手当を充実する	男性の長時間労働や転勤等を当然とする雇用慣行を是正する	管理職の意識改革 (%)
全 体		1,534	49.5	47.8	46.8	44.9	40.9	39.0	35.7	35.6	29.0	26.4
地域別 居住	備前県民局管内	756	51.9	47.8	46.2	44.7	41.8	41.9	37.8	36.8	31.7	29.8
	備中県民局管内	612	47.2	45.3	46.7	43.5	38.4	36.3	32.2	34.2	26.0	21.9
	美作県民局管内	158	48.1	58.9	51.3	51.9	46.2	34.8	38.0	36.1	28.5	28.5

1位 2位 3位

地域別にみると、「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」は備前県民局管内で5割超、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」は美作県民局管内で約6割、「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する」は美作県民局管内で5割超と高くなっている。

【図表 22-4 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なこと(就労状況別・上位 10 位)】

		n 数	保育施設や介護のための施設・ サービスを拡充する	労働時間の短縮や休日の増加を促 進する	育児や介護のための休暇制度を充 実する	結婚・出産・介護などで退職した 女性の再雇用制度を充実する	賃金、仕事内容など、労働条件面 での男女差をなくす	短時間勤務制、フレックスタイ ム制、テレワークなどを導入する	昇進・昇格の機会で、男女差をな くす	育児や介護休暇中の諸手当を充実 する	男性の長時間労働や転勤等を当然 とする雇用慣行を是正する	(%) 管理職の意識改革
全 体		1,534	49.5	47.8	46.8	44.9	40.9	39.0	35.7	35.6	29.0	26.4
就 労 状 況 別	共働き家庭	491	50.3	57.8	50.3	45.2	43.6	45.0	37.3	39.1	31.8	31.4
	専業主婦(夫)家庭	131	57.3	51.1	51.1	48.9	38.2	48.9	32.1	44.3	45.0	31.3

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」は共働き家庭(57.8%)が専業主婦(夫)家庭(51.1%)を 6.7 ポイント上回っており、「男性の長時間労働や転勤等を当然とする雇用慣行を是正する」は専業主婦(夫)家庭(45.0%)が共働き家庭(31.8%)を 13.2 ポイント上回っている。

【図表 22-5 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なこと(職業別・上位 10 位)】

(%)

	n 数	設・保 育施設 サービス を拡充 する施	を労働 時間 の短縮 や休日 の増加 を促進 する	を育児 や介護 のため の休暇 制度を 充実す る	した結 婚・出 産・再 雇用制 度など で退職 する	賃金・ 仕事 内容な ど、労 働条 件面で の男女 差をな くす	入イ ム制 する 短時間 勤務制 、テレ ワーク 、フレ ックス などを 導入す る	を昇進 ・昇格 の機会 で、男 女差 をなく す	充実す る育児 や介護 休暇中 の諸手 当を	る当然 とする 長時間 雇用慣 行や転 勤等を 是正す る	管理職 の意識 改革
全 体	1,534	49.5	47.8	46.8	44.9	40.9	39.0	35.7	35.6	29.0	26.4
職業別											
正規	515	47.2	61.2	47.8	41.4	41.7	43.1	38.1	39.6	32.0	34.0
非正規	233	52.8	51.5	50.6	48.5	50.2	45.1	38.6	39.5	27.9	30.5
自営業	128	48.4	32.8	39.1	36.7	42.2	35.9	36.7	28.9	34.4	23.4
その他	563	54.2	41.6	50.8	51.7	39.8	37.8	35.2	35.5	27.4	21.1

1位 2位 3位

職業別でみると、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」は正規で6割超と高くなっている。

【図表 22-6 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するために必要なこと(経年比較・上位 10 位)】

(%)

	n 数	設・保 育施設 サービス を拡充 する施	を労働 時間 の短縮 や休日 の増加 を促進 する	を育児 や介護 のため の休暇 制度を 充実す る	した結 婚・出 産・再 雇用制 度など で退職 する	賃金・ 仕事 内容な ど、労 働条 件面で の男女 差をな くす	入イ ム制 する 短時間 勤務制 、テレ ワーク 、フレ ックス などを 導入す る	を昇進 ・昇格 の機会 で、男 女差 をなく す	充実す る育児 や介護 休暇中 の諸手 当を	る当然 とする 長時間 雇用慣 行や転 勤等を 是正す る	管理職 の意識 改革
経年比較											
H21	1,490	51.0	26.8	32.9	39.8	18.1	24.3	10.5	20.0		
H26	1,386	44.2	31.3	31.6	39.6	19.3	25.4	12.1	17.9		15.1
R1	1,532	51.8	40.3	41.5	48.2	34.1	40.1	28.1	28.7		22.2
R6	1,534	49.5	47.8	46.8	44.9	40.9	39.0	35.7	35.6	29.0	26.4

1位 2位 3位

経年比較でみると、平成 21 年調査から令和6年調査にかけて、「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」が最も高くなっている。また、「昇進・昇格の機会で、男女差をなくす」は令和6年調査(35.7%)が令和元年調査(28.1%)を 7.6 ポイント、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」は令和6年調査(47.8%)が令和元年調査(40.3%)を 7.5 ポイント上回っている。

※「短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなどを導入する」は、H21、H26、R1 調査では「フレックスタイム制、短時間勤務制、在宅勤務制度などを導入する」となっている。

※H21、H26 調査では当てはまるもの3つまでの選択としていた。

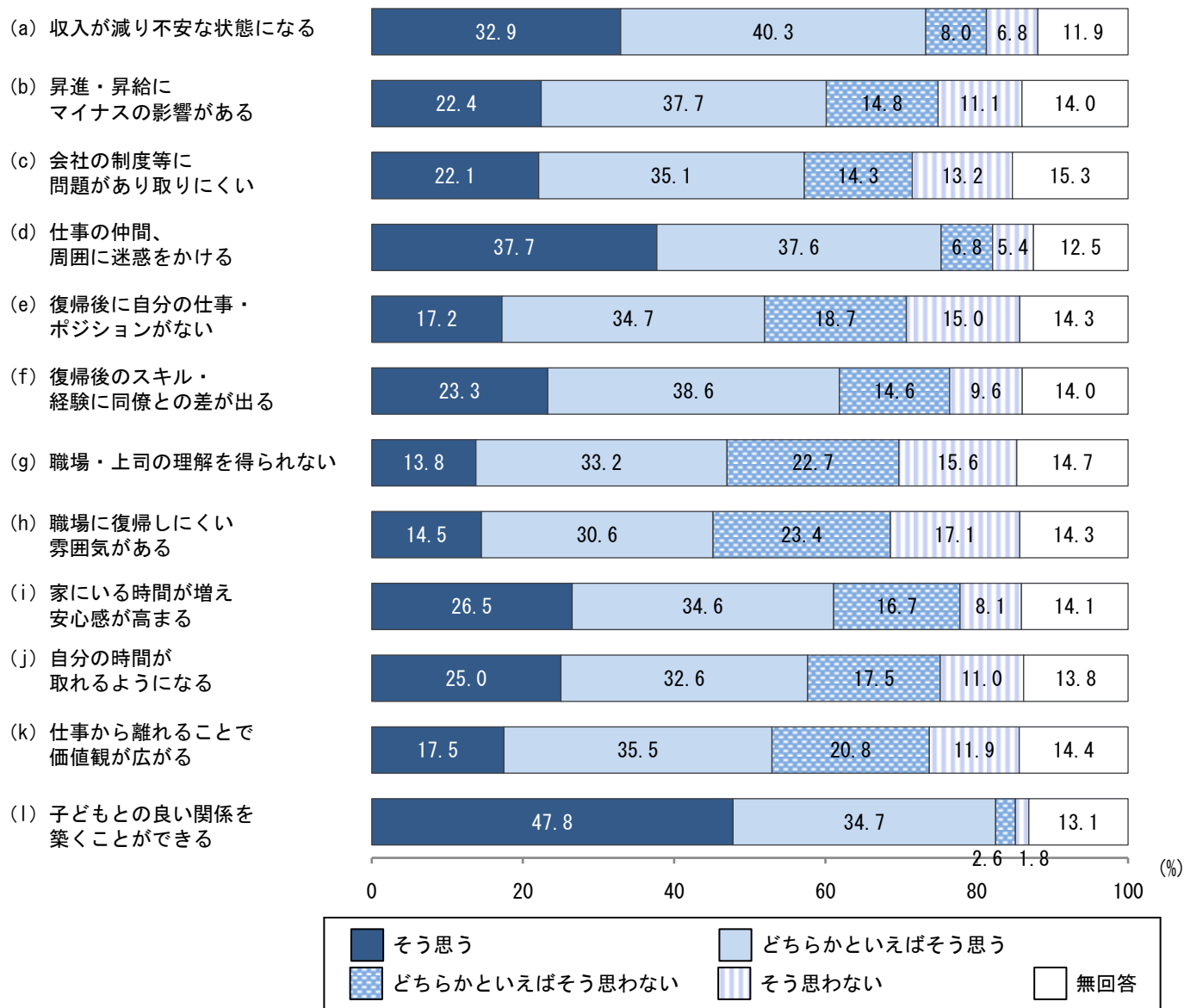
【新規】

(3) 育児休業取得への考え方・影響

問23 「育児休業」を取得することや取得した後について、あなたはどのようにお考えですか。
(a)～(l)でそれぞれ1つだけ✓)

【図表 23-1 育児休業取得への考え方・影響】

(n=1,534)

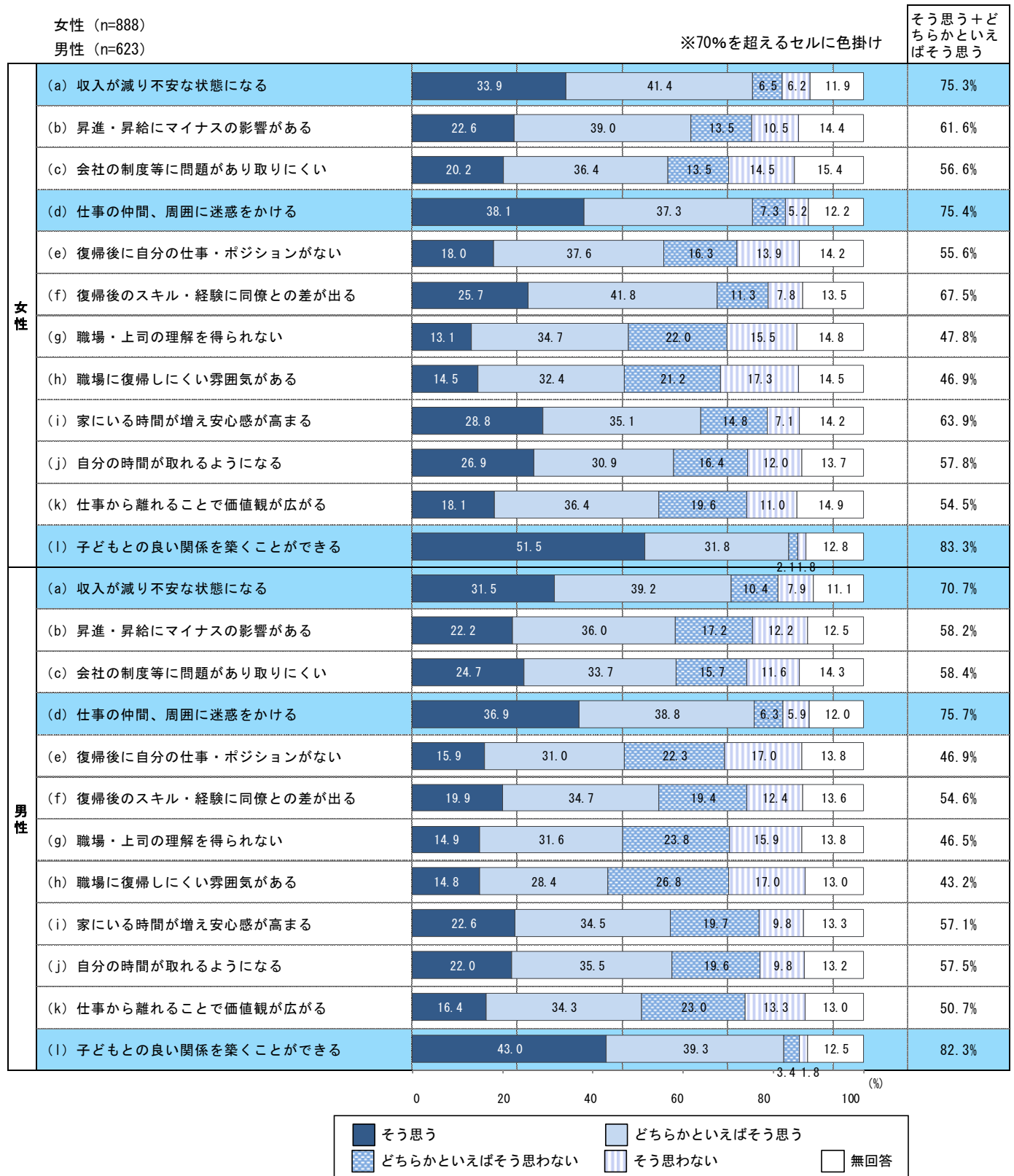


「子どもとの良い関係を築くことができる」は82.5%が『そう思う』

育児休業取得への考え方・影響について、ポジティブ要素では「子どもとの良い関係を築くことができる」は『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が 82.5%と高くなっている。ネガティブ要素では「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」は『そう思う』が 75.3%、「収入が減り不安な状態になる」も 73.2%と高くなっている。一方、「職場に復帰しにくい雰囲気がある」は『そう思う』と『そう思わない』(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)がどちらも4割台となっている。

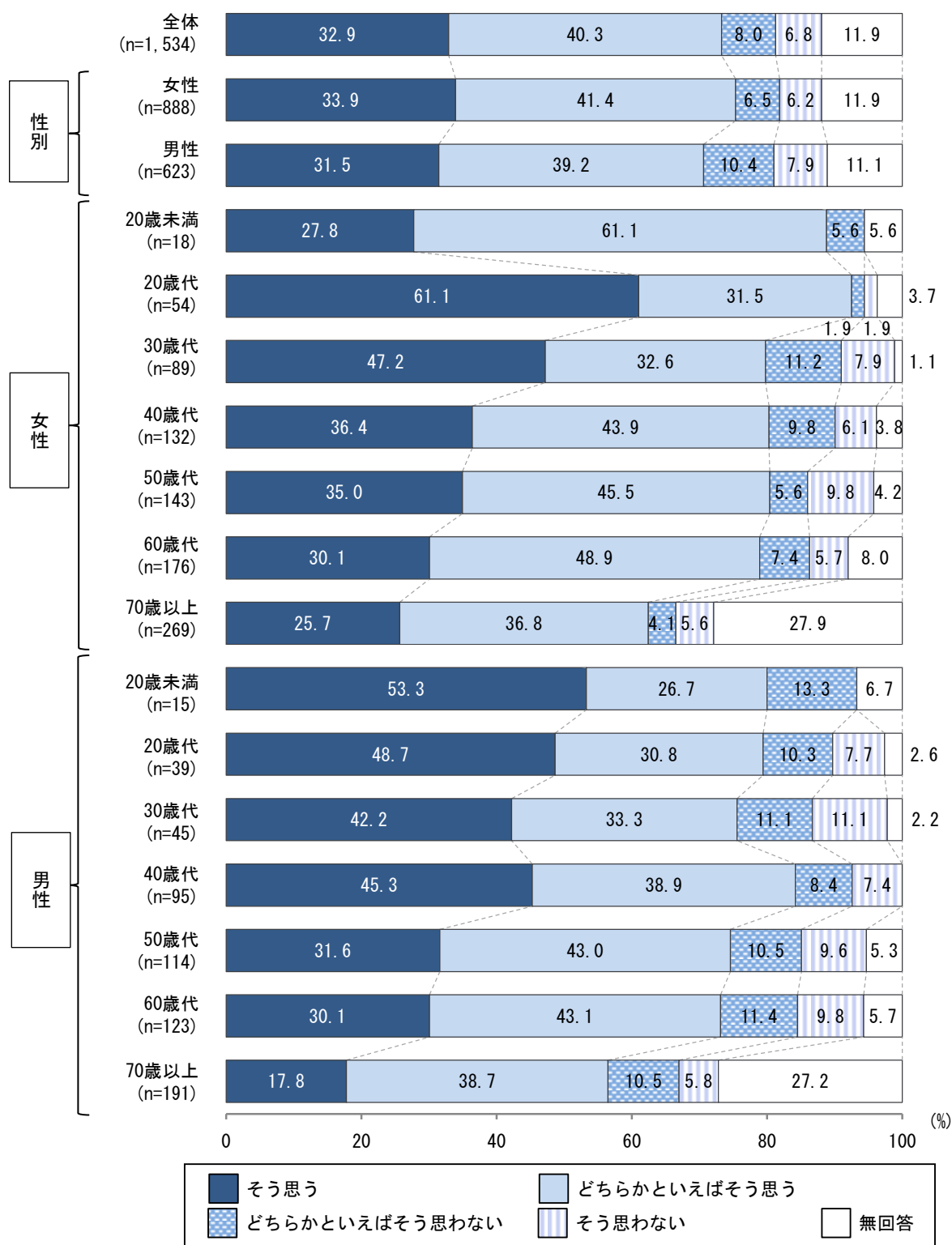
育児休業取得への考え方・影響

- ・「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値でみると、男女ともに7割を超える項目は、ポジティブ要素では「子どもとの良い関係を築くことができる」、ネガティブ要素では「収入が減り不安な状態になる」、「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」となっている。
- ・男女で比較すると、「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」は女性の方が10ポイント以上高くなっている。



(a)収入が減り不安な状態になる

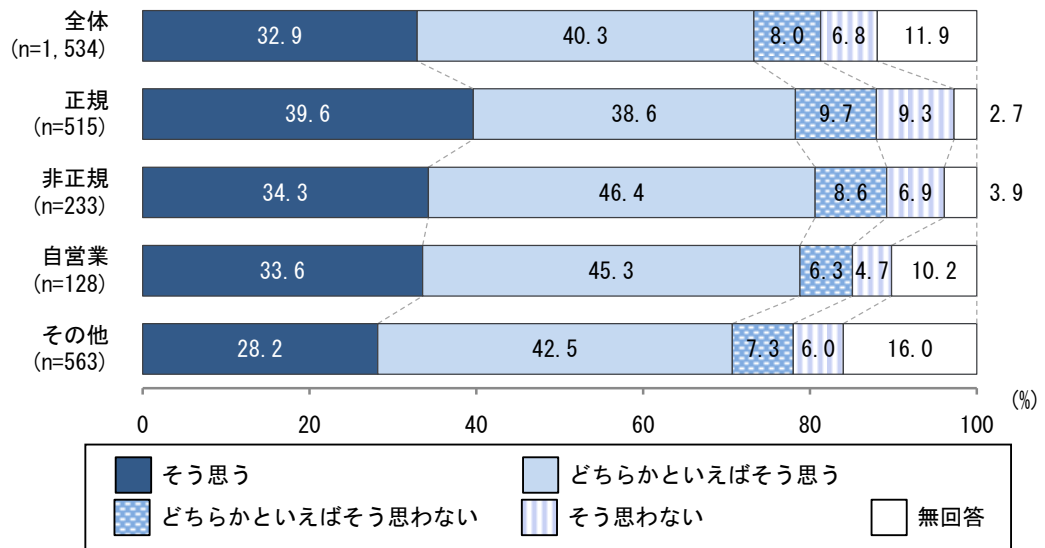
【図表 23-1-1 収入が減り不安な状態になる(性別、性年代別)】



性別にみると、『そう思わない』は男性(18.3%)が女性(12.7%)を 5.6 ポイント上回っている。

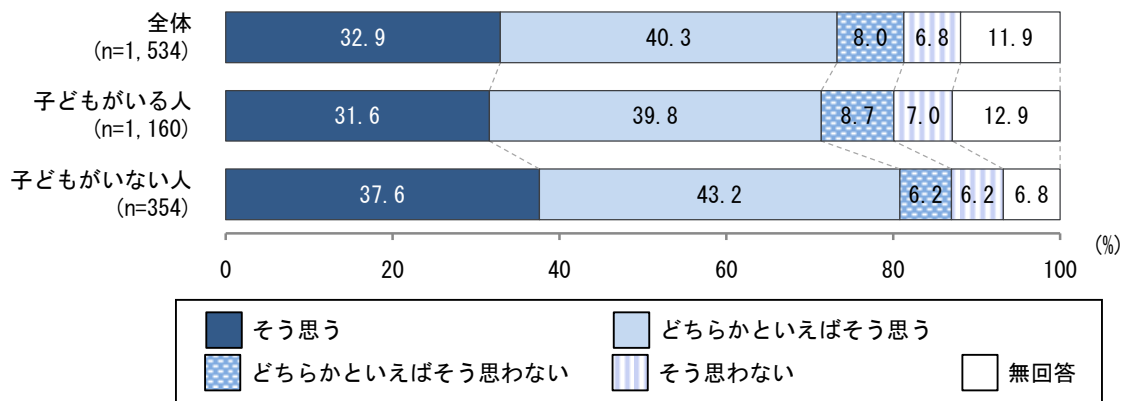
性年代別にみると、『そう思う』は全体的に高いが、特に女性は 20 歳代で9割超、男性は 40 歳代で8割台半ばと高くなっている。

【図表 23-1-2 収入が減り不安な状態になる(職業別)】



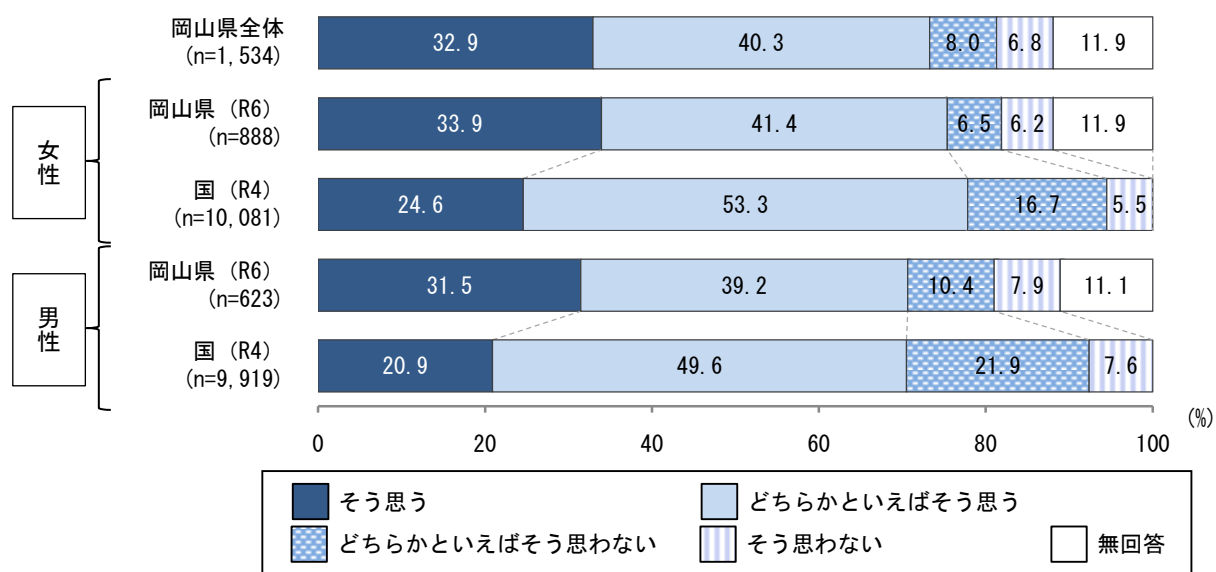
職業別でみると、『そう思う』は正規、非正規、自営業で約8割と高くなっている。

【図表 23-1-3 収入が減り不安な状態になる(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(80.8%)が子どもがいる人(71.4%)を 9.4 ポイント上回っている。

【図表 23-1-4 収入が減り不安な状態になる(国調査との比較)】

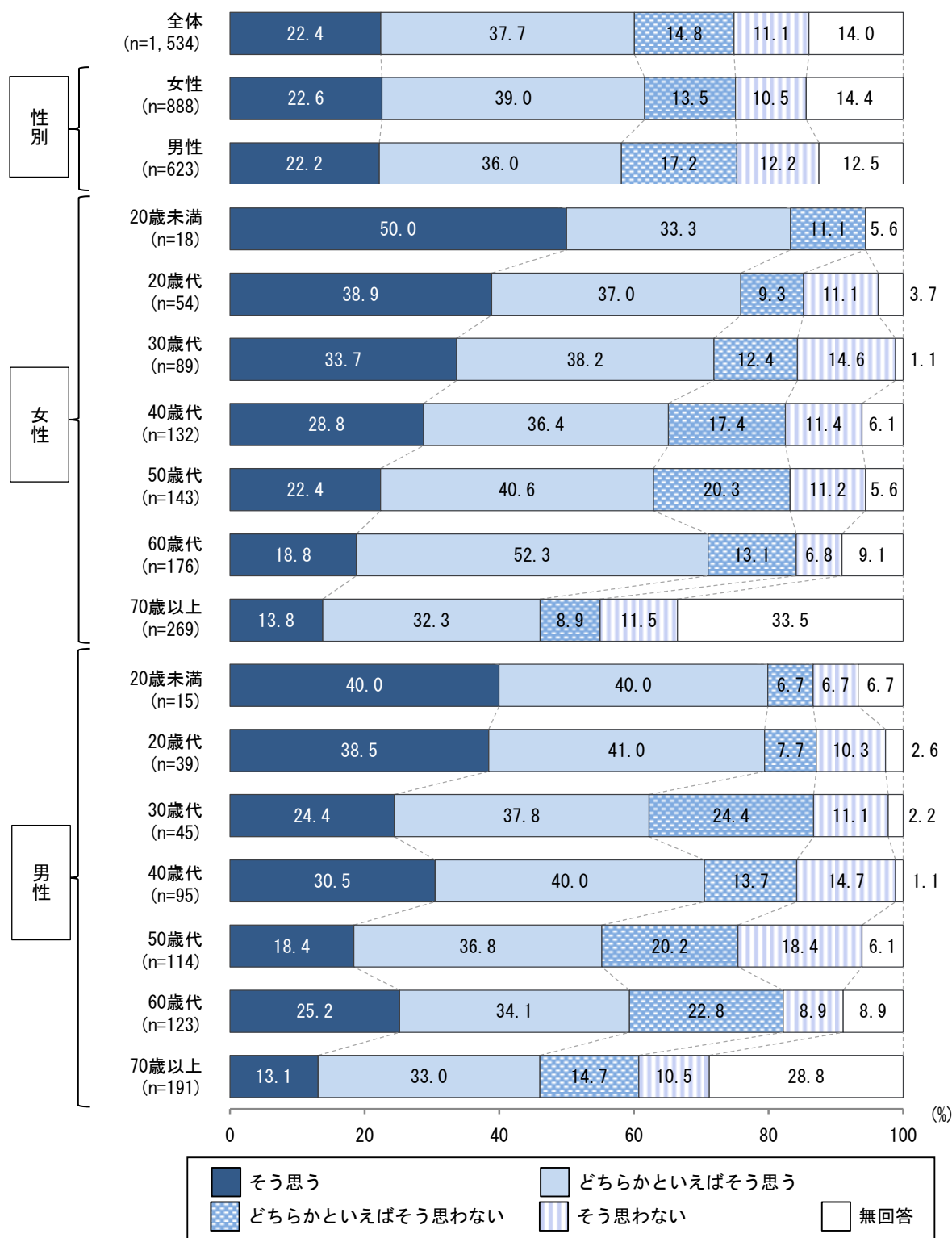


国調査と比較すると、男女ともに『そう思う』の割合は同程度となっている。一方、『そう思わない』は女性は令和6年調査(12.7%)が国調査(22.2%)を 9.5 ポイント、男性は令和6年調査(18.3%)が国調査(29.5%)を 11.2 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(b)昇進・昇給にマイナスの影響がある

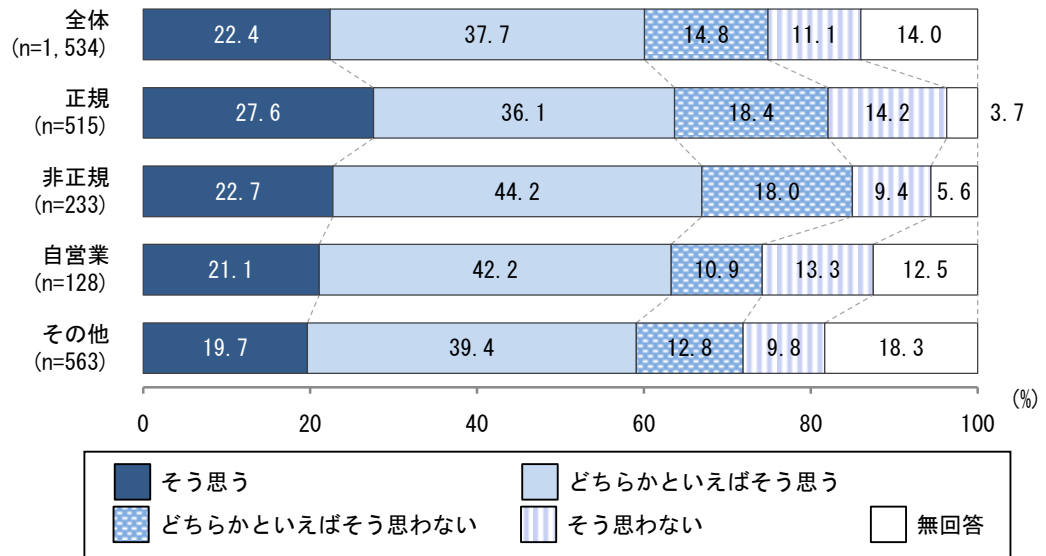
【図表 23-2-1 昇進・昇給にマイナスの影響がある(性別、性年代別)】



性別にみると、男女ともに約6割が『そう思う』と回答している。『そう思わない』は男性(29.4%)が女性(24.0%)を5.4ポイント上回っている。

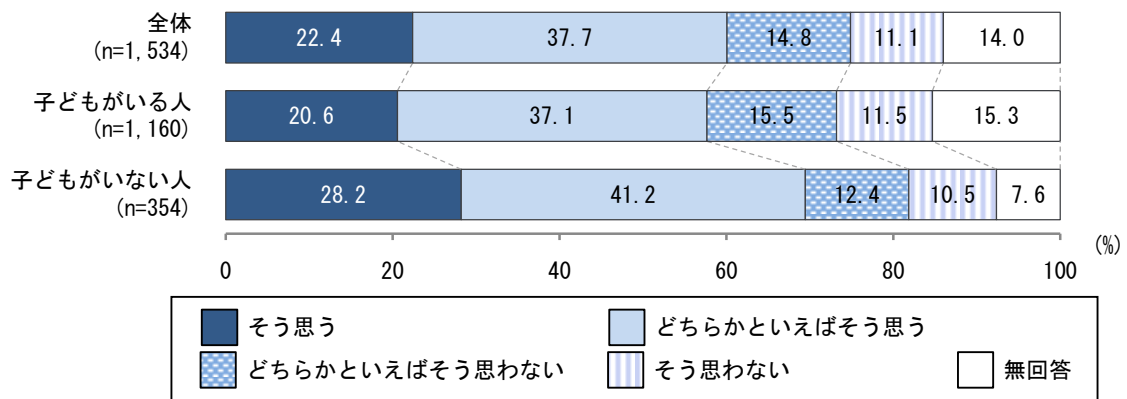
性年代別にみると、『そう思う』の割合は女性の20歳代で7割台半ば、男性の20歳代で約8割と高くなっている。

【図表 23-2-2 昇進・昇給にマイナスの影響がある(職業別)】



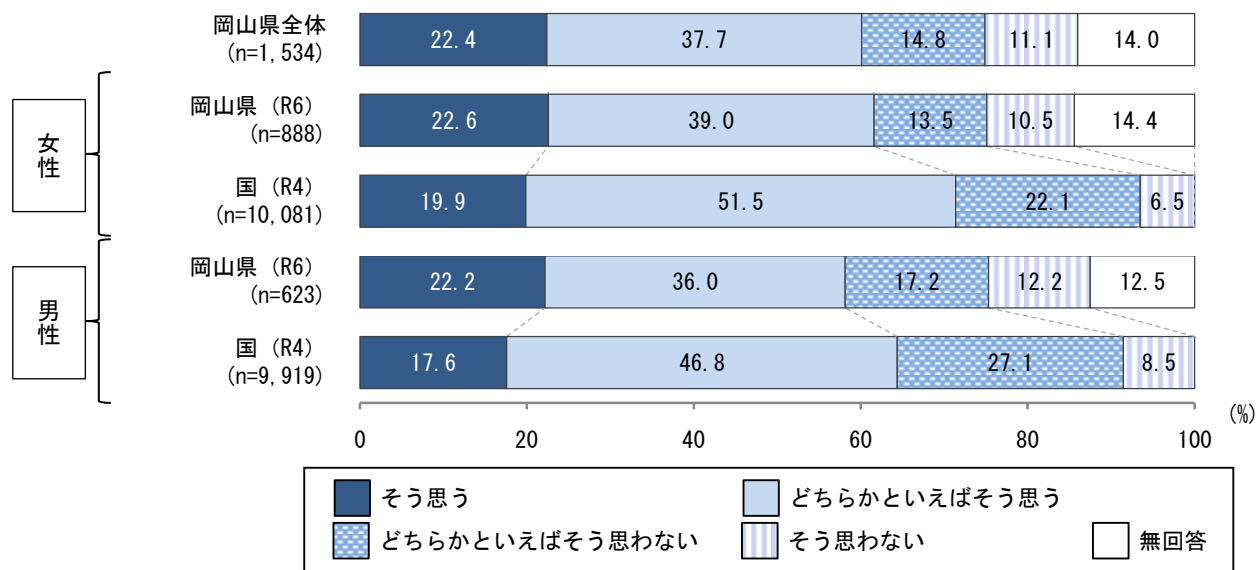
職業別でみると、『そう思う』は非正規で6割台後半と高くなっている。

【図表 23-2-3 昇進・昇給にマイナスの影響がある(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(69.4%)が子どもがいる人(57.7%)を 11.7 ポイント上回っている。

【図表 23-2-4 昇進・昇給にマイナスの影響がある(国調査との比較)】

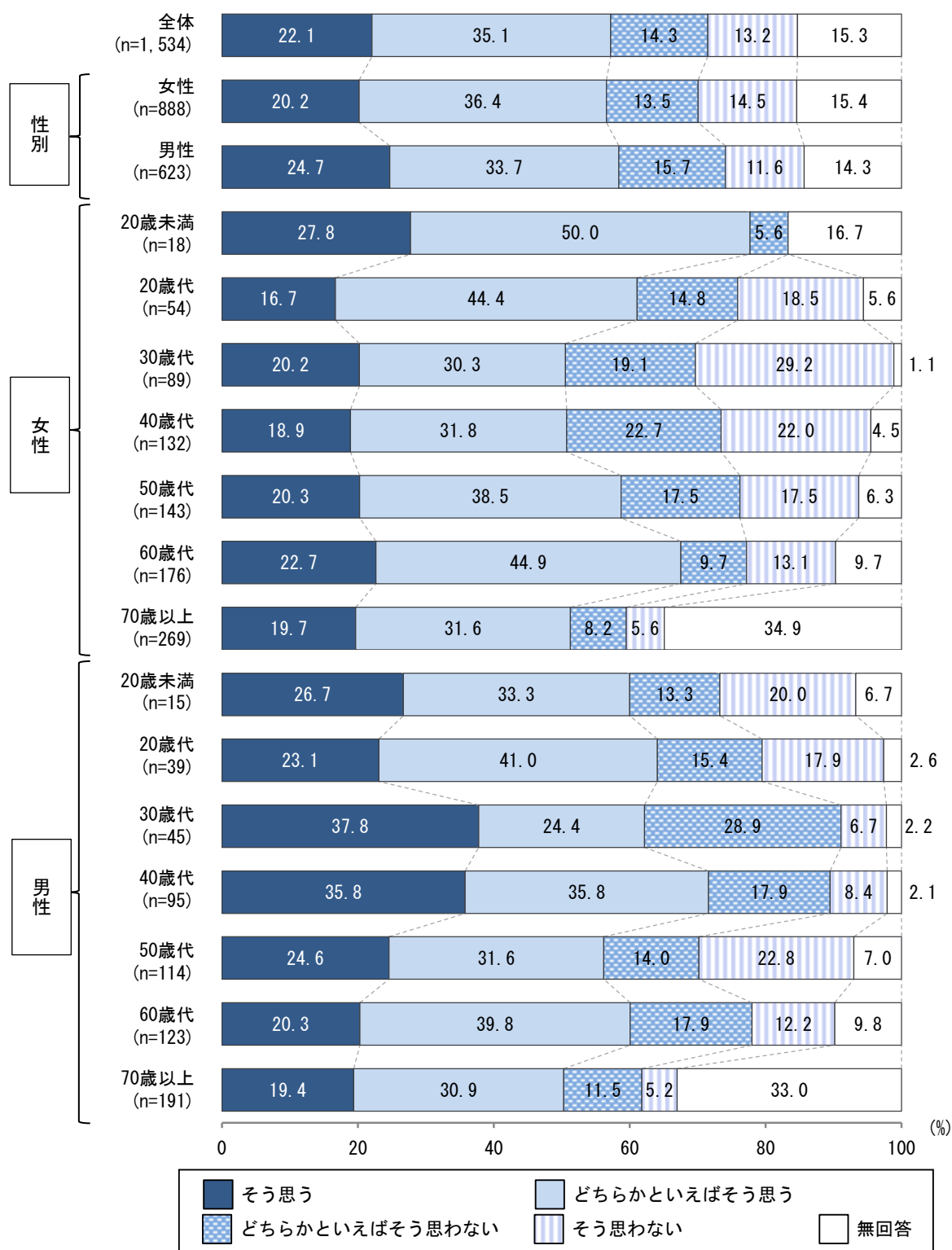


国調査と比較すると、『そう思う』は女性は令和6年調査(61.6%)が国調査(71.4%)を 9.8 ポイント、男性は令和6年調査(58.2%)が国調査(64.4%)を 6.2 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(c)会社の制度等に問題があり取りにくい

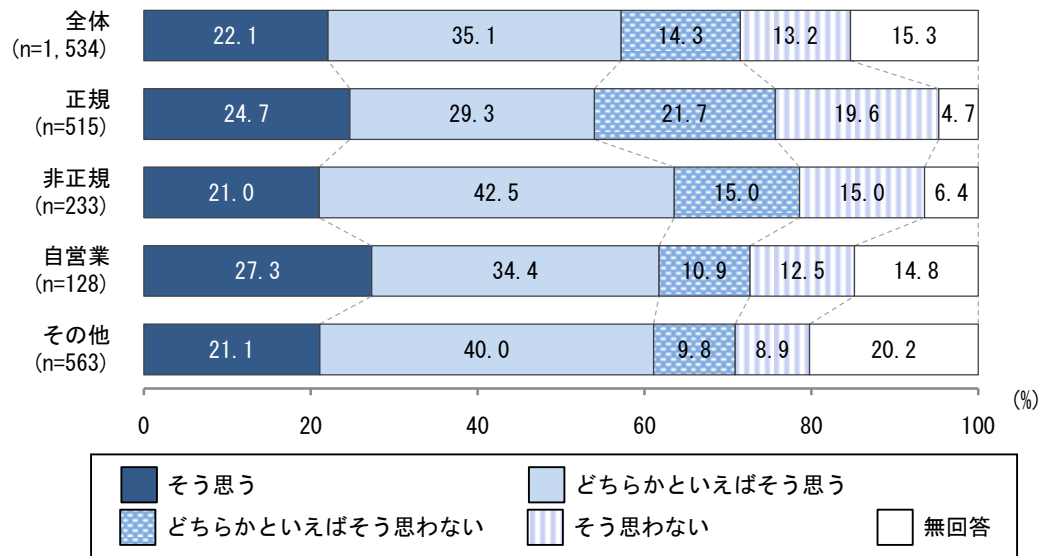
【図表 23-3-1 会社の制度等に問題があり取りにくい(性別、性年代別)】



性別にみると、男女ともに半数以上が『そう思う』と回答しており、各割合に大きな差はみられない。

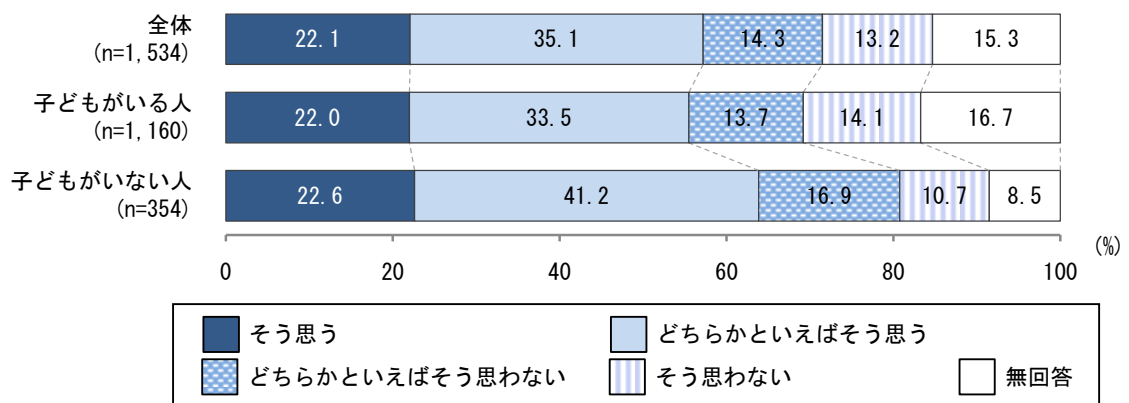
性年代別にみると、『そう思う』は女性の20歳代で6割超、60歳代で約7割、男性の40歳代で7割超と高くなっている。

【図表 23-3-2 会社の制度等に問題があり取りにくい(職業別)】



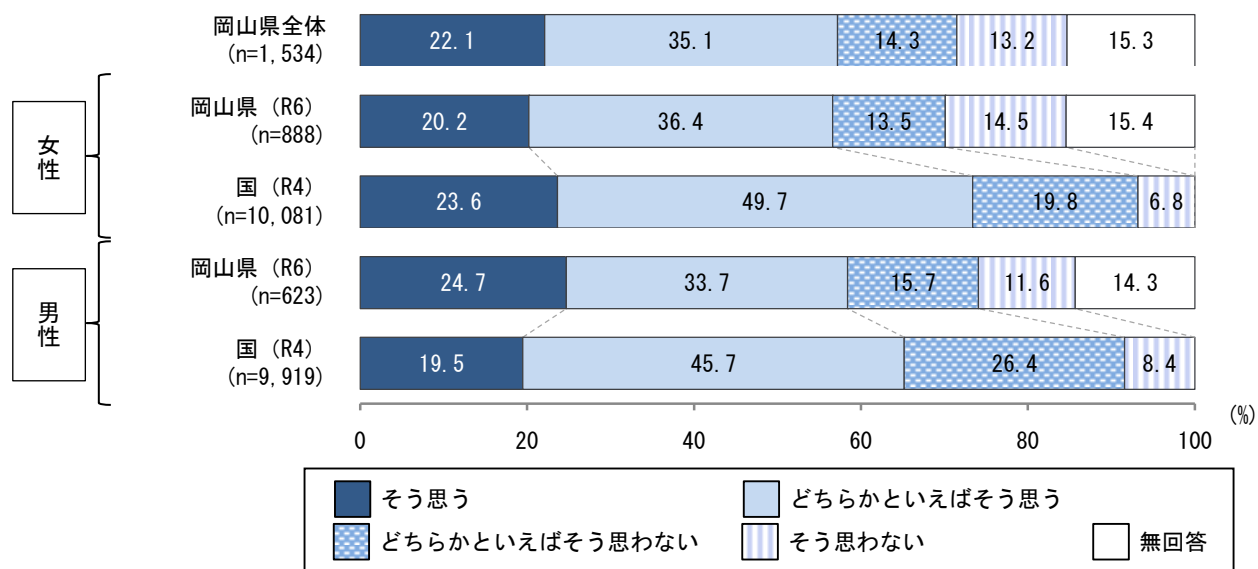
職業別でみると、『そう思う』は非正規で6割台半ばと高くなっている。

【図表 23-3-3 会社の制度等に問題があり取りにくい(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(63.8%)が子どもがいる人(55.5%)を 8.3 ポイント上回っている。

【図表 23-3-4 会社の制度等に問題があり取りにくい(国調査との比較)】

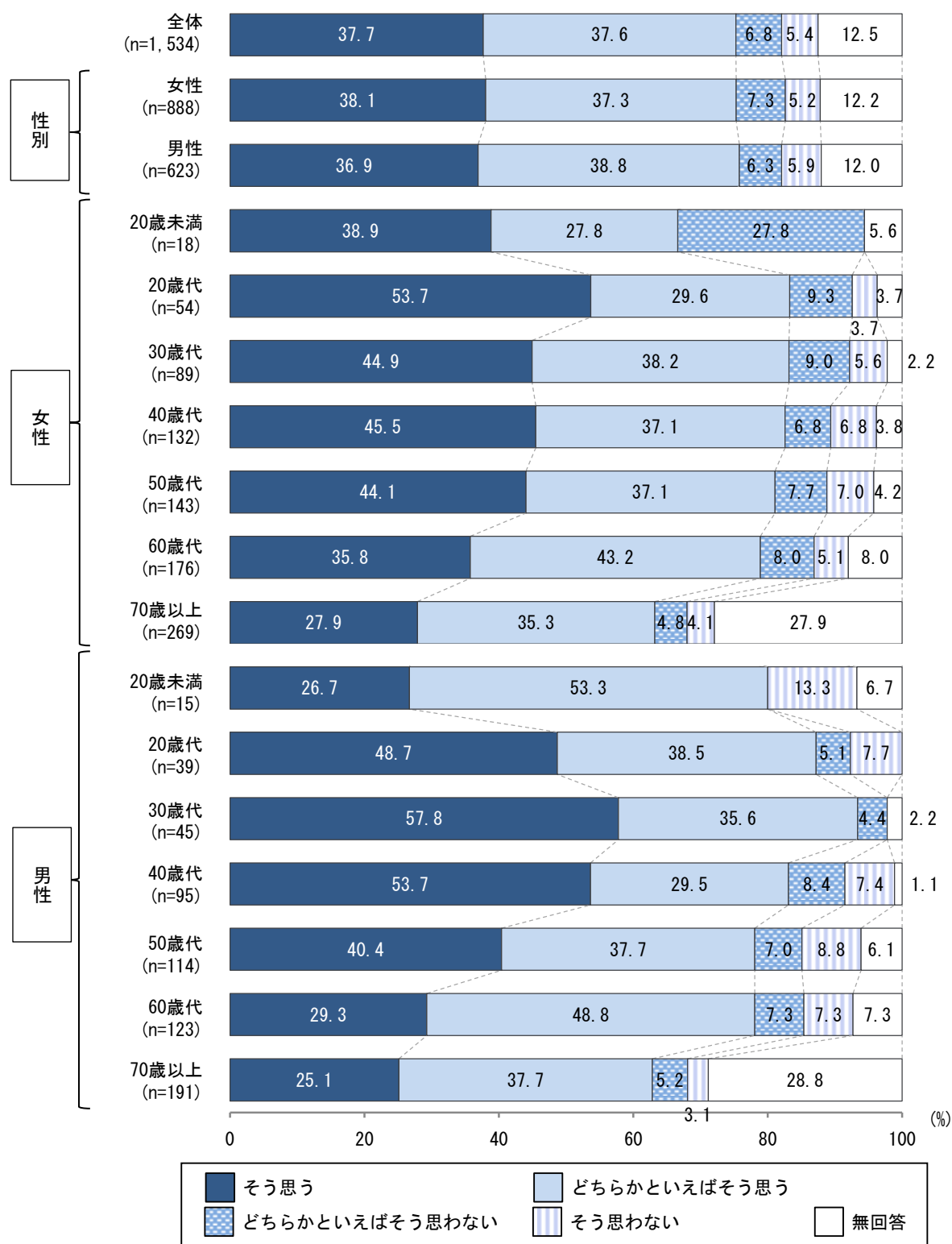


国調査と比較すると、『そう思う』は女性は令和6年調査(56.6%)が国調査(73.3%)を 16.7 ポイント、男性は令和6年調査(58.4%)が国調査(65.2%)を 6.8 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(d)仕事の仲間、周囲に迷惑をかける

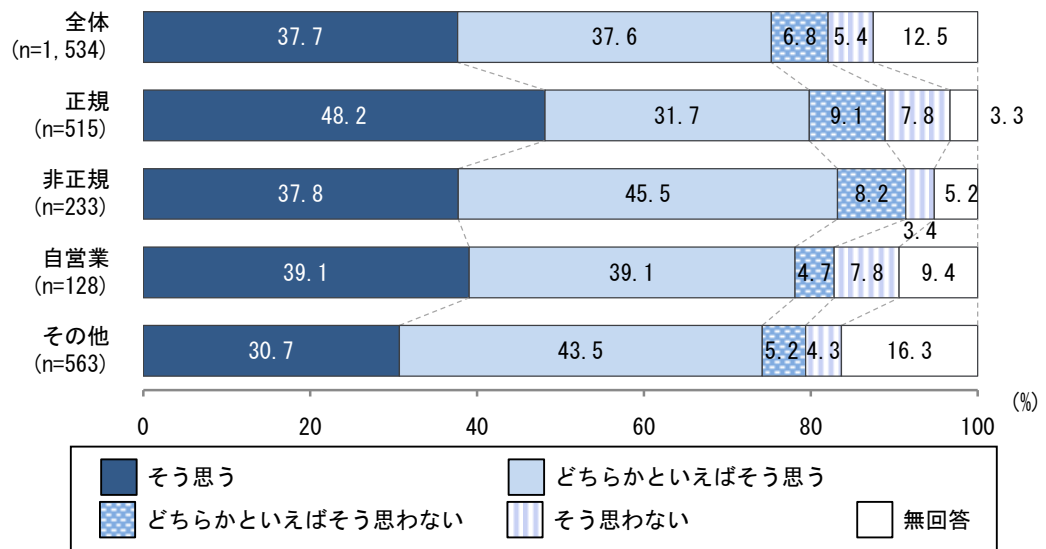
【図表 23-4-1 仕事の仲間、周囲に迷惑をかける(性別、性年代別)】



性別にみると、男女ともに7割台半ばが『そう思う』と回答しており、各割合に大きな差はみられない。

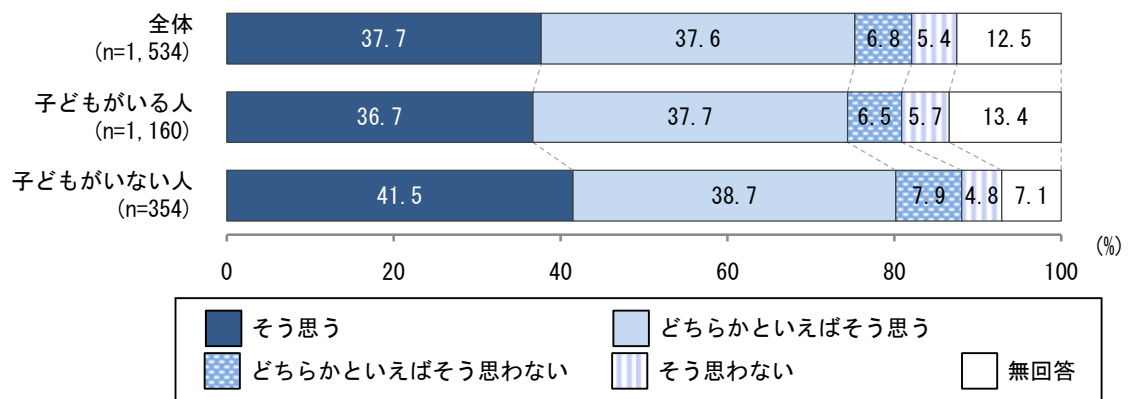
性年代別にみると、男女ともに 20 歳代から 60 歳代で約8割が『そう思う』と回答している。特に男性の 30 歳代で9割台半ばと高くなっている。

【図表 23-4-2 仕事の仲間、周囲に迷惑をかける(職業別)】



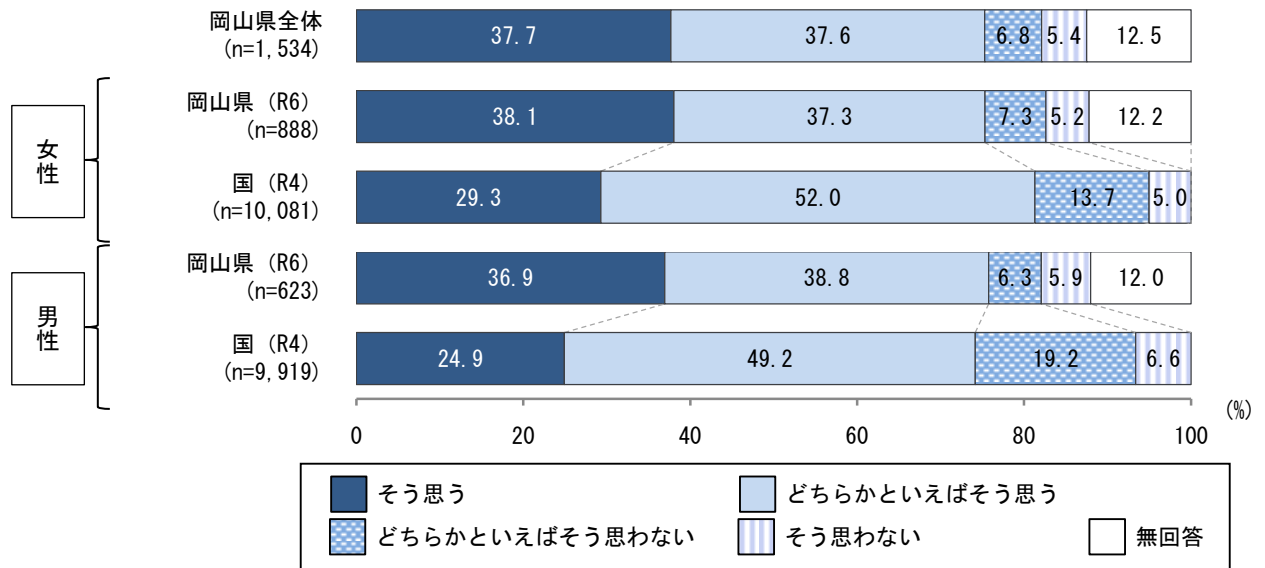
職業別でみると、『そう思う』は非正規で8割台半ばと高くなっている。

【図表 23-4-3 仕事の仲間、周囲に迷惑をかける(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(80.2%)が子どもがいる人(74.4%)を 5.8 ポイント上回っている。

【図表 23-4-4 仕事の仲間、周囲に迷惑をかける(国調査との比較)】

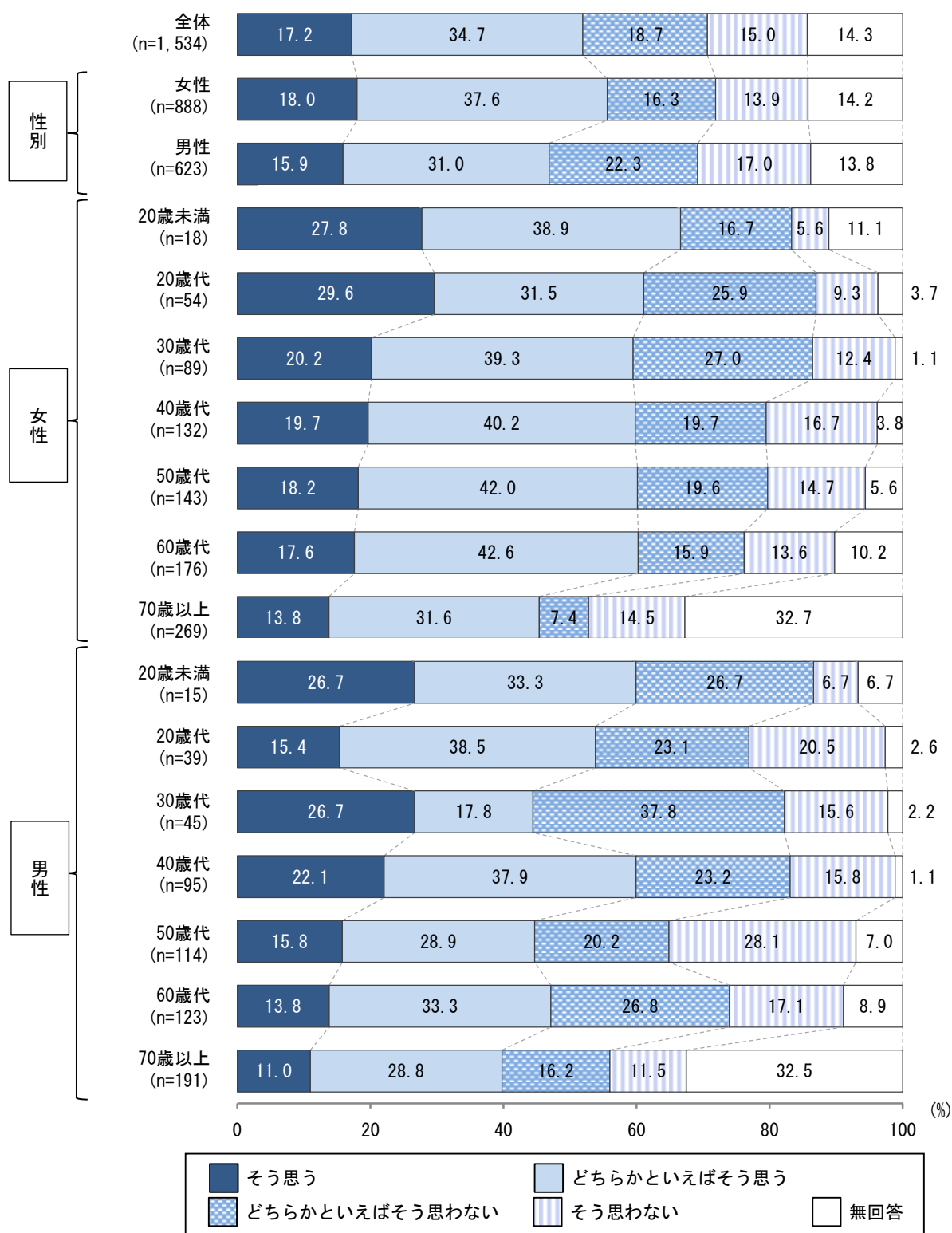


国調査と比較すると、女性の『そう思う』は令和6年調査(75.4%)が国調査(81.3%)を 5.9 ポイント下回っている。男性の『そう思わない』は令和6年調査(12.2%)が国調査(25.8%)を 13.6 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(e) 復帰後に自分の仕事・ポジションがない

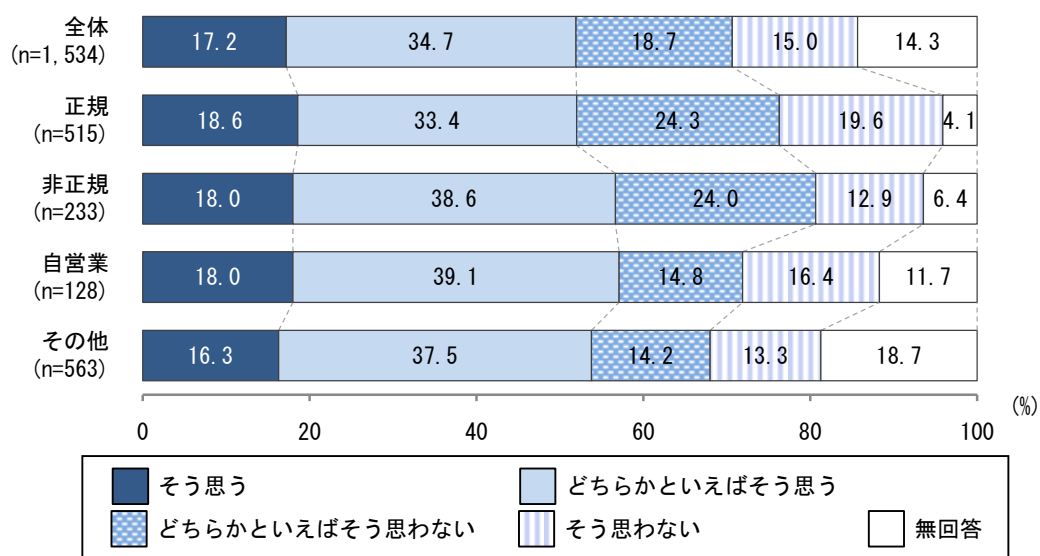
【図表 23-5-1 復帰後に自分の仕事・ポジションがない(性別、性年代別)】



性別にみると、『そう思う』は女性(55.6%)が男性(46.9%)を 8.7 ポイント上回っており、『そう思わない』は男性(39.3%)が女性(30.2%)を 9.1 ポイント上回っている。

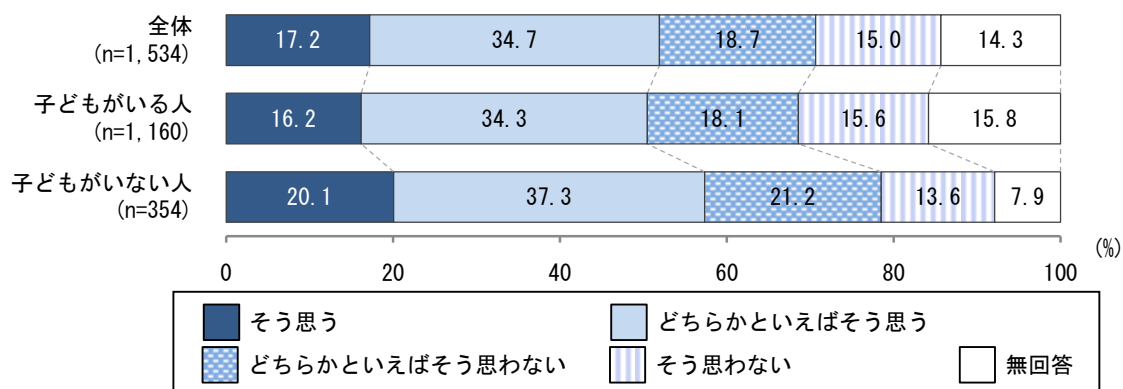
性年代別にみると、『そう思う』は女性は 70 歳以上を除きすべての年代で6割程度となっている。

【図表 23-5-2 復帰後に自分の仕事・ポジションがない(職業別)】



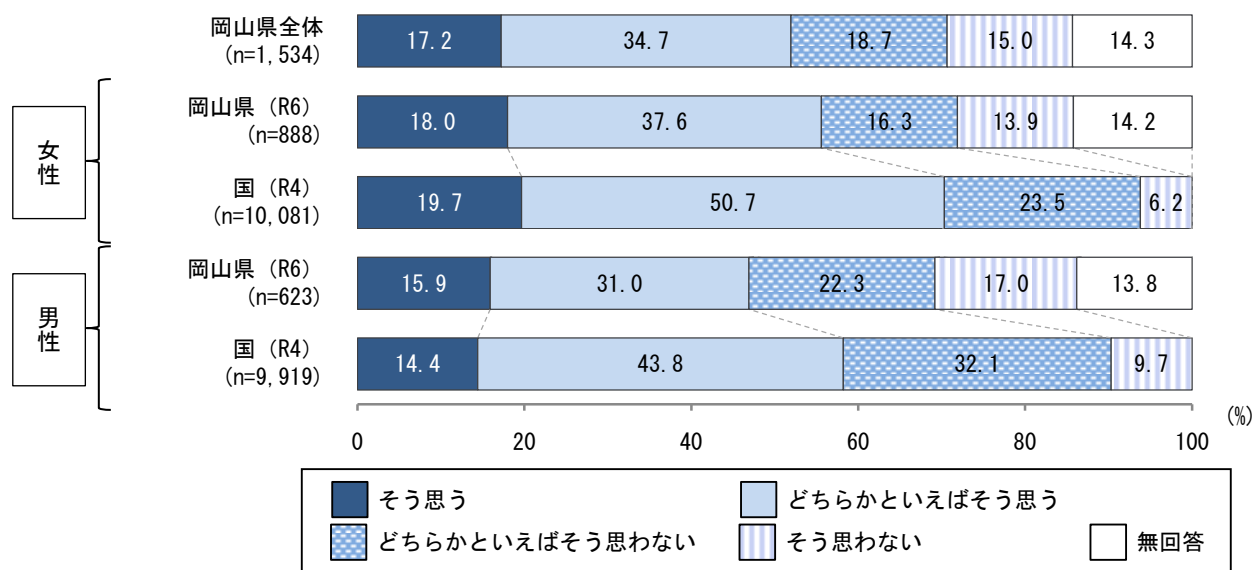
職業別でみると、『そう思う』は非正規及び自営業で5割台後半と高くなっている。

【図表 23-5-3 復帰後に自分の仕事・ポジションがない(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(57.4%)が子どもがいる人(50.5%)を 6.9 ポイント上回っている。

【図表 23-5-4 復帰後に自分の仕事・ポジションがない(国調査との比較)】

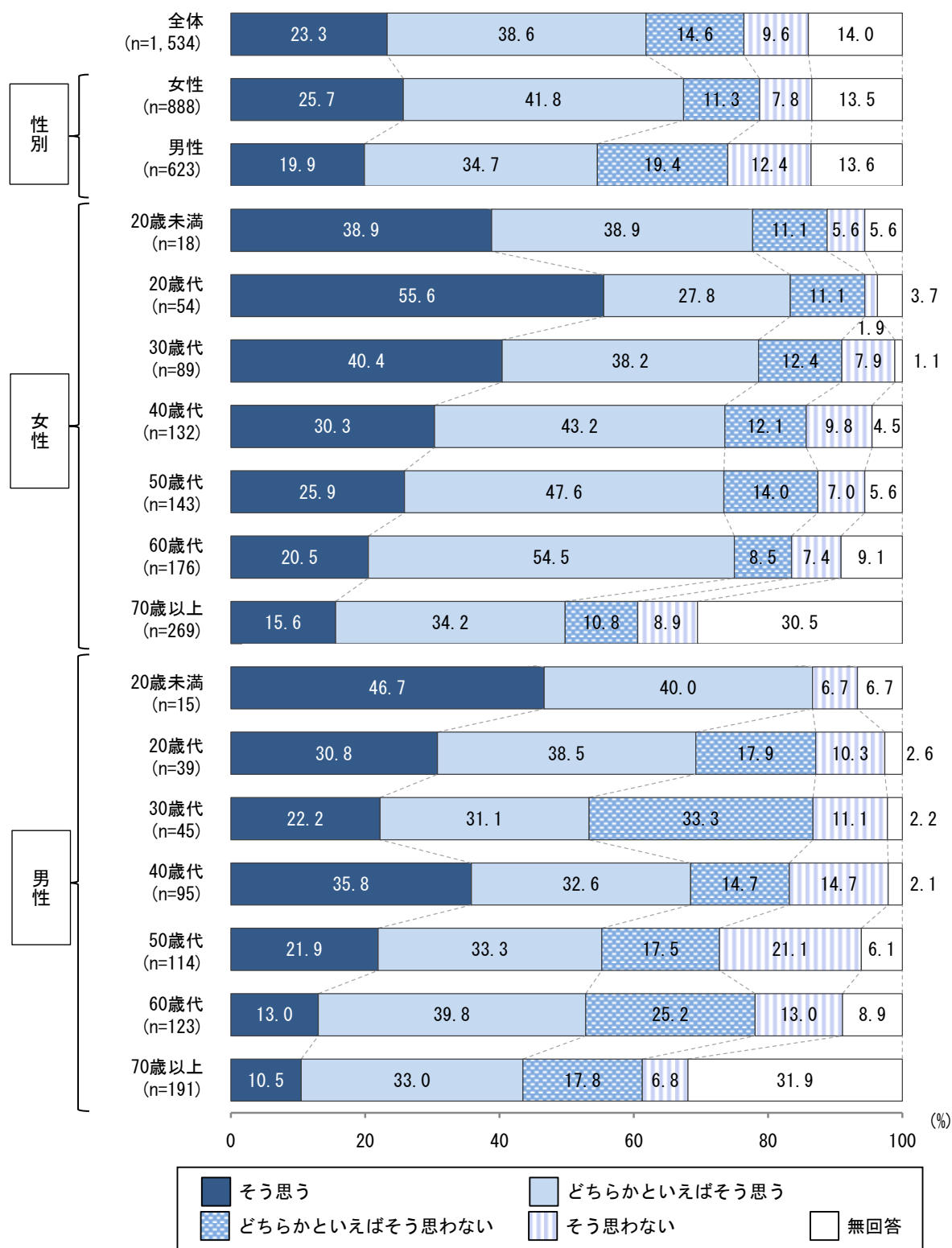


国調査と比較すると、『そう思う』は女性は令和6年調査(55.6%)が国調査(70.4%)を 14.8 ポイント、男性は令和6年調査(46.9%)が国調査(58.2%)を 11.3 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(f) 復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る

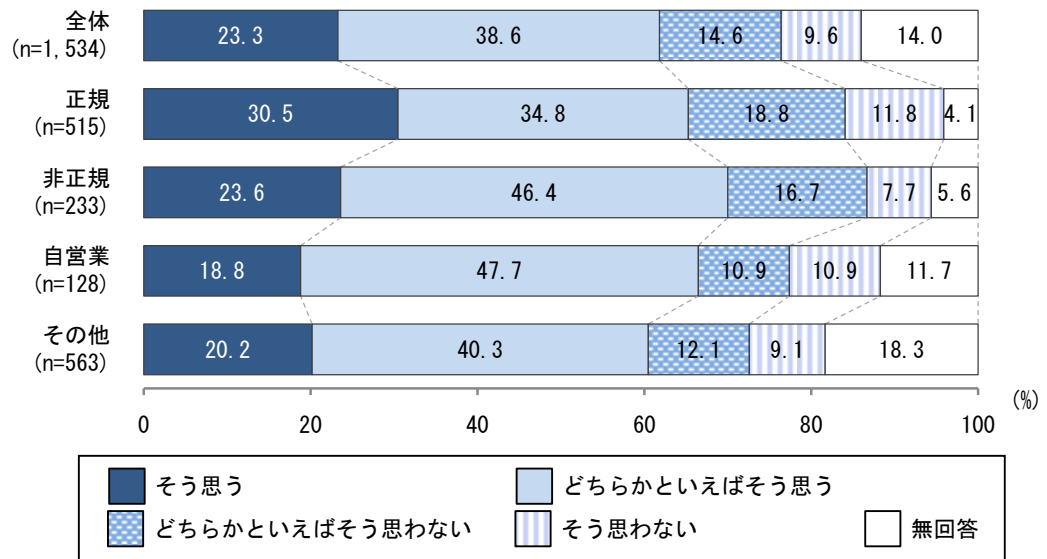
【図表 23-6-1 復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る(性別、性年代別)】



性別にみると、『そう思う』は女性(67.5%)が男性(54.6%)を 12.9 ポイント上回っている。

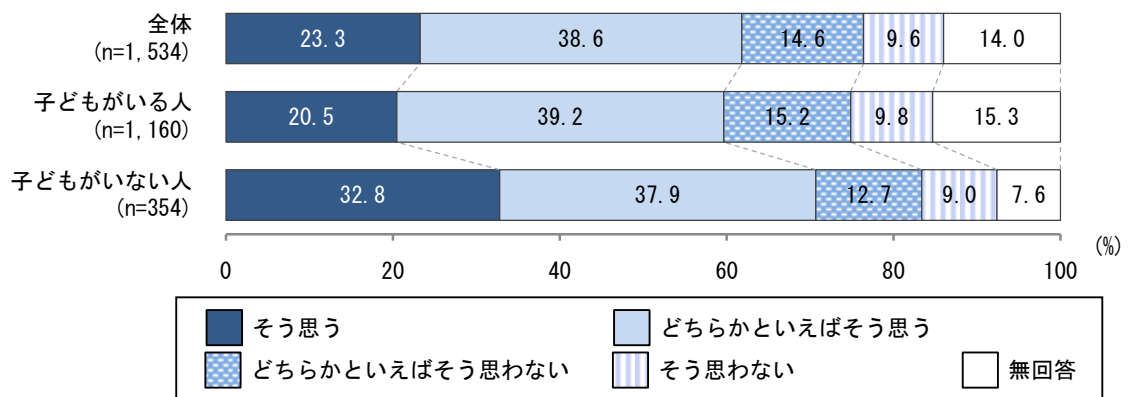
性年代別にみると、『そう思う』は女性は 20 歳代から 60 歳代で7割以上となっているが、特に 20 歳代で8割台半ばと高くなっている。男性は 20 歳代及び 40 歳代で約7割と高くなっている。

【図表 23-6-2 復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る(職業別)】



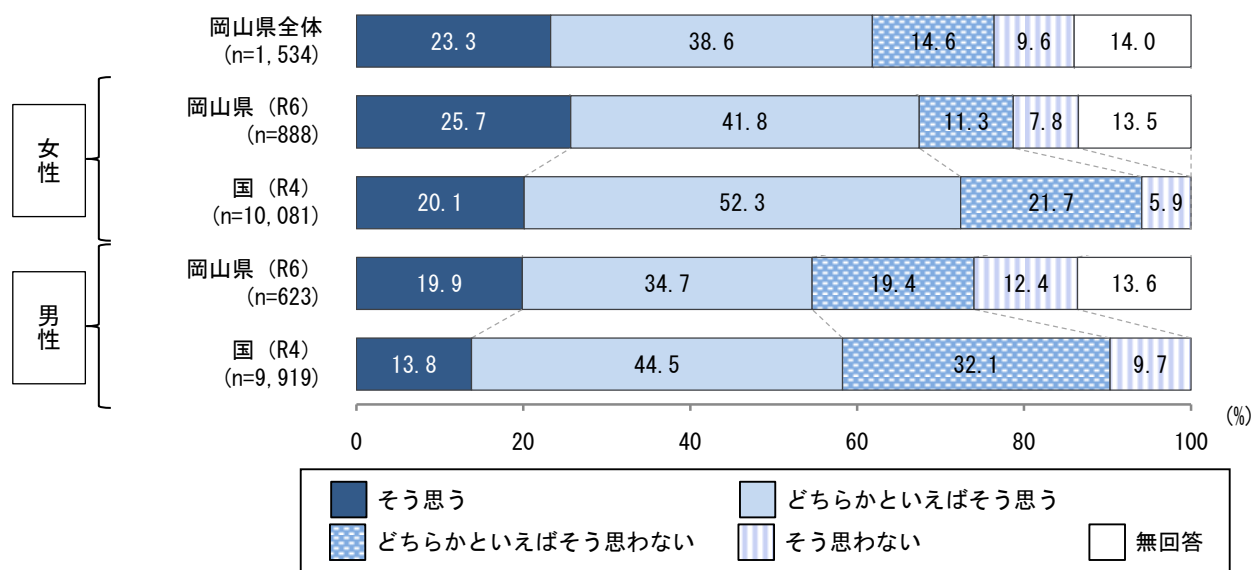
職業別でみると、『そう思う』は非正規で7割と高くなっている。

【図表 23-6-3 復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(70.7%)が子どもがいる人(59.7%)を 11.0 ポイント上回っている。

【図表 23-6-4 復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る(国調査との比較)】

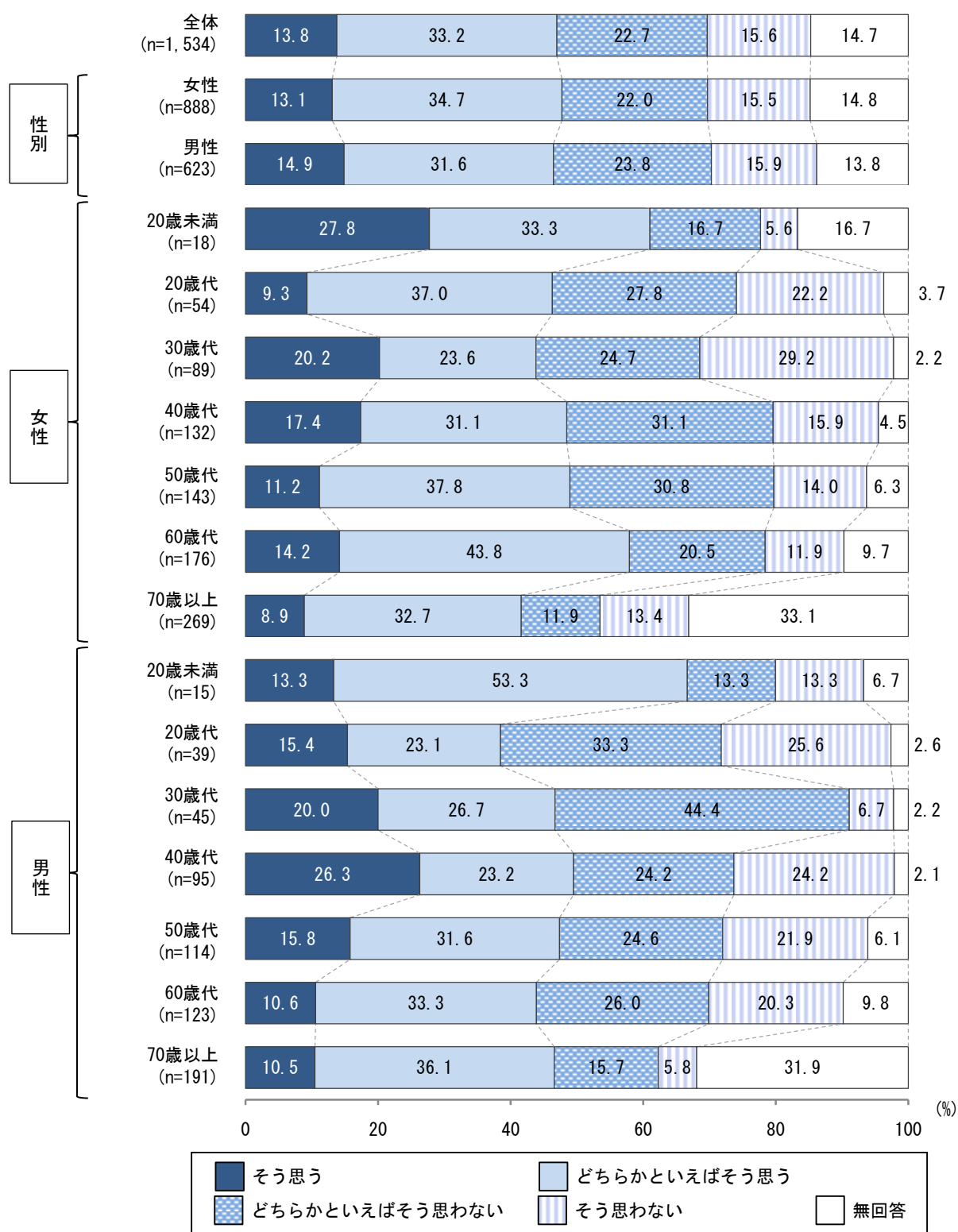


国調査と比較すると、『そう思う』は女性は令和6年調査(67.5%)が国調査(72.4%)を 4.9 ポイント、男性は令和6年調査(54.6%)が国調査(58.3%)を 3.7 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(g)職場・上司の理解を得られない

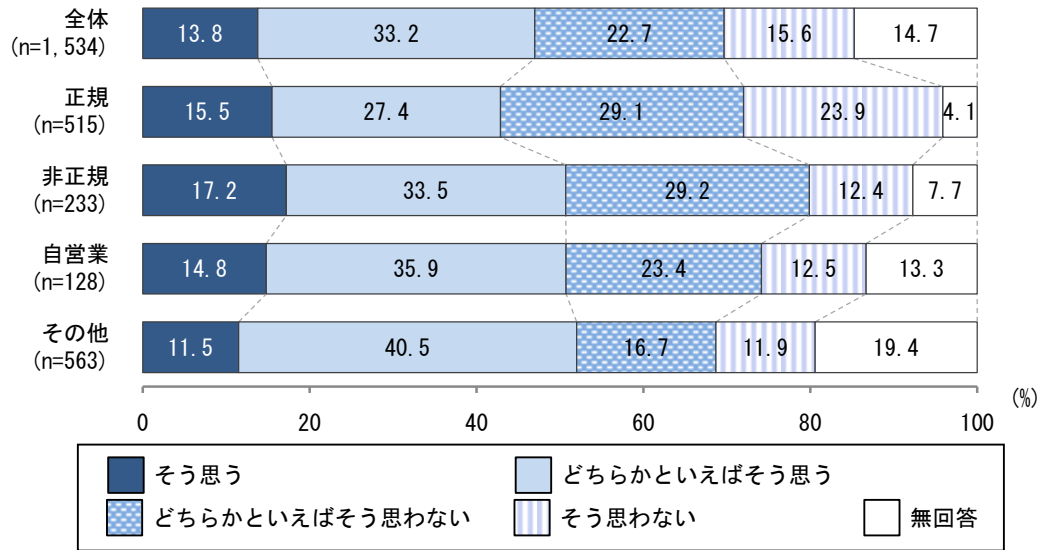
【図表 23-7-1 職場・上司の理解を得られない(性別、性年代別)】



性別にみると、男女ともに4割台後半が『そう思う』と回答しており、各割合に大きな差はみられない。

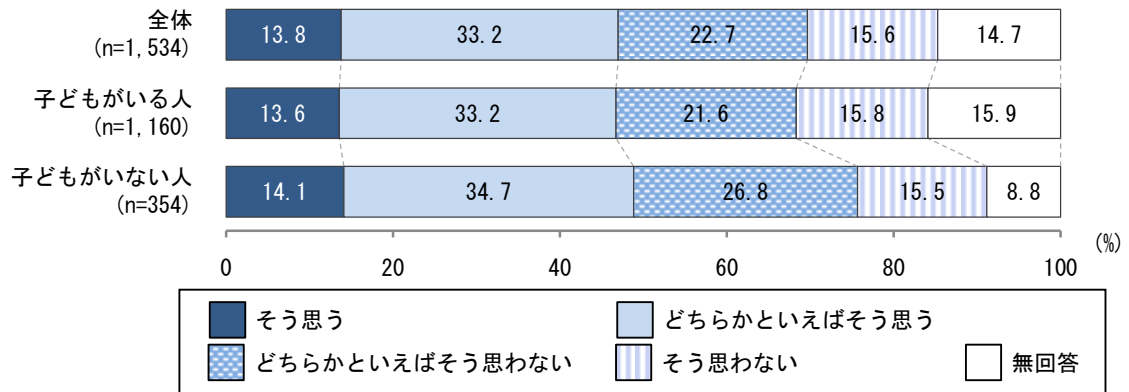
性年代別にみると、『そう思わない』は女性の 30 歳代で5割台半ば、男性の 20 歳代で約6割と高くなっている。

【図表 23-7-2 職場・上司の理解を得られない(職業別)】



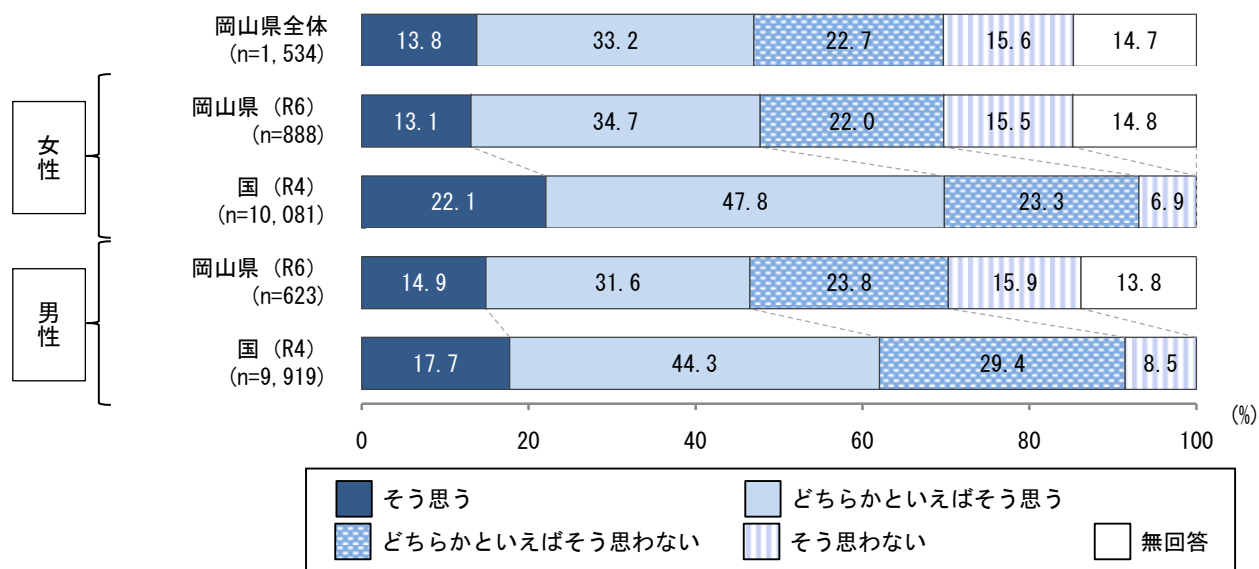
職業別でみると、『そう思う』は非正規、自営業及びその他以約5割と高くなっている。

【図表 23-7-3 職場・上司の理解を得られない(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、大きな差はみられない。

【図表 23-7-4 職場・上司の理解を得られない(国調査との比較)】

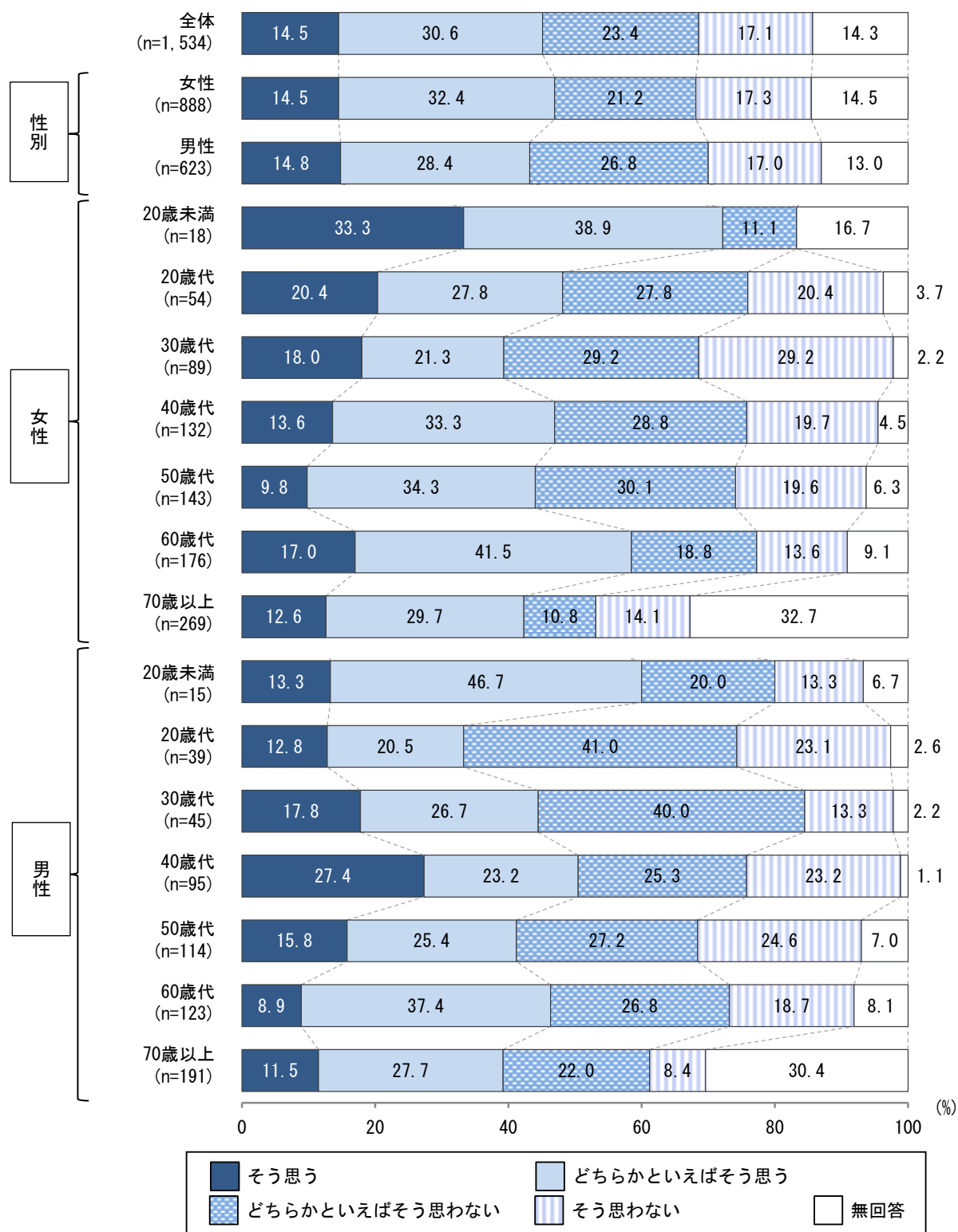


国調査と比較すると、『そう思う』は女性は令和6年調査(47.8%)が国調査(69.9%)を 22.1 ポイント、男性は令和6年調査(46.5%)が国調査(62.0%)を 15.5 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(h)職場に復帰しにくい雰囲気がある

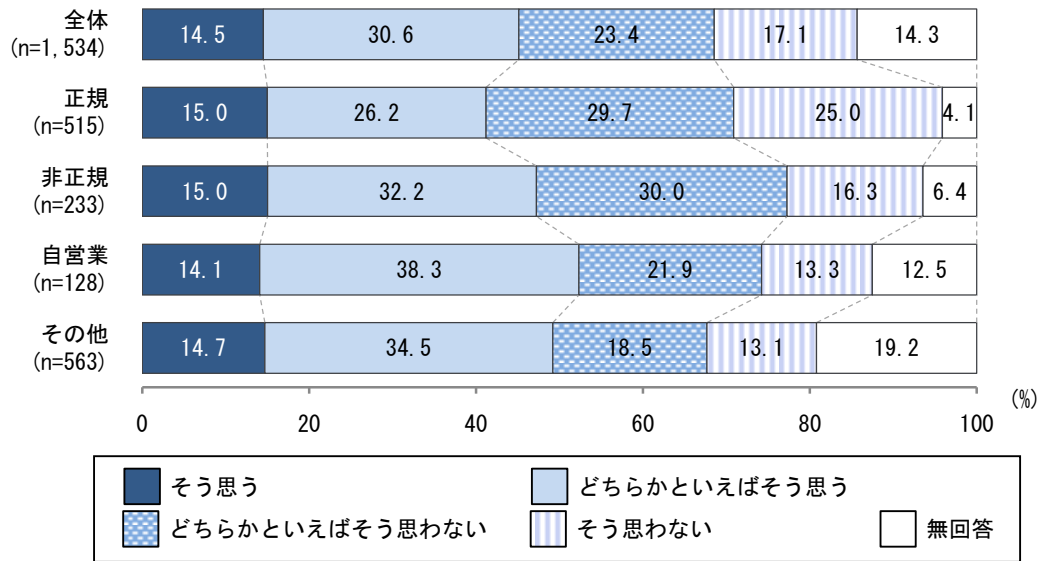
【図表 23-8-1 職場に復帰しにくい雰囲気がある(性別、性年代別)】



性別にみると、『そう思わない』は男性(43.8%)が女性(38.5%)を 5.3 ポイント上回っている。

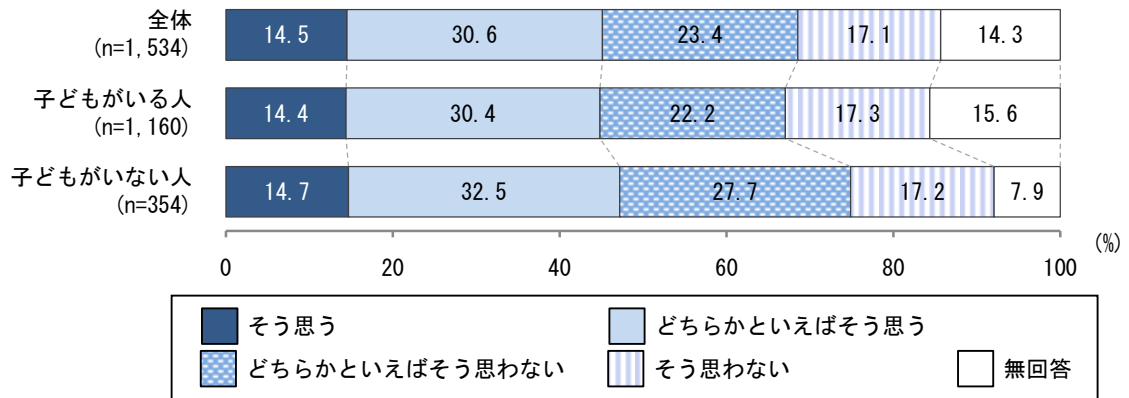
性年代別にみると、『そう思う』は女性の 60 歳代で約6割、男性の 30 歳代及び 40 歳代で5割超となっている。一方、『そう思わない』は女性の 30 歳代で約6割、男性の 20 歳代で6割台半ばと高くなっている。

【図表 23-8-2 職場に復帰しにくい雰囲気がある(職業別)】



職業別でみると、『そう思わない』は正規で5割台半ばと高くなっている。

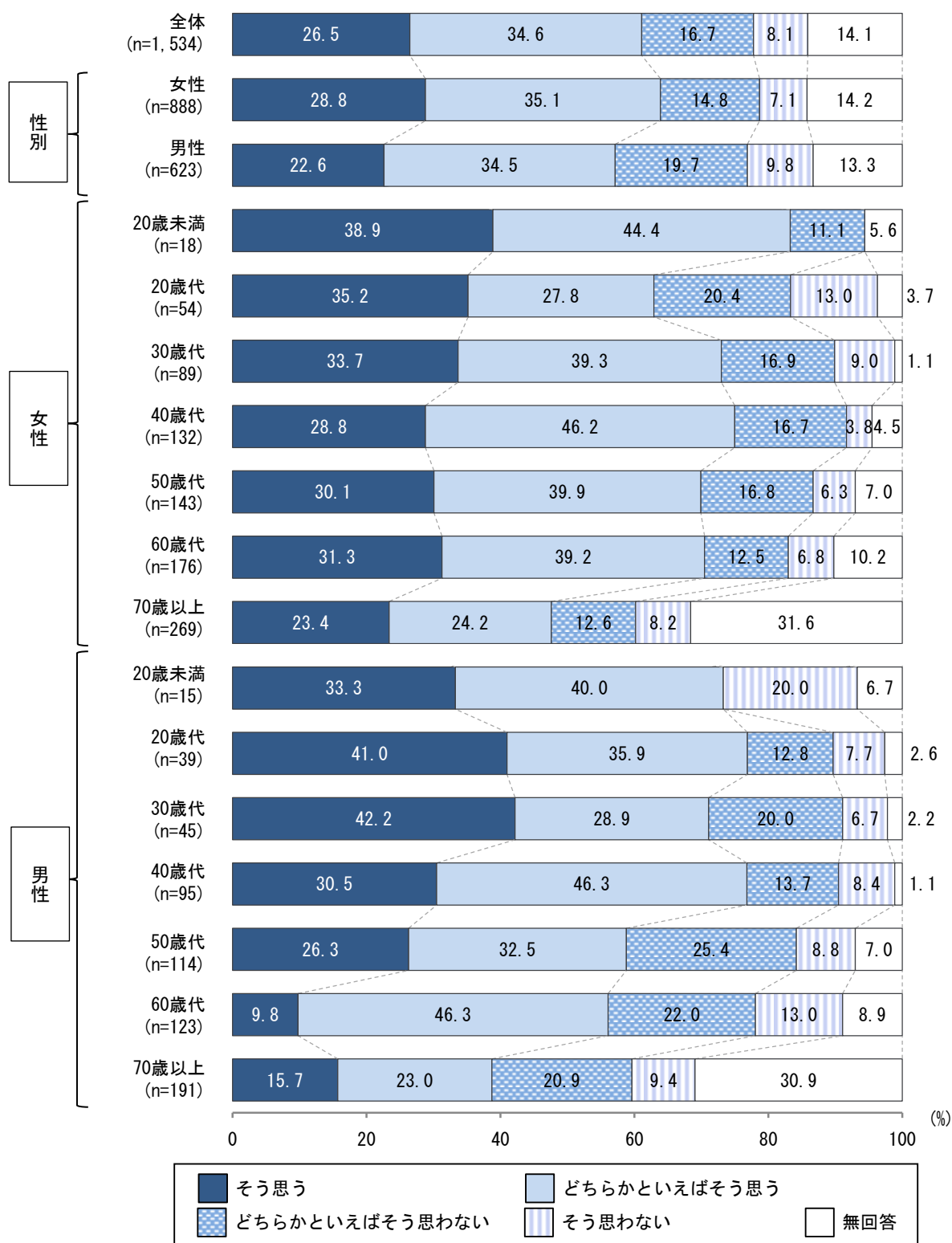
【図表 23-8-3 職場に復帰しにくい雰囲気がある(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思わない』は子どもがいない人(44.9%)が子どもがいる人(39.5%)を5.4ポイント上回っている。

(i)家にいる時間が増え安心感が高まる

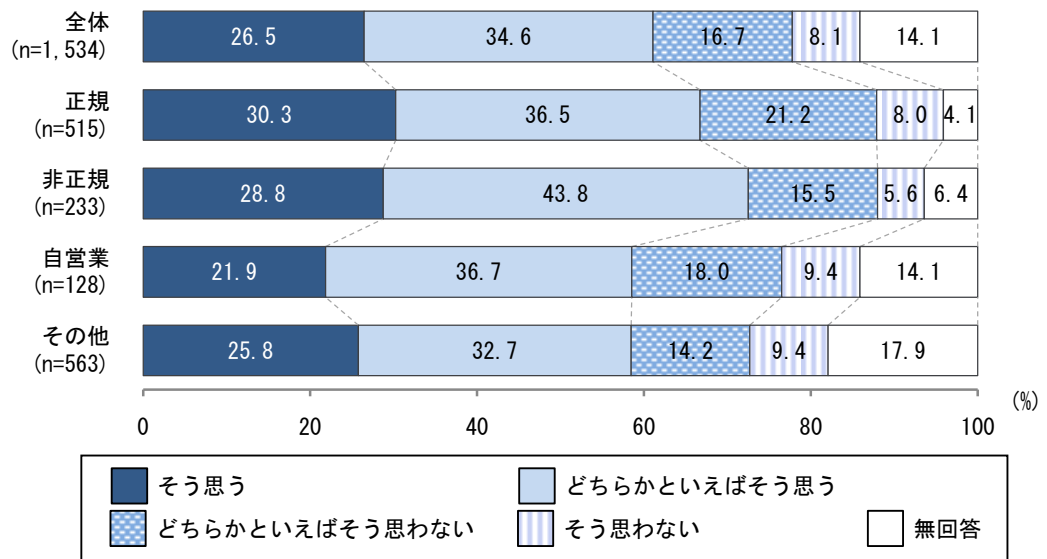
【図表 23-9-1 家にいる時間が増え安心感が高まる(性別、性年代別)】



性別にみると、『そう思わない』は男性(29.5%)が女性(21.9%)を 7.6 ポイント上回っている。

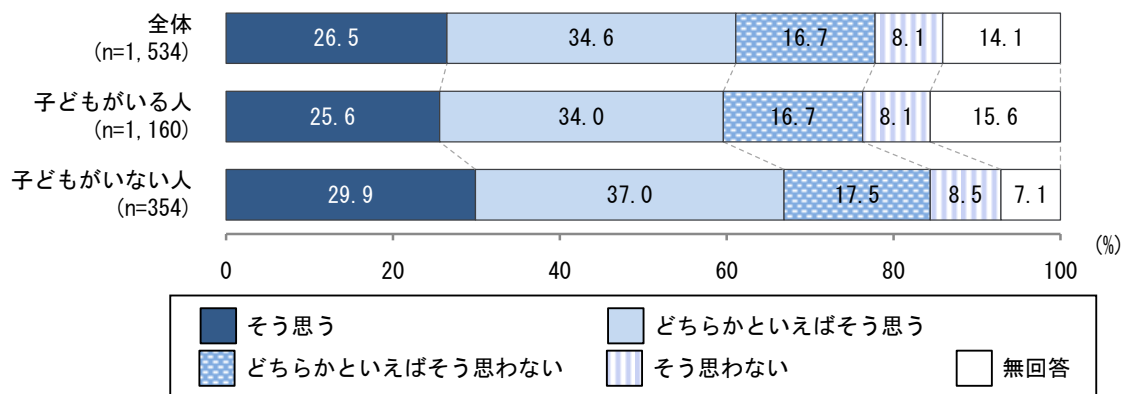
性年代別にみると、『そう思う』は女性の 40 歳代、男性の 20 歳代及び 40 歳代で7割台半ばと高くなっており、女性の 70 歳以上で約5割、男性の 70 歳以上で約4割と低くなっている。

【図表 23-9-2 家にいる時間が増え安心感が高まる(職業別)】



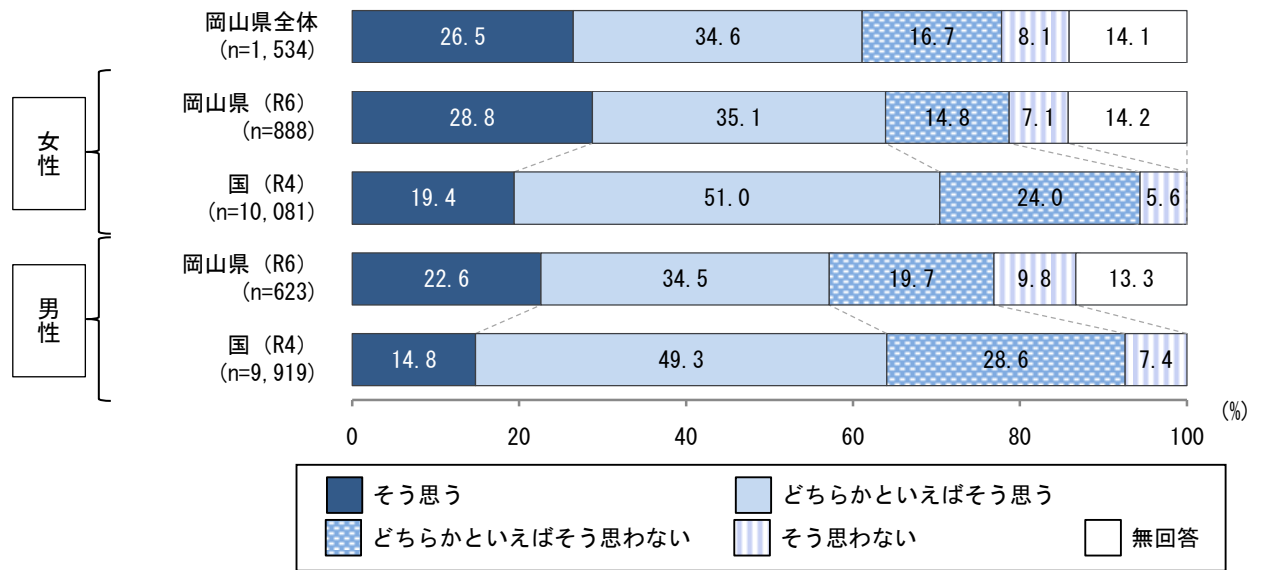
職業別でみると、『そう思う』は非正規で7割超と高くなっている。

【図表 23-9-3 家にいる時間が増え安心感が高まる(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(66.9%)が子どもがいる人(59.6%)を 7.3 ポイント上回っている。

【図表 23-9-4 家にいる時間が増え安心感が高まる(国調査との比較)】

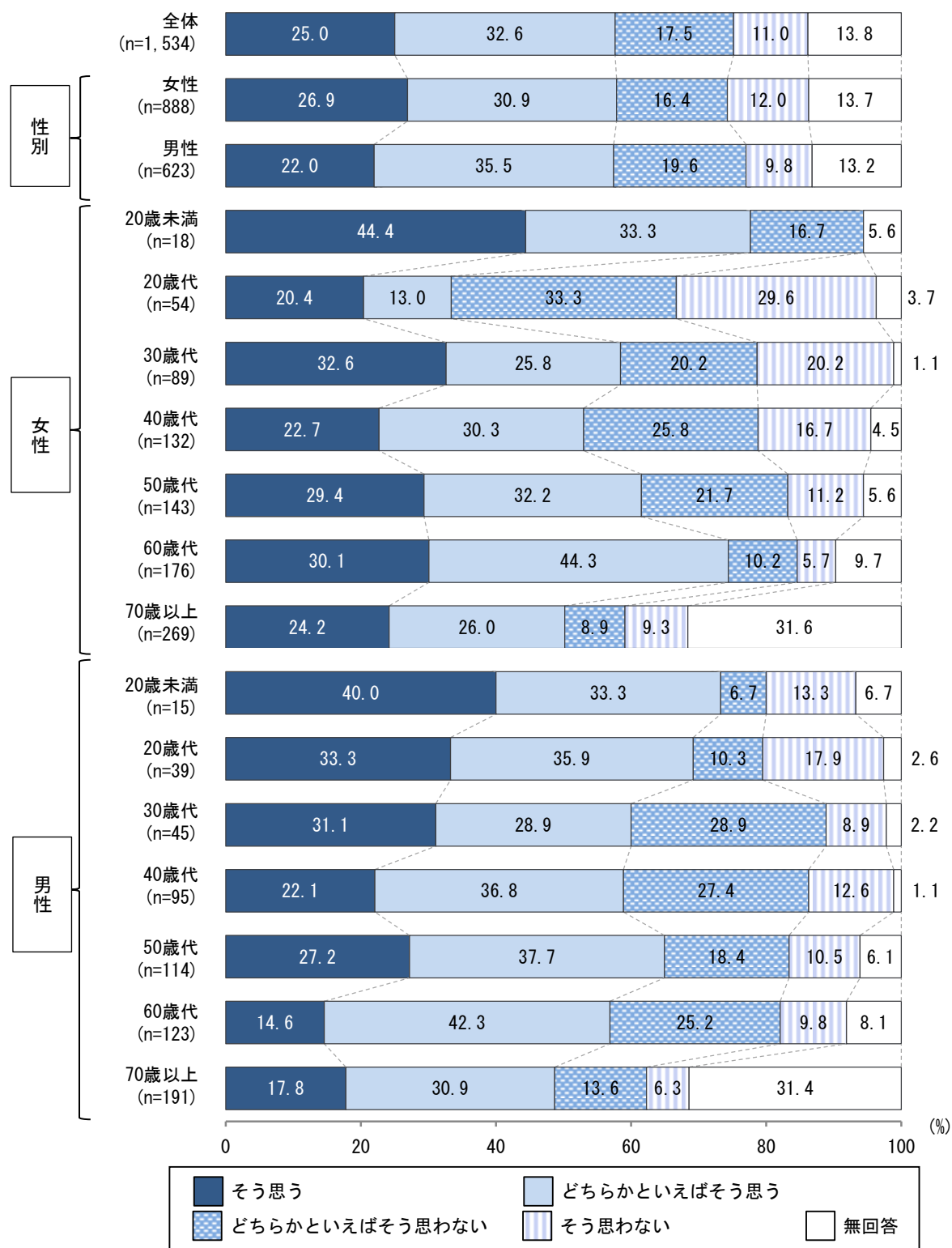


国調査と比較すると、『そう思わない』は女性は令和6年調査(21.9%)が国調査(29.6%)を 7.7 ポイント、男性は令和6年調査(29.5%)が国調査(36.0%)を 6.5 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(j)自分の時間が取れるようになる

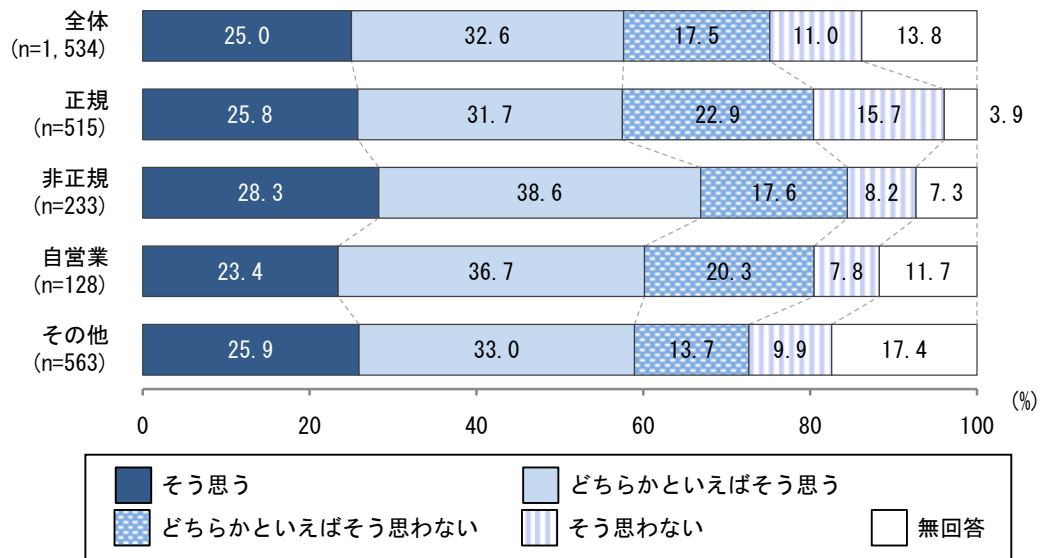
【図表 23-10-1 自分の時間が取れるようになる(性別、性年代別)】



性別にみると、男女ともに5割台後半が『そう思う』と回答しており、各割合に大きな差はみられない。

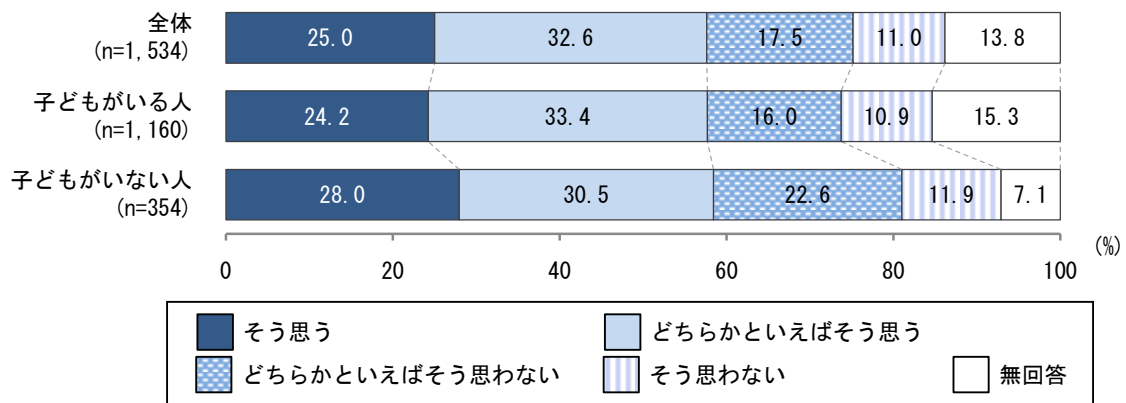
性年代別にみると、『そう思う』は男性の 20 歳代で約7割、『そう思わない』は女性の 20 歳代で6割超と高くなっている。

【図表 23-10-2 自分の時間が取れるようになる(職業別)】



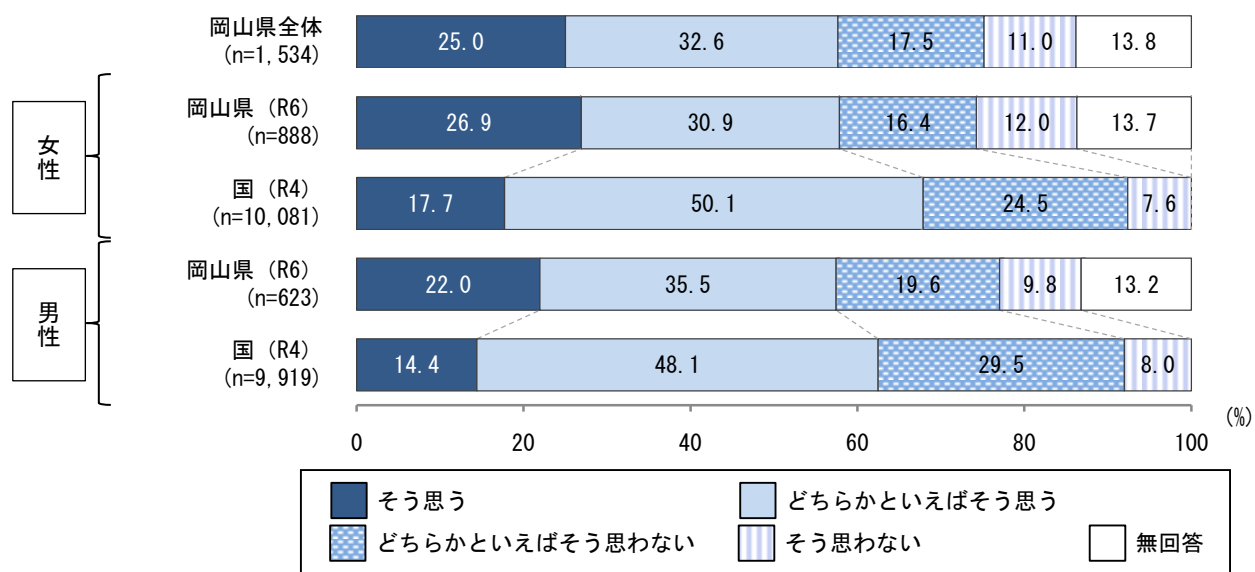
職業別でみると、『そう思う』は非正規で6割台半ばと高くなっている。

【図表 23-10-3 自分の時間が取れるようになる(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思わない』は子どもがいない人(34.5%)が子どもがいる人(26.9%)を7.6ポイント上回っている。

【図表 23-10-4 自分の時間が取れるようになる(国調査との比較)】

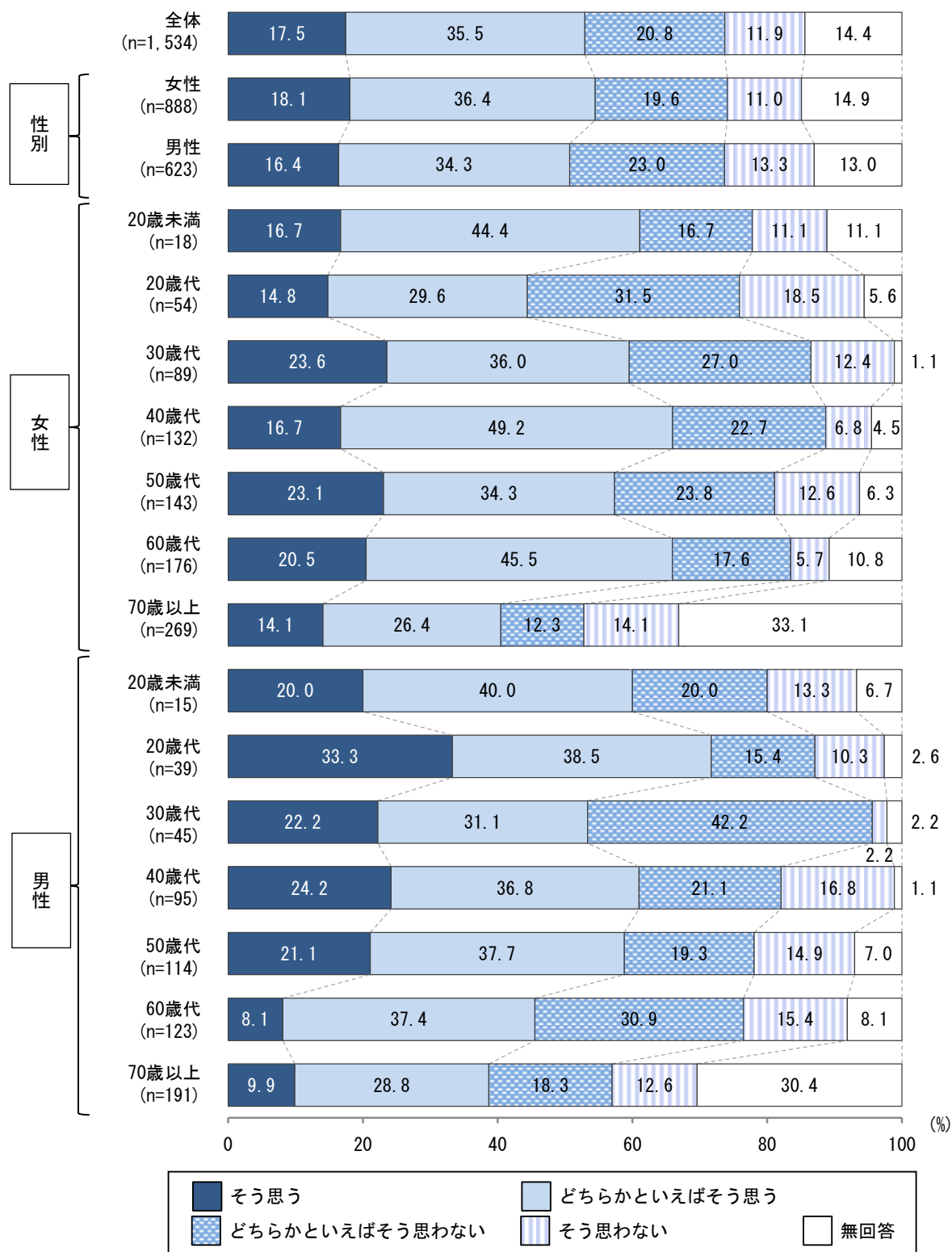


国調査と比較すると、『そう思う』は女性は令和6年調査(57.8%)が国調査(67.8%)を 10.0 ポイント、男性は令和6年調査(57.5%)が国調査(62.5%)を 5.0 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

(k) 仕事から離れることで価値観が広がる

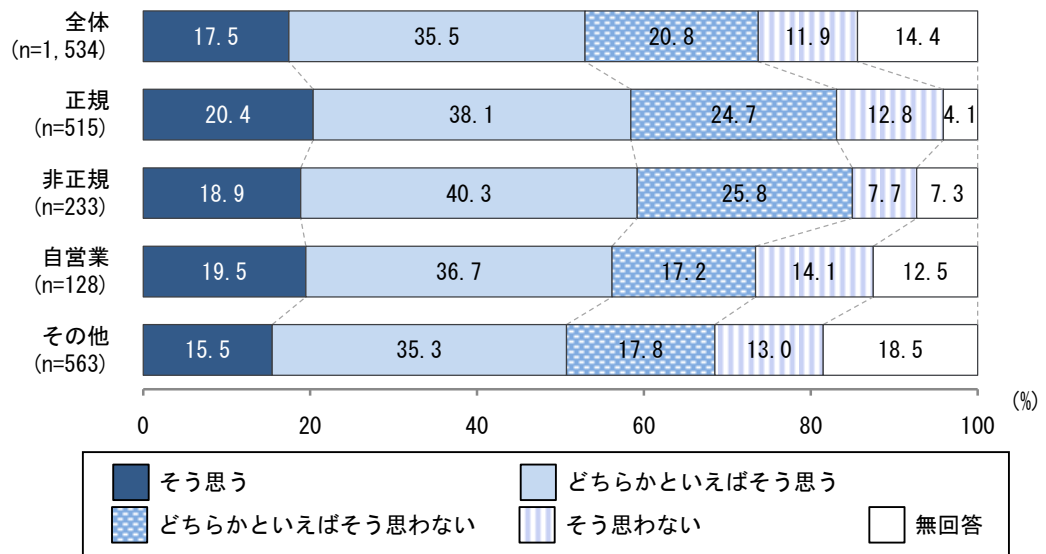
【図表 23-11-1 仕事から離れることで価値観が広がる(性別、性年代別)】



性別にみると、男女ともに約半数が『そう思う』と回答しており、『そう思わない』は男性(36.3%)が女性(30.6%)を5.7ポイント上回っている。

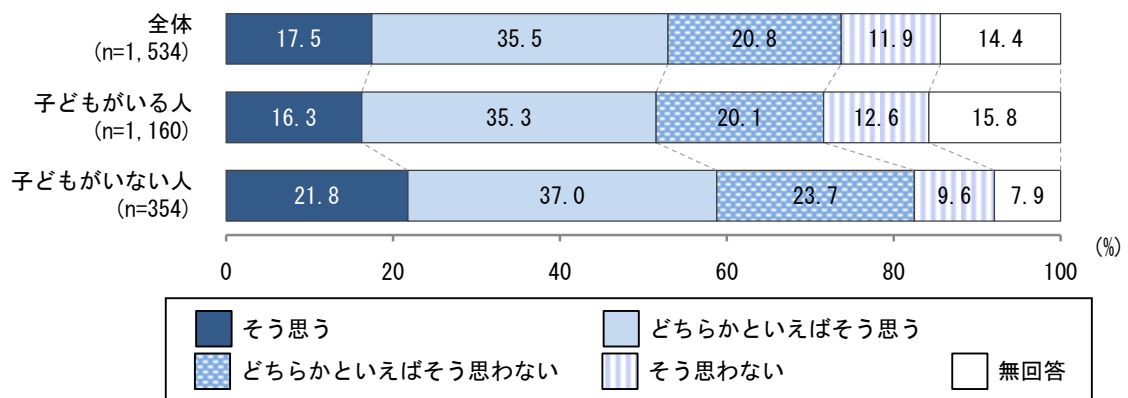
性年代別にみると、『そう思う』は男性の20歳代で7割超、『そう思わない』は女性の20歳代で5割と高くなっている。

【図表 23-11-2 仕事から離れることで価値観が広がる(職業別)】



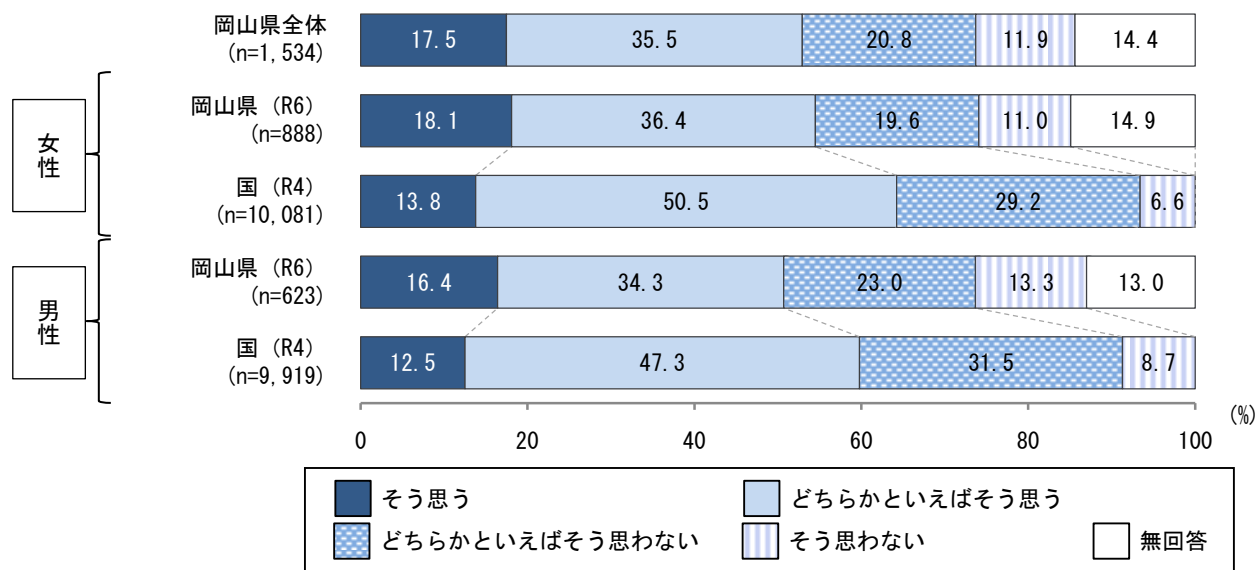
職業別でみると、『そう思う』は正規、非正規で約6割と高くなっている。

【図表 23-11-3 仕事から離れることで価値観が広がる(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(58.8%)が子どもがいる人(51.6%)を 7.2 ポイント上回っている。

【図表 23-11-4 仕事から離れることで価値観が広がる(国調査との比較)】

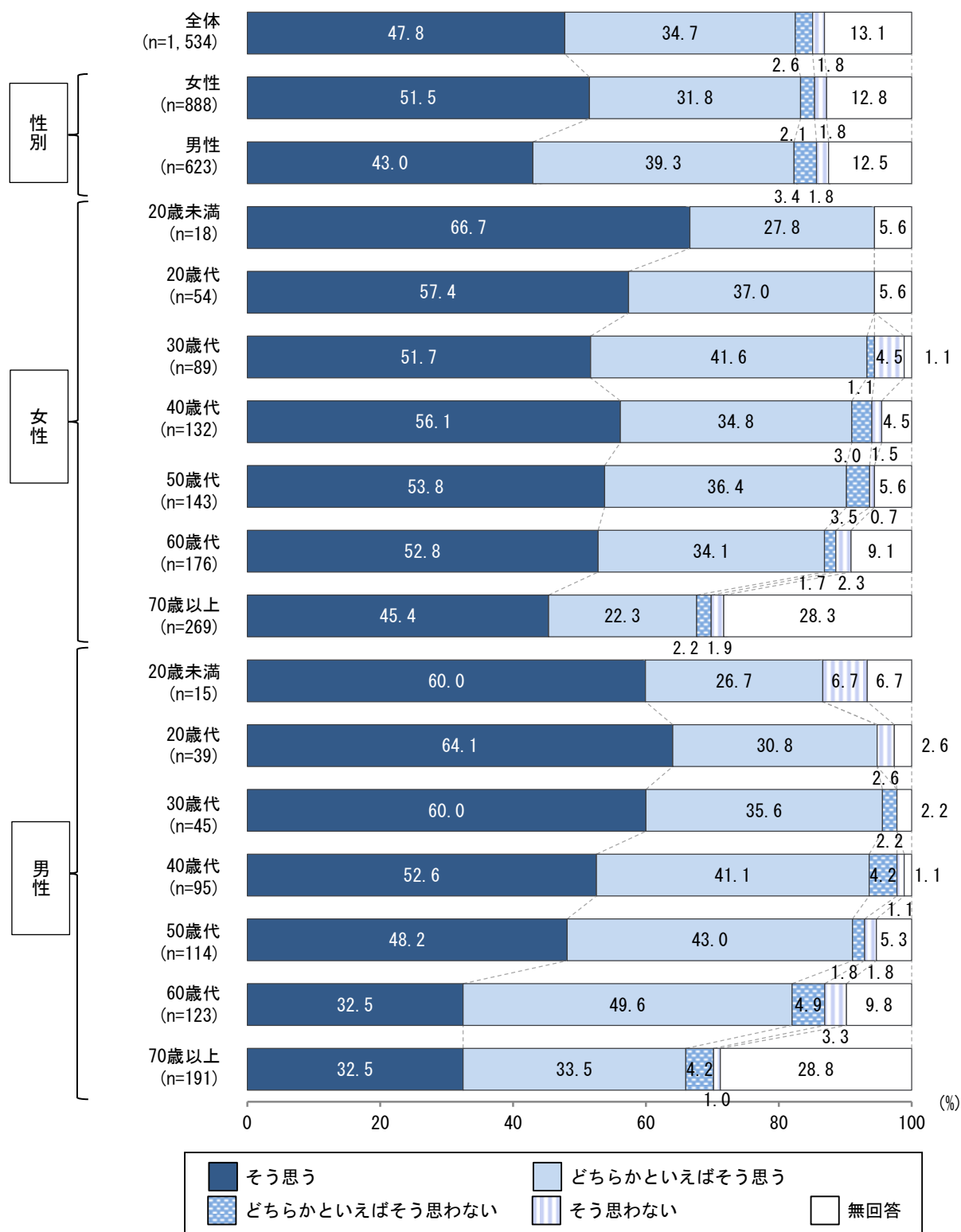


国調査と比較すると、『そう思う』は女性は令和6年調査(54.5%)が国調査(64.3%)を 9.8 ポイント下回っており、男性は令和6年調査(50.7%)が国調査(59.8%)を 9.1 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

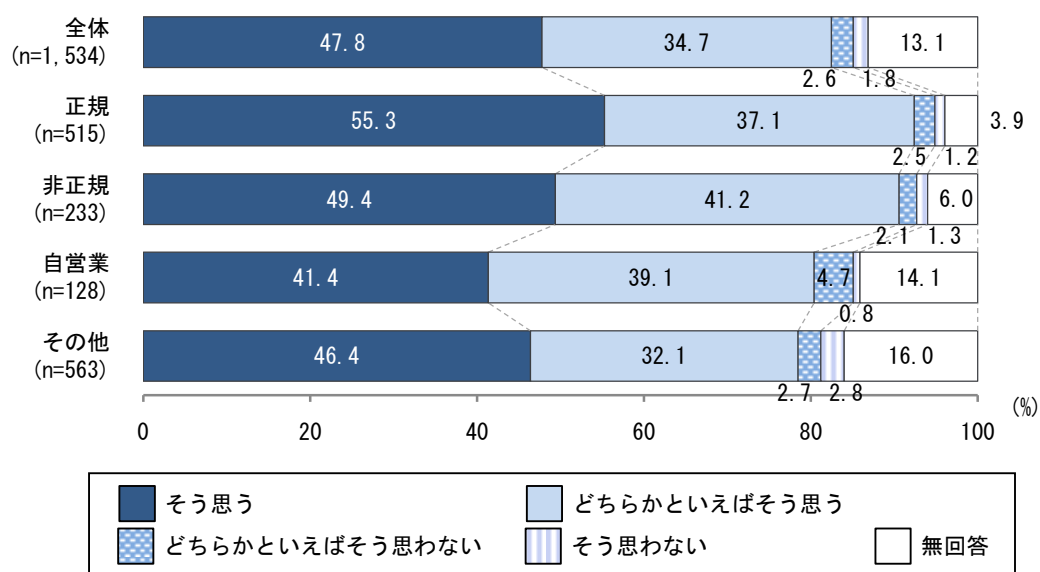
(I)子どもとの良い関係を築くことができる

【図表 23-12-1 子どもとの良い関係を築くことができる(性別、性年代別)】



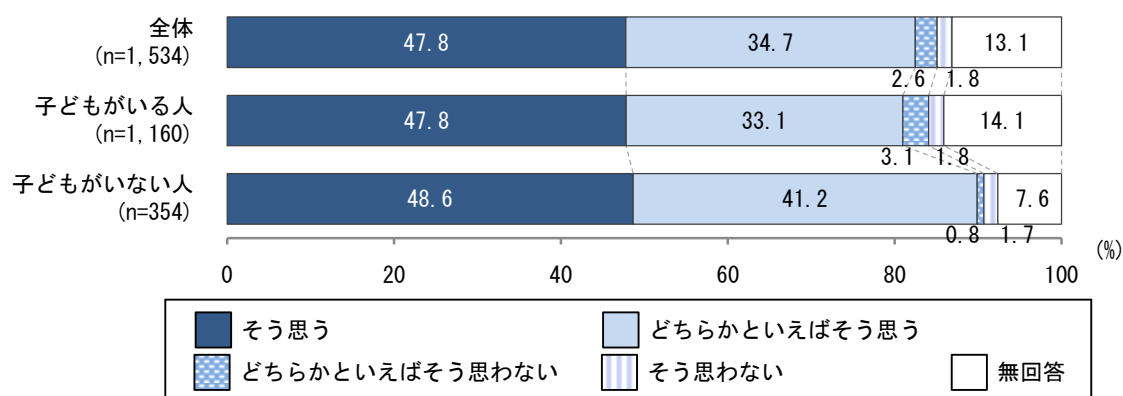
性別にみると、男女ともに8割超が『そう思う』と回答しており、各割合に大きな差はみられない。
性年代別にみると、男女ともに『そう思う』は20歳代～50歳代で9割台と高くなっている。

【図表 23-12-2 子どもとの良い関係を築くことができる(職業別)】



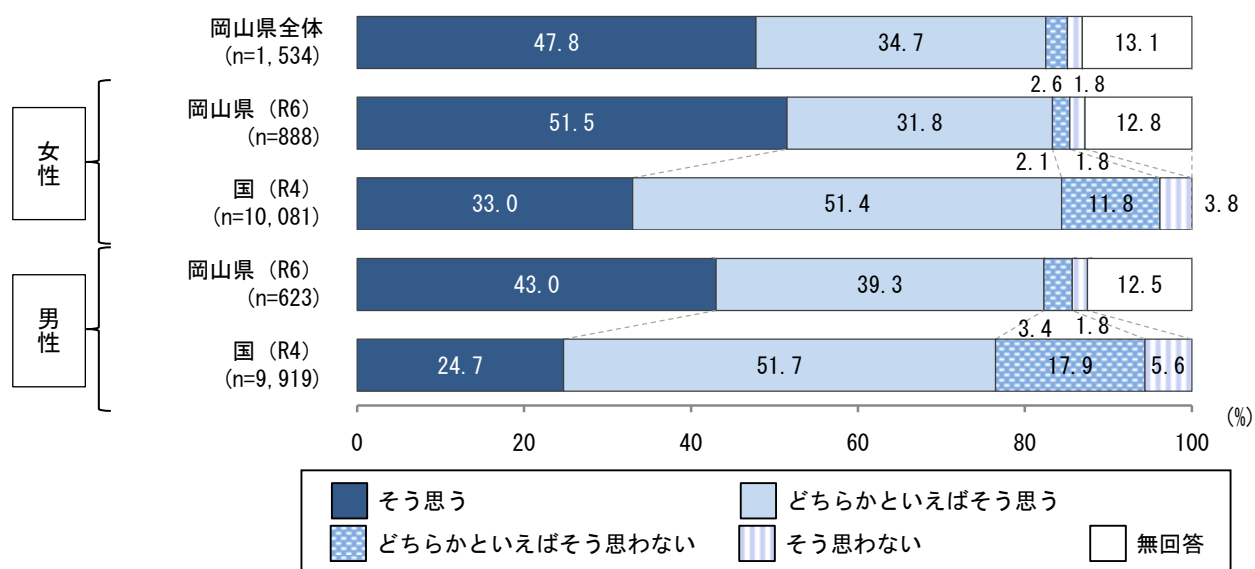
職業別でみると、『そう思う』は正規及び非正規で9割超と高くなっている。

【図表 23-12-3 子どもとの良い関係を築くことができる(子どもの有無別)】



子どもの有無別にみると、『そう思う』は子どもがいない人(89.8%)が子どもがいる人(80.9%)を 8.9 ポイント上回っている。

【図表 23-12-4 子どもとの良い関係を築くことができる(国調査との比較)】



国調査と比較すると、『そう思う』は男女ともに国と同様に約8割となっている。一方、『そう思わない』は女性では令和6年調査(3.9%)が国調査(15.6%)を 11.7 ポイント、男性では令和6年調査(5.2%)が国調査(23.5%)を 18.3 ポイント下回っている。

※国調査「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」

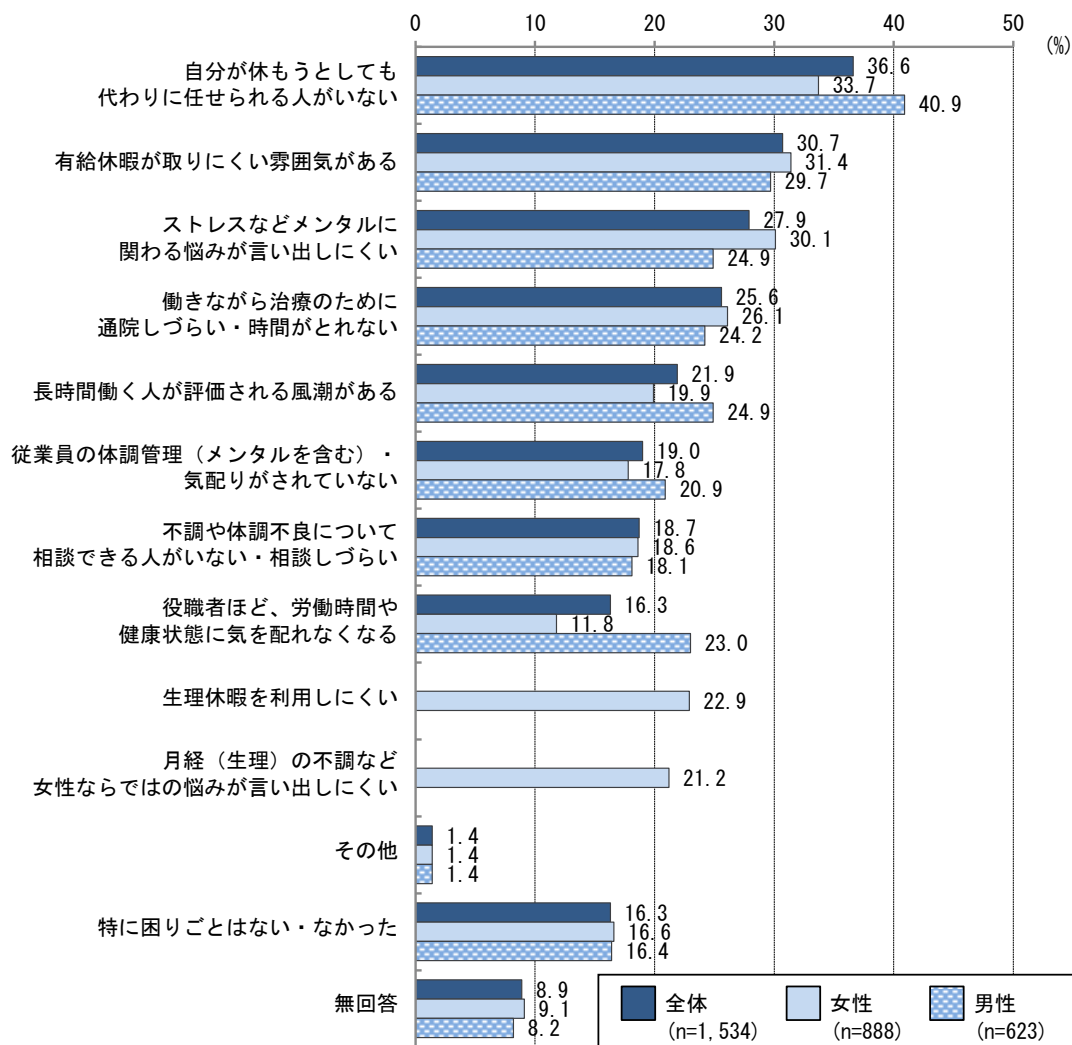
【新規】

(4) 働く上で健康課題に関して困ったこと

働いている方、もしくは働いたことがある方のみ

問24 過去～現在を含めて、働く上で身体や心の不調、健康問題に関して、どんな困りごとがありましたか。(✓はいくつでも)

【図表 24-1 働く上で健康課題に関して困ったこと(性別)】



「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」が最も高い

働く上で健康課題に関して困ったことについて、「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」が36.6%と最も高く、次いで「有給休暇が取りにくい雰囲気がある」(30.7%)、「ストレスなどメンタルに関わる悩みが言い出しにくい」(27.9%)などの順となっている。

性別にみると、「ストレスなどメンタルに関わる悩みが言い出しにくい」は女性(30.1%)が男性(24.9%)を5.2ポイント上回っており、「役職者ほど、労働時間や健康状態に気を配れなくなる」は男性(23.0%)が女性(11.8%)を11.2ポイント上回っている。

【図表 24-2 働く上で健康課題に関して困ったこと(性年代別・上位 10 位)】

(%)

		n 数	なわいり	自分が休ませうとする人が多い代	有給休暇が取りにくい雰囲気	く関わる悩みなど言いついに	ストレスなどがメンタルに	れない	通院しづらい治療のため	働きながら	長時間働く人が評価される風潮がある	されてい	従業員の体調管理(ヘリマン	相談しづらい	相談できる人がいない・	不調や体調不良について	なる健康状態に気を配れない	役職者ほど、労働時間や	生理休暇を利用しにくい	い女性ならではの悩みなど	月経(生理)の不調など
全 体		1,534	36.6	30.7	27.9	25.6	21.9	19.0	18.7	16.3	13.4	12.5									
年 代 別	女 性	20歳未満	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	54	38.9	33.3	33.3	18.5	16.7	22.2	25.9	7.4	37.0	29.6								
		30歳代	89	42.7	28.1	33.7	33.7	24.7	24.7	24.7	15.7	37.1	38.2								
		40歳代	132	42.4	35.6	38.6	22.0	25.0	23.5	24.2	23.5	34.1	31.1								
		50歳代	143	40.6	31.5	31.5	33.6	21.0	19.6	22.4	16.1	24.5	21.7								
		60歳代	176	33.0	31.8	36.4	26.7	21.0	16.5	18.8	9.7	14.2	16.5								
		70歳以上	269	24.5	32.0	21.6	24.9	16.7	13.0	11.5	5.9	16.4	13.4								
	男 性	20歳未満	15	6.7	-	6.7	-	6.7	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	39	17.9	17.9	33.3	12.8	35.9	20.5	12.8	12.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	45	48.9	40.0	31.1	28.9	44.4	31.1	26.7	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		40歳代	95	52.6	36.8	38.9	31.6	28.4	28.4	24.2	29.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		50歳代	114	44.7	24.6	32.5	24.6	21.9	25.4	20.2	26.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		60歳代	123	46.3	31.7	16.3	27.6	21.1	18.7	22.8	29.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		70歳以上	191	35.1	30.4	17.3	21.5	22.0	14.7	11.5	20.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1位 2位 3位

性年代別にみると、「生理休暇を利用しにくい」は女性の 20 歳代及び 30 歳代で約4割、「長時間働く人が評価される風潮がある」は男性の 30 歳代で4割台半ばと高くなっている。

【図表 24-3 働く上で健康課題に関して困ったこと(就労状況別・上位 10 位)】

(%)

		n 数	なわいり	自分が休ませうとする人が多い代	有給休暇が取りにくい雰囲気	く関わる悩みなど言いついに	ストレスなどがメンタルに	れない	通院しづらい治療のため	働きながら	長時間働く人が評価される風潮がある	されてい	従業員の体調管理(ヘリマン	相談しづらい	相談できる人がいない・	不調や体調不良について	なる健康状態に気を配れない	役職者ほど、労働時間や	生理休暇を利用しにくい	い女性ならではの悩みなど	月経(生理)の不調など
全 体		1,534	36.6	30.7	27.9	25.6	21.9	19.0	18.7	16.3	13.4	12.5									
就 労 状 況 別	共働き家庭	491	45.8	27.5	30.8	26.9	23.6	20.4	18.5	21.0	15.7	13.0									
	専業主婦(夫)家庭	131	41.2	35.1	35.9	29.8	24.4	18.3	26.7	21.4	19.1	22.1									

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「月経(生理)の不調など女性ならではの悩みが言い出しにくい」は専業主婦(夫)家庭(22.1%)が共働き家庭(13.0%)を 9.1 ポイント、「不調や体調不良について相談できる人がいない・相談しづらい」は専業主婦(夫)家庭(26.7%)が共働き家庭(18.5%)を 8.2 ポイント、「有給休暇が取りにくい雰囲気がある」は専業主婦(夫)家庭(35.1%)が共働き家庭(27.5%)を 7.6 ポイント上回っている。

【図表 24-4 働く上で健康課題に関して困ったこと(職業別・上位 10 位)】

			(%)												
		n 数	なわいり 自分が休もうとせられて人でもない代	有給休暇が取りにくい霧	くわいする ストレスなどがメンタルに	関係ない	働きながら治療のために	長時間働く人が評価される風潮がある	従業員の体調管理（メンタルを含む）・気配りがされていない	相談しづらい	相談できる人がいない・不調や体調不良について	健康状態に気を配れない	役職者ほど、労働時間や生理休暇を利用しにくい	女性なら生理の悩みなど	月経（生理）の不調など
全 体		1,534	36.6	30.7	27.9	25.6	21.9	19.0	18.7	16.3	13.4	12.5			
職 業 別	正規	515	45.0	32.0	31.5	26.8	25.2	23.9	22.1	25.2	15.3	13.6			
	非正規	233	37.8	29.2	37.8	29.2	24.9	20.6	22.7	16.7	15.0	12.9			
	自営業	128	46.1	25.0	25.0	31.3	19.5	15.6	16.4	14.1	10.9	7.8			
	その他	563	29.5	32.3	23.6	22.0	20.1	16.3	15.6	9.9	12.8	13.5			

1位 2位 3位

職業別でみると、「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」は正規、自営業で4割台半ば、「ストレスなどメンタルに関わる悩みが言い出しにくい」は非正規で約4割と高くなっている。

【図表 24-5 働く上で健康課題に関して困ったこと(国調査との比較・上位 10 位)】

												(%)						
		n 数	なわいり 自分が休もうと せられる人がい ない	有給休暇が取り にくい	関係ない	ストレスなどがメン タルに	通院しながら治療 のために	働きながら人が評価 される	長時間働く人が評価 される	従業員含みの体調管 理(メンタルを 含む)	相談しづらい	相談できる人がい ない	不調や体調不良につ いて	健康状態に気を配 れない	役職者ほど、労働時 間や	生理休暇を利用しに くい	女性なら生理の悩 みなど	月経(生理)の不調 など
岡山県全体		1,534	36.6	30.7	27.9	25.6	21.9	19.0	18.7	16.3	13.4	12.5						
女性	岡山県(R6)	888	33.7	31.4	30.1	26.1	19.9	17.8	18.6	11.8	22.9	21.2						
	国(R5)	9,876	19.1	12.5	21.6	13.0	8.6	11.5	13.6	3.8								
男性	岡山県(R6)	623	40.9	29.7	24.9	24.2	24.9	20.9	18.1	23.0	-	-						
	国(R5)	9,598	15.7	11.1	18.4	11.1	9.1	10.3	12.0	7.5								

1位 2位 3位

国調査と比較すると、女性では「有給休暇が取りにくい霧雰囲気がある」は令和6年調査(31.4%)が国調査(12.5%)を 18.9 ポイント、男性では「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」は令和6年調査(40.9%)が国調査(15.7%)を 25.2 ポイント上回っている。

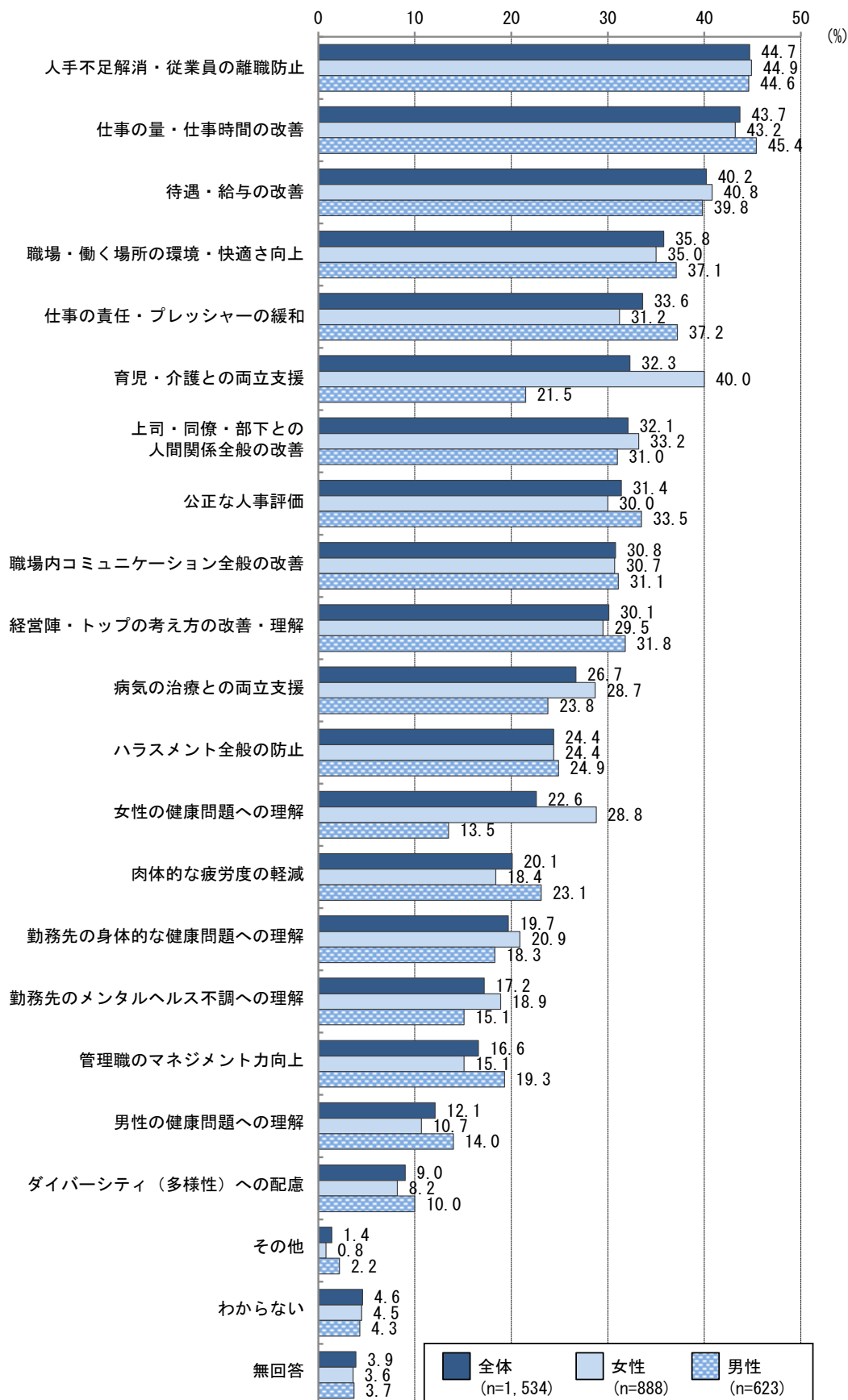
※国調査「令和5年度男女の健康意識に関する調査報告書」

【新規】

(5) 働く上での健康課題や困りごとに対する改善策

問25 どんなことがあれば、働く上での身体や心の不調、健康問題や、それに関する困りごとについて、改善に向かうと思われますか。(✓はいくつでも)

【図表 25-1 働く上での健康課題や困りごとに対する改善策(性別)】



「人手不足解消・従業員の離職防止」が最も高い

働く上での健康課題や困りごとに対する改善策について、「人手不足解消・従業員の離職防止」が 44.7%と最も高く、次いで「仕事の量・仕事時間の改善」(43.7%)、「待遇・給与の改善」(40.2%)などの順となっている。

性別にみると、「育児・介護との両立支援」は女性(40.0%)が男性(21.5%)を 18.5 ポイント、「女性の健康問題への理解」は女性(28.8%)が男性(13.5%)を 15.3 ポイント上回っている。一方、「仕事の責任・プレッシャーの緩和」は男性(37.2%)が女性(31.2%)を 6.0 ポイント上回っている。

【図表 25-2 働く上での健康課題や困りごとに対する改善策(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	人手不足 解消・従業 員の離職防 止	仕事の量・ 仕事時間 の改善	待遇・給 与の改善	職場・快 適さ・働 く場所の 環境	仕事の責 任・プレ ッシャー の緩和	育児・介 護との両 立支援	上司・同 僚・部下 との関係 改善	公正な人 事評価	職場内全 体の改善 率	経営陣の 改善・ト ップの考 え
全 体		1,534	44.7	43.7	40.2	35.8	33.6	32.3	32.1	31.4	30.8	30.1
年 代 別	女 性	20歳未満	18	22.2	61.1	50.0	38.9	50.0	55.6	27.8	44.4	27.8
		20歳代	54	66.7	70.4	51.9	40.7	46.3	42.6	38.9	31.5	42.6
		30歳代	89	60.7	61.8	55.1	33.7	41.6	51.7	32.6	29.2	25.8
		40歳代	132	62.1	43.2	47.0	39.4	36.4	37.1	37.1	32.6	31.1
		50歳代	143	54.5	40.6	44.8	41.3	32.2	42.7	38.5	33.6	32.9
		60歳代	176	46.0	42.6	43.2	33.0	35.8	44.3	31.3	34.1	34.7
		70歳以上	269	23.0	33.5	26.8	30.9	18.2	32.7	27.1	24.2	23.0
	男 性	20歳未満	15	33.3	60.0	33.3	20.0	33.3	6.7	20.0	6.7	6.7
		20歳代	39	59.0	59.0	61.5	43.6	51.3	38.5	46.2	43.6	35.9
		30歳代	45	57.8	66.7	55.6	40.0	57.8	17.8	33.3	31.1	33.3
		40歳代	95	64.2	53.7	56.8	49.5	50.5	31.6	36.8	40.0	42.1
		50歳代	114	55.3	48.2	34.2	35.1	44.7	26.3	33.3	35.1	33.3
		60歳代	123	39.8	39.0	39.0	34.1	30.9	19.5	28.5	31.7	39.8
		70歳以上	191	26.7	34.6	27.7	33.5	23.0	13.6	25.7	31.4	21.5

1位 2位 3位

性年代別にみると、「仕事の量・仕事時間の改善」は女性の 20 歳代で約7割、「仕事の責任・プレッシャーの緩和」は男性の 30 歳代で約6割と高くなっている。

【図表 25-3 働く上での健康課題や困りごとに対する改善策(地域別・上位 10 位)】

		n 数	人手不足解消・従業員の離職防止	仕事の量・仕事時間の改善	待遇・給与の改善	職場・働く場所の環境・快適さ向上	仕事の責任・プレッシャーの緩和	育児・介護との両立支援	上司・同僚・部下との人間関係全般の改善	公正な人事評価	職場内コミュニケーション全般の改善	経営陣・トップの考え方の改善・理解
全 体		1,534	44.7	43.7	40.2	35.8	33.6	32.3	32.1	31.4	30.8	30.1
地域別	備前県民局管内	756	44.0	43.0	39.9	34.3	33.9	33.3	33.5	33.1	32.0	30.0
	備中県民局管内	612	44.9	42.8	40.2	37.6	30.9	31.7	29.2	28.6	28.3	29.1
	美作県民局管内	158	48.7	52.5	43.7	36.7	44.3	30.4	36.7	34.2	34.8	36.1

1位 2位 3位

地域別にみると、「人手不足解消・従業員の離職防止」及び「仕事の量・仕事時間の改善」はすべての地域で上位となっている。「仕事の責任・プレッシャーの緩和」は美作県民局管内では4割台半ばと高くなっている。

【図表 25-4 働く上での健康課題や困りごとに対する改善策(国調査との比較・上位 10 位)】

		n 数	人手不足解消・従業員の離職防止	仕事の量・仕事時間の改善	待遇・給与の改善	職場・働く場所の環境・快適さ向上	仕事の責任・プレッシャーの緩和	育児・介護との両立支援	上司・同僚・部下との人間関係全般の改善	公正な人事評価	職場内コミュニケーション全般の改善	経営陣・トップの考え方の改善・理解
岡山県全体		1,534	44.7	43.7	40.2	35.8	33.6	32.3	32.1	31.4	30.8	30.1
女性	岡山県(R6)	888	44.9	43.2	40.8	35.0	31.2	40.0	33.2	30.0	30.7	29.5
	国(R5)	10,121	20.2	21.0	21.5	20.1	15.8	12.0	15.8	12.3	17.2	11.5
男性	岡山県(R6)	623	44.6	45.4	39.8	37.1	37.2	21.5	31.0	33.5	31.1	31.8
	国(R5)	9,879	15.3	21.0	21.8	17.6	16.8	5.1	14.4	12.3	14.4	11.8

1位 2位 3位

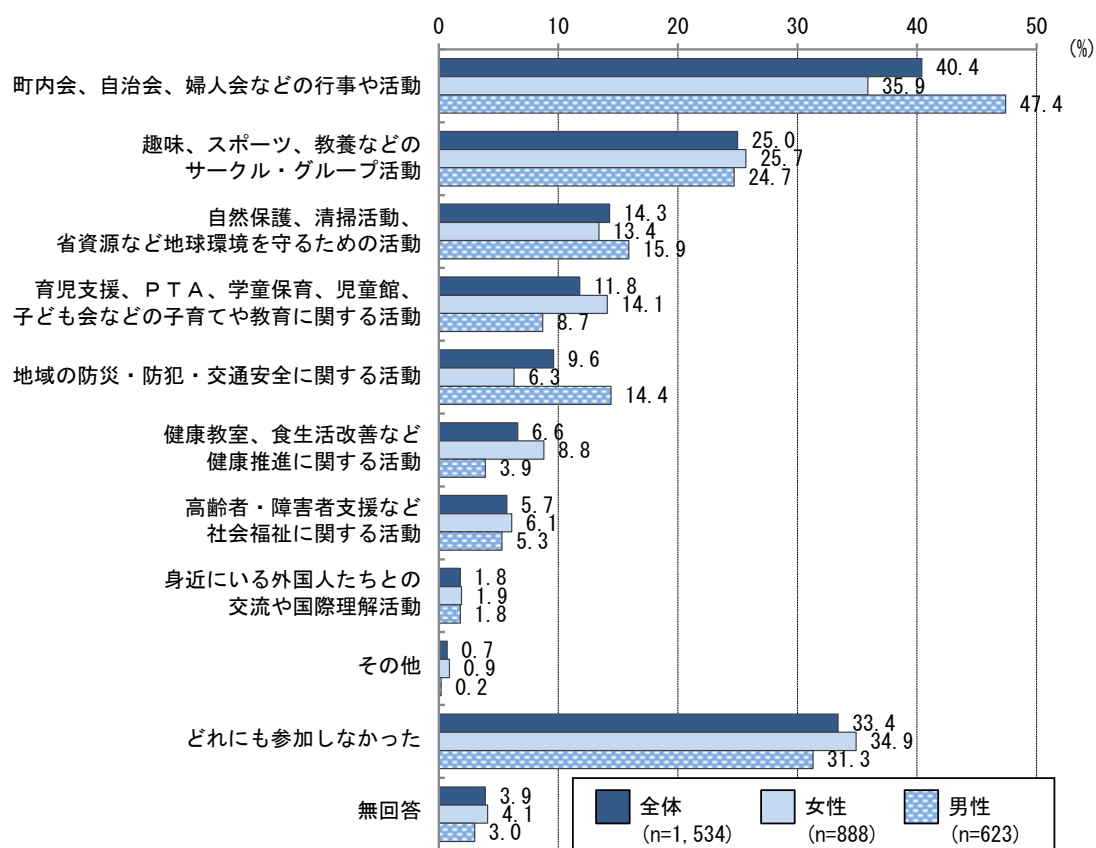
国調査と比較すると、すべての項目で国調査を上回っている。また、女性では「育児・介護との両立支援」は令和6年調査(40.0%)が国調査(12.0%)を 28.0 ポイント、男性では「人手不足解消・従業員の離職防止」は令和6年調査(44.6%)が国調査(15.3%)を 29.3 ポイント上回っている。

※国調査「令和5年度男女の健康意識に関する調査報告書」

(6) 最近参加した地域活動

問26 ここ1年ほどの間で参加した地域活動にはどのようなものがありますか。(✓はいくつでも)

【図表 26-1 最近参加した地域活動(性別)】



「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」が最も高い

最近参加した地域活動について、「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」が 40.4%と最も高く、次いで「趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動」(25.0%)、「自然保護、清掃活動、省資源など地球環境を守るための活動」(14.3%)などの順となっている。また、「どれにも参加しなかった」は 33.4%となっている。

性別にみると、「育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動」は女性(14.1%)が男性(8.7%)を 5.4 ポイント上回っており、「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」は男性(47.4%)が女性(35.9%)を 11.5 ポイント上回っている。

【図表 26-2 最近参加した地域活動(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	町内会、自治会、婦人会などの 行事や活動	どれにも参加しなかった	趣味、スポーツ、教養などの サークル・グループ活動	自然保護、清掃活動、省資源な ど地球環境を守るための活動	育児支援、PTA、学童保育、 児童館、子ども会などの子育て や教育に関する活動	地域の防災・防犯・交通安全に 関する活動	健康教室、食生活改善など健康 推進に関する活動	高齢者・障害者支援など社会福 祉に関する活動	身近にいる外国人たちとの交流 や国際理解活動	その他	
全 体		1,534	40.4	33.4	25.0	14.3	11.8	9.6	6.6	5.7	1.8	0.7	
年代別	女性	20歳未満	18	5.6	44.4	16.7	5.6	-	-	-	16.7	5.6	5.6
		20歳代	54	9.3	59.3	22.2	5.6	7.4	5.6	-	-	7.4	-
		30歳代	89	24.7	33.7	24.7	6.7	46.1	4.5	1.1	1.1	-	-
		40歳代	132	42.4	34.1	19.7	12.1	37.1	3.8	3.8	1.5	1.5	-
		50歳代	143	32.2	43.4	16.1	14.0	8.4	6.3	7.0	4.9	0.7	2.1
		60歳代	176	45.5	27.3	29.0	18.2	6.8	6.8	9.1	10.8	3.4	1.7
		70歳以上	269	39.8	30.5	33.5	15.2	2.2	8.6	17.1	8.2	1.1	0.4
	男性	20歳未満	15	-	53.3	26.7	-	13.3	-	-	-	-	6.7
		20歳代	39	10.3	71.8	15.4	5.1	-	-	-	-	2.6	-
		30歳代	45	42.2	42.2	17.8	15.6	20.0	22.2	-	-	4.4	-
		40歳代	95	42.1	33.7	24.2	14.7	16.8	20.0	2.1	5.3	1.1	-
		50歳代	114	61.4	22.8	23.7	14.9	14.9	13.2	3.5	6.1	0.9	-
		60歳代	123	52.8	29.3	22.0	16.3	0.8	16.3	3.3	4.1	4.1	-
		70歳以上	191	50.3	24.1	30.9	20.4	4.7	13.6	7.3	8.4	0.5	-

1位 2位 3位

性年代別にみると、すべての年代で「どれにも参加しなかった」が上位となっている。参加した人では、「育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動」は女性の 30 歳代で4割台半ば、「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」は男性の 50 歳代で6割超と高くなっている。

【図表 26-3 最近参加した地域活動(地域別・上位 10 位)】

		n 数	町内会、自治会、婦人会などの 行事や活動	どれにも参加しなかった	趣味、スポーツ、教養などの サークル・グループ活動	自然保護、清掃活動、省資源な ど地球環境を守るための活動	育児支援、PTA、学童保育、 児童館、子ども会などの子育て や教育に関する活動	地域の防災・防犯・交通安全に 関する活動	健康教室、食生活改善など健康 推進に関する活動	高齢者・障害者支援など社会福 祉に関する活動	身近にいる外国人たちとの交流 や国際理解活動	その他
全 体		1,534	40.4	33.4	25.0	14.3	11.8	9.6	6.6	5.7	1.8	0.7
地域別 居住	備前県民局管内	756	39.4	35.3	23.0	13.6	13.0	8.1	5.8	6.0	2.1	0.4
	備中県民局管内	612	38.2	34.0	26.6	15.4	8.8	9.8	8.0	5.2	1.5	1.0
	美作県民局管内	158	54.4	23.4	29.1	14.6	17.7	16.5	5.7	6.3	1.9	1.3

1位 2位 3位

地域別にみると、「どれにも参加しなかった」は美作県民局管内が約2割と低い。「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」は美作県民局管内が5割超で他の地域と比べて高かった。

【図表 26-4 最近参加した地域活動(就労状況別・上位 10 位)】

			(%)									
		n 数	町内会、自治会、婦人会などの行事や活動	どれにも参加しなかった	趣味、スポーツ、グループ活動などのサークル・グループ活動	自然保護、清掃活動、省資源など地球環境を守るための活動	育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動	地域の防災・防犯・交通安全に関する活動	健康教室、食生活改善など健康推進に関する活動	高齢者・障害者支援など社会福祉に関する活動	身近にいる外国人たちとの交流や国際理解活動	その他
全 体		1,534	40.4	33.4	25.0	14.3	11.8	9.6	6.6	5.7	1.8	0.7
就労状況別	共働き家庭	491	50.7	27.1	25.7	16.9	21.4	12.4	4.7	4.1	2.2	-
	専業主婦(夫)家庭	131	38.9	33.6	22.9	13.7	25.2	8.4	9.2	6.9	2.3	-

1位 2位 3位

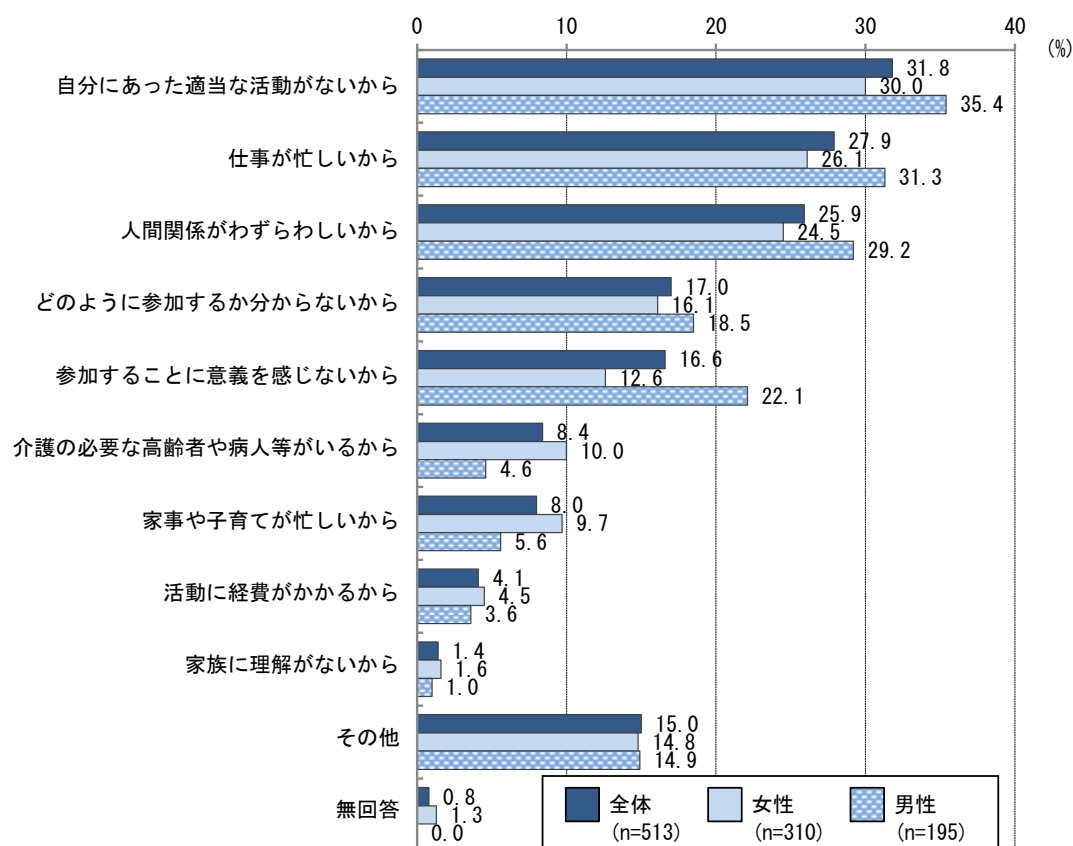
就労状況別にみると、「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」は共働き家庭(50.7%)が専業主婦(夫)家庭(38.9%)を 11.8 ポイント上回っている。

(7) 地域活動に参加しなかった理由

問 26 で「10.どれにも参加しなかった」を選択した方のみ

問27 どれにも参加しなかったのはなぜですか。(✓はいくつでも)

【図表 27-1 地域活動に参加しなかった理由(性別)】



「自分にあった適当な活動がないから」が最も高い

地域活動に参加しなかった理由について、「自分にあった適当な活動がないから」が 31.8%と最も高く、次いで「仕事が忙しいから」(27.9%)、「人間関係がわずらわしいから」(25.9%)などの順となっている。

性別にみると、「介護の必要な高齢者や病人等がいるから」は女性(10.0%)が男性(4.6%)を 5.4 ポイント上回っており、「参加することに意義を感じないから」は男性(22.1%)が女性(12.6%)を 9.5 ポイント、「自分にあった適当な活動がないから」は男性(35.4%)が女性(30.0%)を 5.4 ポイント上回っている。

【図表 27-2 地域活動に参加しなかった理由(性年代別・上位9位)】

		n 数	(%)								
			動自 がない にあつた から適 当な活	仕 事が忙 しいか ら	い人 から関 係がわ ずらわ し	分ど からよ うに参 加する か	感参 加する ことに 意義を 感じ ないか ら	病介 護の必 要な高 齢者や 人等が いるか ら	か家 事や子 育てが 忙しい から	ら活 動に経 費がか かるか ら	家 族に理 解がな いから
全 体		513	31.8	27.9	25.9	17.0	16.6	8.4	8.0	4.1	1.4
年 代 別	女 性	20歳未満	8	25.0	-	12.5	-	25.0	-	12.5	-
		20歳代	32	28.1	37.5	18.8	25.0	25.0	6.3	-	-
		30歳代	30	20.0	40.0	20.0	30.0	16.7	10.0	23.3	-
		40歳代	45	37.8	44.4	20.0	17.8	17.8	2.2	17.8	4.4
		50歳代	62	33.9	29.0	37.1	12.9	11.3	6.5	8.1	6.5
		60歳代	48	27.1	22.9	25.0	18.8	8.3	22.9	6.3	8.3
		70歳以上	82	30.5	9.8	22.0	8.5	4.9	13.4	6.1	3.7
	男 性	20歳未満	8	62.5	-	-	37.5	37.5	-	-	-
		20歳代	28	17.9	35.7	14.3	28.6	28.6	-	10.7	7.1
		30歳代	19	26.3	36.8	42.1	31.6	31.6	-	21.1	5.3
		40歳代	32	43.8	56.3	34.4	25.0	25.0	-	3.1	3.1
		50歳代	26	46.2	46.2	42.3	15.4	23.1	3.8	7.7	11.5
		60歳代	36	41.7	30.6	27.8	2.8	5.6	5.6	2.8	-
		70歳以上	46	28.3	6.5	28.3	13.0	21.7	13.0	-	2.2

1位 2位 3位

性年代別にみると、「仕事*忙しいから」は女性*40歳代で4割台半ば、男性*40歳代で5割台半ば、「人間関係がわずらわしいから」は女性の50歳代及び男性の30歳代で約4割と高くなっている。

【図表 27-3 地域活動に参加しなかった理由(地域別・上位9位)】

		n 数	(%)								
			動自 がない にあつた から適 当な活	仕 事が忙 しいか ら	い人 から関 係がわ ずらわ し	分ど からよ うに参 加する か	感参 加する ことに 意義を 感じ ないか ら	病介 護の必 要な高 齢者や 人等が いるか ら	か家 事や子 育てが 忙しい から	ら活 動に経 費がか かるか ら	家 族に理 解がな いから
全 体		513	31.8	27.9	25.9	17.0	16.6	8.4	8.0	4.1	1.4
地 域 別	備前県民局管内	267	34.5	27.7	26.2	16.1	16.1	9.7	8.2	3.0	1.9
	備中県民局管内	208	29.3	29.3	27.4	17.8	15.4	8.2	8.2	5.8	1.0
	美作県民局管内	37	27.0	21.6	16.2	18.9	24.3	-	5.4	2.7	-

1位 2位 3位

地域別にみると、「自分*にあった適当な活動がないから」は備前県民局管内で3割台半ば、「仕事*忙しいから」は備前県民局管内及び備中県民局管内で約3割、「参加することに意義を感じないから」は美作県民局管内で2割台半ばと高くなっている。

【図表 27-4 地域活動に参加しなかった理由(就労状況別・上位9位)】

		n 数	動自分 がない にあつ た適 当な 活	仕事 が忙 しい から	い人 から 間関 係が わづ らわ し	分ど のよ うに 参加 する か	感参 じ加 ない こと に意 義を	病介 人護 の必 要な 高齢 者や	から家 事や 子育 てが 忙し い	ら活 動に 経費 がか かる か	家 族に 理 解が ない から
全 体		513	31.8	27.9	25.9	17.0	16.6	8.4	8.0	4.1	1.4
就 労 状 況 別	共働き家庭	133	30.8	42.9	27.1	15.8	18.8	2.3	15.8	3.8	0.8
	専業主婦(夫)家庭	44	36.4	20.5	20.5	15.9	22.7	18.2	20.5	-	2.3

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「仕事が忙しいから」は共働き家庭(42.9%)が専業主婦(夫)家庭(20.5%)を 22.4 ポイント上回っており、「介護の必要な高齢者や病人等がいるから」は専業主婦(夫)家庭(18.2%)が共働き家庭(2.3%)を 15.9 ポイント上回っている。

【図表 27-5 地域活動に参加しなかった理由(職業別・上位9位)】

		n 数	動自分 がない にあつ た適 当な 活	仕事 が忙 しい から	い人 から 間関 係が わづ らわ し	分ど のよ うに 参加 する か	感参 じ加 ない こと に意 義を	病介 人護 の必 要な 高齢 者や	から家 事や 子育 てが 忙し い	ら活 動に 経費 がか かる か	家 族に 理 解が ない から
全 体		513	31.8	27.9	25.9	17.0	16.6	8.4	8.0	4.1	1.4
職 業 別	正規	187	30.5	47.6	27.3	20.3	19.8	2.1	8.6	3.2	0.5
	非正規	77	35.1	41.6	27.3	20.8	16.9	9.1	11.7	5.2	2.6
	自営業	35	34.3	37.1	25.7	5.7	20.0	5.7	17.1	5.7	-
	その他	188	34.0	2.7	26.1	14.4	14.9	13.3	5.3	3.7	2.1

1位 2位 3位

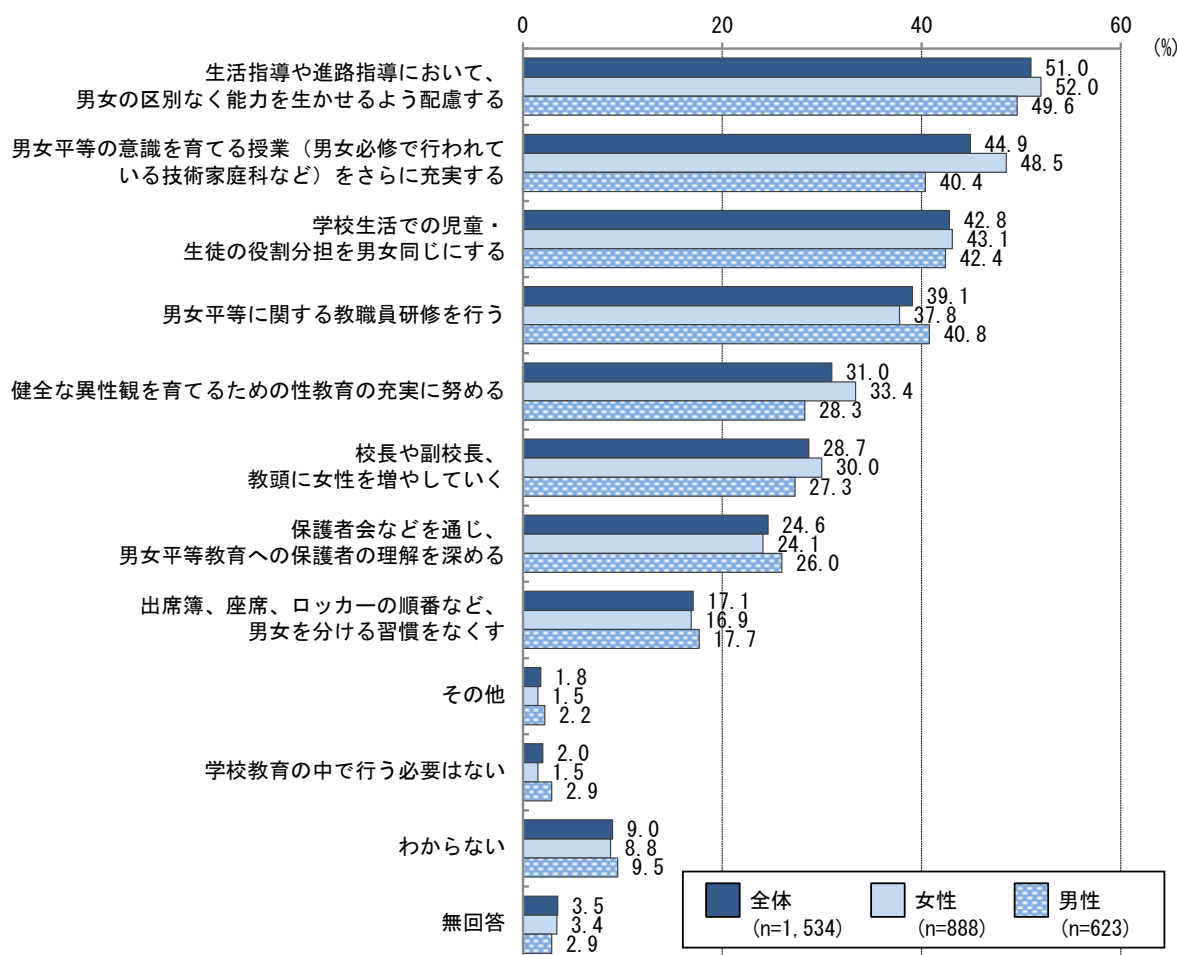
職業別でみると、「仕事が忙しいから」は正規で約5割と高くなっている。「どのように参加するか分からないから」は非正規(20.8%)で最も高く、自営業(5.7%)が最も低くなっており、15.1 ポイントの差がある。

6 男女平等教育について

(1) 男女平等を推進していくために学校で行うとよいこと

問28 男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校等で行うとよいと思うものはどれですか。(✓はいくつでも)

【図表 28-1 男女平等を推進していくために学校で行うとよいこと(性別)】



「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が最も高い

男女平等を推進していくために学校で行うとよいことについて、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が 51.0%と最も高く、次いで「男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する」(44.9%)、「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」(42.8%)などの順となっている。

性別にみると、「男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する」は女性(48.5%)が男性(40.4%)を 8.1 ポイント上回っている。

※H16、H21、H26 調査では「男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校で行うとよいと思うものはどれですか。」と聞いている。

【図表 28-2 男女平等を推進していくために学校で行うとよいこと(性年代別・上位8位)】

		n 数	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	男女平等の意識を育てる授業（男女必修で行われている技術家庭科など）をさらに充実する	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	男女平等に関する教職員研修を行う	健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める	校長や副校長、教頭に女性を増やしていく	保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める	出席簿、座席、ロッカーの順番など、男女を分ける習慣をなくす	(%)
全 体		1,534	51.0	44.9	42.8	39.1	31.0	28.7	24.6	17.1	
年代別	女性	20歳未満	18	55.6	27.8	44.4	5.6	33.3	44.4	5.6	27.8
		20歳代	54	51.9	44.4	42.6	38.9	50.0	37.0	33.3	31.5
		30歳代	89	40.4	47.2	37.1	42.7	39.3	39.3	24.7	21.3
		40歳代	132	49.2	47.7	37.1	38.6	39.4	30.3	19.7	24.2
		50歳代	143	58.7	54.5	49.0	32.2	30.8	28.0	23.8	17.5
		60歳代	176	59.1	56.8	48.9	44.3	30.7	34.7	26.7	14.8
		70歳以上	269	49.8	43.5	42.0	36.4	29.0	22.7	24.2	9.7
	男性	20歳未満	15	26.7	33.3	46.7	33.3	13.3	20.0	13.3	20.0
		20歳代	39	46.2	46.2	46.2	51.3	41.0	25.6	30.8	25.6
		30歳代	45	53.3	33.3	48.9	37.8	33.3	15.6	15.6	20.0
		40歳代	95	55.8	45.3	50.5	43.2	34.7	33.7	24.2	15.8
		50歳代	114	44.7	39.5	43.0	36.8	28.9	36.8	23.7	21.9
		60歳代	123	52.8	40.7	42.3	31.7	23.6	29.3	26.0	21.1
		70歳以上	191	49.2	39.8	35.1	47.1	25.1	20.9	30.4	11.5

1位

2位

3位

1位 2位 3位

性年代別にみると、「健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める」は女性の 20 歳代で5割、「男女平等に関する教職員研修を行う」は男性の 20 歳代で5割超と高くなっている。

【図表 28-3 男女平等を推進していくために学校で行うとよいこと(地域別・上位8位)】

		n 数	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう、配慮する	必修で行われている技術家庭科など）をさらに充実する	男女平等の意識を育てる授業（男女必修で行われている技術家庭科など）をさらに充実する	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	男女平等に関する教職員研修を行う	健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める	校長や副校長、教頭に女性を増やしていく	保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める	出席簿、座席、ロッカーの順番など、男女を分ける習慣をなくす	(%)
全 体		1,534	51.0	44.9	42.8	39.1	31.0	28.7	24.6	17.1		
地域別 居住	備前県民局管内	756	52.4	46.8	42.7	40.3	32.8	31.0	23.5	16.1		
	備中県民局管内	612	50.2	43.1	43.0	37.6	28.8	26.3	24.8	18.0		
	美作県民局管内	158	48.7	43.0	43.7	39.9	31.6	27.8	29.1	19.6		

1位 2位 3位

地域別にみると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」はすべての地域で最も高くなっている。「男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する」、「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」もすべての地域で上位となっている。

【図表 28-4 男女平等を推進していくために学校で行うとよいこと(経年比較・上位8位)】

		n 数	生活指導や進路指導における、男女 の区別なく能力を生かせるよう、配慮 する	男女平等の意識を育てる授業(男女 必修で行われている技術家庭科など) をさらに充実する	男女平等に関する教職員研修を行う を男女生活での児童・生徒の役割分担 に同じにする	男女平等に関する教職員研修を行う	健全な異性観を育てるための性教育 の充実に努める	校長や副校長、教頭に女性を増やし ていく	保護者などの理解を深める、男女平等教育 への保護者の理解を深める	出席簿、座席、ロッカーの順番など、 男女を分ける習慣をなくす
経 年 比 較	H16	2,064	52.6	31.6	38.4	25.7	23.4	24.2	24.6	12.6
	H21	1,490	48.1	29.9	35.7	22.3	19.2	18.9	24.9	10.7
	H26	1,386	49.9	33.3	37.3	27.5	18.9	20.4	24.1	10.4
	R1	1,532	48.2	38.3	37.1	29.6	18.8	22.8	23.9	12.3
	R6	1,534	51.0	44.9	42.8	39.1	31.0	28.7	24.6	17.1

1位 2位 3位

経年比較でみると、「健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める」は令和6年調査(31.0%)が令和元年調査(18.8%)を 12.2 ポイント上回っている。

※「男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する」は、H16 調査では「現在、男女必修で行われている家庭科をはじめとして、男女平等の意識を育てる授業をさらに充実する」となっている。「校長や副校長、教頭に女性を増やしていく」は、H16、H21、H26 調査では「校長や教頭に女性を増やしていく」となっている。

7 人権について

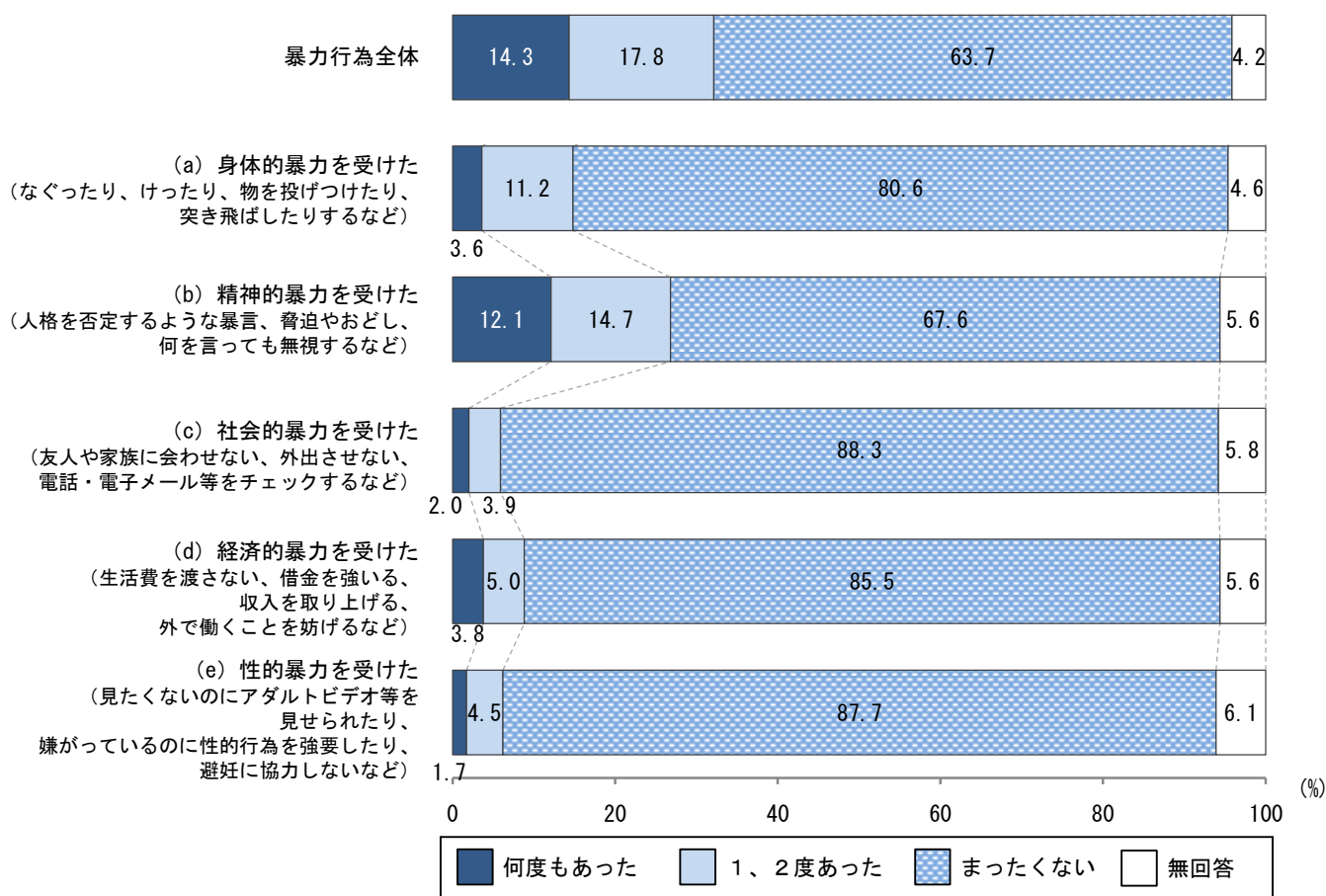
(1) 配偶者から受けたことのある暴力

これまでに結婚(事実婚を含む)したことのある方のみ

問29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や生活の本拠をともにする交際相手(同棲相手)、別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。((a)～(e)でそれぞれ1つだけ✓)

【図表 29-1 配偶者から受けたことのある暴力】

(n=1,276)

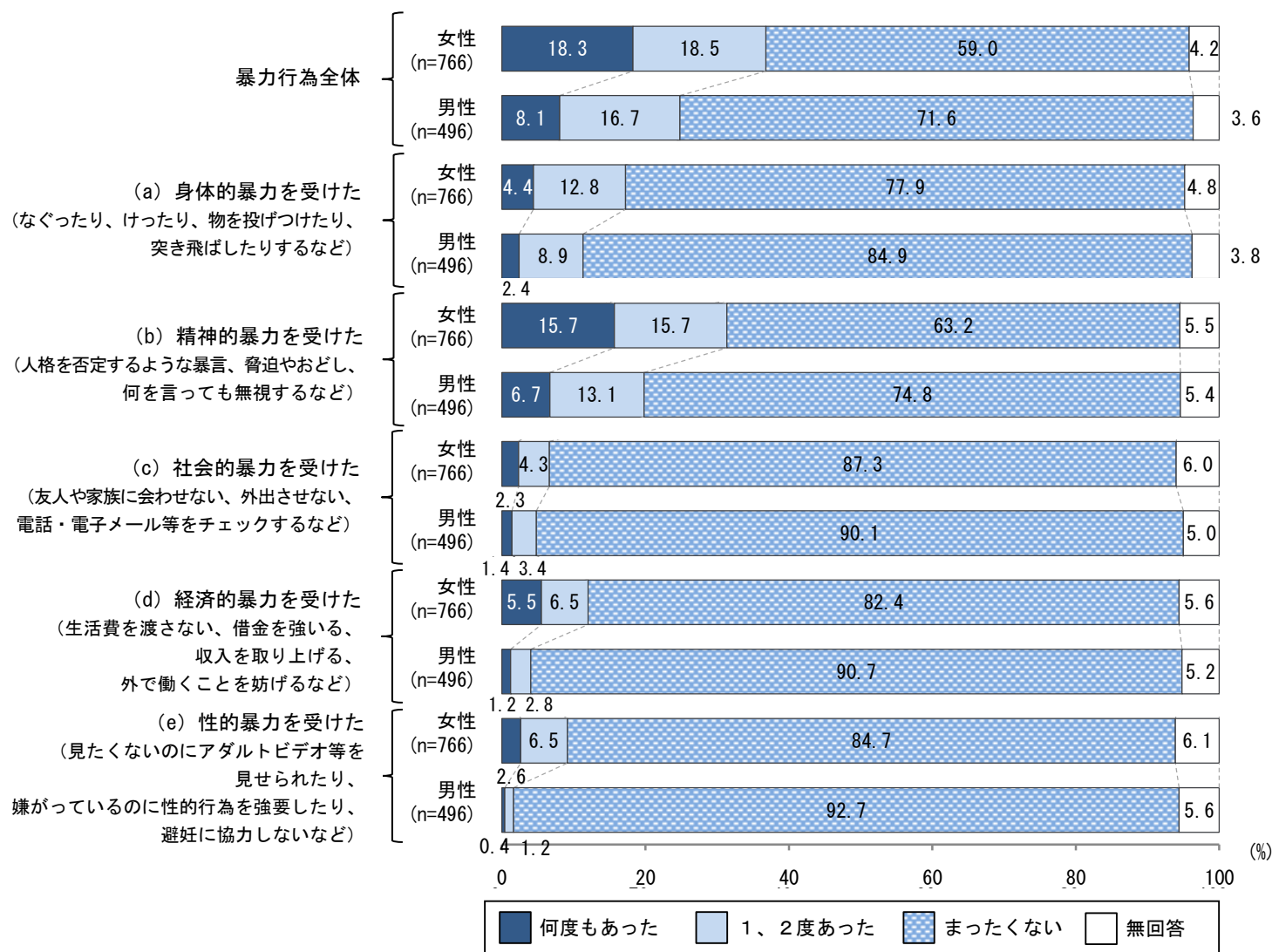


3割超の回答者が配偶者から暴力を受けた経験がある

配偶者から受けたことのある暴力について、暴力行為全体(いずれかの暴力を受けたことがある人)では『あった』(「何度もあった」+「1、2度あった」)が32.1%となっている。

また、それぞれの暴力について、「精神的暴力を受けた」は26.8%と最も高くなっている。

【図表 29-2 配偶者から受けたことのある暴力(性別)】

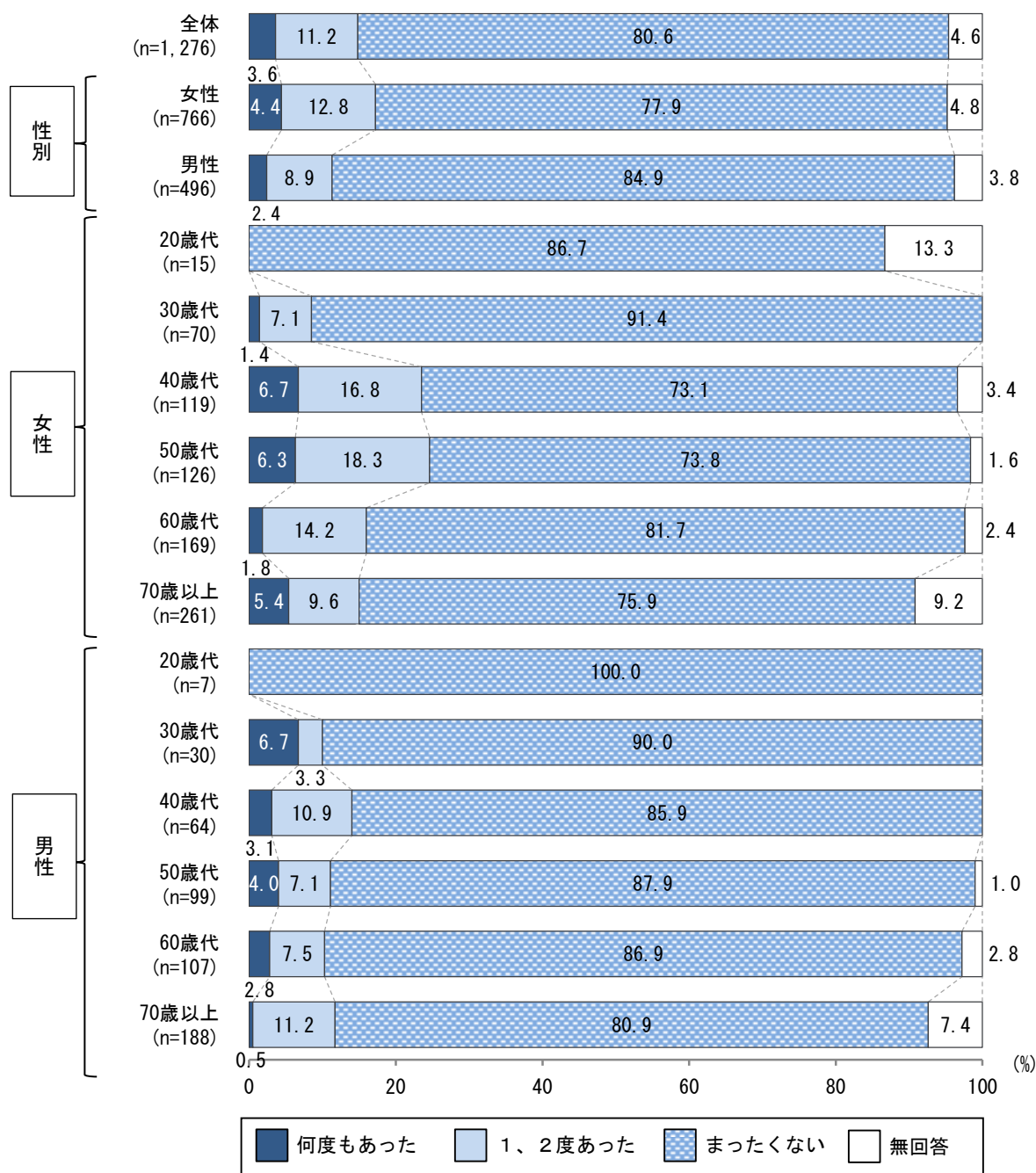


配偶者から受けたことのある暴力について、女性は、「精神的暴力を受けた」が 31.4%と最も高く、次いで「身体的暴力を受けた」(17.2%)、「経済的暴力を受けた」(12.0%)などの順となっている。

男性は、「精神的暴力を受けた」が 19.8%と最も高く、次いで「身体的暴力を受けた」(11.3%)、「社会的暴力を受けた」(4.8%)などの順となっている。

(a) 身体的暴力を受けた(なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど)

【図表 29-3 身体的暴力を受けた(性別、性年代別)】



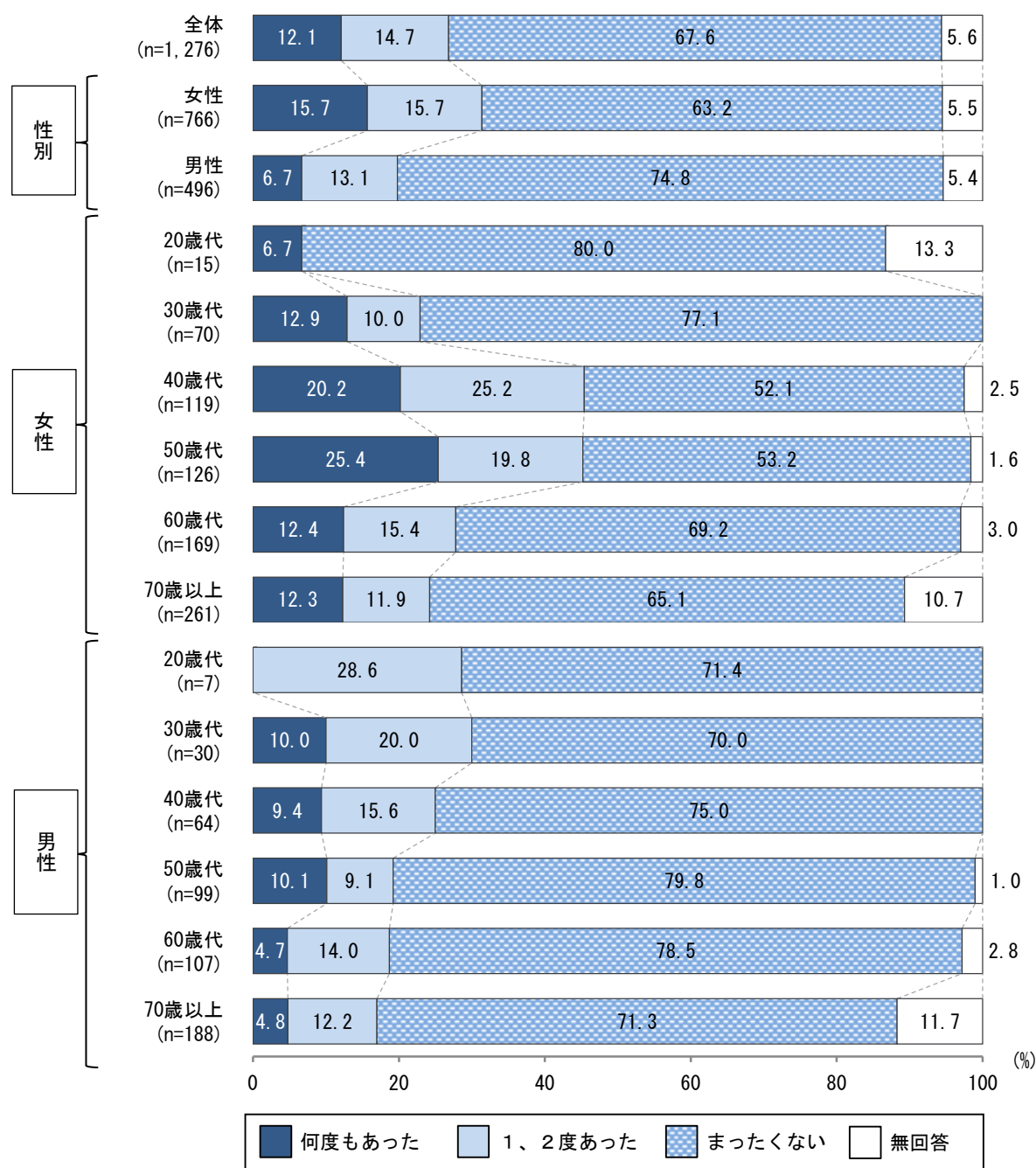
性別にみると、『あった』は女性(17.2%)が男性(11.3%)を 5.9 ポイント上回っている。

性年代別にみると、『あった』は女性の 40 歳代及び 50 歳代で2割台半ばと高くなっている。

※男女ともに「20 歳未満」の回答者なし。

(b)精神的暴力を受けた(人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど)

【図表 29-4 精神的暴力を受けた(性別、性年代別)】

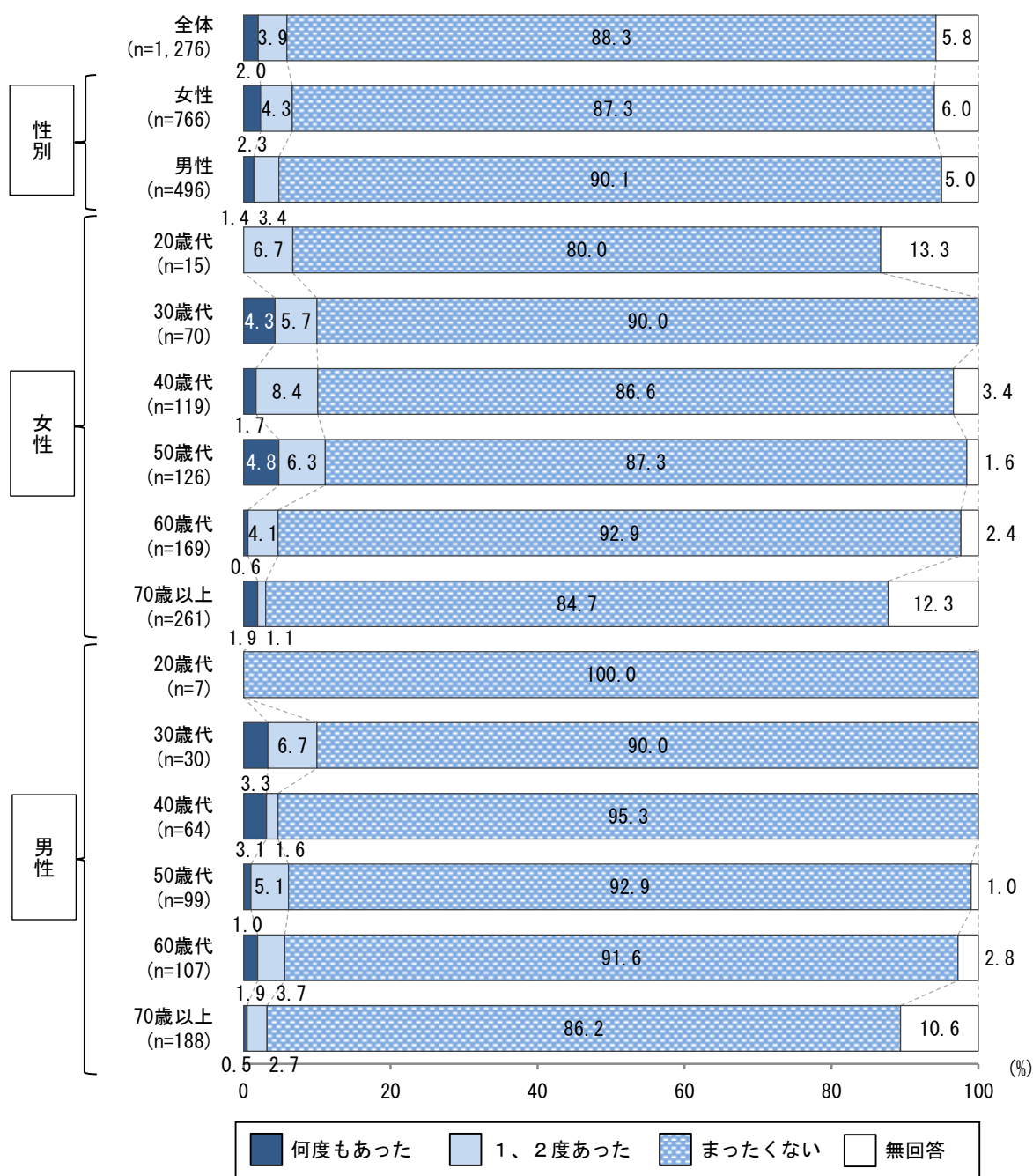


性別にみると、『あった』は女性(31.4%)が男性(19.8%)を 11.6 ポイント上回っている。
性年代別にみると、『あった』は女性の 40 歳代及び 50 歳代で4割台半ばと高くなっている。

※男女ともに「20 歳未満」の回答者なし。

(c)社会的暴力を受けた(友人や家族に会わせない、外出させない、電話・電子メール等チェックするなど)

【図表 29-5 社会的暴力を受けた(性別、性年代別)】



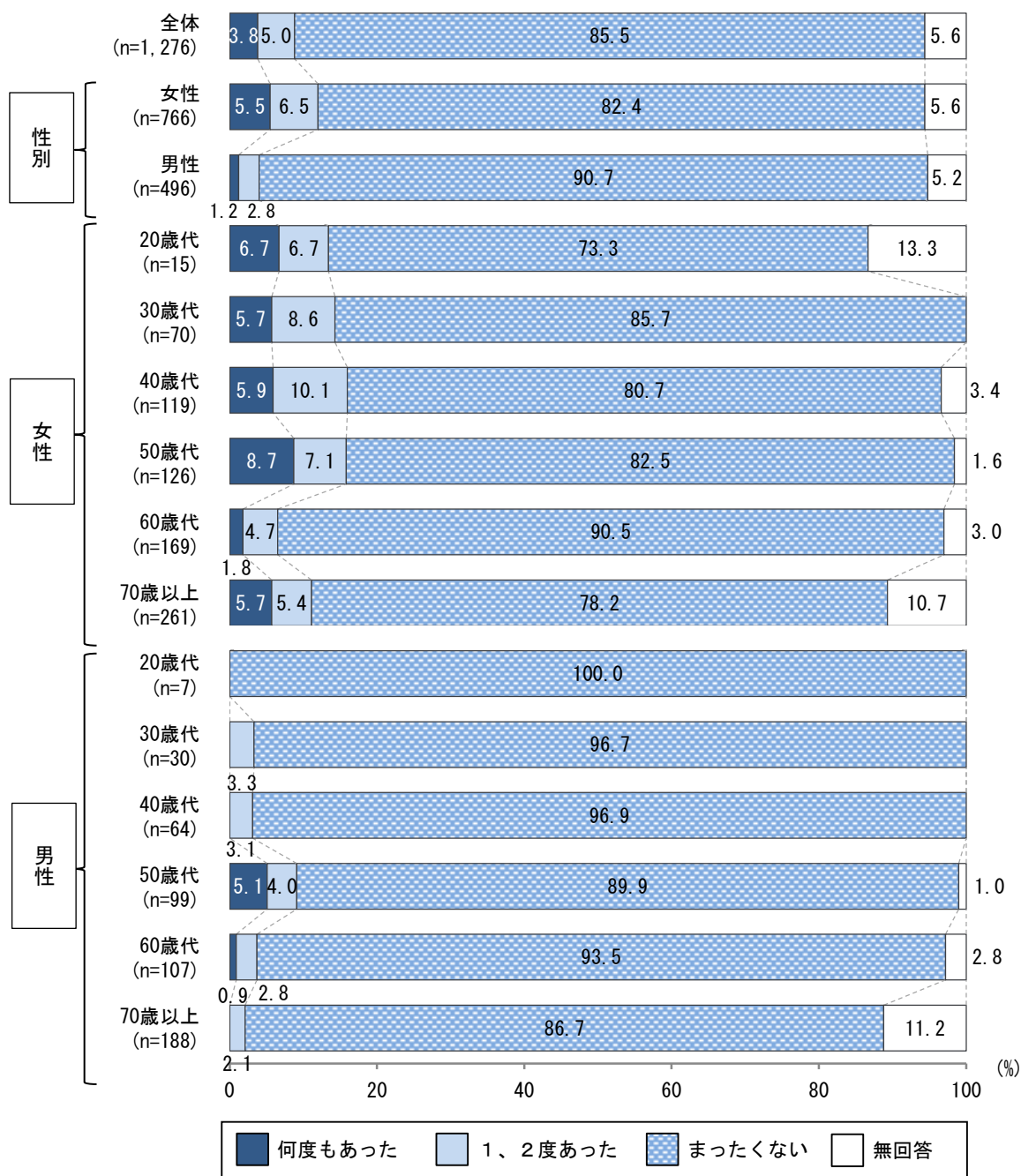
性別にみると、大きな差はみられない。

性年代別にみると、『あった』は女性は30歳代～50歳代、男性は30歳代で1割台と高くなっている。

※男女ともに「20歳未満」の回答者なし。

(d)経済的暴力を受けた(生活費を渡さない、借金を強いる、収入を取り上げる、外で働くことを妨げるなど)

【図表 29-6 経済的暴力を受けた(性別、性年代別)】

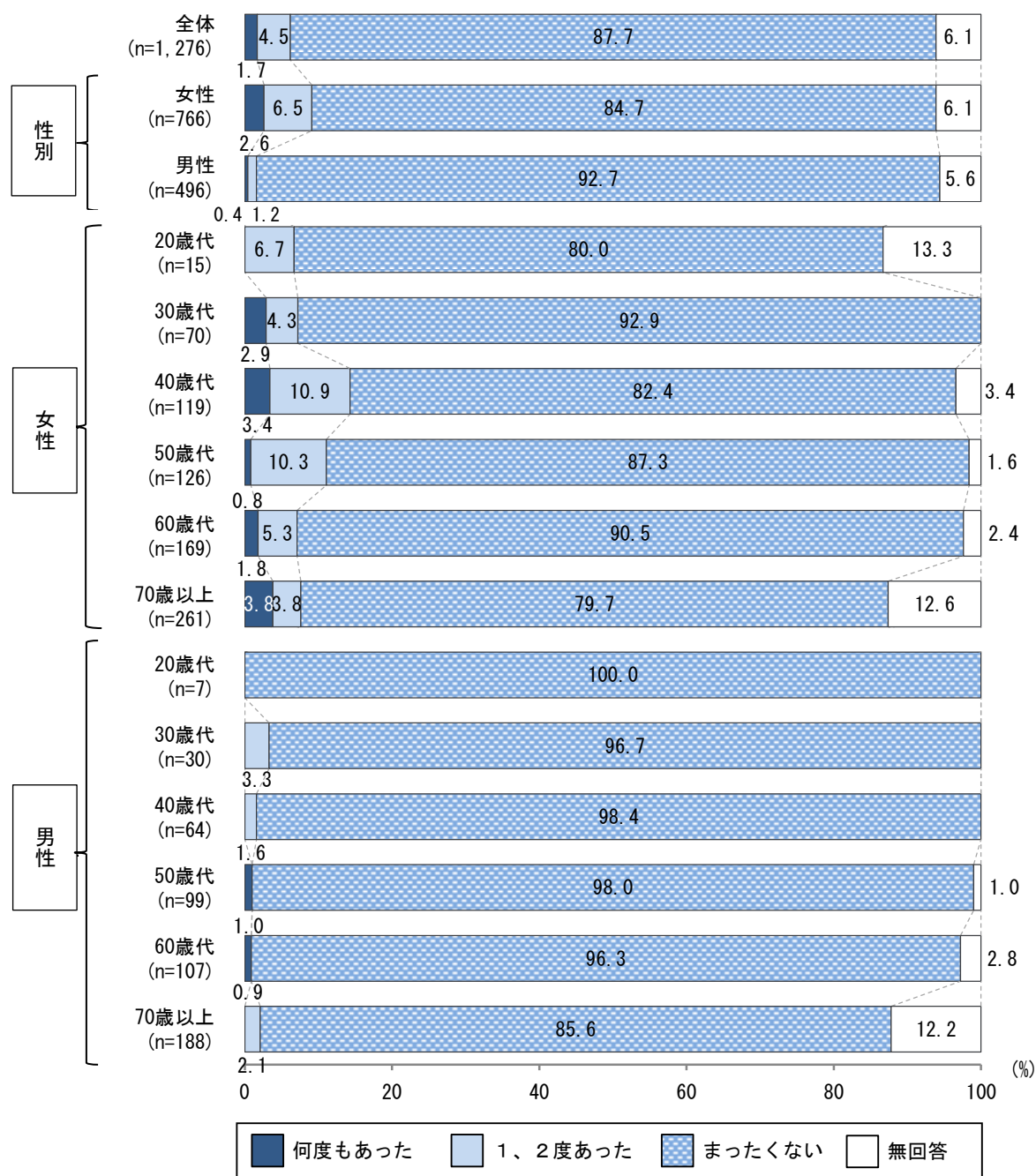


性別にみると、『あった』は女性(12.0%)が男性(4.0%)を8.0ポイント上回っている。
性年代別にみると、『あった』は女性の20歳代～50歳代で1割台半ばと高くなっている。

※男女ともに「20歳未満」の回答者なし。

(e)性的暴力を受けた(見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど)

【図表 29-7 性的暴力を受けた(性別、性年代別)】

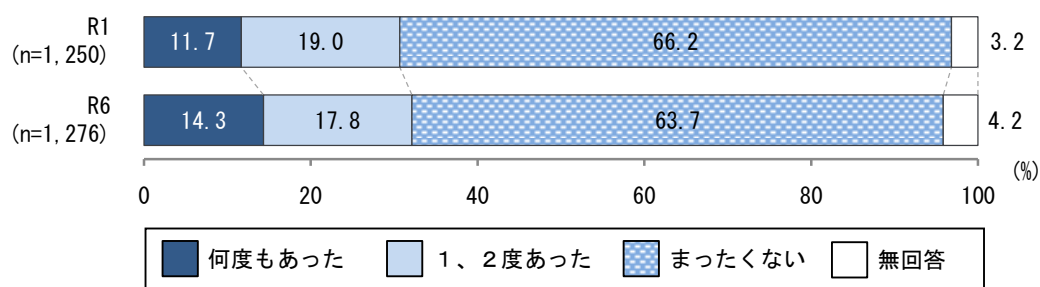


性別にみると、『あった』は女性(9.1%)が男性(1.6%)を 7.5 ポイント上回っている。

性年代別にみると、『あった』は女性の 40 歳代で1割台半ばと高くなっている。

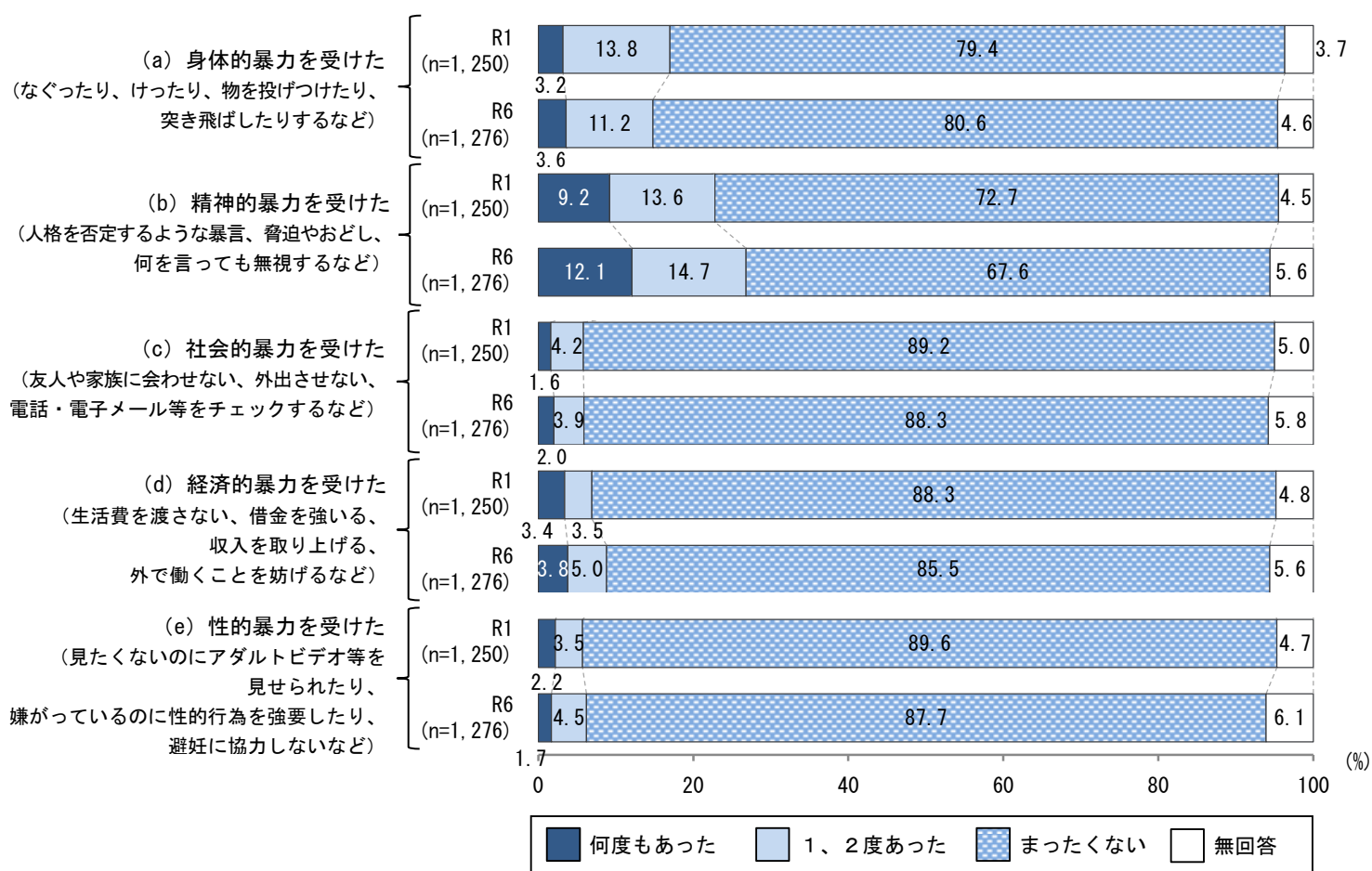
※男女ともに「20 歳未満」の回答者なし。

【図表 29-8 配偶者から暴力を受けた経験(経年比較・暴力行為全体)】



経年比較でみると、大きな差はみられない。

【図表 29-9 配偶者から受けたことのある暴力(経年比較・暴力の種類別)】



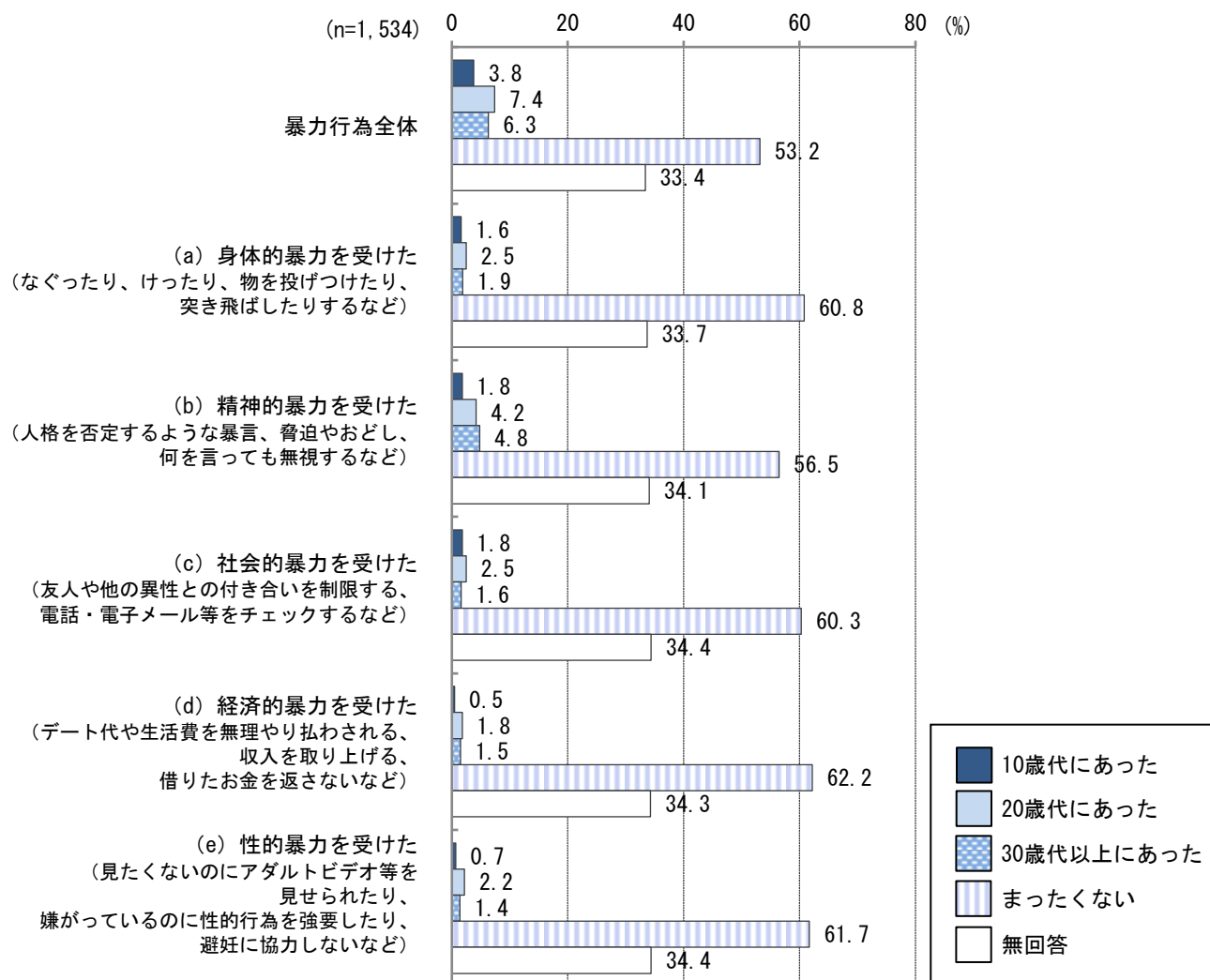
経年比較でみると、「精神的暴力を受けた」について、『あった』は令和6年調査(26.8%)が令和元年調査(22.8%)を4.0ポイント上回っている。

(2) 交際相手から受けたことのある暴力

これまでに交際相手がいた方のみ

問30 あなたは、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。((a)～(e)でそれぞれ1つだけ✓)

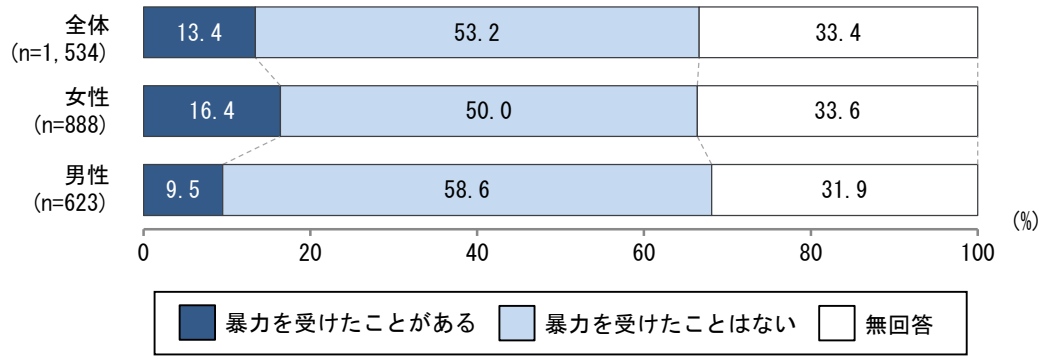
【図表 30-1 交際相手から受けたことのある暴力】



交際相手から暴力行為を受けたことのある年代は20歳代が多い

当時の交際相手から暴力行為を受けた年代は、「20 歳代にあった」が 7.4%と最も高くなっている。また、受けたことのある暴力について、「精神的暴力を受けた」が 10.8%と最も高く、次いで「身体的暴力を受けた」(6.0%)、「社会的暴力を受けた」(5.9%)などの順となっている。

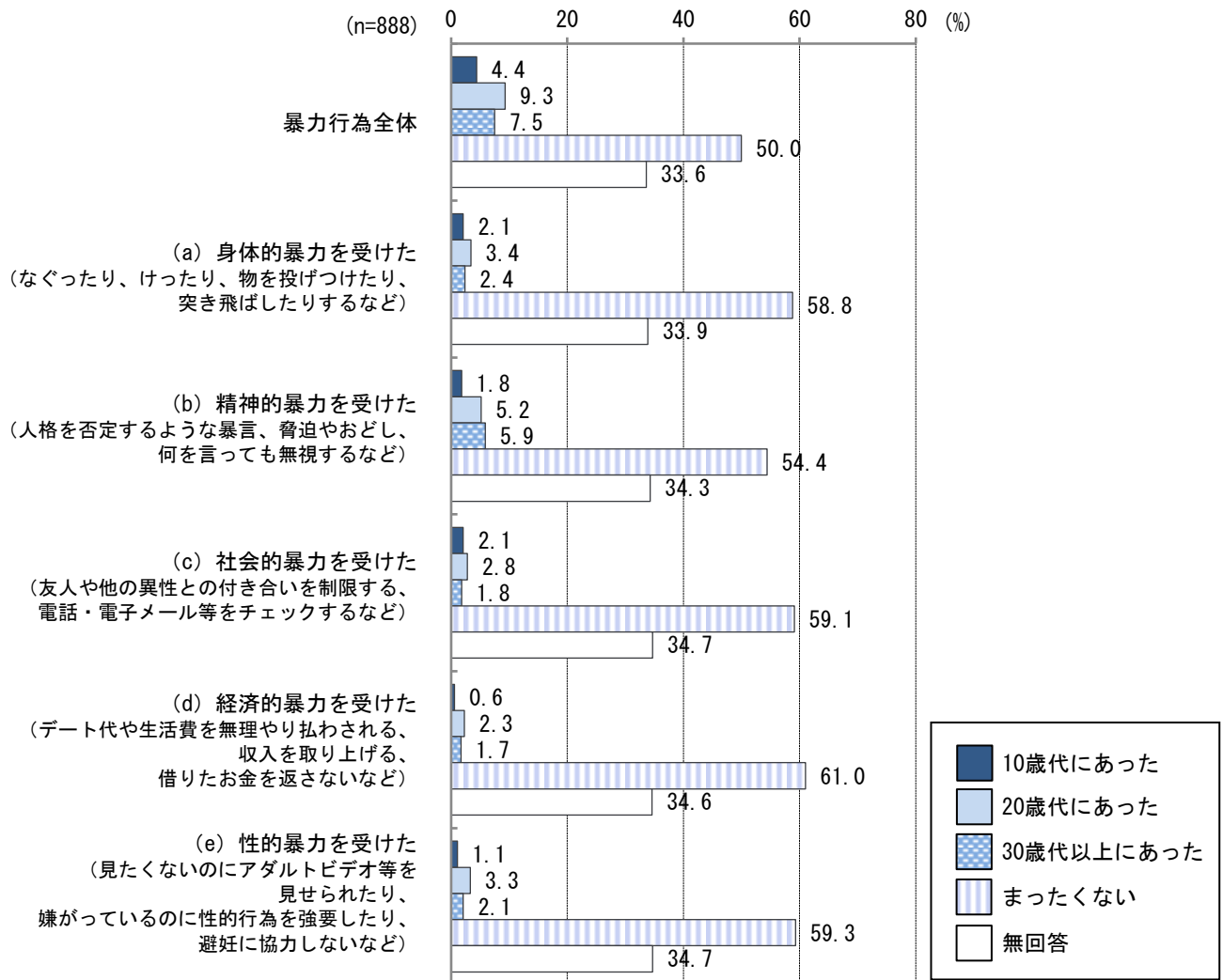
【図表 30-2 交際相手から暴力を受けた経験(性別)】



交際相手から身体的暴力、精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、性的暴力のいずれかの『暴力を受けたことがある』(「10 歳代にあった」、「20 歳代にあった」、「30 歳代以上にあった」を合わせた割合)は 13.4%となっている。

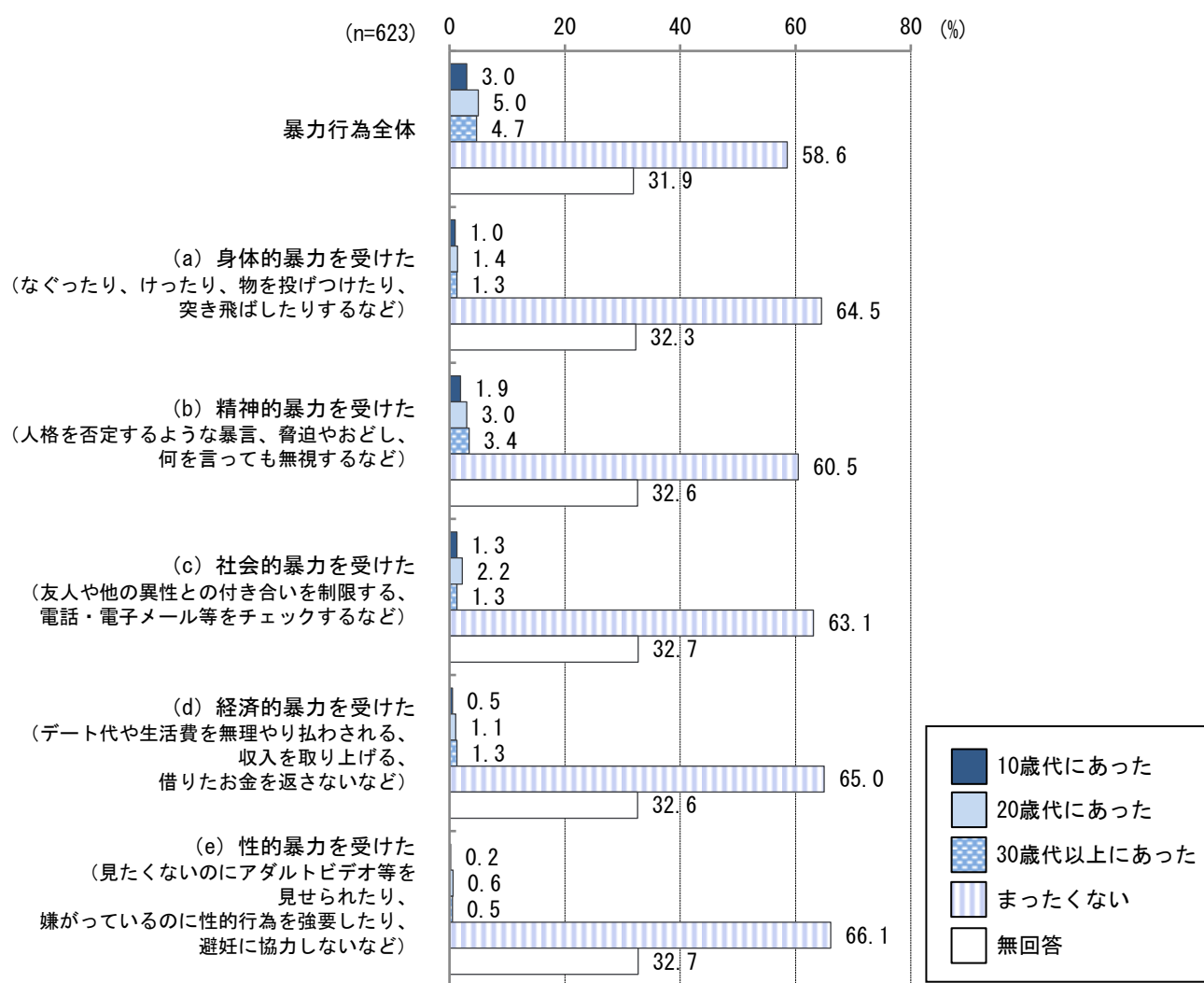
性別にみると、『暴力を受けたことがある』は女性(16.4%)が男性(9.5%)を 6.9 ポイント上回っている。

【図表 30-3 交際相手から受けたことのある暴力(女性)】



交際相手から受けたことのある暴力について、女性は、「精神的暴力を受けた」が 12.9%と最も高く、次いで「身体的暴力を受けた」(7.9%)、「社会的暴力を受けた」(6.7%)などの順となっている。

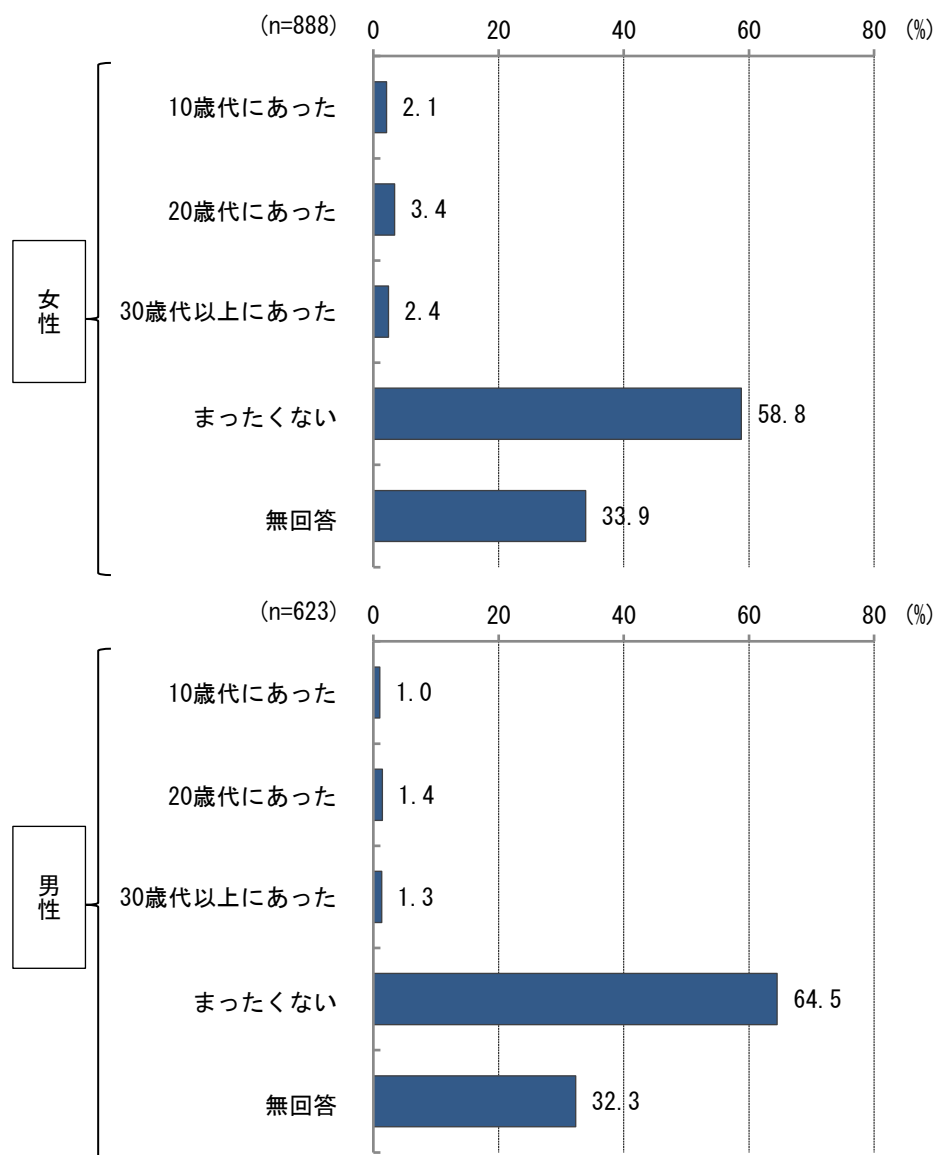
【図表 30-4 交際相手から受けたことのある暴力(男性)】



交際相手から受けたことのある暴力について、男性は、「精神的暴力を受けた」が 8.3%と最も高く、次いで「社会的暴力を受けた」(4.8%)、「身体的暴力を受けた」(3.7%)などの順となっている。

(a) 身体的暴力を受けた(なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど)

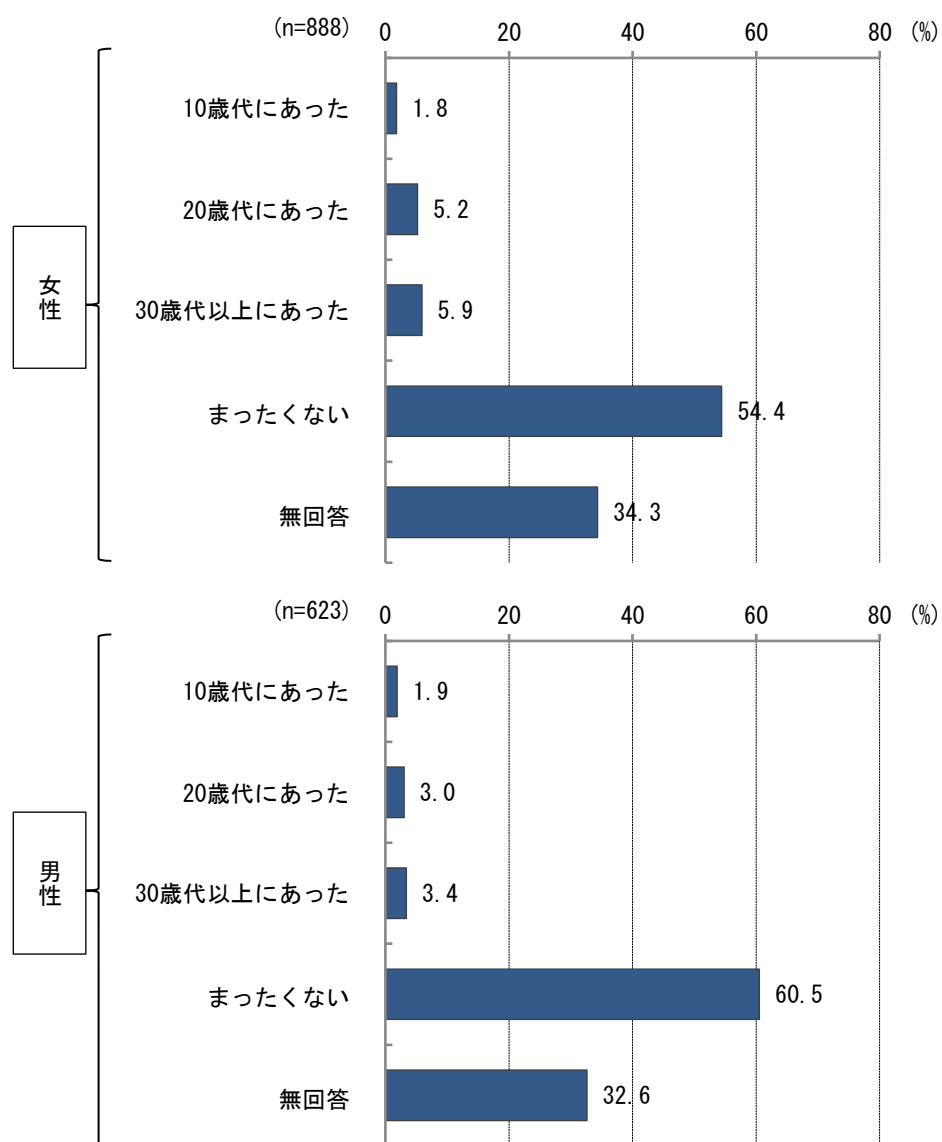
【図表 30-5 身体的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、男女ともに「20 歳代にあった」が高くなっている。

(b)精神的暴力を受けた(人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど)

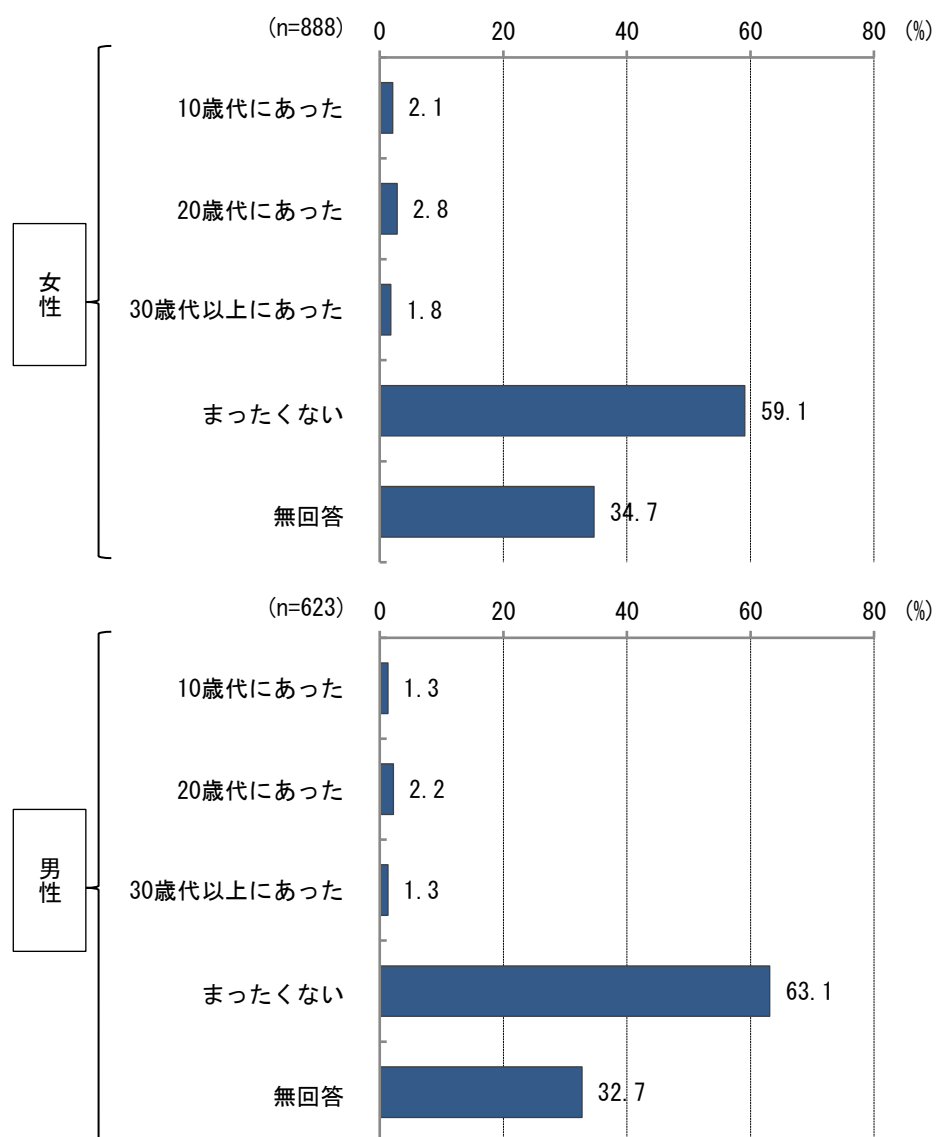
【図表 30-6 精神的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、男女ともに「30 歳代以上にあった」が高くなっている。

(c)社会的暴力を受けた(友人や他の異性との付き合いを制限する、電話・電子メール等チェックするなど)

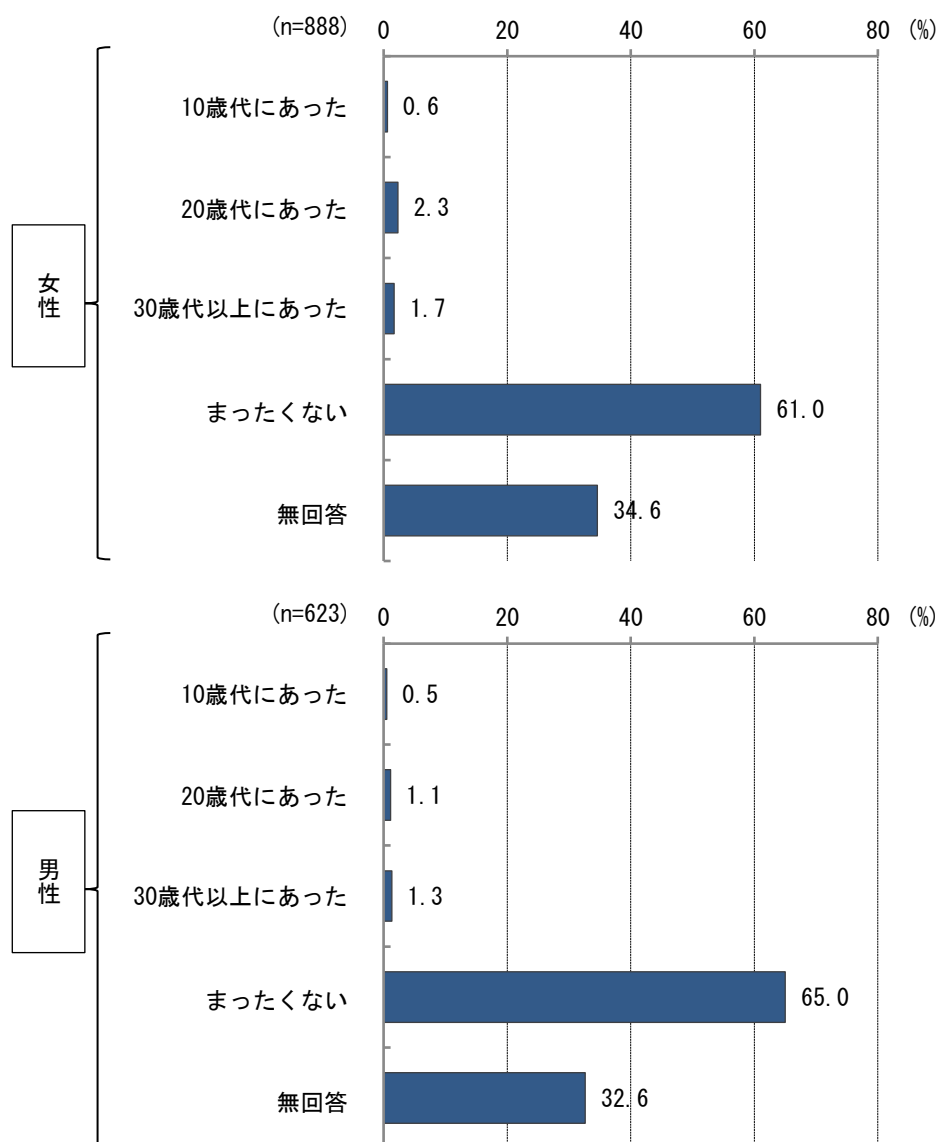
【図表 30-7 社会的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、男女ともに「20 歳代にあった」が高くなっている。

(d)経済的暴力を受けた(デート代や生活費を無理やり払わされる、収入を取り上げる、借りたお金を返さないなど)

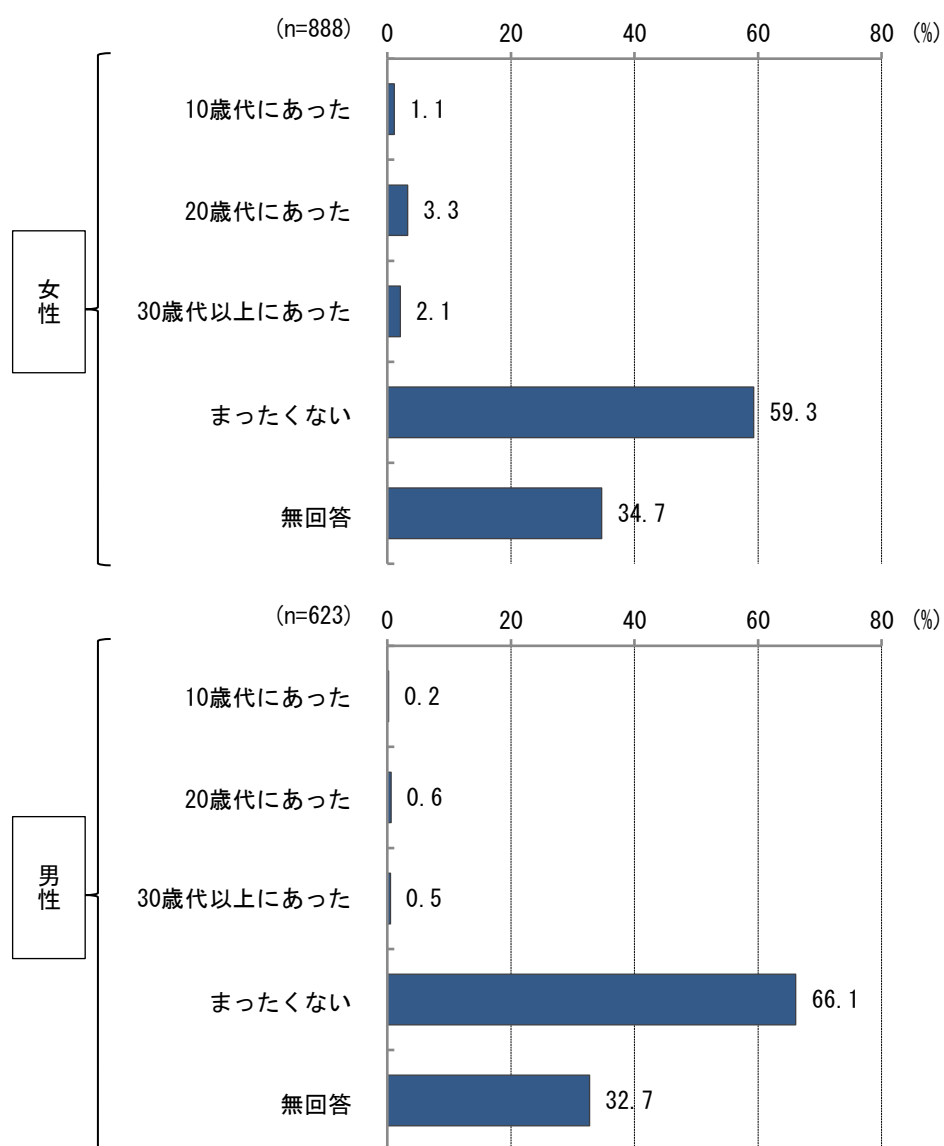
【図表 30-8 経済的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、女性は「20 歳代にあった」、男性は「30 歳代以上にあった」が高くなっている。

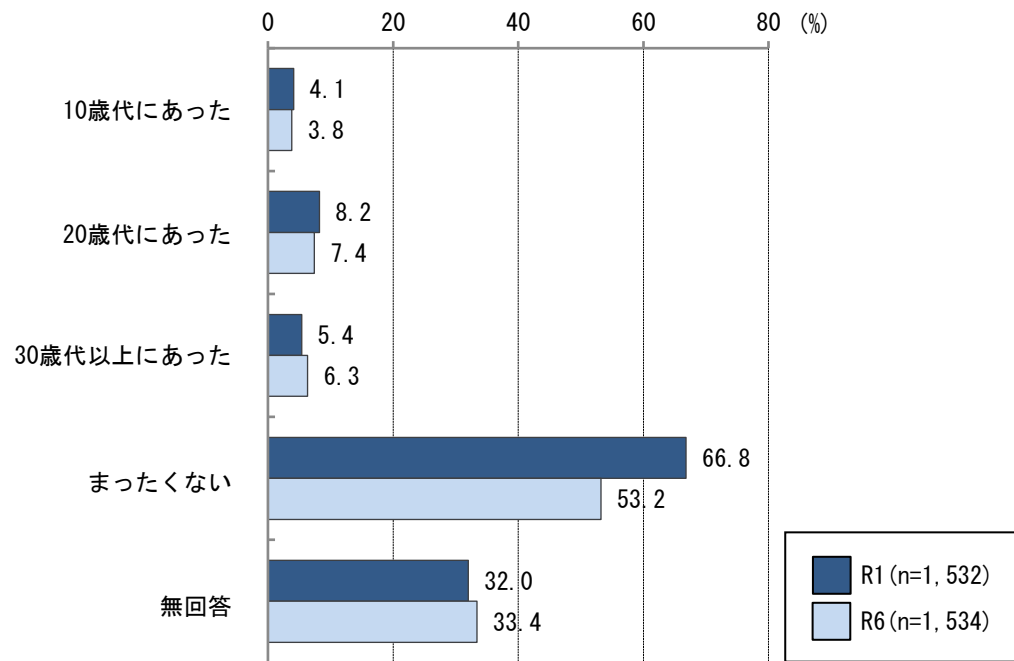
(e)性的暴力を受けた(見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど)

【図表 30-9 性的暴力を受けた(性別、被害を受けた年代別)】



被害を受けた性年代別にみると、男女ともに「20 歳代にあった」が高くなっている。

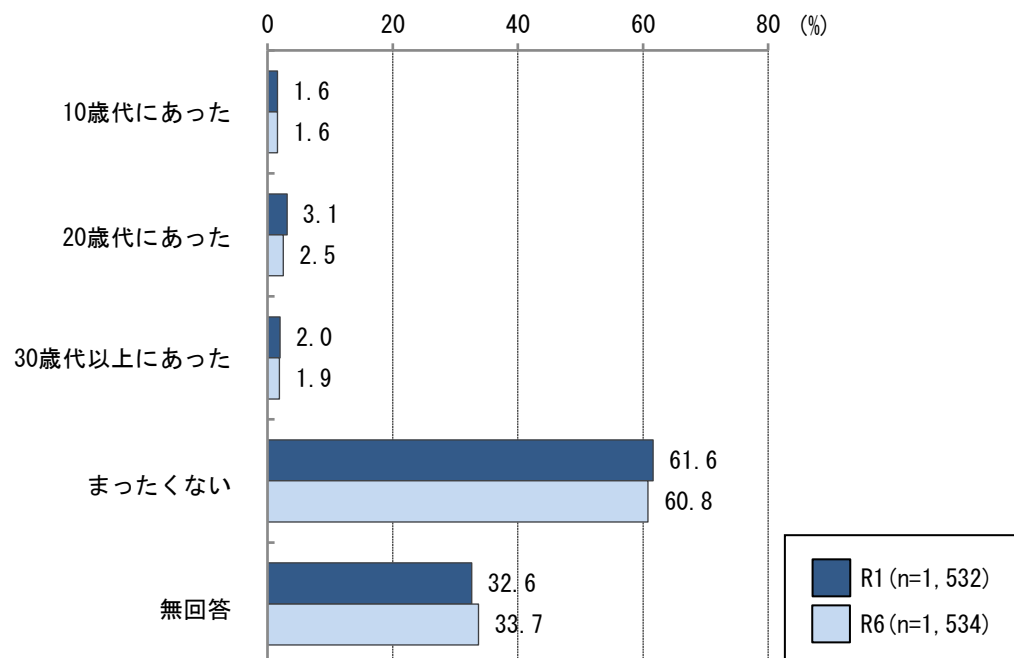
【図表 30-10 交際相手から暴力を受けた経験(経年比較・暴力行為全体)】



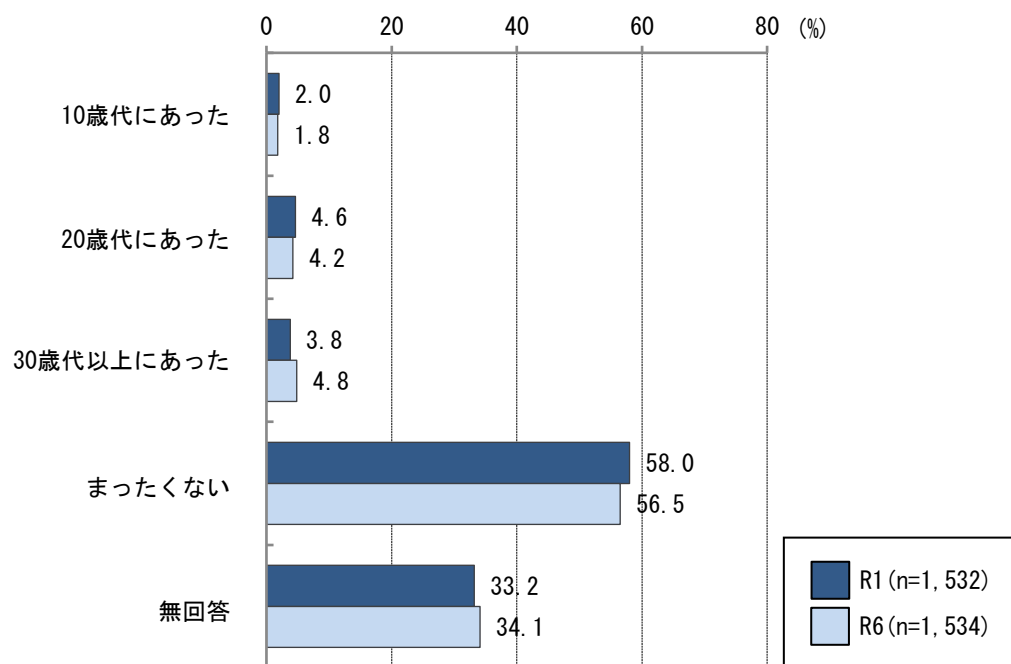
経年比較でみると、「まったくない」は令和6年調査(53.2%)が令和元年調査(66.8%)よりも 13.6 ポイント減少している。

【図表 30-11 交際相手から受けたことのある暴力(経年比較・暴力の種類別)】

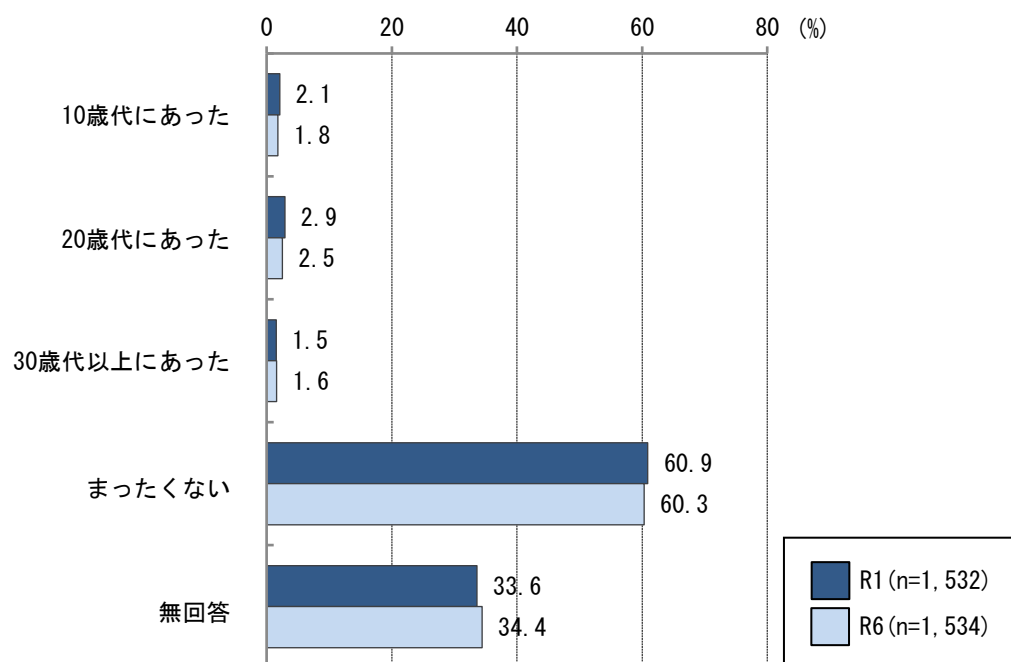
(a) 身体的暴力を受けた



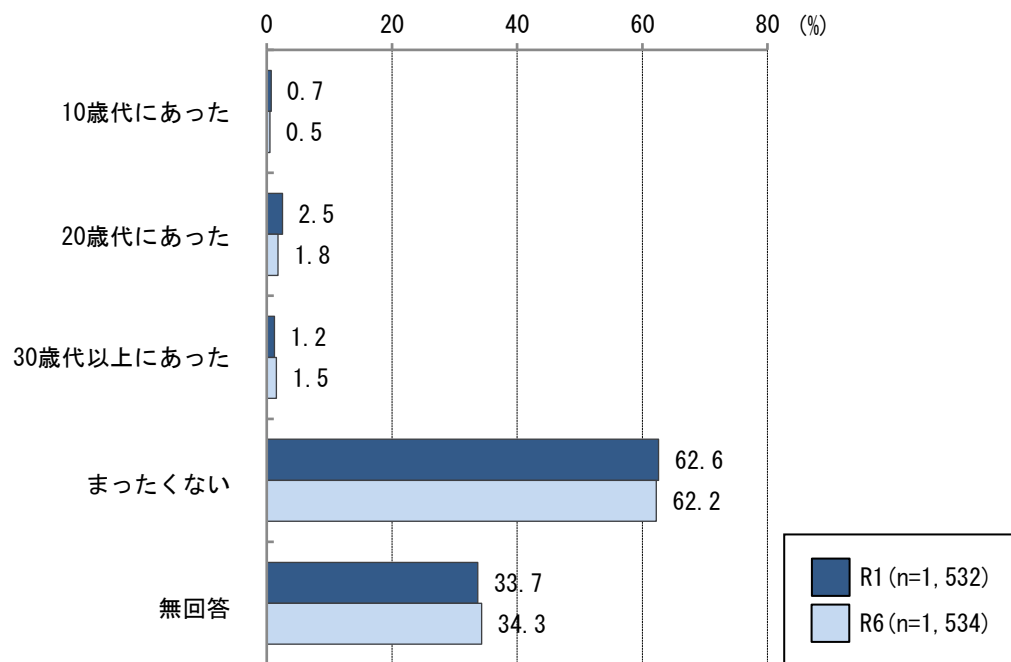
(b)精神的暴力を受けた



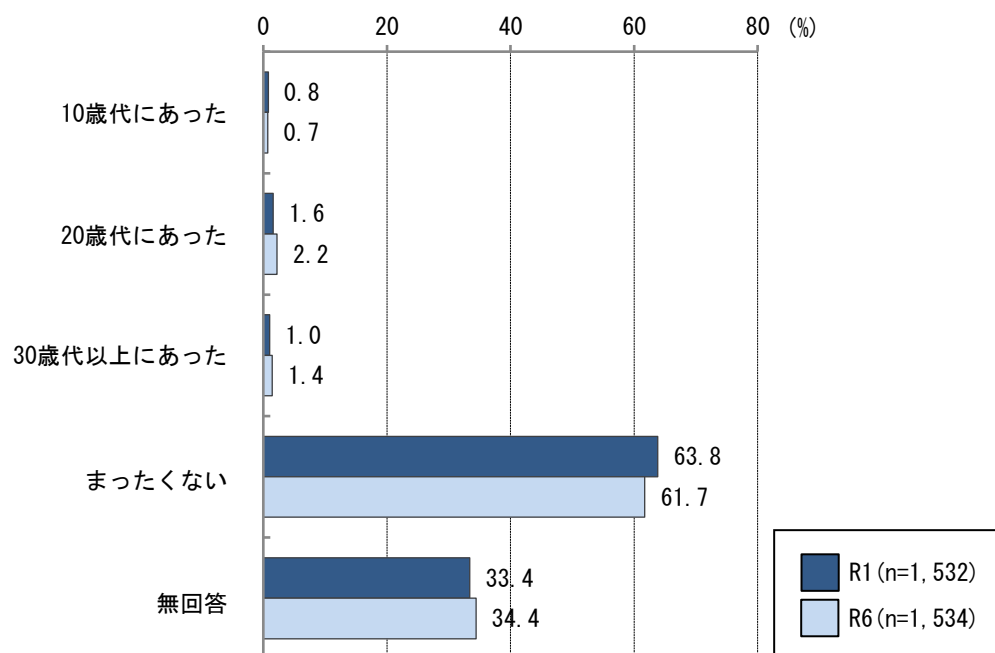
(c)社会的暴力を受けた



(d)経済的暴力を受けた



(e)性的暴力を受けた



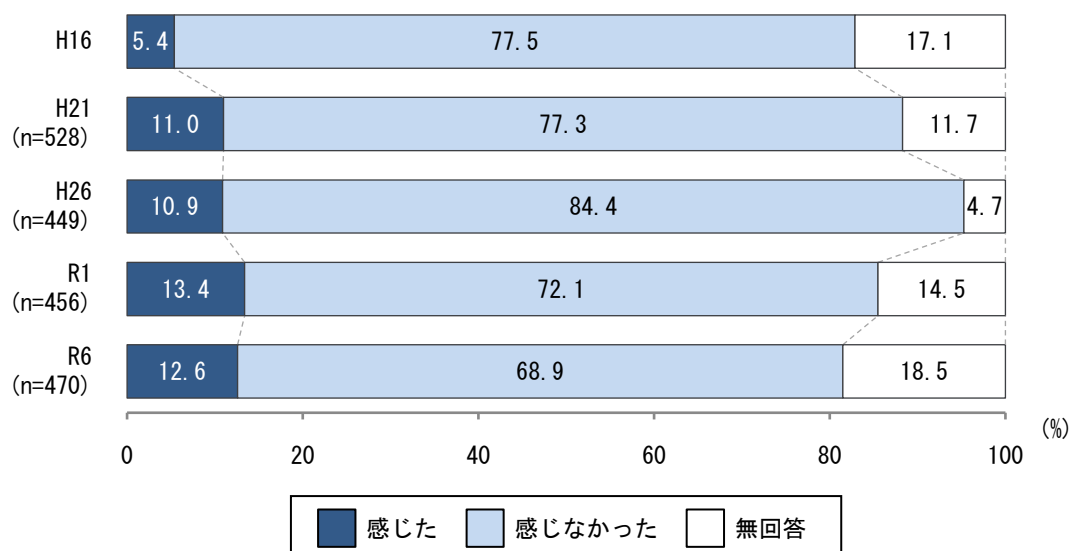
受けた暴力の種類別で経年比較でみると、どの暴力行為でも大きな差はみられない。

(3) 命の危険を感じたこと

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみ

問31 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(✓は1つ)

【図表 31-1 命の危険を感じたこと】暴力行為経験者ベース

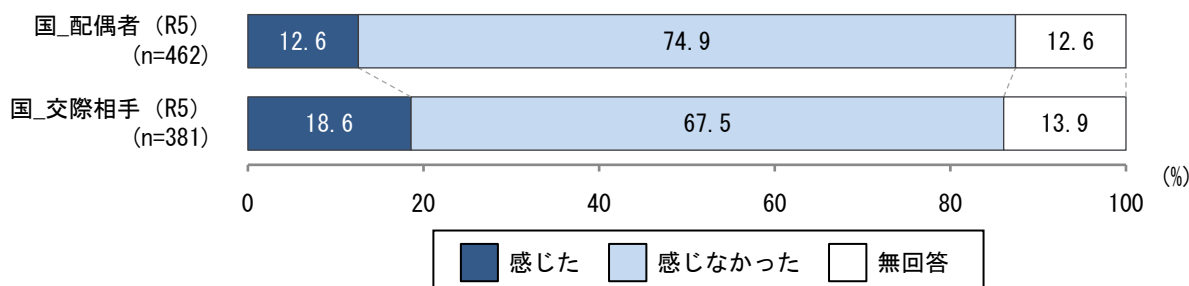


配偶者や交際相手からの暴力行為に「命の危険を感じた」人の割合は1割超

配偶者や交際相手から暴力を受けたことがある人で、相手の行為によって命の危険を感じたことについて、「感じた」は12.6%、「感じなかった」は68.9%となっている。

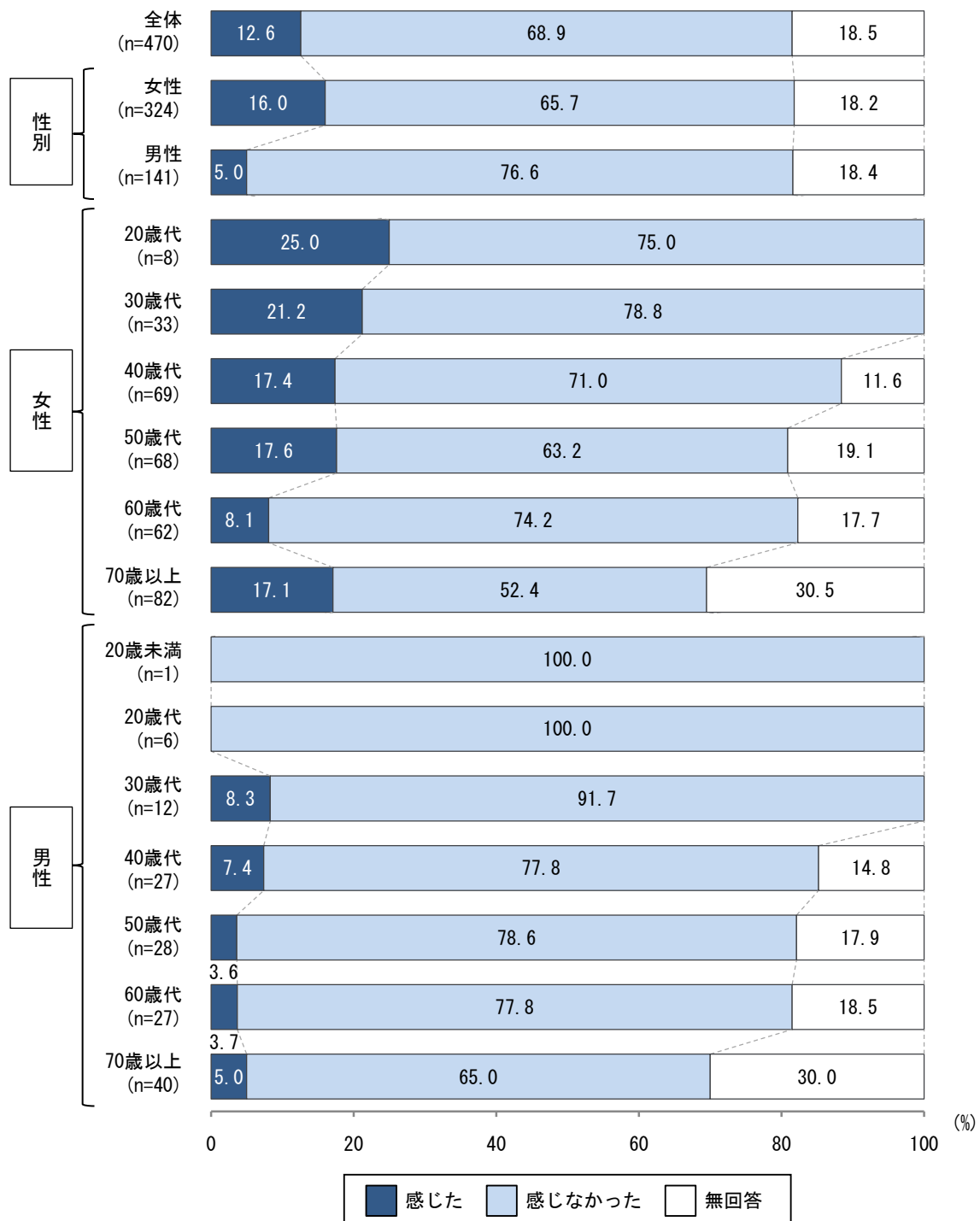
経年比較でみると、大きな差はみられない。

【図表 31-2 命の危険を感じたこと(国調査)】暴力行為経験者ベース



※国調査「男女間における暴力に関する調査」(令和5年度調査)

【図表 31-3 命の危険を感じたこと(性別、性年代別)】**暴力行為経験者ベース**

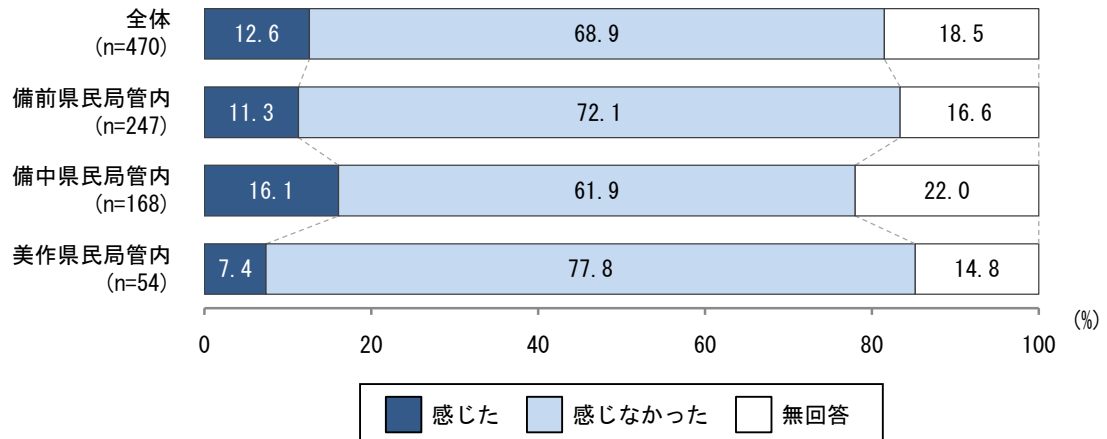


性別にみると、配偶者や交際相手から暴力を受けたことがある人で、相手の行為によって命の危険を「感じた」人は女性が16.0%、男性が5.0%となっており、女性は男性の約3倍となっている。

性年代別にみると、命の危険を「感じた」は女性は20歳代及び30歳代で2割を超え、40歳代、50歳代及び70歳以上でも1割台後半となっている。男性は30歳代(8.3%)が最も高くなっている。

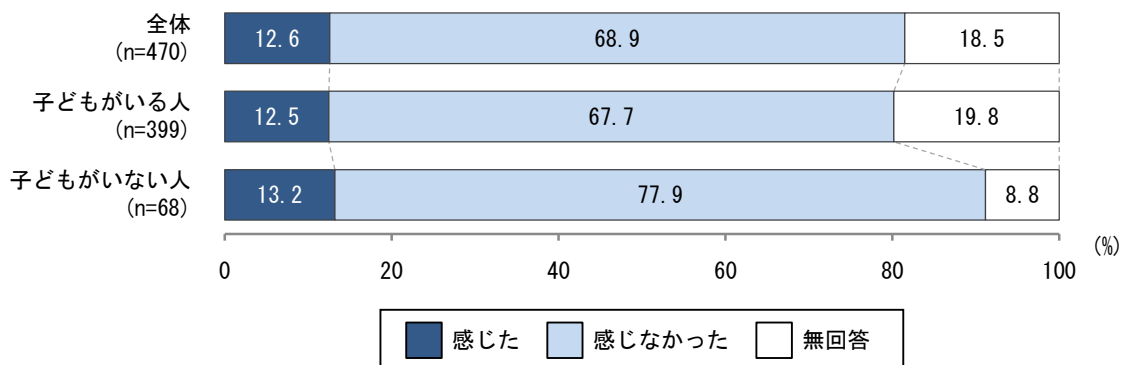
※女性「20歳未満」の回答者なし。

【図表 31-4 命の危険を感じたこと(地域別)】**暴力行為経験者ベース**



地域別にみると、命の危険を「感じた」人は備中県民局管内(16.1%)が最も高く、美作県民局管内(7.4%)の約2倍となっている。

【図表 31-5 命の危険を感じたこと(子どもの有無別)】**暴力行為経験者ベース**



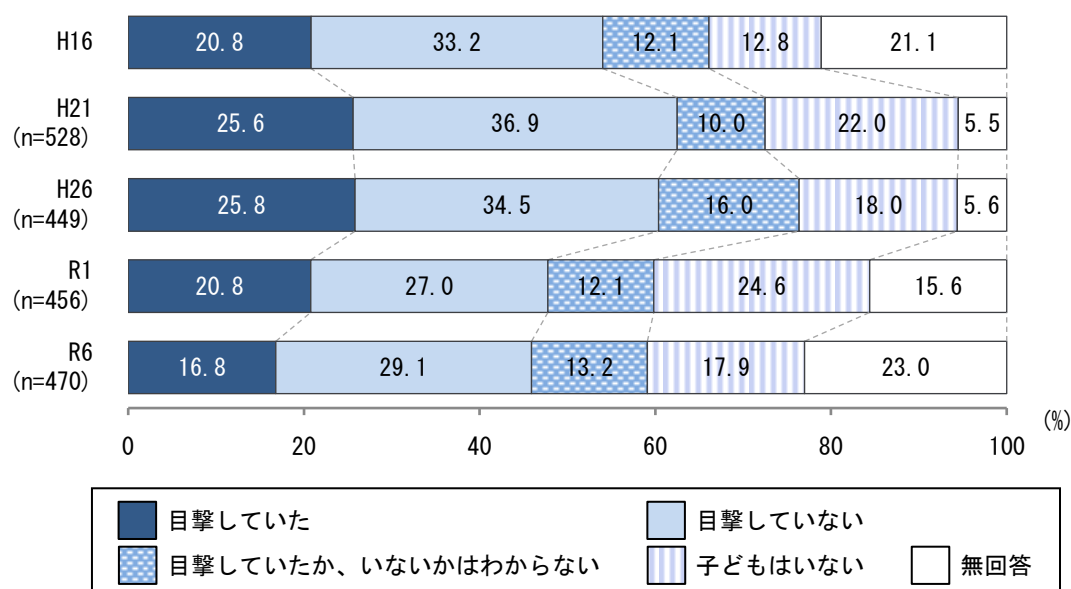
子どもの有無別にみると、命の危険を「感じた」人は子どもの有無に関わらず、あまり大きな差はみられない。

(4) 子どもの目撃

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみ

問32 あなたがその相手からの行為を受けていたときに、あなたのお子さんはそれを目撃していましたか。(✓は1つ)

【図表 32-1 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうか】暴力行為経験者ベース

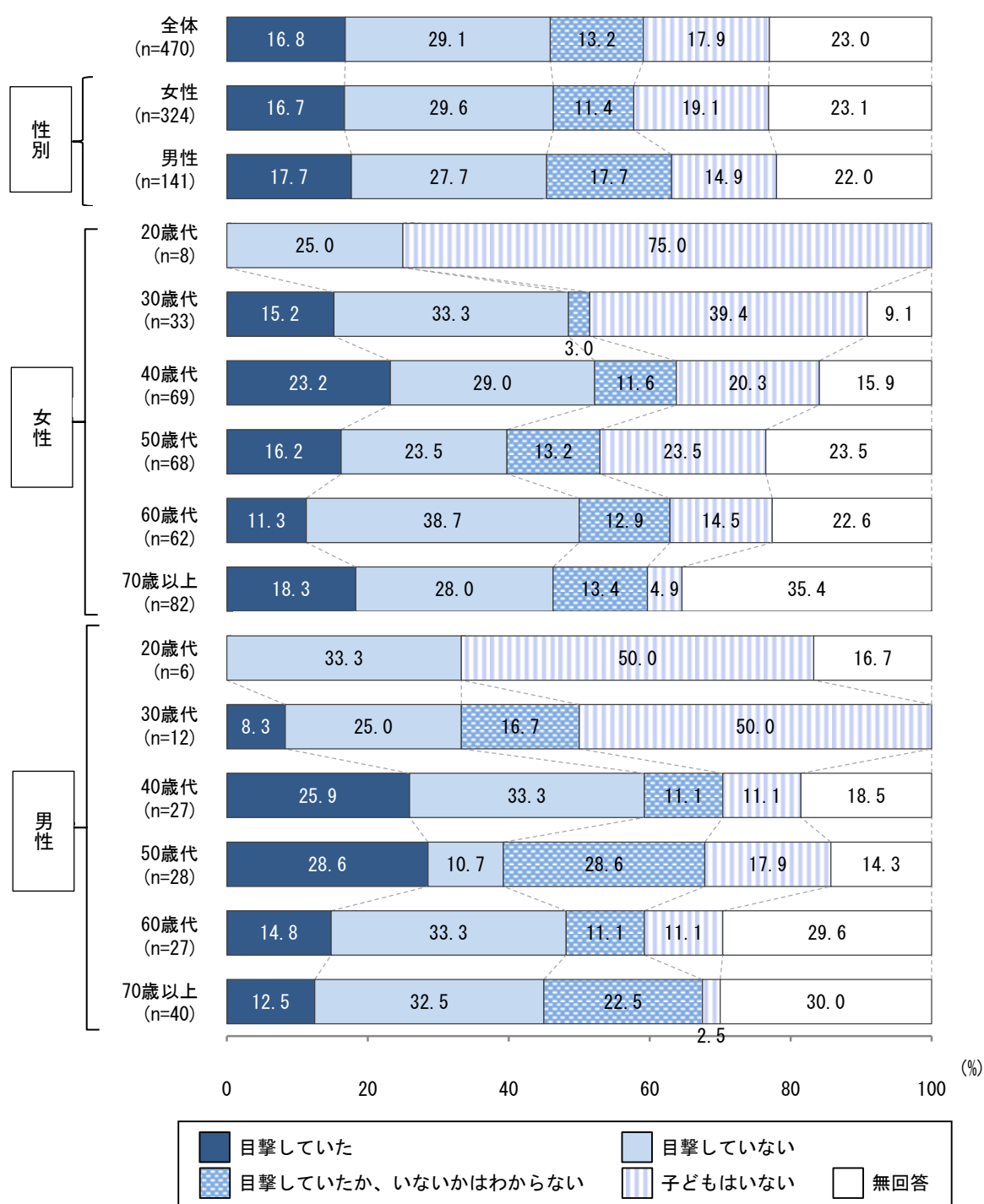


配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが「目撃していた」割合は1割台半ば

配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうかについて、「目撃していない」が29.1%と最も高く、次いで「子どもはいない」(17.9%)、「目撃していた」(16.8%)などの順となっている。

経年比較でみると、子どもが「目撃していた」は2割台で推移していたが、令和6年調査では1割台半ばに低下している。

【図表 32-2 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうか(性別、性年代別)】**暴力行為経験者ベース**

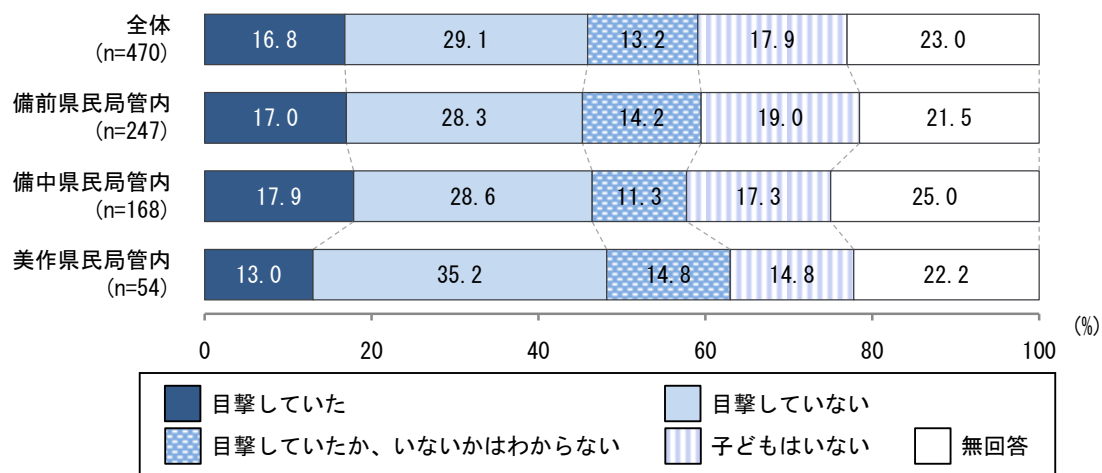


性別にみると、大きな差はみられない。

性年代別にみると、男女ともに「目撃していた」は40歳代で2割台半ば、男性の50歳代で約3割と高くなっている。

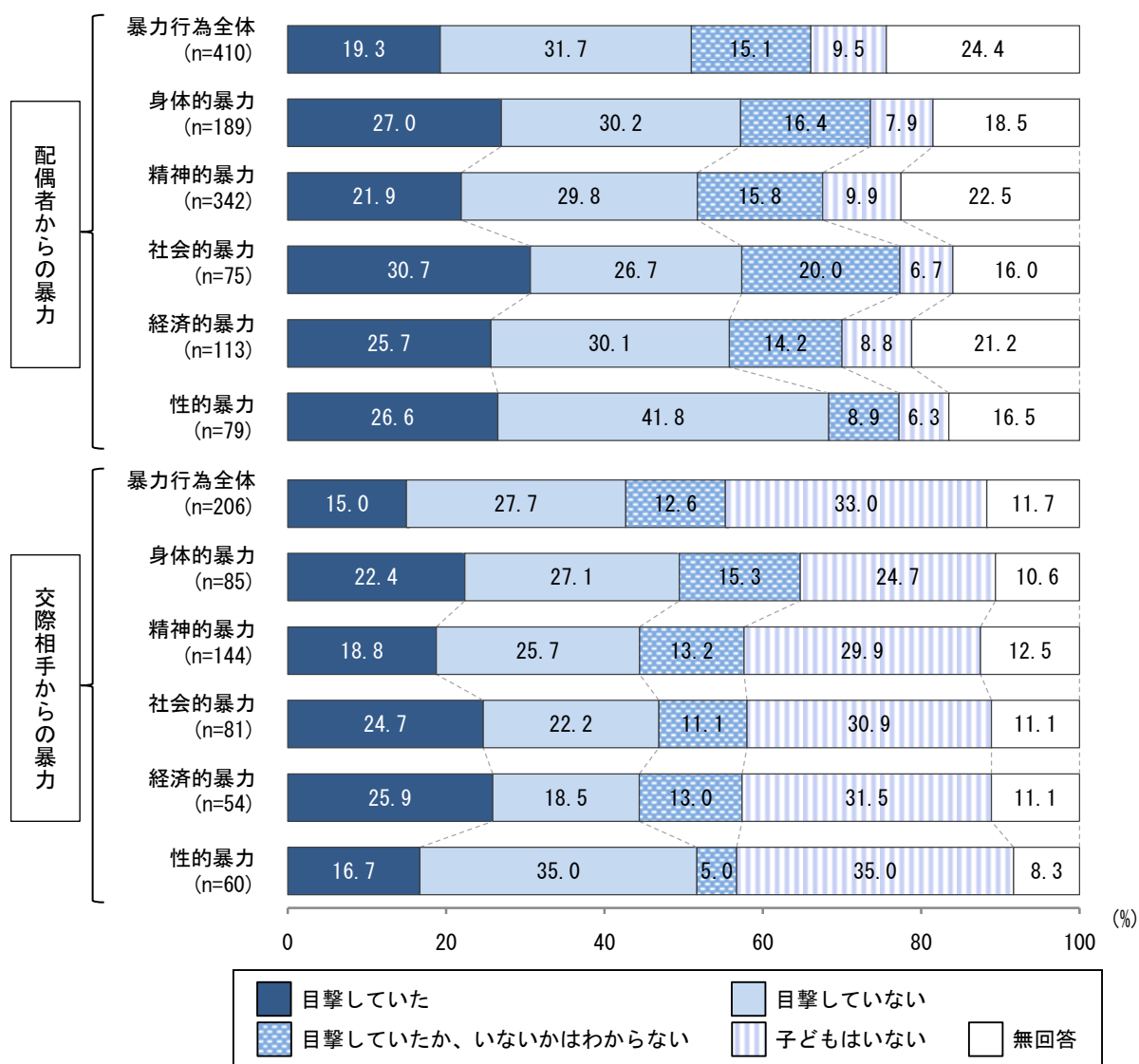
※男女ともに「20歳未満」の回答者なし。

【図表 32-3 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうか(地域別)】**暴力行為経験者ベース**



地域別にみると、すべての地域で、「目撃していない」が「目撃していた」を上回っている。「目撃していた」は備前県民局管内及び備中県民局管内で約2割、「目撃していない」は美作県民局管内で3割台半ばと高くなっている。

【図表 32-4 配偶者や交際相手からの暴力行為を子どもが目撃していたかどうか(暴力の種類別)】暴力行為経験者ベース



配偶者からの暴力の種類別にみると、すべての暴力の種類において「目撃していた」が2割を超えている。

交際相手からの暴力の種類別にみると、社会的暴力及び経済的暴力では「目撃していた」が2割台半ばと高くなっている。

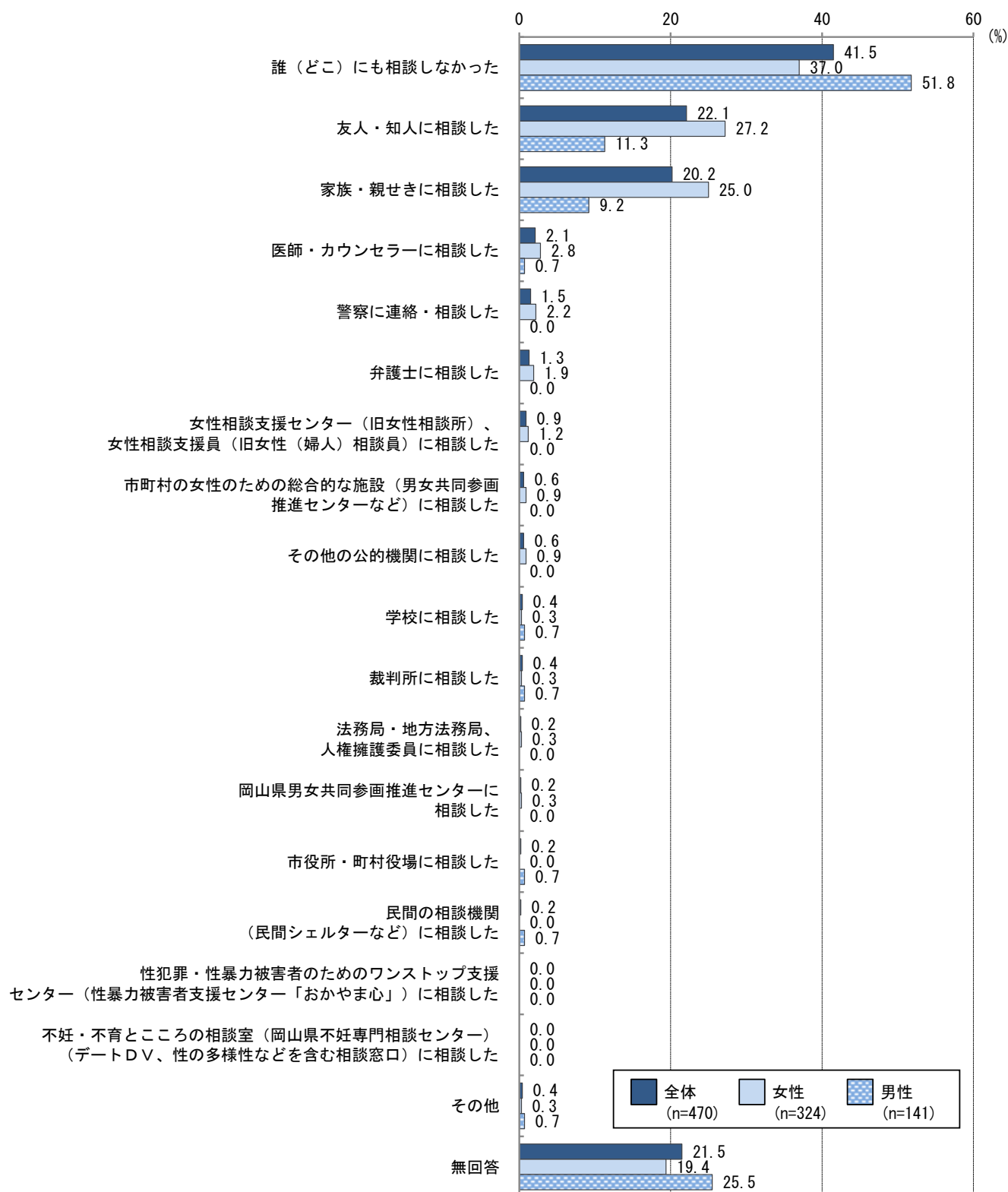
(5) 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみ

問33 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(✓はいいくつでも)

【図表 33-1 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先(性別)】暴力行為経験者ベース



「誰（どこ）にも相談しなかった」は4割超。相談先では家族や友人の割合が高い。

配偶者や交際相手から暴力を受けたことを誰（どこ）かに相談したかについて、「誰（どこ）にも相談しなかった」が 41.5%と最も高く、次いで、「友人・知人に相談した」(22.1%)、「家族・親せきに相談した」(20.2%)、「医師・カウンセラーに相談した」(2.1%)などの順となっている。

性別にみると、「誰（どこ）にも相談しなかった」は男性(51.8%)が女性(37.0%)を 14.8 ポイント上回っている。「友人・知人に相談した」は女性(27.2%)が男性(11.3%)を 15.9 ポイント、「家族・親せきに相談した」は女性(25.0%)が男性(9.2%)を 15.8 ポイント上回っている。

【図表 33-2 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先(性年代別・上位 10 位)】**暴力行為経験者ベース**

			n 数	誰（どこ）にも相談しなかった	友人・知人に相談した	家族・親せきに相談した	医師・カウンセラーに相談した	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	性相談支援員（旧女性相談員）に相談した	女性相談支援センター（旧女性相談員）に相談した	同参画推進センターなどの総合的な施設（男女共	市町村の女性のための相談した	その他の公的機関に相談した	学校に相談した
				(%)											
全 体			470	41.5	22.1	20.2	2.1	1.5	1.3	0.9	0.6	0.6	0.6	0.4	
年 代 別	女 性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	8	25.0	75.0	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	33	45.5	42.4	33.3	3.0	6.1	9.1	-	-	3.0	-	-	-
		40歳代	69	30.4	36.2	33.3	4.3	2.9	-	2.9	1.4	2.9	1.4	2.9	1.4
		50歳代	68	30.9	25.0	27.9	1.5	4.4	2.9	1.5	-	-	-	-	-
		60歳代	62	50.0	22.6	17.7	1.6	-	-	1.6	1.6	-	-	-	-
		70歳以上	82	36.6	14.6	19.5	3.7	-	1.2	-	-	-	1.2	-	-
	男 性	20歳未満	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	6	66.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	12	75.0	8.3	16.7	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-
		40歳代	27	51.9	18.5	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		50歳代	28	46.4	14.3	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		60歳代	27	51.9	11.1	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		70歳以上	40	45.0	5.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2.5

1位 2位 3位

性年代別にみると、女性の 20 歳代及び 40 歳代を除くすべての年代で「誰（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、「友人・知人に相談した」は女性の 30 歳代で4割超となっている。

【図表 33-3 配偶者や交際相手からの暴力についての相談先(地域別・上位 10 位)】暴力行為経験者ベース

			(%)									
		n 数	誰(どこ)にも相談しなかった	友人・知人に相談した	家族・親せきに相談した	医師・カウンセラーに相談した	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	女性相談支援センター(旧女性相談員)に相談した	市町村の女性のための総合的な施設(男女共同参画推進センターなど)に相談した	その他の公的機関に相談した	学校に相談した
全 体		470	41.5	22.1	20.2	2.1	1.5	1.3	0.9	0.6	0.6	0.4
地域別 居住	備前県民局管内	247	42.5	20.2	22.3	2.8	0.8	0.8	1.2	0.8	0.8	0.4
	備中県民局管内	168	41.7	22.0	17.9	0.6	1.8	1.8	0.6	-	0.6	0.6
	美作県民局管内	54	37.0	31.5	18.5	3.7	3.7	1.9	-	1.9	-	-

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

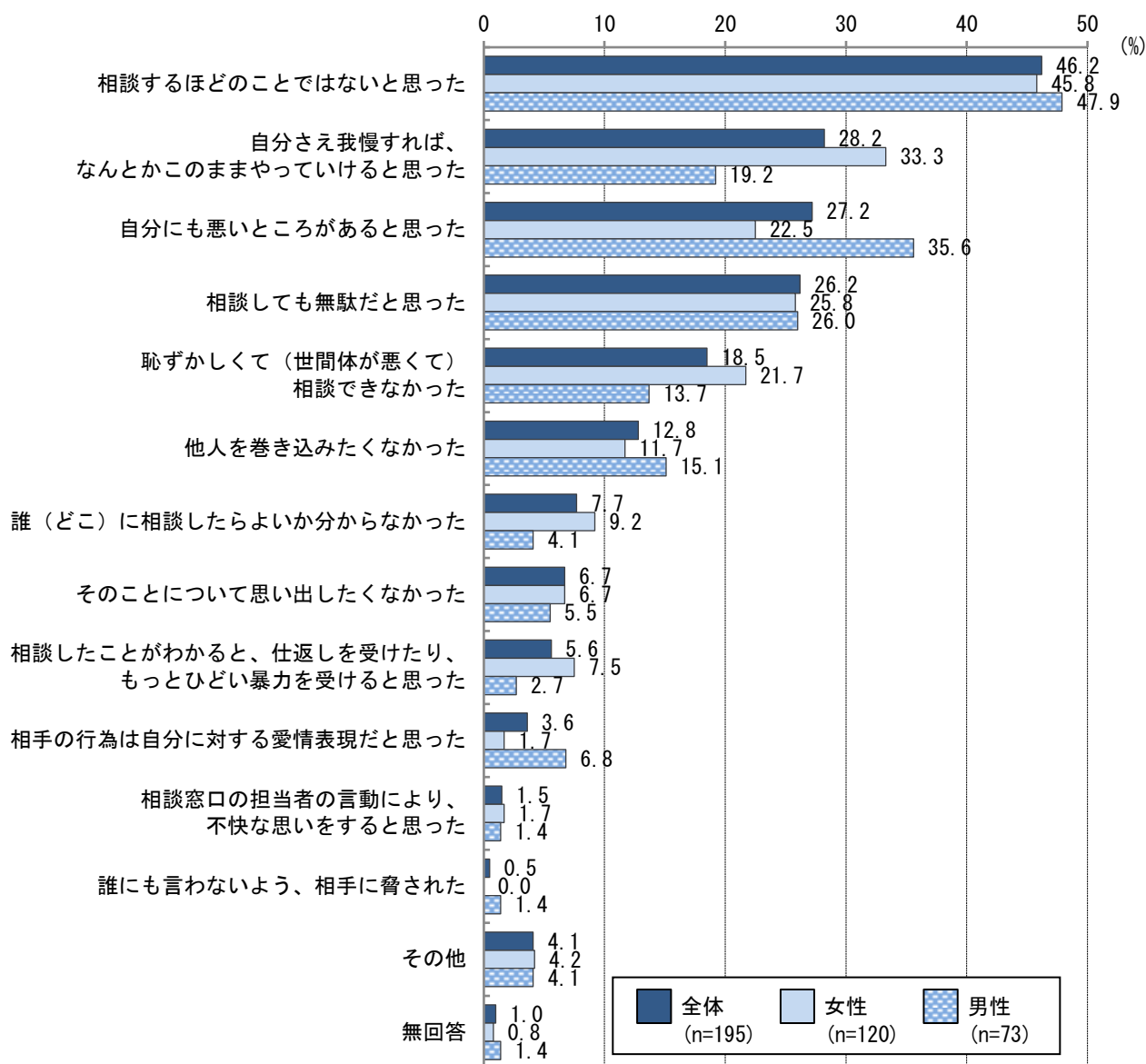
地域別にみると、「誰(どこ)にも相談しなかった」はすべての地域で最も高くなっており、「友人・知人に相談した」は美作県民局管内(31.5%)で最も高く、備前県民局管内(20.2%)で最も低くなっており、11.3 ポイントの差がある。

(6) 相談しなかった理由

問 33 で、「1.誰(どこ)にも相談しなかった」を選択した方のみ

問34 誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(✓はいくつでも)

【図表 34-1 相談しなかった理由(性別)】



「相談するほどのことではないと思った」が最も高い

相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思った」が 46.2%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」(28.2%)、「自分にも悪いところがあると思った」(27.2%)などの順となっている。

性別にみると、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」は女性(33.3%)が男性(19.2%)を 14.1 ポイント、「自分にも悪いところがあると思った」は男性(35.6%)が女性(22.5%)を 13.1 ポイント、「恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった」は女性(21.7%)が男性(13.7%)を 8.0 ポイント上回っている。

【図表 34-2 相談しなかった理由(性年代別・上位 10 位)】暴力行為経験者ベース

		n 数	と相談するほどのことではない	かこのままやっていたら、なんと	自分さえ我慢すれば、なんと	自分にも悪いところがあると	相談しても無駄だと思った	恥ずかしくて(世間体が悪く)	他人を巻き込みたくなかった	か分(どこ)に相談したらよい	くそのことについて思い出した	い暴力を受けたら、もつとひと	返談したことがわかったと、仕	相談したことがわかったと、仕	情相手の行為は自分に対する愛	相表現だと思った	(%)
全 体		195	46.2	28.2	27.2	26.2	18.5	12.8	7.7	6.7	5.6	3.6					
年代別	女性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20歳代	2	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-
		30歳代	15	26.7	40.0	33.3	20.0	33.3	13.3	13.3	6.7	6.7	-	-	-	-	-
		40歳代	21	47.6	28.6	23.8	28.6	38.1	19.0	9.5	4.8	23.8	4.8	-	-	-	-
		50歳代	21	38.1	47.6	4.8	33.3	9.5	19.0	9.5	9.5	-	-	-	-	-	-
		60歳代	31	61.3	22.6	25.8	12.9	6.5	9.7	3.2	6.5	3.2	-	-	-	-	-
		70歳以上	30	43.3	33.3	26.7	36.7	30.0	3.3	13.3	3.3	6.7	-	-	-	-	-
	男性	20歳未満	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
		20歳代	4	75.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30歳代	9	55.6	55.6	22.2	44.4	22.2	22.2	-	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-
		40歳代	14	50.0	21.4	35.7	28.6	21.4	14.3	14.3	7.1	7.1	-	-	-	-	-
		50歳代	13	30.8	30.8	61.5	30.8	23.1	7.7	7.7	-	-	-	-	-	-	-
		60歳代	14	21.4	7.1	14.3	28.6	7.1	28.6	-	14.3	-	-	-	-	-	-
		70歳以上	18	66.7	5.6	44.4	16.7	5.6	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-

1位 2位 3位

性年代別にみると、男女ともに、女性の 30 歳代を除くすべての年代で「相談するほどのことではないと思った」が上位となっている。女性はすべての年代で「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていたら、なんと」が上位に入っている。男性は 30 歳代以降のすべての年代で「相談しても無駄だと思った」が上位に入っている。

【図表 34-3 相談しなかった理由(地域別・上位 10 位)】暴力行為経験者ベース

		n 数	と相談するほどのことではない	かこのままやっていたら、なんと	自分さえ我慢すれば、なんと	自分にも悪いところがあると	相談しても無駄だと思った	恥ずかしくて(世間体が悪く)	他人を巻き込みたくなかった	か分(どこ)に相談したらよい	くそのことについて思い出した	い暴力を受けたら、もつとひと	返談したことがわかったと、仕	相談したことがわかったと、仕	情相手の行為は自分に対する愛	相表現だと思った	(%)
全 体		195	46.2	28.2	27.2	26.2	18.5	12.8	7.7	6.7	5.6	3.6					
地域別	備前県民局管内	105	50.5	28.6	27.6	22.9	19.0	10.5	7.6	7.6	4.8	4.8	-	-	-	-	-
	備中県民局管内	70	34.3	31.4	27.1	31.4	17.1	14.3	7.1	5.7	7.1	1.4	-	-	-	-	-
	美作県民局管内	20	65.0	15.0	25.0	25.0	20.0	20.0	10.0	5.0	5.0	5.0	-	-	-	-	-

1位 2位 3位

地域別にみると、「相談するほどのことではないと思った」はすべての地域で最も高くなっている。「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていたら、なんと」が上位に入っている。男性は 30 歳代以降のすべての年代で「相談しても無駄だと思った」が上位に入っている。

【図表 34-4 相談しなかった理由(暴力の種類別・上位 10 位)】配偶者からの暴力

												(%)
		n 数	相談するほどのことではない と思った	自分さえ我慢すれば、なんとかのまやっつけ、なんとか 思った	相談しても無駄だと思った	自分にも悪いところがあると 思った	恥ずかしくて(世間体が悪くて) 相談できなかった	他人を巻き込みたくなかった	誰(どこ)に相談したらよい か分からなかった	そのことについて思い出した なかった	返しを受けた、わかつとひと仕 い暴力を受けた、わかつとひと仕 相談したことがわかつとひと仕 相談したことがわかつとひと仕	相手の行為は自分に対する愛情 表現だと思った
暴力行為全体		166	45.2	28.9	28.3	27.1	18.1	13.9	6.6	5.4	5.4	1.8
暴力の種類別	身体的暴力	81	44.4	18.5	30.9	33.3	24.7	12.3	7.4	4.9	8.6	2.5
	精神的暴力	138	44.2	33.3	31.9	23.2	19.6	15.2	6.5	5.1	6.5	1.4
	社会的暴力	27	29.6	29.6	48.1	40.7	48.1	40.7	11.1	7.4	18.5	3.7
	経済的暴力	31	25.8	38.7	41.9	29.0	32.3	22.6	16.1	3.2	16.1	-
	性的暴力	31	35.5	35.5	29.0	19.4	45.2	22.6	9.7	3.2	22.6	-

1位 2位 3位

配偶者からの暴力の種類別にみると、身体的暴力、精神的暴力では「相談するほどのことではないと思った」が4割台半ば、社会的暴力では「相談しても無駄だと思った」、「恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった」が約5割と高くなっている。

【図表 34-5 相談しなかった理由(暴力の種類別・上位 10 位)】交際相手からの暴力

		n 数	相談するほどのことではない と思った	自分さえ我慢すれば、なんとかのまやっつけ、なんとか思った	自分にも悪いところがあると 思った	恥ずかしくて（世間体が悪くて）相談できなかった	相談しても無駄だと思った	誰（どこ）に相談したらよい か分からなかった	他人を巻き込みたくなかった	そのことについて思い出した なかった	相手の行為は自分に対する愛情表現だと思った	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もつとひどい暴力を受けると思った	(%)
暴力行為全体		88	46.6	30.7	29.5	27.3	26.1	13.6	12.5	10.2	8.0	5.7	
暴力の種類別	身体的暴力	30	46.7	16.7	40.0	30.0	33.3	10.0	20.0	6.7	3.3	10.0	
	精神的暴力	61	42.6	31.1	34.4	21.3	31.1	16.4	16.4	9.8	3.3	6.6	
	社会的暴力	25	36.0	44.0	40.0	44.0	44.0	24.0	20.0	12.0	12.0	16.0	
	経済的暴力	16	43.8	43.8	56.3	31.3	56.3	12.5	25.0	12.5	6.3	18.8	
	性的暴力	26	34.6	50.0	23.1	53.8	23.1	19.2	19.2	23.1	3.8	11.5	

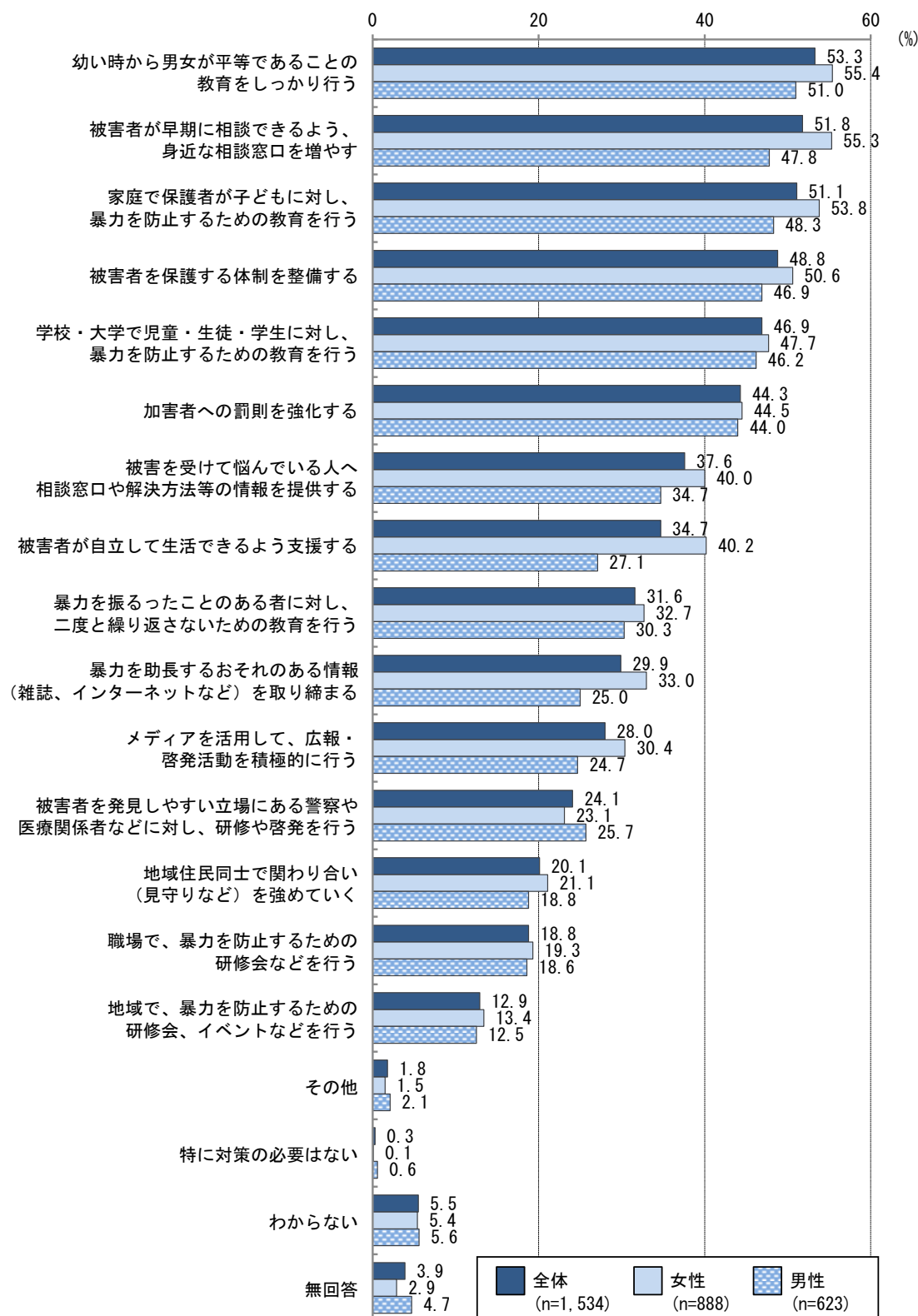
1位 2位 3位

交際相手からの暴力の種類別にみると、性的暴力では「恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった」が5割台半ば、経済的暴力では「自分にも悪いところがあると思った」、「相談しても無駄だと思った」が5割台半ばと高くなっている。

(7) 男女間の暴力を防止するために必要なこと

問35 男女間における暴力(配偶者や交際相手からの暴力、性犯罪、セクシュアルハラスメントなど)への取組として必要なことはどんなことだと思いますか。(✓はいくつでも)

【図表 35-1 男女間の暴力を防止するために必要なこと(性別)】



「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」が最も高い

男女間の暴力を防止するために必要なことについて、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」が 53.3%と最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(51.8%)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(51.1%)などの順となっている。

性別にみると、「被害者が自立して生活できるよう支援する」は女性(40.2%)が男性(27.1%)を 13.1 ポイント上回っている。

【図表 35-2 男女間の暴力を防止するために必要なこと(性年代別・上位 10 位)】

		n 数	(%)									
			幼い時から男女が平等である	被害者が早期に相談できる	家庭で保護者が子どもに	被害者を保護する体制を整備	学校・大学で児童・生徒・学生に暴力を防止する	加害者への罰則を強化する	被害を受けた人への相談窓口や解決方法等	被害者が自立して生活できる	暴力を振るうことのある者	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる
全 体		1,534	53.3	51.8	51.1	48.8	46.9	44.3	37.6	34.7	31.6	29.9
年 代 別	女 性	20歳未満	18	38.9	50.0	55.6	55.6	33.3	55.6	38.9	27.8	33.3
		20歳代	54	55.6	61.1	66.7	68.5	51.9	72.2	48.1	51.9	42.6
		30歳代	89	56.2	53.9	59.6	60.7	49.4	65.2	33.7	48.3	38.2
		40歳代	132	53.0	51.5	53.0	51.5	53.0	49.2	39.4	40.9	36.4
		50歳代	143	53.8	55.9	50.3	58.0	44.1	49.7	39.9	46.2	30.8
		60歳代	176	62.5	66.5	52.3	55.1	54.0	40.3	44.9	41.5	39.8
		70歳以上	269	53.5	49.8	53.2	36.8	43.1	29.4	37.9	32.7	24.2
	男 性	20歳未満	15	26.7	33.3	40.0	46.7	40.0	33.3	6.7	26.7	40.0
		20歳代	39	48.7	59.0	51.3	59.0	53.8	61.5	48.7	33.3	51.3
		30歳代	45	46.7	40.0	57.8	44.4	55.6	42.2	28.9	20.0	26.7
		40歳代	95	53.7	54.7	57.9	53.7	51.6	55.8	40.0	33.7	34.7
		50歳代	114	59.6	49.1	49.1	52.6	43.0	50.9	39.5	32.5	35.1
		60歳代	123	46.3	50.4	47.2	49.6	43.9	40.7	30.9	30.1	31.7
		70歳以上	191	50.8	42.9	41.4	36.6	44.0	33.5	32.5	19.4	20.4

1位 2位 3位

性年代別にみると、「加害者への罰則を強化する」は女性の 20 歳代で7割超、男性の 20 歳代で6割超と高くなっている。

【図表 35-3 男女間の暴力を防止するために必要なこと(地域別・上位 10 位)】

			(%)									
		n 数	こ 幼 い の 時 か ら 男 女 が 平 等 で あ る こ の 教 育 を し っ か り 行 う	う 被 害 者 が 早 期 に 相 談 窓 口 を 増 や す よ	育 し 、 家 庭 で 保 護 者 が 子 ど も に 対 し 暴 力 を 防 止 す る た め に の 教 育 を 行 う	す 被 害 者 を 保 護 す る 体 制 を 整 備	め 生 に 対 し 、 学 校 ・ 大 学 で 児 童 ・ 生 徒 ・ 学 生 の 教 育 を 行 う	加 害 者 へ の 罰 則 を 強 化 す る	を 相 談 窓 口 や 解 決 方 法 等 の 情 報 を 提 供 す る	被 害 者 が 自 立 し て 生 活 で き る よ う 支 援 す る	た め に 暴 力 を 振 る つ た こ の あ る 者 に 対 し 、 二 度 と 繰 り 返 さ な い た め の 教 育 を 行 う	情 報 を 助 長 す る お お の の あ る 者 に 対 し 、 二 度 と 繰 り 返 さ な い た め の 教 育 を 行 う
全 体		1,534	53.3	51.8	51.1	48.8	46.9	44.3	37.6	34.7	31.6	29.9
地 域 別	備前県民局管内	756	53.7	53.3	52.6	51.2	49.1	48.3	37.8	37.0	32.1	29.8
	備中県民局管内	612	51.5	49.2	48.2	44.6	43.6	40.2	35.9	31.2	28.8	28.9
	美作県民局管内	158	60.8	55.7	56.3	53.8	50.0	43.0	43.7	38.0	41.8	34.2

1位 2位 3位

地域別にみると、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う」はすべての地域で最も高くなっており、美作県民局管内で約6割となっている。「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」は、美作県民局管内が約4割と高くなっている。

【図表 35-4 男女間の暴力を防止するために必要なこと(暴力を受けた経験の有無別・上位 10 位)】

			(%)									
		n 数	こ 幼 い の 時 か ら 男 女 が 平 等 で あ る こ の 教 育 を し っ か り 行 う	う 被 害 者 が 早 期 に 相 談 窓 口 を 増 や す よ	育 し 、 家 庭 で 保 護 者 が 子 ど も に 対 し 暴 力 を 防 止 す る た め に の 教 育 を 行 う	す 被 害 者 を 保 護 す る 体 制 を 整 備	め 生 に 対 し 、 学 校 ・ 大 学 で 児 童 ・ 生 徒 ・ 学 生 の 教 育 を 行 う	加 害 者 へ の 罰 則 を 強 化 す る	を 相 談 窓 口 や 解 決 方 法 等 の 情 報 を 提 供 す る	被 害 者 が 自 立 し て 生 活 で き る よ う 支 援 す る	た め に 暴 力 を 振 る つ た こ の あ る 者 に 対 し 、 二 度 と 繰 り 返 さ な い た め の 教 育 を 行 う	情 報 を 助 長 す る お お の の あ る 者 に 対 し 、 二 度 と 繰 り 返 さ な い た め の 教 育 を 行 う
全 体		1,534	53.3	51.8	51.1	48.8	46.9	44.3	37.6	34.7	31.6	29.9
の 暴 力 を 受 け た 経 験 有 無 別	暴力を受けた経験あり	470	53.6	45.1	50.9	45.1	46.0	37.9	35.1	37.4	30.4	28.5
	暴力を受けた経験なし	1,064	53.2	54.8	51.2	50.4	47.3	47.2	38.7	33.6	32.1	30.5

1位 2位 3位

暴力を受けた経験の有無別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」は経験あり(45.1%)が経験なし(54.8%)を 9.7 ポイント下回っている。

【図表 35-5 男女間の暴力を防止するために必要なこと(配偶者から「何度も」暴力行為を受けたことがある回答者・上位 10 位)】

	n 数	ここの時から男女が平等である	幼い時からの教育をしっかりと行う	被害者が早期に相談できるような相談窓口を増やす	被害者が早期に相談できるような相談窓口を増やす	家庭で保護者が子どもに対する教育を行う	家庭で保護者が子どもに対する教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対する暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対する暴力を防止するための教育を行う	被害者を保護する体制を整備する	被害者を保護する体制を整備する	加害者への罰則を強化する	加害者への罰則を強化する	被害者を受け入れて解決方法等の人情を相対的に提供する	被害者を受け入れて解決方法等の人情を相対的に提供する	被害者が自立して生活できるように支援する	被害者が自立して生活できるように支援する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる	暴力を振るったことのある者に対する教育を行う	暴力を振るったことのある者に対する教育を行う
全 体	1,276	54.9	51.5	50.6	47.6	46.8	42.2	36.8	34.3	30.9	30.6										
配偶者から「何度も」暴力行為を受けたことがある	183	55.2	47.5	51.9	44.3	43.7	36.6	35.0	42.1	29.0	27.3										

1位 2位 3位

「何ども」暴力行為を受けたことがある回答者について、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかりと行う」が 55.2%と最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(51.9%)、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(47.5%)などの順となっている。

【図表 35-6 男女間の暴力を防止するために必要なこと(経年比較・上位 10 位)】

	n 数	ここの時から男女が平等である	幼い時からの教育をしっかりと行う	被害者が早期に相談できるような相談窓口を増やす	被害者が早期に相談できるような相談窓口を増やす	家庭で保護者が子どもに対する教育を行う	家庭で保護者が子どもに対する教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対する暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対する暴力を防止するための教育を行う	被害者を保護する体制を整備する	被害者を保護する体制を整備する	加害者への罰則を強化する	加害者への罰則を強化する	被害者を受け入れて解決方法等の人情を相対的に提供する	被害者を受け入れて解決方法等の人情を相対的に提供する	被害者が自立して生活できるように支援する	被害者が自立して生活できるように支援する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる	暴力を振るったことのある者に対する教育を行う	暴力を振るったことのある者に対する教育を行う
経年比較	H21	1,490	43.2	49.7	54.5	41.7	41.2	36.8	33.4	30.1	27.9	37.7									
	H26	1,386	44.4	51.4	54.6	40.1	38.6	40.0	30.9	28.4	25.2	21.2									
	R1	1,532	45.4	47.0	46.1	48.8	46.9	44.3	37.6	34.7	31.6	29.9									
	R6	1,534	53.3	51.8	51.1																

1位 2位 3位

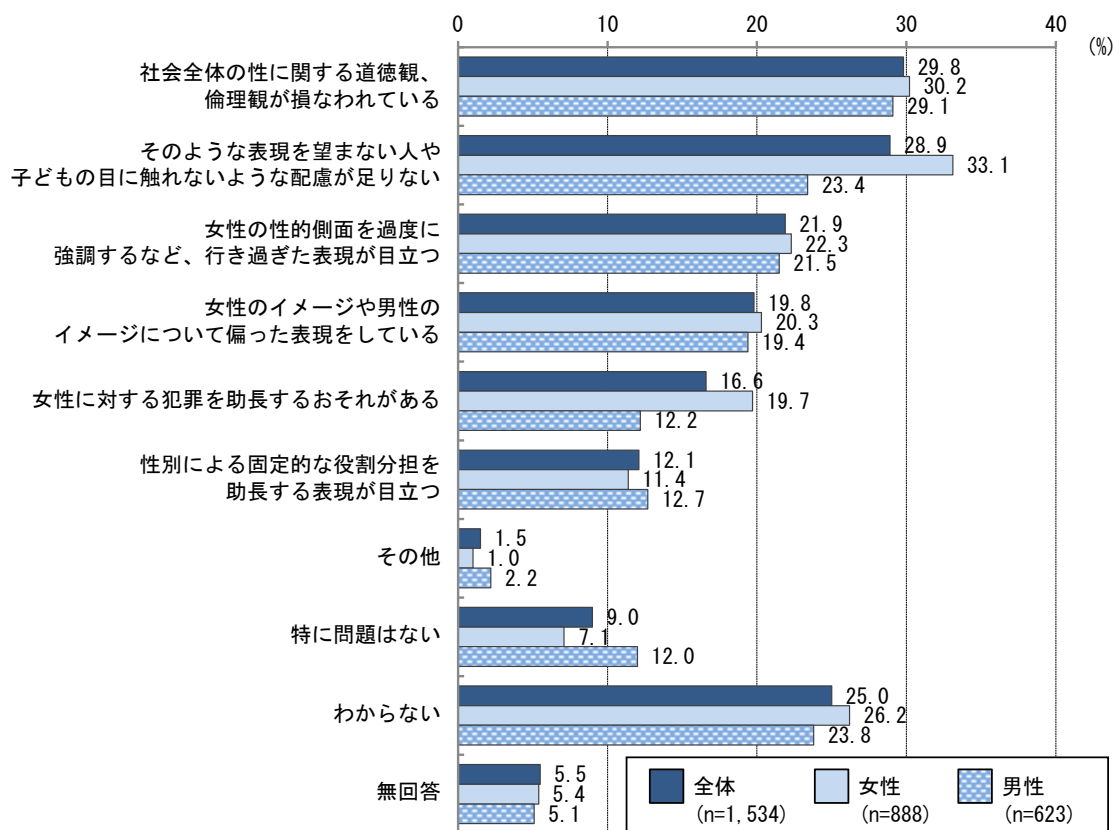
経年比較でみると、「被害者を保護する体制を整備する」は令和6年調査(48.8%)が令和元年調査(40.1%)を 8.7 ポイント、「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる」は令和6年調査(29.9%)が令和元年調査(21.2%)を 8.7 ポイント、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」は令和6年調査(46.9%)が令和元年調査(38.6%)を 8.3 ポイント上回っている。

※「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる」は、H21、H26 調査では「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる」となっている。

(8) メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現

問36 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、Webなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。(✓はいくつでも)

【図表 36-1 メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現(性別)】



「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が最も高い

メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が 29.8%と最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」(28.9%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(21.9%)などの順となっている。

性別にみると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」は女性(33.1%)が男性(23.4%)を 9.7 ポイント上回っている。

※H16 調査では、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。次の中からあなたのお考えに近いものをお選びください。」と聞いている。
H21、H26、R1 調査では、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものをお選びください。」と聞いている。

【図表 36-2 メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現(性年代別)】

(%)

			n 数	る観社 、会全 倫理観 の性 が損に 関わ る道 徳	よや うな 配 慮 が 足 り な い	人子 のよ うな 表 現 を 望 ま な い	現調 が 目 立 つ	女 性 の 性 的 側 面 を 過 ぎ に 表 強	を し て い る	メ ー ジ に つ い て 偏 つ た 表 現 の 現 イ	女 性 の イ メ ー ジ に つ い て 偏 つ た 表 現 の 現 イ	女 性 に 対 する 犯 罪 を 助 長 す る お そ れ が あ る	担 性 を 助 長 す る 固 定 的 な 表 現 が 目 立 つ	性 別 に よ る 固 定 的 な 表 現 が 目 立 つ	そ の 他	特 に 問 題 は な い	わ か ら な い	無 回 答	(%)
全 体			1,534	29.8	28.9	21.9	19.8	16.6	12.1	1.5	9.0	25.0	5.5						
年 代 別	女 性	20歳未満	18	16.7	11.1	22.2	16.7	5.6	11.1	-	11.1	50.0	5.6						
		20歳代	54	20.4	35.2	22.2	42.6	16.7	22.2	-	14.8	16.7	1.9						
		30歳代	89	14.6	31.5	21.3	22.5	18.0	12.4	-	6.7	33.7	2.2						
		40歳代	132	16.7	30.3	18.2	17.4	22.0	15.2	0.8	10.6	33.3	3.0						
		50歳代	143	28.0	33.6	21.0	24.5	18.2	11.2	4.2	9.1	25.9	2.1						
		60歳代	176	34.7	41.5	23.3	20.5	21.6	13.1	0.6	6.3	19.9	6.3						
		70歳以上	269	43.5	30.9	25.3	14.9	20.4	6.3	0.4	2.6	25.3	8.9						
	男 性	20歳未満	15	-	20.0	20.0	33.3	-	13.3	-	20.0	26.7	13.3						
		20歳代	39	17.9	23.1	23.1	30.8	10.3	23.1	-	20.5	23.1	-						
		30歳代	45	15.6	20.0	17.8	17.8	8.9	24.4	8.9	22.2	17.8	2.2						
		40歳代	95	24.2	22.1	21.1	18.9	10.5	14.7	5.3	16.8	23.2	3.2						
		50歳代	114	27.2	23.7	21.9	20.2	15.8	8.8	0.9	12.3	28.1	2.6						
		60歳代	123	28.5	21.1	22.0	17.9	10.6	11.4	2.4	9.8	24.4	3.3						
		70歳以上	191	40.8	26.7	22.0	16.8	14.1	9.9	0.5	6.3	22.5	9.9						

1位 2位 3位

性年代別にみると、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」は女性の 20 歳代で 4割超、男性の 20 歳代で約3割、「性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ」は男性の 20 歳代～30 歳代で2割台半ばと高くなっている。女性の 20 歳代及び 60 歳代、男性の 30 歳代を除くすべての年代で「わからない」も上位に入っている。

【図表 36-3 メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現(地域別)】

												(%)		
		n 数	る観社会 、倫理観 が損に 関する 道徳	よや うな子 どもな 配慮が 足りな い	そ のよう な表現 を望ま ない	現調 するの 性的側 面を過 ぎた表 現	女性 の性的 側面を 過度に 強調し てい る	メ ー ジ のイ メ ー ジ に つ い て 偏 つ た 表 現 の 現 イ	る女 性 に 対 する 犯 罪 を 助 長 す る	担性 を別 に よ る 固 定 的 な 目 役 割 つ 分	そ の 他	特 に 問 題 は な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,534	29.8	28.9	21.9	19.8	16.6	12.1	1.5	9.0	25.0	5.5		
地域別 居住	備前県民局管内	756	28.8	30.2	22.4	18.9	17.9	11.4	1.7	9.4	25.7	4.9		
	備中県民局管内	612	31.5	27.0	21.6	20.3	15.7	12.1	1.3	8.2	24.8	5.9		
	美作県民局管内	158	27.8	31.0	21.5	23.4	13.9	15.8	1.3	10.8	23.4	5.1		

1位 2位 3位

地域別にみると、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」はすべての地域で上位となっている。

【図表 36-4 メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現(経年比較)】

		n 数	る観社会、倫理観が損なわれている	よやうな配慮が足りない	そのような表現を望まない	現調するなどの、行き過ぎた表現が目立つ	女性性の性的側面を過度に強調している	メー性的イメージについて偏った表現の現	る女性に對する犯罪を助長するおそれがある	性別による固定的な役割割分	担を助長する表現が目立つ	その他	特に問題はない	わからない	無回答	(%)	
経年比較	H16	2,064	48.4	47.2	32.9	16.2	21.1	12.5	0.7	5.0	14.3	6.2					
	H21	1,490	46.3	40.3	27.2	14.5	22.7	9.6	2.1	8.3	16.6	4.3					
	H26	1,386	40.7	35.6	27.0	15.3	18.8	10.6	1.4	8.0	17.1	4.2					
	R1	1,532	30.0	26.4	19.8	15.0	12.2	12.1	1.6	9.9	23.2	9.3					
	R6	1,534	29.8	28.9	21.9	19.8	16.6	12.1	1.5	9.0	25.0	5.5					

1位 2位 3位

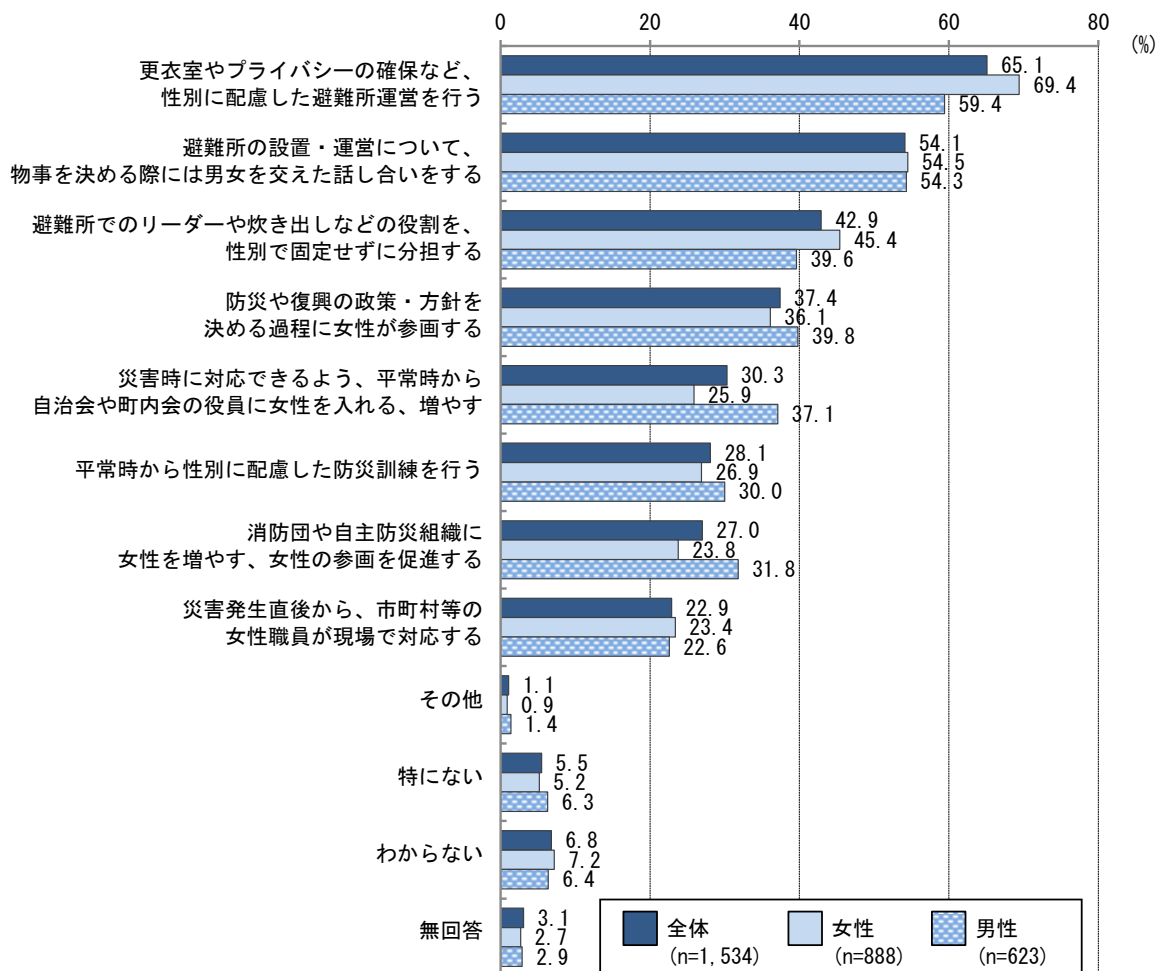
経年比較でみると、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」は減少傾向にある。一方、「わからない」は増加傾向にある。

8 防災について

(1) 性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なこと

問37 あなたは、性別の違いに気を配った防災・災害対応のためにはどのようなことが必要だと思いますか。(✓はいくつでも)

【図表 37-1 性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なこと(性別)】



「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」が最も高い

性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なことについて、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」が65.1%と最も高く、次いで「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」(54.1%)、「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する」(42.9%)などの順となっている。

性別にみると、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」は女性(69.4%)が男性(59.4%)を10.0ポイント上回っており、「災害時に対応できるよう、平常時から自治会や町内会の役員に女性を入れる、増やす」は男性(37.1%)が女性(25.9%)を11.2ポイント、「消防団や自主防災組織に女性を増やす、女性の参画を促進する」は男性(31.8%)が女性(23.8%)を8.0ポイント上回っている。

【図表 37-2 性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なこと(性年代別・上位8位)】

(%)

		n 数	運 営 な ど を 行 う	更 衣 室 や プ ラ イ バ シ ー の 確 保	を 交 え た 話 し 合 い を す る	避 難 所 の 設 置 ・ 運 営 に つ い て	せ ず に 分 担 す る	避 難 所 の リ ー ダ ー や 炊 き 出 し な ど の 役 割	め 防 災 過 程 に 女 性 が 参 画 す る 決	員 に 女 性 を 入 れ る 、 増 や す の 役	常 時 か ら 自 治 会 や 町 内 会 の 平	災 害 時 に 対 応 で き る よ う の 防	災 害 時 に 対 応 で き る よ う の 防	平 常 時 か ら 性 別 に 配 慮 し た 防	す る 増 や す 、 女 性 の 参 画 を 促 進 し た 防	消 防 団 や 自 主 防 災 組 織 に 女 性 の 参 画 を 促 進 し た 防	の 災 害 性 発 生 直 後 か ら 現 場 で 、 対 市 町 村 等
全 体		1,534	65.1	54.1	42.9	37.4	30.3	28.1	27.0	22.9							
年 代 別	女 性	20歳未満	18	61.1	38.9	27.8	27.8	27.8	22.2	33.3	22.2						
		20歳代	54	83.3	53.7	57.4	31.5	22.2	35.2	20.4	14.8						
		30歳代	89	73.0	44.9	38.2	25.8	24.7	33.7	21.3	16.9						
		40歳代	132	76.5	58.3	47.0	41.7	26.5	38.6	29.5	24.2						
		50歳代	143	73.4	53.1	49.7	38.5	16.8	22.4	21.0	25.2						
		60歳代	176	69.3	59.7	42.6	40.3	29.0	26.7	25.0	28.4						
		70歳以上	269	60.6	54.6	46.1	34.9	30.1	20.8	22.7	23.4						
	男 性	20歳未満	15	40.0	33.3	26.7	6.7	13.3	20.0	6.7	13.3						
		20歳代	39	82.1	51.3	38.5	30.8	28.2	43.6	35.9	17.9						
		30歳代	45	60.0	44.4	33.3	33.3	24.4	37.8	35.6	22.2						
		40歳代	95	60.0	58.9	38.9	35.8	30.5	38.9	34.7	21.1						
		50歳代	114	67.5	58.8	43.0	49.1	43.0	34.2	31.6	28.9						
		60歳代	123	65.0	55.3	40.7	42.3	37.4	26.0	31.7	22.0						
		70歳以上	191	47.1	52.9	39.8	40.8	43.5	22.0	30.9	22.0						

1位
 2位
 3位

性年代別にみると、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」は男性の70歳以上を除き男女ともにすべての年代で最も高くなっているが、特に男女ともに20歳代で8割台と高くなっている。「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する」は女性20歳代で約6割と高くなっている。

【図表 37-3 性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なこと(地域別・上位8位)】

		n 数	(%)							
			運営など、更衣室やプライバシー配慮した避難所保障	更衣柜やプライバシーの確保	避難所の設置・運営について男女を交えた話し合いをする	避難所のリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する	避難所の復興の政策・方針を決定する	防災や復興の政策・方針を決定する	災害時に自治会や町内会の役員に女性を入れる、増やす	災害時に自治会や町内会の役員に女性を入れる、増やす
全 体		1,534	65.1	54.1	42.9	37.4	30.3	28.1	27.0	22.9
地域別	備前県民局管内	756	66.9	53.4	43.5	38.5	30.8	26.7	26.9	23.9
	備中県民局管内	612	63.6	54.4	42.2	35.5	28.4	28.6	27.3	22.2
	美作県民局管内	158	63.3	57.0	43.7	40.5	35.4	33.5	27.8	21.5

1位 2位 3位

地域別にみると、すべての地域で、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」は最も高くなっている。次いで、「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」、「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する」などの順となっている。

【図表 37-4 性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なこと(就労状況別・上位8位)】

		n 数	(%)							
			運営など、更衣室やプライバシー配慮した避難所保障	更衣柜やプライバシーの確保	避難所の設置・運営について男女を交えた話し合いをする	避難所のリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する	避難所の復興の政策・方針を決定する	防災や復興の政策・方針を決定する	災害時に自治会や町内会の役員に女性を入れる、増やす	災害時に自治会や町内会の役員に女性を入れる、増やす
全 体		1,534	65.1	54.1	42.9	37.4	30.3	28.1	27.0	22.9
就労状況別	共働き家庭	491	70.9	54.0	42.8	40.1	28.1	33.8	28.3	24.2
	専業主婦(夫)家庭	131	72.5	65.6	46.6	36.6	29.0	26.0	22.9	29.8

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」は専業主婦(夫)家庭(65.6%)が共働き家庭(54.0%)を 11.6 ポイント上回っている。

【図表 37-5 性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なこと(職業別・上位8位)】

		n 数	(%)							
			運など、更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う	を交えた話し合いをする	避難所の設置・運営について	避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する	避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する	防災や復興の政策・方針を定める過程に女性が参画する	災害時に自治会や町内会、役所などに女性を入れる、増やす	災害時に自治会や町内会、役所などに女性を入れる、増やす
全 体		1,534	65.1	54.1	42.9	37.4	30.3	28.1	27.0	22.9
職 業 別	正規	515	69.1	53.2	41.2	37.3	28.7	32.2	31.3	21.7
	非正規	233	67.8	57.5	45.9	38.6	26.2	31.3	27.9	23.6
	自営業	128	65.6	52.3	41.4	38.3	33.6	28.9	23.4	28.1
	その他	563	65.4	58.1	45.6	39.3	34.1	25.6	24.7	24.5

1位 2位 3位

職業別でみると、大きな差はみられない。

【図表 37-6 性別の違いに気を配った防災・災害対策に必要なこと(経年比較・上位8位)】

		n 数	(%)							
			運など、更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う	を交えた話し合いをする	避難所の設置・運営について	避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する	避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する	防災や復興の政策・方針を定める過程に女性が参画する	災害時に自治会や町内会、役所などに女性を入れる、増やす	災害時に自治会や町内会、役所などに女性を入れる、増やす
比 較 年	R1	1,532	54.2	50.7	29.3	26.9	23.4	19.2	21.1	14.6
	R6	1,534	65.1	54.1	42.9	37.4	30.3	28.1	27.0	22.9

1位 2位 3位

経年比較でみると、「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する」は令和6年調査(42.9%)が令和元年調査(29.3%)を 13.6 ポイント、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」は令和6年調査(65.1%)が令和元年調査(54.2%)を 10.9 ポイント、「防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画する」は令和6年調査(37.4%)が令和元年調査(26.9%)を 10.5 ポイント上回っている。

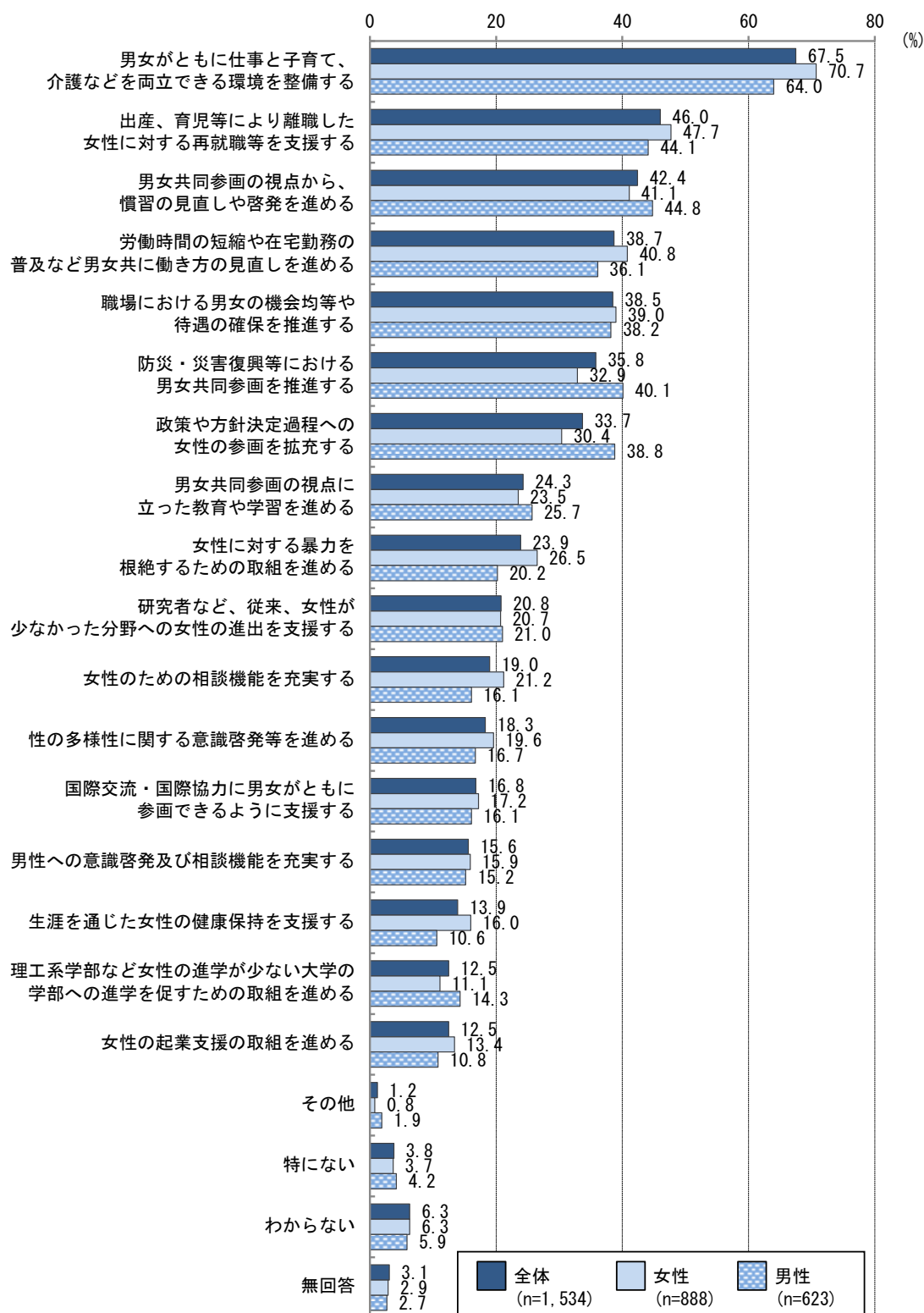
※R1 調査では当てはまるもの3つまでの選択としていた。

9 男女共同参画の推進について

(1) 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと

問38 男女共同参画社会の実現を目指し、今後、県や市町村がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(✓はいくつでも)

【図表 38-1 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと(性別)】



「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」が最も高い

男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきことについて、「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」が 67.5%と最も高く、次いで「出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する」(46.0%)、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める」(42.4%)などの順となっている。

性別にみると、「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」は女性(70.7%)が男性(64.0%)を 6.7 ポイント上回っており、「政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する」は男性(38.8%)が女性(30.4%)を 8.4 ポイント上回っている。

※H16、H21、H26、R1 調査では、「県では男女共同参画社会の実現を目指し、様々な施策を実施しています。今後、県や市町村がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。」と聞いている。

【図表 38-2 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと(国調査)(上位 10 位)】

												(%)
	n 数	育児や介護中であつても仕事が続けられるよう支援する	育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	法律や制度の面で見直しを進める	国や地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	DVや性暴力などの暴力を根絶するための取組を進める	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	
全 体	2,673	62.7	58.6	59.3	57.9	51.0	50.3	38.0	35.5	32.4	26.5	
		1位		2位		3位						

※国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月調査)

【図表 38-3 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと(性年代別・上位 10 位)】

			n 数	環境を整備する	男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる	支援する	出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する	慣習の見直しや啓発を進める	男女共同参画の視点から、見直しを進める	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	職場における男女の機会均等や待遇の確保を推進する	防災・災害復興等における男女共同参画を推進する	政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する	男女共同参画の視点に立つ教育や学習を進める	女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	進出を支援する	研究者など、従来の女性が少ない分野への女性の進出を支援する	(%)
全 体			1,534	67.5	46.0	42.4	38.7	38.5	35.8	33.7	24.3	23.9	20.8					
年代別	女性	20歳未満	18	50.0	50.0	38.9	33.3	33.3	27.8	11.1	16.7	38.9	16.7					
		20歳代	54	72.2	57.4	38.9	59.3	40.7	25.9	24.1	25.9	37.0	18.5					
		30歳代	89	68.5	53.9	43.8	56.2	41.6	24.7	28.1	25.8	24.7	21.3					
		40歳代	132	69.7	46.2	40.9	48.5	39.4	34.8	35.6	23.5	31.8	21.2					
		50歳代	143	70.6	42.7	39.9	39.9	42.7	30.8	26.6	23.8	19.6	26.6					
		60歳代	176	81.3	51.7	49.4	44.3	47.7	35.2	37.5	27.8	31.3	21.0					
		70歳以上	269	66.9	44.6	36.4	27.9	30.9	36.4	29.0	20.1	22.7	18.2					
	男性	20歳未満	15	26.7	20.0	40.0	33.3	20.0	6.7	26.7	13.3	13.3	13.3					
		20歳代	39	61.5	41.0	48.7	33.3	46.2	30.8	30.8	30.8	33.3	28.2					
		30歳代	45	71.1	37.8	42.2	62.2	40.0	35.6	28.9	15.6	15.6	24.4					
		40歳代	95	69.5	48.4	47.4	42.1	34.7	44.2	37.9	24.2	17.9	21.1					
		50歳代	114	62.3	46.5	49.1	38.6	36.8	43.9	42.1	31.6	27.2	18.4					
		60歳代	123	65.9	44.7	50.4	32.5	50.4	40.7	43.1	30.1	17.9	22.0					
		70歳以上	191	63.4	44.5	37.7	28.8	32.5	40.8	39.8	22.5	17.8	20.4					
				1位	2位	3位												

1位 2位 3位

性年代別にみると、男性の20歳未満を除き、男女ともにすべての年代で「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」が最も高くなっており、特に女性の60歳代で8割超と高い。女性はすべての年代で「出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する」が上位となっている。「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」は女性の20歳代及び30歳代で5割台後半、男性の30歳代で6割超と高くなっている。

【図表 38-4 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと(地域別・上位 10 位)】

		n 数	ど男 を女 が 両 立 で き る 仕 事 と 子 育 て 、 介 護 な	対出 する 、 再 就 職 等 に よ り 離 職 し た 女 性 に	直男 し や 共 同 参 画 の 視 点 か ら 、 慣 習 の 見	ど労 働 時 間 の 短 縮 や 在 宅 勤 務 の 普 及 な	の職 場 に お け る 男 女 の 機 会 均 等 や 待 遇	参防 画災 を・ 推災 進害 す復 興 等 に お け る 男 女 共 同	を政 策 や 方 針 決 定 過 程 へ の 女 性 の 参 画	学男 習女 を 共 同 参 画 の 視 点 に 立 っ た 教 育 や	取女 組性 を 進 め る 暴 力 を 根 絶 す る た め の	(%) た研 分究 野者 へな ど、 従 来、 女 性 が 少 な か っ た
全 体		1,534	67.5	46.0	42.4	38.7	38.5	35.8	33.7	24.3	23.9	20.8
地 域 別	備前県民局管内	756	68.5	47.0	44.8	39.7	39.8	36.4	32.8	25.3	25.8	20.2
	備中県民局管内	612	67.5	45.1	40.2	36.9	36.8	34.3	34.3	21.6	21.2	21.7
	美作県民局管内	158	64.6	45.6	40.5	40.5	39.2	39.2	36.1	29.7	24.7	19.6

1位 2位 3位

地域別にみると、「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」はすべての地域で最も高くなっている。次いで、「出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する」、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める」などの順となっている。美作県民局管内では「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」が3位にあがっている。

【図表 38-5 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと(就労状況別・上位 10 位)】

		n 数	ど男 を女 が 両 立 で き る 仕 事 と 子 育 て 、 介 護 な	対出 する 、 再 就 職 等 に よ り 離 職 し た 女 性 に	直男 し や 共 同 参 画 の 視 点 か ら 、 慣 習 の 見	ど労 働 時 間 の 短 縮 や 在 宅 勤 務 の 普 及 な	の職 場 に お け る 男 女 の 機 会 均 等 や 待 遇	参防 画災 を・ 推災 進害 す復 興 等 に お け る 男 女 共 同	を政 策 や 方 針 決 定 過 程 へ の 女 性 の 参 画	学男 習女 を 共 同 参 画 の 視 点 に 立 っ た 教 育 や	取女 組性 を 進 め る 暴 力 を 根 絶 す る た め の	(%) た研 分究 野者 へな ど、 従 来、 女 性 が 少 な か っ た
全 体		1,534	67.5	46.0	42.4	38.7	38.5	35.8	33.7	24.3	23.9	20.8
就 労 状 況 別	共働き家庭	491	71.7	48.7	46.8	48.1	41.5	34.6	37.3	27.1	26.7	21.8
	専業主婦(夫)家庭	131	70.2	54.2	39.7	44.3	42.0	38.9	34.4	23.7	18.3	12.2

1位 2位 3位

就労状況別にみると、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める」は共働き家庭(46.8%)が専業主婦(夫)家庭(39.7%)を 7.1 ポイント上回っており、「出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する」は専業主婦(夫)家庭(54.2%)が共働き家庭(48.7%)を 5.5 ポイント上回っている。

【図表 38-6 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと(職業別・上位 10 位)】

		n 数	るて男 環、女 境、が を護と を整 備す る	等した を女 支援性 に 対 す る	出産、 育児等 により 再就職	をら男 を進、女 慣習共 の参画 の視点 しや啓 か発	き男 方、共 の見直 しを参 進め画	務の普 及など 男女共 に働	労働時 間の短 縮や在 宅勤	均等場 における 男女の 確保を 推進す る	職場に おける 男女の 機会均 等化を 推進す る	防災・ 災害復 興等に 進めら れる	政策や 参画針 を決定 過程に 進める もの	立男 った女 共同参 画の視 点を推 進する もの	す女 性的に 対する 暴力を 根絶す るもの	性が研 究者な ど、従 来への 女性の 進出を 支援す るもの
全 体		1,534	67.5	46.0	42.4	38.7	38.5	35.8	33.7	24.3	23.9	20.8				
職 業 別	正規	515	68.7	44.3	47.8	43.7	41.2	35.7	35.7	25.4	21.7	22.3				
	非正規	233	71.7	50.2	46.4	45.1	42.5	32.6	33.9	27.5	30.9	24.0				
	自営業	128	65.6	48.4	33.6	35.9	35.2	35.9	32.8	25.0	22.7	15.6				
	その他	563	69.1	47.8	41.4	35.0	39.3	38.4	34.6	23.6	24.3	19.4				

1位2位3位

職業別でみると、どの職業も「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」は最も高くなっており、次いで、「出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する」も上位となっている。自営業では「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」、「防災・災害復興等における男女共同参画を推進する」も上位に入っている。

【図表 38-7 男女共同参画社会の実現のために県や市町村が力を入れていくべきこと(経年比較・上位 10 位)】

		n 数	環境を整備する	男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる	支援する	出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を	慣習の見直しや啓発を進める	男女共同参画の視点から、慣習の見直しを進める	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働きやすい環境の確保を推進する	職場における男女の機会均等や待遇の確保を推進する	防災・災害復興等における男女共同参画を推進する	政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する	男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める	女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	研究者など、従来の女性の出なかった分野への女性の進出を支援する	(%)
経年比較	H16	2,064	60.7				39.1		42.3			22.7	23.3	10.6		
	H21	1,490	61.3				33.1		41.9			17.9	22.2	10.8		
	H26	1,386	62.6	38.0			29.0		27.2	12.2		14.5	16.6	9.0		
	R1	1,532	58.8	28.0			25.3	28.0	23.2	13.6		17.4	14.6	7.6		
	R6	1,534	67.5	46.0			42.4	38.7	38.5	35.8		33.7	24.3	23.9	20.8	

経年比較でみると、「防災・災害復興等における男女共同参画を推進する」は令和6年調査(35.8%)が令和元年調査(13.6%)を 22.2 ポイント、「出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する」は令和6年調査(46.0%)が令和元年調査(28.0%)を 18.0 ポイント、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める」は令和6年調査(42.4%)が令和元年調査(25.3%)を 17.1 ポイント上回っている。

※「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」は、H16、H21 調査では「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」となっている。「職場における男女の機会均等や待遇の確保を推進する」は、H16、H21 調査では「就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる」となっている。「女性に対する暴力を根絶するための取組を進める」は、H16、H21、H26 調査では「女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する」となっている。

※H16、H21、H26、R1 調査では当てはまるもの3つまでの選択としていた。

Ⅲ 自由記述意見(主なもの)

1 男女共同参画について

- 都会より田舎の方が男尊女卑の考え方が残っているので、慣習の見直しや啓発を時間をかけて進めてほしい。(男性 70 歳以上)
- どんな活動をしているのか、あまり知らない。(女性 60 歳代)
- 必ずしも男尊女碑(男女平等)の世界(世の中)ではない。時には女尊男碑な面もある。(男性 40 歳代)
- どのような施策があるのか知らない。(男性 50 歳代)
- 男女共同といっても完全に共同化するというのはそれぞれの性別なり個性なりがあり難しいことだと思います。あまりみんな同じように平等にという感覚に囚われすぎるのも良くないと思います。その特性が活かされ、皆が幸せに思える社会になれば良いなと思います。(女性 40 歳代)
- 高齢の人の方が「男だから、女だから」と考えている人が多いと思う。若い人の方が理解していると思うので、高齢の人の考え方をまず変えた方が良いと思う。国会も高齢の男性ばかりだから、変化がないのだと思う。(女性 40 歳代)
- 自治会、町内会等、男性主体。女性はただお手伝いにすぎない。田舎は特に。最近では老人主体で他から来た若者を受け入れがたい感じ。(女性 70 歳以上)
- 能力のある女性を積極的に管理職に登用するのはよいと思いますが、そうでない人を登用してしまうと全体として仕事がうまくいかなかったという場面に出くわしたことがあります。手段と目的が混同しないようにするのはとても難しいことだと思います。男だから、女だから、ということではなく、適正に能力を評価していくべきだと感じています。また、古くからの慣習もまだ根強いと思います。結婚してほとんどの女性が苗字を変えるのは、慣習以外の何物でもないと思います。人々の意識改革が必要だと感じています。(女性 20 歳代)
- 地方へ行く程、女性を軽視する傾向あり。女性が今までの活躍が少ないから軽視されるのか？女性がもっと活躍する場を設けることが必要のように思う。女性管理職を見る目が男女共に羨望→あたり前になりつつある。(女性 70 歳以上)
- 環境を整える事は重要だが、結果として50:50になる必要はない。その環境下で女性が社会的立場をどこに持っていかは女性自身が決めれば良い。男性もまた同じである事こそが男女共同参画社会だと思う。(男性 50 歳代)
- 引き続き頑張ってもらいたいが、男性、女性の性差等(身体的能力の差など)も、理解した上で、平等に出来る余地がある箇所は改善し、男性、女性それぞれの強みを生かせる施策を行ってほしいです。何でもかんでも平等にすればいい問題ではないのかなと思います。(男性 20 歳代)
- 女だから、と守ってもらえていることも沢山あるということも忘れないで欲しい。あまり男女平等ばかり言いすぎると(欲ばりすぎると)、どこかでしっぺがえしがくると思います。男女平等にできる仕事、男性の長所を生かせる仕事、女性らしさを生かせる仕事があることももっと伝えて欲しい。(女性 50 歳代)
- 男女共に、人権や平等についての意識が低いと思います。意識改革の啓発に努めて頂きたい。(男性 20 歳代)
- 女性が年を取ってから頂ける年金の額が男性に比べると少ないのは、生涯の中で仕事をしている機会が少ない(期間が)からで、その中には結婚して出産して子育てをして何年間か家庭にいたことで、収入がなかったり社会保険に入っていなかったりしています。どうにかありませんか？女性の立場が弱いです。(女性 60 歳代)

- 男女共同参画社会とは女性が男性と同じ様に働くことが全てではないと思う。女性には妊娠、出産、子育て、家事という重労働がありこの部分をないがしろにして社会進出ばかりをうたうと家庭が壊れたり身体を壊したりする。家で夫や子どもを支えるのも立派な貢献である。男女共同参画というのなら、働き方自体を大きく変えないと家庭は壊れて子どもも邪魔になっていくだろう。(女性 50 歳代)
- 地域役員、愛育、福祉・栄養委員など役員は女性がメインです。なんとかありませんか。(女性 50 歳代)
- 性別もそうですが、生まれ持った事柄への差別や価値観や考えについての差別も未だに残っています。その辺りの差別の徹底排除も失くせば、もっとより良くなりそうです。(答えたくない 20 歳代)
- 働く女性が増えているのだから、婚活支援をするより、結婚・出産しても社会参加が維持できるような社会になったほうが少子化対策になると思う。共働きなのに子どもが病気になったら、母親が学校園に迎えに行き、仕事を休んで看病を担うことが多いのはなぜなのか。男性議員や管理職には、ぜひ一日中、子守体験や介護体験をさせてほしい。年配の男性は育児や介護は楽だと思っているところがある。大変さが分かれば、職場での育児や介護休暇が利用しやすくなったり、職場環境が向上するかもしれない。(女性 40 歳代)
- 本当に男女平等の基、男女共同参画社会を実現したいなら、男女問わずに常識を変えていくしかないと思います。例を挙げれば差別と区別をはっきりつけること。性には生物学的、社会的なものの 2 つあること、性差別とは主に社会的な観点から生じうることを周知して欲しいです。(男性 30 歳代)
- 男女共同参画社会が実現したとしたら、現在の社会よりどのような面で良くなるのか、どのような面で悪くなるのか、経済は成長するのか後退するのか、出生率は上がるのか下がるのか、その社会にはより成長性があるのか、様々な疑問がありますが、岡山県や岡山の自治体ではこういう姿を目指していますというものを、もっと多くの場面で広報するのがいいのではないかと思います。また、職業や役職で男女比を調整しようとする動きが目立つが、女性だからこそしないほうがいい職業(身体的に悪影響が強い、例えば特定化学物質に暴露するリスクがある職場など)もあると思うので、全ての場面で適応する尺度を決めるのは難しいと思う。とても難しい問題だとは思いますが、少しずつ進めて行くしかないのが現状だと感じます。最後に、令和の世になってまでも、女性の幸せは結婚、男性が仕事中心な考えを改めるべきといった、旧世代的な価値観の質問がくるとは思っていませんでした。質問自体が旧世代的すぎると感じたので、質問を作成する人の価値観のアップデートがいるのではないかと思います。(男性 30 歳代)
- 官民ともに女性の管理職が少ない。例えば、県職員のほとんどは慣例的なこと、事務的な業務遂行に長けているが、新しいことを生み出そうという能力に乏しい。新規事業や新しい取り組みを始めようとすると、まさに「出る杭は打たれる」のように管理職や県組織が押し潰そうとする。岡山県にはそのような保守的な風土(悪い面)がある。まずは県の姿勢から変えてほしい。(男性 40 歳代)
- 進取の気鋭があり、古くからの女性教育の伝統を待つ岡山として、男女問わず中間的な性別の人でも個々人の意思により働いたり、家庭に入ったり出来る環境作りを施策していただきたい。また、現代日本は過度の女性優遇や定数を満たすだけの女性管理職などの方向に傾きかけているので、バランス感覚を大事にして欲しい。(男性 40 歳代)

2 行政について

- 県政の皆様の頑張りはいつも感心させられますが、企業からの考えを変えないといけないと思います。古い考えの年配が上司であり、理解が乏しいと思います。特に女性は仕事ができないと考えており、まずは60才以上の男性の考え方を变化させないと仕事のモチベーションupにはできないと思います。(女性 50 歳代)
- 女性が働きやすい環境を整えることは大切だが、同時に働かずに子育てや介護などをしている人に対して、社会的な価値を認める取り組みが必要であると思う。子どもを育てることは社会の未来を担う人を育てること、社会をつくる最も重要な役割であるという意識が大変薄い。正規職員ではない人が出産や育児休暇などの支援を受けづらく、退職せざるを得ない。(女性 40 歳代)
- 学校現場で、女性が輝ける仕組みを作ってください。管理職も、女性の方が相談しやすいです。(女性 20 歳代)
- 興味の無い人が多いと思うのでテレビ・新聞などで分かりやすく宣伝したら良いと思う。(例、芸能人を使う。)(男性 60 歳代)
- ①岡山県が現在行っている施策を全く知らない。もっと広報活動にも力を入れるべきではないか。②このアンケートについても、現在岡山県が行っている施策の方向性等についてもアンケートで意見を求めるべきでないか。③この様なアンケートをしても、アンケートを行った者へのフィードバックが全くなく、どの様に活用しているのか分からない。①とも重複するが、もっと広報が必要では。(男性 60 歳代)
- 子育てや介護など、いろいろな部署と連携して、働きやすい環境の整備を進めたり、地域活動へ参加したりして、充実した生活が送れるように制度を変えていっていただきたいです。(女性 50 歳代)
- 施策について知りません。そこを知らせて、県民に協力や努力するポイントを教えて下さい。このアンケートをすることで、少し理解は進んだと思いますが、何より大切なのは家庭の中での協力は身近で大切なことです。(女性 60 歳代)
- 私は主婦、農業をしていますが、このアンケートの内容から、現金収入を得ていない人に対しての感じが、あまり良く思われていないなと思ってしまいました。ちゃんと働いて、女性も昇進していかないと共同参画社会に取り残されるのかなと感じました。そういった昇進やら何やらに関係ない人でも取り残されない岡山県になるよう期待します。(女性 40 歳代)
- どのような活動、イベント等があるのかよく分からないので、知ることのできる機会があればいいと思います。(女性 50 歳代)
- 行政機関(県、市町村)と現場(事業所等)が情報交換を通じて、関係性が保たれる必要があると思います。(男性 60 歳代)
- 障害者の支援をして欲しいです。(女性 40 歳代)
- 女性への性加害等への対応も必要だと思うが、女性からの性加害があるため“女性の為”と区切らず、加害者等の区切りにしてほしい。子育て世代の働く時間の短縮等の施策を男女に関わらずやってほしい。給料は変わらずか、他の人たちに給付する等にしてほしい。(女性 20 歳代)
- やってますアピールだけにならないように…女性が失敗したら「だから女性はダメなんだ」ではない。男性でも失敗をしている。人数の少ない女性が不利にならないように。何十年と男社会が続きすぎている、その代償は大きい。なぜダメだったのかを考え、次に活かしてほしい。(女性 40 歳代)
- ジェンダーフリーに反対する事が許されないような施策を見る事がある。賛成反対は個人の考え方なので、行政がジェンダーフリー(レス)について周知する事はおかしい(論点がずれている)と思う。(男性 40 歳代)

○子どもの学校から受け取る配布物で、県の取り組みを知っています。定期的に配布され、情報がまとめられていて読みやすいです。(女性 40 歳代)

3 子育てについて

○＜娘の子育てを見ていて思ったこと＞保育施設(保育園)児童クラブなど子育てに協力的な所をもっと増やしてほしいです。岡山は情けないほど大変でした！！子育てにやさしい県、市にしてほしいです。(女性 60 歳代)

○保育園の空きがなく育休から復帰できない人がいると聞くので、改善してほしい。(女性 20 歳代)

○一人親世帯での女性の負担は大きいと思います。元夫からの養育費等の支援義務とかははっきりしていない。そう言った事への対策も考えていただきたいと思います。(女性 60 歳代)

○現在育児休業を取得していますが、認可保育園の空きがなく仕事復帰ができません。子どもがいるから仕事を諦めないといけないのは少し寂しいです。経済的なこともあるので困っています。女性が育児休業を取得するのが当たり前になっているけど復帰する難しさ、復帰してからの負担の大きさ(仕事と家事の両立)が少しでも改善されれば社会は少しずつ変わっていくのかなと思います。(女性 30 歳代)

○男性の家事育児参加を推進しなければ、どんどん女性負担が大きくなり離婚率も上がることになる。生理の仕組みや妊娠の苦勞などを知らない男性が多すぎる。また、女だからと妻を見下したり家政婦扱いする人が多すぎる。(女性 30 歳代)

4 教育について

○現在の社会では、モラル、マナー、道德等の人としての基本事項の教育が不足していると思う。家庭、地域、学校、職場等あらゆる場面で教育されることを希望します。(男性 70 歳以上)

○とにかく学校教育の時代から、道德教育を圧倒的な時間を使って行い、「悪い事はダメ」「差別はダメ」「人に迷惑をかけない」等を幼い時から「当たり前」として教育し、大人になっても教育する。(男性 60 歳代)

○お互いが気持ちよく認め合って生きていくための性教育に関するイベントが増えれば良いと思う。(女性 20 歳代)

○大人になっていくら男女平等、共同参画の啓発活動に触れても、幼少期にその養育環境や学校教育で学び刷り込まれた意識を変えるためにはかなりの力がある(あるいは頭ではわかっても自分のこととは切り離された理解でしかない)と感じる。保育・教育現場で幼少期から適切な男女共同参画を学ぶことが、次世代に男女共同参画を根付かせるために必須だと感じている。(女性 30 歳代)

IV 集計結果

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。【1つだけ】

	1. 同感する	2. 同感しない	3. わからない	無回答
全体	8.0	76.0	9.5	6.5
女性	6.1	78.7	8.4	6.8
男性	10.9	72.1	10.8	6.3

問2 結婚や離婚、夫婦別姓等について、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。

【(a)～(h)でそれぞれ1つ】

	賛成(賛成+どちらかといえば賛成)						反対(反対+どちらかといえば反対)						どちらとも いえない		無回答	
			賛成		どちらかといえば 賛成				どちらかといえば 反対		反対					
	全体		全体		全体		全体		全体		全体		全体		全体	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
(a) 女性の幸福は結婚にある。 女性は結婚するほうがよい	31.3		7.9		23.4		19.5		8.9		10.6		47.3		2.0	
	26.7	38.4	6.0	10.6	20.7	27.8	22.7	15.4	9.6	8.2	13.1	7.2	48.5	44.6	2.1	1.6
(b) 男性は、家庭をもって 一人前だと言える	32.6		10.3		22.3		28.7		10.8		18.0		36.3		2.3	
	26.2	42.4	6.8	15.1	19.4	27.3	32.1	24.3	10.8	11.1	21.3	13.2	39.0	31.8	2.8	1.6
(c) 結婚は個人の自由である。 人は結婚してもしなくても どちらでもよい	71.3		50.7		20.6		13.4		10.0		3.3		13.2		2.2	
	75.5	65.6	56.2	42.5	19.3	23.1	9.0	19.7	7.5	13.8	1.5	5.9	13.1	12.8	2.5	1.8
(d) 結婚しても必ずしも 子どもをもつ必要はない	53.7		36.8		16.8		23.1		16.0		7.1		21.1		2.1	
	59.3	45.8	41.7	29.9	17.6	15.9	16.3	33.4	11.3	23.3	5.0	10.1	22.1	19.4	2.5	1.4
(e) 夫も妻も家庭責任は ともにもつべきである	95.3		82.0		13.3		0.6		0.2		0.4		2.5		1.6	
	95.1	95.8	85.0	77.8	10.1	18.0	0.6	0.5	0.1	0.2	0.5	0.3	2.3	2.7	2.0	1.0
(f) 結婚しても相手に 満足できないときは離婚 すればよい	50.7		26.5		24.1		19.6		14.6		5.0		28.1		1.6	
	51.2	50.0	27.6	25.0	23.6	25.0	16.3	24.4	13.1	16.5	3.2	7.9	30.5	24.6	2.0	1.0
(g) 一般に今の社会では、 離婚すると、女性の方が 不利である	51.2		27.1		24.1		8.8		5.2		3.6		38.4		1.6	
	57.4	42.6	32.7	18.8	24.7	23.8	6.2	12.8	3.0	8.5	3.2	4.3	34.6	43.5	1.9	1.1
(h) 夫婦が別々の姓を 名乗ることを、 認める方がよい	42.9		25.4		17.5		27.2		12.8		14.4		28.4		1.4	
	45.5	39.3	27.3	22.6	18.2	16.7	23.1	32.9	12.2	14.0	10.9	18.9	30.0	26.5	1.5	1.3

問3 家庭での役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者のいない方についても、次のような日常的なことが、どなたの役割だとお考えになるかお答えください。【(a)～(g)でそれぞれ1つ】

	夫の役割(主として夫の役割+どちらかといえば夫の役割)						両方同じ程度の 役割	妻の役割(主として妻の役割+どちらかといえば妻の役割)						いずれにも 該当しない	無回答			
			主として夫の役割		どちらかといえば 夫の役割					主として妻の役割		どちらかといえば 妻の役割						
	全体		全体		全体			全体		全体		全体						
	女性	男性	女性	男性	女性	男性		女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	
(a)生活費を稼ぐ	54.0		12.5		41.5		37.4		0.3		0.2		0.1		6.6		1.7	
	50.1	59.8	8.4	18.1	41.7	41.7	39.9	33.5	0.3	0.4	0.2	0.2	0.1	0.2	7.5	5.3	2.1	1.0
(b)日々の家計の管理をする	2.0		0.5		1.6		52.5		37.1		6.6		30.5		6.5		2.0	
	1.2	3.2	0.2	0.8	1.0	2.4	51.7	53.9	38.7	34.7	5.7	7.7	33.0	27.0	6.4	6.3	1.9	1.9
(c)日常の家事	0.3		0.1		0.1		56.7		37.3		8.1		29.1		3.9		1.8	
	0.1	0.5	0.1	0.2	0.0	0.3	59.9	52.5	34.5	41.1	7.4	9.5	27.1	31.6	3.3	4.7	2.1	1.3
(d)老親や病身者の 介護や看護	0.5		0.1		0.4		76.7		10.8		2.2		8.5		10.3		1.8	
	0.1	1.1	0.0	0.3	0.1	0.8	77.7	75.4	11.4	9.8	2.7	1.6	8.7	8.2	8.8	12.4	2.0	1.3
(e)子どもの養育 (教育、しつけなど)	0.8		0.1		0.7		84.1		9.9		1.8		8.1		3.3		1.9	
	0.2	1.6	0.0	0.3	0.2	1.3	86.3	81.1	8.9	11.7	1.6	2.2	7.3	9.5	2.4	4.3	2.3	1.3
(f)育児(乳幼児の世話)	0.2		0.0		0.2		52.7		41.8		9.3		32.5		3.5		1.8	
	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	54.8	50.6	40.6	43.0	7.8	11.1	32.8	31.9	2.5	4.8	2.1	1.1
(g)地域活動への参加	17.2		3.1		14.1		67.8		4.4		1.0		3.3		7.1		3.5	
	12.9	23.3	2.3	4.0	10.6	19.3	72.9	61.0	3.6	5.6	0.9	1.3	2.7	4.3	6.5	7.7	4.2	2.4

問4 今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だとお考えですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	51.8	54.3	48.5
2. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	39.9	39.4	41.4
3. 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	26.4	26.6	25.5
4. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること	56.0	57.3	54.1
5. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	60.4	63.5	55.9
6. 家事などを男女で分担するようないしつけや育て方をする事	44.3	48.6	37.9
7. 男性の男女共同参画に対する関心を高めること	28.6	31.1	25.4
8. 男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること	37.7	39.0	36.4
9. 男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	48.5	55.2	38.7
10. 夫が家事などをする事に妻が協力すること	31.9	34.2	28.3
11. 妻が、夫に経済力や出世を求めないこと	22.7	20.4	25.8
12. 女性が経済的に自立すること	24.2	28.2	18.6
13. その他	3.7	2.6	5.3
14. わからない	2.5	1.8	3.5
無回答	2.2	2.4	1.8

問5 あなたは次にあげる分野で男女の地位は平等になっているとお考えですか。

【(a)～(h)でそれぞれ1つ】

	男性の方が優遇されている(男性の方が非常に優遇されている +どちらかといえば男性の方が優遇されている)						平等		女性の方が優遇されている(女性の方が非常に優遇されてい る+どちらかといえば女性の方が優遇されている)						わからない		無回答			
	男性の方が非常に 優遇されている				どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている				女性の方が非常に 優遇されている				どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている							
	全体		全体		全体				全体		全体		全体						全体	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性			女性	男性	女性	男性	女性	男性					女性	男性
(a)家庭生活で	48.4		7.6		40.9		28.1		7.8		0.9		6.8		13.8		2.0			
	57.7	34.9	10.7	3.0	47.0	31.9	22.2	37.2	5.1	11.4	0.6	1.4	4.5	10.0	13.4	14.1	1.7	2.2		
(b)職場で	60.0		14.3		45.6		17.1		5.4		0.6		4.8		15.0		2.5			
	63.3	55.7	18.4	8.7	44.9	47.0	14.6	20.9	3.0	8.5	0.0	1.4	3.0	7.1	16.1	13.0	2.9	1.9		
(c)地域社会で	48.6		9.1		39.5		23.9		4.3		0.1		4.2		20.4		2.7			
	53.2	42.5	11.1	6.4	42.1	36.1	17.6	33.2	3.7	5.0	0.1	0.2	3.6	4.8	22.7	16.7	2.7	2.6		
(d)学校教育の現場で	17.9		3.3		14.7		47.5		5.3		0.3		5.0		26.5		2.7			
	20.3	14.4	3.5	2.7	16.8	11.7	46.2	50.6	4.0	6.8	0.2	0.5	3.8	6.3	26.6	26.0	2.9	2.2		
(e)政治の場で	75.4		36.7		38.7		8.7		1.6		0.4		1.2		12.3		2.0			
	78.7	70.8	42.0	29.1	36.7	41.7	5.7	13.0	0.5	3.2	0.0	1.0	0.5	2.2	13.1	11.2	2.0	1.8		
(f)法律や制度の上で	45.5		13.0		32.5		24.4		6.3		1.4		5.0		21.4		2.4			
	52.2	35.4	17.1	6.7	35.1	28.7	18.2	33.4	3.4	10.8	0.6	2.6	2.8	8.2	23.4	18.5	2.7	1.9		
(g)社会通念・慣習・ しきたりなどで	68.3		18.6		49.7		12.8		2.0		0.5		1.6		14.4		2.5			
	70.3	65.1	23.3	12.0	47.0	53.1	9.6	17.7	1.7	2.5	0.3	0.6	1.4	1.9	15.9	12.4	2.6	2.2		
(h)社会全体でみた場合	63.0		11.1		51.9		12.3		4.2		0.7		3.5		16.4		4.0			
	66.7	57.8	13.9	6.9	52.8	50.9	8.6	18.0	2.4	6.7	0.5	1.1	1.9	5.6	18.6	13.5	3.8	4.0		

問5(h)で、「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を選択した方のみお答えください。

問6 社会全体でみて男性の方が優遇されている原因は何だとお考えですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから	78.4	78.9	78.1
2. 仕事優先・企業中心の考え方が根強いから	64.0	64.2	64.2
3. 男女の平等について、男性の問題意識が薄いから	45.4	49.8	39.4
4. 男女の平等について、女性の問題意識が薄いから	12.7	13.3	11.7
5. 男女の差別を人権の問題として捉える意識が薄いから	35.4	38.5	30.6
6. 女性が能力を発揮できる環境や機会が十分でないから	47.9	49.2	45.8
7. 能力を発揮している女性を適正に評価する仕組みが欠けているから	44.8	48.8	38.6
8. 配偶者控除や健康保険加入免除等の税制・社会保障制度が男女の役割分担を助長しているから	21.9	19.3	26.7
9. 育児や介護などを男女が共に担うための制度やサービスが整備されていないから	46.6	50.0	41.4
10. 女性の意欲や能力が男性に比べて劣っているから	6.9	7.3	6.4
11. その他	3.6	3.2	4.4
12. わからない	0.2	0.0	0.6
無回答	0.6	0.3	0.6

全ての方にお尋ねします。

問7 次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増える方がよいとあなたが思うものをすべてお答えください。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 都道府県知事・市町村長	58.3	58.4	58.3
2. 国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員	63.7	62.8	65.5
3. 国家公務員・地方公務員の管理職	44.1	43.8	44.8
4. 裁判官・検察官・弁護士	40.9	42.8	38.4
5. 大学教授・学長等	28.2	29.2	26.6
6. 小中学校・高校の校長・副校長・教頭	40.4	41.1	38.8
7. 国連などの国際機関の幹部職	29.6	30.2	28.7
8. 企業の技術者・研究者	33.8	32.1	36.3
9. 企業の管理職	45.5	44.3	47.2
10. 上場企業の役員	30.6	30.6	30.5
11. 起業家・経営者	39.0	39.4	37.9
12. 労働組合の幹部	28.0	28.3	27.6
13. 農協・漁協・森林組合の役員	22.6	21.4	24.1
14. 新聞・放送の記者	22.2	23.5	20.1
15. 自治会長・町内会長等	31.4	27.8	36.4
16. 医師・歯科医師	35.0	36.6	32.6
17. その他	2.3	1.7	3.4
18. 女性は政策・方針の決定にかかわる役職につくべきではない	0.3	0.0	0.8
19. わからない	11.5	11.3	11.6
無回答	1.6	1.5	1.8

問8 あなたは、問7にあげたような政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由は何だとお考えですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 家族、職場、地域における性別役割分担があるから	39.2	41.4	36.3
2. 男性優位の組織運営になっているから	62.6	65.2	58.7
3. 家族の支援・協力が得られないから	36.1	40.3	30.3
4. 女性の能力発揮の機会が不十分だから	32.7	33.1	32.3
5. 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから	20.3	22.1	18.1
6. 女性自身がリーダーになることを希望しないから	25.9	24.3	28.3
7. 上司・同僚・部下となる男性や顧客などが女性リーダーを希望しないから	28.4	33.6	21.2
8. 女性の職員や構成員の人数自体が少ないから	27.7	25.9	30.7
9. 保育、介護の支援など公的サービスが十分でないから	36.8	40.4	31.8
10. その他	3.8	2.7	5.1
11. わからない	7.2	7.9	6.3
無回答	2.0	1.7	2.2

問9 あなたは、仮に次の役職への就任や公職への立候補を依頼されたらどうしますか(どうしましたか)。【(a)～(c)でそれぞれ1つ】

	引き受ける (引き受けた)		断る(断った)		わからない		無回答	
	全体		全体		全体		全体	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
(a)職場の管理職や役員	31.4		46.9		19.7		2.0	
	23.5	43.2	52.9	38.4	21.5	16.7	2.0	1.8
(b)自治会長、町内会長	17.6		59.3		21.3		1.9	
	11.6	26.8	63.2	53.6	23.0	18.3	2.3	1.3
(c)知事・市町村長や県・市町村議会の議員	9.2		64.5		23.9		2.4	
	6.6	13.2	65.9	62.9	24.8	22.0	2.7	1.9

問9で「2. 断る(断った)」を選択した方のみお答えください。

問10 その理由は、何ですか。

(a)職場の管理職や役員への就任を断る(断った)理由 【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 責任が重くなるから	54.6	54.0	56.1
2. 業務量が増え長時間労働になるから	39.9	39.1	41.8
3. 現在の業務内容で働き続けたいから	17.8	17.2	19.7
4. 部下を管理・指導できる自信がないから	39.4	40.0	38.5
5. 賃金は上がるが職責に見合った金額ではないから	17.4	13.6	25.1
6. 仕事と育児の両立が困難になるから	27.2	34.3	14.6
7. 仕事と介護の両立が困難になるから	23.6	28.7	13.8
8. 周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	20.3	20.2	20.9
9. その他	9.4	7.9	12.1
無回答	0.7	0.9	0.4

(b)自治会長、町内会長への就任を断る(断った)理由【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから	31.7	26.0	40.7
2. 家事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから	21.0	25.5	14.4
3. 地域での人づきあいがわずらわしいから	29.7	28.3	32.3
4. 育児や介護が忙しいから	15.6	21.2	6.6
5. 責任ある役は引き受けたくないから	28.3	28.2	29.6
6. 責任を果たせるだけの自信がないから	48.0	51.3	42.5
7. なんとなく大変そうだから	28.6	29.2	27.5
8. 自分や家族の負担が増えるから	37.1	39.0	34.4
9. 周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	17.7	18.0	17.7
10. 慣習により、就任する人が決まっているから	4.7	5.0	3.9
11. 報酬がない、または少ないから	11.7	9.1	16.2
12. その他	6.5	6.1	6.9
無回答	1.0	1.1	0.9

(c)知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る(断った)理由【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 仕事が忙しいから	23.4	19.5	29.8
2. 家事が忙しいから	15.7	19.7	9.9
3. 地域での人づきあいがわずらわしいから	20.2	18.1	23.2
4. 育児や介護が忙しいから	13.8	19.0	6.4
5. 責任ある役は引き受けたくないから	32.5	34.2	30.6
6. 責任を果たせるだけの自信がないから	56.7	60.3	51.5
7. なんとなく大変そうだから	28.2	28.7	27.0
8. 自分や家族の負担が増えるから	33.5	35.6	30.9
9. 周囲の目もあり、目立つのが嫌だから	18.9	20.5	16.8
10. 報酬が少ないから	4.5	3.2	6.4
11. その他	8.2	7.4	8.9
無回答	1.9	2.6	1.0

全ての方にお尋ねします。

問 11 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。【1つだけ】

	全体		
		女性	男性
1. 女性は職業をもたない方がよい	0.5	0.3	0.8
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい	2.0	1.7	2.4
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	6.3	5.7	7.1
4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	51.8	52.8	50.9
5. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	22.0	23.2	20.4
6. その他	5.1	5.5	4.5
7. わからない	7.4	6.3	8.7
無回答	4.8	4.4	5.3

問 11 で1～3を選択した方のみお答えください。

問 12-1 それは、なぜですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 女性は家庭を守るべきだと思うから	17.6	15.9	18.8
2. 子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから	49.3	52.2	45.3
3. 女性も経済力を持った方がいいと思うから	25.7	29.0	23.4
4. 夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	19.9	15.9	25.0
5. 仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	30.9	31.9	29.7
6. 働き続けるのは大変そうだと思うから	30.9	34.8	26.6
7. その他	2.2	1.4	3.1
8. 特にない	0.0	0.0	0.0
9. わからない	1.5	0.0	1.6
無回答	0.7	1.4	0.0

問 11 で4または5を選択した方のみお答えください。

問 12-2 それは、なぜですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 女性は家庭を守るべきだと思うから	4.3	4.0	4.5
2. 働くことを通じて自己実現が図れると思うから	38.4	41.0	34.7
3. 子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから	18.6	18.8	18.7
4. 女性も経済力を持った方がいいと思うから	59.6	64.3	52.9
5. 夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	49.2	49.0	50.2
6. 女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから	54.6	52.1	58.1
7. 少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がいいと思うから	18.5	15.9	22.3
8. 仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	16.0	16.1	16.0
9. その他	4.9	5.6	3.8
10. 特にない	0.3	0.3	0.2
11. わからない	0.1	0.1	0.0
無回答	2.7	2.8	2.5

全ての方にお尋ねします。

問 13 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。【1つだけ】

	全体		
		女性	男性
1. 大変働きやすい状況にあると思う	1.4	1.1	1.9
2. ある程度働きやすい状況にあると思う	38.8	35.5	44.1
3. あまり働きやすい状況にあるとは思わない	27.0	30.2	22.8
4. 働きやすい状況にあるとは思わない	8.9	10.0	7.1
5. 一概には言えない	14.9	14.4	15.2
6. わからない	6.6	6.9	6.1
無回答	2.3	1.9	2.7

問 13 で、3または4を選択した方のみお答えください。

問 14 その理由は何ですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 働く場が限られているから	34.0	31.1	38.2
2. 能力発揮の場が少ないから	20.2	14.8	30.1
3. 労働条件が整っていないから	49.5	49.6	48.9
4. 保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから	57.3	58.8	54.3
5. 介護施設が不足しているから	25.5	26.6	23.1
6. 家事・育児支援サービスが充実していないから	42.5	40.6	46.2
7. 職場における昇進・給与・待遇面等に男女の差別的取扱いがあるから	36.7	35.3	40.3
8. 結婚・出産退職の慣行があるから	20.4	17.6	25.3
9. 職場のハラスメント(セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、 妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントなど)があるから	29.1	30.8	26.3
10. 男は仕事、女は家庭という社会通念があるから	35.5	35.0	36.6
11. 男性の長時間労働や転勤等を当然とする雇用慣行があるから	28.2	26.1	32.8
12. 家族の理解、協力が得にくいから	19.8	22.4	15.1
13. その他	4.5	4.2	5.4
無回答	0.4	0.3	0.5

全ての方にお尋ねします。

問 15 あなたは、仕事をやめたり、中断したり、あるいは転職したことがありますか。あるとすれば、その理由は何ですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 結婚のため	20.9	33.8	2.9
2. 出産・育児(出産休暇・育児休暇を除く)のため	20.7	34.6	1.4
3. 不妊症(妊娠しない)や不育症(流産、死産を繰り返す)の治療のため	1.5	2.6	0.0
4. 親や病気の家族の介護・看病をするため	8.7	11.0	5.3
5. 配偶者の転勤のため	5.0	8.4	0.3
6. 家族の理解・協力が得にくいから	3.4	5.5	0.5
7. 自分の健康や体力的な問題のため	14.9	16.0	13.5
8. 職場に育児・介護休業などの制度がないため	3.0	4.7	0.6
9. 長期間勤務しにくい職場の雰囲気のため	7.4	6.8	8.0
10. 労働条件に対して不満があったから	13.7	10.6	18.1
11. 仕事の内容があわなかったから	12.7	9.9	16.7
12. 勤め先の都合のため	7.6	7.5	7.5
13. 男女が対等に働ける職場でなかったため	1.7	2.5	0.6
14. 職場のハラスメント(セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントなど)があったから	8.1	9.2	6.4
15. 大学に行ったり、資格を取ったりするため	1.4	1.8	0.8
16. 家業につくため	3.3	2.9	3.7
17. 高齢になったから	11.0	10.4	11.9
18. よりよい条件の仕事があったから	7.5	5.7	10.1
19. その他	3.2	3.3	3.0
20. 特に理由はない	1.7	1.0	2.7
21. 今までに仕事をやめたり、中断したり、転職したことはない	21.7	14.8	31.8
無回答	4.8	3.6	6.3

問 16 あなたは管理職の経験がありますか。【1つだけ】

		1. 現在、管理職 をしている	2. 管理職の経験 がある	3. 管理職の経験 はない	無回答
全体		9.5	15.7	67.5	7.3
	女性	3.8	8.9	79.2	8.1
	男性	17.8	25.8	50.4	5.9

問 16 で1または2を選択した方のみお答えください。

問 17-1 あなたご自身が、管理職になってよかったと感じる(感じた)ことをお答えください。

【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. マネジメントに充実感がある	22.7	24.8	22.1
2. 責任・権限のある仕事ができる・裁量をもてる	45.2	43.4	46.3
3. 敬意を払われる	7.2	5.3	8.1
4. 収入が増える	36.2	32.7	37.9
5. 経営方針など重要な決定に関われる	21.4	19.5	22.4
6. 人脈が広がる	29.2	25.7	30.9
7. 新しい仕事に挑戦しやすい	12.9	14.2	12.5
8. 自分自身の知見やスキルが広がる	41.6	46.9	39.7
9. 仕事のモチベーションが上がる	30.0	40.7	25.7
10. その他	0.8	1.8	0.4
11. 特にない	12.7	7.1	14.3
無回答	5.4	8.0	4.4

問 16 で1または2を選択した方のみお答えください。

問 17-2 あなたご自身が、管理職になってよくなかったと感じる(感じた)ことをお答えください。

【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 仕事量が増えた	40.6	43.4	39.3
2. 責任の大きい仕事が増えた	42.9	50.4	40.1
3. 仕事量の増加に見合うほど収入が増えなかった	31.3	29.2	32.4
4. 残業や長時間勤務が増えた	38.0	33.6	39.7
5. 休暇が取りにくい	39.3	38.1	39.7
6. 短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度を活用しにくい	6.5	6.2	6.6
7. 上司と部下との板挟みになるようになった	29.5	31.9	28.3
8. 管理職に対するメンタルケアなどのサポートがない	17.3	22.1	15.4
9. 家庭やプライベートより仕事を優先せざるを得なくなった	36.4	38.9	35.7
10. 部下の指導・育成が苦手だと思うようになった	19.9	26.5	17.3
11. 自分は管理職に向いていないと思うようになった	19.1	20.4	18.8
12. 仕事と家庭の両立が困難になった	10.6	13.3	9.6
13. その他	1.8	3.5	1.1
14. 特にない	8.3	4.4	9.9
無回答	8.0	7.1	8.1

全ての方にお尋ねします。

問 18 現在、社会全般では女性活躍推進の取組がされていますが、どのような制度や支援があれば、女性の管理職が増えると思いますか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があること	50.4	56.0	43.2
2. 労働時間の長さではなく、仕事の成果をきちんと評価すること	52.9	54.2	51.0
3. 経営層が女性活躍推進に積極的であること	33.6	33.7	34.0
4. 性別に関係なく配属を行うこと	43.2	40.7	47.0
5. ライフイベントを迎える前の女性に多くの職務経験を積ませること	8.1	8.6	7.7
6. 子育てや介護など、個別の事情に配慮した配属をすること	50.8	55.1	45.3
7. 新人から管理職まで、キャリアの段階に応じた研修をすること	23.1	24.0	22.0
8. 意欲や能力の高い女性を、早い段階で幹部候補として選抜すること	24.9	21.5	30.0
9. 管理職に対して、部下の育成に関する研修を行うこと	17.0	17.9	16.4
10. 活躍している女性のロールモデル提示を行うこと	9.3	9.3	9.3
11. 女性をつなぐ社内外のネットワークを充実させること	13.4	14.4	12.0
12. 管理職に対するメンタルケアなどのサポートがあること	27.6	31.9	21.5
13. その他	1.8	1.4	2.6
14. 特になし	6.2	5.5	6.9
無回答	2.9	3.0	2.4

問 19 あなたの現在のお仕事は、この中のどれに当たりますか。また、配偶者(パートナー)のいらっしゃる方は、配偶者(パートナー)についてもお答えください。【(a)～(b)でそれぞれ1つ】

(a)あなたご自身のお仕事

	全体		
		女性	男性
1. 役員を含む、正規の職員・従業員	33.6	24.2	47.0
2. 期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員	15.2	19.4	8.8
3. 自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業	5.3	2.8	9.0
4. 家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝っている者	3.0	4.3	1.1
5. 主婦・主夫	12.1	20.0	1.1
6. 学生	3.0	2.9	3.2
7. 無職	19.8	17.3	23.4
8. その他	1.9	1.9	1.8
無回答	6.2	7.1	4.5

(b)配偶者(パートナー)のお仕事

	全体		
		女性	男性
1. 役員を含む、正規の職員・従業員	36.5	44.4	25.5
2. 期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員	13.9	10.0	19.4
3. 自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業	5.4	7.9	2.2
4. 家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝っている者	1.7	1.0	2.6
5. 主婦・主夫	7.5	5.0	11.1
6. 学生	0.1	0.2	0.0
7. 無職	18.4	14.7	23.6
8. その他	0.8	1.1	0.4
無回答	15.6	15.8	15.1

問 19 で2、5、6または7を選択した方(正規の職員・従業員以外の形で雇用されている方、または仕事をしていない方)のみお答えください。

問 20 どのような条件があれば「正規の職員・従業員」として働きたいと思いますか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 希望する職種に正規の職があれば	17.6	17.5	17.5
2. 育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度があれば	10.3	12.8	3.9
3. 短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば	22.4	25.8	14.5
4. 配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば	14.1	18.3	4.8
5. 仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	17.7	22.3	7.0
6. 長時間労働や残業がない仕事であれば	21.5	23.8	16.7
7. キャリア形成が期待できる仕事であれば	4.7	4.3	5.3
8. 職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	7.8	8.7	6.1
9. 責任が大きい仕事であれば	12.5	14.0	9.6
10. 満足のいく所得が得られるのであれば	18.3	19.1	15.4
11. 今の働き方が変わらないのであれば	4.3	4.5	3.9
12. 就職情報や職業紹介などの相談機関や窓口が充実していれば	3.1	3.2	3.1
13. 求職中に技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会が充実していれば	3.7	3.8	3.5
14. その他	11.1	10.2	13.2
15. わからない・考えたことがない	14.9	13.2	19.3
16. 「正規の職員・従業員」で働きたいとは思わない	10.8	8.7	15.4
無回答	13.8	13.4	14.5

現在、仕事をしている方のみお答えください。

問 21 日頃の生活における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望と現実・現状に最も近いものをお答えください。【(a)～(b)でそれぞれ1つ】

(a)希望

	全体		
		女性	男性
1.「仕事」を優先	3.1	1.6	4.4
2.「家庭生活」を優先	19.5	22.2	16.5
3.「地域・個人の生活」を優先	4.2	3.6	5.1
4.「仕事」と「家庭生活」をともに優先	26.9	25.3	29.0
5.「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	3.7	4.0	3.4
6.「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	7.1	5.8	8.5
7.「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	22.5	24.2	20.4
8.わからない	3.2	2.2	4.1
無回答	9.8	11.1	8.5

(b)現実・現状

	全体		
		女性	男性
1.「仕事」を優先	31.5	27.3	36.5
2.「家庭生活」を優先	12.2	18.4	5.6
3.「地域・個人の生活」を優先	1.1	0.7	1.5
4.「仕事」と「家庭生活」をともに優先	24.2	25.3	23.1
5.「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	5.0	3.8	6.1
6.「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	2.9	3.3	2.4
7.「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	11.0	9.6	12.9
8.わからない	3.5	2.7	4.4
無回答	8.6	8.9	7.5

全ての方にお尋ねします。

問 22 男女が共にワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現するためには、どのようなことが必要であるとお考えですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1.労働時間の短縮や休日の増加を促進する	47.8	48.0	48.3
2.保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する	49.5	53.6	44.0
3.育児や介護のための休暇制度を充実する	46.8	50.0	42.5
4.育児や介護休暇中の諸手当を充実する	35.6	36.7	34.2
5.結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する	44.9	49.7	39.0
6.賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす	40.9	40.2	42.2
7.昇進・昇格の機会を、男女差をなくす	35.7	34.0	38.2
8.研修や職業訓練の機会を拡充する	15.3	15.8	14.6
9.仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける	18.3	19.6	16.1
10.短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなどを導入する	39.0	42.0	35.6
11.管理職の意識改革	26.4	24.7	29.4
12.男性の長時間労働や転勤等を当然とする雇用慣行を是正する	29.0	27.3	32.3
13.その他	1.9	1.5	2.6
14.わからない	7.2	5.4	9.5
無回答	3.6	3.8	2.7

問 23 「育児休業」を取得することや取得した後について、あなたはどのようにお考えですか。

【(a)～(l)でそれぞれ1つ】

	そう思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)						そう思わない(そう思わない+どちらかといえばそう思わない)						無回答			
					そう思う		どちらかといえばそう思う								そう思わない	
	全体		全体		全体		全体		全体		全体		全体			
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性		
(a)収入が減り不安状態になる	73.2		32.9		40.3		14.8		6.8		8.0		11.9			
	75.3	70.7	33.9	31.5	41.4	39.2	12.7	18.3	6.2	7.9	6.5	10.4	11.9	11.1		
(b)昇進・昇給にマイナスの影響がある	60.1		22.4		37.7		25.9		11.1		14.8		14.0			
	61.6	58.2	22.6	22.2	39.0	36.0	24.0	29.4	10.5	12.2	13.5	17.2	14.4	12.5		
(c)会社の制度等に問題があり取りにくい	57.2		22.1		35.1		27.5		13.2		14.3		15.3			
	56.6	58.4	20.2	24.7	36.4	33.7	28.0	27.3	14.5	11.6	13.5	15.7	15.4	14.3		
(d)仕事の仲間、周囲に迷惑をかける	75.3		37.7		37.6		12.2		5.4		6.8		12.5			
	75.4	75.7	38.1	36.9	37.3	38.8	12.5	12.2	5.2	5.9	7.3	6.3	12.2	12.0		
(e)復帰後に自分の仕事・ポジションがない	51.9		17.2		34.7		33.7		15.0		18.7		14.3			
	55.6	46.9	18.0	15.9	37.6	31.0	30.2	39.3	13.9	17.0	16.3	22.3	14.2	13.8		
(f)復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る	61.9		23.3		38.6		24.2		9.6		14.6		14.0			
	67.5	54.6	25.7	19.9	41.8	34.7	19.1	31.8	7.8	12.4	11.3	19.4	13.5	13.6		
(g)職場・上司の理解を得られない	47.0		13.8		33.2		38.3		15.6		22.7		14.7			
	47.8	46.5	13.1	14.9	34.7	31.6	37.5	39.7	15.5	15.9	22.0	23.8	14.8	13.8		
(h)職場に復帰しにくい雰囲気がある	45.1		14.5		30.6		40.5		17.1		23.4		14.3			
	46.9	43.2	14.5	14.8	32.4	28.4	38.5	43.8	17.3	17.0	21.2	26.8	14.5	13.0		
(i)家にいる時間が増え安心感が高まる	61.1		26.5		34.6		24.8		8.1		16.7		14.1			
	63.9	57.1	28.8	22.6	35.1	34.5	21.9	29.5	7.1	9.8	14.8	19.7	14.2	13.3		
(j)自分の時間が取れるようになる	57.6		25.0		32.6		28.5		11.0		17.5		13.8			
	57.8	57.5	26.9	22.0	30.9	35.5	28.4	29.4	12.0	9.8	16.4	19.6	13.7	13.2		
(k)仕事から離れることで価値観が広がる	53.0		17.5		35.5		32.7		11.9		20.8		14.4			
	54.5	50.7	18.1	16.4	36.4	34.3	30.6	36.3	11.0	13.3	19.6	23.0	14.9	13.0		
(l)子どもとの良い関係を築くことができる	82.5		47.8		34.7		4.4		1.8		2.6		13.1			
	83.3	82.3	51.5	43.0	31.8	39.3	3.9	5.2	1.8	1.8	2.1	3.4	12.8	12.5		

働いている方、もしくは働いたことがある方のみお答えください。

問 24 過去～現在を含めて、働く上で身体や心の不調、健康問題に関して、どんな困りごとがありましたか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 不調や体調不良について相談できる人がいない・相談しづらい	18.7	18.6	18.1
2. 自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない	36.6	33.7	40.9
3. 役職者ほど、労働時間や健康状態に気を配れなくなる	16.3	11.8	23.0
4. 従業員の体調管理(メンタルを含む)・気配りがされていない	19.0	17.8	20.9
5. 有給休暇が取りにくい雰囲気がある	30.7	31.4	29.7
6. 長時間働く人が評価される風潮がある	21.9	19.9	24.9
7. 働きながら治療のために通院しづらい・時間がとれない	25.6	26.1	24.2
8. 月経(生理)の不調など女性ならではの悩みが言い出しにくい	12.5	21.2	0.0
9. 生理休暇を利用しにくい	13.4	22.9	0.0
10. ストレスなどメンタルに関わる悩みが言い出しにくい	27.9	30.1	24.9
11. その他	1.4	1.4	1.4
12. 特に困りごとはない・なかった	16.3	16.6	16.4
無回答	8.9	9.1	8.2

全ての方にお尋ねします。

問 25 どんなことがあれば、働く上での身体や心の不調、健康問題や、それに関する困りごとについて、改善に向かうと思われますか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 仕事の量・仕事時間の改善	43.7	43.2	45.4
2. 仕事の責任・プレッシャーの緩和	33.6	31.2	37.2
3. 人手不足解消・従業員の離職防止	44.7	44.9	44.6
4. 公正な人事評価	31.4	30.0	33.5
5. 待遇・給与の改善	40.2	40.8	39.8
6. 経営陣・トップの考え方の改善・理解	30.1	29.5	31.8
7. 管理職のマネジメント力向上	16.6	15.1	19.3
8. 上司・同僚・部下との人間関係全般の改善	32.1	33.2	31.0
9. 職場内コミュニケーション全般の改善	30.8	30.7	31.1
10. 女性の健康問題への理解	22.6	28.8	13.5
11. 男性の健康問題への理解	12.1	10.7	14.0
12. 勤務先の身体的な健康問題への理解	19.7	20.9	18.3
13. 勤務先のメンタルヘルス不調への理解	17.2	18.9	15.1
14. ダイバーシティ(多様性)への配慮	9.0	8.2	10.0
15. ハラスメント全般の防止	24.4	24.4	24.9
16. 肉体的な疲労度の軽減	20.1	18.4	23.1
17. 職場・働く場所の環境・快適さ向上	35.8	35.0	37.1
18. 病気の治療との両立支援	26.7	28.7	23.8
19. 育児・介護との両立支援	32.3	40.0	21.5
20. その他	1.4	0.8	2.2
21. わからない	4.6	4.5	4.3
無回答	3.9	3.6	3.7

問 26 ここ1年ほどの間で参加した地域活動にはどのようなものがありますか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動	25.0	25.7	24.7
2. 育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動	11.8	14.1	8.7
3. 町内会、自治会、婦人会などの行事や活動	40.4	35.9	47.4
4. 地域の防災・防犯・交通安全に関する活動	9.6	6.3	14.4
5. 健康教室、食生活改善など健康推進に関する活動	6.6	8.8	3.9
6. 高齢者・障害者支援など社会福祉に関する活動	5.7	6.1	5.3
7. 自然保護、清掃活動、省資源など地球環境を守るための活動	14.3	13.4	15.9
8. 身近にいる外国人たちとの交流や国際理解活動	1.8	1.9	1.8
9. その他	0.7	0.9	0.2
10. どれにも参加しなかった	33.4	34.9	31.3
無回答	3.9	4.1	3.0

問 26 で、「10. どれにも参加しなかった」を選択した方のみお答えください。

問 27 どれにも参加しなかったのはなぜですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 家事や子育てが忙しいから	8.0	9.7	5.6
2. 介護の必要な高齢者や病人等がいるから	8.4	10.0	4.6
3. 仕事が忙しいから	27.9	26.1	31.3
4. 活動に経費がかかるから	4.1	4.5	3.6
5. 家族に理解がないから	1.4	1.6	1.0
6. 自分にあった適当な活動がないから	31.8	30.0	35.4
7. どのように参加するか分からないから	17.0	16.1	18.5
8. 参加することに意義を感じないから	16.6	12.6	22.1
9. 人間関係がわずらわしいから	25.9	24.5	29.2
10. その他	15.0	14.8	14.9
無回答	0.8	1.3	0.0

全ての方にお尋ねします。

問 28 男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校等で行うとよいと思うものはどれですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 男女平等に関する教職員研修を行う	39.1	37.8	40.8
2. 校長や副校長、教頭に女性を増やしていく	28.7	30.0	27.3
3. 学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	42.8	43.1	42.4
4. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	51.0	52.0	49.6
5. 男女平等の意識を育てる授業をさらに充実する	44.9	48.5	40.4
6. 健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める	31.0	33.4	28.3
7. 出席簿、座席、ロッカーの順番など、男女を分ける習慣をなくす	17.1	16.9	17.7
8. 保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める	24.6	24.1	26.0
9. その他	1.8	1.5	2.2
10. 学校教育の中で行う必要はない	2.0	1.5	2.9
11. わからない	9.0	8.8	9.5
無回答	3.5	3.4	2.9

これまでに結婚(事実婚を含む)したことのある方のみお答えください。

問 29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や生活の本拠をともにする交際相手(同棲相手)、別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。【(a)～(e)でそれぞれ1つ】

	まったくない		1、2度あった		何度もあった		無回答	
	全体		全体		全体		全体	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
(a) 身体的暴力を受けた	80.6		11.2		3.6		4.6	
	77.9	84.9	12.8	8.9	4.4	2.4	4.8	3.8
(b) 精神的暴力を受けた	67.6		14.7		12.1		5.6	
	63.2	74.8	15.7	13.1	15.7	6.7	5.5	5.4
(c) 社会的暴力を受けた	88.3		3.9		2.0		5.8	
	87.3	90.1	4.3	3.4	2.3	1.4	6.0	5.0
(d) 経済的暴力を受けた	85.5		5.0		3.8		5.6	
	82.4	90.7	6.5	2.8	5.5	1.2	5.6	5.2
(e) 性的暴力を受けた	87.7		4.5		1.7		6.1	
	84.7	92.7	6.5	1.2	2.6	0.4	6.1	5.6

これまでに交際相手がいた方のみお答えください。

問 30 あなたは、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。【(a)～(e)でそれぞれいくつでも】

	まったくない		10歳代にあった		20歳代にあった		30歳代以上にあった		無回答	
	全体		全体		全体		全体		全体	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
(a) 身体的暴力を受けた	60.8		1.6		2.5		1.9		33.7	
	58.8	64.5	2.1	1.0	3.4	1.4	2.4	1.3	33.9	32.3
(b) 精神的暴力を受けた	56.5		1.8		4.2		4.8		34.1	
	54.4	60.5	1.8	1.9	5.2	3.0	5.9	3.4	34.3	32.6
(c) 社会的暴力を受けた	60.3		1.8		2.5		1.6		34.4	
	59.1	63.1	2.1	1.3	2.8	2.2	1.8	1.3	34.7	32.7
(d) 経済的暴力を受けた	62.2		0.5		1.8		1.5		34.3	
	61.0	65.0	0.6	0.5	2.3	1.1	1.7	1.3	34.6	32.6
(e) 性的暴力を受けた	61.7		0.7		2.2		1.4		34.4	
	59.3	66.1	1.1	0.2	3.3	0.6	2.1	0.5	34.7	32.7

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問 31 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。【1つだけ】

	全体		
		女性	男性
1. 感じた	12.6	16.0	5.0
2. 感じなかった	68.9	65.7	76.6
無回答	18.5	18.2	18.4

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問 32 あなたがその相手からの行為を受けていたときに、あなたのお子さんはそれを目撃していましたか。【1つだけ】

	全体		
		女性	男性
1. 目撃していた	16.8	16.7	17.7
2. 目撃していない	29.1	29.6	27.7
3. 目撃していたか、いないかはわからない	13.2	11.4	17.7
4. 子どもはいない	17.9	19.1	14.9
無回答	23.0	23.1	22.0

問 29 または問 30 で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問 33 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 誰(どこ)にも相談しなかった	41.5	37.0	51.8
2. 家族・親せきに相談した	20.2	25.0	9.2
3. 友人・知人に相談した	22.1	27.2	11.3
4. 学校に相談した	0.4	0.3	0.7
5. 警察に連絡・相談した	1.5	2.2	0.0
6. 裁判所に相談した	0.4	0.3	0.7
7. 法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した	0.2	0.3	0.0
8. 女性相談支援センター、女性相談支援員に相談した	0.9	1.2	0.0
9. 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターに相談した	0.0	0.0	0.0
10. 岡山県男女共同参画推進センターに相談した	0.2	0.3	0.0
11. 不妊・不育ところの相談室に相談した	0.0	0.0	0.0
12. 市町村の女性のための総合的な施設に相談した	0.6	0.9	0.0
13. 市役所・町村役場に相談した	0.2	0.0	0.7
14. その他の公的機関に相談した	0.6	0.9	0.0
15. 弁護士に相談した	1.3	1.9	0.0
16. 医師・カウンセラーに相談した	2.1	2.8	0.7
17. 民間の相談機関(民間シェルターなど)に相談した	0.2	0.0	0.7
18. その他	0.4	0.3	0.7
無回答	21.5	19.4	25.5

問 33 で、1を選択した方のみお答えください。

問 34 誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 誰(どこ)に相談したらよいか分からなかった	7.7	9.2	4.1
2. 相談しても無駄だと思った	26.2	25.8	26.0
3. 恥ずかしくて(世間体が悪くて)相談できなかった	18.5	21.7	13.7
4. 他人を巻き込みたくなかった	12.8	11.7	15.1
5. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをと思った	1.5	1.7	1.4
6. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った	28.2	33.3	19.2
7. そのことについて思い出したくなかった	6.7	6.7	5.5
8. 相談したことがわかったと、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	5.6	7.5	2.7
9. 誰にも言わないよう、相手に脅された	0.5	0.0	1.4
10. 自分にも悪いところがあると思った	27.2	22.5	35.6
11. 相手の行為は自分に対する愛情表現だと思った	3.6	1.7	6.8
12. 相談するほどのことではないと思った	46.2	45.8	47.9
13. その他	4.1	4.2	4.1
無回答	1.0	0.8	1.4

全ての方にお尋ねします。

問 35 男女間における暴力(配偶者や交際相手からの暴力、性犯罪、セクシュアルハラスメントなど)への
取組として必要なことはどんなことだと思いますか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う	53.3	55.4	51.0
2. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	51.1	53.8	48.3
3. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	46.9	47.7	46.2
4. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	12.9	13.4	12.5
5. 職場で、暴力を防止するための研修会などを行う	18.8	19.3	18.6
6. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	28.0	30.4	24.7
7. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	51.8	55.3	47.8
8. 被害者を保護する体制を整備する	48.8	50.6	46.9
9. 被害者が自立して生活できるよう支援する	34.7	40.2	27.1
10. 被害を受けて悩んでいる人へ相談窓口や解決方法等の情報を提供する	37.6	40.0	34.7
11. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	24.1	23.1	25.7
12. 地域住民同士で関わり合い(見守りなど)を強めていく	20.1	21.1	18.8
13. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	31.6	32.7	30.3
14. 加害者への罰則を強化する	44.3	44.5	44.0
15. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる	29.9	33.0	25.0
16. その他	1.8	1.5	2.1
17. 特に対策の必要はない	0.3	0.1	0.6
18. わからない	5.5	5.4	5.6
無回答	3.9	2.9	4.7

問 36 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、Web などメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に
対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ	12.1	11.4	12.7
2. 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	21.9	22.3	21.5
3. 社会全体の性に関する道德観、倫理観が損なわれている	29.8	30.2	29.1
4. 女性に対する犯罪を助長するおそれがある	16.6	19.7	12.2
5. そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	28.9	33.1	23.4
6. 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	19.8	20.3	19.4
7. その他	1.5	1.0	2.2
8. 特に問題はない	9.0	7.1	12.0
9. わからない	25.0	26.2	23.8
無回答	5.5	5.4	5.1

問 37 あなたは、性別の違いに気を配った防災・災害対応のためにはどのようなことが必要だと思いますか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 消防団や自主防災組織に女性を増やす、女性の参画を促進する	27.0	23.8	31.8
2. 平常時から性別に配慮した防災訓練を行う	28.1	26.9	30.0
3. 災害時に対応できるよう、平常時から自治会や町内会の役員に女性を入れる、増やす	30.3	25.9	37.1
4. 災害発生直後から、市町村等の女性職員が現場で対応する	22.9	23.4	22.6
5. 避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする	54.1	54.5	54.3
6. 更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う	65.1	69.4	59.4
7. 避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する	42.9	45.4	39.6
8. 防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画する	37.4	36.1	39.8
9. その他	1.1	0.9	1.4
10. 特にない	5.5	5.2	6.3
11. わからない	6.8	7.2	6.4
無回答	3.1	2.7	2.9

問 38 男女共同参画社会の実現を目指し、今後、県や市町村がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める	42.4	41.1	44.8
2. 政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する	33.7	30.4	38.8
3. 防災・災害復興等における男女共同参画を推進する	35.8	32.9	40.1
4. 理工系学部など女性の進学が少ない大学の学部への進学を促すための取組を進める	12.5	11.1	14.3
5. 研究者など、従来、女性が少なかった分野への女性の進出を支援する	20.8	20.7	21.0
6. 職場における男女の機会均等や待遇の確保を推進する	38.5	39.0	38.2
7. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	38.7	40.8	36.1
8. 男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する	67.5	70.7	64.0
9. 女性の起業支援の取組を進める	12.5	13.4	10.8
10. 出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する	46.0	47.7	44.1
11. 男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める	24.3	23.5	25.7
12. 女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	23.9	26.5	20.2
13. 女性のための相談機能を充実する	19.0	21.2	16.1
14. 男性への意識啓発及び相談機能を充実する	15.6	15.9	15.2
15. 性の多様性に関する意識啓発等を進める	18.3	19.6	16.7
16. 生涯を通じた女性の健康保持を支援する	13.9	16.0	10.6
17. 国際交流・国際協力に男女がともに参画できるように支援する	16.8	17.2	16.1
18. その他	1.2	0.8	1.9
19. 特にない	3.8	3.7	4.2
20. わからない	6.3	6.3	5.9
無回答	3.1	2.9	2.7

問 39 あなたの性別をお答えください。【1つだけ】

	全体
1. 男性	40.6
2. 女性	57.9
3. 答えたくない	1.0
無回答	0.5

問 40 あなたの年齢をお答えください。【1つだけ】

	全体			
		女性	男性	答えたくない
1. 18～19歳	2.2	2.0	2.4	0.0
2. 20～24歳	3.2	3.4	2.7	13.3
3. 25～29歳	3.1	2.7	3.5	6.7
4. 30～34歳	4.5	5.3	3.5	0.0
5. 35～39歳	4.2	4.7	3.7	0.0
6. 40～44歳	6.2	6.3	6.3	0.0
7. 45～49歳	8.8	8.6	9.0	13.3
8. 50～54歳	7.9	7.9	7.9	13.3
9. 55～59歳	9.1	8.2	10.4	13.3
10. 60～64歳	9.3	9.6	9.1	6.7
11. 65～69歳	10.3	10.2	10.6	6.7
12. 70～74歳	10.4	10.6	10.0	6.7
13. 75歳以上	20.0	19.7	20.7	13.3
無回答	0.8	0.8	0.2	6.7

問 41 あなたは結婚されていますか。【1つだけ】

	全体		
		女性	男性
1. 結婚している	70.0	68.5	73.4
2. 結婚していないがパートナーと暮らしている	0.8	1.4	0.2
3. 離別	5.4	6.9	3.2
4. 死別	6.9	9.6	2.9
5. 未婚	16.4	13.6	20.2
無回答	0.4	0.1	0.2

問 42 あなたには、お子さんがいますか。別居のお子さんも含めてお答えください。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 乳児(1歳未満)	1.6	1.6	1.8
2. 幼児	6.8	8.2	5.1
3. 小学生・中学生	12.1	12.6	11.4
4. 高校生・大学生(専門学校を含む)	9.1	8.9	9.5
5. その他(社会人等)	56.4	57.8	54.6
6. 子どもはいない	23.1	20.9	26.0
無回答	1.3	1.0	1.1

問 43 現在、同居のご家族をすべて選んでお答えください。【いくつでも】

	全体		
		女性	男性
1. 配偶者(パートナー)	66.8	64.9	70.6
2. 息子	28.2	30.6	25.0
3. 娘	25.2	25.7	25.0
4. 父、母(配偶者の父母を含む)	20.7	19.6	22.5
5. 孫	5.7	6.4	4.7
6. 祖父母(配偶者の祖父母を含む)	2.5	2.0	2.9
7. 子どもの配偶者	3.7	4.6	2.6
8. 兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)	5.7	5.2	6.4
9. その他	1.1	1.4	0.8
10. 同居者はいない(ひとり暮らし)	11.7	13.1	9.8
無回答	0.8	0.3	0.6

問 44 お住まいはどちらですか。【1つだけ】

	全体			
		女性	男性	答えたくない
1.岡山市	39.2	41.4	36.4	40.0
2.倉敷市	24.9	24.7	25.2	26.7
3.津山市	5.0	5.2	4.7	6.7
4.玉野市	2.9	2.8	3.0	0.0
5.笠岡市	2.9	2.9	3.0	0.0
6.井原市	1.9	1.9	1.9	0.0
7.総社市	3.2	3.3	3.2	0.0
8.高梁市	1.5	1.6	1.4	0.0
9.新見市	2.0	1.4	2.9	0.0
10.備前市	1.6	1.7	1.6	0.0
11.瀬戸内市	2.1	1.6	2.9	0.0
12.赤磐市	2.2	1.9	2.7	0.0
13.真庭市	1.9	1.8	2.1	0.0
14.美作市	1.0	0.8	1.0	13.3
15.浅口市	1.5	1.8	1.1	0.0
16.和気町	0.7	0.8	0.6	0.0
17.早島町	0.6	0.3	1.0	0.0
18.里庄町	0.6	0.7	0.3	6.7
19.矢掛町	0.8	0.7	1.1	0.0
20.新庄村	0.1	0.1	0.2	0.0
21.鏡野町	0.7	0.7	0.8	0.0
22.勝央町	0.5	0.5	0.5	0.0
23.奈義町	0.1	0.0	0.3	0.0
24.西粟倉村	0.1	0.1	0.0	0.0
25.久米南町	0.5	0.3	0.5	0.0
26.美咲町	0.5	0.5	0.5	6.7
27.吉備中央町	0.5	0.5	0.6	0.0
無回答	0.5	0.2	0.3	0.0

令和6年度岡山県男女共同参画社会に関する県民意識調査

<調査ご協力のお願い>

日頃から県政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

岡山県では、すべての人が性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮するとともに、互いにその人権を尊重しつつ、喜びも責任も共に分かち合う男女共同参画社会の実現に取り組んでいます。

このたび男女共同参画社会に関するお考えやご意見をお伺いし、今後の取り組みに役立てるため、「岡山県男女共同参画社会に関する県民意識調査」を行うことになりました。

この調査は、岡山県にお住まいの18歳以上の方々の中から市町村の住民基本台帳から無作為に選ばせていただいた3,000人の方をお願いしています。

無記名でお答えいただき、統計的な処理をして結果を取りまとめますので、お答えいただいた方にご迷惑がかかることは決してございませんので、率直なお考えやご意見をぜひお聞かせください。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和6年10月 岡山県県民生活部人権・男女共同参画課

<ご記入にあたってのお願い>

1. 封筒のあて名の方ご本人がお答えください。ご本人による記入が困難な場合は、ご家族などがご本人から聞き取って代筆をお願いします。
2. 回答は、問1から順に、質問ごとに用意した回答の中から、あなたのお考えに当てはまる番号のチェックボックスにチェックを付けてください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
3. 質問によって、回答される方が限られる場合があります。その場合は説明がありますから、その説明にしたがってお答えください。
4. 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒(切手は不要です。)に入れて、
令和6年10月31日(木)までに郵便ポストへ投函してください。(この調査票、返信用封筒には、お名前やご住所を書いていただく必要はありません。)
5. この調査はインターネットでもご回答いただけます。インターネット回答の方法は、右下をご覧ください。
6. 調査結果は、県のホームページなどで公表する予定です。

<調査票の内容や記入方法についてのお問い合わせ先>

[調査委託機関]

(株)サーベイリサーチセンター
電話:0120-676-266(フリーダイヤル)
担当:川嶋・松田
受付時間:9時~17時 土日祝日を除く

※この電話番号は、10月31日までつながります。

この調査はインターネットでの回答も可能です。

次のURLを入力または二次元コードを読み取り、専用のアンケートフォームからご回答ください。



<URL> https://src.webcas.net/form/pub/src1/33_gender

I 男女の役割分担意識や家庭観について

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。【1つだけ】

☐ 1. 同感する ☐ 2. 同感しない ☐ 3. わからない

問2 結婚や離婚、夫婦別姓等について、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。

【(a)～(h)でそれぞれ1つ】

	賛成	賛成 どちらか といえは	反対 どちらか といえは	反対	どちらとも いえない
記入例→	☐ 1	☒ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
(a) 女性の幸福は結婚にある。女性は結婚するほうがよい	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
(b) 男性は、家庭をもって一人前だと言える	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
(c) 結婚は個人の自由である。人は結婚しなくてもどちらでもよい	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
(d) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
(e) 夫も妻も家庭責任はともにもつべきである	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
(f) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
(g) 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
(h) 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

問3 家庭での役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者のいない方についても、次のような日常的なことが、どなたの役割だとお考えになるかお答えください。

【(a)～(g)でそれぞれ1つ】

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	いずれにも該当しない
(a) 生活費を稼ぐ	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(b) 日々の家計の管理をする	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(c) 日常の家事	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(d) 老親や病身者の介護や看護	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(e) 子どもの養育（教育、しつけなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(f) 育児（乳幼児の世話）	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(g) 地域活動への参加 ※地域活動の例は問 26 参照	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6

問4 今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だとお考えですか。

【いくつでも】

- ☐ 1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
- ☐ 2. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること
- ☐ 3. 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること
- ☐ 4. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること
- ☐ 5. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと
- ☐ 6. 家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること
- ☐ 7. 男性の男女共同参画に対する関心を高めること
- ☐ 8. 男性の仕事中心の生き方・考え方を改めること
- ☐ 9. 男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと
- ☐ 10. 夫が家事などをすることに妻が協力すること
- ☐ 11. 妻が、夫に経済力や出世を求めないこと
- ☐ 12. 女性が経済的に自立すること
- ☐ 13. その他（具体的に： _____）
- ☐ 14. わからない

Ⅱ 男女の地位の平等などについて

問5 あなたは次にあげる分野で男女の地位は平等になっているとお考えですか。

【(a)～(h)でそれぞれ1つ】

	優遇されている 男性の方が 優遇されている	優遇されている 男性の方が 優遇されている どちらかといえば	平等	優遇されている 女性の方が 優遇されている どちらかといえば	優遇されている 女性の方が 優遇されている	わからない
(a) 家庭生活で	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(b) 職場で	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(c) 地域社会で	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(d) 学校教育の現場で	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(e) 政治の場で	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(f) 法律や制度の上で	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(g) 社会通念・慣習・しきたりなどで	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6
(h) 社会全体でみた場合	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	☐ 6

↓ 問6へ

問5 (h) で、1または2を選択した方のみお答えください。

問6 社会全体でみて男性の方が優遇されている原因は何だとお考えですか。

【いくつでも】

- ☐1. 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから
- ☐2. 仕事優先・企業中心の考え方が根強いから
- ☐3. 男女の平等について、男性の問題意識が薄いから
- ☐4. 男女の平等について、女性の問題意識が薄いから
- ☐5. 男女の差別を人権の問題として捉える意識が薄いから
- ☐6. 女性が能力を発揮できる環境や機会が十分でないから
- ☐7. 能力を発揮している女性を適正に評価する仕組みが欠けているから
- ☐8. 配偶者控除や健康保険加入免除等の税制・社会保障制度が男女の役割分担を助長しているから
- ☐9. 育児や介護などを男女が共に担うための制度やサービスが整備されていないから
- ☐10. 女性の意欲や能力が男性に比べて劣っているから
- ☐11. その他（具体的に： _____ ）
- ☐12. わからない

Ⅲ 男女の社会参画について

全ての方にお尋ねします。

問7 次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増える方が

よいとあなたが思うものをすべてお答えください。

【いくつでも】

- | | |
|---|--|
| ☐ 1. 都道府県知事・市町村長 | ☐ 11. 起業家・経営者 |
| ☐ 2. 国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員 | ☐ 12. 労働組合の幹部 |
| ☐ 3. 国家公務員・地方公務員の管理職 | ☐ 13. 農協・漁協・森林組合の役員 |
| ☐ 4. 裁判官・検察官・弁護士 | ☐ 14. 新聞・放送の記者 |
| ☐ 5. 大学教授・学長等 | ☐ 15. 自治会長・町内会長等 |
| ☐ 6. 小中学校・高校の校長・副校長・教頭 | ☐ 16. 医師・歯科医師 |
| ☐ 7. 国連などの国際機関の幹部職 | ☐ 17. その他（具体的に： ） |
| ☐ 8. 企業の技術者・研究者 | ☐ 18. 女性は政策・方針の決定にかかわる役職につくべきではない |
| ☐ 9. 企業の管理職 | ☐ 19. わからない |
| ☐ 10. 上場企業の役員 | |

問8 あなたは、問7にあげたような政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない

理由は何だとお考えですか。

【いくつでも】

- ☐ 1. 家族、職場、地域における性別役割分担があるから
- ☐ 2. 男性優位の組織運営になっているから
- ☐ 3. 家族の支援・協力が得られないから
- ☐ 4. 女性の能力発揮の機会が不十分だから
- ☐ 5. 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから
- ☐ 6. 女性自身がリーダーになることを希望しないから
- ☐ 7. 上司・同僚・部下となる男性や顧客などが女性リーダーを希望しないから
- ☐ 8. 女性の職員や構成員の人数自体が少ないから
- ☐ 9. 保育、介護の支援など公的サービスが十分でないから
- ☐ 10. その他（具体的に： _____）
- ☐ 11. わからない

問9 あなたは、仮に次の役職への就任や公職への立候補を依頼されたらどうしますか（どうしましたか）。 【(a)～(c)でそれぞれ1つ】

(a) 職場の管理職や役員	☐ 1. 引き受ける (引き受けた)	☐ 2. 断る (断った)	☐ 3. わからない
(b) 自治会長、町内会長	☐ 1. 引き受ける (引き受けた)	☐ 2. 断る (断った)	☐ 3. わからない
(c) 知事・市町村長や県・市町村議会の議員	☐ 1. 引き受ける (引き受けた)	☐ 2. 断る (断った)	☐ 3. わからない

↓ 問10へ

問9で「2.断る（断った）」を選択した方のみお答えください。

問10 その理由は、何ですか。

(a) 職場の管理職や役員への就任を断る（断った）理由 【いくつでも】

- | | |
|--|--|
| ☐ 1. 責任が重くなるから | ☐ 6. 仕事と育児の両立が困難になるから |
| ☐ 2. 業務量が増え長時間労働になるから | ☐ 7. 仕事と介護の両立が困難になるから |
| ☐ 3. 現在の業務内容で働きたいから | ☐ 8. 周囲の目もあり、目立つのが嫌だから |
| ☐ 4. 部下を管理・指導できる自信がないから | ☐ 9. その他（具体的に： ） |
| ☐ 5. 賃金は上がるが職責に見合った金額ではないから | |

(b) 自治会長、町内会長への就任を断る（断った）理由 【いくつでも】

- | | |
|--|---|
| ☐ 1. 仕事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから | ☐ 7. なんとなく大変そうだから |
| ☐ 2. 家事が忙しくて、地域活動の時間がとれないから | ☐ 8. 自分や家族の負担が増えるから |
| ☐ 3. 地域での人づきあいかわずらわしいから | ☐ 9. 周囲の目もあり、目立つのが嫌だから |
| ☐ 4. 育児や介護が忙しいから | ☐ 10. 慣習により、就任する人が決まっているから |
| ☐ 5. 責任ある役は引き受けたくないから | ☐ 11. 報酬がない、または少ないから |
| ☐ 6. 責任を果たせるだけの自信がないから | ☐ 12. その他（具体的に： ） |

(c) 知事・市町村長や県・市町村議会の議員への立候補を断る（断った）理由 【いくつでも】

- | | |
|--|---|
| ☐ 1. 仕事が忙しいから | ☐ 7. なんとなく大変そうだから |
| ☐ 2. 家事が忙しいから | ☐ 8. 自分や家族の負担が増えるから |
| ☐ 3. 地域での人づきあいかわずらわしいから | ☐ 9. 周囲の目もあり、目立つのが嫌だから |
| ☐ 4. 育児や介護が忙しいから | ☐ 10. 報酬が少ないから |
| ☐ 5. 責任ある役は引き受けたくないから | ☐ 11. その他（具体的に： ） |
| ☐ 6. 責任を果たせるだけの自信がないから | |

IV 就労について

全ての方にお尋ねします。

問11 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。 【1つだけ】

- ☐ 1. 女性は職業をもたない方がよい
 - ☐ 2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
 - ☐ 3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
 - ☐ 4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
 - ☐ 5. 子どもができたら職業をやめ、
大きくなったら再び職業をもつ方がよい
 - ☐ 6. その他（具体的に： _____）
 - ☐ 7. わからない
- } 問 13 へ

→ 問11で1～3を選択した方のみお答えください。

問12-1 それは、なぜですか。

【いくつでも】

- ☐ 1. 女性は家庭を守るべきだと思うから
- ☐ 2. 子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから
- ☐ 3. 女性も経済力を持った方がいいと思うから
- ☐ 4. 夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから
- ☐ 5. 仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから
- ☐ 6. 働き続けるのは大変そうだと思うから
- ☐ 7. その他（具体的に： _____）
- ☐ 8. 特にない
- ☐ 9. わからない

→ 問11で4または5を選択した方のみお答えください。

問12-2 それは、なぜですか。

【いくつでも】

- ☐ 1. 女性は家庭を守るべきだと思うから
- ☐ 2. 働くことを通じて自己実現が図れると思うから
- ☐ 3. 子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから
- ☐ 4. 女性も経済力を持った方がいいと思うから
- ☐ 5. 夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから
- ☐ 6. 女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから
- ☐ 7. 少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がいいと思うから
- ☐ 8. 仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから
- ☐ 9. その他（具体的に： _____）
- ☐ 10. 特にない
- ☐ 11. わからない

全ての方にお尋ねします。

問13 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。

【1つだけ】

- ☐ 1. 大変働きやすい状況にあると思う
- ☐ 2. ある程度働きやすい状況にあると思う
- ☐ 3. あまり働きやすい状況にあるとは思わない
- ☐ 4. 働きやすい状況にあるとは思わない
- ☐ 5. 一概には言えない
- ☐ 6. わからない

→ 問13で、3または4を選択した方のみお答えください。

問14 その理由は何ですか。

【いくつでも】

- ☐ 1. 働く場が限られているから
- ☐ 2. 能力発揮の場が少ないから
- ☐ 3. 労働条件が整っていないから
- ☐ 4. 保育施設や児童クラブなど子どもを預けられる施設が不足しているから
- ☐ 5. 介護施設が不足しているから
- ☐ 6. 家事・育児支援サービスが充実していないから
- ☐ 7. 職場における昇進・給与・待遇面等に男女の差別的取扱いがあるから
- ☐ 8. 結婚・出産退職の慣行があるから
- ☐ 9. 職場のハラスメント（セクシュアルハラスメント※1、パワーハラスメント※2、妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント※3など）があるから
- ☐ 10. 男は仕事、女は家庭という社会通念があるから
- ☐ 11. 男性の長時間労働や転勤等を当然とする雇用慣行があるから
- ☐ 12. 家族の理解、協力が得にくいから
- ☐ 13. その他（具体的に： _____）

※1 職場の「セクシュアルハラスメント」とは、「職場」において行われる「労働者」の意に反する「性的な言動」により、労働者が労働条件について不利益を受けたり、就業環境が害されることをいいます。

※2 職場の「パワーハラスメント」とは、職場において行われる①優越的な関係を背景とした言動であって、②業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより、③労働者の就業環境が害されるものであり、①から③までの3つの要素を全て満たすものをいいます。

※3 職場の「妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント」とは、「職場」において行われる上司・同僚からの言動（妊娠・出産したこと、育児休業、介護休業等の利用に関する言動）により、妊娠・出産した「女性労働者」や育児休業・介護休業等を申出・取得した「男女労働者」の就業環境が害されることをいいます。これらは、マタニティハラスメント（マタハラ）、パタニティハラスメント（パタハラ）、ケアハラスメント（ケアハラ）と言われることもあります。

全ての方にお尋ねします。

問15 あなたは、仕事をやめたり、中断したり、あるいは転職したことがありますか。

あるとすれば、その理由は何ですか。

【いくつでも】

- ☐ 1. 結婚のため
- ☐ 2. 出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため
- ☐ 3. 不妊症（妊娠しない）や不育症（流産、死産を繰り返す）の治療のため
- ☐ 4. 親や病気の家族の介護・看病をするため
- ☐ 5. 配偶者の転勤のため
- ☐ 6. 家族の理解・協力が得にくいから
- ☐ 7. 自分の健康や体力的な問題のため
- ☐ 8. 職場に育児・介護休業などの制度がないため
- ☐ 9. 長期間勤務しにくい職場の雰囲気のため
- ☐ 10. 労働条件に対して不満があったから
- ☐ 11. 仕事の内容があわなかったから
- ☐ 12. 勤め先の都合のため
- ☐ 13. 男女が対等に働ける職場でなかったため
- ☐ 14. 職場のハラスメント（セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントなど）があったから
- ☐ 15. 大学に行ったり、資格を取ったりするため
- ☐ 16. 家業につくため
- ☐ 17. 高齢になったから
- ☐ 18. よりよい条件の仕事があったから
- ☐ 19. その他（具体的に： _____)
- ☐ 20. 特に理由はない
- ☐ 21. 今までに仕事をやめたり、中断したり、転職したことはない

問16 あなたは管理職の経験がありますか。

【1つだけ】

☐ 1. 現在、管理職をしている ☐ 2. 管理職の経験がある ☐ 3. 管理職の経験はない → 問18へ

→ 問16で1または2を選択した方のみお答えください。

問17-1 あなたご自身が、管理職になってよかったと感じる（感じた）ことをお答えください。

【いくつでも】

- ☐ 1. マネジメントに充実感がある
- ☐ 2. 責任・権限のある仕事ができる・裁量をもてる
- ☐ 3. 敬意を払われる
- ☐ 4. 収入が増える
- ☐ 5. 経営方針など重要な決定に関われる
- ☐ 6. 人脈が広がる
- ☐ 7. 新しい仕事に挑戦しやすい
- ☐ 8. 自分自身の知見やスキルが広がる
- ☐ 9. 仕事のモチベーションが上がる
- ☐ 10. その他（具体的に： _____）
- ☐ 11. 特にない

→ 問16で1または2を選択した方のみお答えください。

問17-2 あなたご自身が、管理職になってよくなかったと感じる（感じた）ことをお答えください。

【いくつでも】

- ☐ 1. 仕事量が増えた
- ☐ 2. 責任の大きい仕事が増えた
- ☐ 3. 仕事量の増加に見合うほど収入が増えなかった
- ☐ 4. 残業や長時間勤務が増えた
- ☐ 5. 休暇が取りにくい
- ☐ 6. 短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度を活用しにくい
- ☐ 7. 上司と部下との板挟みになるようになった
- ☐ 8. 管理職に対するメンタルケアなどのサポートがない
- ☐ 9. 家庭やプライベートより仕事を優先せざるを得なくなった
- ☐ 10. 部下の指導・育成が苦手だと思うようになった
- ☐ 11. 自分は管理職に向いていないと思うようになった
- ☐ 12. 仕事と家庭の両立が困難になった
- ☐ 13. その他（具体的に： _____）
- ☐ 14. 特にない

全ての方にお尋ねします。

問18 現在、社会全般では女性活躍推進の取組がされていますが、どのような制度や支援があれば、女性の管理職が増えると思いますか。【いくつでも】

- ☐ 1. 短時間勤務制、フレックスタイム制※1、テレワーク※2など柔軟な勤務制度があること
- ☐ 2. 労働時間の長さではなく、仕事の成果をきちんと評価すること
- ☐ 3. 経営層が女性活躍推進に積極的であること
- ☐ 4. 性別に関係なく配属を行うこと
- ☐ 5. ライフイベントを迎える前の女性に多くの職務経験を積ませること
- ☐ 6. 子育てや介護など、個別の事情に配慮した配属をすること
- ☐ 7. 新人から管理職まで、キャリアの段階に応じた研修をすること
- ☐ 8. 意欲や能力の高い女性を、早い段階で幹部候補として選抜すること
- ☐ 9. 管理職に対して、部下の育成に関する研修を行うこと
- ☐ 10. 活躍している女性のロールモデル提示を行うこと
- ☐ 11. 女性をつなぐ社内外のネットワークを充実させること
- ☐ 12. 管理職に対するメンタルケアなどのサポートがあること
- ☐ 13. その他（具体的に： _____）
- ☐ 14. 特にない

※1 フレックスタイム制は、一定の期間についてあらかじめ定めた総労働時間の範囲内で、労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることのできる制度です。

※2 テレワークとは、インターネットなどの情報通信技術を活用し自宅などで仕事をする、働く時間や場所を柔軟に活用できる働き方です。

問19 あなたのお仕事は、この中のどれに当たりますか。また、配偶者（パートナー）のいらっしゃる方は、配偶者（パートナー）についてもお答えください。【(a)～(b)でそれぞれ1つ】

	(a) あなた のお仕事 ご自身	(b) 配偶者 （パートナー） のお仕事
役員を含む、正規の職員・従業員	☐ 1	☐ 1
期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員	☐ 2	☐ 2
自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業	☐ 3	☐ 3
家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝っている者	☐ 4	☐ 4
主婦・主夫	☐ 5	☐ 5
学生	☐ 6	☐ 6
無職	☐ 7	☐ 7
その他（具体的に： _____）	☐ 8	☐ 8

問 20 へ

問19で2、5、6または7を選択した方（正規の職員・従業員以外の形で雇用されている方、または仕事をしていない方）のみお答えください。

問20 どのような条件があれば「正規の職員・従業員」として働きたいと思いますか。【いくつでも】

- ☐ 1. 希望する職種に正規の職があれば
- ☐ 2. 育児・介護などで退職した後も希望すれば元の職場に戻る制度があれば
- ☐ 3. 短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなど柔軟な勤務制度があれば
- ☐ 4. 配偶者、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの協力により、自分の負担が軽くなれば
- ☐ 5. 仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば
- ☐ 6. 長時間労働や残業がない仕事であれば
- ☐ 7. キャリア形成が期待できる仕事であれば
- ☐ 8. 職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば
- ☐ 9. 責任が大きくない仕事であれば
- ☐ 10. 満足のいく所得が得られるのであれば
- ☐ 11. 今の働き方が変わらないのであれば
- ☐ 12. 就職情報や職業紹介などの相談機関や窓口が充実していれば
- ☐ 13. 求職中に技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会が充実していれば
- ☐ 14. その他（具体的に： _____ ）
- ☐ 15. わからない・考えたことがない
- ☐ 16. 「正規の職員・従業員」で働きたいとは思わない

V ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

※「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」とは、男女がともに、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることです。

現在、仕事をしている方のみお答えください。

問21 日頃の生活における「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望と現実・現状に最も近いものをお答えください。

※「地域・個人の生活」…地域活動・近所づきあい・スポーツ・趣味の活動・社会貢献活動など

【(a)～(b)でそれぞれ1つ】

	(a) 希望	(b) 現実・現状
「仕事」を優先	☐ 1	☐ 1
「家庭生活」を優先	☐ 2	☐ 2
「地域・個人の生活」を優先	☐ 3	☐ 3
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	☐ 4	☐ 4
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	☐ 5	☐ 5
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	☐ 6	☐ 6
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	☐ 7	☐ 7
わからない	☐ 8	☐ 8

全ての方にお尋ねします。

問22 男女が共にワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのようなことが必要であるとお考えですか。 【いくつでも】

- ☐ 1. 労働時間の短縮や休日の増加を促進する
- ☐ 2. 保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する
- ☐ 3. 育児や介護のための休暇制度を充実する
- ☐ 4. 育児や介護休暇中の諸手当を充実する
- ☐ 5. 結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する
- ☐ 6. 賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす
- ☐ 7. 昇進・昇格の機会を、男女差をなくす
- ☐ 8. 研修や職業訓練の機会を拡充する
- ☐ 9. 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける
- ☐ 10. 短時間勤務制、フレックスタイム制、テレワークなどを導入する
- ☐ 11. 管理職の意識改革
- ☐ 12. 男性の長時間労働や転勤等を当然とする雇用慣行を是正する
- ☐ 13. その他（具体的に： ）
- ☐ 14. わからない

問23 「育児休業」を取得することや取得した後について、あなたはどのようにお考えですか。

※「育児休業」とは、法律に基づき、原則1歳未満の子どもを養育するために労働者が取得できる休業制度です。

※現在、子どもがいる方は、（男性の場合も）あなたご自身が取得した時・取得したらどうなったと思うかについてお答えください。

※現在、子どもがいない方は、（男性の場合も）現時点での自分が取得する時のイメージについてお答えください。

【(a)～(l)でそれぞれ1つ】

	そう 思う	そう いど うえ ばら うか と	そう いど うえ ばら わな い	そう 思 わ な い
(a) 収入が減り不安な状態になる	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(b) 昇進・昇給にマイナスの影響がある	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(c) 会社の制度等に問題があり取りにくい	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(d) 仕事の仲間、周囲に迷惑をかける	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(e) 復帰後に自分の仕事・ポジションがない	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(f) 復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(g) 職場・上司の理解を得られない	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(h) 職場に復帰しにくい雰囲気がある	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(i) 家にいる時間が増え安心感が高まる	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(j) 自分の時間が取れるようになる	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(k) 仕事から離れることで価値観が広がる	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(l) 子どもとの良い関係を築くことができる	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4

働いている方、もしくは働いたことがある方のみお答えください。

問24 過去～現在を含めて、働く上で身体や心の不調、健康問題に関して、どんな困りごとがありましたか。

※現在働いていない方は、働いていた当時を思い出してお答えください。

【いくつでも】

- ☐ 1. 不調や体調不良について相談できる人がいない・相談しづらい
- ☐ 2. 自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない
- ☐ 3. 役職者ほど、労働時間や健康状態に気を配れなくなる
- ☐ 4. 従業員の体調管理（メンタルを含む）・気配りがされていない
- ☐ 5. 有給休暇が取りにくい雰囲気がある
- ☐ 6. 長時間働く人が評価される風潮がある
- ☐ 7. 働きながら治療のために通院しづらい・時間がとれない
- ☐ 8. 月経（生理）の不調など女性ならではの悩みが言い出しにくい
- ☐ 9. 生理休暇を利用しにくい
- ☐ 10. ストレスなどメンタルに関わる悩みが言い出しにくい
- ☐ 11. その他（具体的に： _____）
- ☐ 12. 特に困りごとはない・なかった

全ての方にお尋ねします。

問25 どんなことがあれば、働く上での身体や心の不調、健康問題や、それに関する困りごとについて、改善に向かうと思われますか。

※現在働いていない方は、働いていた当時を思い出してお答えください。

※働いたことがない方は、「こんなことがあったら改善しよう」と思うものをお選びください。

【いくつでも】

- | | |
|---|--|
| ☐ 1. 仕事の量・仕事時間の改善 | ☐ 12. 勤務先の身体的な健康問題への理解 |
| ☐ 2. 仕事の責任・プレッシャーの緩和 | ☐ 13. 勤務先のメンタルヘルス不調への理解 |
| ☐ 3. 人手不足解消・従業員の離職防止 | ☐ 14. ダイバーシティ（多様性）への配慮 |
| ☐ 4. 公正な人事評価 | ☐ 15. ハラスメント全般の防止 |
| ☐ 5. 待遇・給与の改善 | ☐ 16. 肉体的な疲労度の軽減 |
| ☐ 6. 経営陣・トップの考え方の改善・理解 | ☐ 17. 職場・働く場所の環境・快適さ向上 |
| ☐ 7. 管理職のマネジメント力向上 | ☐ 18. 病気の治療との両立支援 |
| ☐ 8. 上司・同僚・部下との人間関係全般の改善 | ☐ 19. 育児・介護との両立支援 |
| ☐ 9. 職場内コミュニケーション全般の改善 | ☐ 20. その他（具体的に： _____） |
| ☐ 10. 女性の健康問題への理解 | ☐ 21. わからない |
| ☐ 11. 男性の健康問題への理解 | |

問26 ここ1年ほどの間で参加した地域活動にはどのようなものがありますか。 【いくつでも】

- ☐ 1. 趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動
- ☐ 2. 育児支援、PTA、学童保育、児童館、子ども会などの子育てや教育に関する活動
- ☐ 3. 町内会、自治会、婦人会などの行事や活動
- ☐ 4. 地域の防災・防犯・交通安全に関する活動
- ☐ 5. 健康教室、食生活改善など健康推進に関する活動
- ☐ 6. 高齢者・障害者支援など社会福祉に関する活動
- ☐ 7. 自然保護、清掃活動、省資源など地球環境を守るための活動
- ☐ 8. 身近にいる外国人たちとの交流や国際理解活動
- ☐ 9. その他（具体的に： _____）
- ☐ 10. どれにも参加しなかった

→ 問26で、「10. どれにも参加しなかった」を選択した方のみお答えください。

問27 どれにも参加しなかったのはなぜですか。 【いくつでも】

- ☐ 1. 家事や子育てが忙しいから
- ☐ 2. 介護の必要な高齢者や病人等がいるから
- ☐ 3. 仕事が忙しいから
- ☐ 4. 活動に経費がかかるから
- ☐ 5. 家族に理解がないから
- ☐ 6. 自分にあった適当な活動がないから
- ☐ 7. どのように参加するか分からないから
- ☐ 8. 参加することに意義を感じないから
- ☐ 9. 人間関係がわずらわしいから
- ☐ 10. その他（具体的に： _____）

VI 男女平等教育について

全ての方にお尋ねします。

問28 男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校等で行うとよいと思うものはどれですか。 【いくつでも】

- ☐ 1. 男女平等に関する教職員研修を行う
- ☐ 2. 校長や副校長、教頭に女性を増やしていく
- ☐ 3. 学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする
- ☐ 4. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する
- ☐ 5. 男女平等の意識を育てる授業（男女必修で行われている技術家庭科など）をさらに充実する
- ☐ 6. 健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める
- ☐ 7. 出席簿、座席、ロッカーの順番など、男女を分ける習慣をなくす
- ☐ 8. 保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める
- ☐ 9. その他（具体的に： _____）
- ☐ 10. 学校教育の中で行う必要はない
- ☐ 11. わからない

VII 人権について

これまでに結婚（事実婚を含む）したことのある方のみお答えください。

問29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や生活の本拠をともにする交際相手（同棲相手）、別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。

【(a)～(e)でそれぞれ1つ】

	まったく ない	1、 2度あ った	何 度もあ った
(a) 身体的暴力を受けた（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3
(b) 精神的暴力を受けた（人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3
(c) 社会的暴力を受けた（友人や家族に会わせない、外出させない、電話・電子メール等をチェックするなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3
(d) 経済的暴力を受けた（生活費を渡さない、借金を強いる、収入を取り上げる、外で働くことを妨げるなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3
(e) 性的暴力を受けた（見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3

これまでに交際相手がいた方のみお答えください。

問30 あなたは、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。

【(a)～(e)でそれぞれいくつでも】

	ま た く な い	10 歳 代 に あ っ た	20 歳 代 に あ っ た	あ っ た 30 歳 代 以 上 に
(a) 身体的暴力を受けた（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(b) 精神的暴力を受けた（人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(c) 社会的暴力を受けた（友人や他の異性との付き合いを制限する、電話・電子メール等をチェックするなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(d) 経済的暴力を受けた（デート代や生活費を無理やり払わされる、収入を取り上げる、借りたお金を返さないなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
(e) 性的暴力を受けた（見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど）	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4

配偶者や恋人から暴力を受けたことがまったくない方は、問35へお進みください。

問29または問30で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問31 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。【1つだけ】

☐ 1. 感じた

☐ 2. 感じなかった

問29または問30で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問32 あなたがその相手からの行為を受けていたときに、あなたのお子さんはそれを目撃していましたか。

【1つだけ】

☐ 1. 目撃していた

☐ 3. 目撃していたか、いないかはわからない

☐ 2. 目撃していない

☐ 4. 子どもはいない

問29または問30で、1つでも「まったくない」以外を選択した方のみお答えください。

問33 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。【いくつでも】

☐ 1. 誰（どこ）にも相談しなかった

☐ 4. 学校に相談した

☐ 2. 家族・親せきに相談した

☐ 5. 警察に連絡・相談した

☐ 3. 友人・知人に相談した

☐ 6. 裁判所に相談した

☐ 7. 法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した

☐ 8. 女性相談支援センター（旧女性相談所）、女性相談支援員（旧女性（婦人）相談員）に相談した

☐ 9. 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（性暴力被害者支援センター「おかやま心」）に相談した

☐ 10. 岡山県男女共同参画推進センター（ウィズセンター）に相談した

☐ 11. 不妊・不育ところの相談室（岡山県不妊専門相談センター）（デートDV、性の多様性などを含む相談窓口）に相談した

☐ 12. 市町村の女性のための総合的な施設（男女共同参画推進センターなど）に相談した

☐ 13. 市役所・町村役場に相談した

☐ 14. その他の公的機関に相談した

☐ 15. 弁護士に相談した

☐ 16. 医師・カウンセラーに相談した

☐ 17. 民間の相談機関（民間シェルターなど）に相談した

☐ 18. その他（具体的に：

）

→ 問33で、1を選択した方のみお答えください。

問34 誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。

【いくつでも】

☐ 1. 誰（どこ）に相談したらよいかわからなかった

☐ 8. 相談したことがわかったと、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けと思った

☐ 2. 相談しても無駄だと思った

☐ 9. 誰にも言わないよう、相手に脅された

☐ 3. 恥ずかしくて（世間体が悪くて）相談できなかった

☐ 10. 自分にも悪いところがあると思った

☐ 4. 他人を巻き込みたくなかった

☐ 11. 相手の行為は自分に対する愛情表現だと思った

☐ 5. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをと思った

☐ 12. 相談するほどのことではないと思った

☐ 6. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った

☐ 13. その他（具体的に：

）

☐ 7. そのことについて思い出したくなかった

全ての方にお尋ねします。

問35 男女間における暴力（配偶者や交際相手からの暴力、性犯罪、セクシュアルハラスメントなど）への取組として必要なことはどんなことだと思いますか。 【いくつでも】

- ☐ 1. 幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う
- ☐ 2. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
- ☐ 3. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
- ☐ 4. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
- ☐ 5. 職場で、暴力を防止するための研修会などを行う
- ☐ 6. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
- ☐ 7. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
- ☐ 8. 被害者を保護する体制を整備する
- ☐ 9. 被害者が自立して生活できるよう支援する
- ☐ 10. 被害を受けて悩んでいる人へ相談窓口や解決方法等の情報を提供する
- ☐ 11. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
- ☐ 12. 地域住民同士で関わり合い（見守りなど）を強めていく
- ☐ 13. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
- ☐ 14. 加害者への罰則を強化する
- ☐ 15. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる
- ☐ 16. その他（具体的に： _____）
- ☐ 17. 特に対策の必要はない
- ☐ 18. わからない

問36 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、Webなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。 【いくつでも】

- ☐ 1. 性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ
- ☐ 2. 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
- ☐ 3. 社会全体の性に関する道德観、倫理観が損なわれている
- ☐ 4. 女性に対する犯罪を助長するおそれがある
- ☐ 5. そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない
- ☐ 6. 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている
- ☐ 7. その他（具体的に： _____）
- ☐ 8. 特に問題はない
- ☐ 9. わからない

VIII 防災について

問37 あなたは、性別の違いに気を配った防災・災害対応のためにはどのようなことが必要だと思いますか。 【いくつでも】

- ☐ 1. 消防団や自主防災組織に女性を増やす、女性の参画を促進する
- ☐ 2. 平常時から性別に配慮した防災訓練を行う
- ☐ 3. 災害時に対応できるよう、平常時から自治会や町内会の役員に女性を入れる、増やす
- ☐ 4. 災害発生直後から、市町村等の女性職員が現場で対応する
- ☐ 5. 避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする
- ☐ 6. 更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う
- ☐ 7. 避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する
- ☐ 8. 防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画する
- ☐ 9. その他（具体的に： ）
- ☐ 10. 特にない ☐ 11. わからない

IX 男女共同参画の推進について

問38 男女共同参画社会の実現を目指し、今後、県や市町村がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。 【いくつでも】

- ☐ 1. 男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める
- ☐ 2. 政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する
- ☐ 3. 防災・災害復興等における男女共同参画を推進する
- ☐ 4. 理工系学部など女性の進学が少ない大学の学部への進学を促すための取組を進める
- ☐ 5. 研究者など、従来、女性が少なかった分野への女性の進出を支援する
- ☐ 6. 職場における男女の機会均等や待遇の確保を推進する
- ☐ 7. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
- ☐ 8. 男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する
- ☐ 9. 女性の起業支援の取組を進める
- ☐ 10. 出産、育児等により離職した女性に対する再就職等を支援する
- ☐ 11. 男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める
- ☐ 12. 女性に対する暴力を根絶するための取組を進める
- ☐ 13. 女性のための相談機能を充実する
- ☐ 14. 男性への意識啓発及び相談機能を充実する
- ☐ 15. 性の多様性に関する意識啓発等を進める
- ☐ 16. 生涯を通じた女性の健康保持を支援する
- ☐ 17. 国際交流・国際協力に男女がともに参画できるように支援する
- ☐ 18. その他（具体的に： ）
- ☐ 19. 特にない ☐ 20. わからない

X あなたご自身について

問39 あなたの性別をお答えください。

【1つだけ】

- ☐ 1. 男性 ☐ 2. 女性 ☐ 3. 答えたくない

問40 あなたの年齢をお答えください。

【1つだけ】

- ☐ 1. 18～19歳 ☐ 4. 30～34歳 ☐ 7. 45～49歳 ☐ 10. 60～64歳 ☐ 13. 75歳以上
☐ 2. 20～24歳 ☐ 5. 35～39歳 ☐ 8. 50～54歳 ☐ 11. 65～69歳
☐ 3. 25～29歳 ☐ 6. 40～44歳 ☐ 9. 55～59歳 ☐ 12. 70～74歳

問41 あなたは結婚されていますか。

【1つだけ】

- ☐ 1. 結婚している ☐ 3. 離別 ☐ 5. 未婚
☐ 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている ☐ 4. 死別

問42 あなたには、お子さんがいますか。別居のお子さんも含めてお答えください。【いくつでも】

- ☐ 1. 乳児（1歳未満） ☐ 3. 小学生・中学生 ☐ 5. その他（社会人等）
☐ 2. 幼児 ☐ 4. 高校生・大学生（専門学校を含む） ☐ 6. 子どもはいない

問43 現在、同居のご家族をすべて選んでお答えください。

【いくつでも】

- ☐ 1. 配偶者（パートナー） ☐ 6. 祖父母（配偶者の祖父母を含む）
☐ 2. 息子 ☐ 7. 子どもの配偶者
☐ 3. 娘 ☐ 8. 兄弟姉妹（配偶者の兄弟姉妹を含む）
☐ 4. 父、母（配偶者の父母を含む） ☐ 9. その他（具体的に： ）
☐ 5. 孫 ☐ 10. 同居者はいない（ひとり暮らし）

問44 お住まいはどちらですか。

【1つだけ】

- ☐ 1. 岡山市 ☐ 7. 総社市 ☐ 13. 真庭市 ☐ 19. 矢掛町 ☐ 25. 久米南町
☐ 2. 倉敷市 ☐ 8. 高梁市 ☐ 14. 美作市 ☐ 20. 新庄村 ☐ 26. 美咲町
☐ 3. 津山市 ☐ 9. 新見市 ☐ 15. 浅口市 ☐ 21. 鏡野町 ☐ 27. 吉備中央町
☐ 4. 玉野市 ☐ 10. 備前市 ☐ 16. 和気町 ☐ 22. 勝央町
☐ 5. 笠岡市 ☐ 11. 瀬戸内市 ☐ 17. 早島町 ☐ 23. 奈義町
☐ 6. 井原市 ☐ 12. 赤磐市 ☐ 18. 里庄町 ☐ 24. 西粟倉村

◎最後に、岡山県の行っている男女共同参画社会実現のための施策などについて、ご意見やご要望がありましたら自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、**10月31日（木）**までに同封の返信用封筒に入れ、ポストへご投函ください（切手は不要です）。



©岡山県「ももっち・うらっち」

岡山県男女共同参画社会に関する県民意識調査 報告書
令和 7 年 3 月

岡山県県民生活部人権・男女共同参画課
〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目4番6号
T E L:086-226-0553 F A X:086-234-5924
調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター